

茨城県教育財団文化財調査報告第452集

那珂市

下大賀遺跡 2

一般国道118号道路改築
事業地内埋蔵文化財報告書Ⅱ

令和3年3月

茨城県常陸大宮土木事務所
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第452集 下 大賀遺跡 2

茨城県教育財団文化財調査報告第452集 下 大賀遺跡 2

茨城県教育財団文化財調査報告第452集 下 大賀遺跡 2

茨城県教育財団文化財調査報告第452集 下 大賀遺跡 2

茨城県教育財団文化財調査報告第452集 下 大賀遺跡 2

茨城県教育財団文化財調査報告第452集 下 大賀遺跡 2

茨城県教育財団文化財調査報告第452集 下 大賀遺跡 2

茨城県教育財団文化財調査報告第452集 下 大賀遺跡 2

茨城県教育財団文化財調査報告第452集 下 大賀遺跡 2

茨城県教育財団文化財調査報告第452集 下 大賀遺跡 2

茨城県教育財団文化財調査報告第452集

那珂市

しも おお が
下大賀遺跡 2

一般国道118号道路改築
事業地内埋蔵文化財報告書Ⅱ

令和3年3月

茨城県常陸大宮土木事務所
公益財団法人茨城県教育財団

序

公益財団法人茨城県教育財団は、国や県などの各事業者から委託を受けて埋蔵文化財の発掘調査と整理業務を実施することを主な目的として、昭和52年に調査課が設置されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として発掘調査報告書を刊行してきました。

この度、茨城県常陸大宮土木事務所による一般国道118号道路改築事業に伴って実施した、那珂市下大賀遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回の調査区は当遺跡の東部にあたり、古墳時代から奈良・平安時代にかけての竪穴建物跡や掘立柱建物跡などが確認でき、当地域の集落の様相が明らかになりました。本書が、歴史研究の学術資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上のための資料として広く活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から本書の刊行に至るまで、多大な御協力を賜りました委託者であります茨城県常陸大宮土木事務所に対して厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、那珂市教育委員会をはじめ、御指導、御協力をいただきました関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

令和3年3月

公益財団法人茨城県教育財団

理事長 柴原 宏一

例 言

1 本書は、茨城県常陸大宮土木事務所の委託により、公益財団法人茨城県教育財団が平成 25・28・29・31・令和元年度に発掘調査を実施した、茨城県那珂市瓜連 1476-26 番地ほかに所在する^{しもおおが}下大賀遺跡の発掘調査報告書である。

2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調査 平成 25 年 5 月 1 日～6 月 30 日
平成 28 年 10 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日
平成 29 年 4 月 3 日～平成 30 年 3 月 31 日
平成 31 年 4 月 1 日～令和元年 6 月 30 日
整理 令和 2 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日

3 発掘調査は、平成 25 年度は調査課長白田正子、平成 28・29・31・令和元年度は副参事兼調査課長白田正子のもと、以下の者が担当した。

平成 25 年度

首席調査員兼班長	綿引 英樹		
次席調査員	齋藤 和浩	調査員	内田 勇樹

平成 28 年度

首席調査員兼班長	奥沢 哲也	平成 28 年 10 月 1 日～10 月 31 日	
首席調査員兼班長	駒澤 悦郎	平成 28 年 11 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日	
次席調査員	永井 敦		
調査員	盛野 浩一	平成 28 年 10 月 1 日～10 月 31 日	
調査員	内堀 団	平成 28 年 11 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日	

平成 29 年度

首席調査員兼班長	奥沢 哲也		
次席調査員	永井 敦		
調査員	見越 広幸	嘱託調査員	宮内 良隆
嘱託調査員	海老澤 稔	嘱託調査員	荒井 保雄

平成 31・令和元年度

首席調査員兼班長	櫻井 完介
次席調査員	田村 雅樹
嘱託調査員	荒井 保雄

4 嘱託調査員

5 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長小林和彦のもと、嘱託調査員野田良直が担当した。

本書の執筆分担は、下記のとおりである。

嘱託調査員	野田 良直	第 1 章～第 3 章，第 1 節～第 4 節
株式会社	イビソク	第 3 章第 3 節 4(3)

6 本書の作成にあたり、鉄製品の保存処理及び短刀木質部樹種同定については、株式会社イビソクに委託し、その成果は、第 3 章第 3 節 4(3)に掲載した。

- 7 下記の金属製品の保存処理については、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。
第 198 号竪穴建物跡出土の鑿状工具 2 点、第 238 号竪穴建物跡出土の丸柄 1 点、第 1237 号土坑出土の刀子 1 点、第 1359 号土坑出土の刀子 1 点、第 1359 号土坑出土の刀子 1 点
- 8 下記の金属製品の保存処理については、埋蔵文化財の保存処理 いしかわに委託した。
第 204 号竪穴建物跡出土の鉄鏃 1 点、第 212 号竪穴建物跡出土の鋤先 1 点
- 9 当遺跡から出土した須恵器の産地・年代等については、ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社 埋蔵文化財調査センター所長 佐々木義則氏にご指導いただいた。
- 10 出土した一部の石器・石製品の材質については、茨城大学名誉教授（地質学）・日立市郷土博物館特別専門職田切美智雄氏にご指導いただいた。
- 11 本遺跡の出土遺物及び実測図・写真等は、茨城県埋蔵文化財センターにて保管されている。

凡 例

- 1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し、 $X = + 56,840 \text{ m}$ 、 $Y = + 54,360 \text{ m}$ の交点を基準点（A 1 a1）とした。なお、この原点は、世界測地系（測地成果 2011）による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々 40 m 四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々 10 等分し、4 m 四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へ A, B, C …, 西から東へ 1, 2, 3 … とし、「A 1 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へ a, b, c … j, 西から東へ 1, 2, 3, … 0 と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 a1 区」のように呼称した。

- 2 実測図、遺構・遺物一覧等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 P-ピット PG-ピット群 SA-柱穴列 SB-掘立柱建物跡 SD-溝跡 SE-井戸跡
SF-道路跡 SI-竪穴建物跡 SK-土坑 TP-陥し穴

土層 K-攪乱

土層解説 ローム-ロームブロック 焼土-焼土ブロック 粘土-粘土ブロック 粘-粘性 締-締まり
サイズは「大・中・小・粒」で、炭化物については「材・物・粒」で表記した。

含有量 A-多量 B-中量 C-少量 D-微量








粘性・締まり A-強い B-普通 C-弱い

- 3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は 400 分の 1、各遺構の実測図は原則として 60 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は、原則として 3 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

	焼土・灰釉・施釉・施釉断面		炉・火床面・黒色処理						
	竈部材（竈掘方覆土）・粘土		柱痕跡・柱あたり						
	須恵器断面		凝灰質泥岩		朱書				
●	土器	○	土製品	□	石器・石製品	△	金属製品	-----	硬化面

- 4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。

- 5 遺構・遺物一覧の表記は、次のとおりである。

(1) 計測値の単位は m, cm, g で示した。なお、現存値は（ ）を、推定値は [] を付して示した。

(2) 遺物番号は遺構ごとの通し番号とし、本文、挿図、表、写真図版に記した番号と同一とした。

(3) 遺物一覧の備考の欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

- 6 竪穴建物跡の「主軸」は、炉・竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸（径）方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 N - 10° - E）。

7 今回報告する遺構の調査年次及び、整理の段階で遺構名・調査区を変更・欠番にしたものは以下のとおりである。

平成 25 年度調査 (2013)

SI13, SK26 ~ 47, SD 9, PG 7

平成 28 年度調査 (2016)

SK701 ~ 758・760・768, SD 2 ~ 5・24・25, PG11 ~ 13

平成 29 年度調査 (2017)

SI197 ~ 223・225 ~ 247, SB21 ~ 23, SA 4, SK760・1139・1239 ~ 1451・1457・1458・1461・1466・1469 ~ 1480・1482・1484 ~ 1490・1492 ~ 1498, SD12 ~ 15・32 ~ 36, PG15 ~ 28

平成 31 ~ 令和元年度調査 (2019)

SI251・252, SB25, SA 5・6, SK1631 ~ 1666, SD 7・8・43, SF 1, PG32 ~ 40

変 更

SK760 → SE 6, SK40 → TP 3, SK1637 → TP 4, SK1643 → TP 5, SK1646 → TP 6, SK1649 → TP 7, SK1661 → TP 8, SK701 ~ 723・732・733 → PG11, SK734・735・739 ~ 751・753・PG13 → PG12, SK1252 ~ 1254・1256 ~ 1260・1277・1301・1302・1304・1307・PG16 → PG15, SK1296・PG22 → PG18, PG19 → PG20, SK1312・1313・1318・1322 → PG23, SK1400・1401・1404 ~ 1409・1416・1422・1424・1426・1428 ~ 1432・1434 ~ 1436・1442 ~ 1446 → PG26, SA 5・6・PG35 → PG32, PG34 → PG36, SK1325 ~ 1330・1332 ~ 1341・1343 ~ 1346 → PG41, SK1268 → 第 1 号掘り込み遺構

調査区は本整理が、当財団「第 399 集」の調査区の延長上にあるため、平成 31・令和元年度調査 (2019) は調査 A 区、平成 25 年度調査 (2013) は調査 B 区、平成 28 年度調査 (2016) の南部地区、平成 29 年度調査 (2017) の 3 区を調査 C 区、平成 29 年度調査 (2017) の 2 区を調査 D 区に変更した。

欠 番

SK754・759・1371・1380 ~ 1382・1467・1468・1481・1483・1491

目 次

序	
例 言	
凡 例	
下大賀遺跡の概要	1
第1章 調査経緯	3
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 調査経過	4
第2章 位置と環境	5
第1節 位置と地形	5
第2節 歴史的環境	5
第3章 調査の成果	11
第1節 調査の概要	11
第2節 基本層序	11
第3節 遺構と遺物	12
1 縄文時代の遺構と遺物	12
陥し穴	12
2 古墳時代の遺構と遺物	15
竪穴建物跡	15
3 奈良・平安時代の遺構と遺物	17
(1) 竪穴建物跡	17
(2) 掘立柱建物跡	131
(3) 土 坑	134
4 中世の遺構と遺物	145
(1) 掘立柱建物跡	145
(2) 井戸跡	147
(3) 土 坑	148
第1651号土坑出土遺物の樹種同定（短刀付着木質部）	149
5 その他の遺構と遺物	151
(1) 柱穴列	151
(2) 土 坑	151
(3) 溝 跡	175
(4) 道路跡	178
(5) ピット群	179
(6) 掘り込み遺構	188
6 遺構外出土遺物	190
第4節 総 括	191
写真図版	PL 1～PL44
抄 録	
付 図	

挿 図 目 次

第 1 図	下大賀遺跡周辺遺跡分布図 (国土地理院25,000分の1「常陸大宮・石塚」) …… 8	第 61 図	第217号竪穴建物跡実測図 …… 69
第 2 図	下大賀遺跡調査区設定図 (那珂市都市計画図2,500分の1) …… 10	第 62 図	第217号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 71
第 3 図	基本土層図 …… 11	第 63 図	第218号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 72
第 4 図	第 3号陥し穴実測図 …… 12	第 64 図	第219号竪穴建物跡実測図 …… 73
第 5 図	第 4号陥し穴実測図 …… 12	第 65 図	第219号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 74
第 6 図	第 5号陥し穴実測図 …… 13	第 66 図	第219号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 75
第 7 図	第 6号陥し穴実測図 …… 13	第 67 図	第220号竪穴建物跡実測図 …… 76
第 8 図	第 7号陥し穴実測図 …… 14	第 68 図	第220号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 77
第 9 図	第 8号陥し穴実測図 …… 14	第 69 図	第221号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 79
第10 図	第243号竪穴建物跡実測図 …… 15	第 70 図	第221号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 80
第11 図	第243号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 16	第 71 図	第222号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 81
第12 図	第13号竪穴建物跡実測図 …… 17	第 72 図	第223号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 83
第13 図	第13号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 18	第 73 図	第223号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 84
第14 図	第197号竪穴建物跡実測図 (1) …… 19	第 74 図	第225号竪穴建物跡実測図 …… 84
第15 図	第197号竪穴建物跡実測図 (2) …… 20	第 75 図	第225号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 85
第16 図	第197号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 21	第 76 図	第226号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 86
第17 図	第198号竪穴建物跡実測図 …… 23	第 77 図	第227号竪穴建物跡実測図 …… 87
第18 図	第198号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 24	第 78 図	第227号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 88
第19 図	第199号竪穴建物跡実測図 …… 26	第 79 図	第228号竪穴建物跡実測図 …… 89
第20 図	第199号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1) …… 27	第 80 図	第228号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 90
第21 図	第199号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2) …… 28	第 81 図	第229号竪穴建物跡実測図 …… 91
第22 図	第200号竪穴建物跡実測図 …… 30	第 82 図	第229号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 92
第23 図	第200号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 31	第 83 図	第230号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 93
第24 図	第201号竪穴建物跡実測図 …… 32	第 84 図	第231号竪穴建物跡実測図 …… 94
第25 図	第201号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 33	第 85 図	第231号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 95
第26 図	第202号竪穴建物跡実測図 …… 34	第 86 図	第232号竪穴建物跡実測図 …… 96
第27 図	第202号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 35	第 87 図	第232号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 97
第28 図	第203号竪穴建物跡実測図 …… 36	第 88 図	第233号竪穴建物跡実測図 …… 98
第29 図	第203号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 37	第 89 図	第234号竪穴建物跡実測図 …… 99
第30 図	第204号竪穴建物跡実測図 …… 38	第 90 図	第234号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 100
第31 図	第204号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1) …… 39	第 91 図	第235号竪穴建物跡実測図 …… 101
第32 図	第204号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2) …… 40	第 92 図	第235号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 102
第33 図	第205号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 41	第 93 図	第236号竪穴建物跡実測図 …… 103
第34 図	第206号竪穴建物跡実測図 (1) …… 42	第 94 図	第236号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 104
第35 図	第206号竪穴建物跡実測図 (2) …… 43	第 95 図	第237号竪穴建物跡実測図 …… 105
第36 図	第206号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1) …… 44	第 96 図	第237号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 106
第37 図	第206号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2) …… 45	第 97 図	第238号竪穴建物跡実測図 …… 107
第38 図	第207号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 47	第 98 図	第238号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 108
第39 図	第208号竪穴建物跡実測図 …… 48	第 99 図	第238号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 109
第40 図	第209号竪穴建物跡実測図 …… 49	第100 図	第239号竪穴建物跡実測図 …… 110
第41 図	第209号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 50	第101 図	第239号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 111
第42 図	第210号竪穴建物跡実測図 (1) …… 51	第102 図	第240号竪穴建物跡実測図 …… 111
第43 図	第210号竪穴建物跡実測図 (2) …… 52	第103 図	第240号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 112
第44 図	第210号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1) …… 53	第104 図	第241号竪穴建物跡実測図 …… 113
第45 図	第210号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2) …… 54	第105 図	第241号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 114
第46 図	第211号竪穴建物跡実測図 (1) …… 54	第106 図	第242号竪穴建物跡実測図 (1) …… 115
第47 図	第211号竪穴建物跡実測図 (2) …… 55	第107 図	第242号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 116
第48 図	第211号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 55	第108 図	第242号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 117
第49 図	第212号竪穴建物跡実測図 …… 56	第109 図	第244号竪穴建物跡実測図 (1) …… 118
第50 図	第212号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 57	第110 図	第244号竪穴建物跡実測図 (2) …… 119
第51 図	第212号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 58	第111 図	第244号竪穴建物跡掘方実測図 …… 120
第52 図	第213号竪穴建物跡実測図 …… 60	第112 図	第244号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 121
第53 図	第213号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 61	第113 図	第245号竪穴建物跡実測図 …… 122
第54 図	第214号竪穴建物跡実測図 …… 62	第114 図	第245号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 123
第55 図	第214号竪穴建物跡・掘方実測図 …… 63	第115 図	第246号竪穴建物跡実測図 …… 124
第56 図	第214号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1) …… 64	第116 図	第246号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 125
第57 図	第214号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2) …… 65	第117 図	第247号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 126
第58 図	第215号竪穴建物跡実測図 …… 66	第118 図	第251号竪穴建物跡実測図 …… 127
第59 図	第216号竪穴建物跡実測図 …… 67	第119 図	第251号竪穴建物跡出土遺物実測図 …… 128
第60 図	第216号竪穴建物跡・出土遺物実測図 …… 68	第120 図	第252号竪穴建物跡・掘方実測図 …… 129
		第121 図	第21号掘立柱建物跡実測図 …… 131
		第122 図	第21号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …… 132

第123図	第22号掘立柱建物跡実測図(1)……………133	第158図	その他の土坑実測図(10)……………160
第124図	第22号掘立柱建物跡・出土遺物実測図……………134	第159図	その他の土坑実測図(11)……………161
第125図	第1240号土坑・出土遺物実測図……………135	第160図	その他の土坑実測図(12)……………162
第126図	第1241号土坑実測図……………135	第161図	その他の土坑実測図(13)……………163
第127図	第1242号土坑・出土遺物実測図……………135	第162図	その他の土坑実測図(14)……………164
第128図	第1264号土坑・出土遺物実測図……………136	第163図	その他の土坑実測図(15)……………165
第129図	第1270号土坑・出土遺物実測図……………137	第164図	その他の土坑実測図(16)……………166
第130図	第1290号土坑実測図……………137	第165図	その他の土坑実測図(17)……………167
第131図	第1290号土坑出土遺物実測図……………138	第166図	その他の土坑実測図(18)……………168
第132図	第1291号土坑・出土遺物実測図……………138	第167図	その他の土坑実測図(19)……………169
第133図	第1297号土坑・出土遺物実測図……………139	第168図	その他の土坑実測図(20)……………170
第134図	第1305号土坑・出土遺物実測図……………139	第169図	その他の溝跡実測図(1)……………175
第135図	第1309号土坑実測図……………140	第170図	その他の溝跡実測図(2)……………176
第136図	第1311号土坑・出土遺物実測図……………140	第171図	第3・4・8・12号溝跡出土遺物実測図……………177
第137図	第1321号土坑実測図……………141	第172図	第1号道路跡実測図……………178
第138図	第1321号土坑出土遺物実測図……………142	第173図	第28号ピット群出土遺物実測図……………184
第139図	第1394号土坑・出土遺物実測図……………143	第174図	第1号掘り込み遺構出土遺物実測図……………188
第140図	第1395号土坑実測図……………143	第175図	第1号掘り込み遺構実測図……………189
第141図	第1395号土坑出土遺物実測図……………144	第176図	遺構外出土遺物実測図……………190
第142図	第1484号土坑・出土遺物実測図……………144	第177図	遺跡周辺(静神社, 玉川, 久慈川)……………191
第143図	第23号掘立柱建物跡実測図……………146	第178図	I期竪穴建物跡の規模・主軸方向……………192
第144図	第25号掘立柱建物跡実測図……………147	第179図	II期D区4棟 竪穴建物跡の規模・主軸方向……………192
第145図	第6号井戸跡・出土遺物実測図……………148	第180図	II期C区3棟 竪穴建物跡の規模・主軸方向……………193
第146図	第1651号土坑実測図……………148	第181図	III期D区2棟 竪穴建物跡の規模・主軸方向……………193
第147図	第1651号土坑出土遺物実測図……………149	第182図	III期C区6棟 竪穴建物跡の規模・主軸方向……………193
第148図	第4号柱穴列実測図……………151	第183図	IV期D区7棟 竪穴建物跡の規模・主軸方向……………194
第149図	その他の土坑実測図(1)……………151	第184図	IV期D区南部3棟 竪穴建物跡の規模・主軸方向……………194
第150図	その他の土坑実測図(2)……………152	第185図	IV期C区北部8棟 竪穴建物跡の規模・主軸方向……………195
第151図	その他の土坑実測図(3)……………153	第186図	IV期C区北部6棟 竪穴建物跡の規模・主軸方向……………195
第152図	その他の土坑実測図(4)……………154	第187図	IV期A・B区3棟 竪穴建物跡の規模・主軸方向……………196
第153図	その他の土坑実測図(5)……………155	第188図	V期D区3棟 竪穴建物跡の規模・主軸方向……………196
第154図	その他の土坑実測図(6)……………156	第189図	V期C区5棟 竪穴建物跡の規模・主軸方向……………196
第155図	その他の土坑実測図(7)……………157	第190図	集落変遷図と出土遺物(管状土錘, 紡錘車, 丸靱, 鎌, 鋤先)……………197
第156図	その他の土坑実測図(8)……………158	第191図	当遺跡から出土している壁柱穴を伴う竪穴建物跡……………199
第157図	その他の土坑実測図(9)……………159	第192図	竪穴建物跡から出土した墨書土器, 朱書土器, ヘラ記号……………200

挿表目次

第1表	下大賀遺跡周辺遺跡一覧	9	第53表	第21号掘立柱建物跡出土遺物一覧	132
第2表	縄文時代陥し穴一覧	14	第54表	第22号掘立柱建物跡出土遺物一覧	134
第3表	第243号竪穴建物跡出土遺物一覧	16	第55表	奈良・平安時代掘立柱建物跡一覧	134
第4表	第13号竪穴建物跡出土遺物一覧	19	第56表	第1240号土坑出土遺物一覧	135
第5表	第197号竪穴建物跡出土遺物一覧	22	第57表	第1242号土坑出土遺物一覧	136
第6表	第198号竪穴建物跡出土遺物一覧	25	第58表	第1264号土坑出土遺物一覧	136
第7表	第199号竪穴建物跡出土遺物一覧	28	第59表	第1270号土坑出土遺物一覧	137
第8表	第200号竪穴建物跡出土遺物一覧	32	第60表	第1290号土坑出土遺物一覧	138
第9表	第201号竪穴建物跡出土遺物一覧	33	第61表	第1291号土坑出土遺物一覧	138
第10表	第202号竪穴建物跡出土遺物一覧	35	第62表	第1297号土坑出土遺物一覧	139
第11表	第203号竪穴建物跡出土遺物一覧	37	第63表	第1305号土坑出土遺物一覧	139
第12表	第204号竪穴建物跡出土遺物一覧	40	第64表	第1311号土坑出土遺物一覧	140
第13表	第205号竪穴建物跡出土遺物一覧	42	第65表	第1321号土坑出土遺物一覧	141
第14表	第206号竪穴建物跡出土遺物一覧	43	第66表	第1394号土坑出土遺物一覧	143
第15表	第207号竪穴建物跡出土遺物一覧	47	第67表	第1395号土坑出土遺物一覧	144
第16表	第209号竪穴建物跡出土遺物一覧	51	第68表	第1484号土坑出土遺物一覧	145
第17表	第210号竪穴建物跡出土遺物一覧	52	第69表	奈良・平安時代土坑一覧	145
第18表	第211号竪穴建物跡出土遺物一覧	56	第70表	中世の掘立柱建物跡一覧	147
第19表	第212号竪穴建物跡出土遺物一覧	59	第71表	第6号井戸跡出土遺物一覧	148
第20表	第213号竪穴建物跡出土遺物一覧	60	第72表	第1651号土坑出土遺物一覧	149
第21表	第214号竪穴建物跡出土遺物一覧	65	第73表	その他の土坑一覧	170
第22表	第216号竪穴建物跡出土遺物一覧	69	第74表	第3号溝跡出土遺物一覧	177
第23表	第217号竪穴建物跡出土遺物一覧	70	第75表	第4号溝跡出土遺物一覧	177
第24表	第218号竪穴建物跡出土遺物一覧	73	第76表	第8号溝跡出土遺物一覧	177
第25表	第219号竪穴建物跡出土遺物一覧	75	第77表	第12号溝跡出土遺物一覧	177
第26表	第220号竪穴建物跡出土遺物一覧	77	第78表	その他の溝跡一覧	178
第27表	第221号竪穴建物跡出土遺物一覧	78	第79表	第6号ピット群一覧	179
第28表	第222号竪穴建物跡出土遺物一覧	82	第80表	第11号ピット群一覧	179
第29表	第223号竪穴建物跡出土遺物一覧	82	第81表	第12号ピット群一覧	180
第30表	第225号竪穴建物跡出土遺物一覧	85	第82表	第15号ピット群一覧	180
第31表	第226号竪穴建物跡出土遺物一覧	87	第83表	第17号ピット群一覧	181
第32表	第227号竪穴建物跡出土遺物一覧	88	第84表	第18号ピット群一覧	181
第33表	第228号竪穴建物跡出土遺物一覧	90	第85表	第20号ピット群一覧	181
第34表	第229号竪穴建物跡出土遺物一覧	92	第86表	第21号ピット群一覧	182
第35表	第230号竪穴建物跡出土遺物一覧	93	第87表	第23号ピット群一覧	182
第36表	第231号竪穴建物跡出土遺物一覧	95	第88表	第24号ピット群一覧	182
第37表	第232号竪穴建物跡出土遺物一覧	97	第89表	第25号ピット群一覧	183
第38表	第234号竪穴建物跡出土遺物一覧	100	第90表	第26号ピット群一覧	183
第39表	第235号竪穴建物跡出土遺物一覧	102	第91表	第27号ピット群一覧	184
第40表	第236号竪穴建物跡出土遺物一覧	104	第92表	第28号ピット群一覧	184
第41表	第237号竪穴建物跡出土遺物一覧	106	第93表	第28号ピット群出土遺物一覧	185
第42表	第238号竪穴建物跡出土遺物一覧	109	第94表	第32号ピット群一覧	185
第43表	第239号竪穴建物跡出土遺物一覧	110	第95表	第33号ピット群一覧	186
第44表	第240号竪穴建物跡出土遺物一覧	112	第96表	第36号ピット群一覧	186
第45表	第241号竪穴建物跡出土遺物一覧	114	第97表	第37号ピット群一覧	187
第46表	第242号竪穴建物跡出土遺物一覧	117	第98表	第38号ピット群一覧	187
第47表	第244号竪穴建物跡出土遺物一覧	121	第99表	第39号ピット群一覧	187
第48表	第245号竪穴建物跡出土遺物一覧	123	第100表	第40号ピット群一覧	188
第49表	第246号竪穴建物跡出土遺物一覧	125	第101表	第41号ピット群一覧	188
第50表	第247号竪穴建物跡出土遺物一覧	126	第102表	第1号掘り込み遺構出土遺物一覧	189
第51表	第251号竪穴建物跡出土遺物一覧	128	第103表	遺構外出土遺物一覧	190
第52表	奈良・平安時代竪穴建物跡一覧	129			

写真図版目次

PL 1	平成 31・令和元年度 A区調査終了状況	PL10	第 228 号竪穴建物跡
PL 1	平成 25 年度 B区調査終了状況	PL10	第 229 号竪穴建物跡
PL 2	平成 28・29 年度 C区調査終了状況	PL10	第 232 号竪穴建物跡 遺物出土状況
PL 2	平成 29 年度 D区調査終了状況	PL10	第 232 号竪穴建物跡 竈
PL 3	第 3 号陥し穴	PL10	第 232 号竪穴建物跡
PL 3	第 4 号陥し穴	PL10	第 233 号竪穴建物跡
PL 3	第 5 号陥し穴	PL11	第 234 号竪穴建物跡 遺物出土状況
PL 3	第 6 号陥し穴	PL11	第 234 号竪穴建物跡
PL 3	第 7 号陥し穴	PL11	第 235 号竪穴建物跡
PL 3	第 8 号陥し穴	PL11	第 236 号竪穴建物跡 遺物出土状況 (1)
PL 3	第 243 号竪穴建物跡遺物出土状況	PL11	第 236 号竪穴建物跡 遺物出土状況 (2)
PL 3	第 243 号竪穴建物跡	PL11	第 236 号竪穴建物跡
PL 4	第 13 号竪穴建物跡 竈	PL11	第 237 号竪穴建物跡 遺物出土状況
PL 4	第 13 号竪穴建物跡	PL11	第 237 号竪穴建物跡
PL 4	第 197 号竪穴建物跡 遺物出土状況	PL12	第 238 号竪穴建物跡 遺物出土状況
PL 4	第 197 号竪穴建物跡	PL12	第 238 号竪穴建物跡 竈遺物出土状況
PL 4	第 198 号竪穴建物跡 遺物出土状況	PL12	第 238 号竪穴建物跡
PL 4	第 198 号竪穴建物跡	PL12	第 239 号竪穴建物跡 竈
PL 4	第 199 号竪穴建物跡 遺物出土状況	PL12	第 239 号竪穴建物跡
PL 4	第 199 号竪穴建物跡	PL12	第 240 号竪穴建物跡 遺物出土状況
PL 5	第 200 号竪穴建物跡 竈遺物出土状況	PL12	第 240 号竪穴建物跡
PL 5	第 200 号竪穴建物跡	PL12	第 241 号竪穴建物跡 遺物出土状況
PL 5	第 201 号竪穴建物跡 遺物出土状況	PL13	第 241 号竪穴建物跡
PL 5	第 201 号竪穴建物跡	PL13	第 242 号竪穴建物跡
PL 5	第 202 号竪穴建物跡 竈遺物出土状況	PL13	第 244 号竪穴建物跡 竈遺物出土状況
PL 5	第 202 号竪穴建物跡	PL13	第 244 号竪穴建物跡 掘方
PL 5	第 203 号竪穴建物跡	PL13	第 245 号竪穴建物跡
PL 5	第 204 号竪穴建物跡	PL13	第 246 号竪穴建物跡 竈遺物出土状況
PL 6	第 205 号竪穴建物跡 遺物出土状況	PL13	第 246 号竪穴建物跡
PL 6	第 205 号竪穴建物跡	PL13	第 247 号竪穴建物跡 遺物出土状況
PL 6	第 206 号竪穴建物跡 遺物出土状況	PL14	第 247 号竪穴建物跡
PL 6	第 206 号竪穴建物跡	PL14	第 251 号竪穴建物跡 竈
PL 6	第 207 号竪穴建物跡 竈	PL14	第 251 号竪穴建物跡
PL 6	第 207 号竪穴建物跡	PL14	第 252 号竪穴建物跡
PL 6	第 209 号竪穴建物跡 竈	PL14	第 1240 号土坑
PL 6	第 209 号竪穴建物跡	PL14	第 1241 号土坑 遺物出土状況
PL 7	第 210 号竪穴建物跡 竈遺物出土状況	PL14	第 1242 号土坑
PL 7	第 210 号竪穴建物跡	PL14	第 1264 号土坑 遺物出土状況
PL 7	第 211 号竪穴建物跡	PL15	第 1270 号土坑
PL 7	第 212 号竪穴建物跡 遺物出土状況	PL15	第 1290 号土坑
PL 7	第 212 号竪穴建物跡 竈遺物出土状況	PL15	第 1291 号土坑
PL 7	第 212 号竪穴建物跡	PL15	第 1305 号土坑
PL 7	第 213 号竪穴建物跡 遺物出土状況 (1)	PL15	第 1321 号土坑 遺物出土状況
PL 7	第 213 号竪穴建物跡 遺物出土状況 (2)	PL15	第 1321 号土坑
PL 8	第 213 号竪穴建物跡	PL15	第 1394 号土坑 遺物出土状況
PL 8	第 214 号竪穴建物跡 竈遺物出土状況	PL15	第 1395 号土坑 遺物出土状況
PL 8	第 214 号竪穴建物跡	PL16	第 1484 号土坑 遺物出土状況
PL 8	第 215・226 号竪穴建物跡	PL16	第 25 号掘立柱建物跡
PL 8	第 216 号竪穴建物跡 遺物出土状況	PL16	第 1651 号土坑
PL 8	第 216 号竪穴建物跡	PL16	第 30 号土坑
PL 8	第 217 号竪穴建物跡 遺物出土状況	PL16	第 46 号土坑
PL 8	第 217 号竪穴建物跡	PL16	第 1239 号土坑
PL 9	第 218 号竪穴建物跡 遺物出土状況	PL16	第 1248 号土坑
PL 9	第 218 号竪穴建物跡	PL16	第 1271 号土坑
PL 9	第 219 号竪穴建物跡 竈遺物出土状況	PL17	第 1276 号土坑
PL 9	第 219 号竪穴建物跡	PL17	第 1284 号土坑
PL 9	第 220 号竪穴建物跡 竈遺物出土状況	PL17	第 1285 号土坑
PL 9	第 220 号竪穴建物跡	PL17	第 1289 号土坑
PL 9	第 221・222 号竪穴建物跡	PL17	第 1295 号土坑
PL 9	第 223 号竪穴建物跡 竈遺物出土状況	PL17	第 1323・1324 号土坑
PL10	第 223 号竪穴建物跡 掘方	PL17	第 1348 号土坑
PL10	第 228 号竪穴建物跡 遺物出土状況	PL17	第 1351 号土坑

PL18	第 1352 号土坑	PL23	第 20 号ピット群
PL18	第 1357 号土坑	PL23	第 21 号ピット群
PL18	第 1360 号土坑	PL23	第 23 号ピット群
PL18	第 1366 号土坑	PL23	第 26 号ピット群
PL18	第 1367 号土坑	PL23	第 28 号ピット群
PL18	第 1374 号土坑	PL24	第 32 号ピット群
PL18	第 1375 号土坑	PL24	第 33 号ピット群
PL18	第 1376 号土坑	PL24	第 36 号ピット群
PL19	第 1377 号土坑	PL24	第 37 号ピット群
PL19	第 1379 号土坑	PL24	第 38 号ピット群
PL19	第 1383 号土坑	PL24	第 39 号ピット群
PL19	第 1388 号土坑	PL24	第 40 号ピット群
PL19	第 1390 号土坑	PL24	第 1 号掘り込み遺構
PL19	第 1392 号土坑	PL25	第 243・13・197・198 号竪穴建物跡出土土器
PL19	第 1393 号土坑	PL26	第 199 号竪穴建物跡出土土器
PL19	第 1412 号土坑	PL27	第 200・201・202・204 号竪穴建物跡出土土器
PL20	第 1417 号土坑	PL28	第 204・205・206 号竪穴建物跡出土土器
PL20	第 1441 号土坑	PL29	第 206 号竪穴建物跡出土土器
PL20	第 1448・1449 号土坑	PL30	第 209・210・211・212 号竪穴建物跡出土土器
PL20	第 1458 号土坑	PL31	第 212・213・214 号竪穴建物跡出土土器
PL20	第 1636 号土坑	PL32	第 214・216・217 号竪穴建物跡出土土器
PL20	第 1638 号土坑	PL33	第 217・219・220 号竪穴建物跡出土土器
PL20	第 1639 号土坑	PL34	第 220・222・223・225 号竪穴建物跡出土土器
PL20	第 1654 号土坑	PL35	第 225・226・227・228・229・232 号竪穴建物跡出土土器
PL21	第 1656 号土坑	PL36	第 232・234・238・241 号竪穴建物跡出土土器
PL21	第 1658 号土坑	PL37	第 238・242 号竪穴建物跡出土土器
PL21	第 1660 号土坑	PL38	第 242・244 号竪穴建物跡出土土器
PL21	第 3 号溝跡 遺物出土状況	PL39	第 242・244・246 号竪穴建物跡出土土器
PL21	第 4 号溝跡 遺物出土状況	PL40	第 246 号竪穴建物跡, 第 1321・1395・1484 号土坑, 第 12 号溝跡, 遺構外出土土器
PL21	第 7 号溝跡	PL41	第 199・206・213・214・234・246 号竪穴建物跡出土土製品
PL21	第 8 号溝跡 尖頭器出土状況	PL42	第 242・251 号竪穴建物跡, 第 1395 号土坑出土土製品, 第 199・212・246 号竪穴建物跡, 遺構外出土土器・石製品
PL21	第 9 号溝跡	PL43	第 197・200・210・214・218・220・222・226・229・244・251 号竪穴建物跡出土土器,
PL22	第 14 号溝跡	PL44	第 198・242・246 号竪穴建物跡出土椀形滓
PL22	第 15 号溝跡		第 198・204・206・212・214・218・219・221・238・242・244 号竪穴建物跡,
PL22	第 24・25 号溝跡		第 1395・1651 号土坑, 遺構外出土金属製品
PL22	第 32・33 号溝跡		
PL22	第 35 号溝跡		
PL22	第 43 号溝跡		
PL22	第 1 号道路跡		
PL22	第 12 号ピット群		
PL23	第 15 号ピット群		
PL23	第 17 号ピット群		
PL23	第 18 号ピット群		

しも おお が 下大賀遺跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

下大賀遺跡は那珂市の北部、^{たま}玉川と^{くじ}久慈川が合流する地点から西へ約2 kmに位置し、玉川右岸の標高43 mの台地上に立地しています。

一般国道118号道路改築事業に伴い、遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため、平成25年度に1,713 m²、平成28年度に1,080 m²、平成29年度に6,646 m²、平成31・令和元年度に2,662 m²の発掘調査を行いました。



遺跡の調査の内容

当遺跡は、東西約2.3 km、南北約1 kmにわたる広大な範囲が^{まいぞうぶん かざいほうぞう}埋蔵文化財包蔵地として登録されています。平成25～令和元年度に調査が行われました。

今回の調査は遺跡東部のA区～D区にあたり、^{たてあなたものあと}竪穴建物跡53棟、^{ほったてばしらたて}掘立柱建物跡4棟、^{いどあと}井戸跡1基、^{どころ}土坑245基、^{みぞあと}溝跡19条、道路跡1条、ピット群22か所などを確認しました。



平成29年度調査D区全景（南部から）



遺構作業風景



第198号竪穴建物跡竈遺物出土状況



第244号竪穴建物跡・第23号掘立柱建物跡



出土した墨書・朱書土器，ヘラ記号のある土器

調査の成果

今回の調査区では、古墳時代から平安時代にかけて集落が営まれていたことがわかりました。奈良・平安時代の竪穴建物跡は調査区の北部に集中しており、調査区で確認した東西に延びる溝跡は、集落を区画する溝や水路のような溝と考えられます。墨書土器^{ぼくしよどき}や腰帯具^{ようたいぐ}の出土から、役人層が存在する集落の可能性がありま^{きつしやうく}す。また、竪穴建物跡から出土した墨書土器の文字は吉祥句または方位・記号の意味を含めた文字などにかかわるものであり、これらの文字資料は、地域の集落の様相を考察する上で、貴重な資料になると考えられます。

奈良・平安時代にかけて、水害がなく水の確保ができた台地上の縁辺部に水路や陸路などの要所として、集落域が広がっていったものと考えられます。今回の調査によって、奈良・平安時代には人口が集中する拠点的な集落として営まれていたことがわかりました。

集落跡や出土遺物等から、当時の社会の一端が垣間みられます。

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

茨城県常陸大宮土木事務所は、那珂市において、一般国道118号の道路改築事業を進めている。

平成12年7月17日、茨城県大宮土木事務所長（現茨城県常陸大宮土木事務所長）は、茨城県教育委員会教育長あてに、一般国道118号道路改築事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成18年6月30日及び平成21年7月9日に現地踏査を、平成23年8月30日及び9月1日、平成28年11月25日及び12月16日に試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。茨城県教育委員会教育長は、平成23年10月31日及び平成29年1月6日に茨城県常陸大宮土木事務所長あてに、事業地内に下大賀遺跡が所在すること、及びその取り扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成25年1月17日、平成28年2月15日、平成29年2月1日及び平成31年1月24日、茨城県常陸大宮土木事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに、文化財保護法第94条に基づく土工事のための通知を提出した。平成25年2月5日、平成28年2月17日、平成29年2月8日及び平成31年2月14日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県常陸大宮土木事務所長あてに、現状保存が困難であることから記録保存のための発掘調査が必要であると判断し、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成25年2月15日、平成28年2月19日、平成29年2月13日及び平成31年2月18日、茨城県常陸大宮土木事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに、一般国道118号道路改築事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書を提出した。平成25年2月20日、平成28年2月22日、平成29年2月17日及び平成31年2月19日、茨城県教育委員会教育長は、発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて調査機関として公益財団法人茨城県教育財団を紹介した。

公益財団法人茨城県教育財団は、茨城県常陸大宮土木事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成25年5月1日から6月30日、平成28年10月1日から平成29年3月31日、平成29年4月3日から平成30年3月31日まで及び平成31年4月1日から令和元年6月30日まで発掘調査を実施した。

第2節 調査経過

下大賀遺跡の調査は、平成25年5月1日から6月30日までの2か月間、平成28年10月1日から平成29年3月31日までの6か月間、平成29年4月3日から平成30年3月31日までの12か月間及び平成31年4月1日から令和元年6月30日までの3か月間にわたって実施した。以下、その概要を表で記載する。

(1) 平成25年5月1日から6月30日

工程	期間	
	5月	6月
調査準備 表土除去 遺構確認	■	■
遺構調査	■	■
遺物洗浄 写真整理	■	■
撤収		■

(2) 平成28年10月1日から平成29年3月31日

工程	期間					
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
調査準備 表土除去 遺構確認	■			■		
遺構調査	■	■	■	■	■	■
遺物洗浄 写真整理	■	■	■	■	■	■
撤収						■

(3) 平成29年4月3日から平成30年3月31日

工程	期間											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
調査準備 表土除去 遺構確認	■	■	■		■					■	■	
遺構調査	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
遺物洗浄 写真整理	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
撤収												■

(4) 平成31年4月1日から令和元年6月30日

工程	期間		
	4月	5月	6月
調査準備 表土除去 遺構確認	■	■	
遺構調査		■	■
遺物洗浄 写真整理	■	■	■
撤収			■

第2章 位置と環境

第1節 位置と地形

下大賀遺跡は、茨城県那珂市瓜連 1476 - 26 番地ほかに所在している。

那珂市は、県の中央部から北寄りに位置し、北東は常陸太田市、西は城里町、南は水戸市、北西は常陸大宮市に接している。

市域の地形は、西から南部にかけて八溝山系から延びる標高 90 m 前後の瓜連丘陵、中央部是那珂台地、北部は久慈川によって形成された額田段丘、久慈川沿いは沖積低地が広がっており、当遺跡是那珂台地の北側に位置している。台地の地質は、更新世後期の見和層とこれを覆う茨城粘土層で構成されており、その上に堆積している関東ローム層は、瓜連丘陵と那珂台地及び縁辺部の段丘面を厚さ 2 ~ 3 m で広く覆っている。この中には、20 ~ 30 cm の鹿沼軽石層を挟んでいるのが特徴である¹⁾。

当遺跡は、本市北部を東流する久慈川と玉川が合流する地点から西に約 2 km の標高 43 m の台地上に立地している。台地は、本市と常陸大宮市が接する北西側の境界付近から始まり、瓜連丘陵と並行して緩やかに傾斜しながら南東側に広がり、中央部から東側にかけて広がっている。また、北側の台地縁辺部は急な崖地形になっており、低地との比高差は約 25 m である。調査前の現況は畑地及び宅地である。

第2節 歴史的環境

下大賀遺跡①が所在する瓜連地域は、旧石器時代から近世までの遺跡が多数分布している。ここでは、『茨城県遺跡地図』²⁾に登録されている当該地域の主な遺跡を時代ごとに概観する³⁾。

旧石器時代の遺跡は、当遺跡周辺では確認されていないが、東側の旧那珂町地域では、額田大宮遺跡や森戸遺跡、西組遺跡、北坪遺跡、八石遺跡 (29)、中丸遺跡 (31)、飛内遺跡 (33) などが確認されている。なかでも額田大宮遺跡では、発掘調査によって、細石刃、彫刻刀、スクレイパーなどの良好な資料が出土しており、後期旧石器細石刃文化の最終末期の遺跡として注目される⁴⁾。森戸遺跡でも、チョッパー、削器、搔器、石核、剥片などが出土している⁵⁾。

縄文時代の遺跡は、大塚遺跡、鹿島台遺跡 (23)、石井戸遺跡などから早期の田戸下層式や子母口式の土器が、当遺跡や谷津向遺跡 (26) からは中期の加曾利 E 式や大木 8 a・8 b 式、後期の堀ノ内式土器が出土している⁶⁾。そのほかにも権現下遺跡 (41)、野田遺跡 (42)、西室家遺跡 (43)、辻後遺跡 (45) などから縄文土器が採集されている⁷⁾。特に、大塚遺跡から出土した子母口式に比定される縄文土器は当地域で最も古いものとされている⁸⁾。この様に瓜連地域の縄文時代の集落は、玉川と久慈川が合流する地点の右岸台地上の縁辺部を中心に分布している⁹⁾。

弥生時代の遺跡は、下大賀遺跡¹⁰⁾、瓜連遺跡 (21)、二ツ堂遺跡¹¹⁾、十林寺遺跡、大塚遺跡¹²⁾、鹿島遺跡などから弥生時代後期の東中根式、十王台式土器などが出土し、瓜連遺跡からは、弥生時代後期の竪穴建物跡が 7 棟確認されている¹³⁾。また、常陸大宮市の久慈川沿いにも小祝後田 B 遺跡、梶巾遺跡、坪井上遺跡 (11)、上岩瀬富士山遺跡 (13)、糠塚遺跡、鷹巣犬追遺跡などが台地縁辺部に広がり¹⁴⁾、弥生時代の集落が久慈川の台地縁辺部に広がっている。

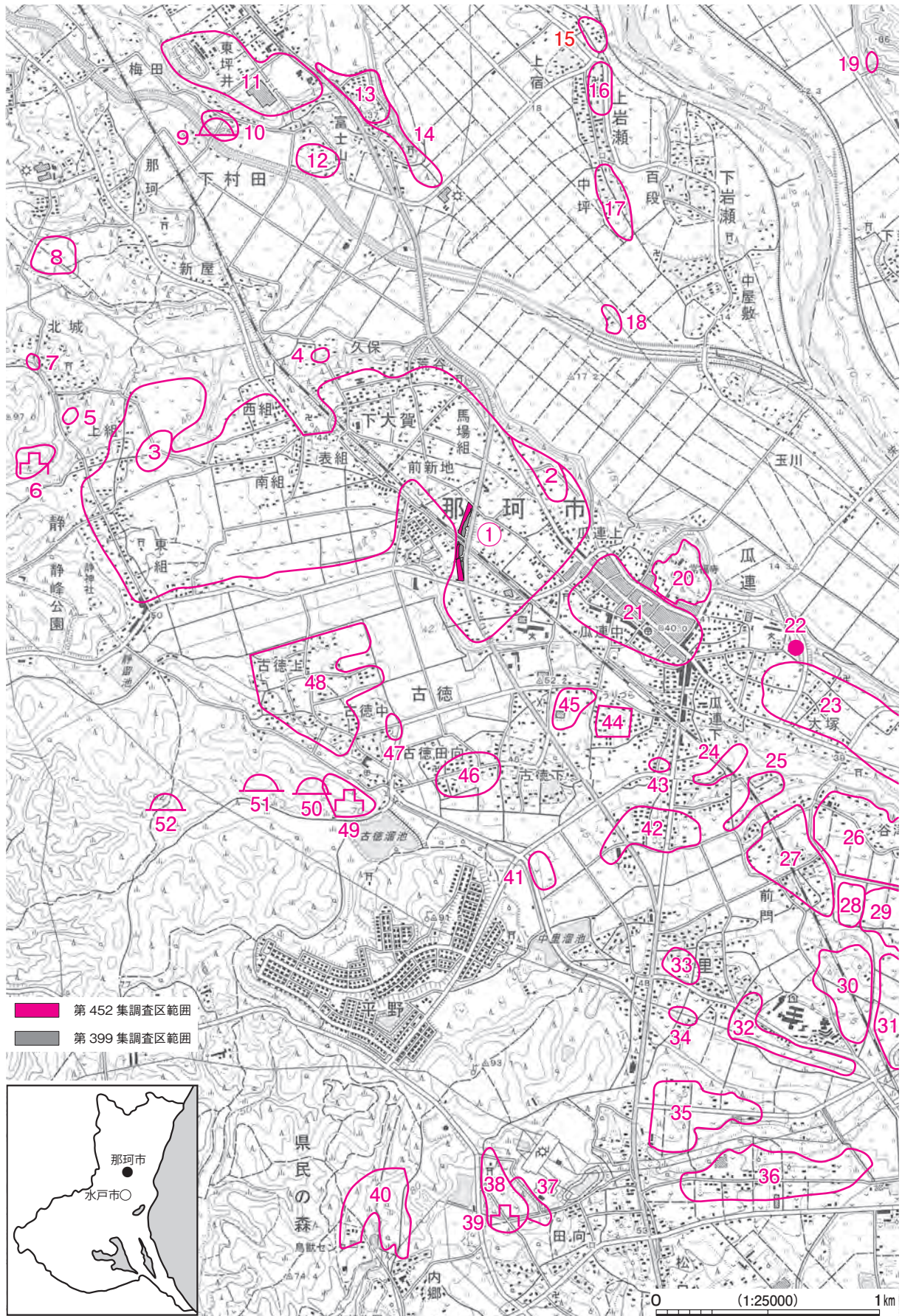
古墳時代の遺跡は、十林寺古墳群〈2〉、新宿古墳群〈3〉が玉川右岸台地上に、大塚古墳〈22〉、鹿島台古墳群などが久慈川に面する台地北縁部に分布している¹⁵⁾。十林寺古墳群は、当遺跡の北東側に位置し、3基の古墳が確認され¹⁶⁾、道路拡張に伴い一部調査が行われた。新宿古墳群は、当遺跡の西端に所在する8基からなる古墳群であったが、現在は第5号墳の権現塚古墳とその南側に点在する4基の古墳が残存するのみである¹⁷⁾。なお、『常陸国風土記』久慈郡の条には、「郡西□里静織里、上古之時、織綾之機未在知人、干時此村初織、因名、北有小水、丹石交錯、色似瑠碧、火□鑽尤好、故以号玉川」とあり、瓜連地域を静織の里、すなわち倭文郷に、北側を東流する玉川では瑪瑙が産出することで知られており、倭文部や玉造部などの專業集団との関係が興味深い¹⁸⁾。

奈良・平安時代の当地域は、久慈郡に属しており、「倭名類聚抄」によると、岡田、八部、倭文、高月、助川、美和、志萬、眞野、神前、久來、大田、山田、河内、楊島、世矢、佐竹、高市、木前、佐野、都、餘戸の21郷が挙げられている¹⁹⁾。また、『新編常陸国誌』の「倭文郷 之登利」によると「風土記ニヨリテ地図ヲ按ズルニ、コノ郷東ハ木前郷ニ接シ、西南並ニ那珂郡ノ界ニ至リ、北ハ眞野郷ニ隣リテ静、古徳、瓜連、戸崎、下大賀、上村田、下村田、石澤、上岩瀬、下岩瀬ノ十村、九千石バカリノ地、皆古ノ倭文郷ナリ」とあり、「木前郷 支左岐」には、「倭名鈔云、木前、按ズルニ、今ノ那珂郡南酒出、北酒出ノ両村共ニ木崎ト云フ地アリ、コノ地古ハ久慈郡ニ属シタレバ、古ノ木前郷タルコト明ナリ、木前ハ城崎ナリ、凡古俗ノ言ニ、地ノ一区ヲナシタルモノコレヲ城ト云フ、其崎ヲバコレヲ城崎ト云ヘバナリ、地図ニヨリテ考フルニ、コノ郷東ハ神崎郷ニ隣リ、西ハ倭文郷ニ接シ、南ハ那珂郡ノ界ニ至リ、北ハ久慈川ニ涯リテ、南北酒出、門部、磯崎、中岡、中里、豊喰、飯田、福田、鴻巣ノ十村、七千七百余石ノ地、皆古ノ木前郷ナリ」とあり、瓜連地域は倭文郷と木前郷の一部にまたがっている地域とみられている²⁰⁾。この地域で確認されている集落跡は、鹿島台遺跡で竪穴建物跡11棟²¹⁾、権現下遺跡で奈良・平安時代の竪穴建物跡27棟²²⁾、西坪井遺跡(旧下村田遺跡)〈12〉で竪穴建物跡17棟が確認されている²³⁾。また、出土遺物では、権現下遺跡から鉄製紡錘車の紡輪部や滑石製で上面に鋸歯文が線刻されている石製紡錘車、「□東日」「太倉」「東一」「餅」「田」「子栗□羊」などの墨書土器が12点出土している²⁴⁾。鹿島台遺跡では、「寺」「高月郷」「高」などの墨書土器が9点出土している。「寺」の墨書土器から私度僧や村落内寺院の存在の可能性が指摘されている²⁵⁾。また、「高月郷」の墨書土器からは、『倭名類聚抄』によると「箕月」を「高月」とし²⁶⁾、『新編常陸国誌』では「蜜月」の誤写とし、「蜜月ヲ以テ名トスルモノハ、即水城ノ意」としており²⁷⁾、水城とは現在の日立市水木であり、倭文郷と高月(蜜月)郷の交流をうかがわせる墨書土器である²⁸⁾。常陸大宮市上村田こなか遺跡では、石製・土製紡錘車や「中子」「田□田(屋)」「子子」「田□田」「千万」「六万」「万合」「丈」「曹」などの墨書土器が34点出土している。また、「丈」の焼印(烙印)も出土しており、印面の大きさから牛馬などに押すための焼印と考えられる²⁹⁾。また、現在は常陸太田市薬谷町に所在する久慈郡家に比定されている長者屋敷遺跡あたりが田後駅とされているが³⁰⁾、『増補大日本地名辞書』では、那珂市下大賀や静、常陸大宮市下村田付近が田後駅にあたるとしており³¹⁾、焼印との関連性もうかがえる。平成24・25年度に行われた発掘調査では、「馬/□長」「馬長」と墨書された土器も出土している³²⁾。

南北朝時代になると、楠木正成の代官として遣わされた楠木正家が常陸の南朝方拠点として瓜連城を築き、北朝方の将、佐竹の軍勢と久慈川を挟んで対峙した。瓜連城跡は現在の常福寺境内を本丸とし、旧町城を含む490,000㎡の規模を誇っていた。現在も土塁、内堀が残っている³³⁾。瓜連城落城後、丁実上人が草台山蓮華院常福寺を開山し、二世了譽上人によって現在の地に常福寺が再建された。その後佐竹氏・江戸氏の保護を受けて発展し、江戸期には徳川家康から百石の寺領が与えられ、早くから檀林として格付けされた。寛永十二(1635)年には、当寺は常陸国の浄土宗の総本山となり、近隣の人々より厚い信仰を受け現在に至っている³⁴⁾。

註

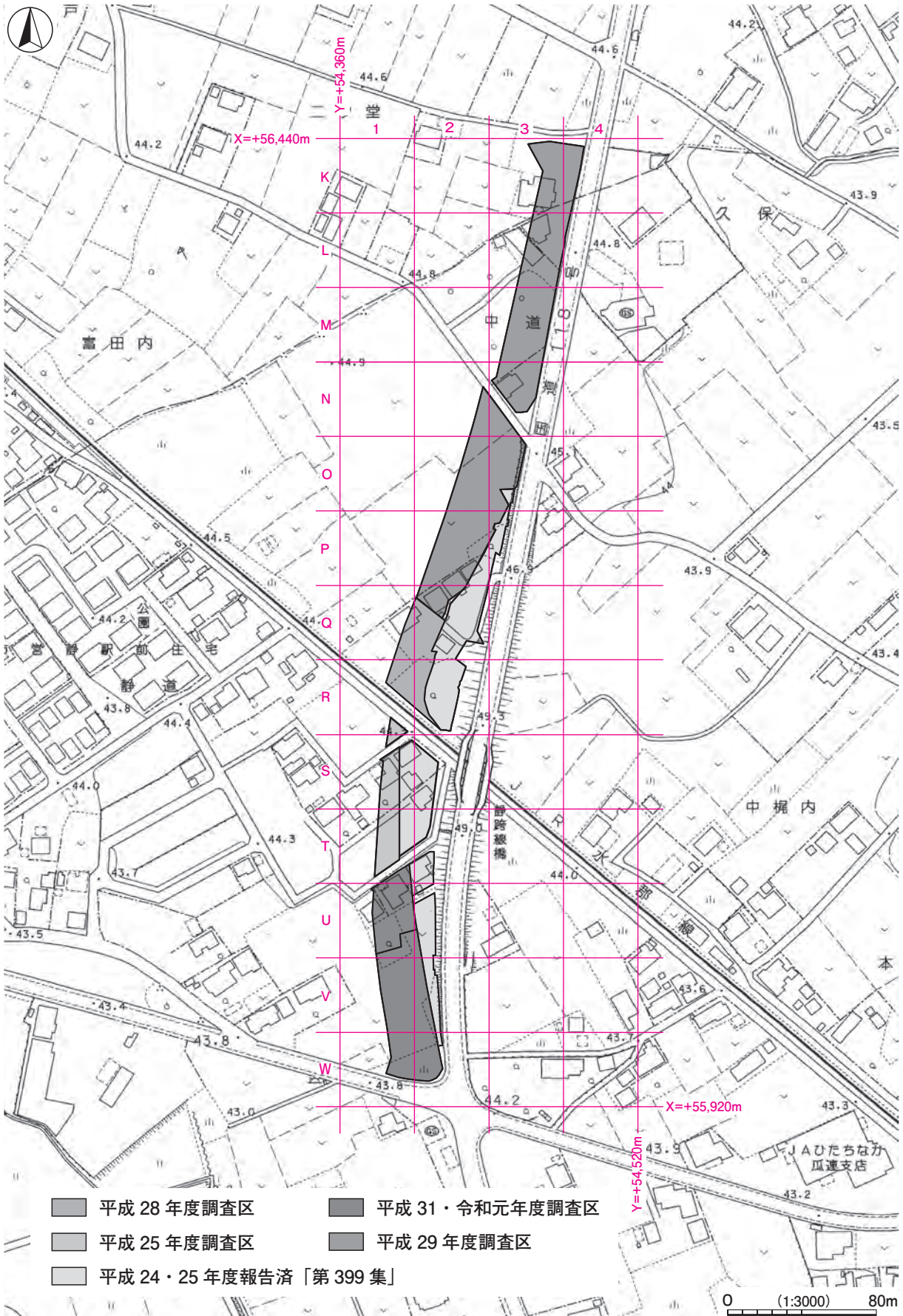
- 1) a 大山年次監修『茨城県 地質のガイド』コロナ社 1977年8月
b 日本の地質『関東地方』編集委員会『日本の地質3 関東地方』共立出版株式会社 2007年5月
- 2) 茨城県教育庁文化課編『茨城県遺跡地図』茨城県教育委員会 2001年3月
- 3) 藤原均・加藤雅美『茨城県那珂市十林寺古墳群第1号墳・下大賀遺跡内埋蔵文化財調査報告書』那珂市教育委員会・常総考古学研究所 2007年2月
- 4) 川崎純徳他『額田大宮遺跡』那珂町史編さん委員会 1978年3月
- 5) 加藤雅美他『一般国道349号道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 北郷C遺跡・森戸遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第55集 1990年3月
- 6) 千種重樹『山王原遺跡 県営那珂北部畑地帯総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』那珂町教育委員会 2000年3月
- 7) 瓜連町史編さん委員会『瓜連町史』瓜連町 1985年7月
- 8) 註7に同じ
- 9) 註7に同じ
- 10) 横倉要次『那珂郡瓜連町下大賀遺跡採集の弥生土器について』茨城県考古学協会誌 第13号 2001年5月
- 11) 横倉要次『那珂郡瓜連町二ツ堂遺跡採集の弥生土器について』婆良岐考古 第18号 1996年5月
- 12) 横倉要次『那珂郡瓜連町大塚遺跡採集の弥生土器と紡錘車・石器について』婆良岐考古 第17号 1995年5月
- 13) 加藤雅美他『瓜連城跡地内埋蔵文化財発掘調査報告書 No.1～No.4地点』瓜連町教育委員会 1996年3月
- 14) 渡邊浩実『上岩瀬富士山遺跡 17国補道第17-03-068-0-053号埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育財団文化財調査報告 第260集 2006年3月
- 15) 宮崎剛『鹿島台遺跡 保土通遺跡 都市計画道路平野杉本線道路整備事業地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育財団文化財調査報告 第355集 2012年3月
- 16) 註3に同じ
- 17) 註7に同じ
- 18) 註1に同じ
- 19) 茨城県立歴史館編『茨城県史料 古代編』茨城県 1968年3月
- 20) 中山信名著・栗田寛補訂『新編常陸国誌』宮崎報恩会 1969年
- 21) 註15に同じ
- 22) 藤原均『茨城県那珂郡瓜連町権現下遺跡調査報告書』瓜連町教育委員会 2002年3月
- 23) 荒井保雄『一級河川玉川改修工事地内埋蔵文化財調査報告書 下村田遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告 第110集 1996年3月
- 24) 註22に同じ
- 25) 註7に同じ
- 26) 註20に同じ
- 27) 註20に同じ
- 28) 註7に同じ
- 29) 大宮町教育委員会『上村田小中遺跡』大宮町教育委員会 1988年3月
- 30) 古代交通研究会『日本古代道路辞典』八木書店 2004年5月
- 31) 吉田東伍『増補大日本地名辞書』第6巻 坂東 富山房 1970年6月
- 32) 内田勇樹『下大賀遺跡 一般国道118号道路改築事業地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育財団文化財調査報告 第399集 2015年3月
- 33) 註7に同じ
- 34) 註7に同じ



第1図 下大賀遺跡周辺遺跡分布図 (国土地理院 25,000分の1「常陸大宮・石塚」)

第1表 下大賀遺跡周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代							
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町			江戸	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
①	下大賀遺跡		○	○	○	○	○	○	27	高後遺跡		○		○	○	○	
2	十林寺古墳群				○				28	榎戸遺跡					○		
3	新宿古墳群				○				29	八石遺跡	○	○		○	○		
4	久保遺跡					○	○		30	孫目遺跡		○		○	○	○	
5	滝前遺跡		○						31	中丸遺跡	○			○	○		
6	城菩提城跡							○	32	前谷津遺跡		○			○	○	
7	上坪遺跡					○			33	飛内遺跡	○	○		○	○		
8	堂山A遺跡			○	○	○			34	十文字遺跡					○		
9	念仏塚							○	35	戸崎井尻遺跡				○	○		
10	念仏塚遺跡				○				36	戸崎木戸遺跡		○		○	○		
11	坪井上遺跡		○	○	○	○			37	台久保遺跡	○	○		○	○	○	
12	西坪井遺跡 (旧下村田遺跡)			○	○	○			38	戸崎鹿島神社前遺跡跡		○		○	○	○	
13	上岩瀬富士山遺跡			○	○	○			39	戸崎鹿島館跡						○	
14	富士山古墳群				○				40	椿遺跡		○			○		
15	川岸遺跡					○			41	権現下遺跡		○			○		
16	岩瀬城跡		○				○	○	42	野田遺跡		○		○	○	○	○
17	上岩瀬中坪遺跡				○	○			43	西室家遺跡		○		○	○	○	
18	本宮遺跡		○		○	○			44	水戸海道遺跡		○		○	○		
19	二階穴(横穴)				○				45	辻後遺跡		○		○	○	○	○
20	瓜連城跡							○	46	田向前遺跡		○			○	○	
21	瓜連遺跡		○	○	○			○	47	新屋遺跡					○		○
22	大塚古墳				○				48	中坪遺跡		○			○	○	○
23	鹿島台遺跡	○	○	○	○	○	○	○	49	古徳城跡						○	
24	保土通遺跡				○			○	50	小屋塚							○
25	熊ノ堂遺跡		○	○			○	○	51	前長田塚群							○
26	谷津向遺跡		○		○	○			52	中山塚							○



第 2 図 下大賀遺跡調査区設定図（那珂市都市計画図 2,500 分の 1）

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

下大賀遺跡は、那珂市の北部に位置し、玉川右岸の標高43mの台地上に立地している。当遺跡は東西2.3km、南北1kmの広大な範囲が指定されており、今回報告する調査区域はその東部にあたる。調査面積は平成25年度1,713㎡、平成28年度1,080㎡、平成29年度6,646㎡、平成31・令和元年度2,662㎡であり、平成27年度当財団報告の北部へ広がった調査区域の報告である。

調査の結果、竪穴建物跡53棟（古墳時代1、奈良・平安時代53）、掘立柱建物跡4棟（奈良・平安時代2、中世2）、井戸跡1基（中世）、陥し穴6基（縄文時代）、土坑245基（奈良・平安時代15、中世1、時期不明229）、柱穴列1条（時期不明）、溝跡19条（時期不明）、道路跡1条（時期不明）、ピット群22か所（時期不明）、掘り込み遺構1基（時期不明）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に71箱出土している。主な遺物は、縄文土器（深鉢）、土師器（坏・高台付坏・椀・皿・高台付皿・甕・甑）、須恵器（坏・高台付坏・蓋・盤・鉢・壺・瓶・甕）、陶器（壺・甕）、磁器（碗・皿）、土製品（土玉・管状土錘・紡錘車・支脚）、石器（尖頭器・紡錘車・砥石）、石製品（丸靱・支脚）、金属製品（刀子・鉄鍬・鎌・鋤先・釘・丸靱・鑿状工具）などである。

第2節 基本層序

平成29年度調査D区中央部台地上の平坦面（L3g5区）にテストピットを設定し、基本土層（第3図）の観察を行った。土層は8層に分層でき、第3・4層が関東ローム層である。

第1層は、黒色を呈する耕作土である。層厚は47～60cmである。

第2層は、褐色を呈するローム層への漸移層である。ローム粒子や赤色粒子・白色粒子を微量含み、粘性・縮まりともに強く、層厚は20～30cmである。今市・七本桜軽石層である。

第3層は、褐色を呈するソフトローム層である。粘性・縮まりともに強く、層厚は8～15cmである。

第4層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性・縮まりともに非常に強く、層厚は18～30cmである。

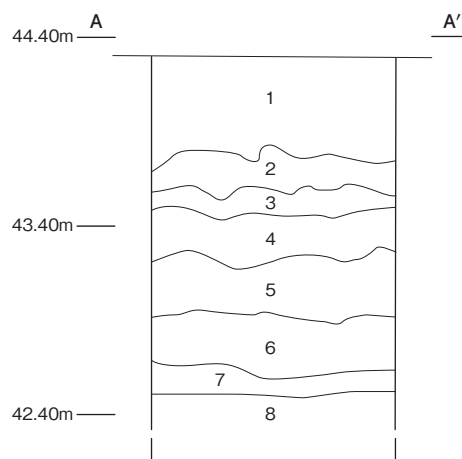
第5層は、明黄褐色を呈するハードローム層である。粘性・縮まりともに強く、層厚は22～35cmである。

第6層は、にぶい褐色を呈するハードローム層である。粘性・縮まりともに強く、層厚は22～35cmである。

第7層は、にぶい黄褐色を呈するローム層である。粘性・縮まりともに非常に強く、層厚は8～16cmである。

第8層は、にぶい黄褐色を呈するローム層である。鹿沼土を少量含み、粘性・縮まりともに強く、層厚は20cmまで確認したが、下層は未掘のため、本来の層厚は不明である。

遺構は主に第3層上面で確認した。



第3図 基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、陥し穴6基を確認した。以下、遺構について記述する。

陥し穴

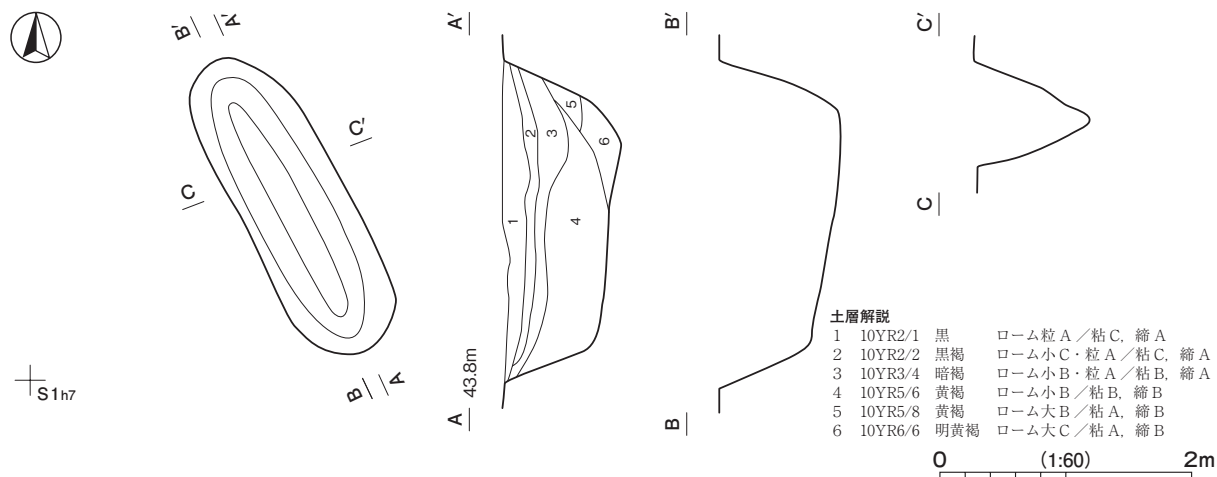
第3号陥し穴（第4図 PL 3）

位置 B区北部のS1g7区，標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径は2.58m，短径は0.82mの楕円形で，長径方向はN-28°-Wである。深さ96cmで，底面は幅12cmで剣阻である。短径方向の断面形はV字状で，壁は外傾している。

覆土 6層に分層できる。第5・6層はロームブロックを含む壁面の崩落土で，第1～4層は自然堆積である。

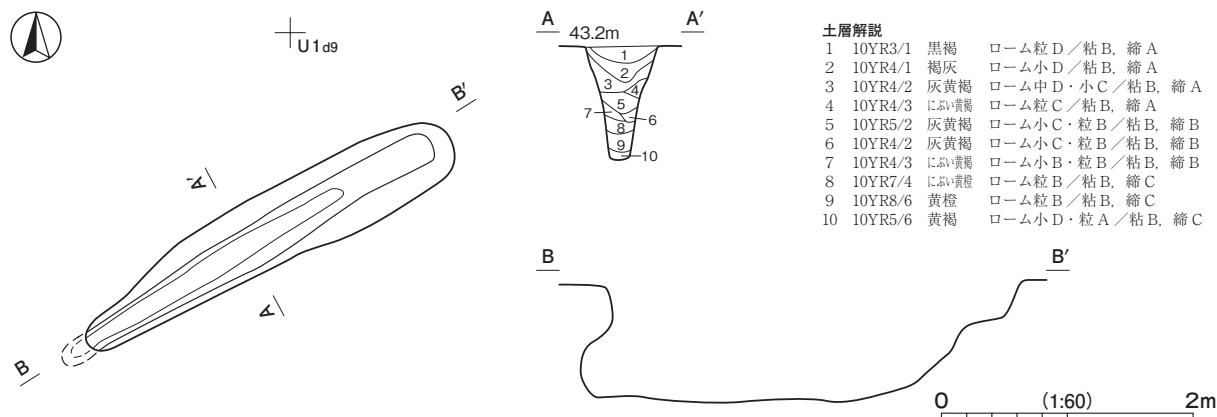
所見 時期は，遺物が出土していないために明確ではないが，規模や形状から縄文時代と考えられる。



第4図 第3号陥し穴実測図

第4号陥し穴（第5図 PL 3）

位置 A区北部のU1d9区，標高43mほどの平坦な台地上に位置している。



第5図 第4号陥し穴実測図

規模と形状 長径は 3.30 m，短径は 0.57 m の楕円形で，長径方向は N - 60° - E である。深さ 95 cm で，底面は幅 20 cm で平坦である。短径方向の断面形は U 字状で，壁はほぼ直立している。長径方向の南西壁は，底面から高さ 55 cm まで内彎し，上部はほぼ直立している。

覆土 10 層に分層できる。自然堆積である。

所見 時期は，遺物が出土していないために明確ではないが，規模や形状から縄文時代と考えられる。

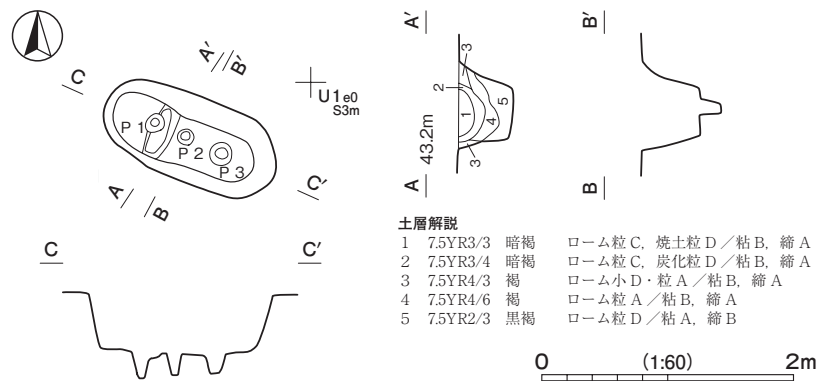
第 5 号陥し穴 (第 6 図 PL 3)

位置 A 区北部の U 1e9 区，標高 43 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径は 1.44 m，短径は 0.70 m の楕円形で，長径方向は N - 66° - W である。深さ 46 cm で，短径方向の断面形は逆台形で，壁はほぼ直立している。底面は平坦で，中央部に深さ 10 ~ 22 cm のピット状の掘り込み 3 か所を有している。これらは逆茂木を埋設した跡と考えられる。

覆土 5 層に分層できる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積である。

所見 時期は，遺物が出土していないために明確ではないが，規模や形状から縄文時代と考えられる。



第 6 図 第 5 号陥し穴実測図

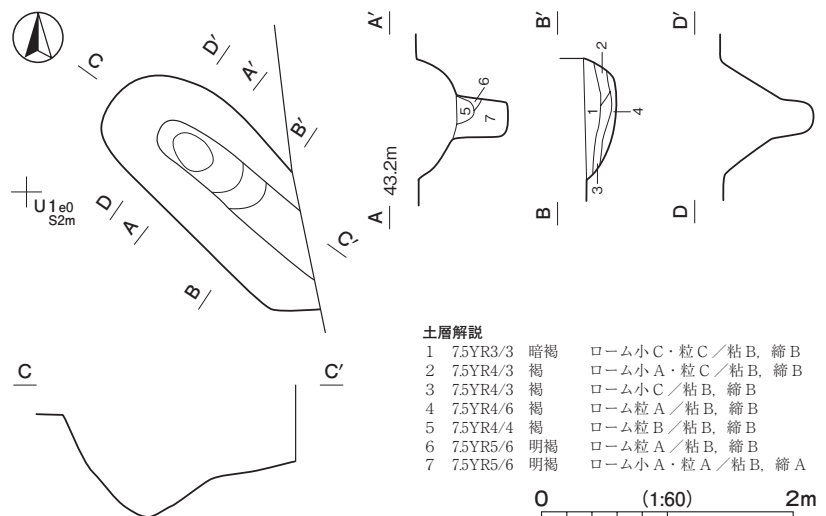
第 6 号陥し穴 (第 7 図 PL 3)

位置 A 区北部の U 1e0 区，標高 43 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 東部が調査区域外のため，短径は 0.94 m で，長径は 1.98 m しか確認できなかった。長径方向は N - 42° - W で，楕円形と推定できる。深さ 40 cm で，底面は幅 35 cm で平坦である。短径方向の断面形は U 字状で，北西部は底面から更に深さ 42 cm ほど掘り込まれている。北西壁は外傾しているが，北西部の短径方向の断面形は漏斗状を呈している。

覆土 7 層に分層できる。第 5・6 層はロームブロックを含む壁面の崩落土で，第 1 ~ 4・7 層は自然堆積である。

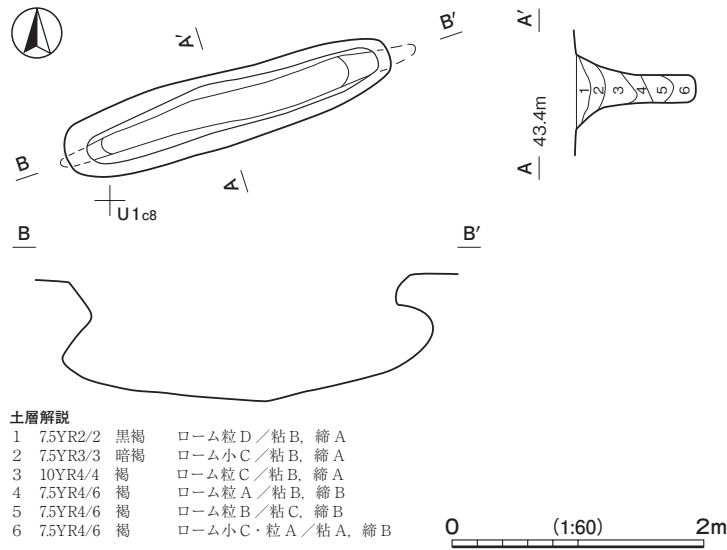
所見 時期は，遺物が出土していないために明確ではないが，規模や形状から縄文時代と考えられる。



第 7 図 第 6 号陥し穴実測図

第7号陥し穴 (第8図 PL 3)

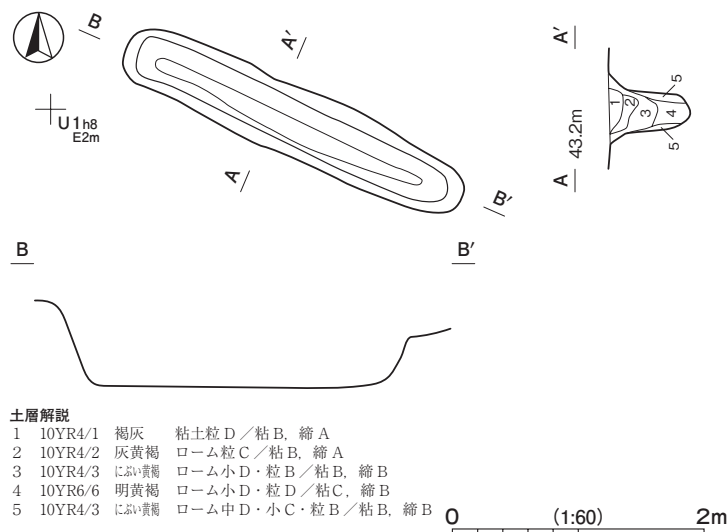
位置 A区北部のU1b8区, 標高43mほどの平坦な台地上に位置している。



第8図 第7号陥し穴実測図

第8号陥し穴 (第9図 PL 3)

位置 A区北部のU1h8区, 標高43mほどの平坦な台地上に位置している。



第9図 第8号陥し穴実測図

規模と形状 長径は2.70 m, 短径は0.58 mの楕円形で, 長径方向はN - 72° - Eである。深さ94 cmで, 底面は幅25 cmで皿状を呈している。短径方向の断面形はU字状で, 南北壁は直立しており, 開口部付近で外傾している。長径方向の壁は内彎している。

覆土 6層に分層できる。自然堆積である。

所見 時期は, 遺物が出土していないために明確ではないが, 規模や形状から縄文時代と考えられる。

規模と形状 長径は2.90 m, 短径は0.54 mの楕円形で, 長径方向はN - 67° - Wである。深さ66 cmで, 底面は幅15 cmで平坦である。短径方向の断面形はU字状で, 壁は直立しており, 開口部付近で外傾している。

覆土 5層に分層できる。第5層はロームブロックを含む壁面の崩落土で, 第1~4層は自然堆積である。

所見 時期は, 遺物が出土していないために明確ではないが, 規模や形状から縄文時代と考えられる。

第2表 縄文時代陥し穴一覧

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
3	S1g7	N - 28° - W	楕円形	2.58 × 0.82	96	外傾	陰阻	自然	-	
4	U1d9	N - 60° - E	楕円形	3.30 × 0.57	95	ほぼ直立 内彎	平坦	自然	-	
5	U1e9	N - 66° - W	楕円形	1.44 × 0.70	46	ほぼ直立	平坦	自然	-	
6	U1e0	N - 42° - W	[楕円形]	(1.98) × 0.94	82	外傾	平坦	自然	-	
7	U1b8	N - 72° - E	楕円形	2.70 × 0.58	94	直立 内彎	皿状	自然	-	
8	U1h8	N - 67° - W	楕円形	2.90 × 0.54	66	直立	平坦	自然	-	

2 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡1棟を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

第243号竪穴建物跡（第10・11図 PL3）

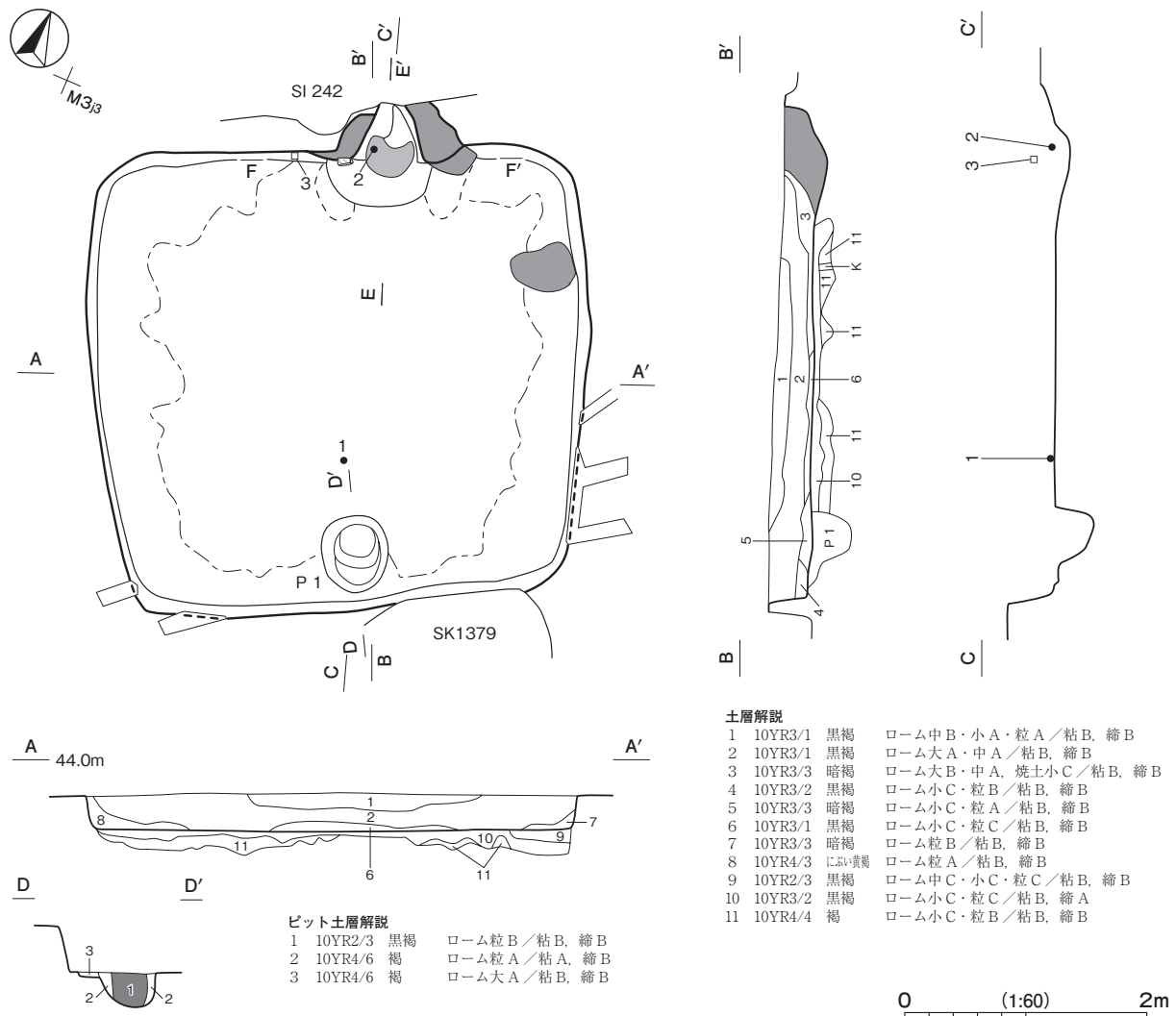
位置 D区南部のM3j3区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第242号竪穴建物、第1379号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.14m、短軸3.80mの方形で、主軸方向はN-23°-Wである。壁は高さ28~36cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が全体に踏み固められている。東壁際には竈の袖部の一部と考えられる楕円形状の砂質粘土が確認できた。貼床はロームブロックを含む第9~11層を10~20cmほど埋土して構築されている。

竈 北壁のやや東寄りに付設されている。竪穴建物に掘り込まれているため、規模は焚口部から煙道部まで85cmしか確認できなかった。燃烧部幅は40cmほどである。袖部は地山を20~35cmほど掘りくぼめ、ロームブロックや焼土粒子を含む第12~20層を埋土して整地した後、粘土ブロックやローム粒子を含む第7~11層を積み上げて構築されている。左袖部は補強材として凝灰質泥岩の切り石を内部に設置している。火床部は



第10図 第243号竪穴建物跡実測図

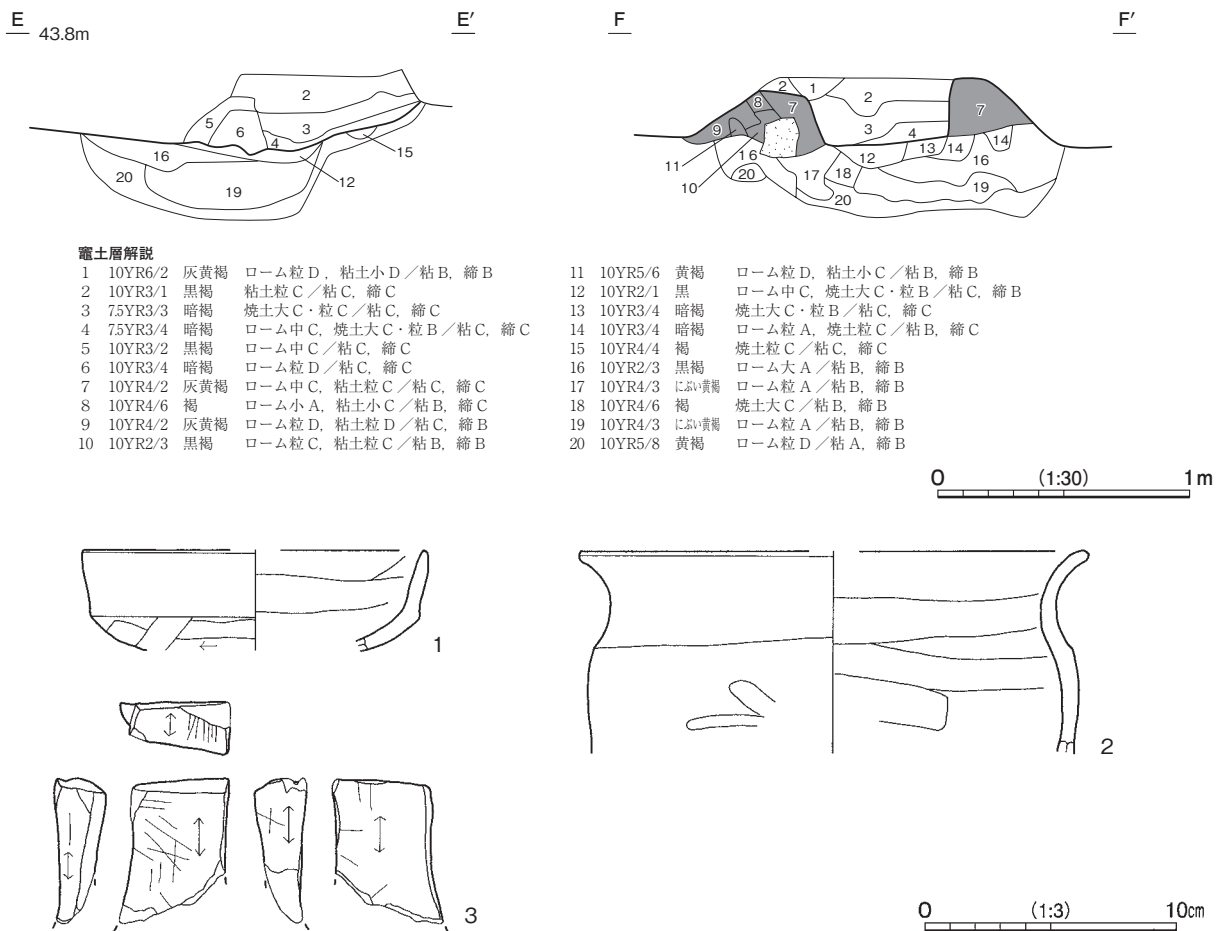
不整形円形で床面から30cm掘りくぼめられている。火床面は第12・13層上面で、赤変硬化している。煙道部は壁外に50cmほど掘り込まれているのを確認した。火床面から緩やかに立ち上がっている。

ピット P1は深さ30cmで、竈に対面した南壁際に位置しており、出入口施設に伴うピットと考えられる。第1層は柱痕跡、第2・3層は埋土である。

覆土 8層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子が含まれていることや不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片46点(坏5, 碗4, 甕類37), 須恵器片4点(坏), 石器1点(砥石)が出土している。1はP1寄りの床面から, 2は竈内の覆土下層から, 3は竈左袖寄りの覆土中層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から7世紀代と考えられる。



第11図 第243号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第3表 第243号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[13.4]	(4.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ナデ	体部外面下端手持ちヘ	床面 10% PL25
2	土師器	甕	[20.0]	(8.0)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部内面ナデ	竈内 5%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
3	砥石	(5.7)	(4.4)	(2.1)	(51.57)	粘板岩	砥面5面	浅いくぼみに研き痕	覆土中層		

3 奈良・平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡 52 棟、掘立柱建物跡 2 棟、土坑 15 基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴建物跡

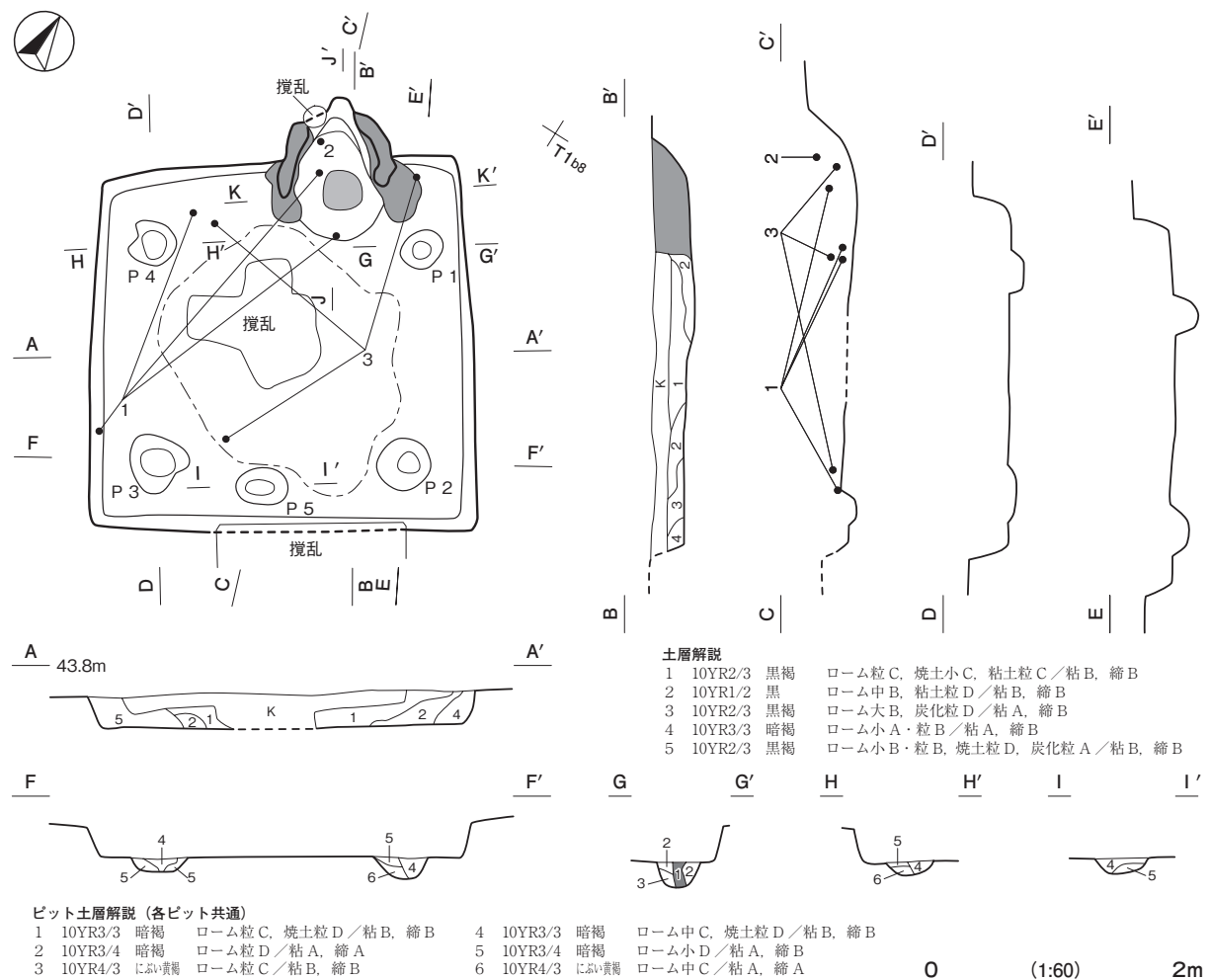
第 13 号竪穴建物跡 (第 12・13 図 PL 4)

位置 B 区南部の T 1 b7 区、標高 44 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と構造 長軸 3.10 m、短軸 3.01 m の方形で、主軸方向は N - 32° - W である。壁は高さ 27 cm で、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部から東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 115 cm で、燃燒部幅は 65 cm である。袖部は地山を 9~21 cm 掘りくぼめ、ロームブロックや焼土粒子・炭化粒子を含む第 15~19 層を埋土して整地した後、焼土ブロックや粘土ブロックを含む第 13・14 層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形で浅い皿状にくぼんでいる。火床面は第 15 層上面で、赤変硬化している。煙道部は壁外に 50 cm ほど掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。



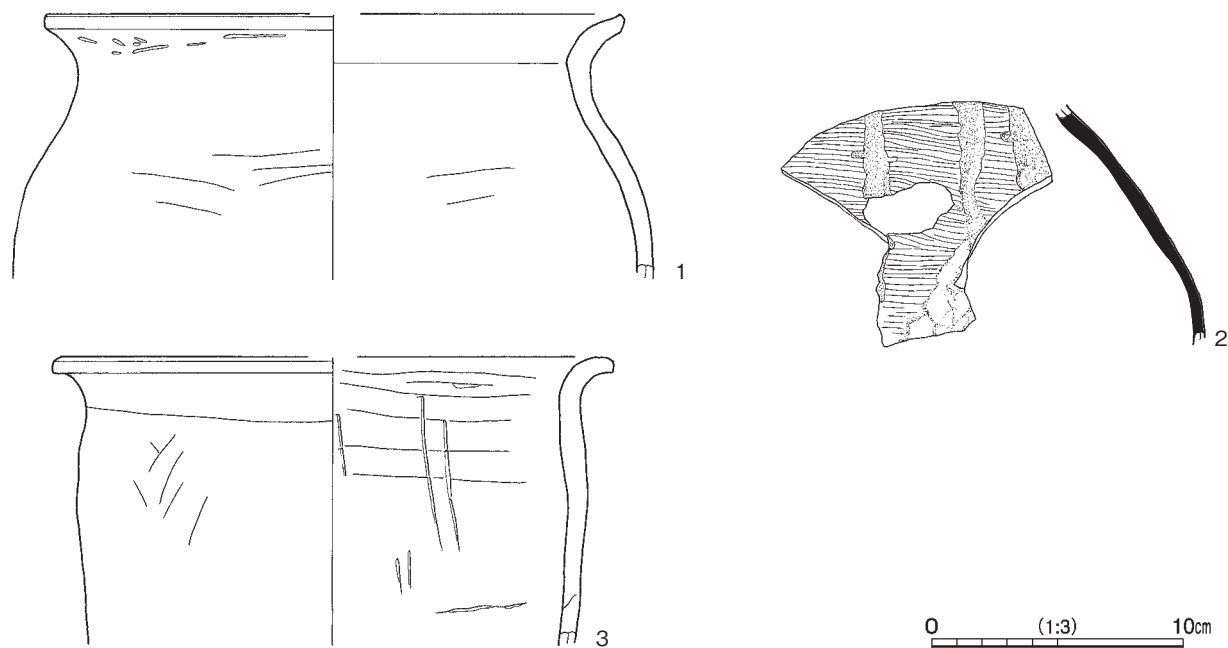
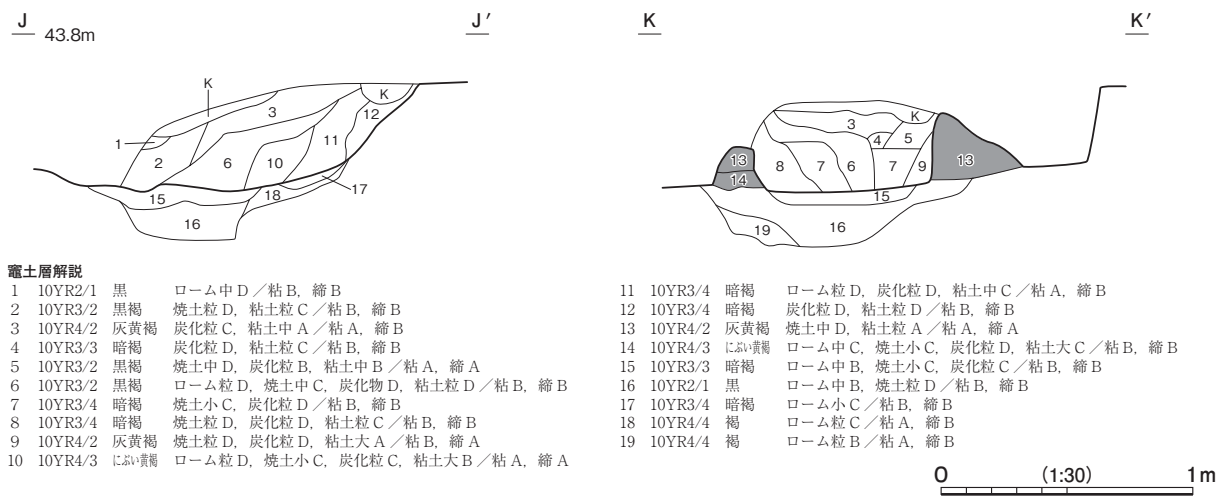
第 12 図 第 13 号竪穴建物跡実測図

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ10～20cmほどで、配置から主柱穴と考えられる。P 1の第1層は柱痕跡、第2・3層は埋土である。P 2～P 5の第4～6層は柱材を抜き取った後の覆土である。P 5は竈に対面した南壁際に位置しており、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片49点(甕類48, 甑1), 須恵器片3点(坏1, 甕類2), 土師質土器片1点(鉢), 金属製品1点(釘)が出土している。1は竈内と北西コーナー部, 西壁際の床面から覆土下層にかけて出土した破片が接合したものである。2は竈の覆土中層から出土している。3は右袖部と北壁寄り, P 5寄りの覆土下層から中層にかけて出土した破片が接合したものである。

所見 時期は, 出土土器から9世紀代と考えられる。



第13図 第13号竪穴建物跡・出土遺物実測図

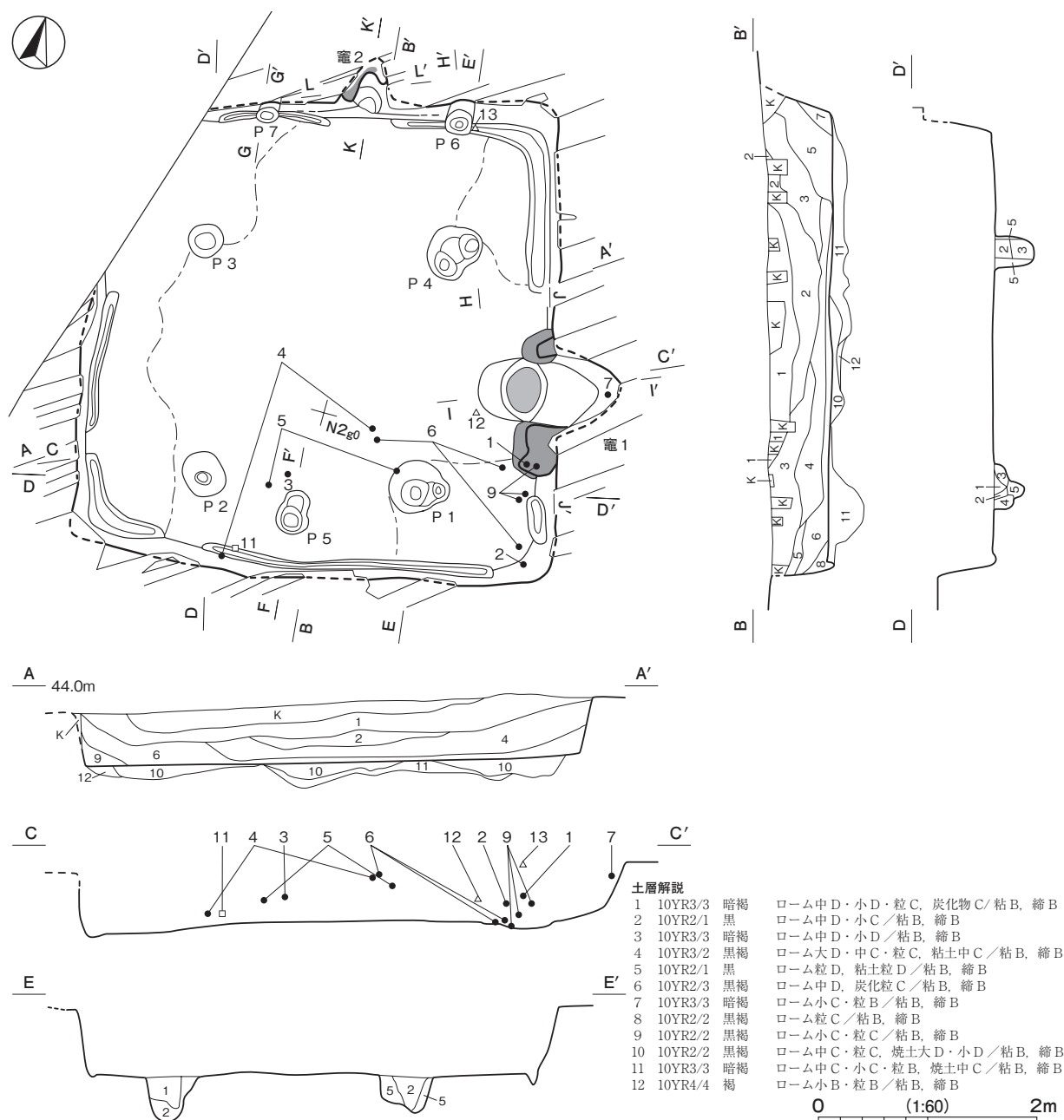
第4表 第13号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	甕	[22.7]	(10.6)	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	竈内・床面・覆土下層	5%
2	須恵器	甕	-	(9.6)	-	長石・石英・黒色粒子	灰黄	良好	体部外面横位の平行叩き 内面当て具痕 釉垂れ	竈内	10%
3	土師器	甌	[21.6]	(11.5)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ へラ当て痕 輪積み痕	覆土下層 覆土中層	20% PL25

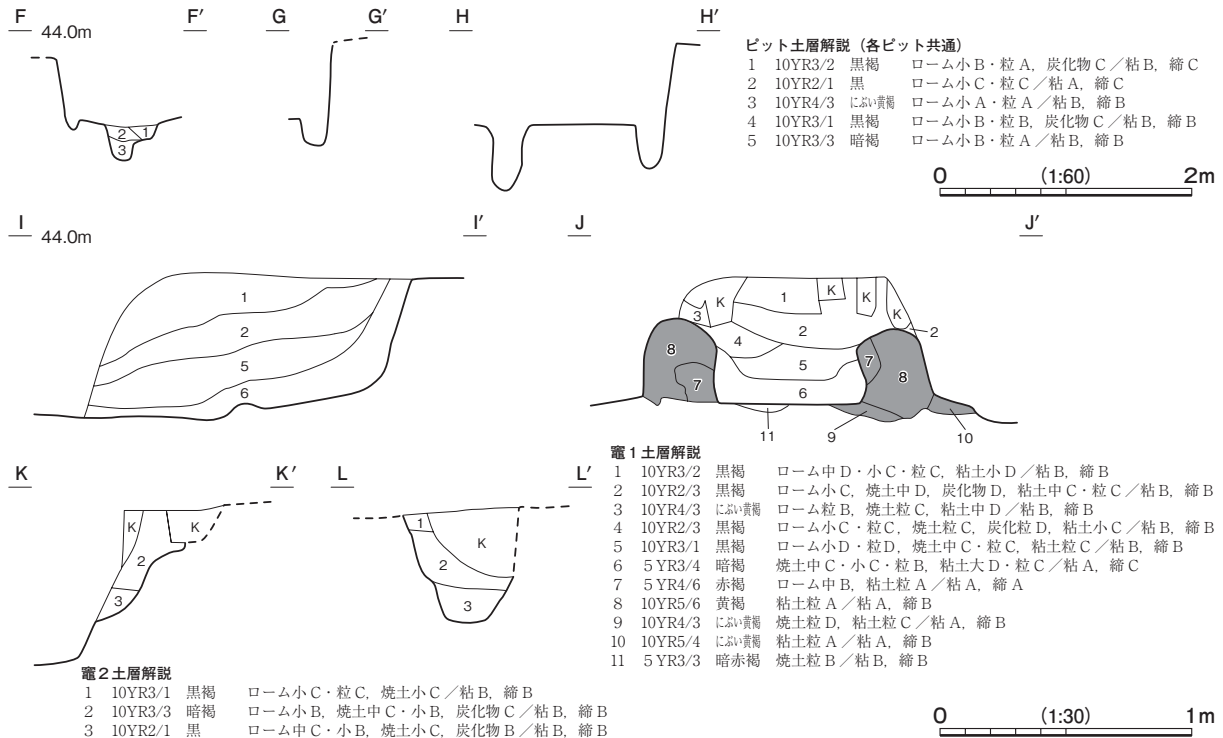
第197号竪穴建物跡 (第14～16図 PL4)

位置 C区北部のN2f9区, 標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 北西部が一部調査区域外であるが, 長軸4.44m, 短軸4.40mの方形で, 主軸方向はN-75°-Eである。壁は高さ50~62cmで, ほぼ直立している。



第14図 第197号竪穴建物跡実測図(1)



第15図 第197号竈穴建物跡実測図(2)

床 平坦で、中央部と竈周辺が踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第10～12層を10～30cm埋土して構築されている。竈寄りと一部を除いて壁溝が巡っている。

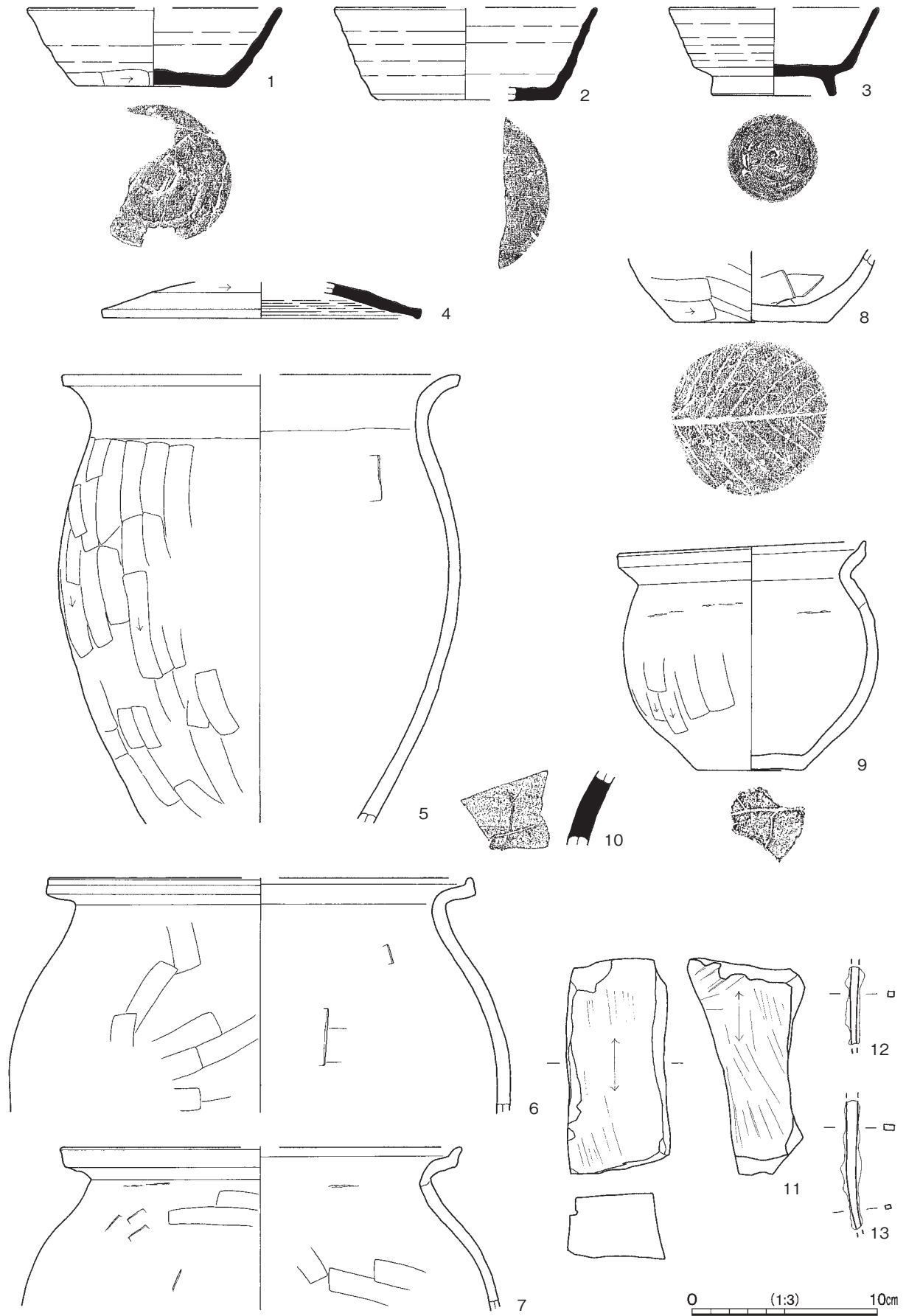
竈 2か所。東壁に竈1、北壁に竈2を確認したが、袖の遺存状態から竈2の使用後に、竈1が作られたと考えられる。竈1は東壁やや南寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで130cmで、燃焼部幅は55cmである。両袖部は地山の上にロームブロックや粘土粒子を含む第7～10層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形で浅く掘りくぼめ、焼土粒子を含む第11層を埋土している。火床面は第11層上面で火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に60cmほど掘り込まれ、火床面から外傾している。竈2は北壁中央部に付設され、確認できた規模は焚口部から煙道部まで50cmで、燃焼部幅は30cmである。火床面は赤変していない。左袖部には、砂質粘土がわずかに遺存している。

ピット 7か所。P1～P4は深さ30～40cmで、規模や配置から支柱穴である。P5は深さ25cmで、竈2に対面した南壁寄りに位置しており、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7は竈2の両側の北壁に位置していることから、補助柱穴とみられる。第1～4層は柱材を抜き取った後の覆土である。第5層は埋土である。

覆土 9層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子が含まれていることや不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片609点(坏15, 小型甕3, 甕類591), 須恵器片103点(坏70, 高台付坏5, 蓋6, 盤1, 長頸瓶1, 甕類20), 陶器片1点(皿), 石器2点(敲石, 砥石), 金属製品3点(釘2, 不明鉄製品1), 鉄滓1点, 瓦2点が南部から南東部にかけて集中して出土している。9は床面と覆土中層, 6は床面と覆土上層, 4は覆土下層と覆土上層から出土した破片が接合している。11は覆土下層から, 1～3・5・12は覆土中層から, 7・13は覆土上層から出土している。8・10は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第 16 图 第 197 号竖穴建物跡出土遺物実測図

第5表 第197号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	[13.5]	4.3	[8.4]	長石・石英・ 黒色粒子・細礫	黄灰	普通	口縁部、体部外・内面ロクロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部多方向のヘラ削り	覆土中層	30% PL25 新治窯
2	須恵器	坏	[14.0]	5.0	[9.2]	長石・石英	黄灰	普通	口縁部、体部外・内面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 底部ヘラナデ	覆土中層	20% 木葉下窯
3	須恵器	高台付坏	[11.2]	4.8	6.3	長石・石英・ 針状物質	灰褐	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後高台貼付け	覆土中層	50% 木葉下窯
4	須恵器	蓋	[16.8]	(1.9)	-	長石・石英・ 黒色粒子・細礫	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土下層 覆土上層	20%
5	土師器	甕	[21.4]	(24.2)	-	長石・石英	灰黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 内面ヘラ当て痕	覆土中層	30% PL25
6	土師器	甕	[22.5]	(12.8)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面上半ヘラナデ 内面ヘラ当て痕	床面 覆土上層	10%
7	土師器	甕	[21.4]	(8.8)	-	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面上半ヘラナデヘラ当て痕 内面ヘラナデ 輪積み痕	覆土上層	10%
8	土師器	甕	-	(3.9)	8.4	長石・石英	明赤褐	普通	体部下半横位のヘラ削り 内面ヘラナデ ヘラ当て痕 底部木葉痕	覆土中	10%
9	土師器	小型甕	13.1	12.3	[5.8]	長石・石英	赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 内面ナデ 底部木葉痕 輪積み痕	床面 覆土中層	80% PL25
10	須恵器	甕	-	(4.0)	-	長石・石英	黄灰	普通	体部外・内面ロクロナデ	覆土中	5% PL25 ヘラ記号「+」

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
11	砥石	11.7	5.6	6.3	490.0	粘板岩	砥面2面 溝状の浅い・深い研き痕	覆土下層	PL43

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
12	釘	(4.2)	(0.4)	0.3	(3.04)	鉄	頭部・先端部欠損 脚部断面正方形	覆土中層	
13	釘	(7.0)	(0.6)	0.3	(7.67)	鉄	頭部・先端部欠損 脚部断面長方形	覆土上層	

第198号竪穴建物跡（第17～18図 PL4）

位置 C区北部のO2a9区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸4.10m、短軸3.85mの方形で、主軸方向はN-12°-Wである。壁は高さ48～57cmで、直立している。

床 平坦で、竈の前方から中央部が踏み固められている。貼床はロームブロックや焼土粒子を含む第11～14層を27cmほど埋土して構築されている。

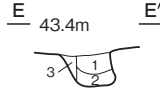
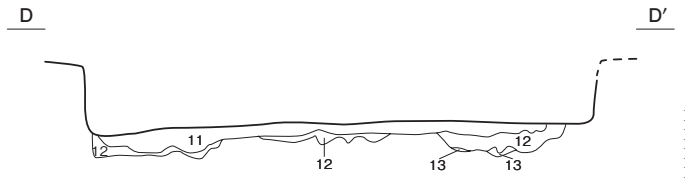
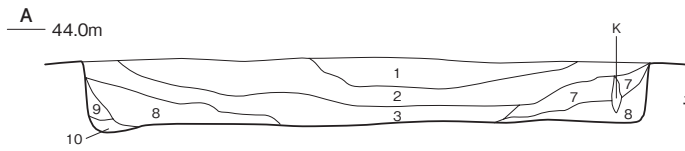
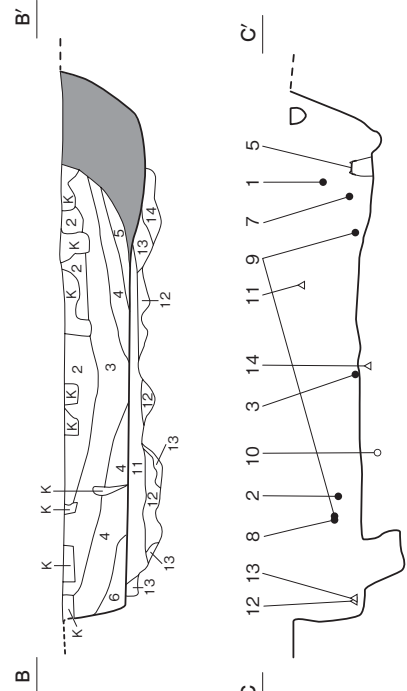
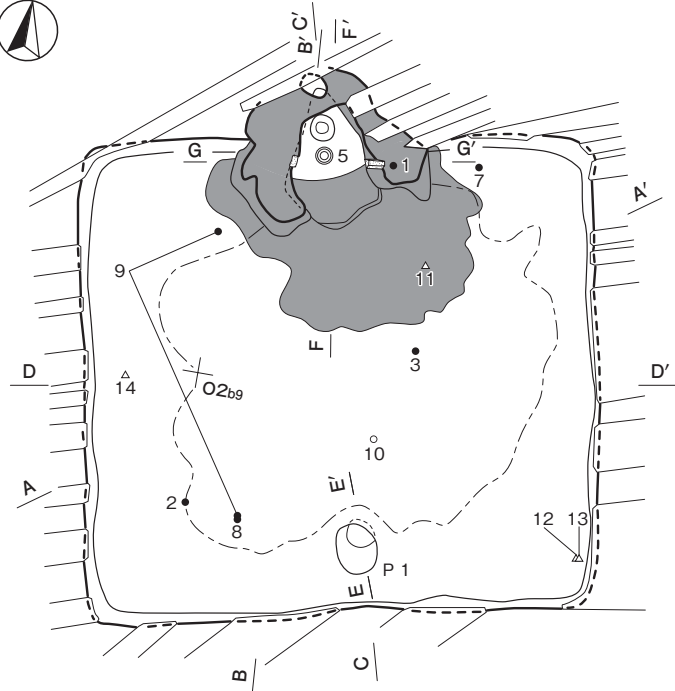
竈 北壁中央部に付設されている。攪乱を受けているため、確認できた規模は焚き口部から煙道部まで127cmで、燃焼部幅は66cmである。両袖部は地山を掘り込み、粘土ブロックやローム粒子を含む第14～20層を積み上げ、内側を凝灰質泥岩の切り石で補強している。焚き口から床面中央部にかけて、竈部材の粘土が広がっている。火床部には土師器の高台付坏を粘土の塊の上に逆位に置き、支脚として転用していたと考えられる。火床面は赤変硬化していない。煙道部は粘土で補強されており、壁外に58cm掘り込まれ、火床面から外傾している。

ピット P1は深さ32cmで、竈に対面した南壁際に位置しており、出入口施設に伴うピットと考えられる。第1・2層は柱材を抜き取った後の覆土、第3層は埋土である。

覆土 10層に分層できる。ロームブロックが含まれている層もあるが、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師器片435点（坏42、高台付坏4、甕類389）、須恵器片73点（坏20、高台付坏3、蓋2、長頸壺1、甕類44、甗3）、土製品1点（紡錘車）、金属製品4点（刀子1、釘1、鑿状工具2）、椀形滓1点、礫5点が出土している。3は中央部床面から、5は竈火床部から、1は竈右袖部から出土している。7は竈右袖寄り、12・13は南東コーナー部の覆土下層から、9は竈左袖寄りの床面と南西コーナー部の覆土中層から出土した破片が接合して、2・8は南西コーナー部の覆土中層から、11は中央部の覆土上層から、4・6は覆土中から出土している。10・14は掘方の埋土から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。

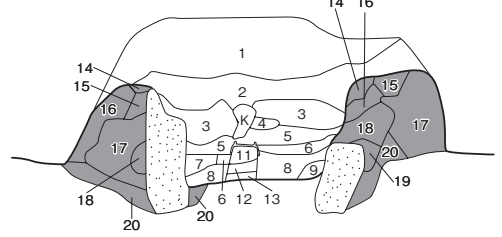
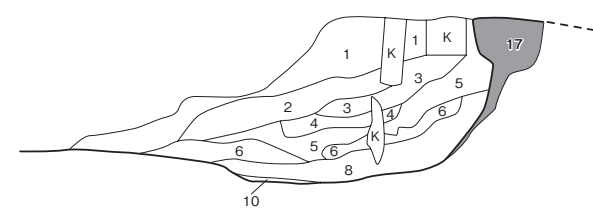
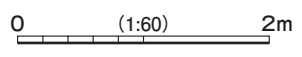


土層解説

1	75YR3/1	黒褐	ローム中C・小C, 粘土粒D/粘B, 締B
2	75YR2/2	黒褐	ローム小D・粒C, 炭化物D, 粘土小C/粘B, 締B
3	75YR3/1	黒褐	ローム小D・粒C, 炭化粒D/粘B, 締B
4	75YR3/2	黒褐	ローム小D・粒C, 炭化粒D/粘B, 締B
5	75YR4/1	褐灰	粘土小C・粒C/粘A, 締B
6	75YR2/3	極暗褐	ローム粒C, 炭化粒D/粘B, 締B
7	75YR2/1	黒	ローム粒C/粘B, 締B
8	75YR2/2	黒褐	ローム粒C, 焼土粒D, 炭化粒D/粘B, 締B
9	75YR3/2	黒褐	ローム粒C, 炭化粒D/粘B, 締B
10	75YR2/3	極暗褐	ローム小D・粒C, 焼土粒D/粘B, 締B
11	10YR3/1	黒褐	ローム中D・小B・粒B/粘B, 締A
12	10YR3/3	暗褐	ローム大B・中A・粒B/粘B, 締B
13	10YR4/6	褐	ローム小A・粒A/粘A, 締A
14	10YR5/1	褐灰	ローム小B, 焼土粒D, 粘土小A/粘A, 締B

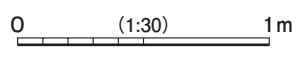
ピット土層解説

1	75YR3/2	黒褐	ローム小C・粒C, 焼土粒D/粘B, 締B
2	75YR3/3	暗褐	ローム小D・粒C/粘B, 締B
3	75YR4/3	褐	ローム小B・粒A/粘B, 締B

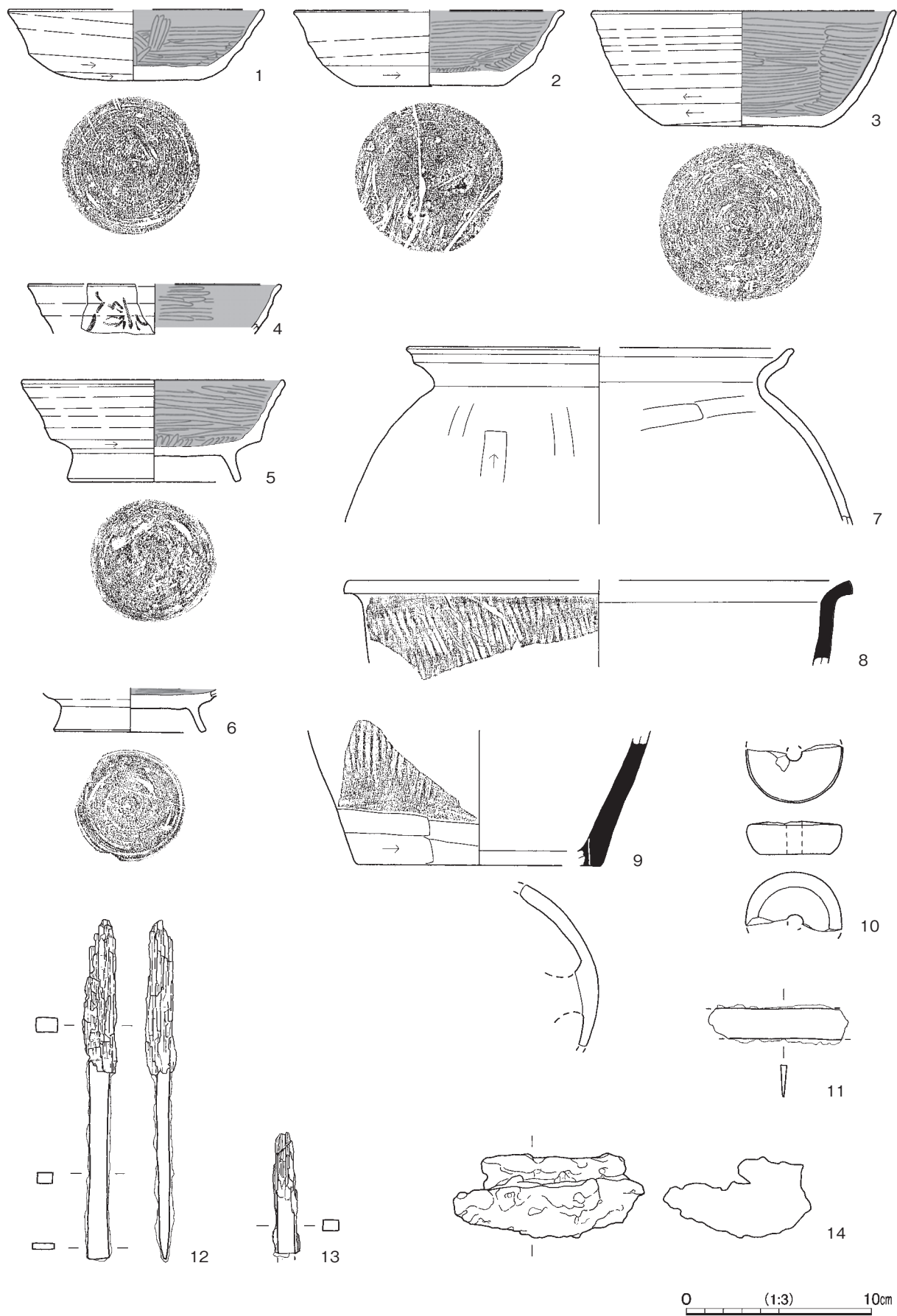


竈土層解説

1	10YR3/1	黒褐	ローム粒C, 粘土粒C/粘A, 締B
2	10YR2/2	黒褐	ローム粒C, 焼土粒C, 粘土小C・粒C/粘B, 締B
3	10YR4/2	灰黄褐	粘土中C・小B, 粘土粒A/粘A, 締B
4	10YR2/3	黒褐	焼土粒D, 粘土小D・粒C/粘A, 締B
5	10YR3/2	黒褐	粘土中B・粒A/粘A, 締B
6	10YR5/4	にひ黄褐	粘土中A・粒A/粘A, 締B
7	10YR3/3	暗褐	ローム粒C, 焼土粒C, 炭化物D, 粘土小D/粘B, 締B
8	10YR2/3	黒褐	焼土粒C, 炭化物D, 粘土粒B/粘B, 締B
9	75YR4/4	褐	ローム粒A/粘B, 締B
10	75YR4/3	にひ黄褐	ローム粒A, 灰C/粘B, 締B
11	10YR2/2	黒褐	粘土粒A, 灰C/粘B, 締C
12	10YR4/3	にひ黄褐	焼土粒C, 粘土粒A/粘B, 締B
13	5YR5/3	にひ赤褐	焼土小D・粒C, 粘土小C/粘B, 締A
14	10YR3/2	黒褐	ローム粒C, 炭化粒D, 粘土中B/粘B, 締B
15	75YR4/4	褐	ローム粒A, 粘土粒C/粘A, 締B
16	10YR2/2	黒褐	粘土粒C/粘B, 締C
17	10YR5/3	にひ黄褐	粘土大A/粘A, 締A
18	10YR4/4	褐	ローム粒A, 粘土粒B/粘B, 締B
19	10YR4/2	灰黄褐	粘土中B/粘B, 締B
20	10YR4/4	褐	ローム小C・粒A, 粘土小C/粘B, 締B



第 17 図 第 198 号竈穴建物跡実測図



第18图 第198号竖穴建物跡出土遺物実測図

第6表 第198号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[13.6]	3.8	7.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端・底部回転ヘラ削り	竈右袖部	70% PL25
2	土師器	坏	[14.3]	4.1	8.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り後多方向のヘラナデ	覆土中層	60% PL25
3	土師器	坏	16.2	6.3	8.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り後ナデ	床面	80% PL25
4	土師器	坏	[13.4]	(2.7)	-	長石・石英・黒色粒子	橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き	覆土中	5% PL25 墨書「□」
5	土師器	高台付坏	14.0	5.5	8.9	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り後高台貼付け	火床部	90% PL25 支脚転用。
6	土師器	高台付坏	-	(2.4)	[8.0]	長石・石英・針状物質	橙	普通	体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り後高台貼付け	覆土中	20%
7	土師器	甕	[20.6]	(9.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面上位ナデ 縦位のヘラ削り 内面横ナデ	覆土下層	5%
8	須恵器	甌	[26.8]	(4.7)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	口縁部外・内面ロクロナデ 体部外面縦位の平行叩き	覆土中層	10% 新治窯
9	須恵器	甌	-	(7.3)	[13.1]	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部外面縦位の平行叩き 体部下端横位の手持ちヘラ削り 多孔式	床面 覆土中層	10%

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
10	紡錘車	5.2	0.8	1.8	(29.66)	長石・石英	にぶい橙	外面ナデ 断面逆台形	掘方埋土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
11	刀子	(7.6)	(1.7)	0.3	(24.55)	鉄	刀部・先端部欠損 茎部欠損 刃部断面三角形	覆土上層	
12	鑿状工具	18.4	1.7	0.8	(82.93)	鉄	柄部欠損 先端V字状 木質付着 刃部断面長方形	覆土下層	PL44
13	鑿状工具	(6.5)	1.5	0.6	(18.96)	鉄	柄・首・刃部欠損 木質付着 首部断面長方形	覆土下層	PL44
14	椀形滓	8.0	10.4	4.7	(440.0)	鉄	一部発泡 全面錆化 着磁性なし	掘方埋土	PL43

第199号竪穴建物跡 (第19～21図 PL4)

位置 C区北部のO3c1区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 攪乱により、遺存状態は良好ではないが、竈や壁の確認状況から長軸3.68m、短軸3.66mの方形で、主軸方向はN-34°-Wである。壁は高さ60～72cmで、ほぼ直立している。

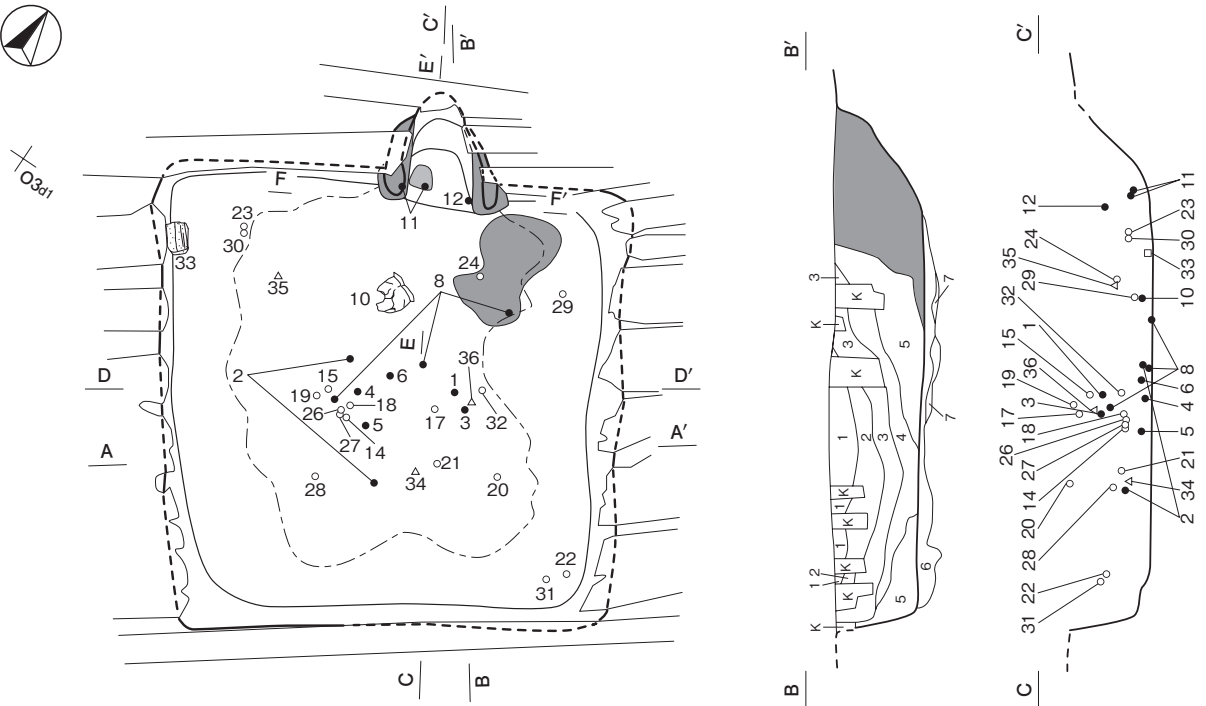
床 平坦で、竈の前方から中央部が踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第6・7層を15cmほど埋土して構築されている。

竈 北壁中央部やや東寄りに付設されている。確認できた規模は焚口部から煙道部まで95cmで、燃焼部幅は50cmである。袖部は地山の上に粘土ブロックやローム粒子を含む第9～11層を積み上げて構築されている。天井部や袖部構築に利用された粘土が、右袖側の床面に広がっている。火床部は楕円形で床面から15cmほど掘りくぼめ、ロームブロックや焼土粒子を含む第12層を埋土している。火床面は第12層上面で、赤変硬化している。煙道部は壁外へ70cmほど掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。

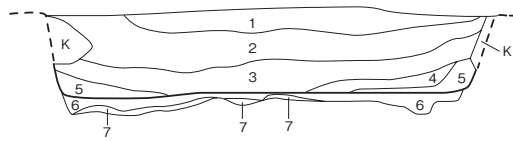
覆土 5層に分層できる。ロームブロックや炭化物が含まれている層もあるが、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師器片277点(坏43, 蓋1, 小型甕3, 甕類228, 甌2), 須恵器片115点(坏96, 蓋4, 盤1, 短頸壺1, 甕類13), 陶器片1点(甕), 土製品20点(管状土錘), 金属製品5点(刀子3, 釘2), 凝灰質泥岩1点, 礫8点が出土している。33は北西コーナー部の床面, 8は中央部の床面と覆土中層から出土した破片が接合したもので, 11は竈内, 4～6・10は中央部, 29は北東コーナー部の覆土下層から, 2は中央部の覆土下層と覆土中層から出土した破片が接合したもので, 12は竈内, 1・3・14・18・21・24・26～28・32・34・35は中央部, 23・30は北西コーナー部, 22・31は南東コーナー部の覆土中層から出土している。15・17・19・20・36は中央部の覆土上層から出土している。7・9・13・16・25は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。



A 44.0m



A'

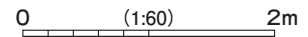
土層解説

- | | |
|--------------|-----------------------------|
| 1 10YR2/3 黒褐 | ローム小C・粒C、炭化物D・粒C、粘土小D/粘B、締B |
| 2 10YR2/2 黒褐 | ローム中D・小C・粒C・炭化物C/粘B、締B |
| 3 10YR2/3 黒褐 | ローム中C・小C・粒C/粘B、締B |
| 4 10YR2/1 黒 | ローム粒C/粘B、締B |
| 5 10YR2/2 黒褐 | ローム粒D/粘B、締B |
| 6 10YR2/2 黒褐 | ローム中B・小B・粒B/粘A、締A |
| 7 10YR5/8 黄褐 | ローム中A/粘B、締A |

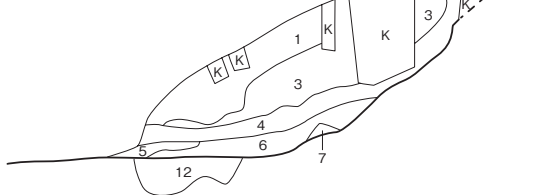
D



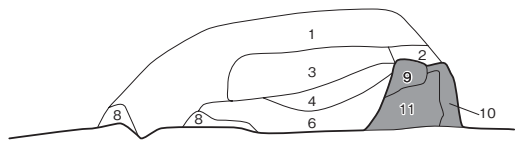
D'



E 44.0m

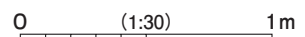


F

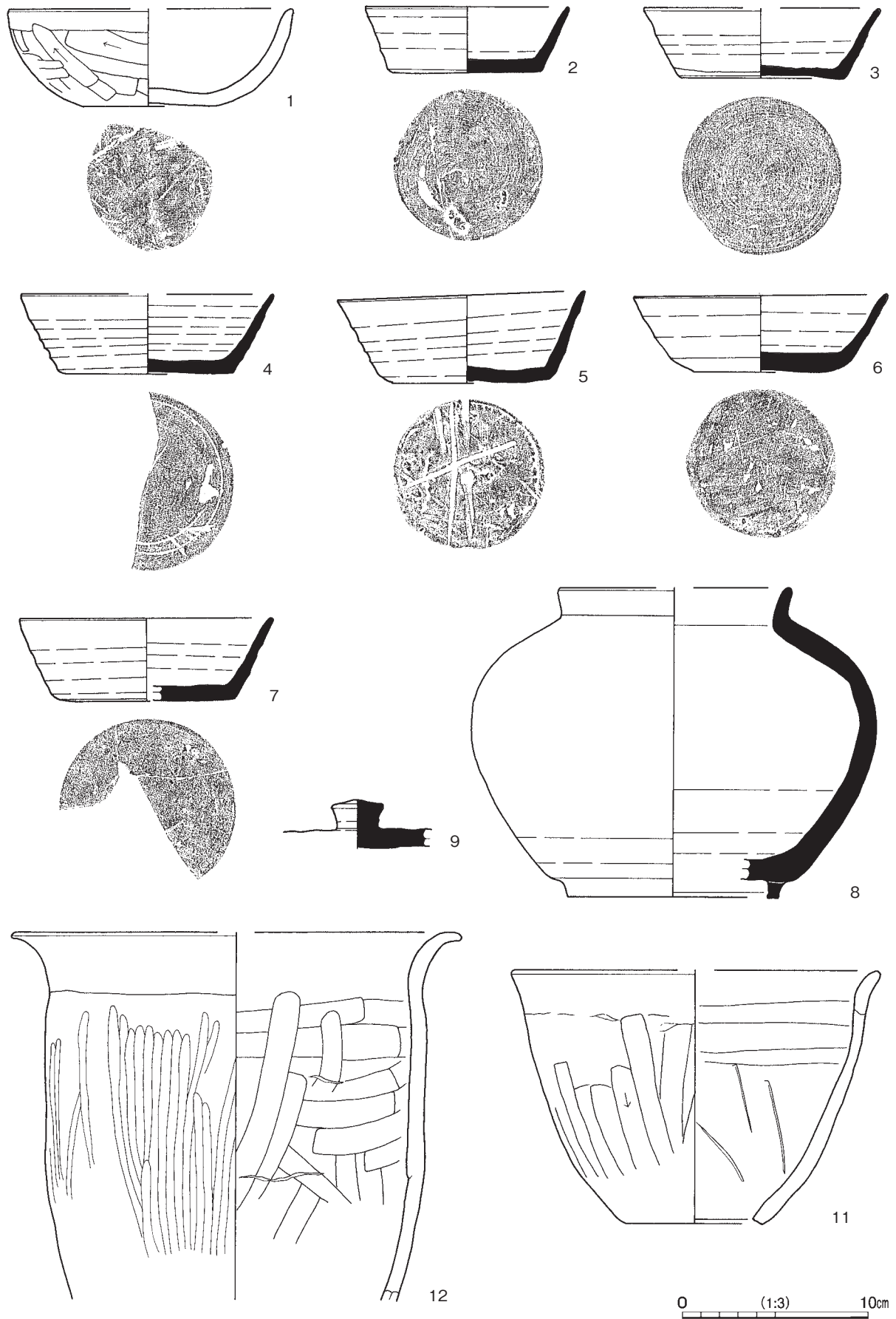


竈土層解説

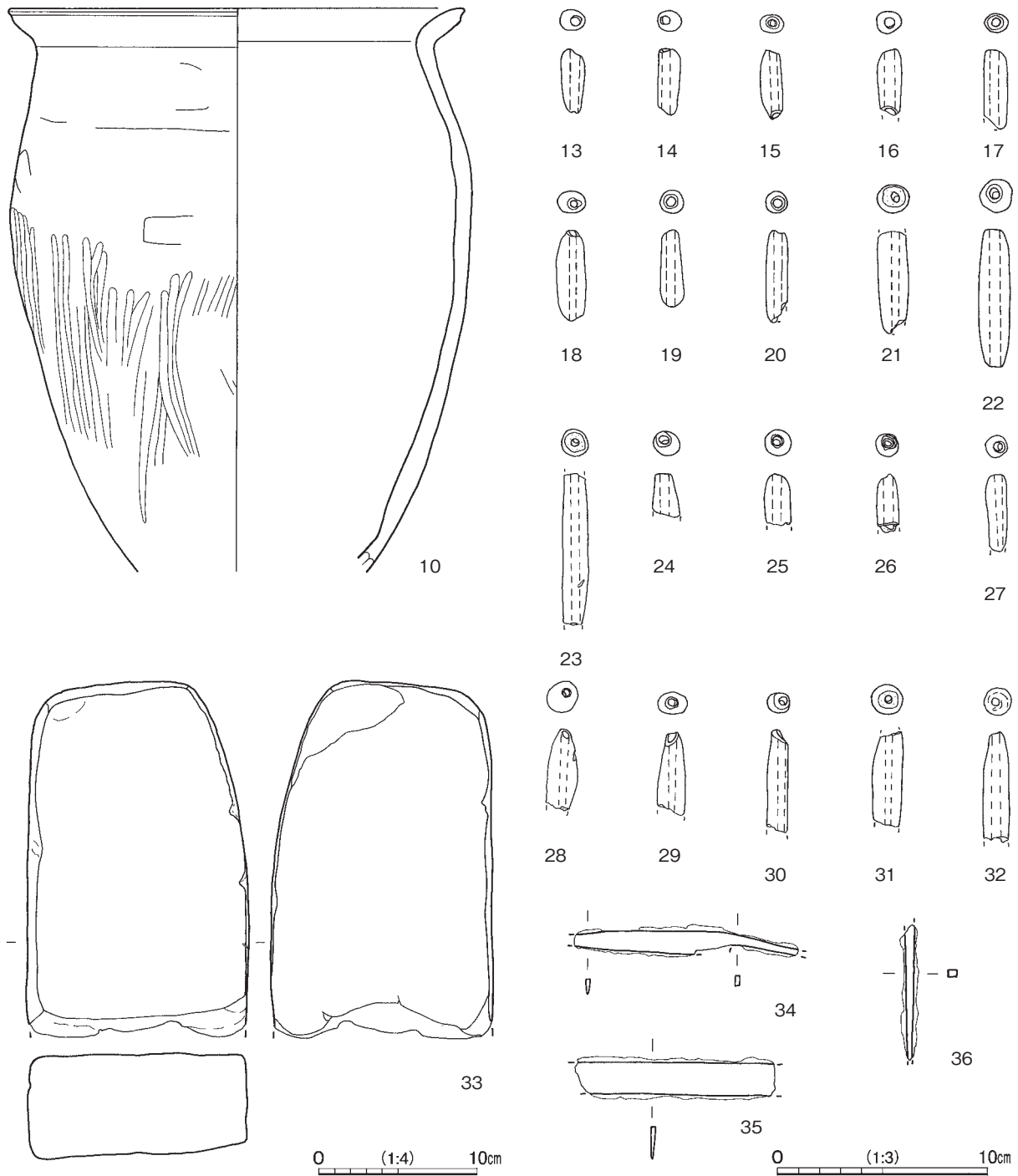
- | | | | |
|-----------------|--------------------------|-----------------|---------------------|
| 1 10YR3/3 暗褐 | ローム粒C、焼土小C、炭化粒C/粘B、締A | 7 10YR4/6 褐 | 粘土粒C/粘A、締B |
| 2 10YR4/2 灰黄褐 | ローム粒C、焼土小D・粒D/粘B、締B | 8 10YR4/3 におい黄褐 | ローム小C・粒B/粘B、締B |
| 3 10YR6/4 におい黄褐 | 焼土小D・粒C/粘A、締A | 9 10YR6/4 におい黄褐 | 粘土粒A/粘A、締A |
| 4 10YR2/2 黒褐 | ローム粒C、焼土中D・小C、炭化物C/粘B、締B | 10 10YR3/3 暗褐 | ローム粒C、焼土小D・粒D/粘B、締B |
| 5 5YR2/3 暗赤褐 | 焼土中D・小C・粒B/粘B、締B | 11 10YR4/4 褐 | ローム粒C、粘土中C/粘A、締A |
| 6 10YR2/2 黒褐 | ローム粒D、焼土小C・粒D/粘B、締B | 12 5YR3/3 暗赤褐 | ローム小C・粒C、焼土粒C/粘A、締B |



第19図 第199号竪穴建物跡実測図



第 20 图 第 199 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第21図 第199号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第7表 第199号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[15.0]	5.3	7.0	長石・石英・ 黒色粒子・細礫	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へラ削り 底部多方向のへラ削り	覆土中層	60% PL26
2	須恵器	坏	10.9	3.7	8.0	長石・石英・ 針状物質・細礫	灰	普通	口縁部、体部外・内面ロクロナデ 底部回転へラ削り後ナデ	覆土中層 覆土下層	95% PL26 木葉下蓋
3	須恵器	坏	[12.5]	3.7	8.6	長石・石英	黄灰	普通	口縁部、体部外・内面ロクロナデ 底部回転へラ削り	覆土中層	60% PL26 木葉下蓋
4	須恵器	坏	[13.4]	4.3	[9.4]	長石・黒色粒子・ 針状物質・細礫	灰	普通	口縁部、体部外・内面ロクロナデ 底部回転へラ削り	覆土下層	40% PL26 木葉下蓋
5	須恵器	坏	13.1	4.9	8.1	長石・石英	灰	良好	口縁部、体部外・内面ロクロナデ 底部回転へラ削り 棒状工具先端による削り	覆土下層	70% PL26 へラ記号「ヌ」 木葉下蓋
6	須恵器	坏	13.6	4.2	8.0	長石・石英・ 針状物質・細礫	褐灰	普通	口縁部、体部外・内面ロクロナデ 底部回転へラ削り後一方向のナデ	覆土下層	80% PL26 へラ記号「+」 木葉下蓋

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
7	須恵器	坏	134	4.5	9.5	長石・石英・黒色粒子・細礫	褐灰	良好	口縁部、体部外・内面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後一方向のナデ	覆土中	50% 木葉下蓋
8	須恵器	短頸壺	[12.2]	16.7	[11.3]	長石・石英・細礫	褐灰	普通	体部外・内面ロクロナデ 高台貼付け	床面 覆土中層	20% PL26
9	須恵器	蓋	-	(26)	-	長石・石英	明褐灰	普通	天井部ロクロナデ	覆土中	10%
10	土師器	甕	21.6	(26.9)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラナデ 下位ヘラ磨き	覆土下層	80% PL26 外面煤付着
11	土師器	甌	[19.6]	13.6	[7.1]	長石・石英・赤色粒子・細礫	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 内面ナデ 輪積み痕	竈内	40%
12	土師器	甌	[23.7]	(19.8)	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦位のヘラ磨き 内面横位と縦位のナデ 輪積み痕	竈内	20% PL26

番号	器種	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
13	管状土錘	3.0	1.0~1.1	0.4~0.5	3.30	長石・石英・赤色粒子	橙	外面ナデ 穿孔	覆土中	PL41
14	管状土錘	3.1	1.0~1.1	0.4	3.45	長石・石英	にぶい黄橙	外面ナデ 穿孔	覆土中層	PL41
15	管状土錘	3.3	0.8~1.1	0.3~0.4	3.24	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	外面ナデ 穿孔	覆土上層	PL41
16	管状土錘	(3.1)	1.0~1.2	0.4~0.5	(3.97)	長石・石英	にぶい橙	外面ナデ 穿孔 片方欠損	覆土中	PL41
17	管状土錘	3.8	0.9~1.1	0.4	(3.94)	長石・石英・細礫	赤褐	外面ナデ 穿孔 片方欠損	覆土上層	PL41
18	管状土錘	4.3	1.0~1.3	0.3	(6.21)	長石・石英	明赤褐	外面ナデ 穿孔	覆土中層	PL41
19	管状土錘	3.6	1.1	0.4	4.07	長石・石英・黒色粒子	橙	外面ナデ 穿孔	覆土上層	PL41
20	管状土錘	4.4	1.0	0.4	(4.75)	長石・石英・黒色粒子	明赤褐	外面ナデ 穿孔 片方欠損	覆土上層	PL41
21	管状土錘	(4.9)	1.3~1.5	0.4	(9.84)	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	外面ナデ 穿孔 両方欠損	覆土中層	PL41
22	管状土錘	6.5	1.5~1.6	0.5	16.42	長石・石英	にぶい黄橙	外面ナデ 穿孔	覆土中層	PL41
23	管状土錘	(7.2)	1.2~1.4	0.4	(13.40)	長石・石英	明赤褐	外面ナデ 穿孔 両方欠損	覆土中層	PL41
24	管状土錘	(2.1)	1.2~1.3	0.4	(2.48)	長石・石英	赤褐	外面ナデ 穿孔 片方欠損	覆土中層	
25	管状土錘	(2.5)	1.3	0.5	(3.86)	長石・石英	明褐	外面ナデ 穿孔 片方欠損	覆土中	
26	管状土錘	(2.8)	1.1	0.6	(2.40)	長石・石英	にぶい褐	外面ナデ 穿孔 両方欠損	覆土中層	
27	管状土錘	(3.7)	1.0~1.1	0.4	(3.50)	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	外面ナデ 穿孔 片方欠損	覆土中層	
28	管状土錘	(3.9)	1.4~1.5	0.3	(4.55)	長石・石英	浅黄橙	外面ナデ 穿孔 片方欠損	覆土中層	
29	管状土錘	(4.0)	1.1~1.4	0.3~0.4	(5.37)	長石・石英	明赤褐	外面ナデ 穿孔 両方欠損	覆土下層	
30	管状土錘	(4.9)	1.0	0.4	(5.53)	長石・石英	にぶい橙	外面ナデ 穿孔 両方欠損	覆土中層	
31	管状土錘	(4.6)	1.4	0.4	(8.55)	長石・石英	浅黄橙	外面ナデ 穿孔 両方欠損	覆土中層	
32	管状土錘	(5.2)	1.3	0.3~0.5	(8.23)	長石・石英	橙	外面ナデ 穿孔 片方欠損	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
33	竈部材	(22.6)	14.0	6.8	(1.520)	凝灰質泥岩	直方体に成形	床面	PL42

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
34	刀子	(10.7)	1.1	0.2	(11.13)	鉄	刃先端部欠損 茎部欠損 刃部断面三角形 茎部断面長方形	覆土中層	
35	刀子	(9.5)	(1.6)	0.2	(10.80)	鉄	刃先端部欠損 茎部欠損 刃部断面三角形	覆土中層	
36	釘	(6.4)	(0.4)	0.4	(6.29)	鉄	頭部・先端部欠損 脚部断面長方形	覆土上層	

第200号竪穴建物跡（第22・23図 PL5）

位置 C区北部のO3e1区、標高43mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 攪乱により、遺存状態は良好ではないが竈や壁溝の確認状況から、長軸4.50m、短軸4.34mの方形で、主軸方向はN-6°-Wである。壁は高さ35~50cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、ほぼ全面が踏み固められている。貼床はロームブロックや炭化粒子を含む第8層を埋土して構築されている。壁溝が一部を除いて巡っている。

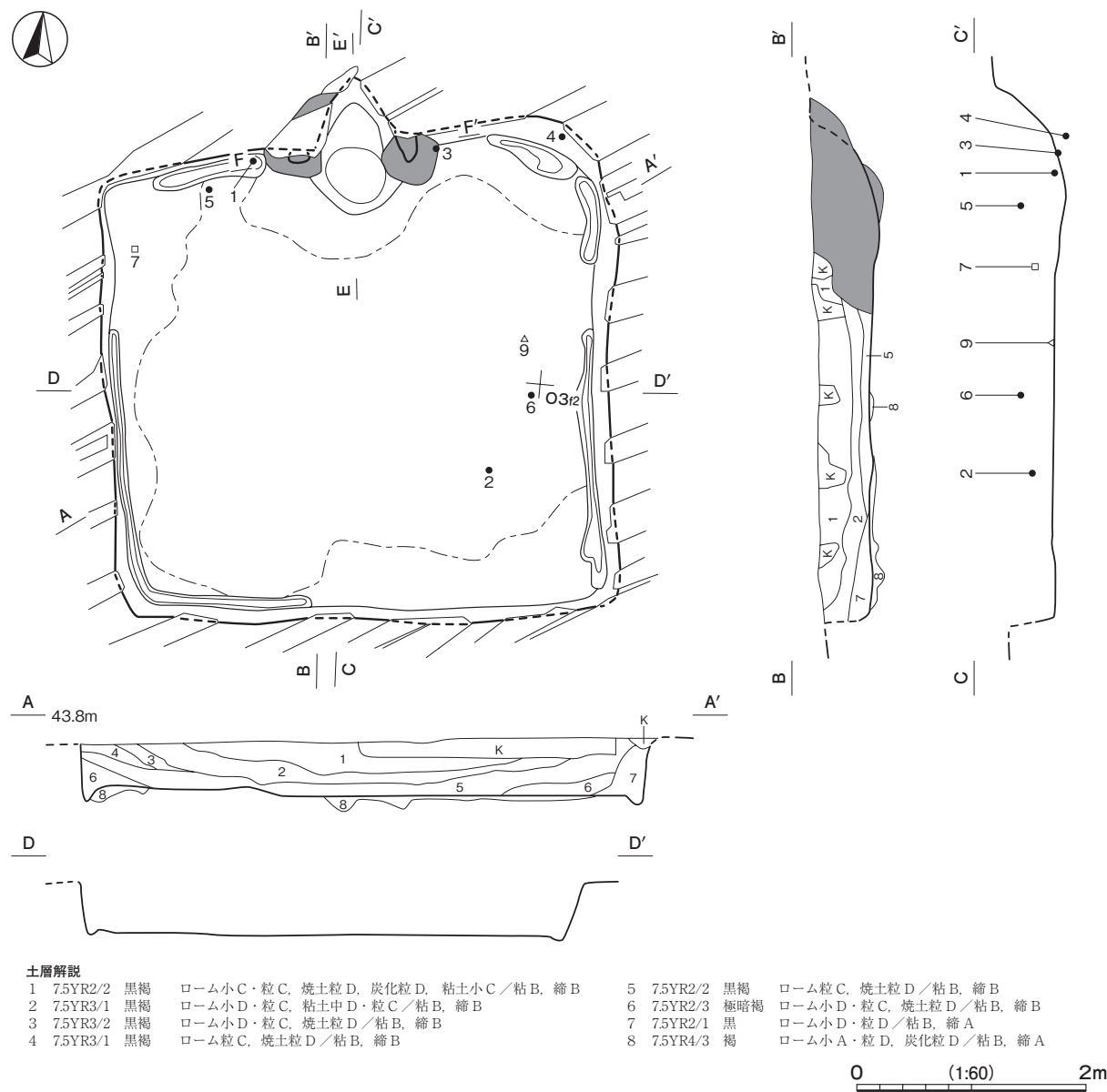
竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで120cmで、燃焼部幅は52cmである。両袖部は地山の上に芯材として凝灰質泥岩を使い、ロームブロックや粘土ブロックを含む第11~13層を積み上げて

構築されている。火床部は楕円形で床面から22cmほど掘りくぼめ、ロームブロックを含む第14～16層を埋土している。火床面は赤変していない。煙道部は壁外に55cmほど掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。

覆土 7層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックが含まれているが、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

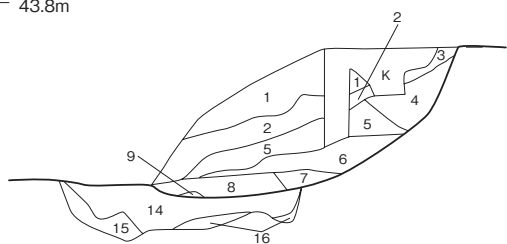
遺物出土状況 土師器片185点（坏14, 高台付坏3, 蓋1, 甕類167）、須恵器片65点（坏44, 高台付坏3, 盤5, 甕類13）、陶器片2点（碗, 甕類）、土師質土器片1点（小皿）、石器2点（砥石）、金属製品2点（釘）、礫5点が出土している。9は東部の床面から、3は竈右袖部、1は竈西側の覆土下層から、6は東部、2は南東部、5・7は北西コーナー部の覆土中層から、4は北東コーナー部の掘方の埋土から出土している。8は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第22図 第200号竪穴建物跡実測図

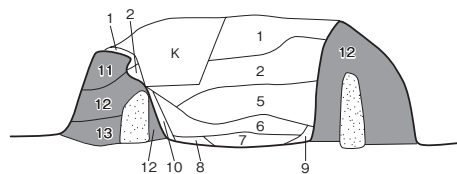
E 43.8m



E'

F

F'

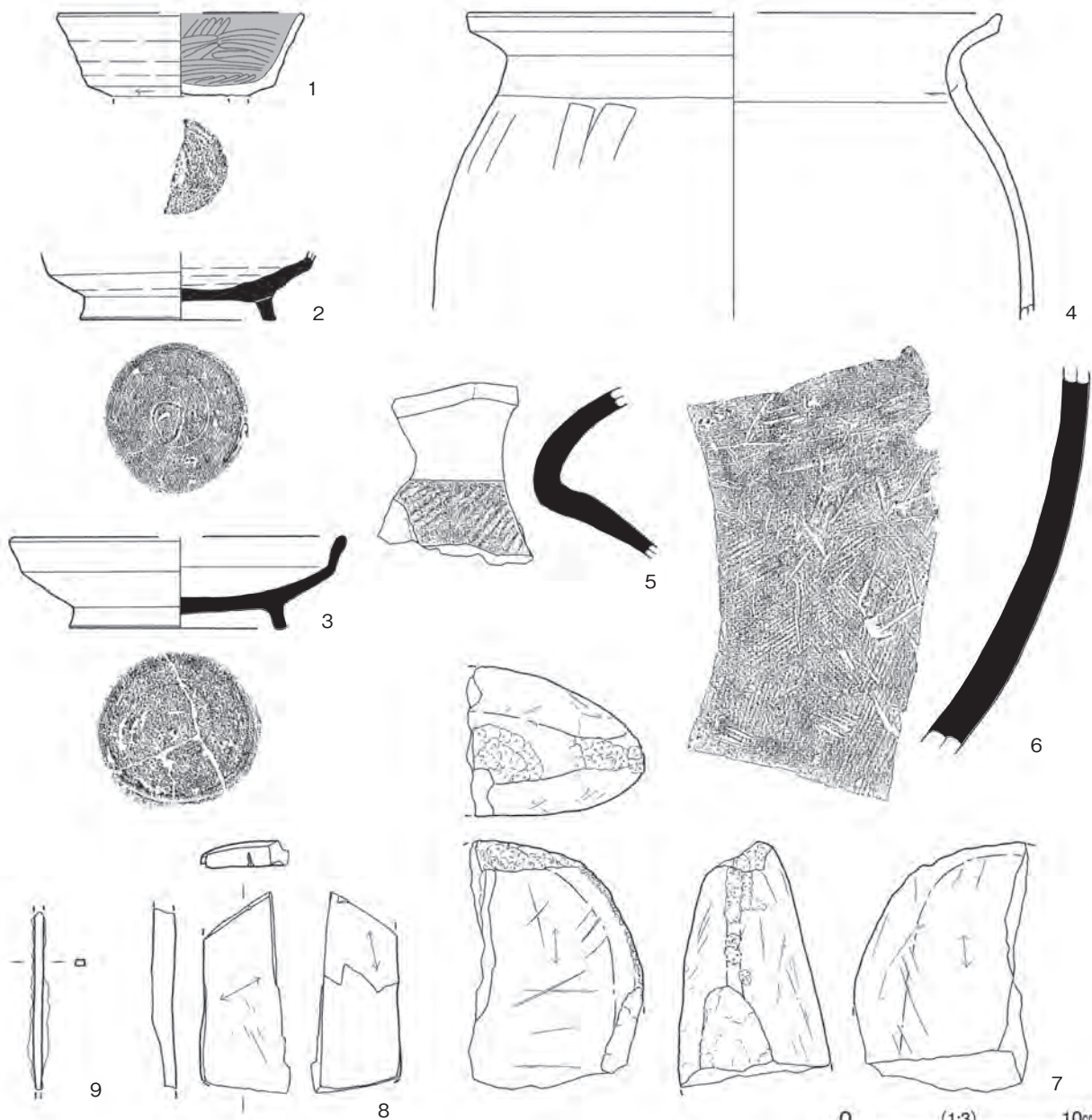


竈土層解説

- | | | | |
|---|---------|-------|--------------------------------------|
| 1 | 10YR3/2 | 黒褐 | ロ-ム中C, 焼土小D・粒C, 炭化物D, 粘土大D・粒C/粘B, 縮B |
| 2 | 10YR2/2 | 黒褐 | ロ-ム小C・粒C, 炭化物C/粘B, 縮B |
| 3 | 10YR2/2 | 黒褐 | ロ-ム小C・粒C, 焼土小A, 粘土中D/粘B, 縮B |
| 4 | 10YR3/3 | 暗褐 | ロ-ム粒C, 粘土粒B/粘A, 縮B |
| 5 | 10YR3/1 | 黒褐 | ロ-ム小C・粒C, 焼土小C, 粘土中D/粘B, 縮B |
| 6 | 10YR6/2 | 灰黄褐 | ロ-ム粒C, 焼土粒D, 粘土中C・小C・粒C/粘B, 縮B |
| 7 | 5YR4/4 | にぶい黄褐 | ロ-ム粒C, 焼土粒C/粘B, 縮B |
| 8 | 10YR2/3 | 黒褐 | ロ-ム中D・小C, 焼土粒C, 粘土中D/粘B, 縮B |

- | | | | |
|----|---------|-------|--------------------------|
| 9 | 10YR4/3 | にぶい黄褐 | ロ-ム粒C, 焼土粒D, 粘土小C/粘B, 縮B |
| 10 | 10YR3/3 | 暗褐 | ロ-ム小C・粒C/粘B, 縮B |
| 11 | 10YR4/2 | 灰黄褐 | ロ-ム粒C, 焼土粒D, 粘土粒C/粘B, 縮A |
| 12 | 10YR5/4 | にぶい黄褐 | 粘土中A/粘A, 縮A |
| 13 | 10YR3/3 | 暗褐 | ロ-ム小B・粒B, 焼土粒C/粘B, 縮A |
| 14 | 10YR3/2 | 黒褐 | ロ-ム大D・中D・小C・粒C/粘B, 縮B |
| 15 | 10YR4/3 | にぶい黄褐 | ロ-ム大D・中C・小C・粒B/粘B, 縮B |
| 16 | 10YR4/4 | 褐 | ロ-ム粒B/粘B, 縮B |

0 (1:30) 1m



0 (1:3) 10cm

第 23 図 第 200 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第8表 第200号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	高台付坏	[10.6]	(3.7)	-	長石・石英	橙	普通	体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り後高台貼付け	覆土下層	50%
2	須恵器	高台付坏	-	(3.0)	8.5	長石・石英・赤色粒子	褐灰	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後高台貼付け	覆土中層	40% 木炭下窯
3	須恵器	盤	[14.6]	4.1	[9.3]	長石・石英	褐灰	普通	口縁部、体部外・内面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後高台貼付け	覆土下層	60% PL27
4	土師器	甕	[23.1]	(13.5)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラナデ 輪積み痕	掘方埋土	20% 外面煤付着
5	須恵器	甕	-	(8.1)	-	長石・石英・黒色粒子	暗灰黄	普通	頸部横ナデ 体部外面斜位の平行叩き	覆土中層	5%
6	須恵器	甕	-	(17.0)	-	長石・石英・黒色粒子	灰黄褐	普通	体部外面多方向への平行叩き ヘラ当て痕 内面指頭痕	覆土中層	5%

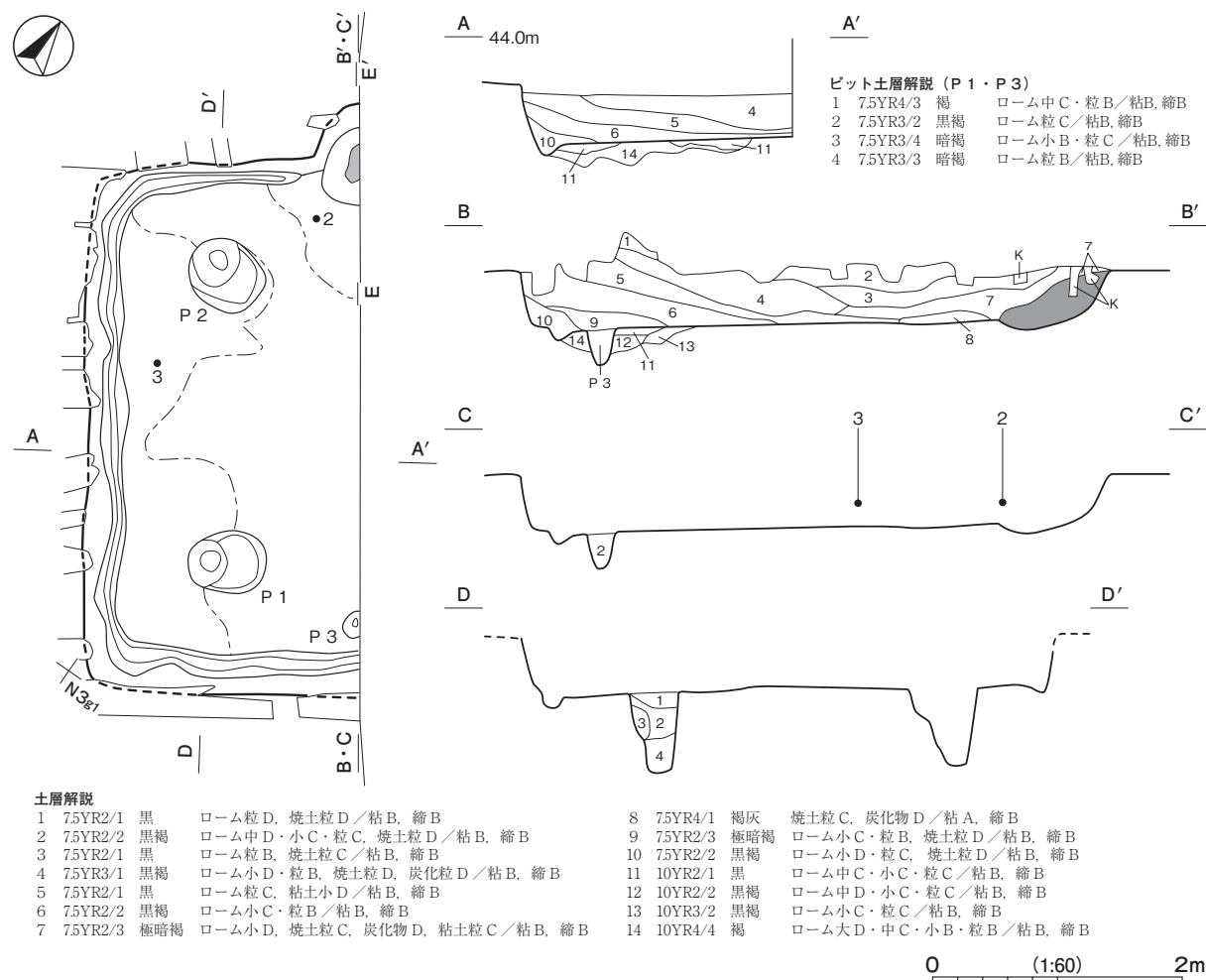
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
7	砥石	(11.1)	(7.7)	6.7	(630.0)	硬砂岩	砥面2面 敲石を転用	覆土中層	
8	砥石	(9.0)	(3.9)	1.3	(52.08)	粘板岩	砥面2面 浅いくぼみに研き痕	覆土中	PL43

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
9	釘	(7.8)	(0.4)	0.3	(8.05)	鉄	頭部・先端部欠損 脚部断面長方形	床面	

第201号竪穴建物跡 (第24・25図 PL5)

位置 C区北部のN2f0区, 標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 東部が調査区域外のため, 南北軸は4.27mで, 東西軸は2.17mしか確認できなかった。主軸方



第24図 第201号竪穴建物跡実測図

向はN-36°-Wで、方形または長方形と推定できる。壁は高さ40～50cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、柱穴から中心部にかけて踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第11～14層を埋土して構築されている。壁溝が全周している。

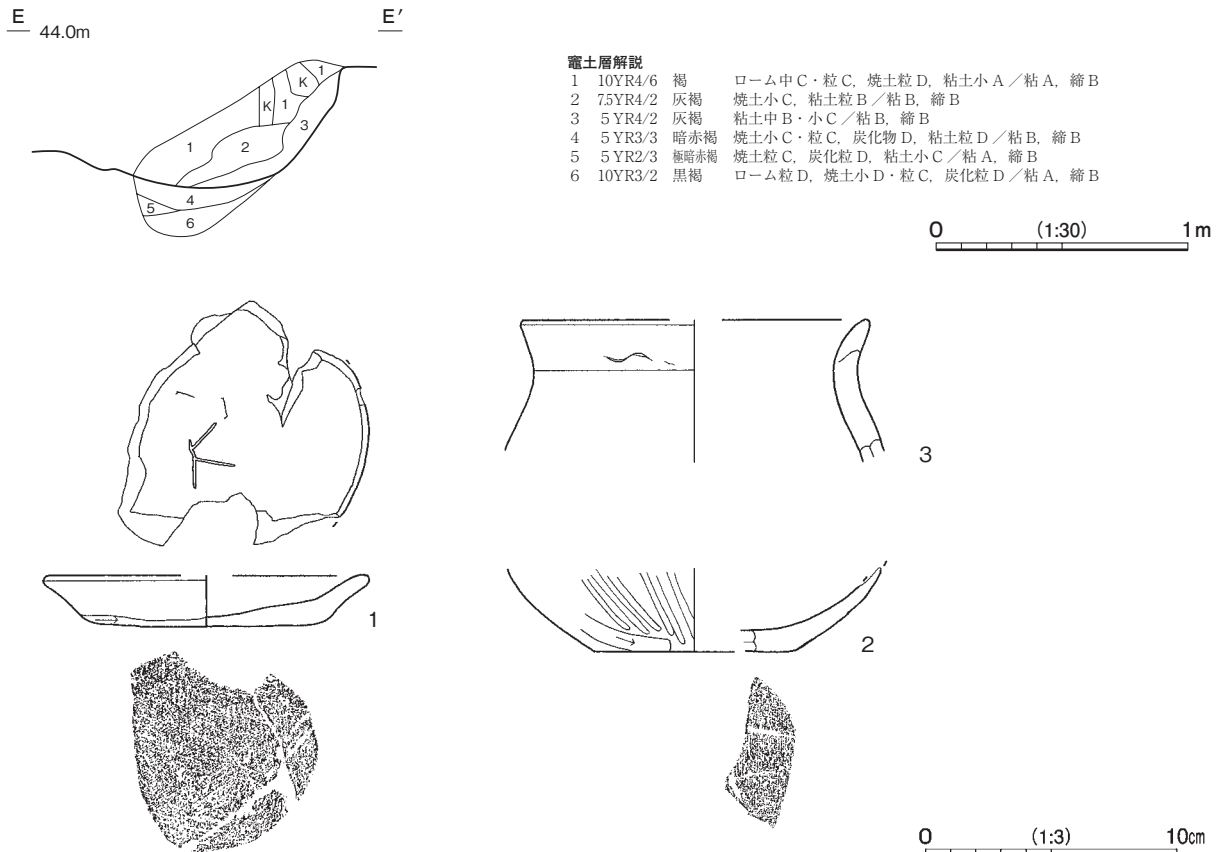
竈 北壁に付設されている。確認できた規模は焚口部から煙道部まで80cmである。燃烧部の残存している幅は30cmである。火床部は床面から地山を20cm掘り込み、ローム粒子や焼土粒子を含む第4～6層を埋土している。火床面は第4層上面で、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に45cmほど掘り込まれ、火床面から外傾している。

ピット 3か所。P1・P2は深さ64cm・60cmで、配置から支柱穴と考えられる。P3は深さ18cmで、竈に対面した南壁際に位置しており、出入口施設に伴うピットと考えられる。第1～3層は、柱材を抜き取った後の覆土、第4層は埋土である。

覆土 10層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子・炭化粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片93点(坏4, 皿1, 小型甕1, 甕類87), 須恵器片8点(坏2, 高台付坏1, 蓋1, 壺1, 長頸壺1, 甕類2), 陶器片1点(皿)が出土している。3は西部, 2は竈寄りの覆土下層から, 1は覆土中から出土している。

所見 時期は、須恵器片の出土が少ないことや出土した皿から、10世紀前葉と考えられる。



第25図 第201号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第9表 第201号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	皿	[12.4]	2.1	[9.0]	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ状工具による圧痕 底部回転ヘラ切り後多方向のナデ	覆土中	40% PL27

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
2	土師器	甕	-	(3.3)	[8.0]	長石・石英	橙	普通	体部外面縦位のヘラ磨き 下端一部ヘラ削り 底部木葉痕 輪積み痕	覆土下層	5%
3	土師器	小型甕	[13.7]	(5.7)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部, 体部外・内面横ナデ 輪積み痕	覆土下層	5%

第 202 号 竪穴建物跡 (第 26・27 図 PL 5)

位置 C区北部の N 2h9 区, 標高 44 m ほどの平坦な台地上に位置している。

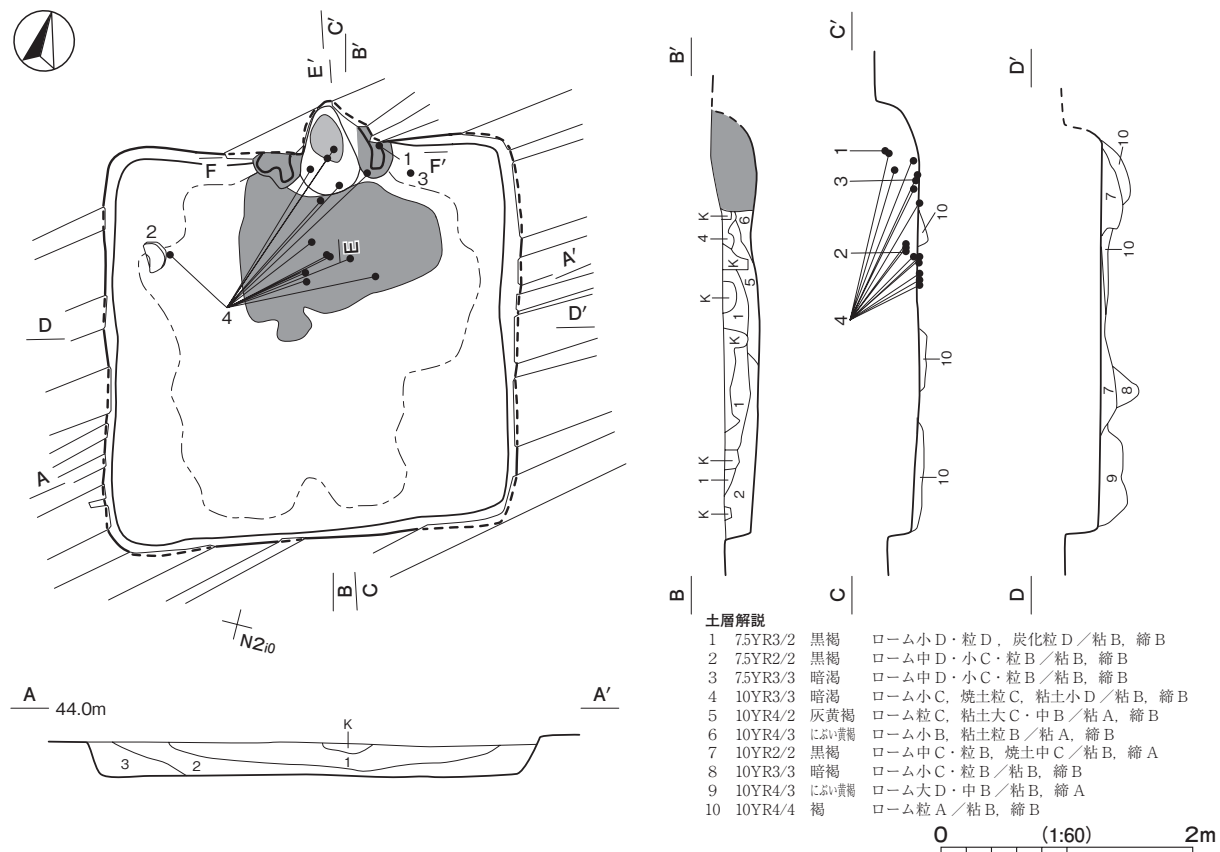
規模と形状 長軸 3.30 m, 短軸 3.12 m の方形で, 主軸方向は N - 15° - W である。壁は高さ 18 ~ 28 cm で, ほぼ直立している。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第 7 ~ 10 層を埋土して構築されている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 75 cm で, 燃焼部幅は 45 cm である。両袖部の一部がわずかに残っている。袖部は地山の上に, 粘土ブロックやローム粒子を含む第 15・16 層を積み上げて構築されている。火床面は楕円形に浅く掘りくぼめ, 赤変硬化している。煙道部は壁外に 40 cm 掘り込まれ, 火床面から外傾している。

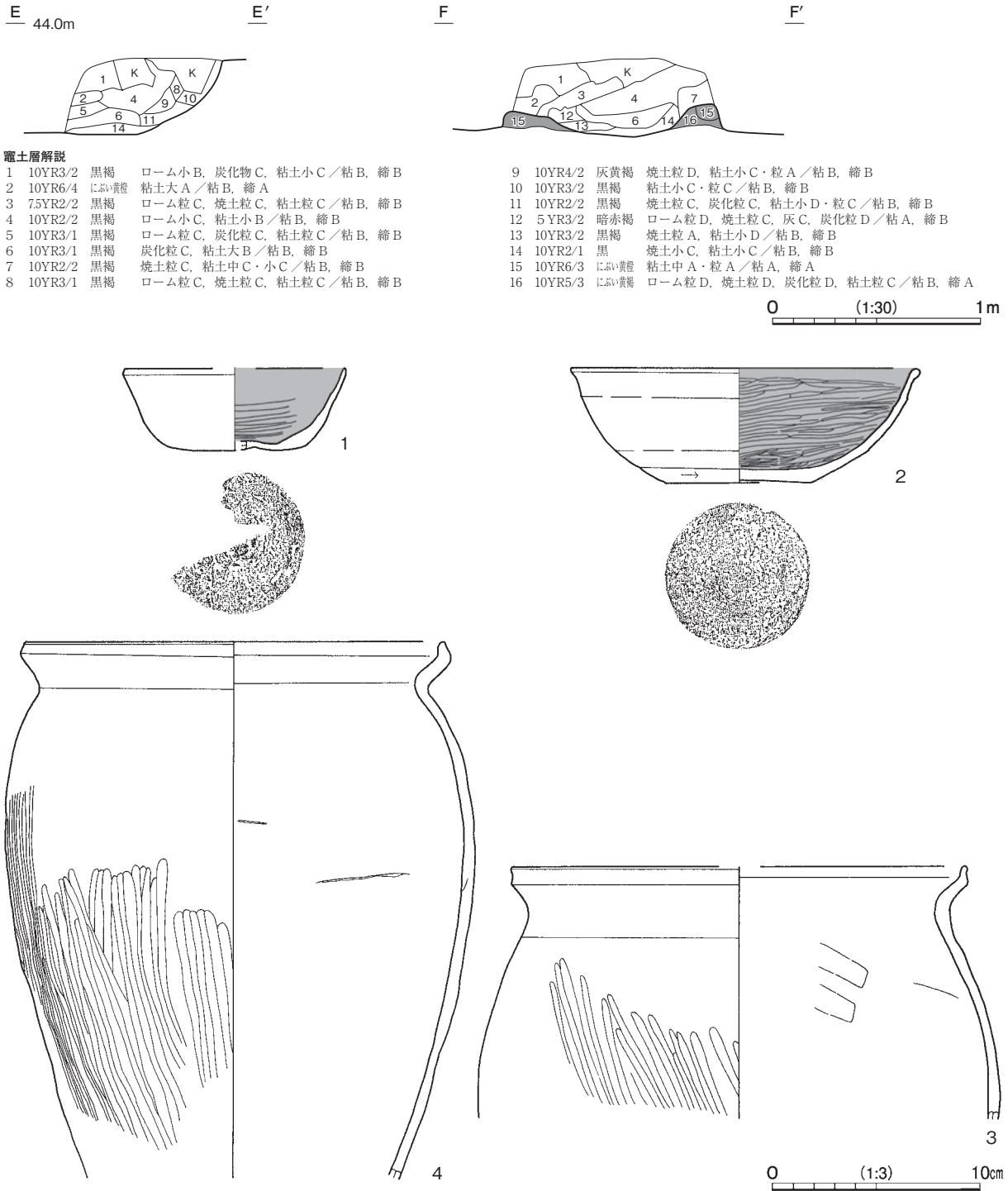
覆土 6 層に分層できる。攪乱によりロームブロックや粘土ブロックが含まれているが, レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師器片 53 点 (坏 6, 甕類 47), 須恵器片 5 点 (坏 2, 蓋 1, 甕類 2), 鉄滓 1 点 が出土している。3 は竈右袖側床面から, 4 は竈周辺の床面から覆土上層にかけて出土した破片が接合している。2 は北西コーナー部の覆土下層から, 1 は竈右袖部の覆土上層から出土している。



第 26 図 第 202 号 竪穴建物跡実測図

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第 27 図 第 202 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 10 表 第 202 号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[10.6]	4.0	[6.8]	長石・石英	明褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部内面ヘラ磨き	竈右袖部	40% PL27
2	土師器	坏	16.5	5.5	7.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 体部内面ヘラ磨き 体部下端・底部回転ヘラ削り	覆土下層	80% PL27
3	土師器	甕	[21.5]	(12.1)	-	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦位のヘラ磨き 内面ヘラナデ	床面	10% 外面煤付着
4	土師器	甕	20.1	(25.8)	-	長石・石英・赤色粒子・細礫	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦位のヘラ磨き 輪積み痕	床面 覆土上層	70% PL27

第 203 号竪穴建物跡 (第 28・29 図 PL 5)

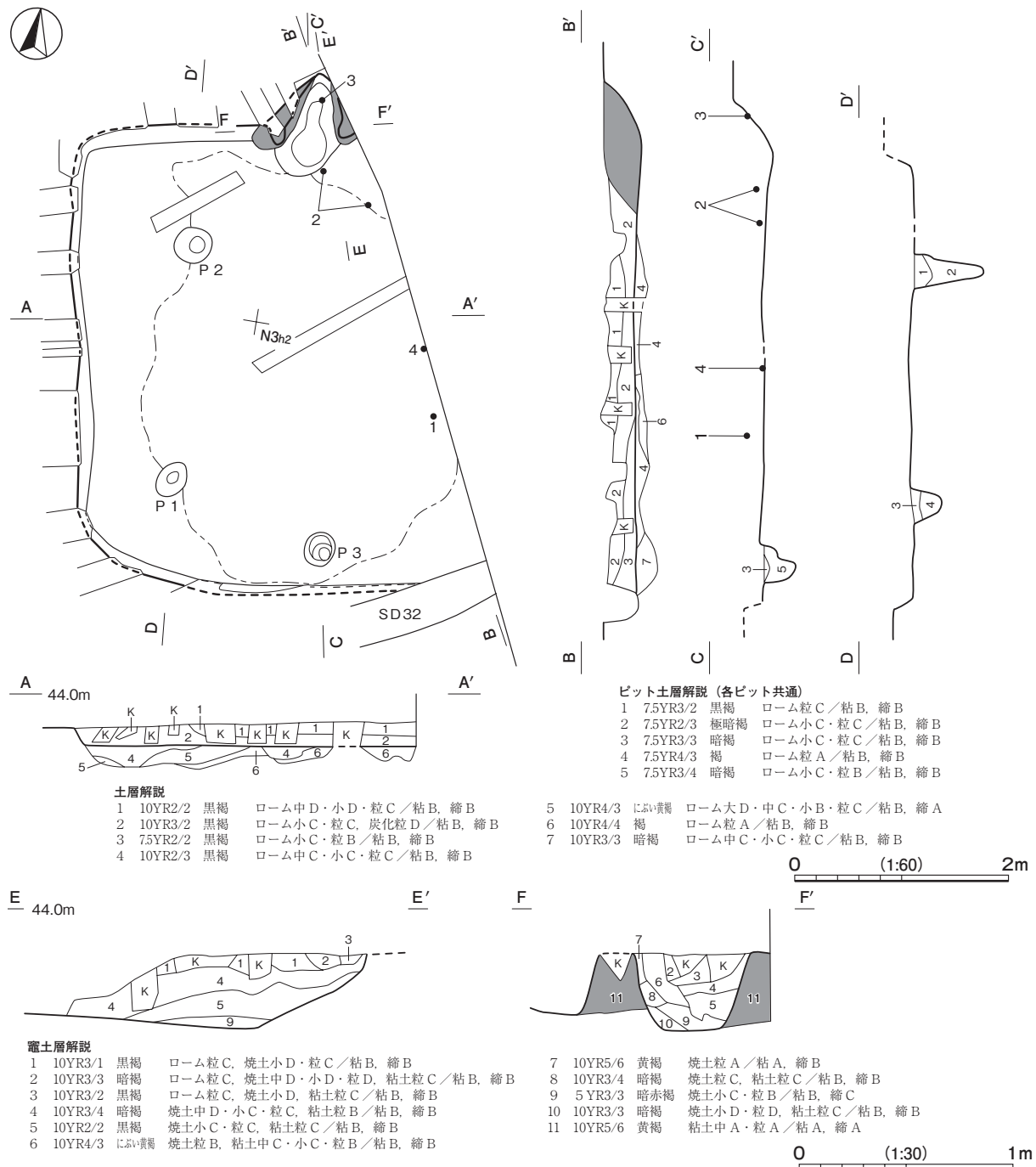
位置 C 区北部の N 3h2 区, 標高 44 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 32 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 東部が調査区域外のため, 南北軸は 4.40 m で, 東西軸は 3.60 m しか確認できなかった。主軸方向は N - 10° - W で, 方形または長方形と推定できる。壁は高さ 16 ~ 27 cm ほどで, ほぼ直立している。

床 平坦で, 柱穴から内側の中央部が踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第 4 ~ 7 層を埋土して構築されている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 98 cm で, 燃烧部幅は 44 cm である。袖部は地山を掘



第 28 図 第 203 号竪穴建物跡実測図

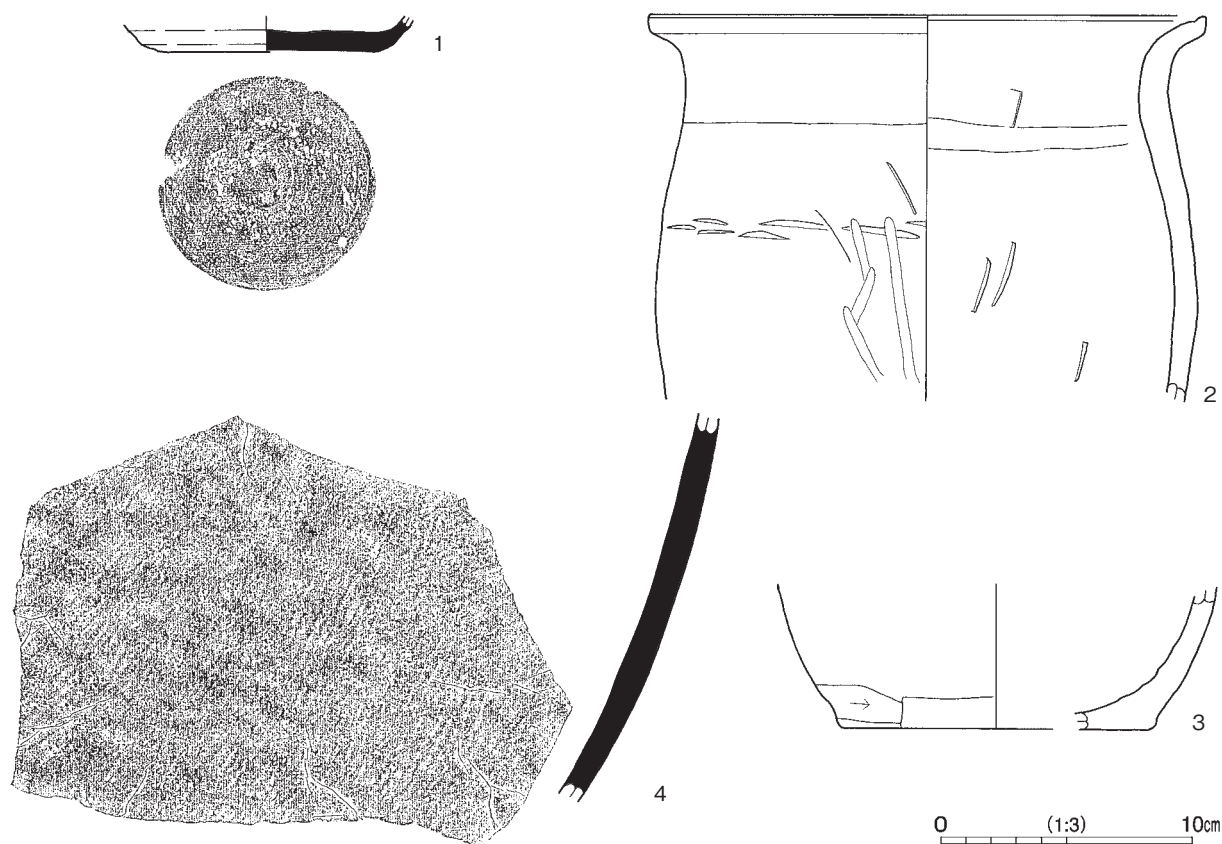
り下げ、粘土ブロックを含む第11層を積み上げて構築されている。火床面は赤変硬化していない。煙道部は壁外に45cm掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。

ピット 3か所。P1・P2は深さ28cm・64cmで、配置から支柱穴と考えられる。P3は深さ34cmで、竈に直面した南壁際に位置しており、出入口施設に伴うピットと考えられる。第1～5層は、柱材を抜き取った後の覆土である。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片71点（坏7，甕類64），須恵器片13点（坏6，甕類7），金属製品1点（刀子）が出土している。4は中央部東寄りの床面から，2は竈前の覆土下層から，1は中央部東寄りの覆土中層，3は竈内覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第29図 第203号竪穴建物跡出土遺物実測図

第11表 第203号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	-	(1.4)	8.6	長石・石英	灰白	不良	底部回転ヘラ削り後ナデ	覆土中層	20%
2	土師器	甕	21.8	(15.3)	-	長石・石英・細礫	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ磨き 内面ナデヘラ当て痕	覆土下層	20%
3	土師器	甕	-	(5.7)	[11.9]	長石・石英	にぶい褐	普通	体部下端ヘラ削り	竈内	10%
4	須恵器	甕	-	(15.2)	-	長石・石英	暗灰黄	普通	体部外面斜位の平行叩き ナデヘラ当て痕	床面	5%

第204号竪穴建物跡（第30～32図 PL5）

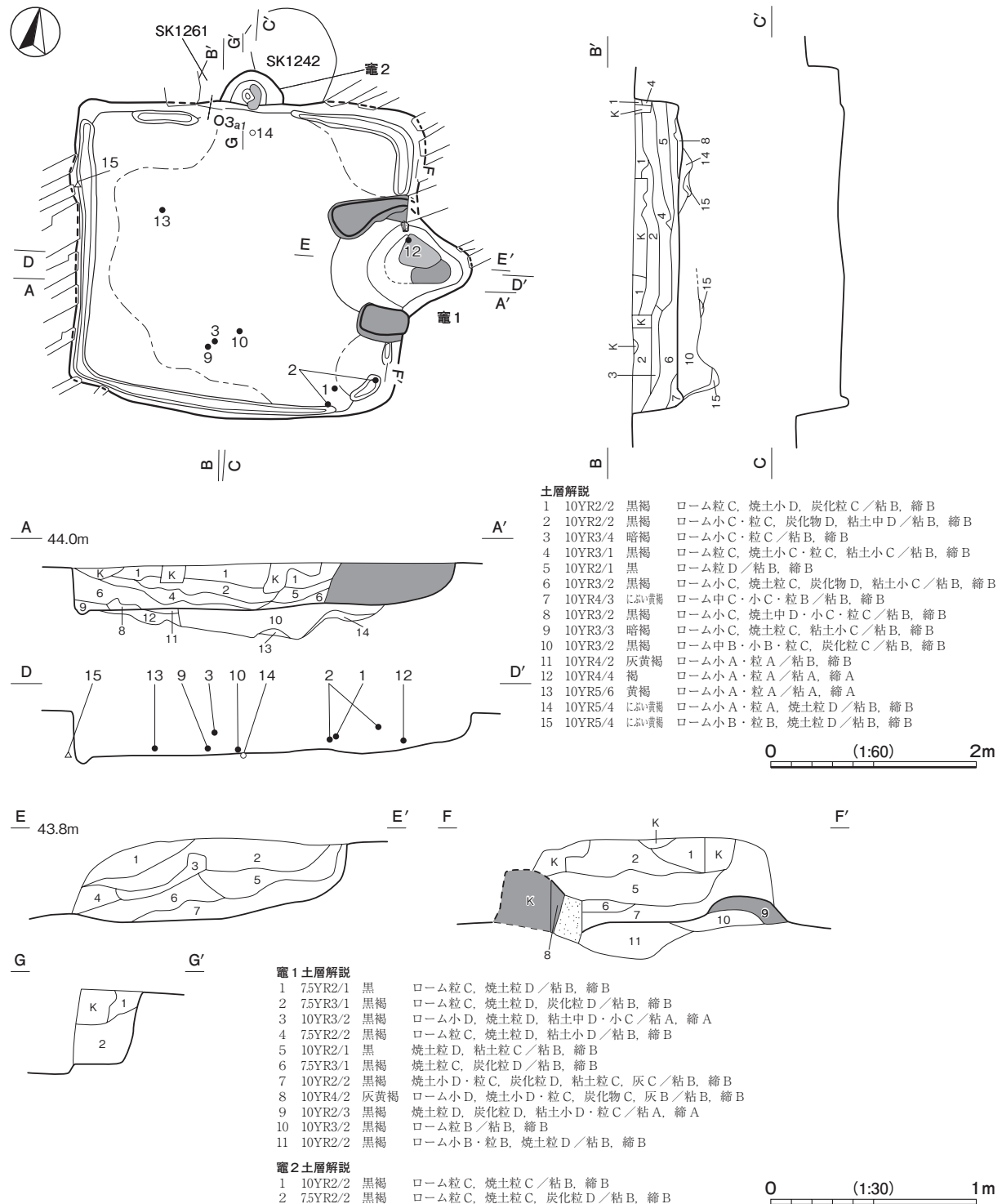
位置 C区北部のO3a1区，標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1242・1261号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 3.40 m, 短軸 3.08 m の長方形で, 主軸方向は N - 83° - E である。壁は高さ 44 cm で, ほぼ直立している。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。貼床はロームブロックや焼土粒子を含む第 10 ~ 15 層を埋土して構築されている。一部を除いて壁溝が巡っている。

竈 2か所。東壁に竈 1, 北壁に竈 2 を確認した。遺存状態から, 竈 2 から竈 1 へ作り替えたと考えられる。竈 1 は東壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 140 cm で, 燃焼部幅は 90 cm である。両袖



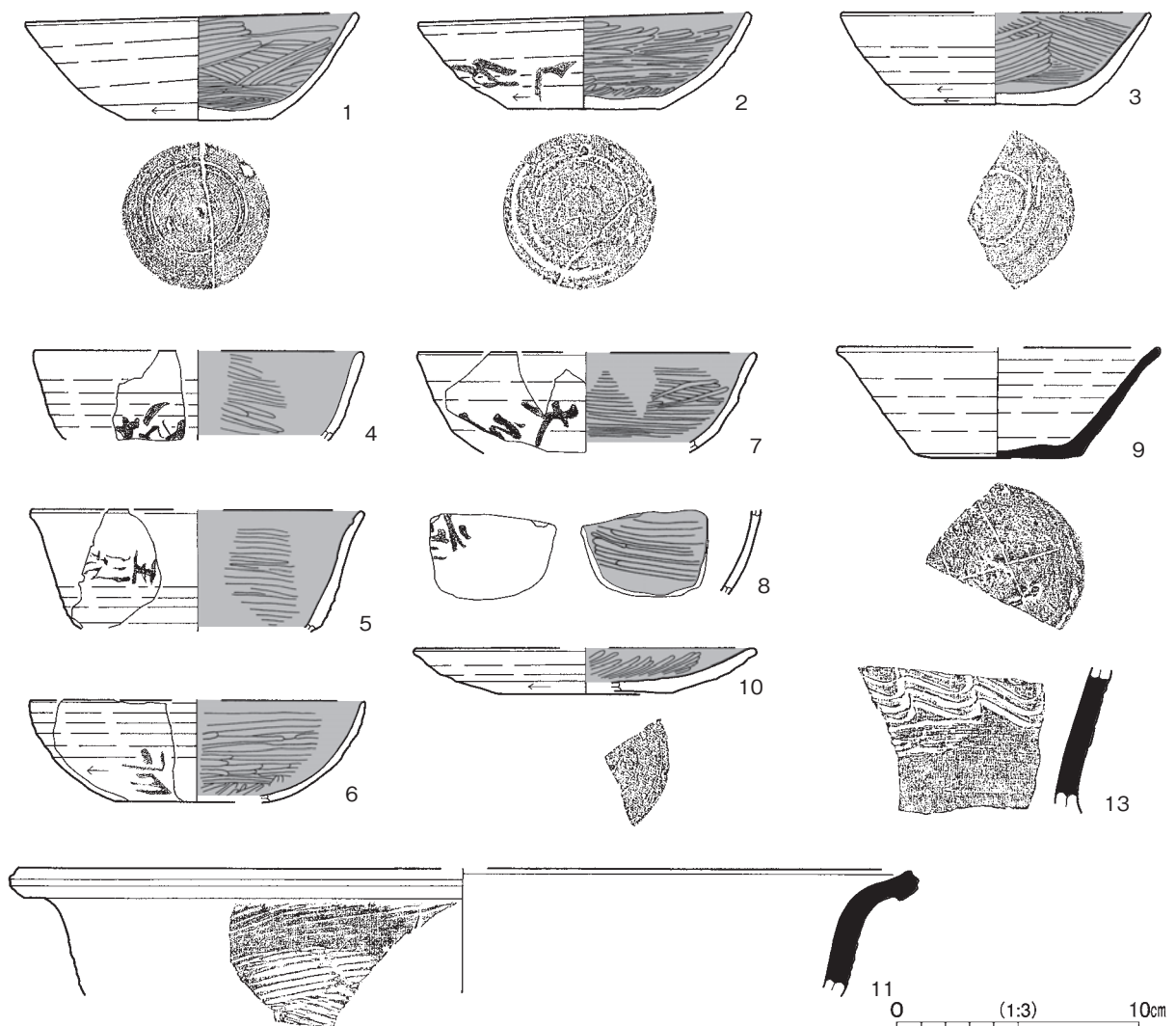
第 30 図 第 204 号 竪穴建物跡実測図

部は地山の上に、粘土ブロックや焼土粒子を含む第8・9層を積み上げ、左袖内側は補強材として凝灰質泥岩の切り石を使用している。第10・11層は掘方の埋土である。火床面は床面よりやや高い位置を使用し、赤変硬化している。煙道部は壁外に58cm掘り込まれ、火床面からほぼ直立している。竈2は北壁中央部に付設されている。確認できた規模は火床部から煙道部まで38cmである。袖部は整理されており、燃焼部幅は不明である。第1層は火熱を受けた天井部の一部が崩落した層と考えられる。火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に32cm掘り込まれ、火床面からほぼ直立している。

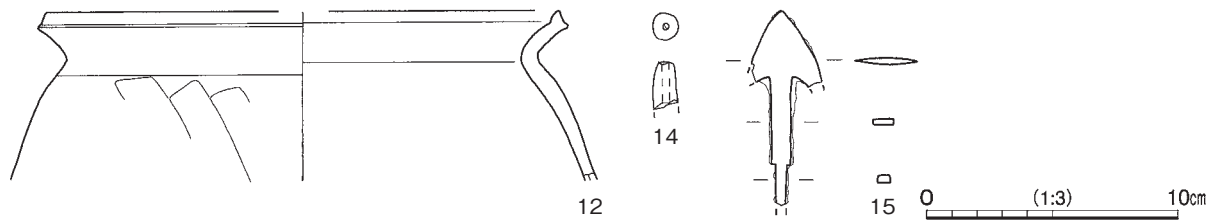
覆土 9層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子が含まれていることや不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片810点(坏135, 高台付坏5, 皿2, 甕類668), 須恵器片49点(坏22, 高台付坏1, 蓋3, 鉢1, 甕類22), 土製品1点(管状土錘), 金属製品2点(鉄鏃, 釘)が出土している。10は南部, 14は竈2寄り, 15は西壁際の床面から, 12は竈1の覆土下層から, 1は南東コーナー部, 9は南部, 13は西部の覆土下層から, 2は南東コーナー部の覆土下層から中層にかけて, 3は南部の覆土中層から, 4~8・11は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第31図 第204号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 32 図 第 204 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

第 12 表 第 204 号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
1	土師器	坏	13.5	4.4	6.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 体部下端・底部回転ヘラ削り	内面ヘラ磨き	覆土下層	100% PL27 外面煤付着
2	土師器	坏	13.4	4.1	6.2	長石・石英・赤色粒子	浅黄灰	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 体部下端・底部回転ヘラ削り	内面ヘラ磨き	覆土下層 覆土中層	90% PL27 墨書「□部」
3	土師器	坏	[12.6]	3.8	[6.6]	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 体部下端・底部回転ヘラ削り	内面ヘラ磨き	覆土中層	30%
4	土師器	坏	[13.4]	(3.7)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ	内面ヘラ磨き	覆土中	5% PL27 墨書「□」
5	土師器	坏	[13.5]	(5.0)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ	内面ヘラ磨き	覆土中	5% PL27 墨書「主川□」
6	土師器	坏	[13.7]	4.2	[6.4]	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 体部下端・底部回転ヘラ削り	内面ヘラ磨き	覆土中	10% PL27 墨書「□」
7	土師器	坏	[13.6]	(4.2)	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ	内面ヘラ磨き	覆土中	5% PL27 墨書「大□」
8	土師器	坏	-	(3.5)	-	長石・石英	灰黄褐	普通	内面ヘラ磨き		覆土中	5% PL27 墨書「□」
9	須恵器	坏	[13.0]	4.6	[7.0]	長石・石英	灰黄褐	普通	口縁部・体部外・内面ロクロナデ 体部下端・底部回転ヘラ削り 後ナデ	底部回転ヘラ削り	覆土下層	30% PL28 ヘラ記号「+」 木葉下窯
10	土師器	皿	[13.8]	1.9	[7.0]	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 体部下端・底部回転ヘラ削り	内面ヘラ磨き	床面	10%
11	須恵器	鉢	[36.5]	(5.2)	-	長石・石英	灰	普通	口縁部外・内面ロクロナデ 体部外面横位の平行叩き		覆土中	10% 新治窯
12	土師器	甕	[20.3]	(6.7)	-	長石・石英	褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラナデ		竈内	10%
13	須恵器	甕	-	(6.0)	-	長石・石英	褐灰	普通	頸部外面 3本 1組の櫛状工具による波状文		覆土下層	5% 木葉下窯

番号	器種	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
14	管状土鉢	(1.9)	10~11	0.2	(1.72)	長石・石英	明赤褐	外面ナデ 穿孔 片方欠損	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
15	鉢	(7.7)	(2.9)	0.3	(12.20)	鉄	鉢身部・関部一部欠損 茎部欠損 断面長方形	床面	PL44

第 205 号竪穴建物跡 (第 33 図 PL 6)

位置 C区北部のO3a2区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸2.65m、短軸2.56mの方形で、主軸方向はN-15°-Wである。壁は高さ16cmほどで、ほぼ直立している。

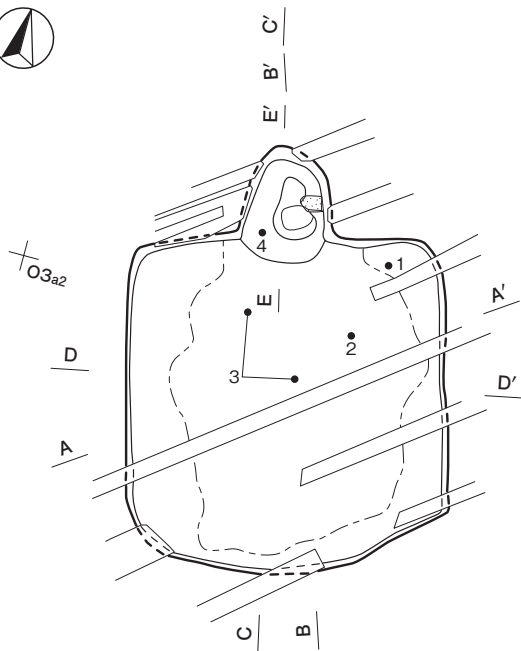
床 平坦で、中央部が踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第8~10層を10~14cmほど埋土して構築されている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで93cmである。袖部は遺存していないため、燃焼部幅は不明である。燃焼部で袖部の補強材である凝灰質泥岩の切り石を確認した。火床部は床面と同じ高さを使用している。火床面は赤変硬化していない。煙道部は壁外に70cm掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。

覆土 7層に分層できる。焼土粒子が含まれていることや不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

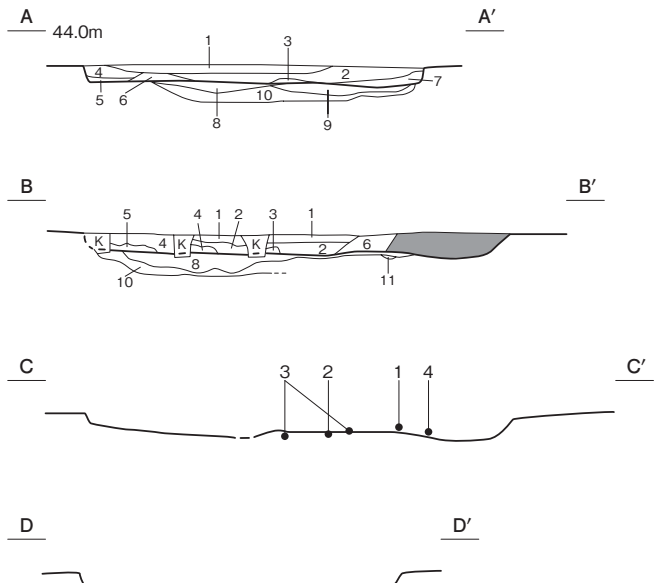
遺物出土状況 土師器片98点(坏17, 高台付坏2, 高台付皿1, 甕類78), 須恵器片7点(坏3, 甕類3, 甗1), 礫1点が出土している。4は竈内の底面から, 2・3は中央部の床面から, 1は北東コーナー部の覆土下層から出土している。

所見 時期は，出土土器から9世紀後葉と考えられる。



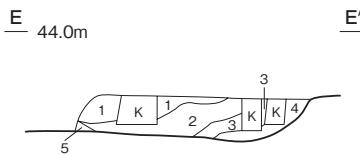
土層解説

- 1 75YR2/2 黒褐 ローム粒 D, 焼土粒 D / 粘 B, 縮 B
- 2 75YR3/1 黒褐 ローム粒 C, 焼土粒 D / 粘 B, 縮 B
- 3 75YR3/2 黒褐 ローム粒 C, 粘土小 D / 粘 B, 縮 B
- 4 75YR2/3 極暗褐 ローム粒 C, 粘土粒 D / 粘 B, 縮 B
- 5 75YR3/3 暗褐 ローム粒 C, 焼土粒 D / 粘 B, 縮 B



- 6 75YR3/1 黒褐 ローム粒 D, 焼土粒 D, 炭化粒 D / 粘 B, 縮 B
- 7 75YR2/2 黒褐 ローム粒 C, 焼土粒 D / 粘 B, 縮 B
- 8 75YR2/2 黒褐 ローム小 C・粒 D, 焼土粒 D / 粘 B, 縮 A
- 9 10YR2/1 黒 ローム小 C / 粘 B, 縮 B
- 10 75YR3/3 暗褐 ローム小 C・粒 C / 粘 B, 縮 B

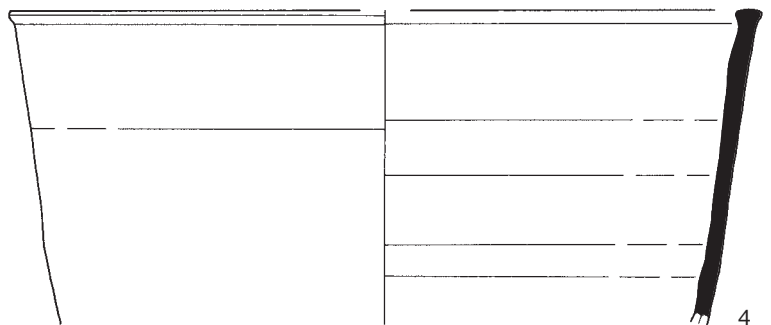
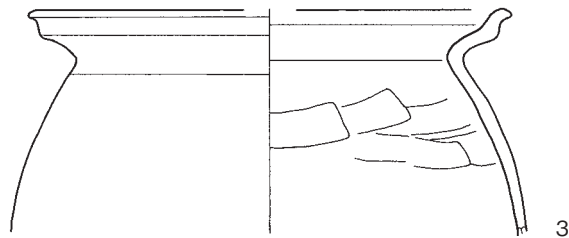
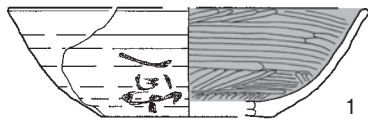
0 (1:60) 2m



竈土層解説

- 1 10YR2/2 黒褐 ローム小 D・粒 C, 焼土粒 D / 粘 B, 縮 B
- 2 5YR2/2 黒褐 焼土粒 B, 炭化粒 C / 粘 B, 縮 B
- 3 5YR2/2 黒褐 焼土粒 C, 炭化粒 D / 粘 B, 縮 B
- 4 10YR3/1 黒褐 焼土粒 D / 粘 B, 縮 B
- 5 10YR4/3 近い黄褐 ローム中 D・小 C・粒 B / 粘 B, 縮 B

0 (1:30) 1m



0 (1:3) 10cm

第 33 図 第 205 号 竪穴建物跡・出土遺物実測図

第13表 第205号竪穴建物跡出土遺物一覧

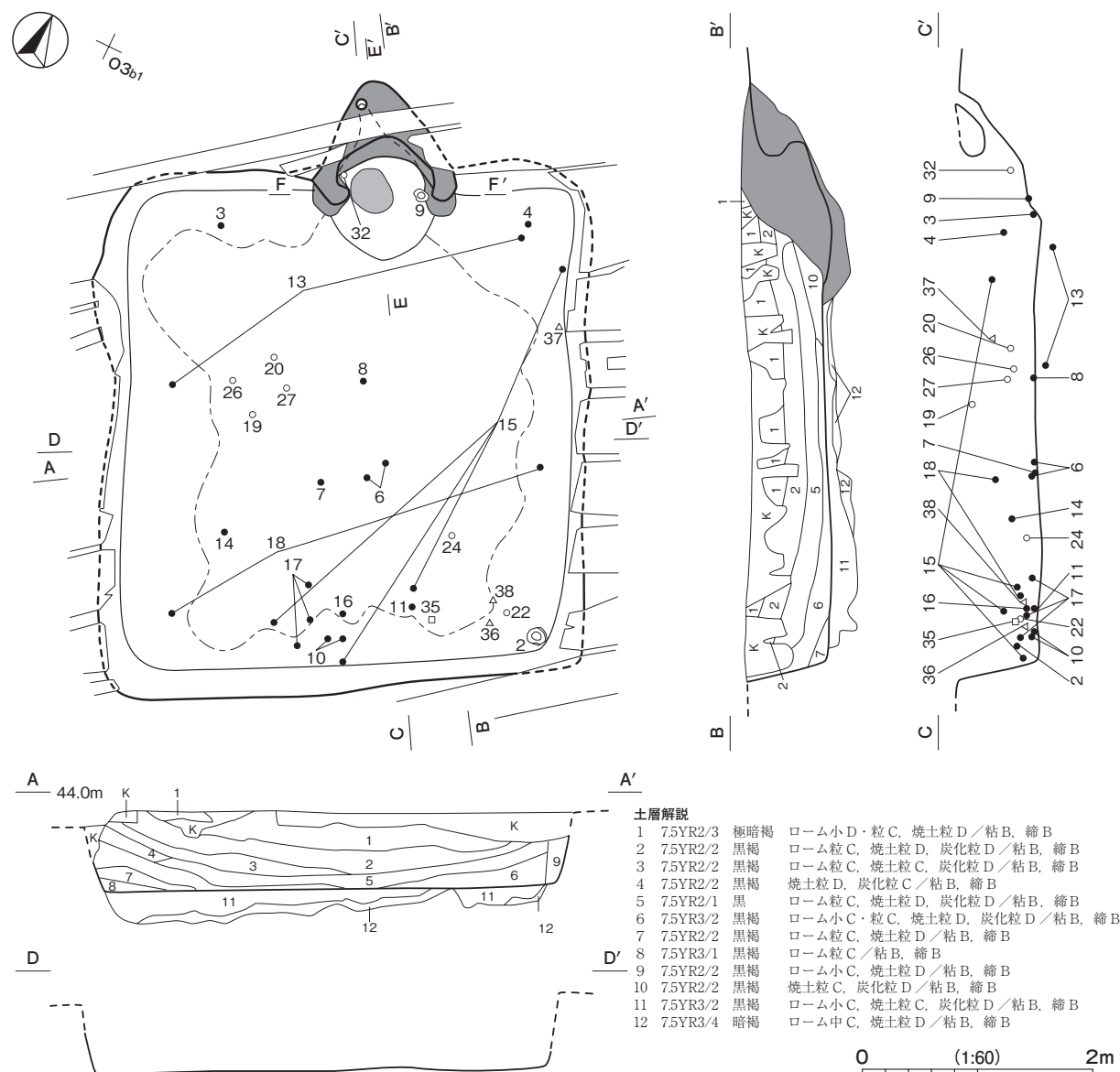
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[14.0]	4.3	[6.8]	長石・石英・赤色粒子・細礫	橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	覆土下層	20% PL28 墨書「富」
2	土師器	高台付皿	[13.8]	2.3	6.5	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ロクロナデ 内面縦位のヘラ磨き 底部回転ヘラ削り後高台貼付け	床面	60% PL28
3	土師器	甕	[18.5]	(8.9)	-	長石・石英・細礫	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部内面ヘラナデ	床面	20%
4	須恵器	甌	[29.6]	(12.5)	-	長石・石英	暗灰黄	普通	体部外・内面ロクロナデ	竈内	5% 木葉下窯

第206号竪穴建物跡 (第34～37図 PL6)

位置 C区北部のO3b1区, 標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸4.56m, 短軸4.20mの方形で, 主軸方向はN-17°-Wである。壁は高さ62~72cmで, ほぼ直立している。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。貼床はロームブロックや焼土粒子を含む第11・12層を18~28cm埋土して構築されている。



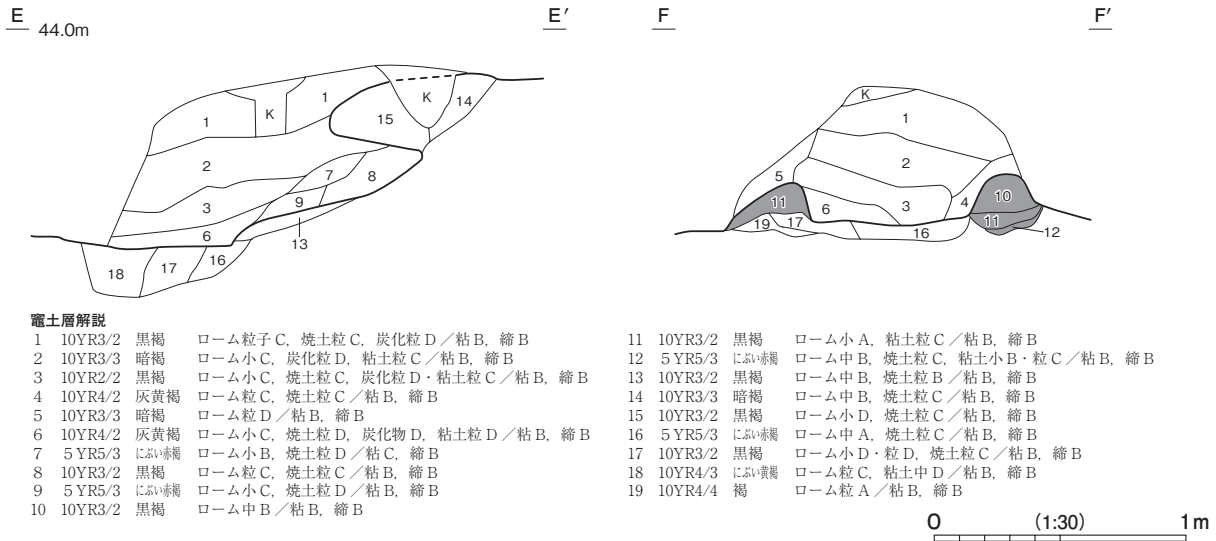
第34図 第206号竪穴建物跡実測図(1)

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで150cmで、燃焼部幅は68cmである。両袖部はロームブロックや粘土ブロックを含む第10～12層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形で15cmほど掘りくぼめ、ロームブロックを含む第16～18層を埋土している。火床面は第16・17層上面で、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に85cm掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。

覆土 10層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片694点(坏39, 椀2, 甕類652, 甑1), 須恵器片158点(坏112, 高台付坏5, 蓋8, 盤1, 鉢1, 短頸壺3, 長頸壺2, 小型甕1, 甕類25), 陶器片2点(皿, 甕), 土製品16点(管状土錘), 石器1点(砥石), 金属製品8点(刀子6, 釘1, 不明鉄製品1), 礫4点が出土している。3は北西コーナー部, 6～8は中央部, 10・11は南部の床面から, 9・32は竈内から, 2・22・36・38は南東コーナー部, 16・17・24・35は南部の覆土下層から, 15・18は北東部と南西部の覆土下層から覆土中層にかけて, 4・37は北東コーナー部, 14・20・26・27は中央部の覆土中層から, 19は中央部の覆土上層から, 13は掘方の埋土から出土している。1・5・12・21・23・25・28～31・33・34は覆土中から出土している。

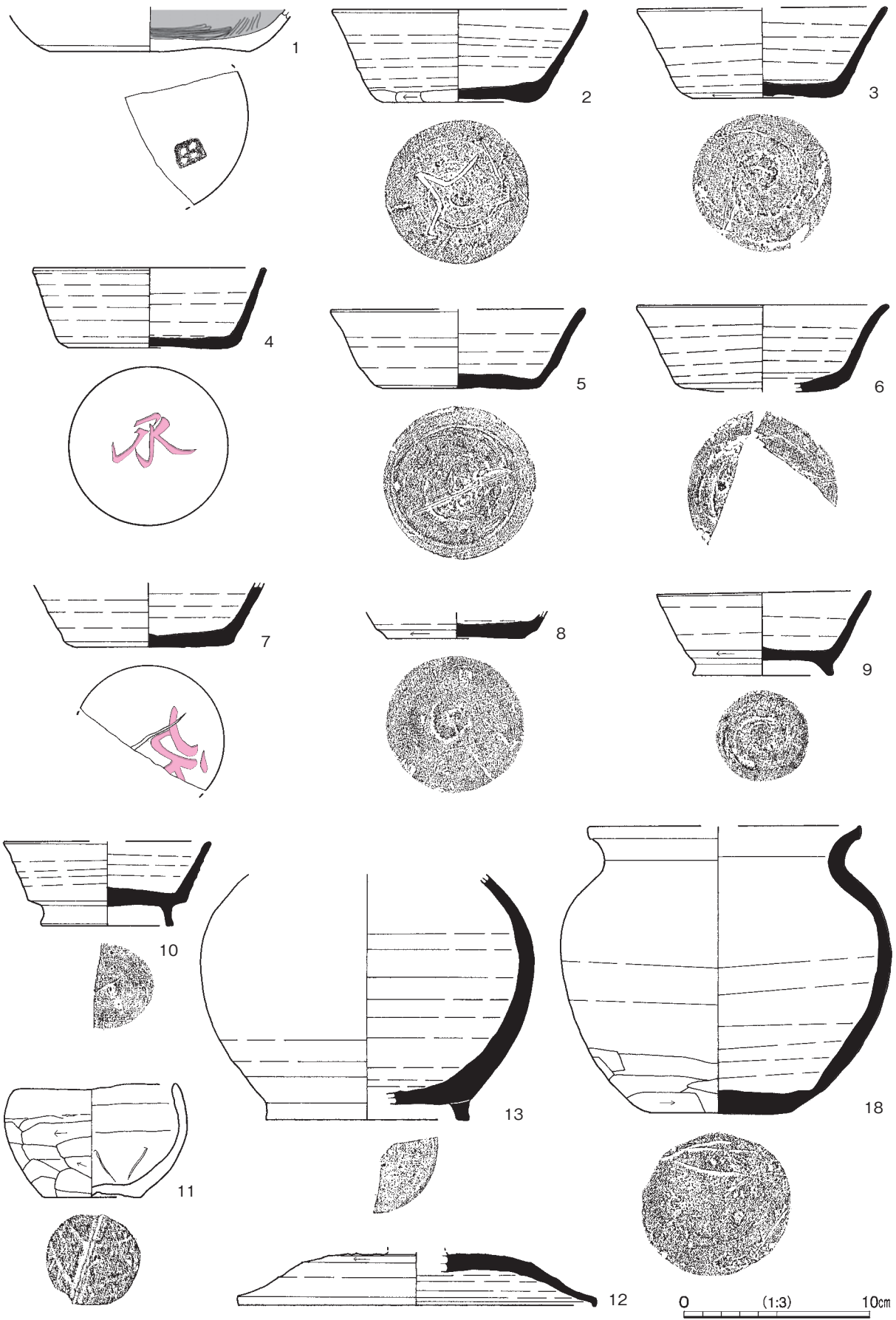
所見 時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。



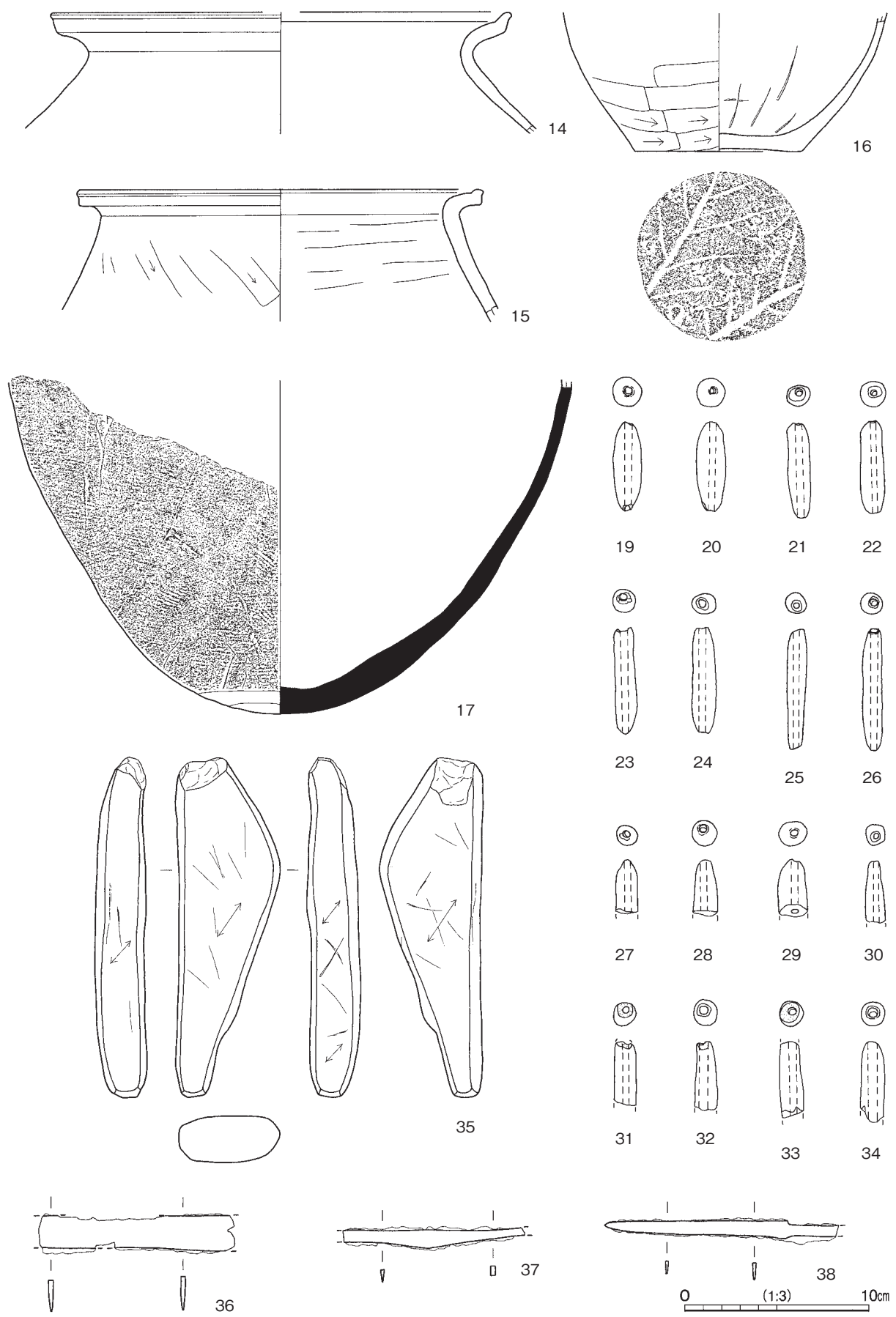
第35図 第206号竪穴建物跡実測図(2)

第14表 第206号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	-	(24)	[10.8]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	覆土中	10% PL28 墨書「田」
2	須恵器	坏	13.5	5.0	7.9	長石・石英	黄灰	普通	口縁部・体部外・内面ロクロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り	覆土下層	90% PL28 ヘラ記号「+」木葉下窯
3	須恵器	坏	[13.3]	4.9	7.4	長石・石英・黒色粒子・細礫	灰	普通	口縁部・体部外・内面ロクロナデ 体部下端・底部回転ヘラ削り	床面	70% PL28 ヘラ記号「+」木葉下窯
4	須恵器	坏	12.4	4.3	8.6	長石・石英・赤色粒子	灰	普通	口縁部・体部外・内面ロクロナデ 体部下端・底部回転ヘラ削り	覆土中層	70% PL28 朱書「永」木葉下窯
5	須恵器	坏	[13.6]	4.3	8.3	長石・石英・針状物質	灰	普通	口縁部・体部外・内面ロクロナデ 体部下端・底部回転ヘラ削り	覆土中	50% PL29 ヘラ記号「-」木葉下窯
6	須恵器	坏	13.4	(4.7)	8.2	長石・石英・黒色粒子・針状物質・細礫	灰	普通	口縁部・体部外・内面ロクロナデ 体部下端・底部回転ヘラ削り	床面	60% PL29 木葉下窯
7	須恵器	坏	-	(3.5)	8.2	長石・石英・針状物質	灰	普通	体部外・内面ロクロナデ 体部下端・底部回転ヘラ削り	床面	30% PL29 朱書「永」木葉下窯ヘラ記号「~」
8	須恵器	坏	-	(1.4)	7.4	長石・石英	灰褐	普通	体部外・内面ロクロナデ 体部下端・底部回転ヘラ削り	床面	20% PL29 ヘラ記号「+」木葉下窯
9	須恵器	高台付坏	11.4	4.6	7.2	長石・石英	灰	普通	口縁部・体部外・内面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り後高台貼付け	竈内	90% PL29
10	須恵器	高台付坏	[11.0]	4.6	7.1	長石・石英・黒色粒子・細礫	褐灰	良好	口縁部・体部外・内面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り後高台貼付け	床面	50% PL29



第36图 第206号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 37 图 第 206 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (2)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
11	土師器	椀	8.6	6.1	5.2	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へら削り 内面へらナデ へら当て痕 底部木葉痕	床面	100% PL29
12	須恵器	蓋	[19.1]	(2.9)	-	長石・石英	褐灰	普通	天井部回転へら削り	覆土中	20% 木葉下窯
13	須恵器	長頸壺	-	(13.3)	[10.9]	長石・石英・細礫	黄灰	普通	体部外・内面口クロナデ 底部回転へら削り後 高台貼付け	掘方埋土	20% 木葉下窯
14	土師器	甕	[24.6]	(6.6)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	覆土中層	5%
15	土師器	甕	21.7	(7.2)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へら削り 内面へらナデ	覆土下層 覆土中層	5%
16	土師器	甕	-	(7.5)	9.3	長石・石英・細礫	にぶい褐	普通	体部外面へら削り 内面へら当て痕 底部木葉痕	覆土下層	10%
17	須恵器	甕	-	(18.1)	-	長石・石英	灰	普通	体部外面横位の平行叩き 内面当て痕	覆土下層	40%
18	須恵器	小型甕	[14.5]	15.5	8.0	長石・石英	褐灰	普通	体部外・内面口クロナデ 体部下端手持ちへら削り 底部ナデ	覆土下層 覆土中層	80% PL29

番号	器 種	長さ	径	孔径	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
19	管状土錘	4.9	1.5~1.6	0.4	(11.87)	長石・石英	明赤褐	外面ナデ 穿孔	覆土上層	PL41
20	管状土錘	4.9	1.5~1.6	0.4	(12.34)	長石・石英・細礫	橙	外面ナデ 穿孔	覆土中層	PL41
21	管状土錘	5.1	1.2~1.3	0.4	(6.79)	長石・石英	浅黄橙	外面ナデ 穿孔	覆土中	PL41
22	管状土錘	5.0	1.4	0.3	10.27	長石・石英	にぶい橙	外面ナデ 穿孔	覆土下層	PL41
23	管状土錘	5.8	1.2	0.3~0.4	(7.05)	長石・石英	浅黄橙	外面ナデ 穿孔	覆土中	PL41
24	管状土錘	5.7	1.1~1.3	0.4	7.83	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	外面ナデ 穿孔	覆土下層	PL41
25	管状土錘	6.6	1.1	0.3	6.35	長石・石英	浅黄橙	外面ナデ 穿孔	覆土中	PL41
26	管状土錘	6.6	1.1~1.2	0.3~0.4	6.88	長石・石英	浅黄橙	外面ナデ 穿孔	覆土中層	PL41
27	管状土錘	(3.0)	1.1~1.2	0.4	(3.35)	長石・石英	にぶい黄橙	外面ナデ 穿孔 片方欠損	覆土中層	
28	管状土錘	(3.1)	1.3~1.4	0.4	(6.35)	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	外面ナデ 穿孔 片方欠損	覆土中	
29	管状土錘	(3.1)	1.3~1.6	0.4	(5.14)	長石・石英	明赤褐	外面ナデ 穿孔 片方欠損	覆土中	
30	管状土錘	(3.4)	1.1	0.3	(3.88)	長石・石英	橙	外面ナデ 穿孔 片方欠損	覆土中	
31	管状土錘	(3.5)	1.2~1.3	0.3	(4.67)	長石・石英	浅黄橙	外面ナデ 穿孔 両方欠損	覆土中	
32	管状土錘	(3.8)	1.3~1.4	0.5	(5.30)	長石・石英	赤褐	外面ナデ 穿孔 片方欠損	竈内	
33	管状土錘	(4.1)	1.3	0.4	(6.23)	長石・石英	浅黄橙	外面ナデ 穿孔 両方欠損	覆土中	
34	管状土錘	(4.4)	1.3	0.5	(6.48)	長石・石英	にぶい黄橙	外面ナデ 穿孔 片方欠損	覆土中	

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
35	砥石	18.5	5.7	2.8	359.88	硬砂岩	砥面4面 浅いくぼみに研き痕 敲石を転用	覆土下層	

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
36	刀子	(10.7)	2.0	0.2	(21.49)	鉄	刃部先端部欠損 茎部欠損 刃部断面三角形	覆土下層	PL44
37	刀子	(9.9)	1.2	0.3	(8.78)	鉄	刃部先端部欠損 茎部欠損 刃部断面三角形	覆土中層	PL44
38	刀子	(12.7)	1.0	0.2	(12.16)	鉄	茎部欠損 刃部断面三角形	覆土下層	PL44

第 207 号 竪穴建物跡 (第 38 図 PL 6)

位置 C区北部のO3b4区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1240・1241号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東部が調査区域外である。北西部は攪乱を受け、遺存状態が良好ではないが、竈や一部の壁の確認状況から、長軸2.90m、短軸2.75mの方形で、主軸方向はN-35°-Wである。壁は高さ21cmほどで、外傾している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。貼床はロームブロックや炭化粒子を含む第7～11層を10～20cmほど埋土して構築されている。

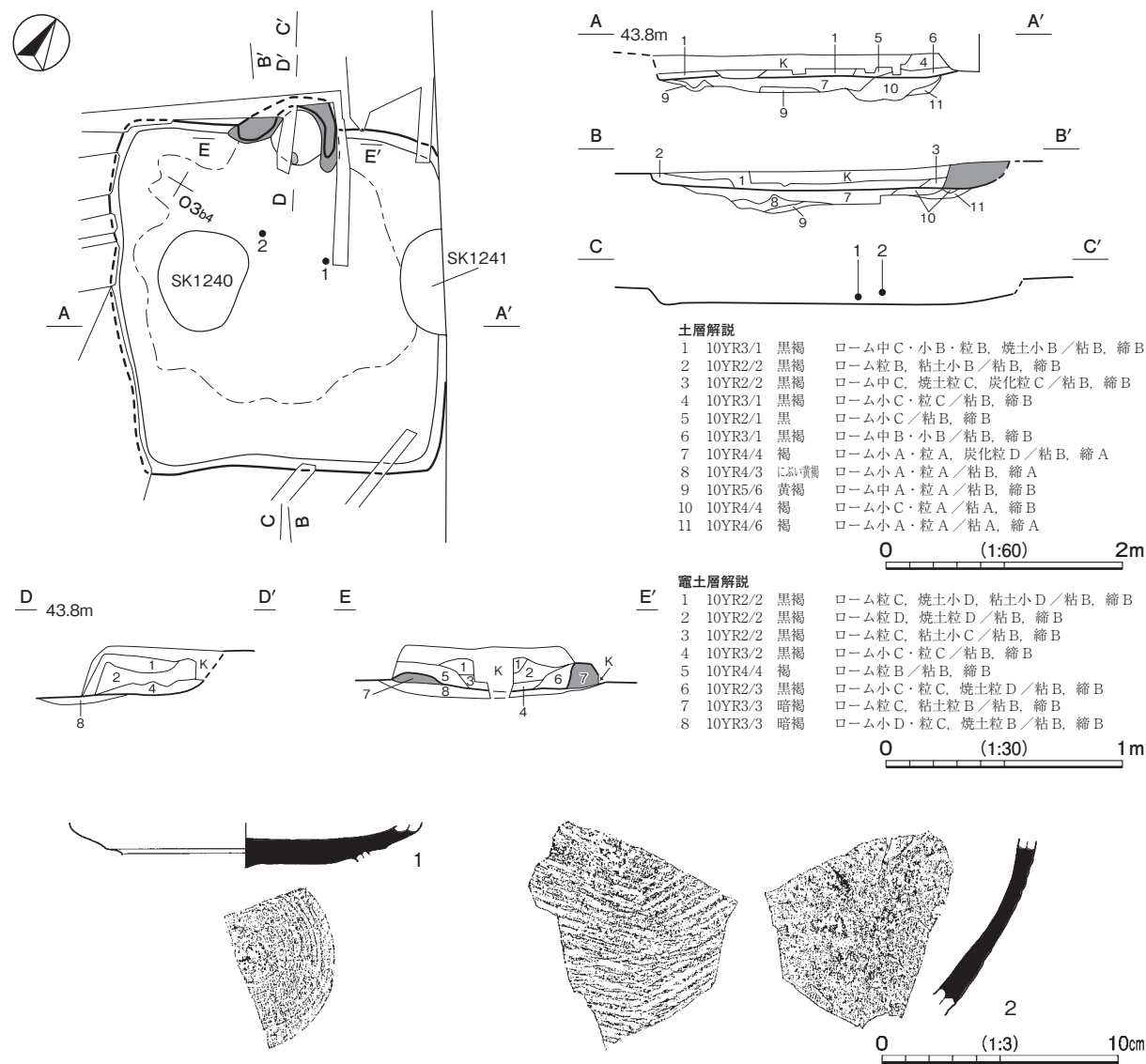
竈 北壁中央部に付設されている。確認できた規模は焚口部から煙道部まで50cmで、燃烧部幅は40cmである。袖部は地山を浅く掘り下げ、その上にローム粒子や粘土粒子を含む第7層を積み上げて構築されている。火床

部は楕円形で床面から10cm掘りくぼめ、ロームブロックや焼土粒子を含む第8層を埋土している。火床面は第8層上面で、火熱を受けて一部赤変硬化している。確認できた煙道部は壁外に25cm掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。

覆土 6層に分層できる。ロームブロックが含まれていることや不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片50点(坏3, 甕類47), 須恵器片16点(坏8, 盤1, 短頸壺1, 甕類6), 鉄滓1点が出土している。1は中央部の竈寄り覆土下層から, 2は中央部の竈寄りの覆土中層から出土している。

所見 時期は, 出土土器や隣接する竪穴建物跡と主軸方向がほぼ一致することなどから9世紀代と考えられる。



第38図 第207号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第15表 第207号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	盤	-	(2.0)	-	長石・石英	灰	普通	体部外・内面ロクロナデ 高台欠損	覆土下層	5%
2	須恵器	甕	-	(7.5)	-	長石・石英	黄灰	普通	体部外面斜位の平行叩き 内面ヘラ当て痕	覆土下層	5%

第 208 号竪穴建物跡 (第 39 図)

位置 C区北部のO2f6区, 標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

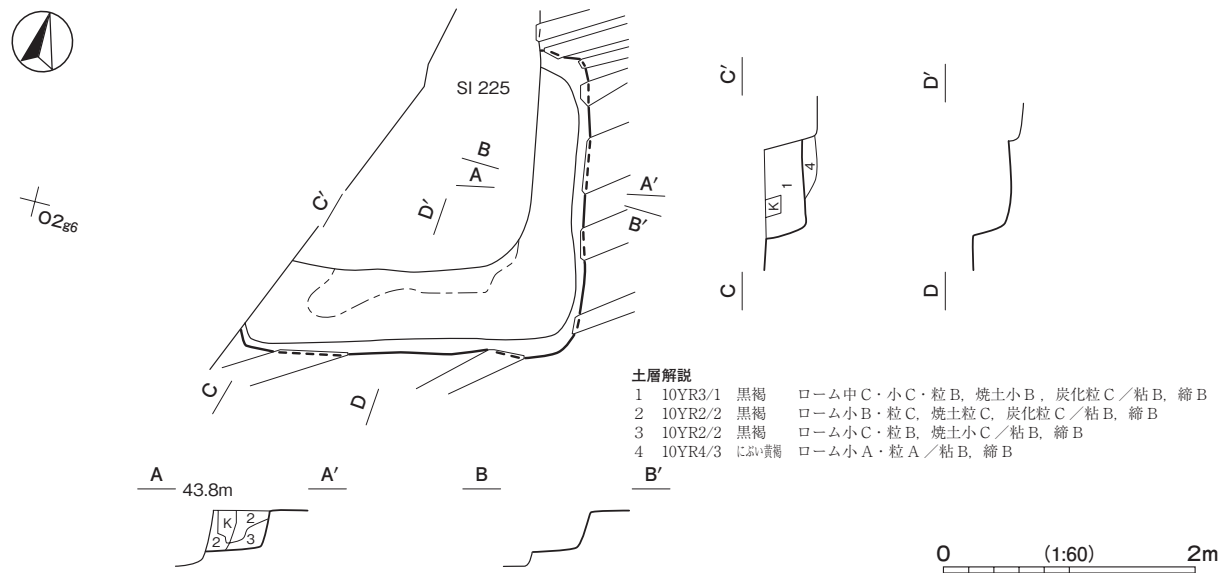
重複関係 第225号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 竪穴建物に掘り込まれ, 北西部が調査区域外のため, 南北軸2.45m, 東西軸2.64mしか確認できなかった。主軸方向はN-14°-Wで方形と推定できる。壁は高さ28cmほどで, ほぼ直立している。

床 平坦で, 南部が踏み固められている。貼床は地山を15cmほど掘り下げ, ロームブロックやローム粒子を含む第4層を埋土して構築されている。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子が多く含まれていることから, 埋め戻されている。

所見 時期は, 遺物は出土していないが, 9世紀後葉の第225号竪穴建物に掘り込まれていることから, それ以前のものと考えられる。



第 39 図 第 208 号竪穴建物跡実測図

第 209 号竪穴建物跡 (第 40・41 図 PL 6)

位置 C区北部のO3d3区, 標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 攪乱を受け, 遺存状態が良好ではない。長軸3.39m, 短軸3.17mの方形で, 主軸方向はN-16°-Wである。壁は高さ46~50cmで, ほぼ直立している。

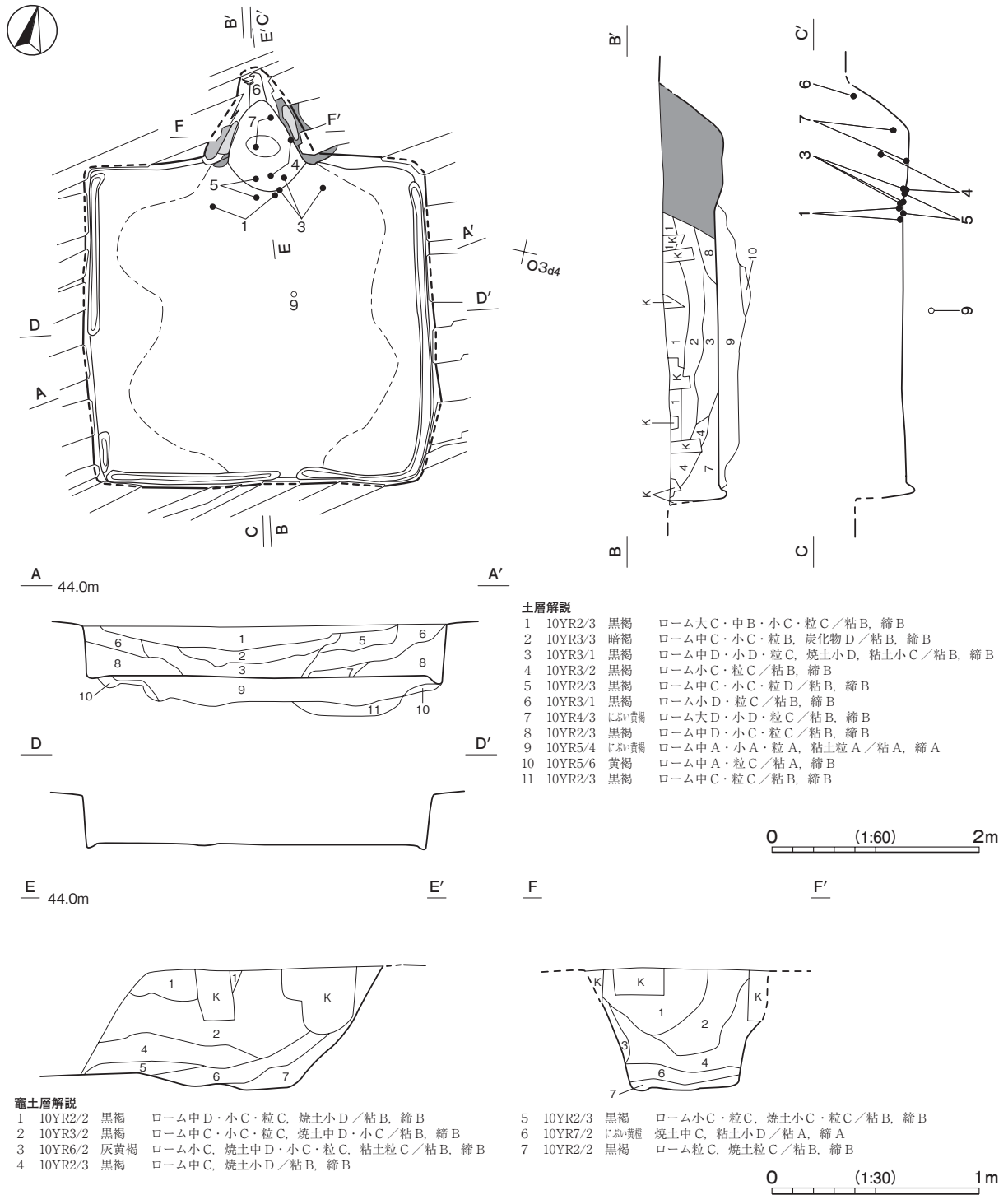
床 平坦で, 中央部が踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第9~11層を18~38cmほど埋土して構築されている。北壁と西壁の一部を除いて壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。攪乱を受けているため, 確認できた規模は焚口部から煙道部まで120cmで, 燃焼部幅は65cmである。両袖部はわずかに遺存している。火床部は床面とほぼ同じ高さで, 火床面は床面をわずかに掘りくぼめて使用し, 赤変硬化していない。確認できた煙道部は壁外に90cmほど掘り込まれ, 火床面から外傾して立ち上がっている。

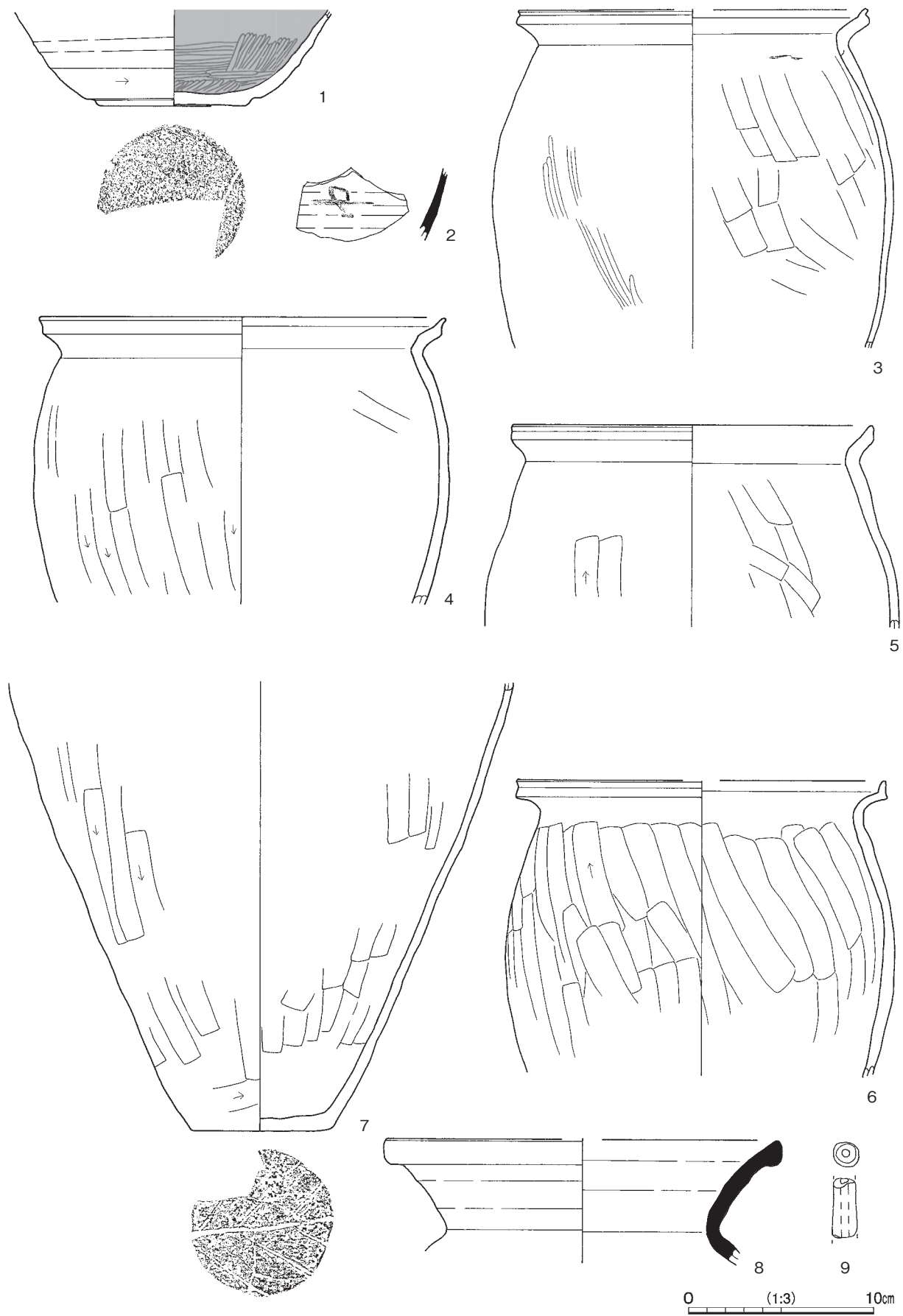
覆土 8層に分層できる。レンズ状に堆積していることから, 自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片 343 点 (坏 37, 甕類 305, 甑 1), 須恵器片 59 点 (坏 37, 蓋 2, 短頸壺 1, 長頸瓶 2, 甕類 17), 陶器片 1 点 (壺), 土製品 1 点 (管状土錘), 金属製品 2 点 (刀子, 釘), 礫 1 点が出土している。1・3・5 は竈寄りの床面から, 7 は竈内の覆土下層と火床部の底面から, 4 は竈内の覆土中層と火床部の底面から出土した遺物が接合したものである。6 は竈内の覆土上層から, 9 は中央部の掘方の埋土から, 2・8 は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から 9 世紀後葉と考えられる。



第 40 図 第 209 号竪穴建物跡実測図



第41图 第209号竖穴建物跡出土遺物実測図

第 16 表 第 209 号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	-	(5.2)	7.8	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き	床面	40%
2	須恵器	坏	-	(4.0)	-	長石・石英	灰黄	普通	体部外・内面ロクロナデ	覆土中	5% PL30 墨書 [中] 木葉下蓋
3	土師器	甕	[18.6]	(18.3)	-	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦位のヘラ磨き 内面ヘラナデ 輪積み痕	床面	30%
4	土師器	甕	21.7	(15.5)	-	長石・石英・ 赤色粒子・細礫	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 内面ヘラナデ	竈内	40%
5	土師器	甕	19.3	(10.9)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 内面ヘラナデ	床面	10% 外・内面煤付着
6	土師器	甕	[19.6]	(16.0)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内 面ヘラナデ	竈内	10% 外・内面煤付着
7	土師器	甕	-	(24.3)	7.6	長石・石英	黒褐	普通	体部外面縦位のヘラ削り 内面ヘラナデ 底部 木葉痕	竈内	20% 外面煤付着
8	須恵器	甕	[21.0]	(6.7)	-	長石・石英・ 雲母	灰黄褐	普通	口縁部外・内面ロクロナデ	覆土中	5%

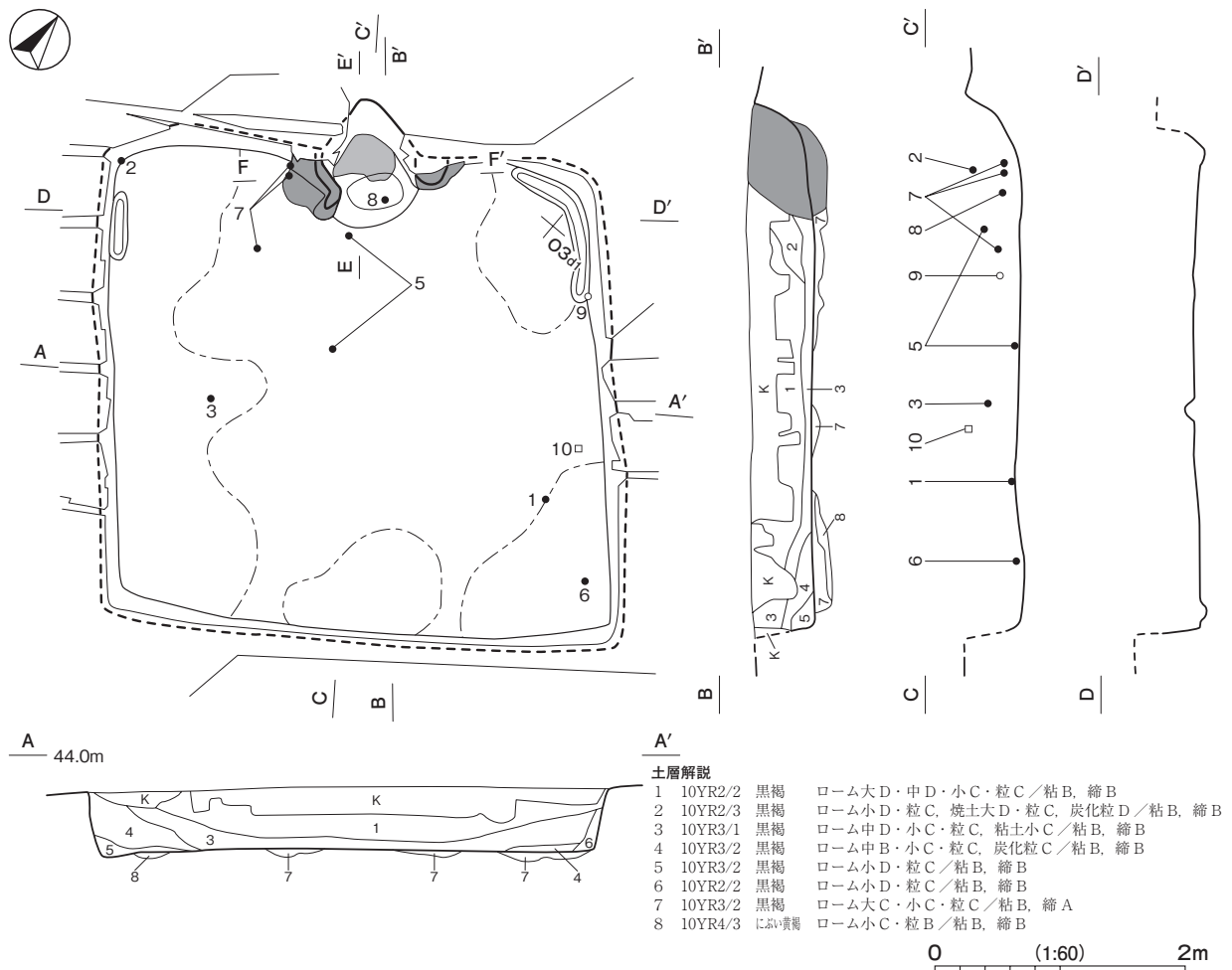
番号	器種	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
9	管状土錘	(3.2)	13~14	0.4	(5.93)	長石・石英	にぶい赤褐	外面ナデ 穿孔 両方欠損	掘方埋土	

第 210 号竪穴建物跡 (第 42 ~ 45 図 PL 7)

位置 C 区北部の O 2d0 区, 標高 44 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 攪乱を受け, 遺存状態は良好ではない。残存している竈や壁の確認状況から, 長軸 4.12 m, 短軸 4.04 m の方形で, 主軸方向は N - 41° - W である。壁は高さ 50 cm で, ほぼ直立している。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第 7・8 層を 8 ~ 18 cm ほど埋土し



第 42 図 第 210 号竪穴建物跡実測図 (1)

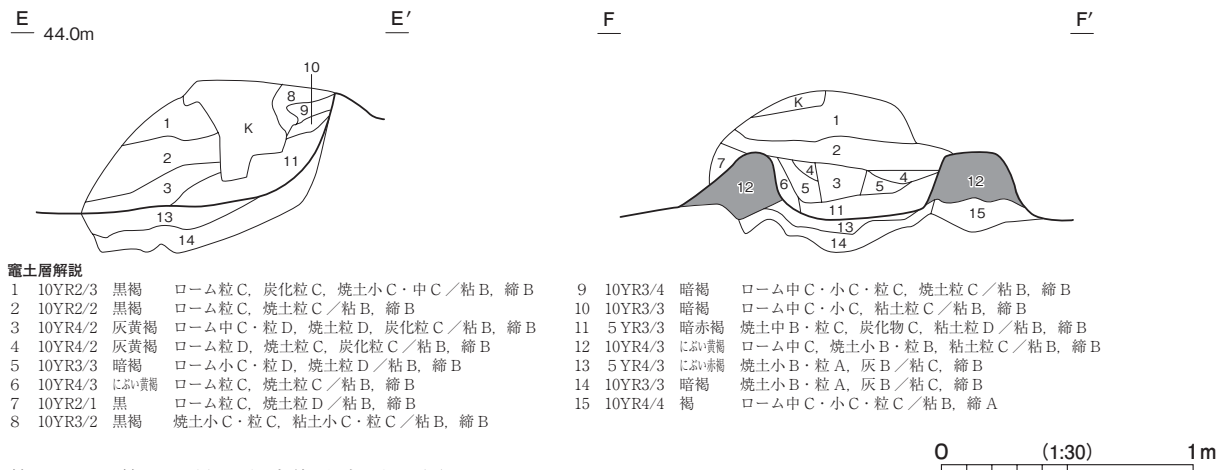
て構築されている。壁溝は北東コーナー部と西壁の一部に巡っている。

竈 北西壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで104cmで、燃焼部幅は60cmである。袖部は地山を浅く掘りくぼめ、第13～15層を埋土して整地した後、ロームブロックや粘土粒子を含む第12層を積み上げて構築されている。火床面は第13層上面で、赤変硬化している。煙道部は壁外に45cm掘り込まれ、火床面から外傾している。

覆土 6層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子・炭化粒子が含まれているが、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師器片217点（坏6，蓋1，甕類210），須恵器片87点（坏41，蓋4，短頸壺7，甕類35），陶器片1点（皿），土製品1点（管状土錘），石器3点（砥石）が出土している。1は東部の床面から、6は東コーナー部、7は竈左袖寄り、8は竈内、9は北東壁際の覆土下層から出土している。5は中央部の床面と竈前の覆土中層から出土した破片が接合したものである。3は西部の覆土中層から、2は西コーナー部、10は北東壁寄りの覆土上層から、4は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。



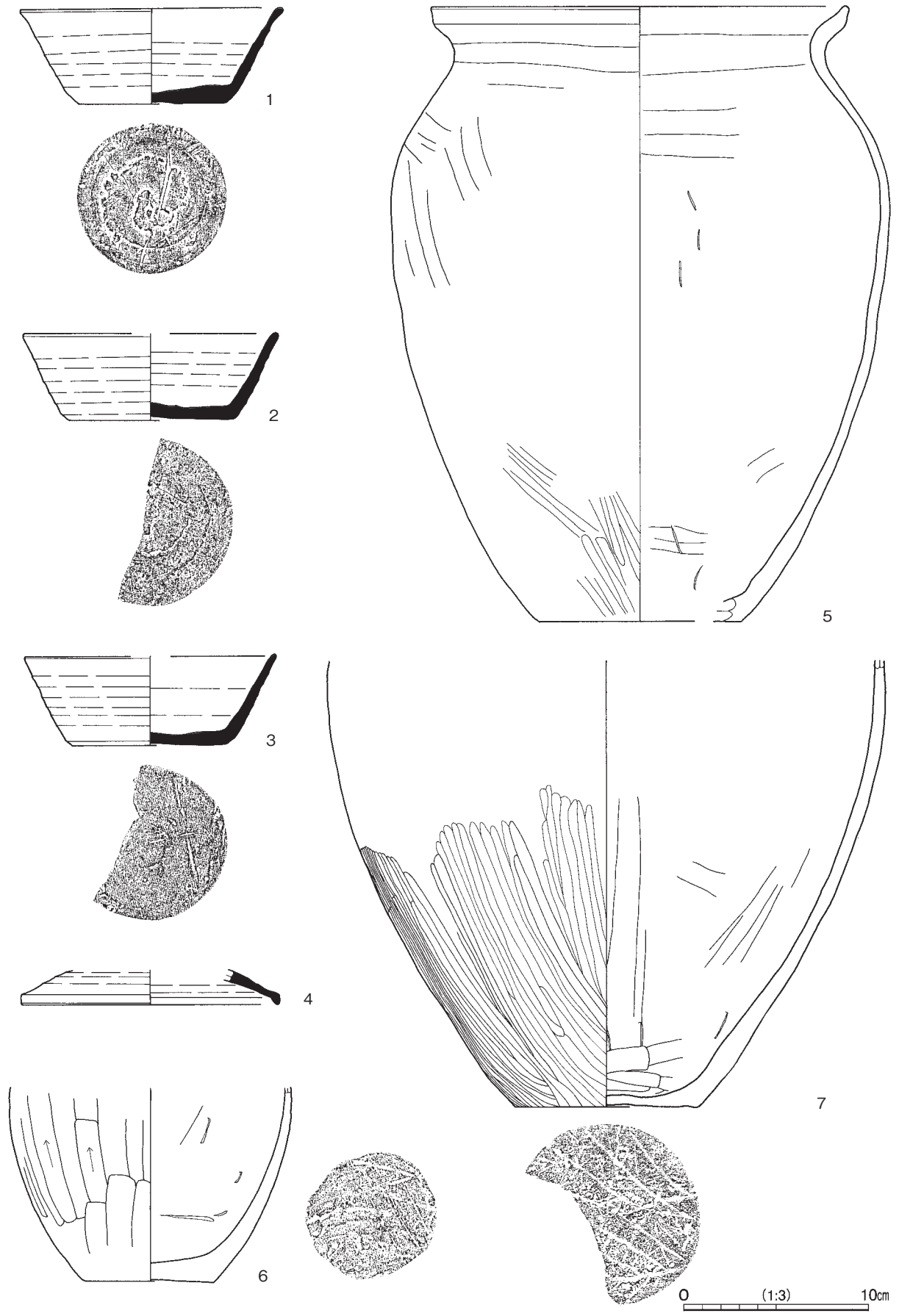
覆土層解説

1	10YR2/3	黒褐	ローム粒C、炭化粒C、焼土小C・中C/粘B、締B	9	10YR3/4	暗褐	ローム中C・小C・粒C、焼土粒C/粘B、締B
2	10YR2/2	黒褐	ローム粒C、焼土粒C/粘B、締B	10	10YR3/3	暗褐	ローム中C・小C、粘土粒C/粘B、締B
3	10YR4/2	灰黄褐	ローム中C・粒D、焼土粒D、炭化粒C/粘B、締B	11	5YR3/3	暗赤褐	焼土中B・粒C、炭化物C、粘土粒D/粘B、締B
4	10YR4/2	灰黄褐	ローム粒D、焼土粒C、炭化粒C/粘B、締B	12	10YR4/3	にぶい黄	ローム中C、焼土小B・粒B、粘土粒C/粘B、締B
5	10YR3/3	暗褐	ローム小C・粒D、焼土粒D/粘B、締B	13	5YR4/3	にぶい黄	焼土小B・粒A、灰B/粘C、締B
6	10YR4/3	にぶい黄	ローム粒C、焼土粒C/粘B、締B	14	10YR3/3	暗褐	焼土小B・粒A、灰B/粘C、締B
7	10YR2/1	黒	ローム粒C、焼土粒D/粘B、締B	15	10YR4/4	褐	ローム中C・小C・粒C/粘B、締A
8	10YR3/2	黒褐	焼土小C・粒C、粘土小C・粒C/粘B、締B				

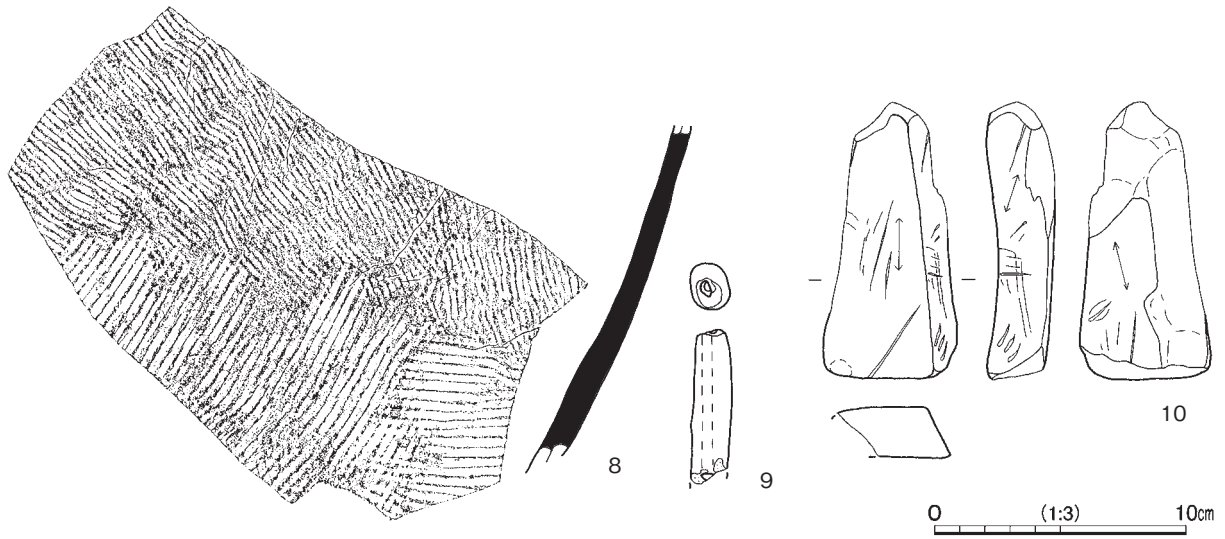
第43図 第210号竪穴建物跡実測図(2)

第17表 第210号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	14.0	5.2	8.0	長石・石英	黄灰	普通	口縁部、体部外・内面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後ナデ	床面	90% PL30 ヘラ記号「-」 木葉下蓋
2	須恵器	坏	[13.6]	4.7	9.0	長石・石英・ 黒色粒子	黄灰	普通	口縁部、体部外・内面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後ナデ 口縁部外面自然釉	覆土上層	50% PL30 木葉下蓋
3	須恵器	坏	[13.4]	4.9	8.4	長石・石英・ 黒色粒子・細礫	灰白	普通	口縁部、体部外・内面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後ナデ ヘラ状工具による圧痕。	覆土中層	40% ヘラ記号「+」 木葉下蓋
4	須恵器	蓋	[13.8]	(1.9)	-	長石・石英・ 細礫	褐灰	普通	外周部外・内面ロクロナデ	覆土中	5%
5	土師器	甕	22.4	33.2	[10.9]	長石・石英・ 赤色粒子	赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部下端縦位のヘラ磨き 内面ヘラナデ ヘラ当て痕	床面 覆土中層	30% 外面煤付着
6	土師器	甕	-	(10.5)	6.9	長石・石英・ 細礫	橙	普通	体部外面縦位のヘラ削り 内面ヘラ当て痕 底部ナデ	覆土下層	20% 外・内面煤付着
7	土師器	甕	-	(24.1)	10.0	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面下半縦位のヘラ磨き 内面ヘラナデ ヘラ当て痕 底部木葉痕	覆土下層	20% 外面煤付着
8	須恵器	甕	-	(13.8)	-	長石・石英	褐灰	普通	体部外面斜位の平行叩き	竈内	5% PL30
9	管状土錘	(6.1)	16~18	0.5	(14.71)	長石・石英・ 赤色粒子	橙		外面ナデ 穿孔 片方欠損	覆土下層	
10	砥石	(11.0)	5.2	2.7	(161.96)	粘板岩	砥面3面		浅いくぼみに研き痕	覆土上層	PL43



第 44 图 第 210 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (1)



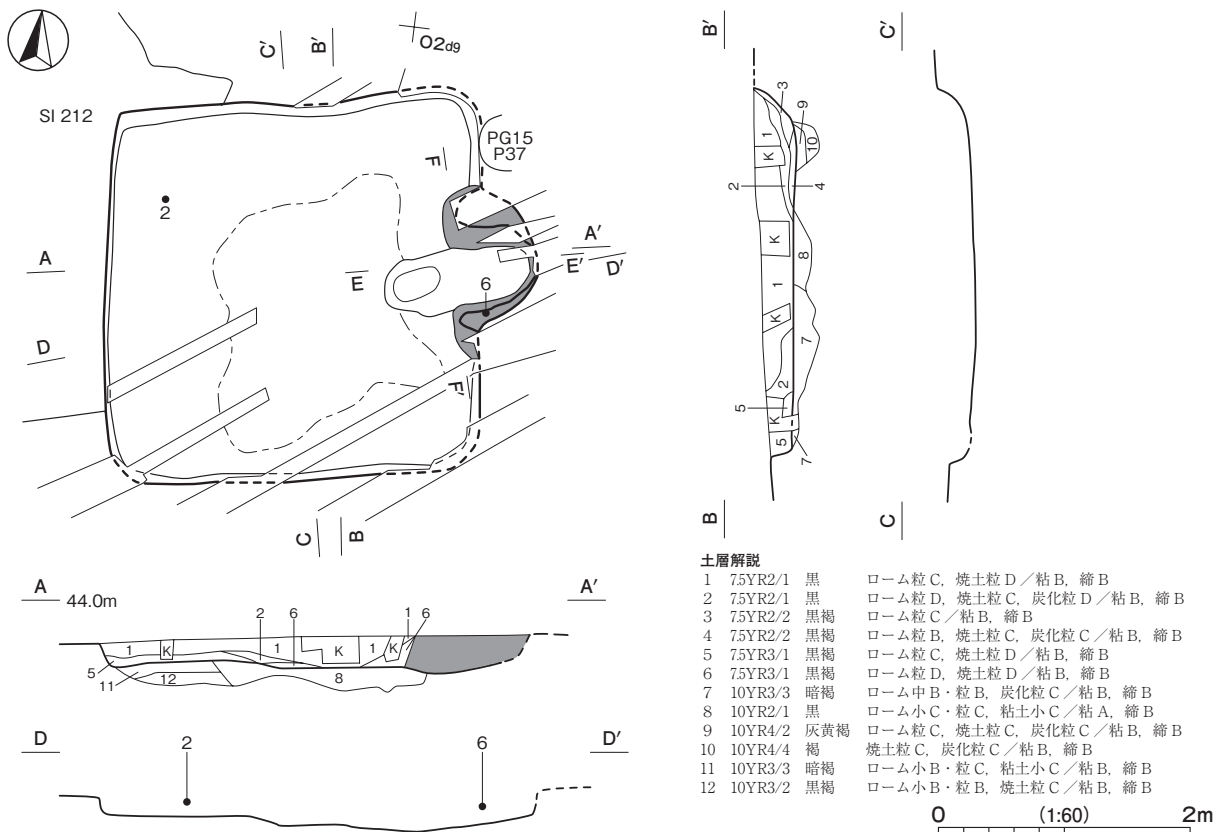
第45図 第210号竖穴建物跡出土遺物実測図(2)

第211号竖穴建物跡 (第46～48図 PL 7)

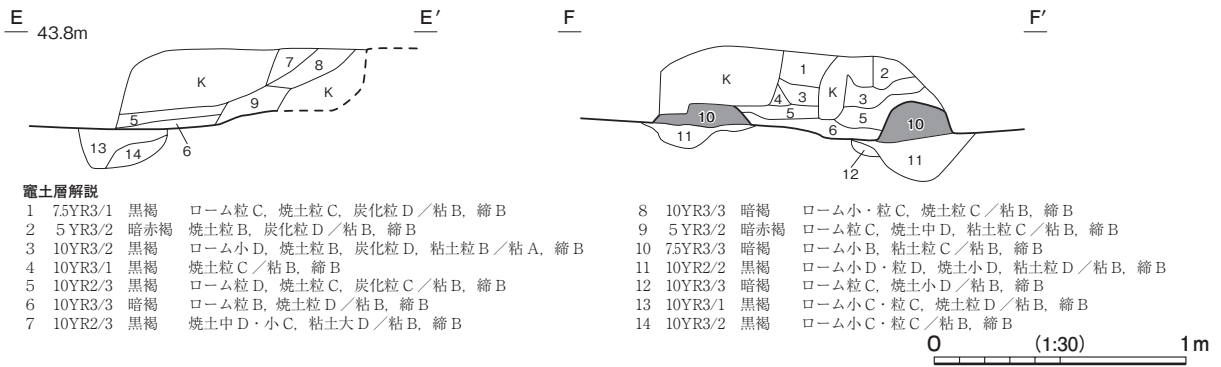
位置 C区北部のO2d8区, 標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第212号竖穴建物跡を掘り込んでいる。第15号ピット群と重複しているが新旧関係は不明である。

規模と形状 長軸2.98m, 短軸2.96mの方形で, 主軸方向はN-78°-Eである。壁は高さ29cmほどで, 外傾している。



第46図 第211号竖穴建物跡実測図(1)



第 47 図 第 211 号竪穴建物跡実測図 (2)

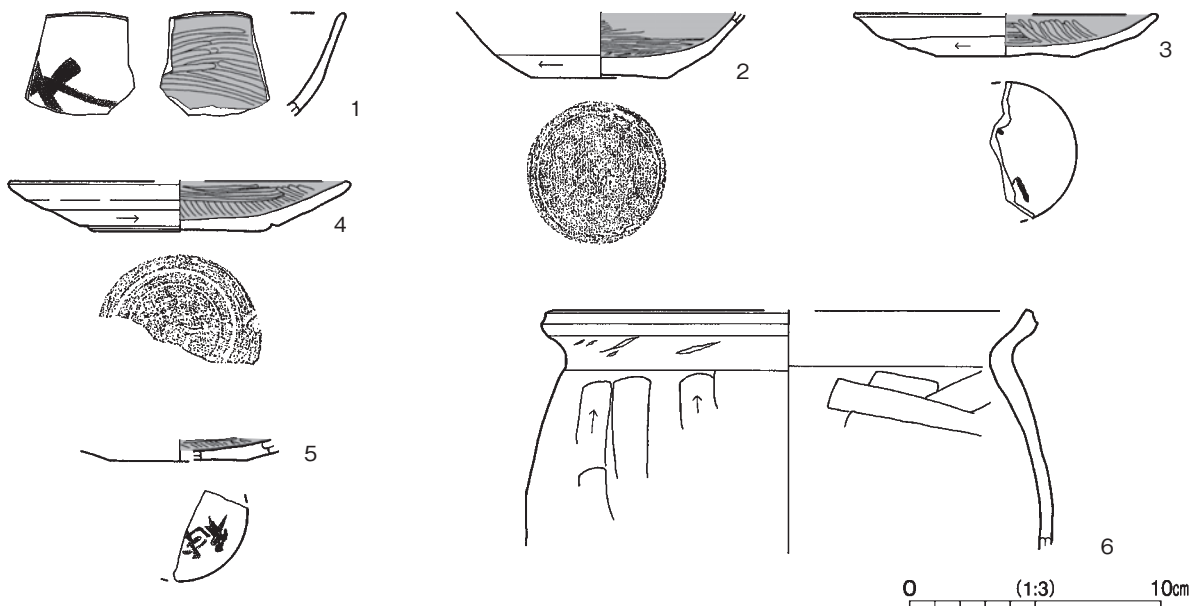
床 平坦で、中央部が踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第7～12層を8～18cmほど埋土して構築されている。

竈 東壁中央部に付設されている。攪乱を受けているため、確認できた規模は焚口部から煙道部まで120cmで、燃焼部幅は45cmである。袖部は遺存状態が悪く、一部のみが残存している。地山を掘りくぼめ、ロームブロックや焼土ブロックを含む第11・12層を埋土した後、ロームブロックや粘土粒子を含む第10層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に床面から18cm掘りくぼめ、ロームブロックや焼土粒子を含む第13・14層を埋土している。火床面は赤変していない。煙道部は攪乱を受けているが、壁外に45cmほど掘り込まれ、火床面から外傾している。

覆土 6層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片354点(坏63, 高台付坏1, 椀4, 皿3, 甕類281, 甑2), 須恵器片26点(坏9, 高台付坏1, 蓋1, 短頸壺1, 甕類13, 甑1), 灰釉陶器片1点(長頸壺), 陶器片2点(碗, 甕), 金属製品1点(刀子)が出土している。2は北西コーナー寄りの覆土中層から、6は竈右袖の覆土中層から出土している。1・3～5は覆土中から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀後葉と考えられる。



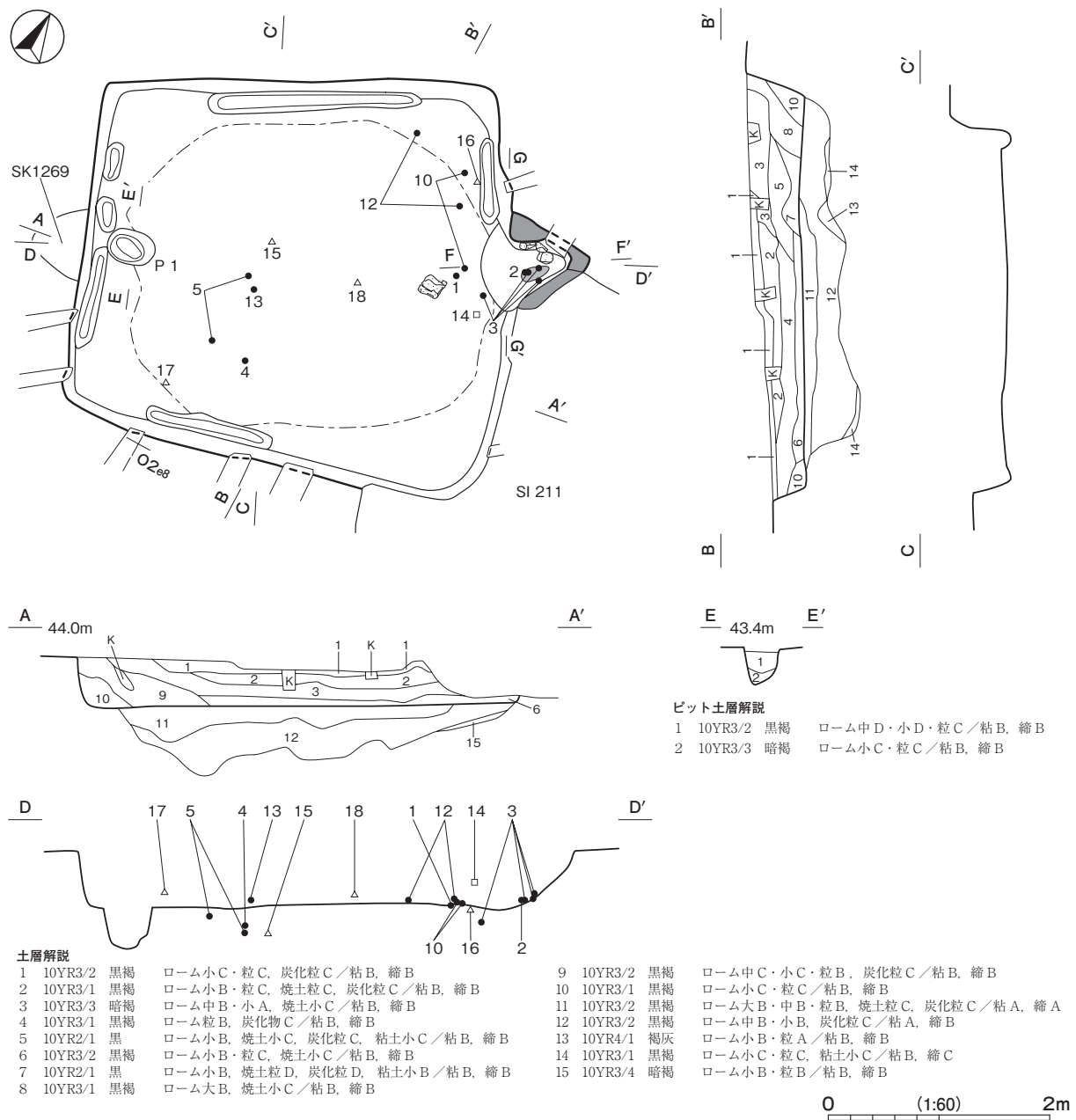
第 48 図 第 211 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 18 表 第 211 号 竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	-	(41)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き	覆土中	5% 墨書「□」
2	土師器	坏	-	(26)	5.5	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端・底部回転ヘラ削り	覆土中層	40%
3	土師器	皿	[12.0]	1.7	[5.6]	長石・石英	橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 体部内面ヘラ磨き 体部下端・底部回転ヘラ削り	覆土中	20% 墨書「□」
4	土師器	皿	[13.3]	2.0	6.5	長石・石英	にぶい橙	良好	口縁部・体部外面ロクロナデ 体部内面ヘラ磨き 体部下端・底部回転ヘラ削り	覆土中	20%
5	土師器	皿	-	(0.9)	[5.4]	長石・石英	にぶい褐	普通	体部内面ヘラ磨き	覆土中	5% PL30 墨書「神」
6	土師器	甕	[18.8]	(9.4)	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 内面ヘラナデ	竈右袖部	10%

第 212 号 竪穴建物跡 (第 49 ~ 51 図 PL 7)

位置 C 区北部の O 2d8 区, 標高 44 m ほどの平坦な台地上に位置している。



第 49 図 第 212 号 竪穴建物跡実測図

重複関係 第1269号土坑を掘り込み、第211号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 竪穴建物に掘り込まれているが、長軸3.78m、短軸3.60mの方形で、主軸方向はN-62°-Eである。壁は高さ28~52cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が全体に踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第11~15層を15~65cmほど埋土して構築されている。壁溝がコーナー部を除いて巡っている。

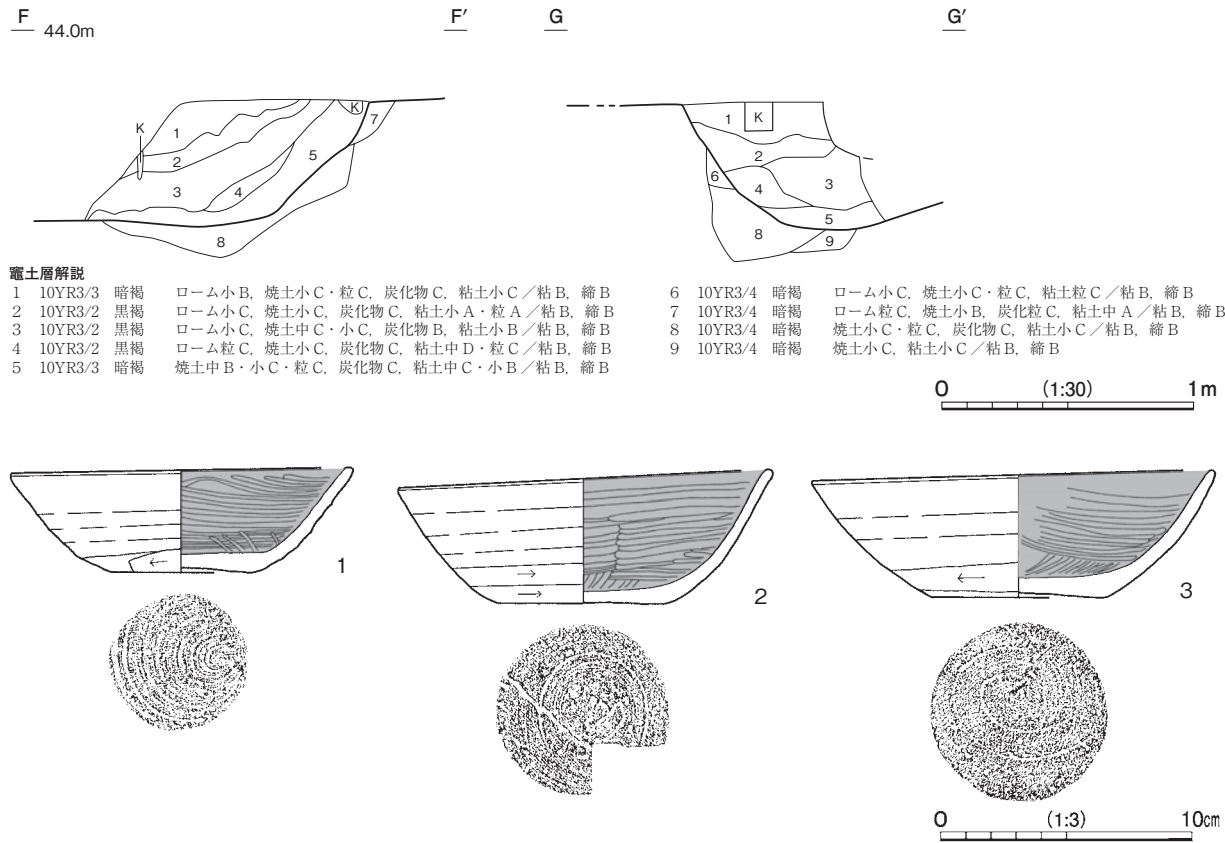
竈 東壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで86cmで、燃焼部幅は40cmである。地山を15cmほど掘りくぼめ、ロームブロックや粘土ブロックを含む第6~9層を埋土して整地している。袖部は補強材として凝灰質泥岩の切り石を使用している。火床面は第8・9層上面で、火熱を受けて一部赤変硬化している。煙道部は壁外に70cm掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。

ピット P1は深さ35cmほどで、竈に對面した西壁際に位置しており、出入口施設に伴うピットと考えられる。

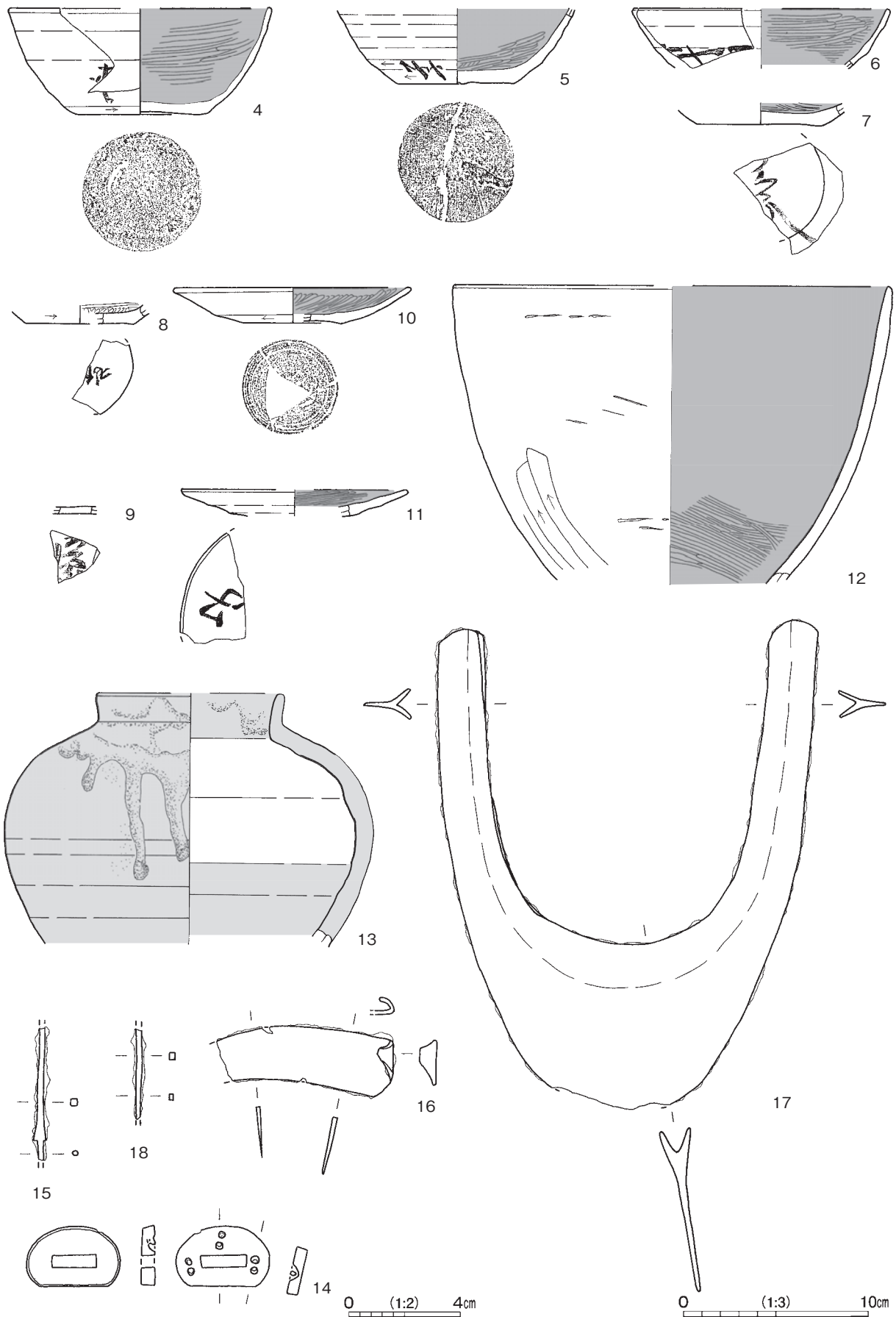
覆土 10層に分層できる。ロームブロックが含まれているが、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師器片797点（坏146、高台付坏5、皿9、鉢1、甕類634、甑2）、須恵器片84点（坏37、高台付坏1、蓋2、長頸壺4、甕類40）、灰釉陶器片2点（壺、短頸壺）、陶器片2点（甕）、石製品1点（丸柄）、金属製品4点（鉄鏃、鎌、鋤先、釘）が出土している。1・10は竈寄り、12は北東部の床面から、2は竈火床面から、3は竈火床面と掘方の埋土の破片が接合したもので、13・18は中央部の覆土下層から、14は竈寄り、17は南西部の覆土中層から、4・5・15は中央部から南西部、16は北東部壁溝の掘方の埋土から、6~9・11は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀前半と考えられる。



第50図 第212号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第51图 第212号竖穴建物跡出土遺物実測図

第 19 表 第 212 号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
1	土師器	坏	13.3	4.2	5.5	長石・石英・ 黒色粒子	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 体部下端手持ち ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転系切り	床面	60% PL30 外面煤付着
2	土師器	坏	14.8	5.4	6.8	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端・底部回転ヘラ削り	竈内	70% PL30 外面煤付着
3	土師器	坏	15.8	5.1	6.8	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端・底部回転ヘラ削り	竈内 掘方埋土	80% PL30 外面煤付着
4	土師器	坏	[14.0]	5.8	6.4	長石・石英	橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端・底部回転ヘラ削り	掘方埋土	40% 墨書 [□]
5	土師器	坏	-	(4.1)	6.3	長石・石英・雲母・ 赤色粒子・針状物質	橙	普通	体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下 端・底部回転ヘラ削り	掘方埋土	40% PL30 墨書 [子□]
6	土師器	坏	[13.7]	(3.2)	-	長石・石英・ 針状物質	にぶい褐	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き	覆土中	5% PL31 墨書 [□]
7	土師器	坏	-	(1.2)	[6.8]	長石・石英	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	覆土中	10% PL31 墨書 [□]
8	土師器	坏	-	(1.0)	[5.8]	長石・石英	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	覆土中	5% PL31 墨書 [□]
9	土師器	坏	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	覆土中	5% PL31 墨書 [□]
10	土師器	皿	12.7	2.0	5.2	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端・底部回転ヘラ削り	床面	40% 外面煤付着
11	土師器	皿	[12.0]	(1.4)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き	覆土中	5% PL31 墨書 [子]
12	土師器	鉢	[23.4]	(16.1)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 内面ヘラ磨き	床面	20%
13	灰釉陶器	短頸壺	[10.0]	(13.7)	-	長石・黒色粒子	暗灰黄	普通	体部外・内面ロクロナデ 外面施釉 内面一部 施釉	覆土下層	20%

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
14	丸靱	2.2	3.4	0.5	6.65	粘板岩	裏面に3か所 紐孔あり	覆土中層	PL42

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
15	鎌	(7.2)	(0.7)	(0.3)	(7.92)	鉄	頸部片 頸部断面正方形	掘方埋土	
16	鎌	(9.6)	3.9	0.2	(35.83)	鉄	柄付部全面折り曲げ 曲刃	掘方埋土	PL44
17	鋤先	(26.6)	20.6	1.7	(520.0)	鉄	刃幅先7cm以上 耳部外反せず 刃先大きく湾曲 断面Y状	覆土中層	PL44
18	釘	(4.9)	(0.4)	(0.4)	(3.64)	鉄	頭部・先端部欠損 脚部断面長方形	覆土下層	PL44

第 213 号竪穴建物跡 (第 52・53 図 PL 7・8)

位置 D 区北部の K 4b1 区、標高 44 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 1309 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 3.23 m、短軸 3.18 m の方形で、主軸方向は N - 43° - E である。壁は高さ 21 cm ほどで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が全体に踏み固められている。貼床はロームブロックや粘土粒子を含む第 7～9 層を 10 cm ほど埋土して構築されている。

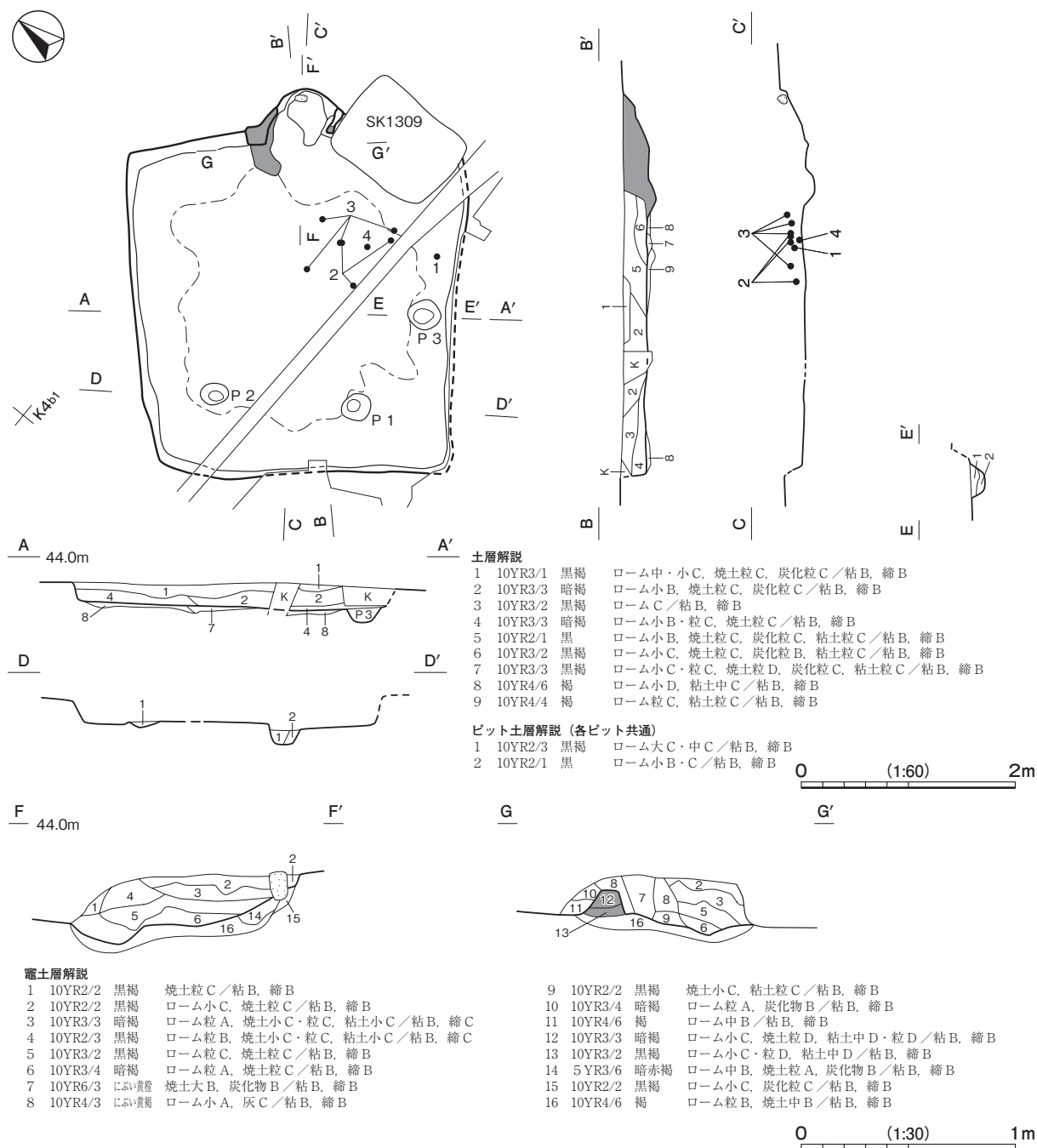
竈 北東壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 74 cm で、燃焼部の残存している幅は 45 cm である。焚口部から奥壁までを浅く掘りくぼめ、袖部・火床部とも第 14～16 層を埋土して整地した後、袖部はロームブロックや粘土ブロックを含む第 12・13 層を積み上げ、補強材として凝灰質泥岩の切り石を使用している。火床面は赤変硬化していない。煙道部は壁外に 30 cm 掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。

ピット 3 か所。P 1・P 2 は深さ 8 cm・18 cm で、配置から主柱穴である。P 3 は深さ 15 cm ほどで、性格は不明である。

覆土 6 層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片 165 点 (坏 48、高台付坏 2、甕類 115)、須恵器片 9 点 (坏 1、短頸壺 4、長頸壺 1、甕類 3)、灰釉陶器片 1 点 (壺)、土製品 1 点 (管状土錘) が出土している。4 は東部の床面、1 は南東壁際、2・3 は東部の覆土下層から、5 は覆土中からそれぞれ出土している。

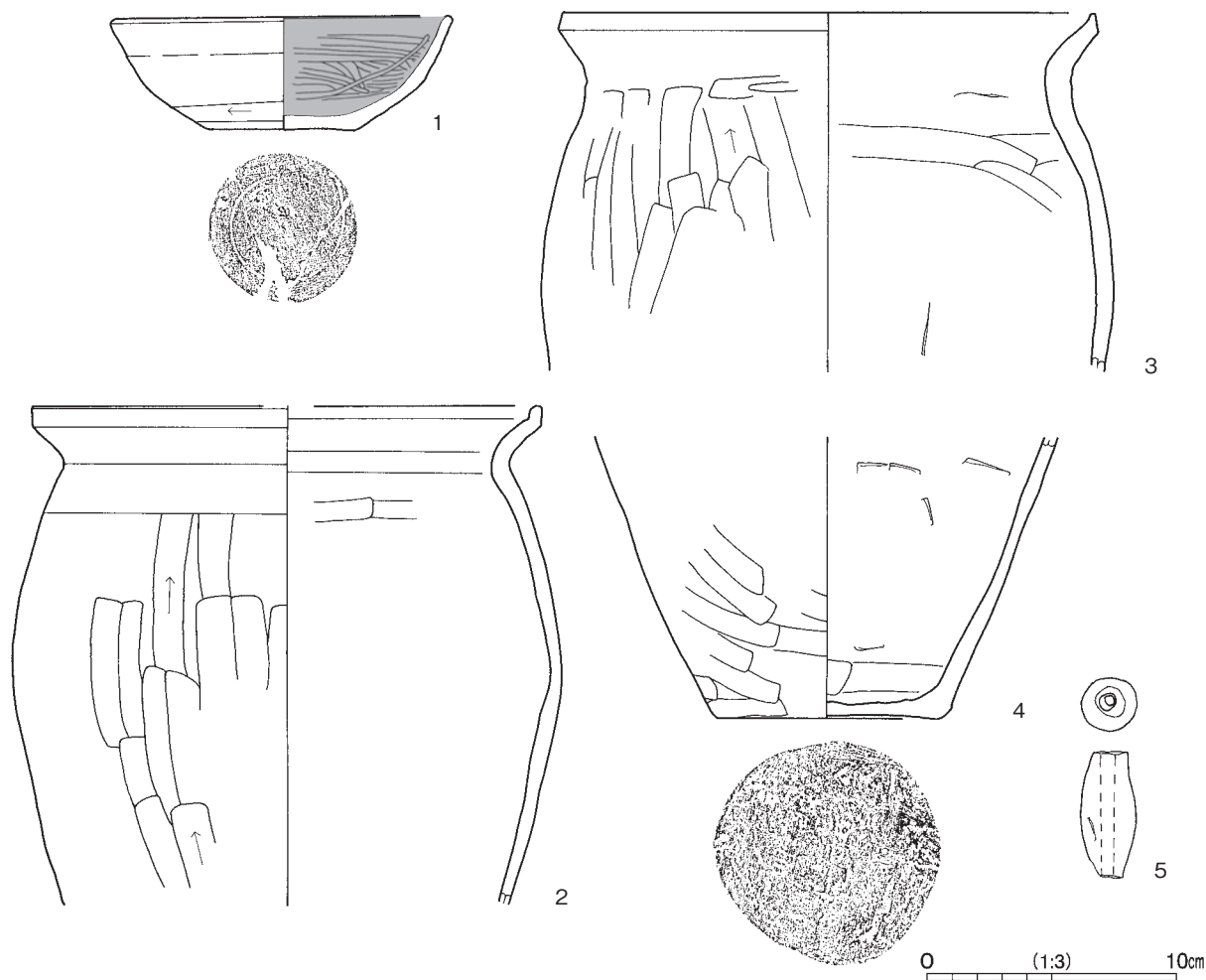
所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第52図 第213号竪穴建物跡実測図

第20表 第213号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	13.2	4.6	5.8	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端・底部回転ヘラ削り	覆土下層	90% PL31
2	土師器	甕	20.3	(20.0)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土下層	30% PL31
3	土師器	甕	21.3	(14.4)	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土下層	30% 外面煤付着
4	土師器	甕	-	(11.3)	8.9	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外・内面ヘラナデ 内面ヘラ当て痕 底部ナデ	床面	40% 外面煤付着
番号	器種	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考	
5	管状土錘	5.1	2.2	0.6	(23.80)	長石・石英	にぶい赤褐	外面ナデ 穿孔 片方欠損	覆土中	PL41	



第 53 図 第 213 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 214 号竪穴建物跡 (第 54 ~ 57 図 PL 8)

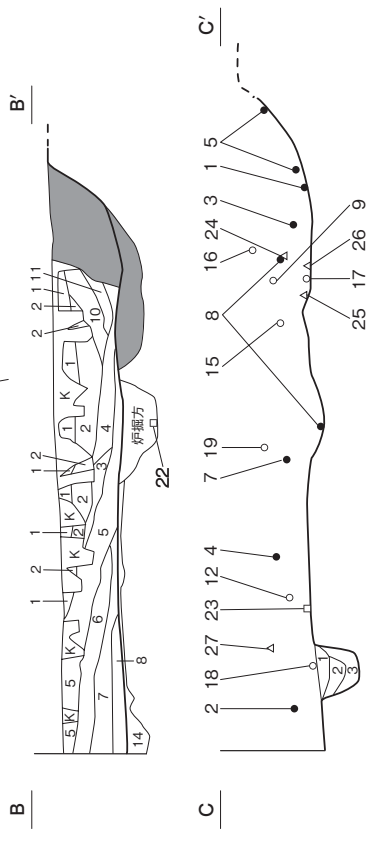
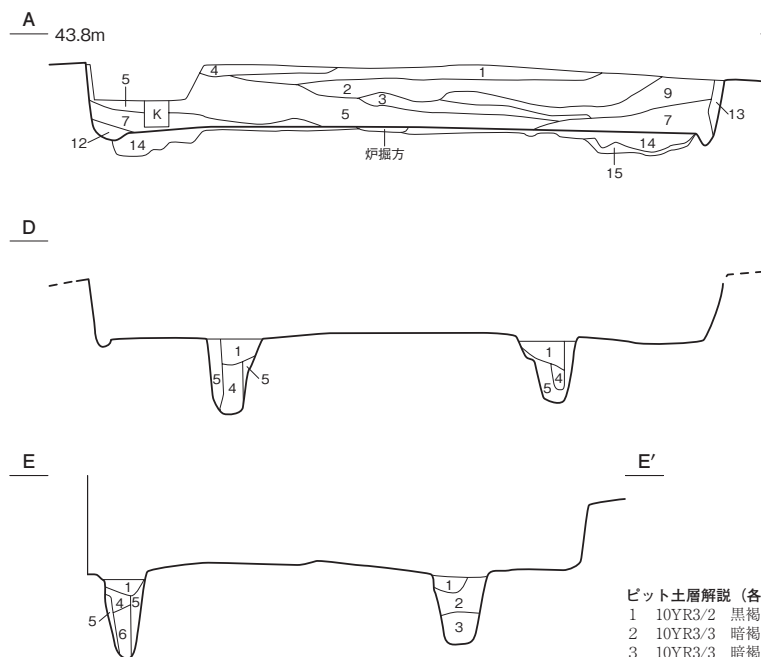
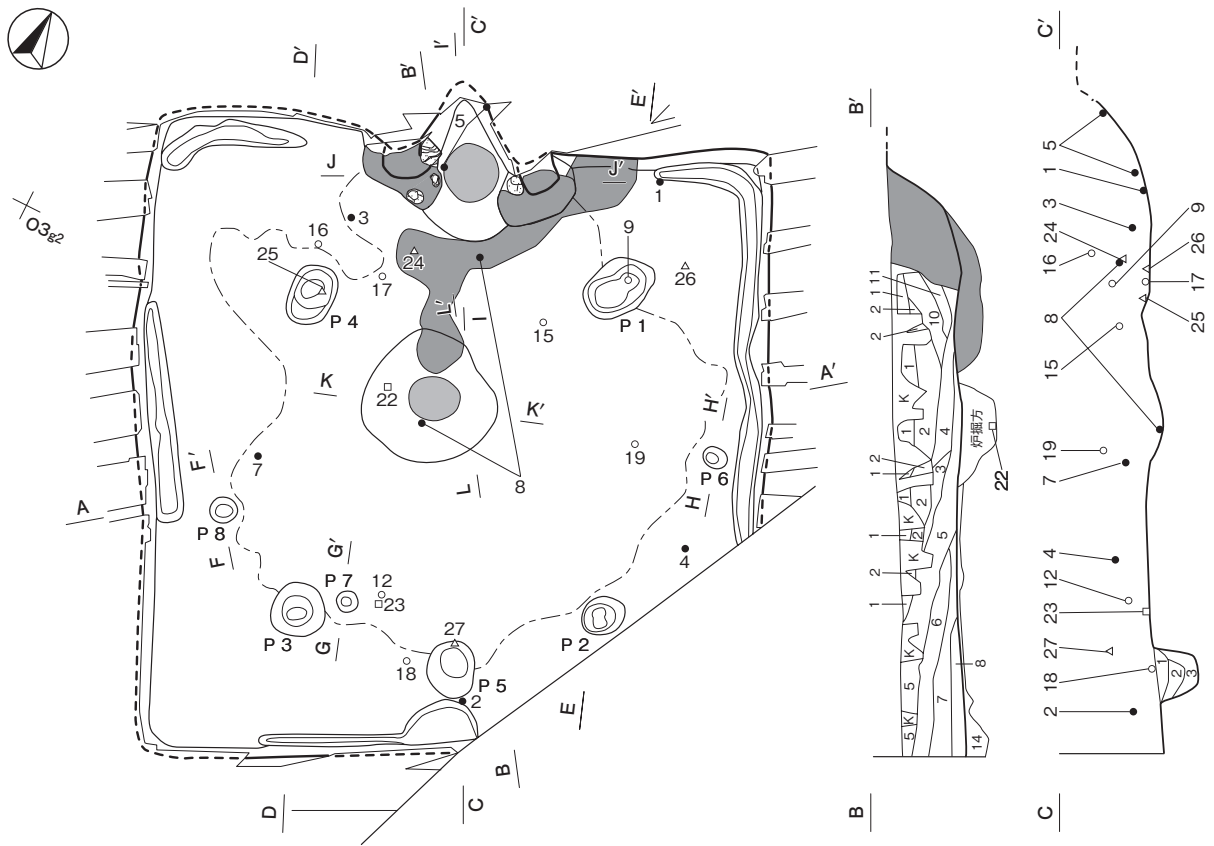
位置 C 区北部の O 3f2 区, 標高 44 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 攪乱を受け, 南東部が調査区域外であるが, 南北軸 5.14 m, 東西軸 5.04 m の方形で, 主軸方向は $N - 28^{\circ} - W$ である。壁は高さ 47 ~ 54 cm で, ほぼ直立している。

床 平坦で, 中央部が全体に踏み固められている。貼床は壁際や中央部を不整形の土坑や溝状に掘り込み, ロームブロックや炭化粒子を含む第 14・15 層を 5 ~ 20 cm ほど埋土して構築されている。壁溝は, 南西コーナー部と西壁の一部を除いて巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。攪乱を受けているため, 確認できた規模は焚口部から煙道部まで 115 cm で, 燃焼部幅は 45 cm ほどである。竈構築材の粘土が中央付近まで広がっており, 埋没する過程で流失したものと考えられる。袖部は芯材として凝灰質泥岩を使い, ローム粒子や粘土粒子を含む第 19 層を積み上げて構築されている。火床部はロームブロックや粘土ブロックを含む第 20 ~ 23 層を埋土している。火床面は第 20 ~ 22 層上面で, 火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 50 cm 掘り込まれ, 火床部から緩やかに立ち上がっている。

炉 中央部に位置している。規模は径 110 cm の円形で, 火床部は 20 cm ほど掘りくぼめ, 第 2 ~ 4 層を埋土している。火床面は第 2 層上面で, 赤変硬化している。炉は住居内工房とも考えられるが, 性格は不明である。

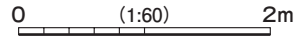


土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐 ローム粒B, 炭化粒D/粘B, 締B
- 2 10YR2/2 黒褐 ローム粒C, 焼土粒D, 炭化粒D/粘B, 締B
- 3 10YR3/3 暗褐 ローム大A/粘B, 締B
- 4 10YR3/2 黒褐 ローム中C, 焼土粒C, 炭化粒D, 粘土小C/粘B, 締B
- 5 10YR2/1 黒 ローム中D, 粘土小B/粘B, 締B
- 6 10YR3/3 暗褐 ローム粒B, 焼土粒D/粘B, 締B
- 7 10YR2/2 黒褐 ローム粒C, 焼土粒D/粘B, 締B
- 8 10YR3/2 黒褐 ローム小D/粘B, 締B

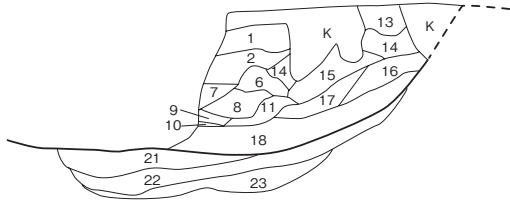
ピット土層解説 (各ピット共通)

- 1 10YR3/2 黒褐 ローム粒B, 焼土粒B, 炭化粒B/粘B, 締B
- 2 10YR3/3 暗褐 ローム粒B/粘B, 締B
- 3 10YR3/3 暗褐 ローム小C/粘B, 締B
- 4 10YR3/2 黒褐 ローム粒C, 炭化粒C/粘B, 締B
- 5 10YR3/1 黒褐 ローム小C/粘B, 締B
- 6 10YR3/2 黒褐 ローム粒B/粘B, 締B
- 9 10YR3/2 黒褐 ローム粒C, 焼土粒C/粘B, 締B
- 10 10YR3/2 黒褐 ローム粒C, 焼土粒C, 粘土粒C/粘B, 締B
- 11 10YR2/2 黒褐 ローム粒D, 焼土粒D, 炭化粒D, 粘土粒C/粘B, 締B
- 12 5YR3/2 黒褐 ローム粒C, 焼土粒D/粘B, 締B
- 13 10YR3/4 暗褐 ローム粒D/粘B, 締B
- 14 10YR5/8 黄褐 ローム小A, 炭化粒D/粘B, 締B
- 15 10YR5/4 にお漬羅 ローム中A/粘B, 締A



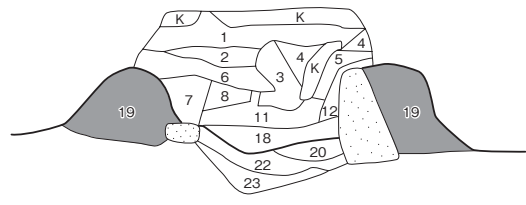
第54図 第214号竪穴建物跡実測図

I 43.8m



I'

J



J'

竈土層解説

- | | | | |
|----|----------|------|--------------------------------|
| 1 | 10YR2/2 | 黒褐 | ローム粒C, 焼土中D・小C, 粘土小C/粘B, 締B |
| 2 | 10YR3/3 | 暗褐 | ローム小D・粒C, 焼土小D, 粘土小B/粘B, 締B |
| 3 | 10YR4/3 | にぶ黄褐 | 焼土大D・小C・粒C, 粘土中C・小C・粒B/粘A, 締B |
| 4 | 10YR3/2 | 黒褐 | ローム粒C, 焼土小C・粒C/粘B, 締B |
| 5 | 10YR2/3 | 黒褐 | 焼土中C・小C, 炭化物大D, 粘土小C・粒C/粘B, 締B |
| 6 | 10YR3/2 | 黒褐 | 焼土粒D, 粘土中C・小C・粒C/粘B, 締B |
| 7 | 10YR3/2 | 黒褐 | ローム粒D, 焼土中D・小D, 粘土中D・粒D/粘B, 締B |
| 8 | 10YR4/3 | にぶ黄褐 | 焼土小C, 粘土小C・粒B/粘A, 締B |
| 9 | 10YR2/2 | 黒褐 | ローム小D, 粘土小D・粒D/粘B, 締B |
| 10 | 5YR3/3 | 暗褐 | 焼土小C・粒C, 粘土小C/粘B, 締B |
| 11 | 7.5YR3/3 | 暗褐 | 焼土小D・粒C, 粘土粒C/粘B, 締B |
| 12 | 10YR3/3 | 暗褐 | 焼土小C・粒C, 炭化物D/粘B, 締B |

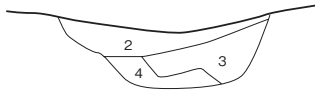
- | | | | |
|----|---------|------|-----------------------------|
| 13 | 10YR3/4 | 暗褐 | 焼土中D小・粒C, 粘土中C・小C・粒C/粘A, 締B |
| 14 | 10YR5/2 | 灰黄褐 | 焼土小D, 粘土中C・粒B/粘A, 締B |
| 15 | 10YR3/3 | 暗褐 | ローム中D, 焼土小C, 粘土中C・粒B/粘B, 締B |
| 16 | 5YR3/2 | 暗赤褐 | ローム粒C, 焼土粒C/粘A, 締B |
| 17 | 5YR5/3 | にぶ赤褐 | 焼土中D・粒C/粘B, 締B |
| 18 | 5YR3/3 | 暗赤褐 | 焼土粒A, 灰B/粘C, 締C |
| 19 | 10YR3/2 | 黒褐 | ローム粒C, 粘土粒子D/粘B, 締B |
| 20 | 10YR3/3 | 暗褐 | ローム小D, 焼土小D, 粘土粒D/粘C, 締C |
| 21 | 10YR3/3 | 暗褐 | 焼土粒D, 粘土小C・粒C/粘B, 締B |
| 22 | 10YR3/4 | 暗褐 | ローム小C, 焼土粒C, 炭化粒D/粘B, 締B |
| 23 | 10YR3/2 | 黒褐 | ローム中C, 粘土粒D/粘B, 締B |

K 43.4m



K'

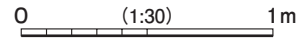
L



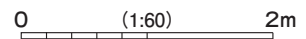
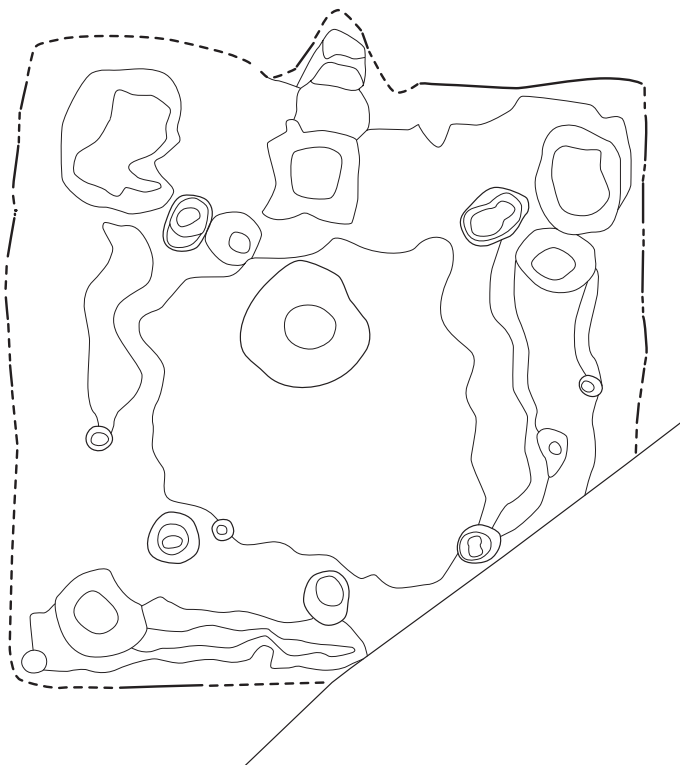
L'

炉土層解説

- | | | | |
|---|---------|------|------------------------------|
| 1 | 5YR3/2 | 暗赤褐 | ローム粒C, 焼土粒C, 炭化粒C, 灰C/粘B, 締B |
| 2 | 10YR3/1 | 黒褐 | ローム小B・粒B, 焼土粒D, 炭化粒D/粘B, 締B |
| 3 | 10YR6/4 | にぶ黄褐 | ローム小C, 焼土小C, 炭化粒D/粘B, 締B |
| 4 | 10YR4/4 | 褐 | ローム小A・粒A/粘A, 締B |



+03_{g2}



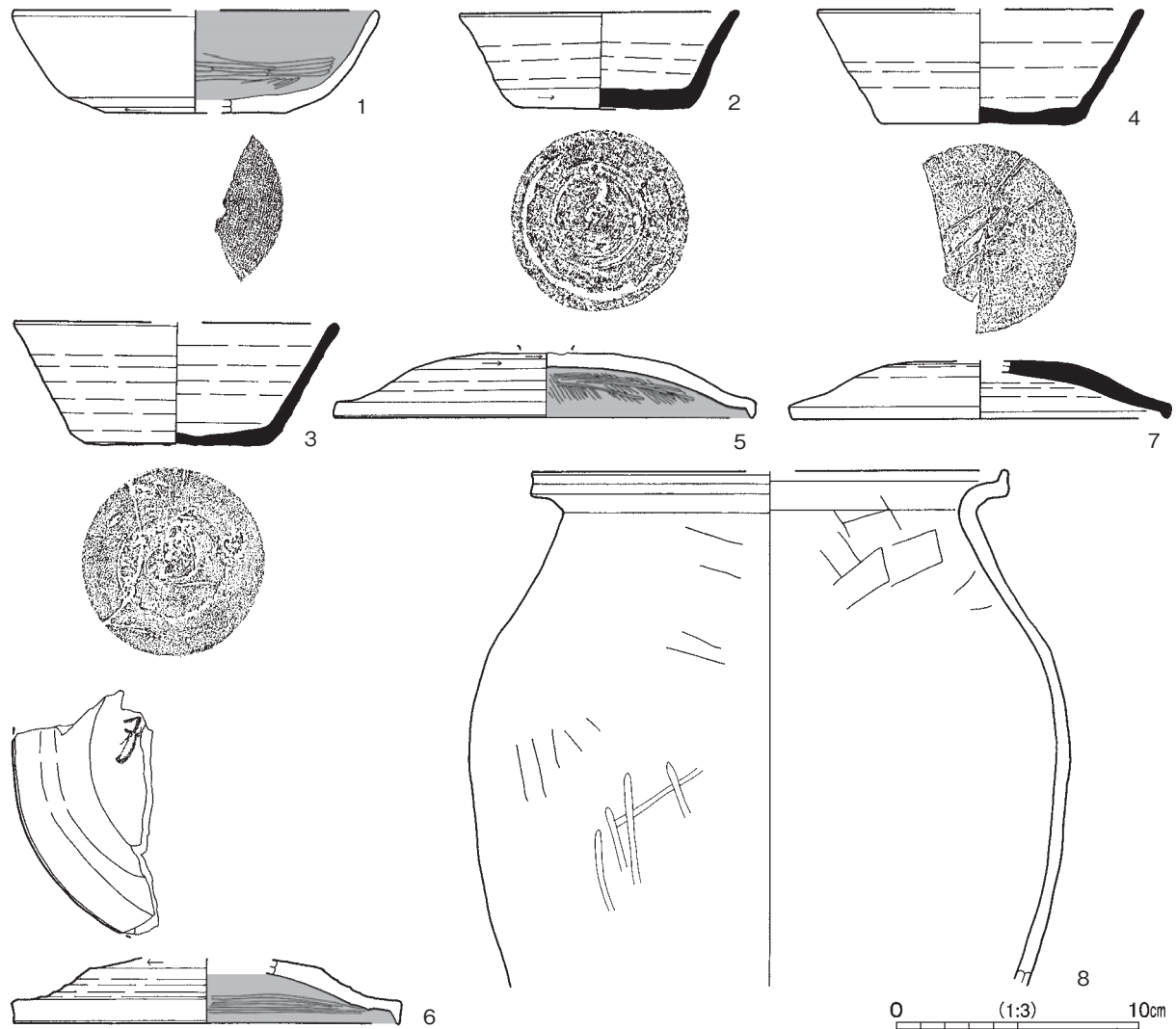
第 55 図 第 214 号竪穴建物跡・掘方実測図

ピット 8か所。P 1～P 4は深さ48～64 cmで、規模や配置から主柱穴である。P 5は深さ34 cmで、竈に
 対面した南壁際に位置しており、出入口施設に伴うピットと考えられる。P 6～P 8は深さ8～16 cmで、性
 格は不明である。

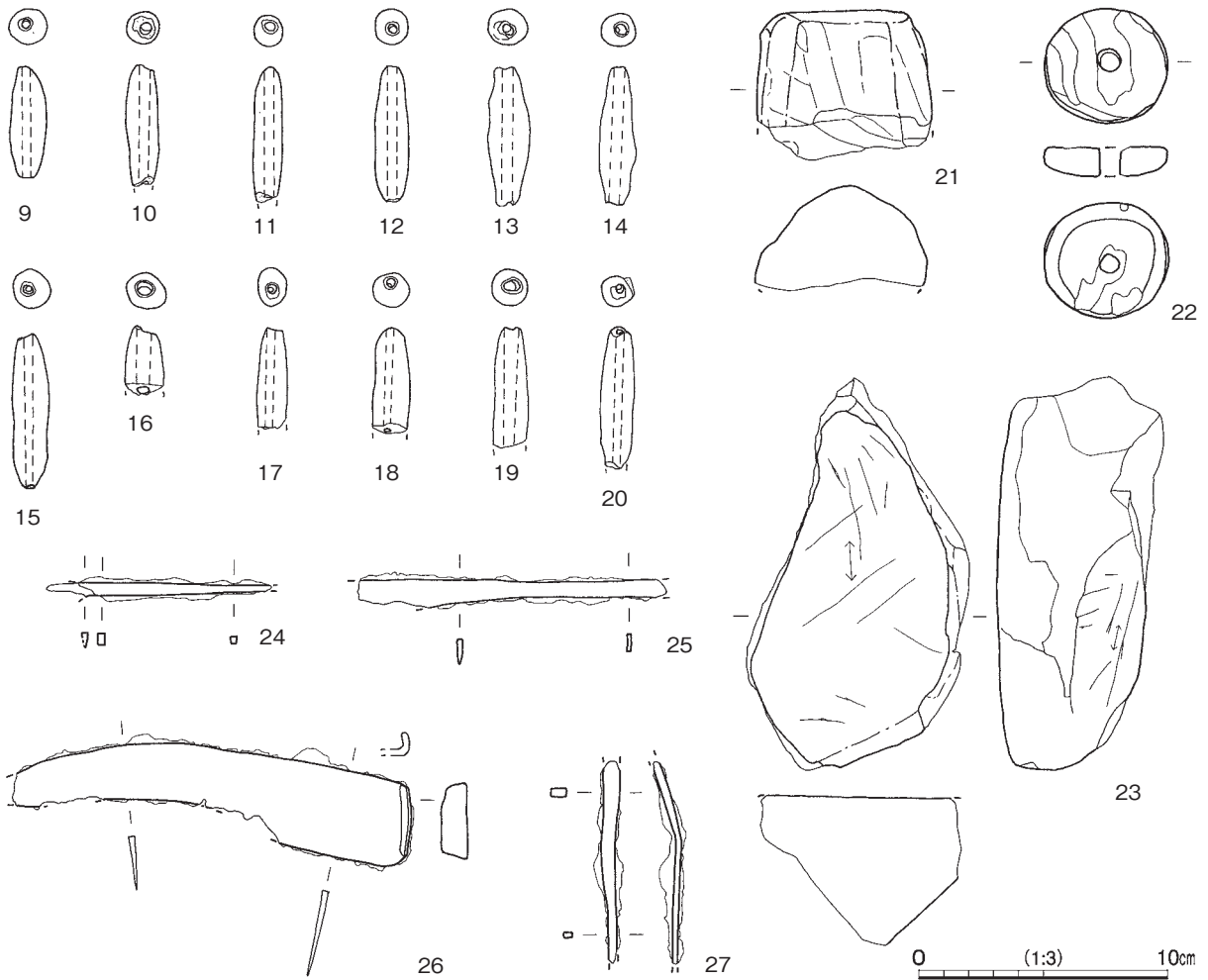
覆土 13層に分層できる。レンズ状に堆積をしている部分もあるが、ロームブロックやローム粒子が多いこ
 とから、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片592点(坏70, 高台付坏2, 蓋3, 甕類517), 須恵器片194点(坏128, 高台付坏9,
 蓋8, 盤3, 短頸壺3, 甕類43), 陶器片5点(甕類), 土製品13点(管状土錘12, 支脚1), 石器2点(紡錘車,
 砥石), 金属製品8点(刀子5, 鎌1, 釘1, 不明鉄製品1), 礫8点が出土している。1は北壁寄り, 17は
 P 4寄り, 18はP 5寄り, 23は南部, 26はP 1寄りの床面から出土している。5は竈内底面から, 8は炉の
 底面と竈寄りの覆土中層から出土した破片が接合したものである。3は左袖部寄り, 7は西壁寄り, 12は南部,
 25はP 4の上の覆土下層から出土している。2はP 5寄り, 4・19は東部, 15は中央部, 24は竈寄り, 9は
 P 1, 27はP 5の上の覆土中層から出土している。16はP 4寄りの覆土上層から, 22は炉掘方の埋土から,
 6・10・11・13・14・20・21は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第56図 第214号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 57 図 第 214 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

第 21 表 第 214 号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[14.8]	4.3	[7.4]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端・底部回転ヘラ削り	床面	60% PL31
2	須恵器	坏	11.4	4.2	7.3	長石・石英・細礫	灰	普通	口縁部・体部外・内面ロクロナデ 体部下端・ 底部回転ヘラ削り	覆土中層	80% PL31 木葉下蓋
3	須恵器	坏	[13.2]	5.1	7.5	長石・石英・細礫	浅黄橙	不良	口縁部・体部外・内面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り	覆土下層	50% PL31 ヘラ記号「+」
4	須恵器	坏	[13.2]	4.8	7.8	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部・体部外・内面ロクロナデ	覆土中層	50% PL31 ヘラ記号「川」 木葉下蓋
5	土師器	蓋	17.1	(2.7)	-	長石・石英・黒色粒子・赤色粒子	にぶい橙	普通	外周部外面ロクロナデ 天井部回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き	竈内	80% PL32
6	土師器	蓋	[15.8]	(2.7)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外周部外面ロクロナデ 天井部回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き	覆土中	10% 墨書「□」
7	須恵器	蓋	[15.4]	(2.4)	-	長石・石英	灰	普通	外周部外・内面ロクロナデ 天井部回転ヘラ削り	覆土下層	10%
8	土師器	甕	[19.5]	(21.2)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ磨き 内面ヘラナデ	炉 覆土中層	10%

番号	器種	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
9	管状土錘	4.5	1.5	0.4	9.41	長石・石英	明赤褐	外面ナデ 穿孔	覆土中層	PL41
10	管状土錘	(4.9)	1.4	0.5	(8.20)	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	外面ナデ 穿孔 片方欠損	覆土中	PL41
11	管状土錘	(5.4)	1.2~1.3	0.4	(6.96)	長石・石英	黒褐	外面ナデ 穿孔 片方欠損	覆土中	PL41 外面煤付着
12	管状土錘	5.5	1.4~1.6	0.4	8.65	長石・石英	にぶい黄橙	外面ナデ 穿孔	覆土下層	PL41
13	管状土錘	5.6	1.6	0.5	(11.41)	長石・石英	明赤褐	外面ナデ 穿孔 片方欠損	覆土中	PL41
14	管状土錘	5.6	1.4	0.5	10.04	長石・石英	明赤褐	外面ナデ 穿孔	覆土中	PL41
15	管状土錘	6.2	1.6	0.3~0.4	13.63	長石・石英	明赤褐	外面ナデ 穿孔	覆土中層	PL41
16	管状土錘	(2.8)	1.4~1.6	0.6~0.7	(5.36)	長石・石英	褐灰	外面ナデ 穿孔 片方欠損	覆土上層	

番号	器種	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
17	管状土鍾	(4.0)	12~16	0.3	(7.17)	長石・石英	にぶい黄橙	外面ナデ 穿孔 片方欠損	床面	
18	管状土鍾	(4.3)	13~15	0.3	(7.92)	長石・石英	橙	外面ナデ 穿孔 片方欠損	床面	
19	管状土鍾	(4.8)	1.5	0.6	(8.93)	長石・石英	橙	外面ナデ 穿孔 片方欠損	覆土中層	
20	管状土鍾	(5.7)	1.3	0.3	(6.29)	長石・石英・針状物質	にぶい黄橙	外面ナデ 穿孔 片方欠損	覆土中	

番号	器種	最小径	最大径	高さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
21	支脚	6.0	(7.0)	(6.1)	(113.76)	石英・雲母	にぶい褐	縦位のナデ	覆土中	

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
22	紡錘車	4.6~5.0	0.9	1.2	(41.07)	滑石	断面逆台形 一部摩滅	掘方埋土	PL43

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
23	砥石	(15.8)	(8.9)	(6.0)	(850.0)	砂岩	砥面2面 浅いくぼみに研き痕	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
24	刀子	(9.0)	(0.6)	0.3	(9.07)	鉄	刃部先端部欠損 茎部欠損 刃部断面三角形	覆土中層	
25	刀子	(12.4)	(1.2)	(0.2)	(13.99)	鉄	刃部先端部欠損 茎部欠損 刃部断面三角形	覆土下層	
26	鎌	(16.0)	5.0	0.3	(54.25)	鉄	先端部欠損 柄付部折り曲げ 曲刃	床面	PL44
27	不明鉄製品	(8.2)	(0.7)	(0.3)	(7.69)	鉄	断面長方形	覆土中層	

第 215 号 竪穴建物跡 (第 58 図 PL 8)

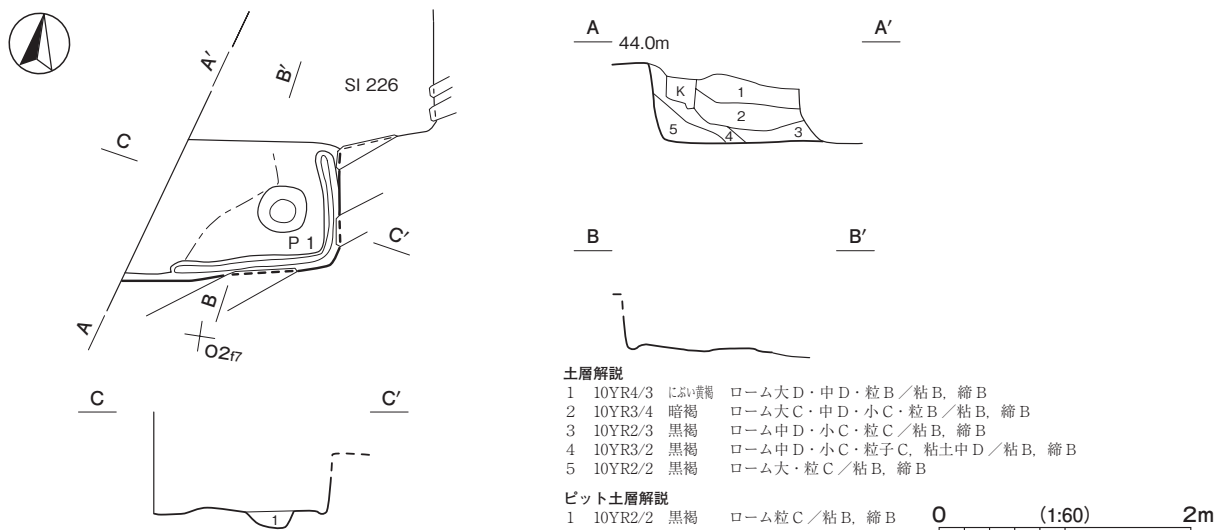
位置 C区北部のO2e6区, 標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第226号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 竪穴建物に掘り込まれ, 西部が調査区域外のため, 南北軸1.14m, 東西軸1.70mしか確認できなかった。壁は高さ60cmほどで, ほぼ直立している。

床 平坦で, 東コーナー部から中央部にかけて踏み固められている。壁溝は南東コーナー部で確認できた。

ピット P1は深さ15cmで, 南東コーナー部に位置していることから, 主柱穴と考えられる。



第 58 図 第 215 号 竪穴建物跡実測図

覆土 5層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片7点(坏3, 甕類4), 須恵器片1点(甕類)が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は, 出土土器から判断できないが, 重複関係から10世紀前葉と考えられる。

第216号竪穴建物跡 (第59・60図 PL 8)

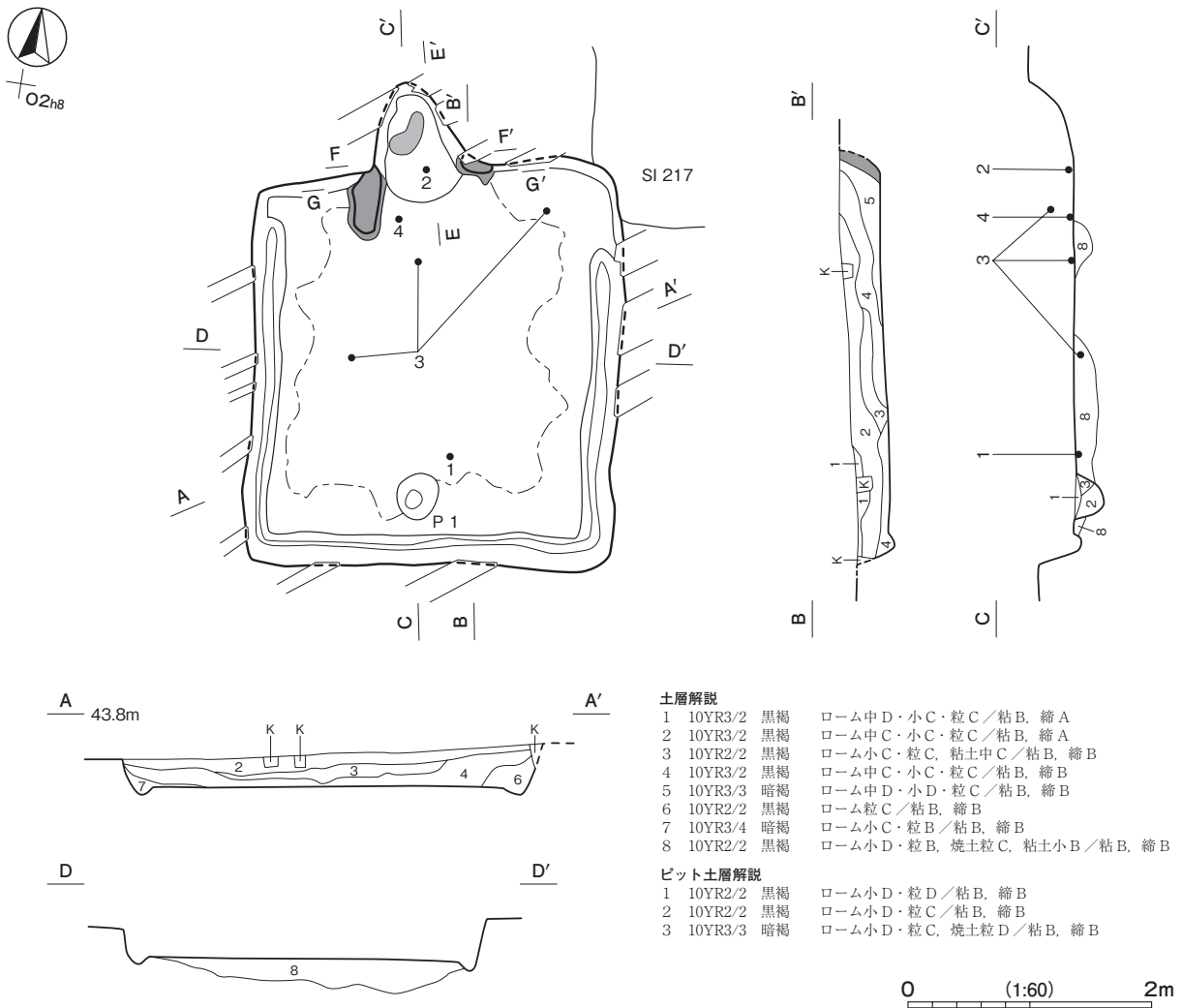
位置 C区北部のO2h8区, 標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第217号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 攪乱を受けているが, 長軸3.26m, 短軸2.98mの方形で, 主軸方向はN-9°-Wである。壁は高さ10~30cmで, ほぼ直立している。

床 平坦で, 中央部が全体に踏み固められている。貼床はロームブロックや粘土ブロックを含む第8層を10~30cmほど埋土して構築されている。壁溝が北部を除いて巡っている。

竈 北壁やや西寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで98cmで, 燃烧部幅は55cmである。袖部



第59図 第216号竪穴建物跡実測図

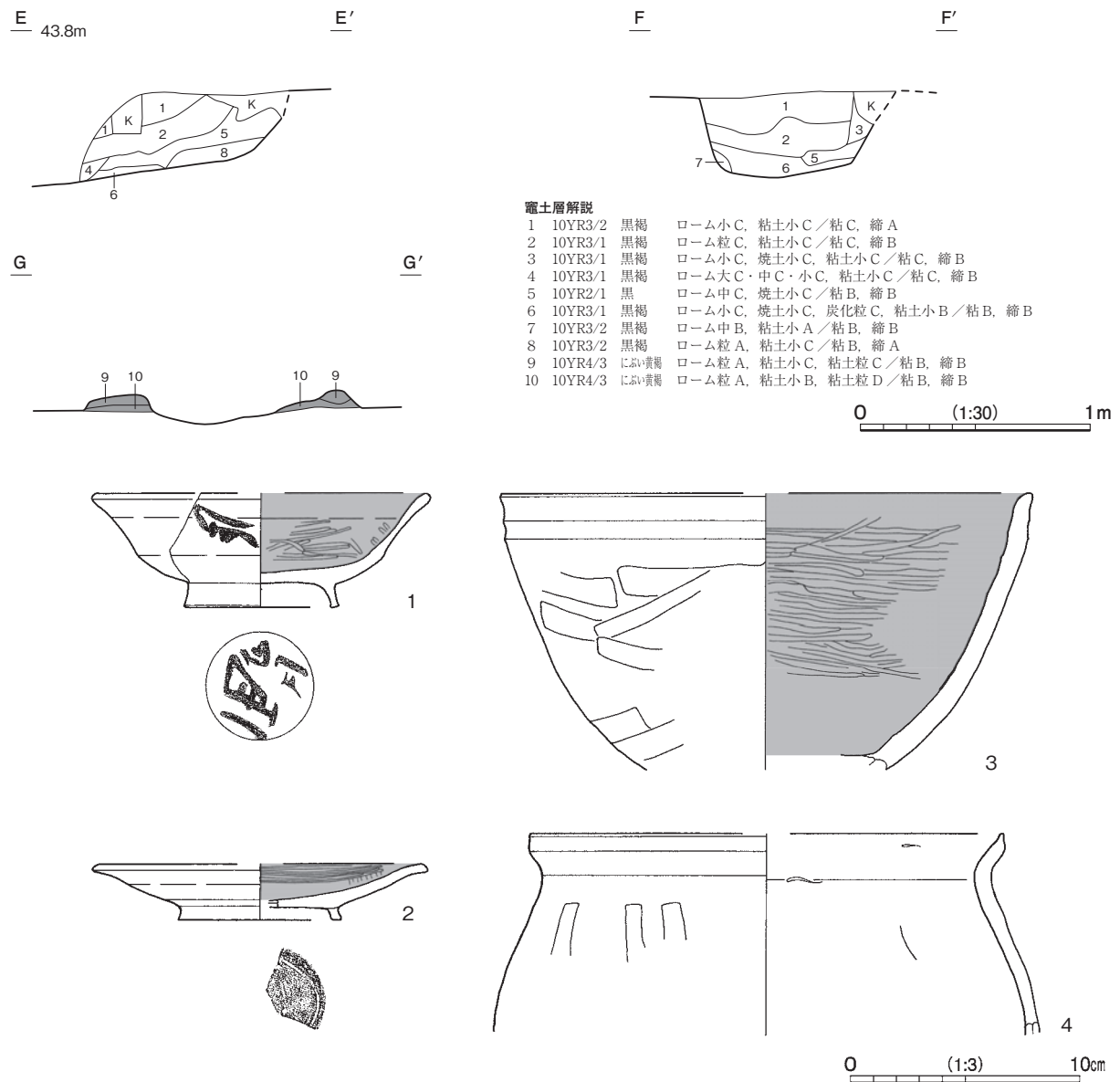
は床面とほぼ同じ高さの地山の上に、粘土ブロックやローム粒子を含む第9・10層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形で浅く掘り下げ、火床面は赤変硬化している。煙道部は火床面から緩やかに立ち上がっている。

ピット P 1は深さ24cmで、竈に対面した南壁際に位置しており、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 7層に分層できる。ロームブロックが含まれているが、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師器片172点(坏21, 高台付坏5, 高台付皿1, 鉢3, 甕類141, 甑1), 須恵器片17点(坏2, 盤1, 短頸壺2, 甕類12), 陶器片1点(甕), 礫1点が出土している。4は竈左袖寄りの床面から、3は中央部と北東部の床面・覆土中層・掘方埋土から出土した破片が接合したものである。2は竈の覆土下層から、1はP 1寄りの掘方の埋土から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から10世紀前葉と考えられる。



第60図 第216号竪穴建物跡・出土遺物実測図

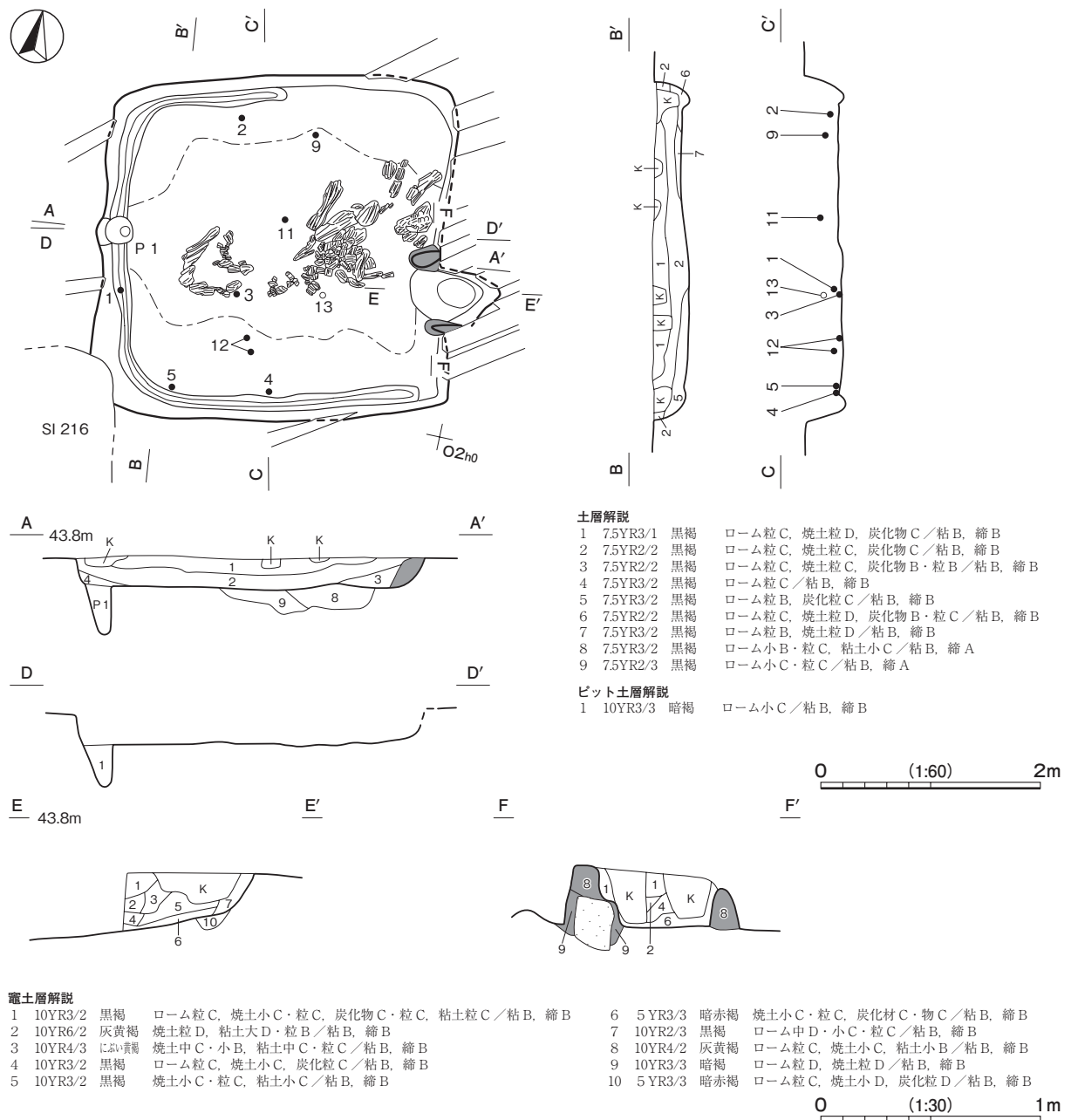
第 22 表 第 216 号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	高台付坏	[14.4]	5.0	6.3	長石・石英・雲母・赤色粒子・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り後高台貼付け	掘方埋土	40% PL32 墨書「□」 「□心月」
2	土師器	高台付皿	[14.0]	2.5	[7.0]	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 底部回転 ヘラ削り後高台貼付け	竈内	20%
3	土師器	鉢	[23.0]	(12.0)	-	長石・石英 赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラナデ 内面ヘラ磨き	床面・覆土中層 掘方埋土	20% 外面媒附着
4	土師器	甕	[20.4]	(8.8)	-	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラナデ	床面	5%

第 217 号竪穴建物跡 (第 61・62 図 PL 8)

位置 C 区北西部の O2g9 区, 標高 44 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 216 号竪穴建物に掘り込まれている。



第 61 図 第 217 号竪穴建物跡実測図

規模と形状 一部攪乱を受けているが、長軸 3.15 m、短軸 3.09 m の方形で、主軸方向は N - 82° - E である。壁は高さ 30 cm ほどで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が全体に踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第 8・9 層を 6～22 cm ほど埋土して構築されている。床の中央部には炭化材が散在している。壁溝が北東コーナー部を除いて巡っている。

竈 東壁やや南寄りに付設されている。確認できた規模は焚口部から煙道部まで 82 cm で、燃焼部幅 46 cm である。遺存状態は悪く、両袖部の一部が残存しているのみである。袖部は地山を浅く掘りくぼめ、その上に粘土ブロックやローム粒子・焼土粒子を含む第 8・9 層を積み上げて構築されている。左袖部には補強材である凝灰質泥岩の切り石を利用している。火床部は楕円形で床面から 10 cm ほど掘りくぼめ、焼土ブロックやローム粒子を含む第 10 層を埋土している。火床面は赤変硬化していない。確認できた煙道部は壁外に 55 cm 掘り込まれ、火床面から外傾している。

ピット P 1 は深さ 38 cm で、竈に対面した西壁寄りに位置しており、出入口施設に伴うピットと考えられる。

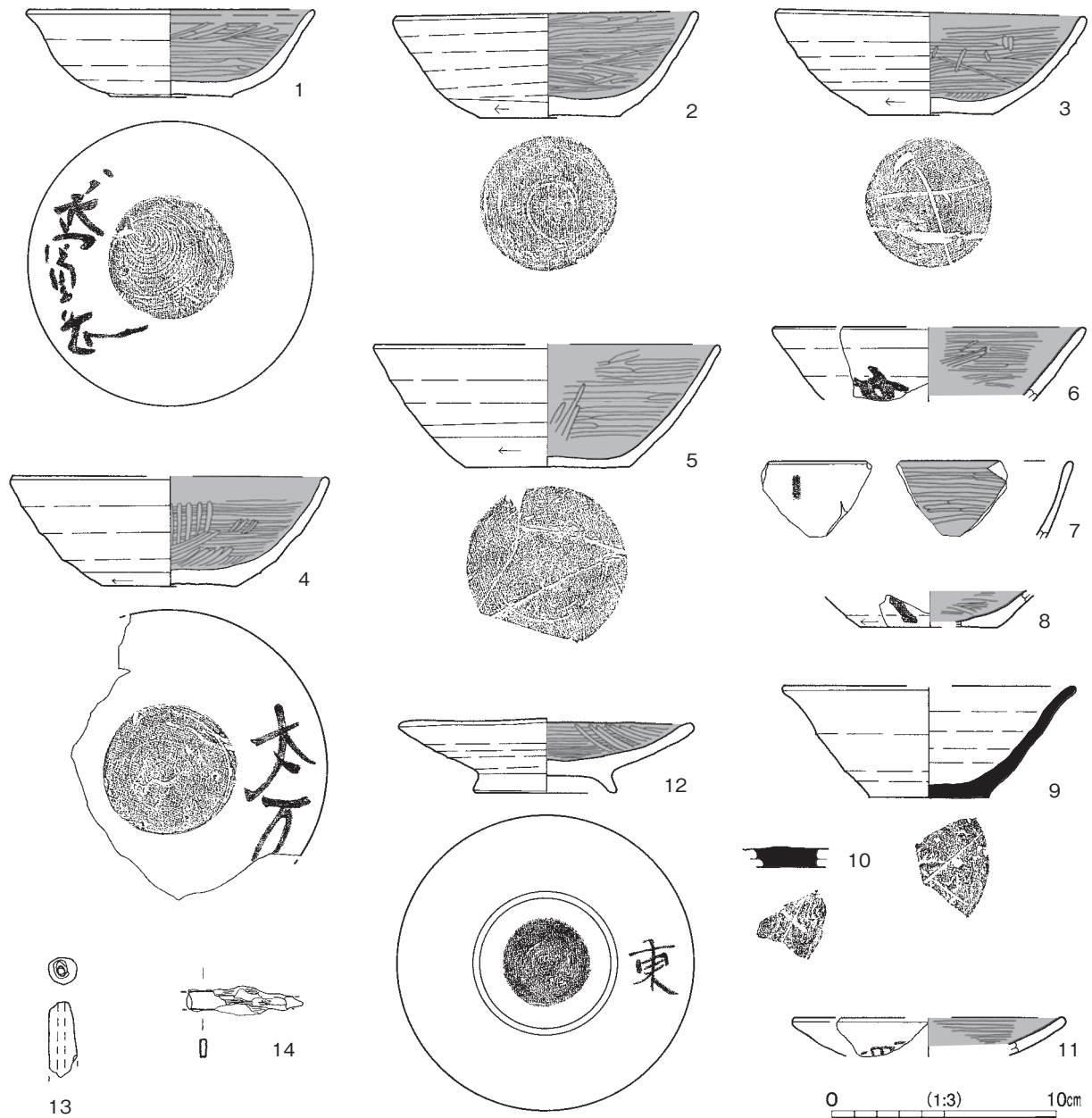
覆土 7 層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片 486 点（坏 140、高台付坏 4、皿 3、高台付皿 1、鉢 4、甕類 334）、須恵器片 25 点（坏 10、高台付坏 1、短頸壺 4、甕類 10）、灰釉陶器片 1 点（短頸壺）、陶器片 2 点（短頸壺、香炉）、土製品 1 点（管状土錘）、石器 1 点（砥石）、金属製品 2 点（刀子、釘）、鉄滓 1 点、礫 2 点が出土している。3 は中央部床面から、12 は南部床面と覆土下層から出土した破片が接合したものである。1 は西壁寄り、2・9 は北壁寄り、4・5 は南壁溝寄りの覆土下層から、11・13 は中央部の覆土中層から、6～8・10・14 は覆土中から出土している。

所見 炭化材が床面から出土していることから、焼失した家屋と考えられる。時期は、重複関係や出土土器から 10 世紀前葉と考えられる。

第 23 表 第 217 号 堅穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	12.6	3.9	5.5	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 底部回転糸切り	覆土下層	100% PL32 墨書「永富米」
2	土師器	坏	13.4	4.8	6.2	長石・石英	橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端・底部回転ヘラ削り	覆土下層	100% PL32
3	土師器	坏	13.5	4.8	5.6	長石・石英・黒色粒子・細礫	にぶい黄橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端・底部回転ヘラ削り	床面	70% PL32 ヘラ記号「+」 外面煤付着
4	土師器	坏	[13.8]	4.9	5.9	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端・底部回転ヘラ削り	覆土下層	50% PL32 墨書「太万」
5	土師器	坏	[15.2]	5.5	7.2	長石・石英・黒色粒子・細礫	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端・底部回転ヘラ削り	覆土下層	70% PL33
6	土師器	坏	[13.6]	(3.3)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き	覆土中	5% PL33 墨書「□」 外面煤付着
7	土師器	坏	-	(3.4)	-	長石・石英	灰黄褐	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き	覆土中	5% 墨書「□」
8	土師器	坏	-	(1.6)	[6.0]	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端・底部回転ヘラ削り	覆土中	5% 墨書「□」
9	須恵器	坏	[13.0]	5.0	[5.4]	長石・石英・細礫	黄灰	普通	口縁部、体部外・内面ロクロナデ	覆土下層	20% PL33 ヘラ記号「+」 木葉下窯
10	須恵器	坏	-	-	-	長石・石英	褐灰	普通	底部回転ヘラ削り後ナデ	覆土中	5% PL33 ヘラ記号「+」 木葉下窯
11	土師器	皿	[11.8]	(1.7)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き	覆土中層	5% PL33 墨書「□」
12	土師器	高台付皿	12.8	3.3	6.2	長石・石英	にぶい褐	良好	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り後高台貼付け	床面 覆土下層	100% PL33 墨書「東」
番号	器種	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考	
13	管状土錘	(3.3)	1.2~1.3	0.4	(4.64)	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	外面ナデ 穿孔 片方欠損	覆土中層		
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考		
14	刀子	(5.2)	(1.3)	0.3	(4.62)	鉄	刃部欠損 茎部欠損・木質付着 刀身断面四角形	覆土中			



第 62 図 第 217 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 218 号竪穴建物跡 (第 63 図 PL 9)

位置 C 区北部の O 2h6 区, 標高 44 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 1 号掘り込み遺構に掘り込まれている。

規模と形状 重複や攪乱を受けていることから, 南北軸 3.70 m, 東西軸 2.83 m しか確認できなかった。主軸方向は N - 19° - W で, 方形または長方形と推定できる。壁は高さ 22 ~ 28 cm で, ほぼ直立している。

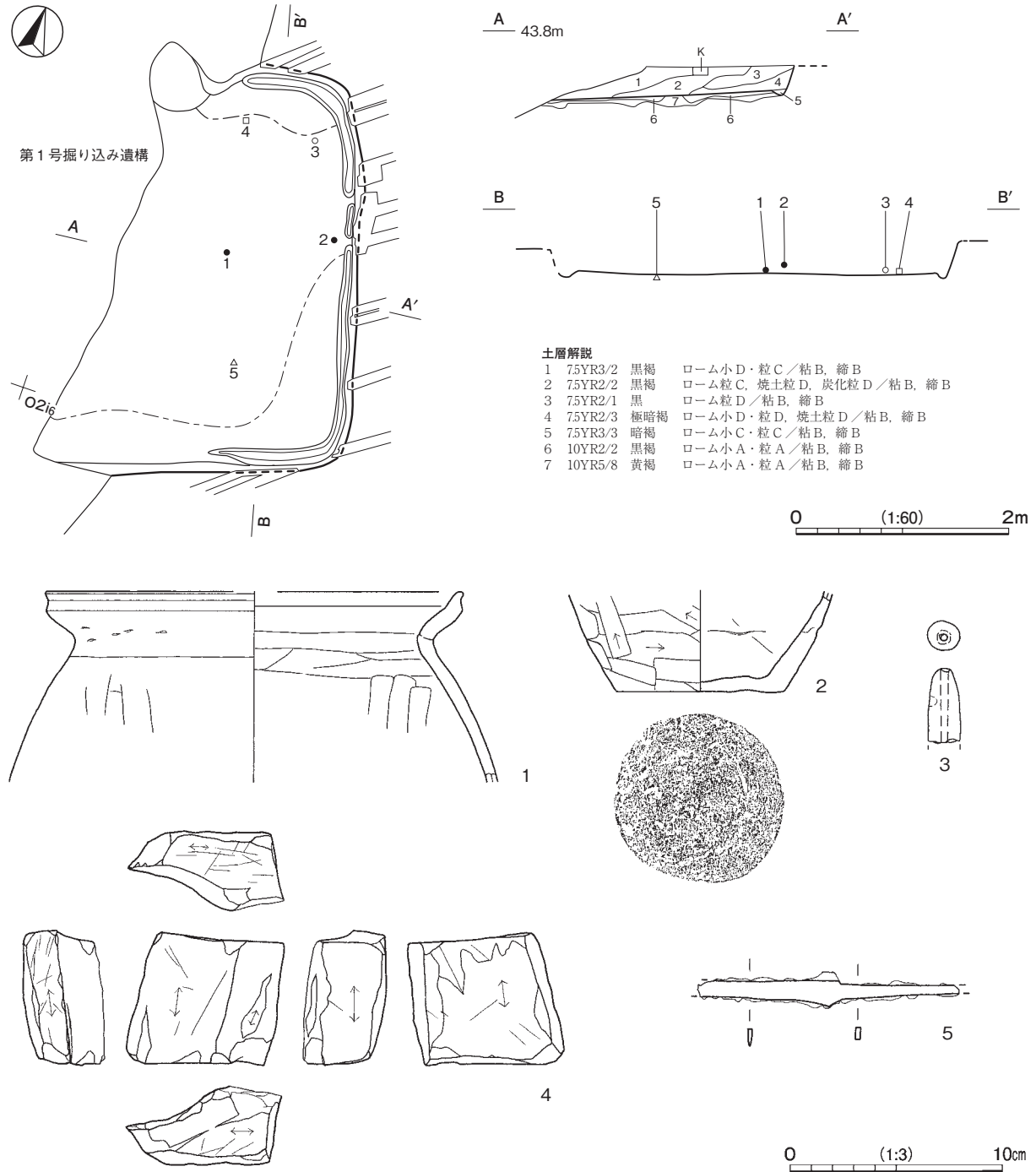
床 平坦で, 中央部が全体に踏み固められている。貼床はロームブロックやローム粒子を含む第 6・7 層を 5 ~ 10 cm ほど埋土して構築されている。壁溝が北東コーナー部から南東コーナー部にかけて巡っている。

竈 北壁に付設されていた痕跡が残る。確認できた規模は焚口部から煙道部まで 65 cm ほどである。火床面は赤変硬化していない。

覆土 5層に分層できる。東部から西部に向かって規則的に堆積している状況から、自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師器片 257 点 (坏 47, 高台付坏 2, 皿 3, 鉢 3, 甕類 202), 須恵器片 15 点 (坏 3, 短頸壺 1, 甕類 11), 土製品 1 点 (管状土錘), 石器 2 点 (砥石), 金属製品 1 点 (刀子) が出土している。1 は中央部, 4 は竈寄りの床面から, 2 は東壁寄り, 3 は北東コーナー部の覆土下層から, 5 は南壁寄りの掘方の埋土から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から 9 世紀代と考えられる。



第 63 図 第 218 号 竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 24 表 第 218 号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	甕	[19.4]	(9.0)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ 輪積み痕	床面	5%
2	土師器	甕	-	(4.8)	7.9	長石・石英・赤色粒子・細礫	にぶい赤褐	普通	体部外面へら削り 輪積み痕	覆土下層	5% 外面煤付着

番号	器種	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
3	管状土錘	(3.5)	1.4~1.5	0.4	(7.46)	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	外面ナデ 穿孔 片方欠損	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4	砥石	6.3	7.4	3.8	(210.2)	粘板岩	砥面7面 浅いくぼみに研き痕	床面	PL43

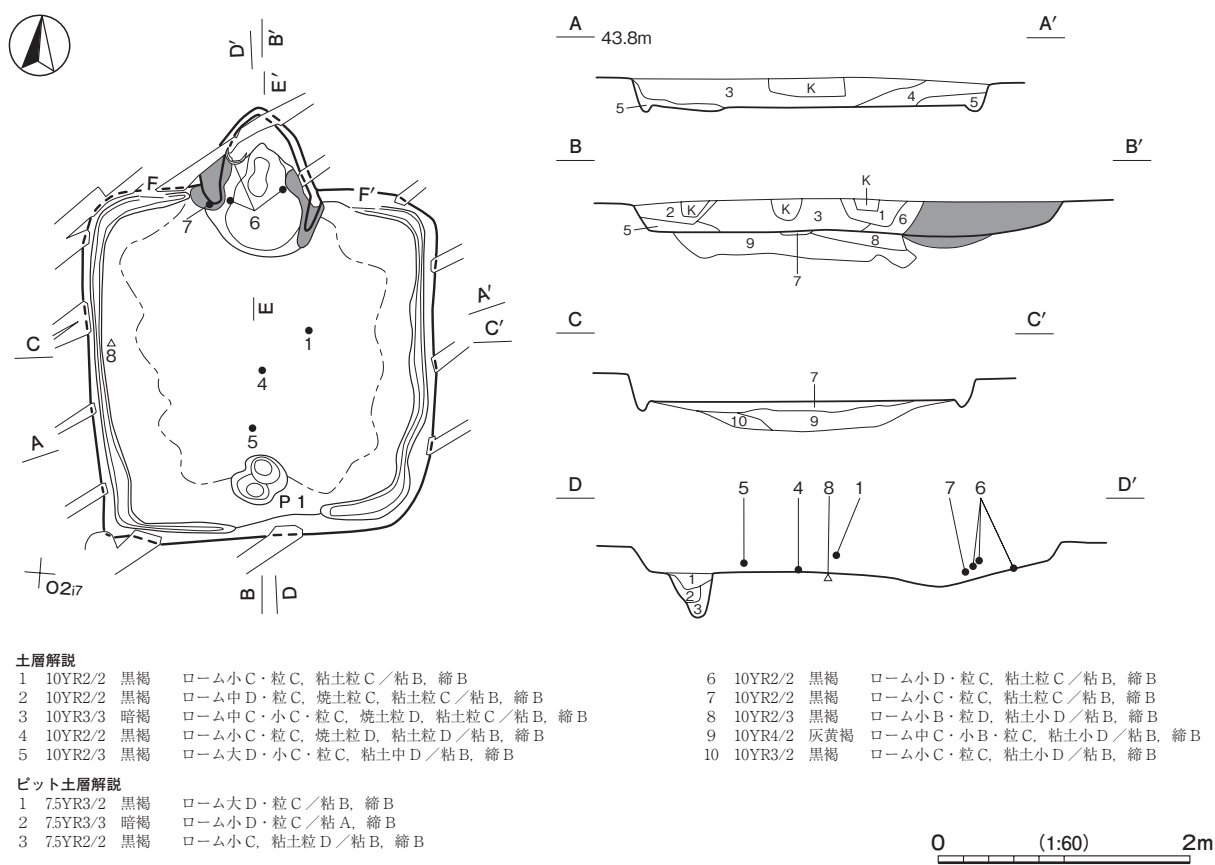
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
5	刀子	(12.3)	1.2	(0.2)	(12.97)	鉄	刃部先端部欠損 茎部欠損 刃部断面三角形 両関	掘方埋土	PL44

第 219 号竪穴建物跡 (第 64 ~ 66 図 PL 9)

位置 C区北部のO2h7区, 標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 一部攪乱を受けているが, 長軸2.82m, 短軸2.80mの方形で, 主軸方向はN-0°である。壁は高さ22cmほどで, 外傾している。

床 平坦で, 中央部が全体に踏み固められている。貼床は粘土ブロックやローム粒子を含む第7~10層を25



第 64 図 第 219 号竪穴建物跡実測図

cmほど埋土して構築されている。壁溝が出入口付近を除いて全周している。

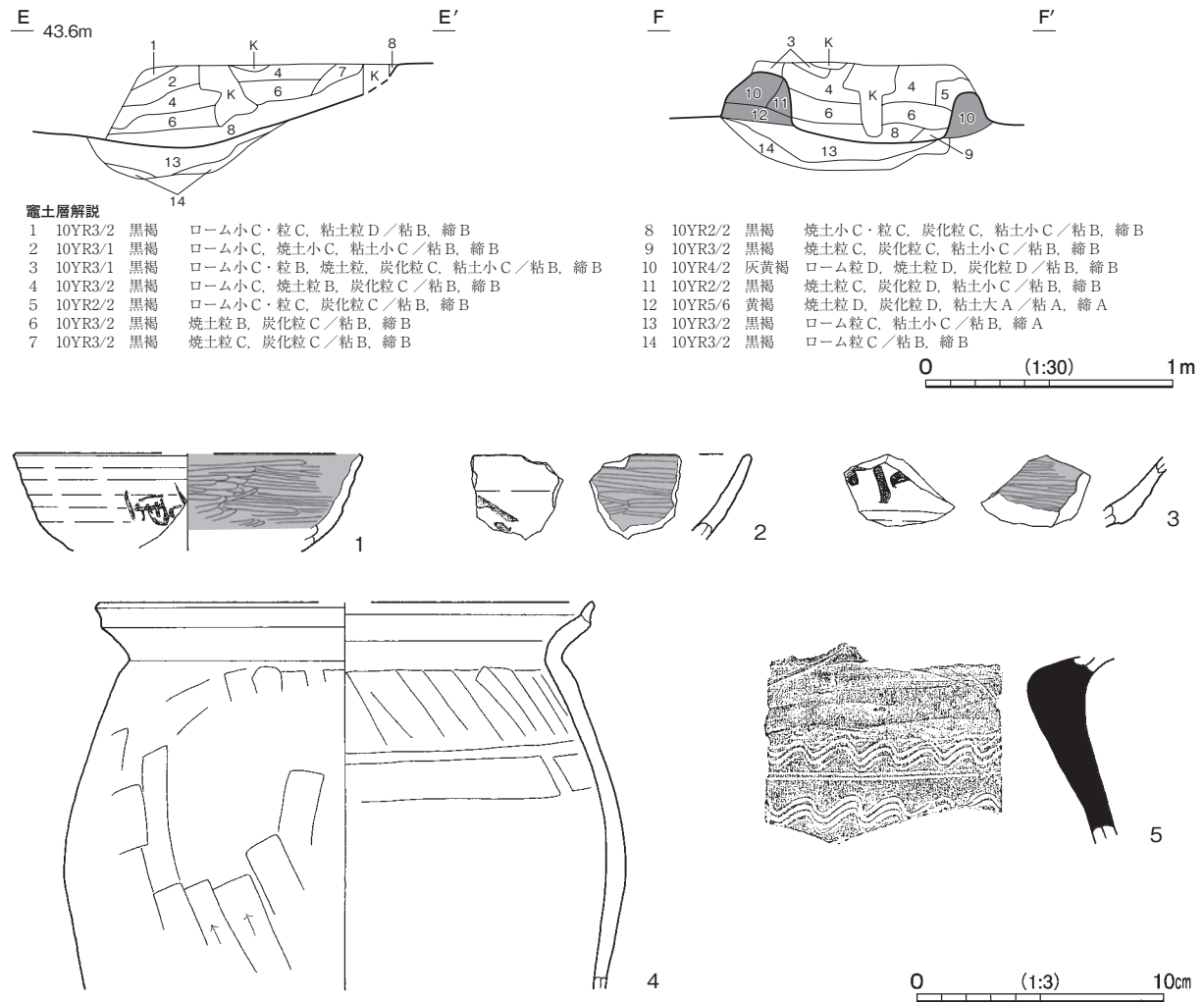
竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで120cmで、燃焼部幅は60cmである。袖部は床面から深さ20cmほど浅く掘りくぼめ、第13・14層を埋土して整地した後、粘土ブロックやローム粒子・焼土粒子を含む第10～12層を積み上げて構築されている。火床面は赤変硬化していない。煙道部は壁外に60cm掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。

ピット P1は深さ34cmで、竈に対面した南壁際に位置しており、出入口施設に伴うピットと考えられる。

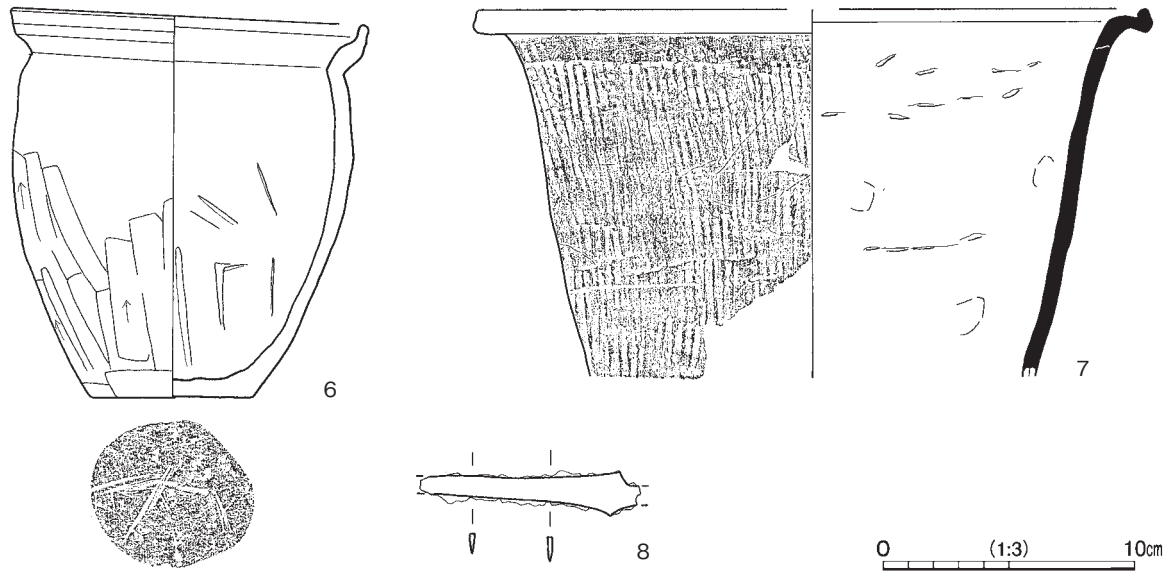
覆土 6層に分層できる。不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片188点（坏21，高台付坏3，小型甕1，甕類163），須恵器片20点（坏3，高台付坏1，甕類15，甗1），金属製品3点（刀子），鉄滓1点が出土している。4は中央部の床面から、6は竈内の底面と覆土下層から出土した破片が接合したものである。5はP1寄り、7は竈左袖の覆土下層から出土している。1は中央部の覆土中層から、8は西壁寄りの掘方の埋土から、2・3は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第65図 第219号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第 66 図 第 219 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 25 表 第 219 号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[13.9]	(4.0)	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き	覆土中層	10% PL33 墨書「□里」
2	土師器	坏	-	(3.4)	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き	覆土中	5% 墨書「□」
3	土師器	坏	-	(2.9)	-	長石・石英	橙	普通	体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き	覆土中	5% PL33 墨書「□」
4	土師器	甕	[20.0]	(15.7)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	床面	10% 外面煤附着
5	須恵器	甕	-	(7.5)	-	長石・石英	暗灰黄	普通	頸部外面3本1組の櫛歯状工具による波状文	覆土下層	5%
6	土師器	小型甕	14.0	15.5	6.3	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面棒状の工具痕	竈内	80% PL33
7	須恵器	甗	[26.5]	(14.6)	-	長石・石英	灰褐	普通	体部外面擬格子叩き 内面指頭圧痕 輪積み痕	覆土下層	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
8	刀子	(8.8)	1.8	0.2	(9.6)	鉄	刃部先端部欠損 茎部欠損 刃部断面三角形 不均等両閃	掘方埋土	PL44

第 220 号竪穴建物跡 (第 67・68 図 PL 9)

位置 C区北部のO219区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

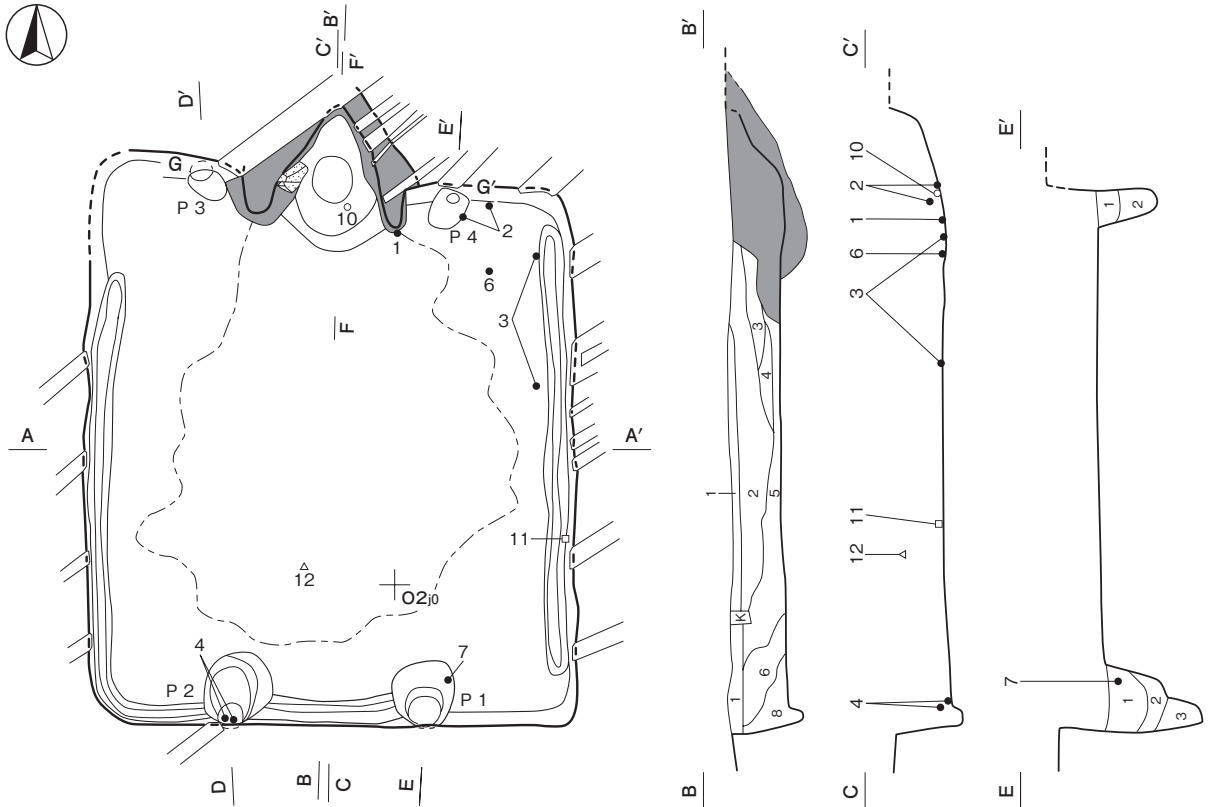
規模と形状 北東部から南西部にかけて攪乱を受けているが、長軸4.54m、短軸3.91mの長方形で、主軸方向はN-1°-Wである。壁は高さ38~46cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が全体に踏み固められている。壁溝が北部と南東コーナー部を除いて巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。確認できた規模は焚口部から煙道部まで120cmほどで、燃烧部幅は70cmである。袖部は地山を浅く掘りくぼめ、ローム粒子や粘土粒子を含む第11~14層を埋土して整地した後、砂質粘土を積み上げ、補強材として凝灰質泥岩の切り石を使用して構築されている。火床部は楕円形にくぼんでおり、火床面は赤変硬化していない。煙道部は壁外に65cm掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。

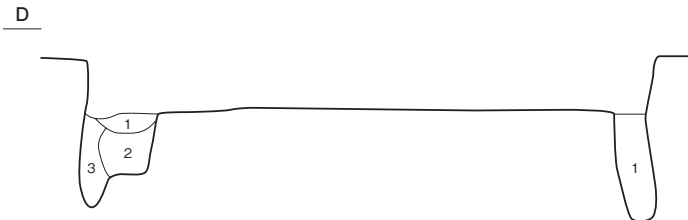
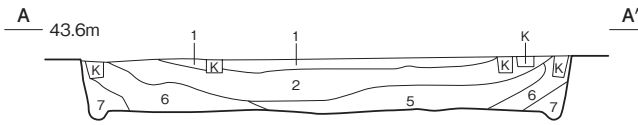
ピット 4か所。P1~P4は深さ50~85cmほどの壁際にある柱穴で支柱穴と考えられる。

覆土 8層に分層できる。第1・2層はローム粒子や焼土粒子が含まれているが、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。



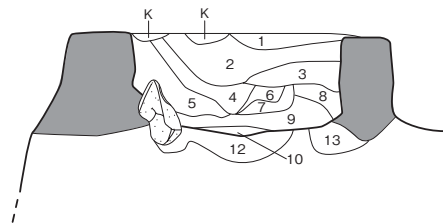
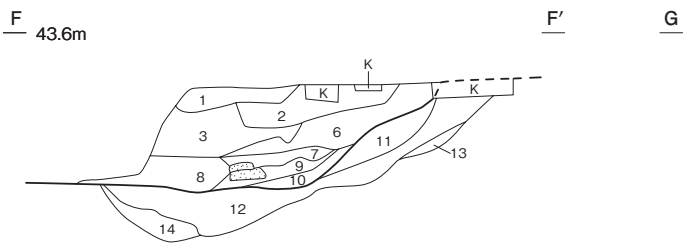
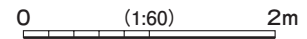
土層解説

- | | | | |
|---|---------|-----|-------------------------------|
| 1 | 10YR2/1 | 黒 | ローム粒C, 焼土小D・粒D / 粘B, 締B |
| 2 | 10YR2/2 | 黒褐 | ローム小C・粒C, 焼土小C, 粘土粒C / 粘B, 締B |
| 3 | 10YR6/2 | 灰黄褐 | 焼土中D, 粘土粒D / 粘B, 締B |
| 4 | 10YR3/2 | 黒褐 | ローム粒C, 焼土粒B / 粘B, 締B |
| 5 | 10YR3/1 | 黒褐 | ローム中D・粒C, 焼土小D / 粘B, 締B |
| 6 | 10YR2/2 | 黒褐 | ローム中D・小C・粒C, 焼土大D / 粘B, 締B |
| 7 | 10YR3/3 | 暗褐 | ローム大D・小C・粒C / 粘B, 締B |
| 8 | 10YR3/4 | 暗褐 | ローム中D・小C・粒C / 粘B, 締B |



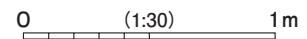
ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | | | |
|---|----------|----|----------------|
| 1 | 7.5YR2/2 | 黒褐 | ローム粒C / 粘B, 締B |
| 2 | 7.5YR3/3 | 暗褐 | ローム粒B / 粘B, 締B |
| 3 | 7.5YR3/2 | 黒褐 | ローム粒B / 粘B, 締B |



電土層解説

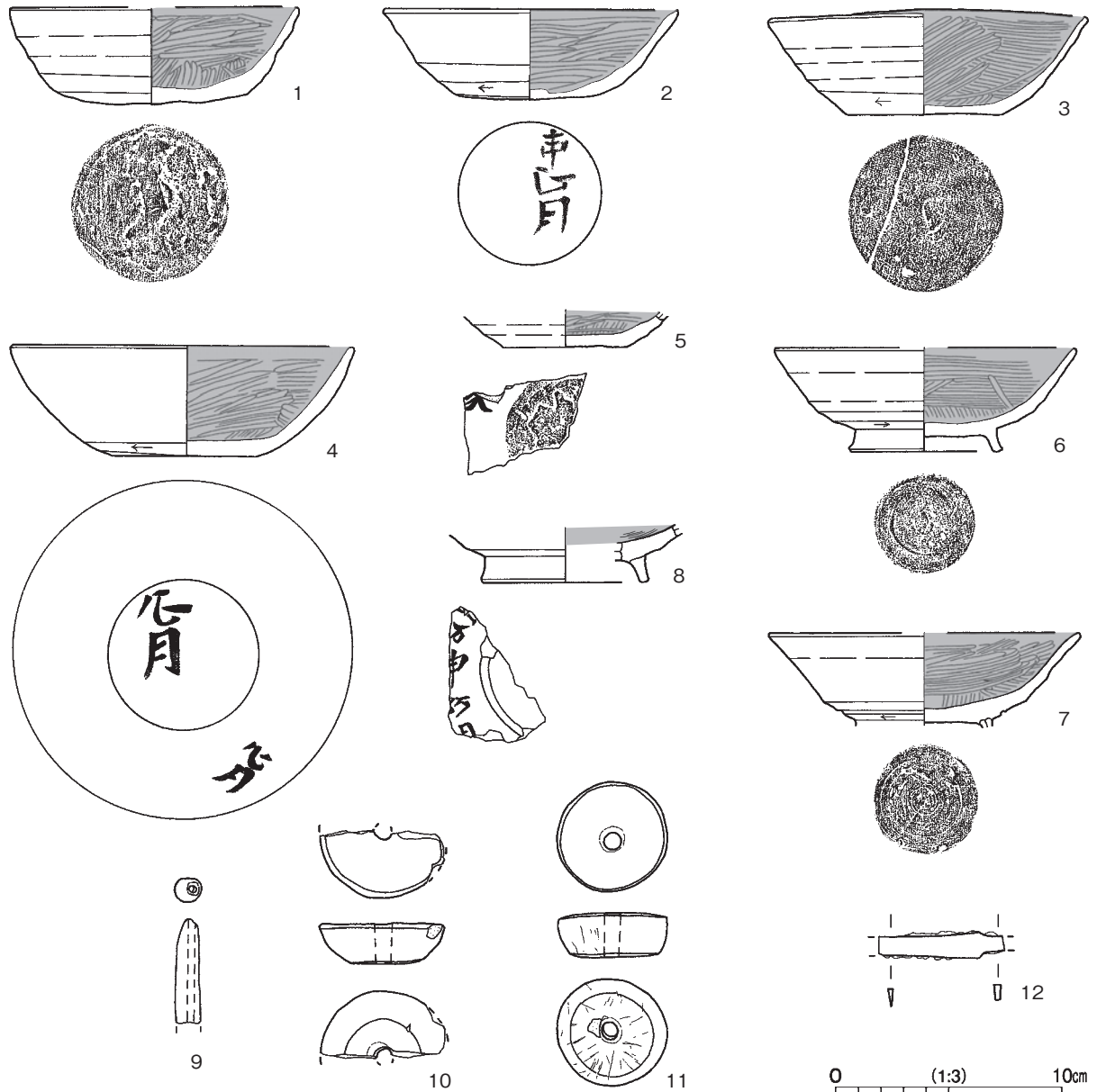
- | | | | |
|----|---------|------|----------------------------------|
| 1 | 10YR2/3 | 黒褐 | ローム中D, 焼土中D・小C / 粘B, 締B |
| 2 | 10YR4/2 | 灰黄褐 | 焼土小C, 粘土小C / 粘A, 締B |
| 3 | 10YR6/2 | 灰黄褐 | 焼土中C・小C, 粘土小C / 粘A, 締B |
| 4 | 10YR3/2 | 黒褐 | ローム粒C, 焼土粒C, 炭化粒D, 粘土粒B / 粘B, 締B |
| 5 | 5YR3/2 | 暗赤褐 | ローム粒C, 焼土小D・粒C, 粘土粒D / 粘B, 締B |
| 6 | 10YR4/3 | にぶ黄褐 | 焼土粒C, 粘土粒D / 粘B, 締B |
| 7 | 10YR6/2 | 灰黄褐 | 焼土小C・粒C, 粘土粒D / 粘B, 締B |
| 8 | 10YR2/3 | 黒褐 | ローム中D・小C, 焼土粒C, 粘土粒C / 粘B, 締B |
| 9 | 10YR2/2 | 黒褐 | ローム粒C, 焼土粒D, 粘土粒C / 粘B, 締B |
| 10 | 25YR5/3 | にぶ赤褐 | 焼土粒A, 炭B / 粘C, 締B |
| 11 | 5YR4/3 | にぶ赤褐 | 焼土小C・粒D, 炭化粒D / 粘A, 締A |
| 12 | 10YR3/3 | 暗褐 | 焼土小D・粒D, 炭化粒D / 粘A, 締A |
| 13 | 10YR4/4 | 褐 | 粘土粒D / 粘A, 締B |
| 14 | 10YR3/4 | にぶ黄褐 | ローム粒C, 粘土小B・粒C / 粘A, 締B |



第 67 図 第 220 号 竪穴建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片 457 点 (坏 89, 高台付坏 17, 皿 2, 甕類 349), 須恵器片 41 点 (坏 16, 高台付坏 3, 盤 1, 短頸壺 1, 甕類 20), 灰釉陶器片 2 点 (壺), 陶器片 3 点 (甕類), 土製品 2 点 (管状土錘, 紡錘車), 石器 1 点 (紡錘車), 金属製品 3 点 (刀子, 釘, 錠), 鉄滓 1 点が出土している。1 は竈右袖部前, 3 は東壁溝寄り, 6 は北東コーナー部, 11 は東壁際の床面から出土している。10 は竈内の底面, 2 は右袖部寄りの床面から覆土下層, 4 は南壁際の床面と覆土下層から出土した破片が接合したものである。7 は P 1, 12 は中央部南寄りの覆土上層から出土している。5・8・9 は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から 9 世紀後葉と考えられる。



第 68 図 第 220 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 26 表 第 220 号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[12.5]	4.3	7.0	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り後ナデ	床面	80% PL33

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
2	土師器	坏	13.0	4.0	6.2	長石・石英・細礫	にぶい褐	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端・底部回転ヘラ削り後ナデ	床面 覆土下層	90% PL34 墨書「心月」 外面煤付着
3	土師器	坏	13.9	4.7	6.8	長石・石英・角閃石	にぶい橙	良好	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端・底部回転ヘラ削り後ナデ	床面	90% PL34
4	土師器	坏	15.0	4.9	6.5	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端・底部回転ヘラ削り	床面 覆土下層	90% PL34 墨書「心月」 外面煤付着
5	土師器	坏	-	(1.5)	[5.4]	長石・石英・細礫	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	覆土中	5% PL34 墨書「家」
6	土師器	高台付坏	[13.0]	4.6	6.4	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り後高台貼付け	床面	30% PL34
7	土師器	高台付坏	[13.6]	(4.1)	-	長石・石英・細礫	にぶい褐	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端・底部回転ヘラ削り 高台欠損	P1 覆土上層	50%
8	土師器	高台付坏	-	(2.6)	[7.2]	長石・石英	にぶい褐	普通	内面ヘラ磨き 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り後高台貼付け	覆土中	5% PL34 墨書「万中」

番号	器種	径	孔径	長さ(厚さ)	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
9	管状土錘	10~11	0.3	(4.6)	(7.0)	長石・石英	明赤褐	外面ナデ 穿孔 片方欠損	覆土中	
10	紡錘車	[5.5]	[0.8]	1.8	(28.5)	長石・石英	赤灰	上・下面一部剥離 一方向からの穿孔	竈内	

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
11	紡錘車	4.8~4.9	0.7	1.9	(46.2)	凝灰岩	片面研磨 一方向からの穿孔	床面	PL43

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
12	刀子	(5.5)	1.2	0.4	(7.4)	鉄	刃部先端部欠損 茎部欠損 刃部断面三角形 両関	覆土上層	

第221号竪穴建物跡（第69・70図 PL9）

位置 C区北部のO2i8区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第222号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 竪穴建物に一部掘り込まれているが、長軸4.00m、短軸3.65mの方形で、主軸方向はN-11°-Wである。壁は高さ46cmほどで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が全体に踏み固められている。壁溝が西壁の一部を除いて巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで145cmで、燃焼部幅は63cmである。袖部は地山の上に粘土ブロックやローム粒子を含む第9層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に浅く掘りくぼめ、焼土ブロックやローム粒子を含む第10・11層を埋土としている。火床面は第10層上面で、赤変硬化している。煙道部は壁外に80cm掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。

覆土 4層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

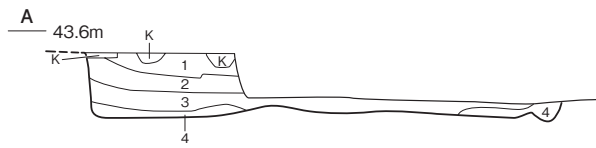
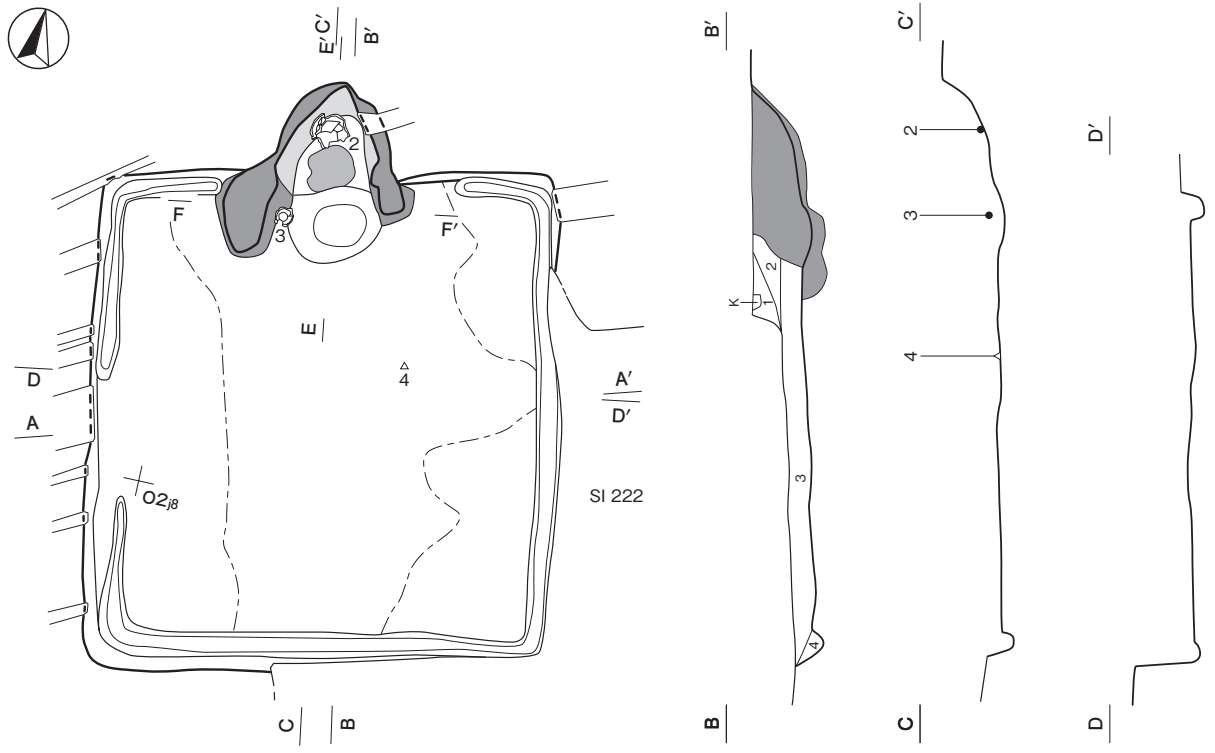
遺物出土状況 土師器片279点（坏23、高台付坏3、皿2、甕類251）、須恵器片14点（坏4、蓋1、短頸壺1、甕類8）、金属製品1点（刀子）が出土している。4は中央部の床面から、2は竈内の底面から、3は竈内の覆土下層から、1は覆土中から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀後葉と考えられる。

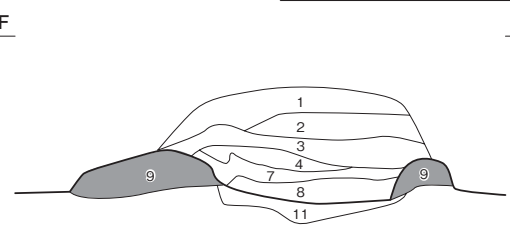
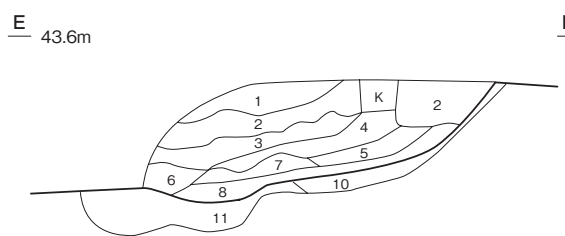
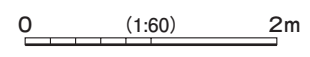
第27表 第221号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[15.4]	5.2	7.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端回転ヘラ削り後ナデ	覆土中	30%
2	土師器	甕	[20.0]	(28.1)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ヘラナデ 体部内面指頭圧痕	竈内	30% 外面煤付着
3	土師器	甕	-	(3.5)	8.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外・内面ナデ	竈内	5% ヘラ記号「+」

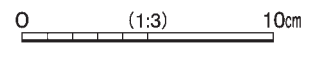
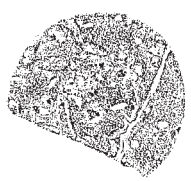
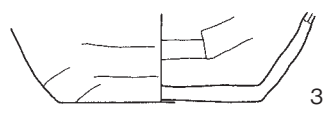
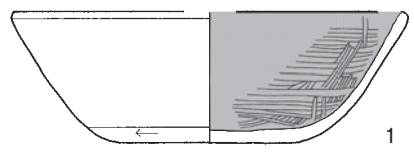
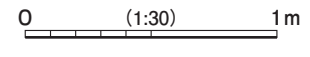
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4	刀子	(11.2)	1.1	0.2	(13.4)	鉄	刃部先端部欠損 茎部欠損・木質付着 刃部断面三角形 両関	床面	PL44



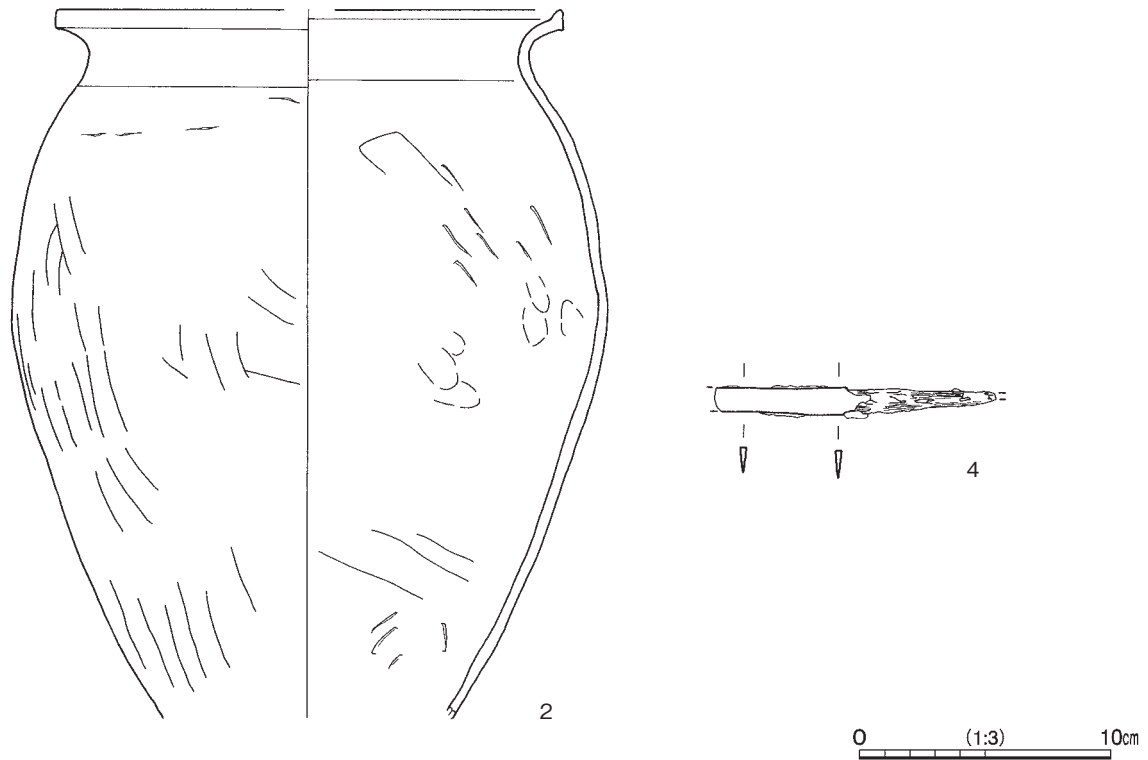
- 土層解説**
- | | | |
|---|------------|-----------------------|
| 1 | 10YR3/2 黒褐 | ローム小D・粒C, 焼土小D/粘B, 締B |
| 2 | 10YR2/3 黒褐 | ローム粒B, 焼土粒D/粘B, 締B |
| 3 | 10YR3/2 黒褐 | ローム小D・粒C, 炭化粒D/粘B, 締B |
| 4 | 10YR3/4 暗褐 | ローム小D・粒C/粘B, 締B |



- 竈土層解説**
- | | | | | | |
|---|-------------|--------------------------------|----|-------------|--------------------------|
| 1 | 10YR3/2 黒褐 | ローム中C・小C・粒C, 焼土小D・粒C・小C/粘B, 締B | 7 | 10YR3/4 暗褐 | ローム粒C, 焼土中C・小C・粒D/粘B, 締B |
| 2 | 10YR3/3 暗褐 | 焼土小D, 粘土小C/粘B, 締B | 8 | 5YR3/4 暗赤褐 | ローム大D・中C, 焼土小C・粒C/粘B, 締B |
| 3 | 10YR4/2 灰黄褐 | ローム中D, 焼土小D・粒D, 粘土粒C/粘B, 締B | 9 | 10YR3/2 黒褐 | ローム粒C, 焼土粒D, 粘土小C/粘B, 締B |
| 4 | 10YR3/2 黒褐 | ローム粒C, 焼土中D・粒C, 炭化物D/粘B, 締B | 10 | 5YR3/6 暗赤褐 | 焼土小A/粘C, 締A |
| 5 | 10YR3/2 黒褐 | 焼土粒C・粘土粒D/粘B, 締B | 11 | 10YR4/2 灰黄褐 | ローム粒D, 焼土小C, 炭化粒D/粘B, 締B |
| 6 | 10YR2/3 黒褐 | ローム小D・粒C, 焼土小D・粒D, 粘土粒D/粘B, 締B | | | |



第 69 図 第 221 号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第70図 第221号竪穴建物跡出土遺物実測図

第222号竪穴建物跡 (第71図 PL 9)

位置 C区北部のO2i8区, 標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第221号竪穴建物跡を掘り込み, 第1272・1273号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 一部攪乱を受けているが, 長軸4.12m, 短軸3.35mの長方形で, 主軸方向はN-8°-Wである。壁は高さ22~34cmで, ほぼ直立している。

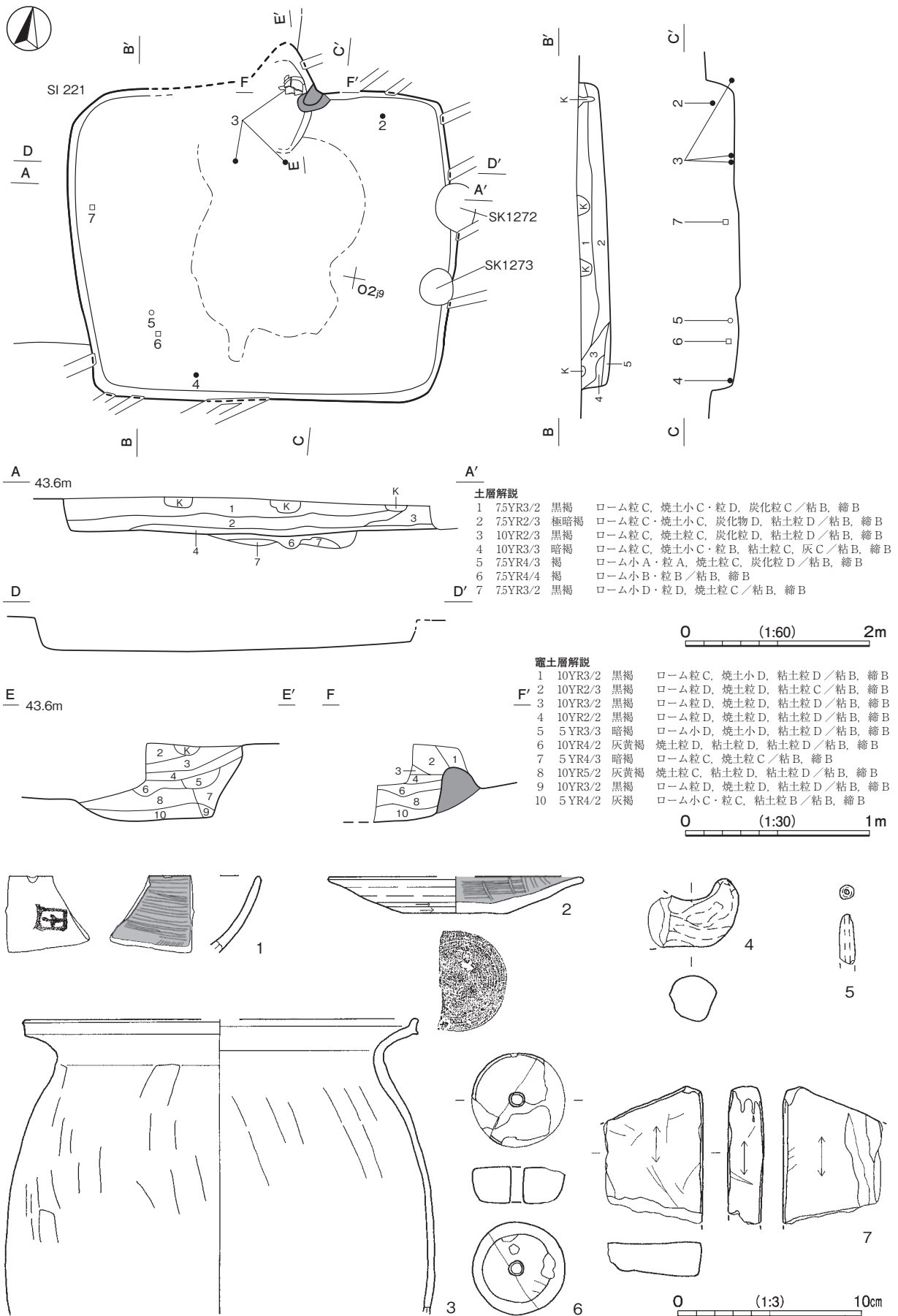
床 平坦で, 中央部が踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第6・7層を10~15cmほど埋土して構築されている。

竈 北壁中央部に付設されていた痕跡が残る。確認できた規模は焚口部から煙道部まで120cmである。袖部は右袖部がわずかに遺存している。地山を浅く掘り下げ, その上に砂質粘土を積み上げて構築されている。火床部は浅くくぼんでおり, 火床面は赤変していない。確認できた煙道部は壁外に55cmほど掘り込まれ, 火床面から外傾している。

覆土 5層に分層できる。レンズ状に堆積していることから, 自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片487点(坏112, 高台付坏2, 皿12, 小型甕1, 甕類359, 甗1), 須恵器片47点(坏9, 蓋1, 短頸壺9, 甕類28), 陶器片2点(甕類), 土製品1点(管状土錘), 石器2点(紡錘車, 砥石)が出土している。4は南壁寄りの床面から, 3は竈内と竈付近の床面から出土した破片が接合したものである。5・6は南西部の覆土下層から, 7は西部壁際の覆土中層から出土している。2は北東コーナー部の覆土上層から, 1は覆土中から出土している。

所見 時期は, 重複関係や出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第 71 図 第 222 号 竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 28 表 第 222 号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	-	(4.2)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き	覆土中	5% PL34 墨書「田」
2	土師器	皿	[13.5]	2.0	5.5	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部・外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端・底部回転ヘラ削り	覆土上層	30%
3	土師器	甕	[21.0]	(16.0)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	竈内床面	30%
4	土師器	甌	-	(3.7)	-	長石・石英	明赤褐	普通	把手部ナデ	床面	5%

番号	器種	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
5	管状土錘	(2.7)	0.8	0.3	(1.5)	長石・石英	にぶい橙	外面ナデ 穿孔 片方欠損	覆土下層	

番号	器種	径(長さ)	孔径(幅)	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
6	紡錘車	5.0	0.8	2.0	49.6	凝灰岩	上・下面一部摩滅 片面研磨 一方向からの穿孔	覆土下層	PL43
7	砥石	(7.5)	(5.4)	1.9	(115.1)	粘板岩	砥面3面 浅いくぼみに研き痕	覆土中層	

第 223 号竪穴建物跡 (第 72・73 図 PL 9・10)

位置 C 区北部の P 2b8 区、標高 44 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 1264 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 4.18 m、短軸 3.77 m の長方形で、主軸方向は N-0° である。壁は高さ 30～36 cm で、ほぼ直立している。

床 中央部に若干の盛り上がりが見られるが、ほぼ平坦な床である。中央部がよく踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第 8～10 層を埋土して構築されている。

竈 北壁中央部に付設されている。攪乱を受けているため、確認できた規模は焚口部から煙道部まで 100 cm で、燃焼部幅 75 cm である。袖部は遺存状態が悪く、両袖部の一部が残存している。地山を 10～15 cm ほど掘りくぼめ、ロームブロックや粘土粒子を含む第 10・11 層を埋土した上に、砂質粘土を積み上げて構築されている。左袖部には補強材として凝灰質泥岩の切り石を使用している。火床部は楕円形に浅くくぼんでいる。火床面は第 11 層上面で赤変硬化している。煙道部は壁外に 68 cm ほど掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。

ピット P 1 は深さ 30 cm で、竈に対面した南壁際に位置しており、出入口施設に伴うピットと考えられる。

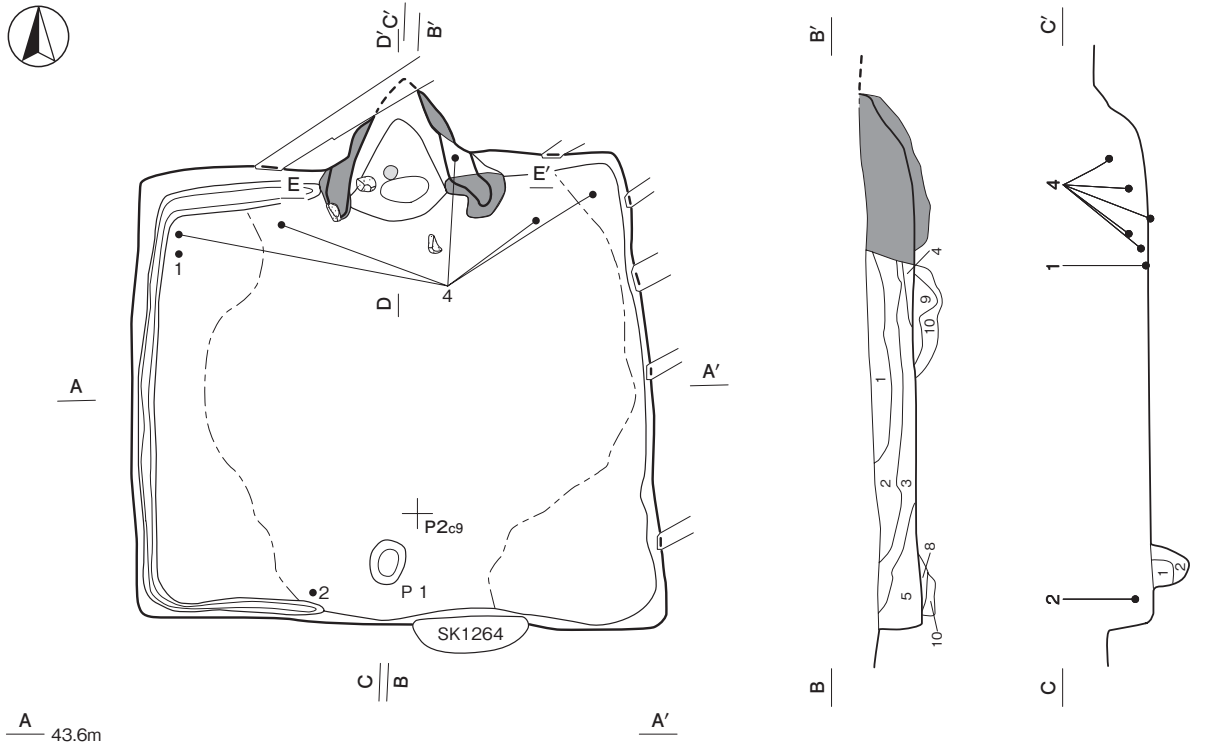
覆土 7 層に分層できる。第 1～3 層はロームブロックが含まれているが、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師器片 150 点 (坏 15、高台付坏 6、甕類 129)、須恵器片 33 点 (坏 15、高台付坏 2、盤 1、短頸壺 1、長頸壺 2、甕類 12)、陶器片 1 点 (甕)、金属製品 1 点 (釘)、鉄滓 1 点が出土している。1 は北西コーナー部の床面から、4 は北東コーナー部と北西コーナー部、竈右袖部、竈左袖部付近の床面から覆土中層にかけて出土した破片が接合したものである。2 は南壁溝寄りの覆土中層から出土している。3 は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から 9 世紀中葉と考えられる。

第 29 表 第 223 号竪穴建物跡出土遺物一覧

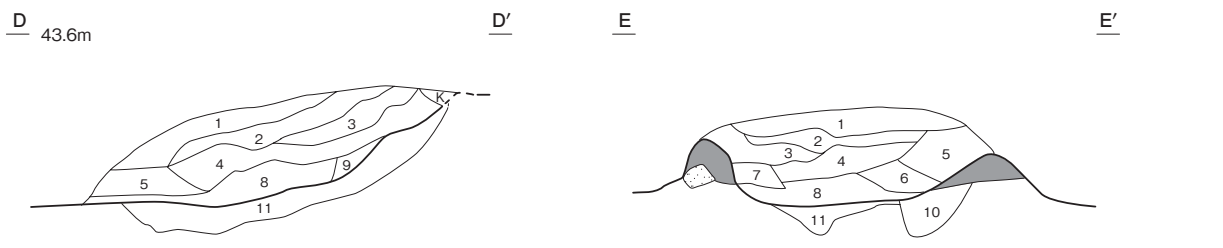
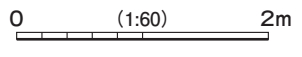
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	高台付坏	11.7	6.2	6.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り後高台貼付け	床面	90% PL34 墨書「一」
2	土師器	高台付坏	13.1	(4.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端・底部回転ヘラ削り 高台欠損	覆土中層	70%
3	土師器	高台付坏	-	(2.8)	-	長石・石英	明赤褐	普通	体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き	覆土中	5% 墨書「□」
4	土師器	甕	[22.2]	(27.6)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	床面 覆土中層	40% 外面煤付着



ピット土層解説
 1 7.5YR2/1 黒 ローム粒C/粘B, 締B
 2 7.5YR3/3 暗褐 ローム粒B/粘B, 締B

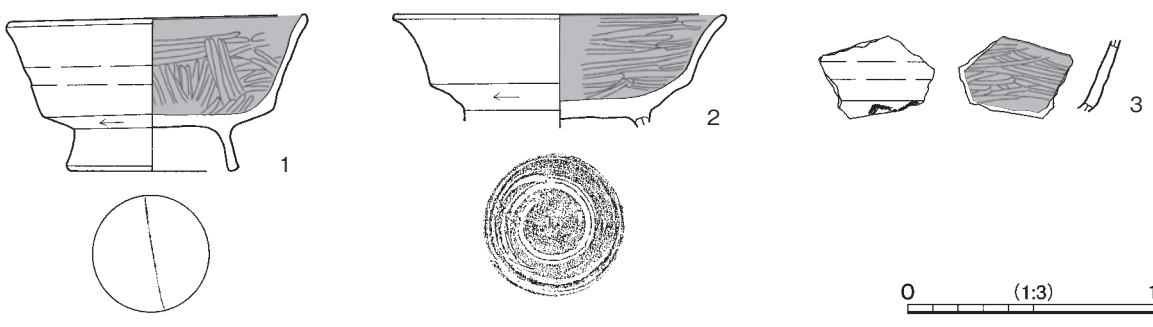
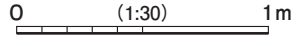
土層解説

1 10YR3/3 暗褐	ローム中B・小A・粒A, 焼土粒C, 炭化粒C/粘B, 締B	6 10YR2/1 黒	ローム中C・小C・粒C, 焼土中C・小C・粒C/粘B, 締B
2 10YR3/2 黒褐	ローム中A・小A・粒A, 焼土小C, 炭化粒C/粘B, 締B	7 10YR3/2 黒褐	ローム大C・中C・小B・粒B, 焼土粒C/粘B, 締B
3 10YR3/1 黒褐	ローム大C・中C・小B・粒B, 焼土小C/粘B, 締B	8 10YR2/2 黒褐	ローム小A・粒A/粘A, 締A
4 10YR2/1 黒	ローム中C・粒B, 焼土小C, 炭化物C/粘B, 締B	9 10YR2/3 黒褐	ローム小A・粒A, 炭化粒D/粘B, 締B
5 10YR2/1 黒	ローム中C・小C・粒C/粘B, 締B	10 10YR5/6 黄褐	ローム小A・粒A/粘A, 締A

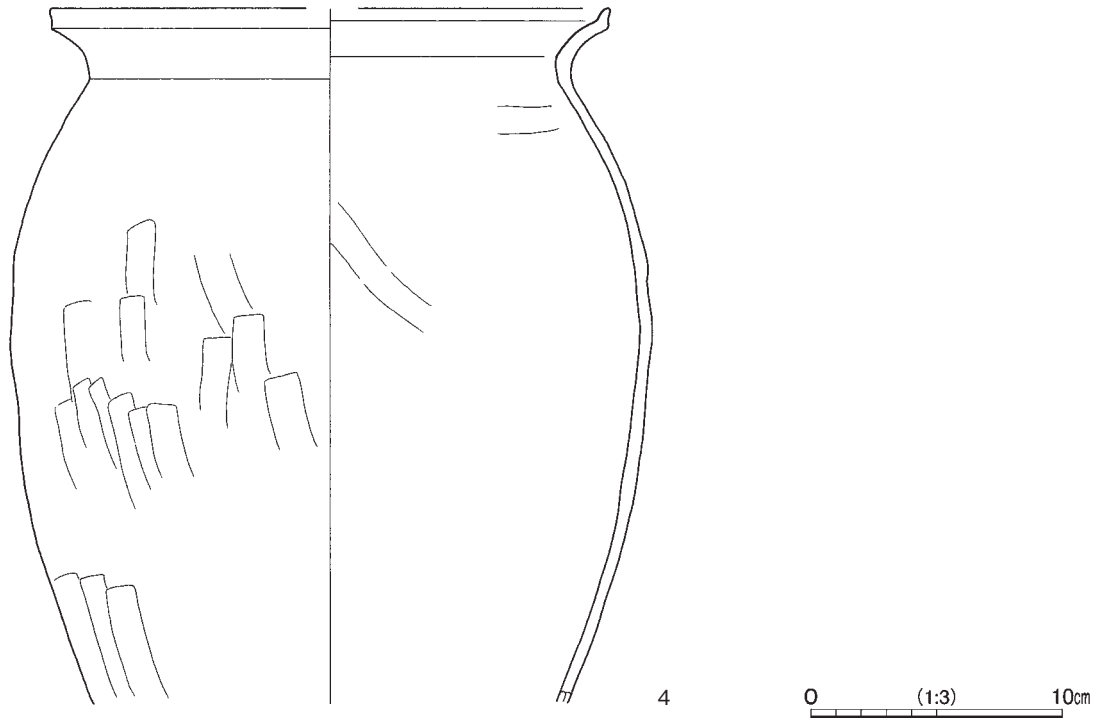


甕土層解説

1 10YR3/4 暗褐	ローム中C・小C・粒B/粘B, 締B	7 10YR3/2 黒褐	粘土粒子D/粘B, 締B
2 10YR2/2 黒褐	ローム小C・粒C, 焼土小D/粘B, 締B	8 5YR3/3 暗赤褐	焼土小・粒B, 粘土中C・小C/粘B, 締B
3 10YR3/1 黒褐	ローム粒C, 焼土粒C, 粘土粒D/粘B, 締B	9 5YR3/4 暗赤褐	ローム中D・小C, 焼土粒C/粘A, 締B
4 10YR2/1 黒	ローム中D・粒C, 焼土小D, 粘土小D/粘B, 締B	10 10YR2/2 黒褐	粘土粒B, 灰D/粘B, 締B
5 10YR2/2 黒褐	ローム小C, 焼土中D・小C, 粘土中C/粘B, 締B	11 10YR3/2 黒褐	ローム小B, 焼土粒D/粘A, 締B
6 10YR2/2 黒褐	ローム小C, 焼土粒D, 粘土中D・小C/粘B, 締B		



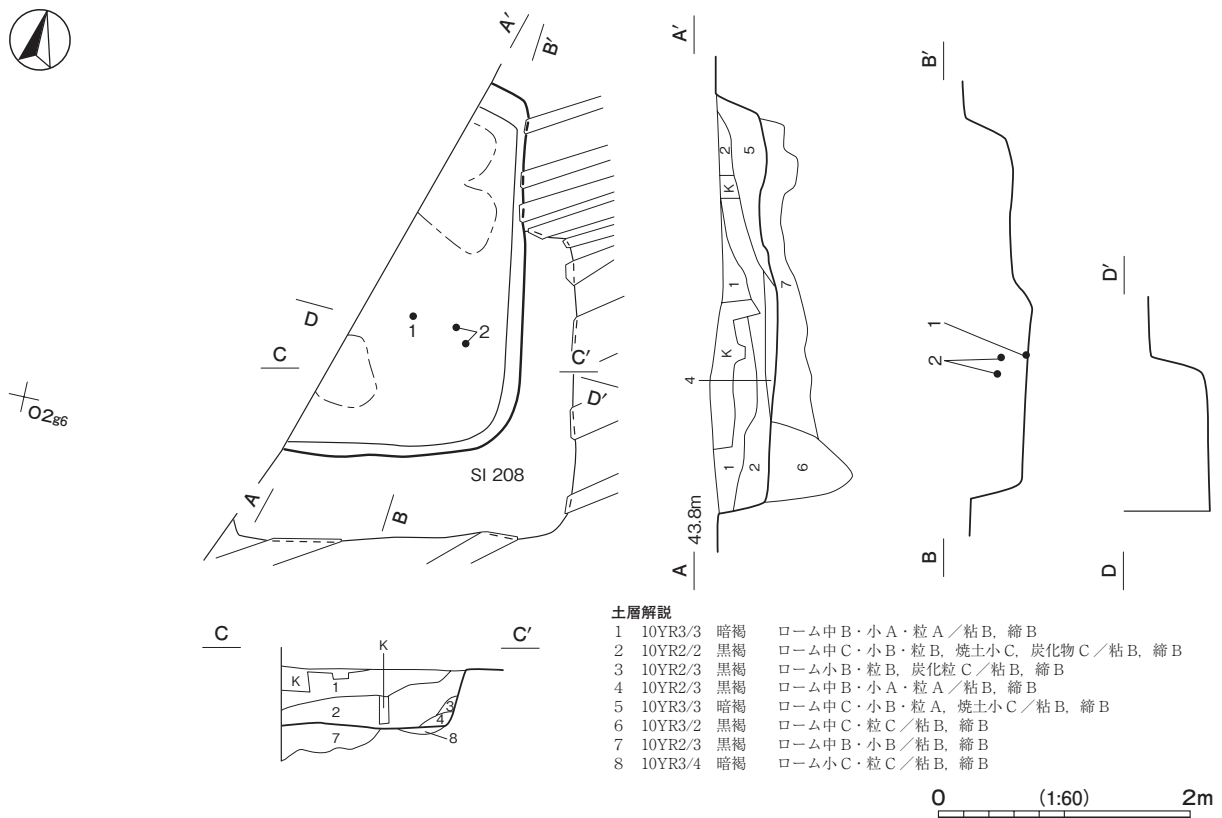
第 72 図 第 223 号 竪穴建物跡・出土遺物実測図



第73図 第223号竖穴建物跡出土遺物実測図

第225号竖穴建物跡 (第74・75図)

位置 C区北部のO2f6区, 標高44mほどの平坦な台地上に位置している。



第74図 第225号竖穴建物跡実測図

重複関係 第208号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

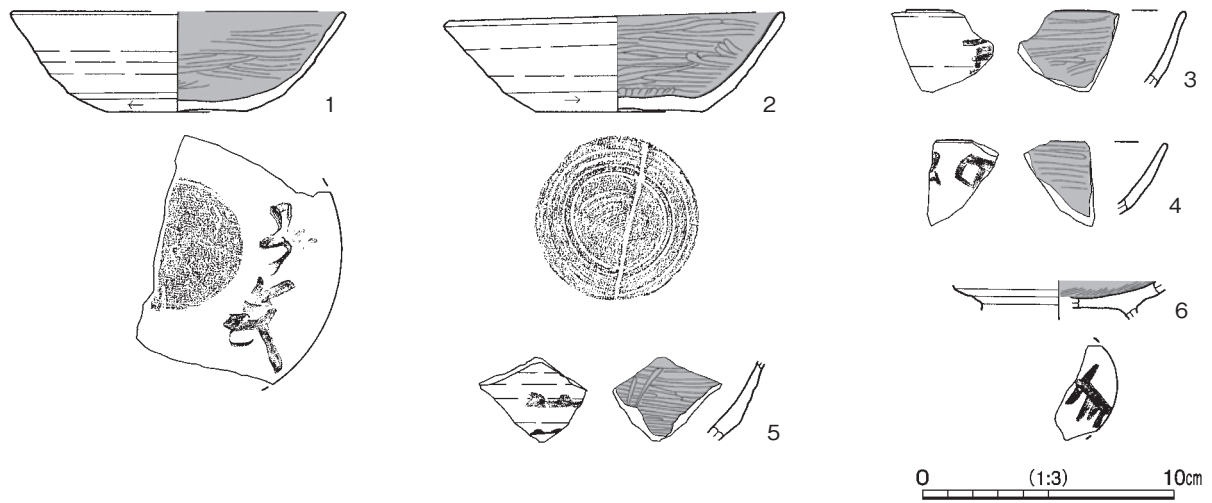
規模と形状 北西部が調査区域外のため、南北軸2.92m、東西軸1.66mしか確認できなかった。主軸方向はN-13°-Wで、方形または長方形と推定できる。壁は高さ46cmほどで、外傾している。

床 緩やかな起伏のある床で、部分的に踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第6～8層を25～65cmほど埋土して構築されている。

覆土 5層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片102点（坏28、高台付坏3、甕類71）、須恵器片6点（坏3、甕類3）が出土している。1は中央部の床面から出土している。2は東壁寄りの覆土中層から出土した破片が接合したものである。3～6は覆土中から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第75図 第225号竪穴建物跡出土遺物実測図

第30表 第225号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[13.0]	4.0	5.5	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端・底部回転ヘラ削り	床面	30% 墨書 PL35 [□□]
2	土師器	坏	13.3	3.9	6.6	長石・石英・赤色粒子・細礫	にぶい赤褐	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端・底部回転ヘラ削り	覆土中層	95% 墨書 PL35
3	土師器	坏	-	(3.1)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き	覆土中	5% 墨書 PL34 「瓦」
4	土師器	坏	-	(2.9)	-	長石・石英	褐	普通	口縁部・外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き	覆土中	5% 墨書 PL34 [□□]
5	土師器	坏	-	(3.3)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き	覆土中	5% 墨書 PL34 [□□]
6	土師器	高台付坏	-	(1.5)	-	長石・石英・赤色粒子・細礫	橙	普通	内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り 高台欠損	覆土中	5% 墨書 PL34 「長」

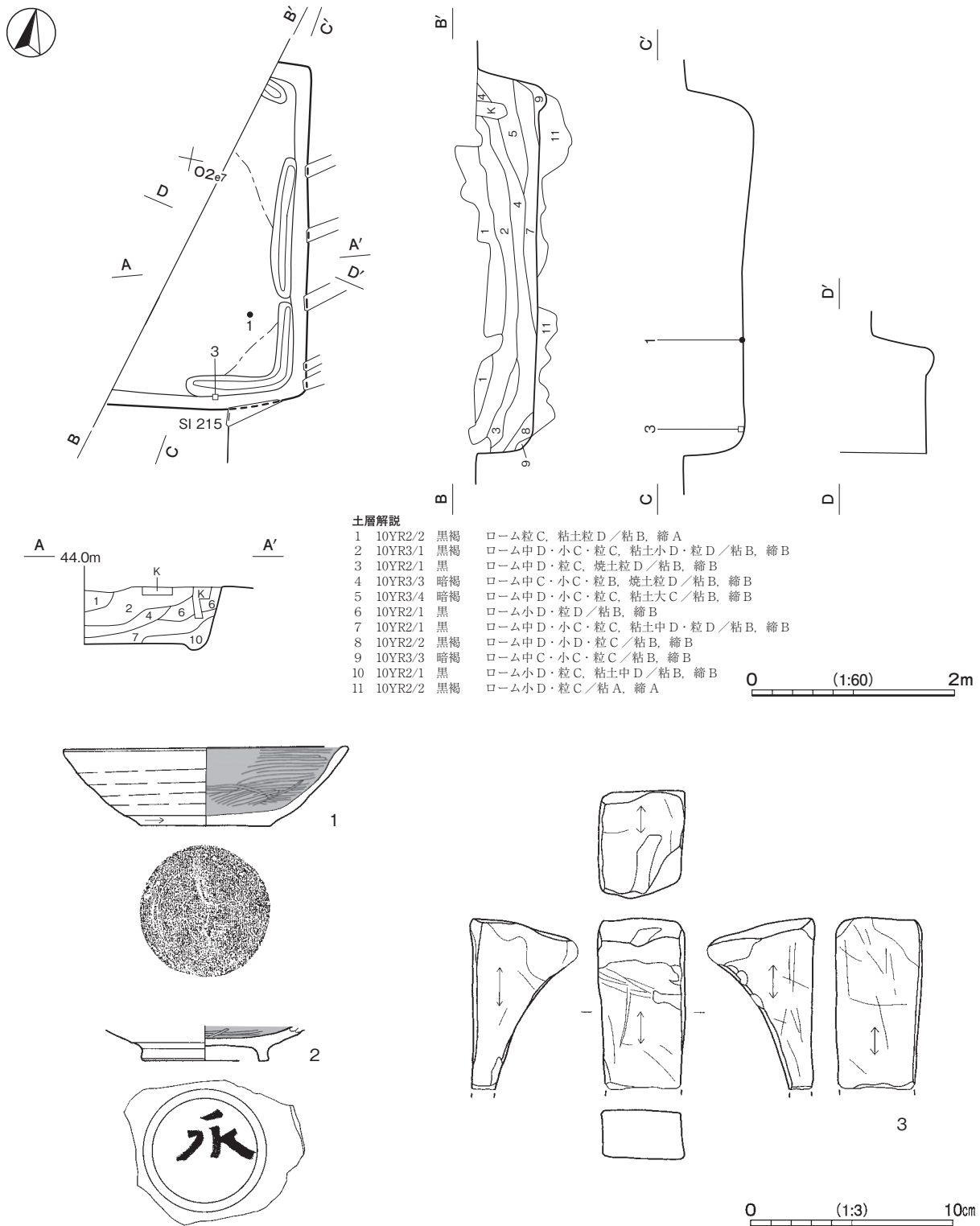
第226号竪穴建物跡（第76図 PL8）

位置 C区北部のO2e7区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第215号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 北西部が調査区域外のため、南北軸は3.30mで、東西軸は1.90mしか確認できなかった。主軸方向はN-10°-Wで、方形または長方形と推定できる。壁は高さ53～66cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第11層を10～35cmほど埋土して構築されている。壁溝は北東から南東コーナー部にかけて断続的に確認された。



第76図 第226号縦穴建物跡・出土遺物実測図

覆土 10層に分層できる。第1～4層はロームブロックや粘土ブロック・焼土粒子が含まれているが、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。第5～10層は周辺の流入土である。

遺物出土状況 土師器片22点（坏7，高台付坏2，甕類13），須恵器片13点（坏1，高台付坏1，甕類11），石器1点（砥石）が出土している。1は南東コーナー部，3は南壁際の床面から，2は覆土中から出土している。

所見 時期は，重複関係や出土土器から10世紀前葉と考えられる。

第 31 表 第 226 号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	13.9	4.0	6.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端・底部回転ヘラ削り	床面	60% PL35
2	土師器	高台付坏	-	(1.7)	6.1	長石・石英	にぶい黄橙	普通	内面ヘラ磨き 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り 後高台貼付け	覆土中	40% PL35 墨書「永」

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3	砥石	(8.5)	4.3	5.3	(186.66)	凝灰岩	砥面5面 くぼみに研き痕	床面	PL43

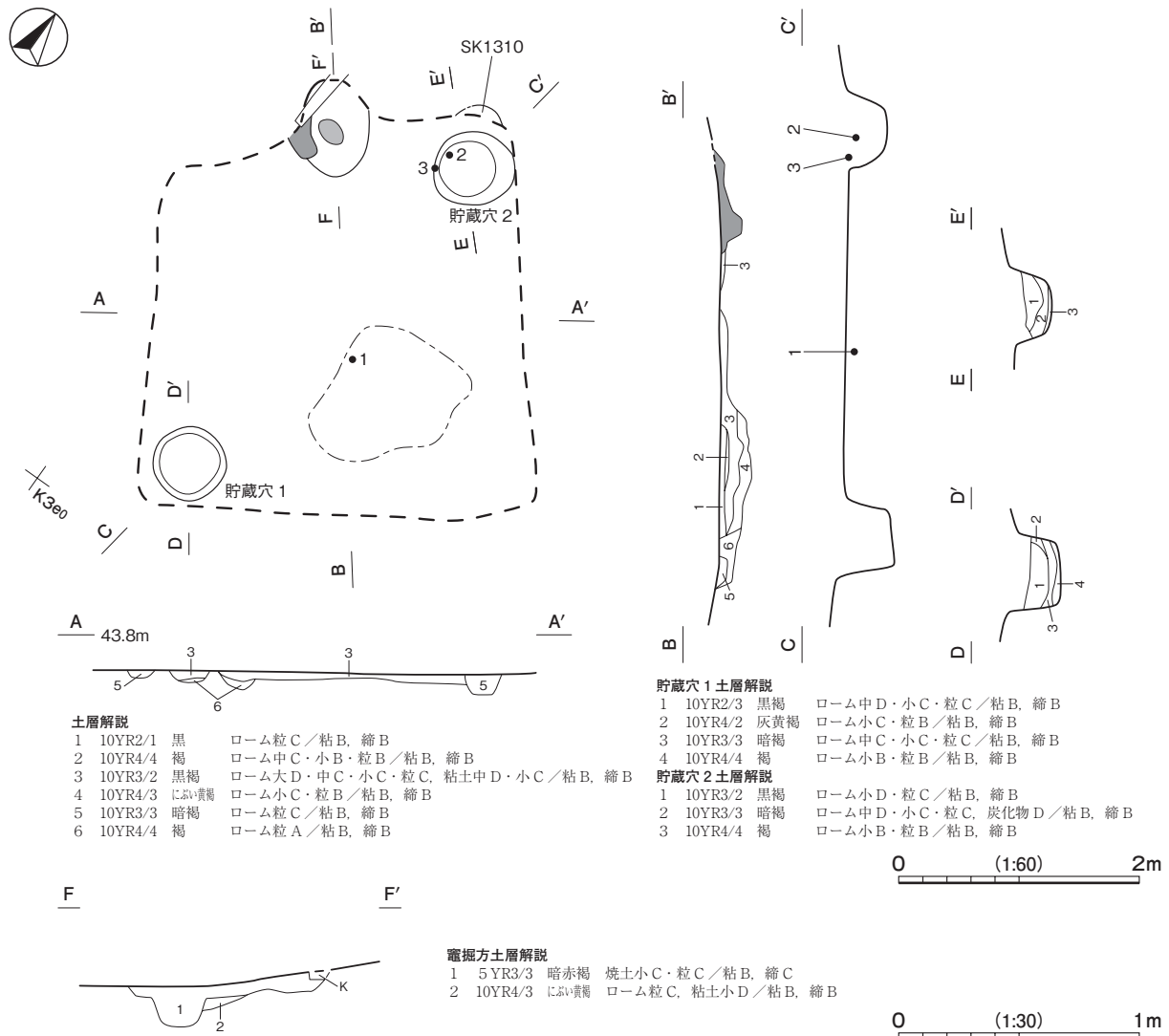
第 227 号竪穴建物跡 (第 77・78 図)

位置 D 区北部の K 3d0 区, 標高 44 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 1310 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 削平されているため, 長軸 3.35 m, 短軸 3.32 m しか確認できなかった。主軸方向は N - 38° - W で, 方形と推定できる。

床 平坦で, 南東部が踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第 1 ~ 6 層を 10 ~ 30 cm ほど埋土して構築されている。



第 77 図 第 227 号竪穴建物跡実測図

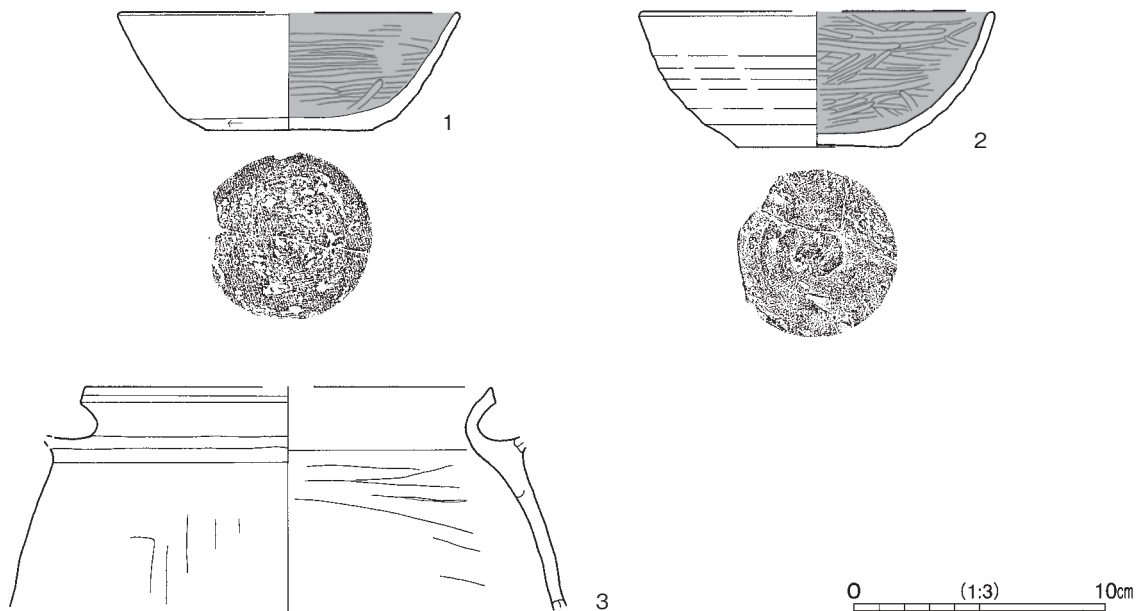
竈 北壁中央部に付設されている。遺存状態が悪く、確認できた規模は焚口部から煙道部まで 80 cm で、燃燒部幅は 45 cm ほどである。袖部は左側の一部がわずかに残存している。地山を 8～17 cm ほど掘りくぼめ、ローム粒子や焼土粒子を含む第 1・2 層を埋土して整地した上に構築されている。火床部は床面と同じ高さを利用している。火床面は第 1 層上面で、赤変硬化している。煙道部は壁外に 25 cm 掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。

貯蔵穴 2 か所。貯蔵穴 1 は南西コーナー部に位置している。径 60 cm ほどの円形で、深さは 44 cm である。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。貯蔵穴 2 は北東コーナー部に位置している。径 64 cm ほどの円形で、深さは 30 cm である。底面はほぼ平坦で、壁は外傾している。

覆土 上面が削平されていることから、覆土は確認できなかった。

遺物出土状況 土師器片 65 点（坏 21, 甕類 43, 羽釜 1）、須恵器片 5 点（坏 2, 長頸壺 2, 甕類 1）が出土している。2・3 は貯蔵穴 2 の覆土上層から、1 は中央部の掘方の埋土から出土している。

所見 時期は、出土土器から 9 世紀後葉～10 世紀前葉と考えられる。



第 78 図 第 227 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 32 表 第 227 号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[13.4]	4.7	6.6	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端・底部回転ヘラ削り	掘方埋土	60% PL35
2	土師器	坏	[13.9]	5.4	6.3	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り後多方向のナデ	貯蔵穴 2	50%
3	土師器	羽釜	[16.1]	(8.9)	-	長石・石英・赤色粒子・細礫	橙	普通	口縁部・頸部外・内面横ナデ 体部外面ヘラナデ後鏝貼付け 鏝欠損 輪積み痕	貯蔵穴 2	5%

第 228 号竪穴建物跡（第 79・80 図 PL10）

位置 D 区北部の K 3e9 区、標高 44 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 22 号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 2.73 m、短軸 2.70 m の方形で、主軸方向は N - 32° - W である。壁は高さ 15～25 cm で、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部と竈周辺が踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第 7～11 層を 15～25 cm

埋土して構築されている。壁溝は竈の両脇を除いて巡っている。

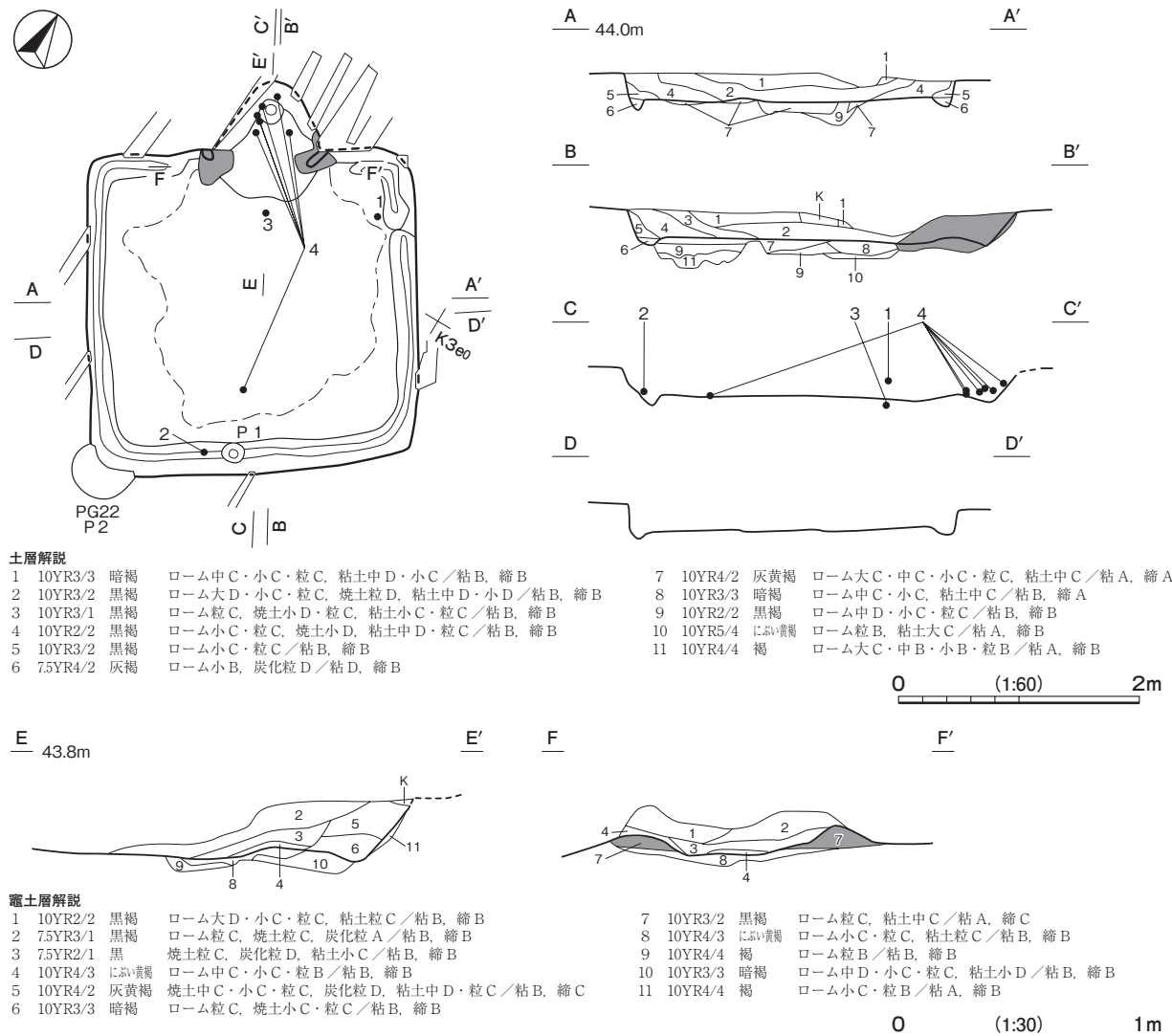
竈 北壁中央部に付設されている。攪乱を受けているため、確認できた規模は焚口部から煙道部まで 100 cm で、燃焼部幅 66 cm である。袖部は遺存状態が悪く、両袖部の一部しか残存していない。袖部は地山を 10 cm ほど掘りくぼめ、ロームブロックや粘土ブロックを含む第 8～11 層を埋土して整地した後、粘土ブロックやローム粒子を含む第 7 層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用している。火床面は赤変硬化していない。煙道部は壁外に 58 cm ほど掘り込まれ、火床面から外傾している。

ピット P 1 は竈に対面した南壁際に位置しており、出入口施設に伴うピットと考えられる。

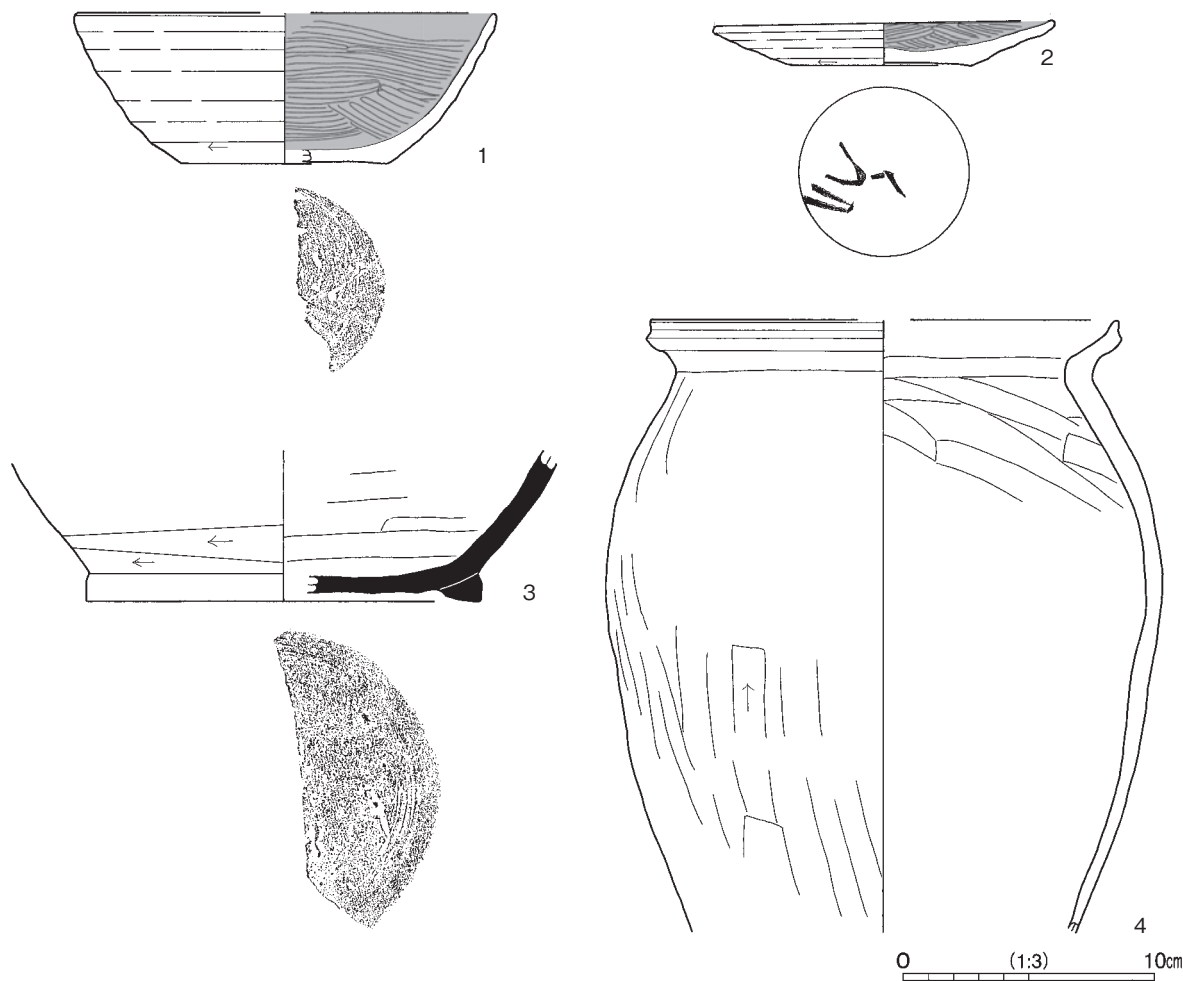
覆土 6 層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。第 6 層はロームブロックや炭化粒子を含む壁溝の覆土である。

遺物出土状況 土師器片 228 点 (坏 62, 高台付坏 1, 高台付椀 1, 皿 1, 甕類 163), 須恵器片 5 点 (坏 2, 短頸壺 1, 甕類 2), 礫 3 点が出土している。4 は竈内の底面と南部の壁溝寄りの床面から出土した破片が接合したもので、2 は南壁際の床面から、1 は北東コーナー部の覆土中層から、3 は竈寄りの掘方の埋土からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 9 世紀中葉～後葉と考えられる。



第 79 図 第 228 号竈穴建物跡実測図



第 80 図 第 228 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 33 表 第 228 号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[16.5]	6.0	[8.1]	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端・底部回転ヘラ削り	覆土中層	30%
2	土師器	皿	13.3	1.8	6.8	長石・石英・赤色粒子・針状物質	にぶい褐	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端・底部回転ヘラ削り	床面	80% PL35 墨書「□」外面煤付着
3	須恵器	短頸壺	-	(6.0)	[15.6]	長石・石英	灰黄褐	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り後高台貼付け	掘方埋土	5% 木葉下窯
4	土師器	甕	[18.4]	(24.4)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	床面 竈内	30%

第 229 号竪穴建物跡 (第 81・82 図 PL10)

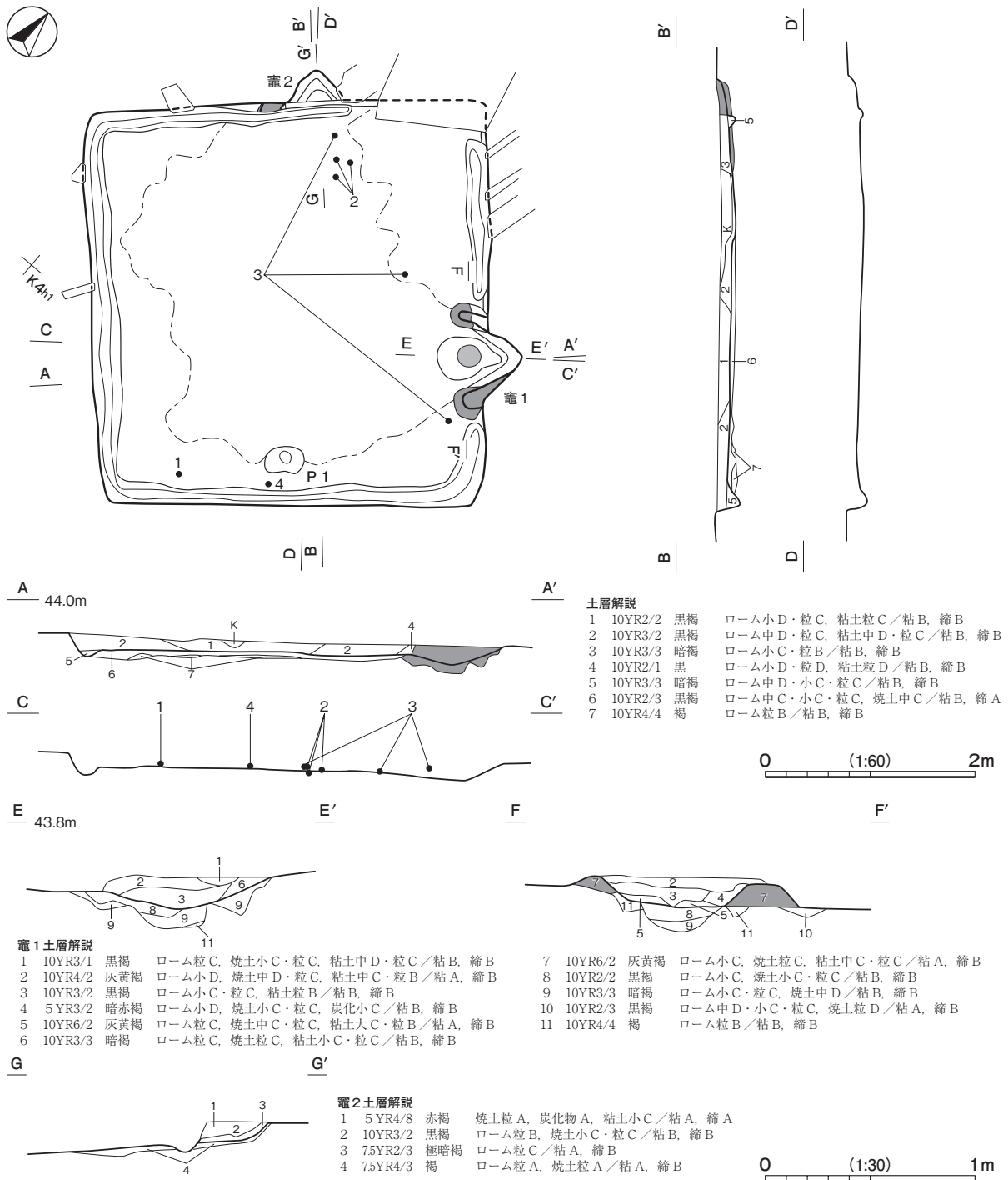
位置 D 区北部の K 4g1 区，標高 44 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 一辺が 3.82 m ほどの方形で，主軸方向は N - 48° - E である。壁は高さ 18 ~ 20 cm で，外傾している。

床 平坦で，中央部と竈周辺が踏み固められている。貼床はロームブロックや焼土ブロックを含む第 6・7 層を 5 ~ 10 cm ほど埋土して構築されている。壁溝は北東コーナー部を除いて巡っている。

竈 北東壁に竈 1，北西壁に竈 2 を確認した。遺存状態から竈 2 から竈 1 へ作り替えたと考えられる。竈 1 は北東壁中央部から南寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 83 cm で，燃焼部幅は 55 cm である。袖部は地山を 5 ~ 12 cm ほど掘りくぼめ，ロームブロックや焼土ブロックを含む第 8 ~ 11 層を埋土して整地し

た後、粘土ブロックを含む第7層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形で浅くくぼんでいる。火床面は第8層上面で、赤変硬化している。煙道部は壁外に35cmほど掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。竈2は北西壁中央部やや東寄りに付設されている。作り替えのために整理されており、確認できた規模は煙道部まで30cmで、燃烧部幅は50cmである。袖部は左袖部がわずかに残存している。火床部は地山を5cmほど掘りくぼめ、ローム粒子や焼土粒子を含む第4層を埋土して整地した上に構築されている。煙道部は壁外に30cmほど掘り込まれ緩やかに立ち上がっている。



第81図 第229号竪穴建物跡実測図

ピット P1は、竈2に対面した南東壁際に位置しており、出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックが含まれていることや不規則な堆積状況から、埋め戻されている。第5層はロームブロックを含む壁溝の覆土である。

遺物出土状況 土師器片113点(坏22, 鉢2, 甕類88, 甑1), 須恵器片2点(壺, 甑), 陶器片1点(甕類), 石器1点(砥石), 礫1点が出土している。1は南コーナー部寄り, 2は竈2寄りの床面から, 3は竈2寄りの床面と竈1寄りの覆土下層から出土した破片が接合したもので, 4はP1付近の床面から出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第82図 第229号竪穴建物跡出土遺物実測図

第34表 第229号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	壺	-	(7.8)	-	長石・石英・ 黒色粒子	黄灰	普通	頸部外・内面ロクロナデ 内面貼付けによる指 頭痕 輪積み痕	床面	5% PL35 木葉下窯
2	土師器	甕	[21.2]	(13.1)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	床面	10%
3	須恵器	甑	[24.8]	(25.1)	-	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ナデ 把手部欠損 輪積み痕	床面 覆土下層	10%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
4	砥石	(14.5)	5.3	3.0	(314.4)	硬砂岩	砥面2面	浅いくぼみに研き痕	敲石を転用	床面	PL43

第 230 号竪穴建物跡 (第 83 図)

位置 D区北部のK4j1区, 標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1311号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 南東部が調査区域外のため, 東西軸2.00m, 南北軸1.82mしか確認できなかった。主軸方向はN-31°-Wで, 方形または長方形と推定できる。壁は高さ32cmほどで, ほぼ直立している。

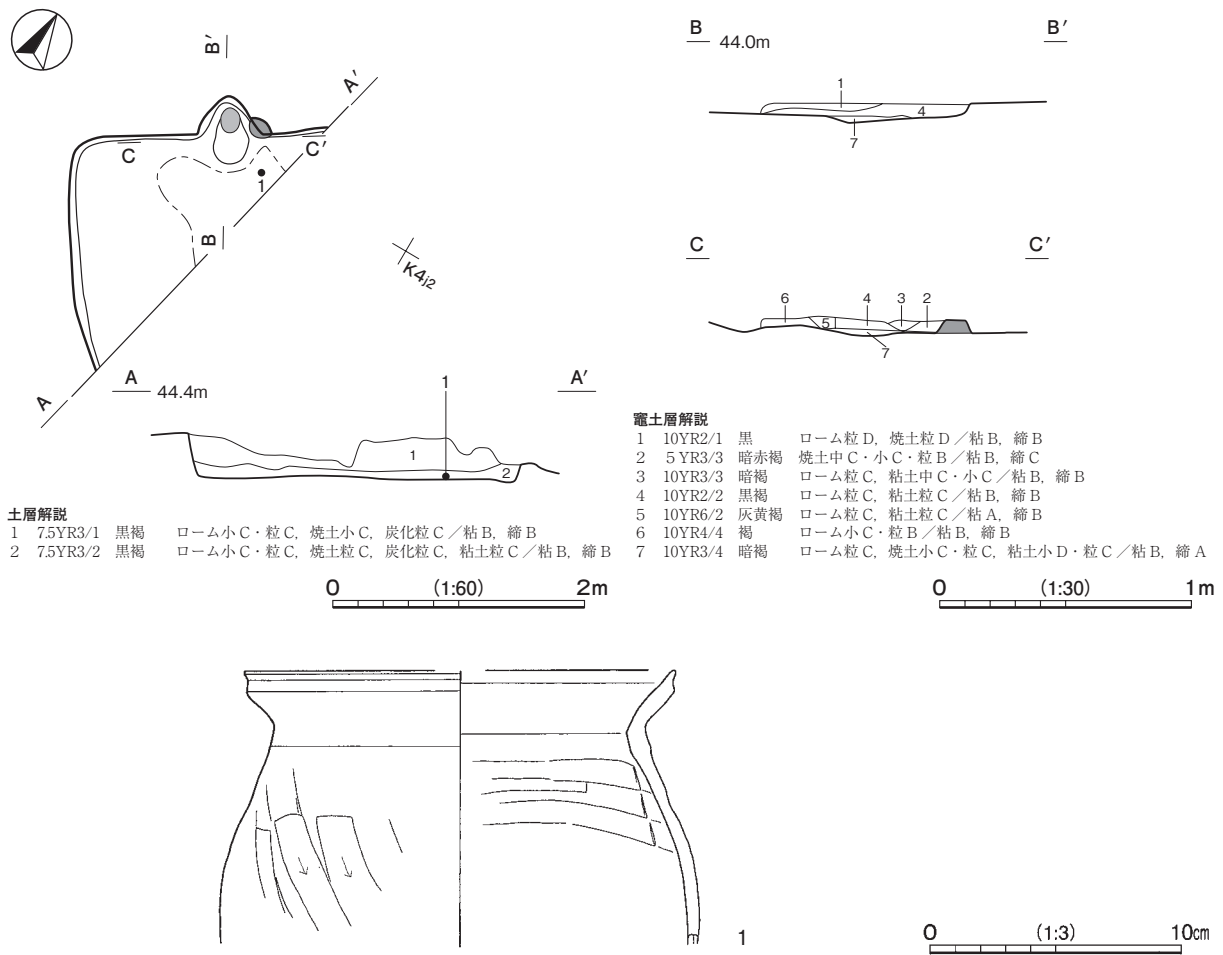
床 平坦で, 竈の前面が踏み固められている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで55cmで, 燃焼部幅は35cmである。袖部は遺存状態が悪く, 右袖部の一部しか残存していない。火床部は楕円形に浅くくぼんでいる。火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に35cmほど掘り込まれ, 火床面から緩やかに立ち上がり, 奥壁付近で外傾している。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが含まれていることや不規則な堆積状況から, 埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片9点(坏1, 甕類8)が出土している。1は竈寄りの床面から出土している。

所見 時期は, 須恵器が出土していないことや出土土器から10世紀代と考えられる。



第 83 図 第 230 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 35 表 第 230 号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	甕	[17.0]	(10.9)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	床面	10%

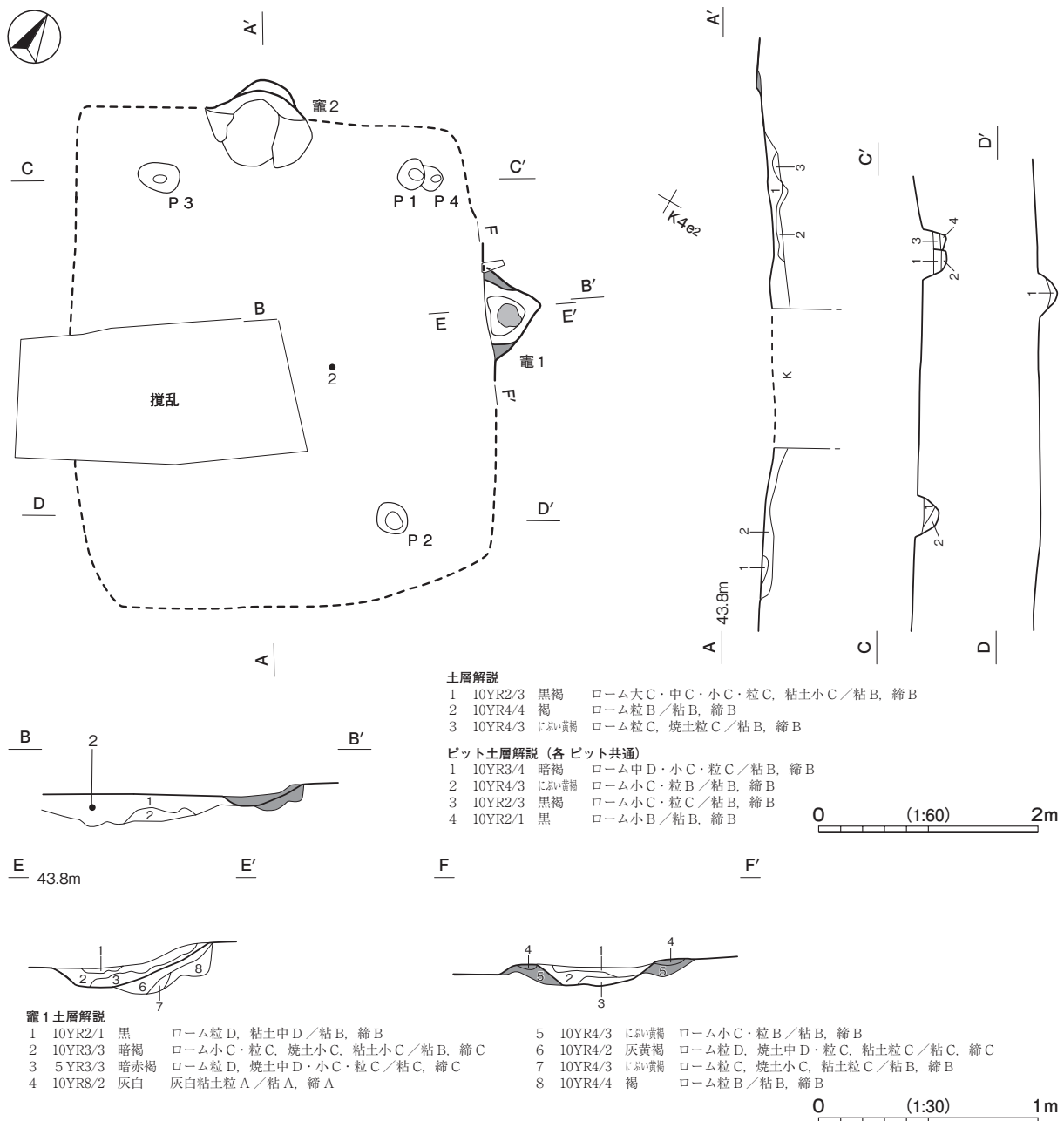
第 231 号 竪穴建物跡 (第 84・85 図)

位置 D 区北部の K 4e1 区, 標高 44 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 上部は削平され覆土がなく, 西部に攪乱を受けているため, 長軸 4.54 m, 短軸 3.78 m しか確認できなかった。主軸方向は N - 52° - E で, 長方形と推定できる。

床 北に向けてやや下り傾斜の貼床で, ロームブロックやローム粒子を含む第 1 ~ 3 層を埋土して構築されている。

竈 2 か所。東壁に竈 1, 北壁に竈 2 を確認した。竈 2 の使用後に, 竈 1 を構築したと考えられる。竈 1 は北東壁中央部に付設されている。削平されているため遺存状態が悪く, 確認できた規模は焚口部から煙道部まで 50 cm で, 燃焼部幅は 55 cm である。袖部は両袖部の一部のみが残存している。地山を 10 ~ 15 cm ほど掘りくぼめ, ローム粒子や焼土粒子を含む第 6 ~ 8 層を埋土して整地した後, ローム粒子や灰白粘土粒子を含む第 4・5 層



第 84 図 第 231 号 竪穴建物跡実測図

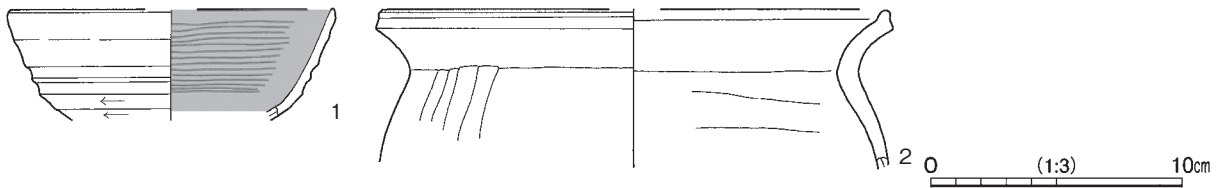
を積み上げて構築されている。火床部は皿状にくぼんでいる。火床面は第6層上面で、赤変硬化している。煙道部は壁外に50 cmほど掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。竈2は北西壁中央部に付設されているが、遺存状態が悪く、袖部範囲の痕跡がわずかに確認できるのみである。

ピット 4か所。P1～P3は深さ16～20 cmで、配置から支柱穴である。P4は深さ20 cmで、P1の補助支柱穴と考えられる。第1～4層は柱材を抜き取った後の覆土である。

覆土 上面が削平されていることから、覆土は確認できなかった。

遺物出土状況 土師器片42点（坏15, 高台付坏1, 椀3, 甕類22, 甑1）, 礫1点が出土している。2は中央部の掘方の埋土から、1は竈内の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から10世紀代と考えられる。



第 85 図 第 231 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 36 表 第 231 号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[12.8]	(4.3)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部・体部外面口クロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端回転ヘラ削り	竈内	10% 外面煤付着
2	土師器	甕	[20.0]	(6.3)	-	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	掘方埋土	10%

第 232 号竪穴建物跡（第 86・87 図 PL10）

位置 D区北部のL4a1区, 標高44 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第24号ピット群を掘り込んでいる。

規模と形状 南東部が調査区域外であるが、長軸3.48 m, 短軸2.73 mの長方形で、主軸方向はN-33°-Wである。壁は高さ30 cmほどで、ほぼ直立している。

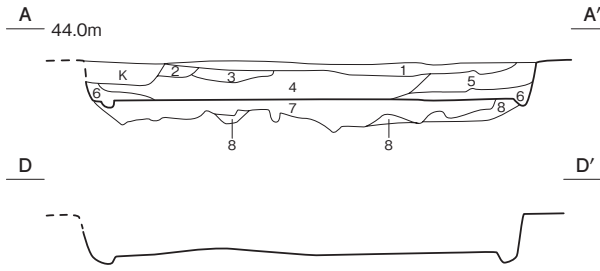
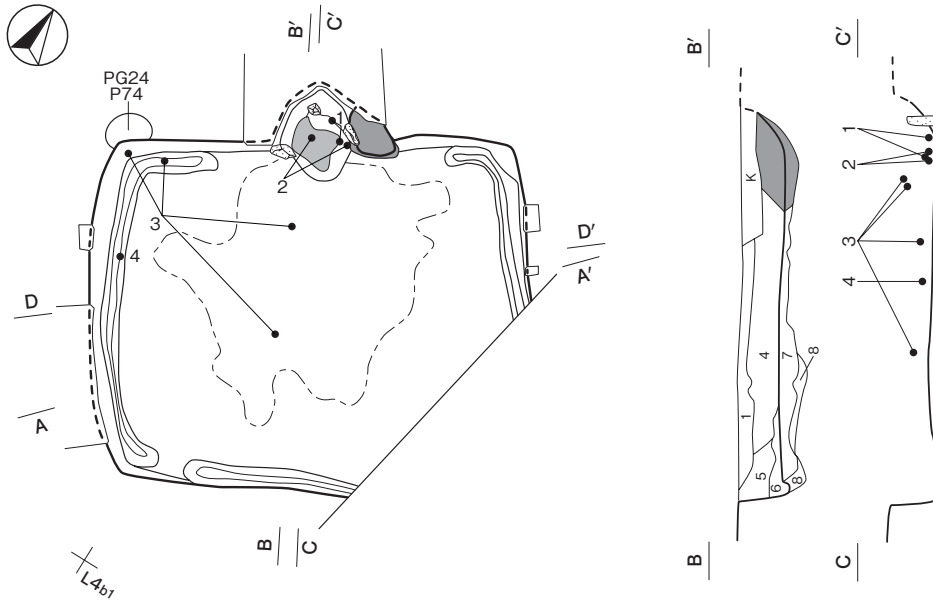
床 平坦で、中央部が踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第7・8層を5～20 cmほど埋土して構築されている。壁溝が一部を除いて巡っている。

竈 北壁のやや東寄りに付設されている。攪乱を受けているため、確認できた規模は焚口部から煙道部まで80 cmで、燃焼部幅50 cmである。袖部は遺存状態が悪く、右袖しか残存していない。地山を10 cmほど掘りくぼめ、ロームブロックや焼土粒子を含む第7～11層を埋土して整地した後、粘土ブロックやローム粒子・焼土粒子を含む第6層を積み上げて構築されている。また、補強材として凝灰質泥岩の切り石を袖内面に設置している。火床部は床面と同じ高さを使用している。火床面は第8層上面で、赤変硬化している。煙道部は壁外に45 cmほど掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。

覆土 6層に分層できる。ロームブロックや炭化物が含まれていることから、埋め戻されている。

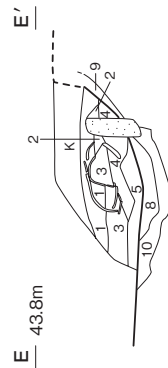
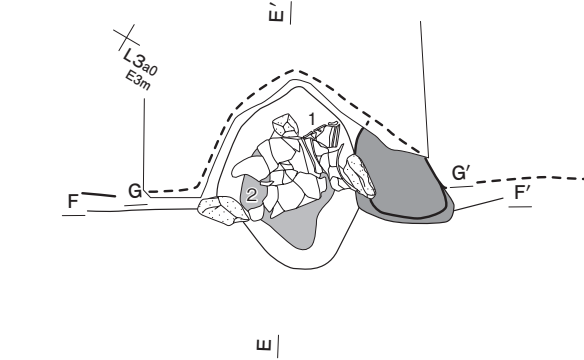
遺物出土状況 土師器片403点（坏65, 皿1, 鉢3, 甕類333, 甑1）, 須恵器片2点（坏, 甕類）, 灰釉陶器片1点（甕類）, 陶器片3点（甕類）が出土している。1・2は竈内の覆土下層から出土した破片がそれぞれ接合したものである。4は西壁際の覆土下層から出土している。3は中央部と北西コーナー部の覆土中層から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器や周囲の竪穴建物跡との関係から9世紀後葉～10世紀前葉と考えられる。



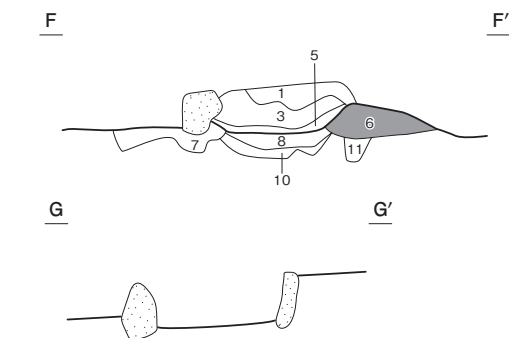
土層解説

- | | | | |
|---|---------|----|--------------------------------|
| 1 | 10YR3/1 | 黒褐 | ローム小C・粒C, 炭化粒C, 粘土中D・小C/粘B, 縮B |
| 2 | 10YR3/3 | 暗褐 | ローム中D・小C・粒B, 炭化物D/粘B, 縮B |
| 3 | 75YR3/1 | 黒褐 | ローム小D, 焼土粒D, 炭化物D, 粘土小D/粘B, 縮B |
| 4 | 10YR2/2 | 黒褐 | ローム中D・小C・粒C, 炭化物D, 粘土粒D/粘B, 縮B |
| 5 | 10YR2/1 | 黒 | ローム小D・粒D, 粘土小C/粘B, 縮B |
| 6 | 10YR3/4 | 暗褐 | ローム中C・小C・粒C/粘B, 縮B |
| 7 | 10YR3/2 | 黒褐 | ローム中C・小C・粒C, 炭化材D・粒D/粘B, 縮A |
| 8 | 10YR4/4 | 褐 | ローム粒B/粘B, 縮A |

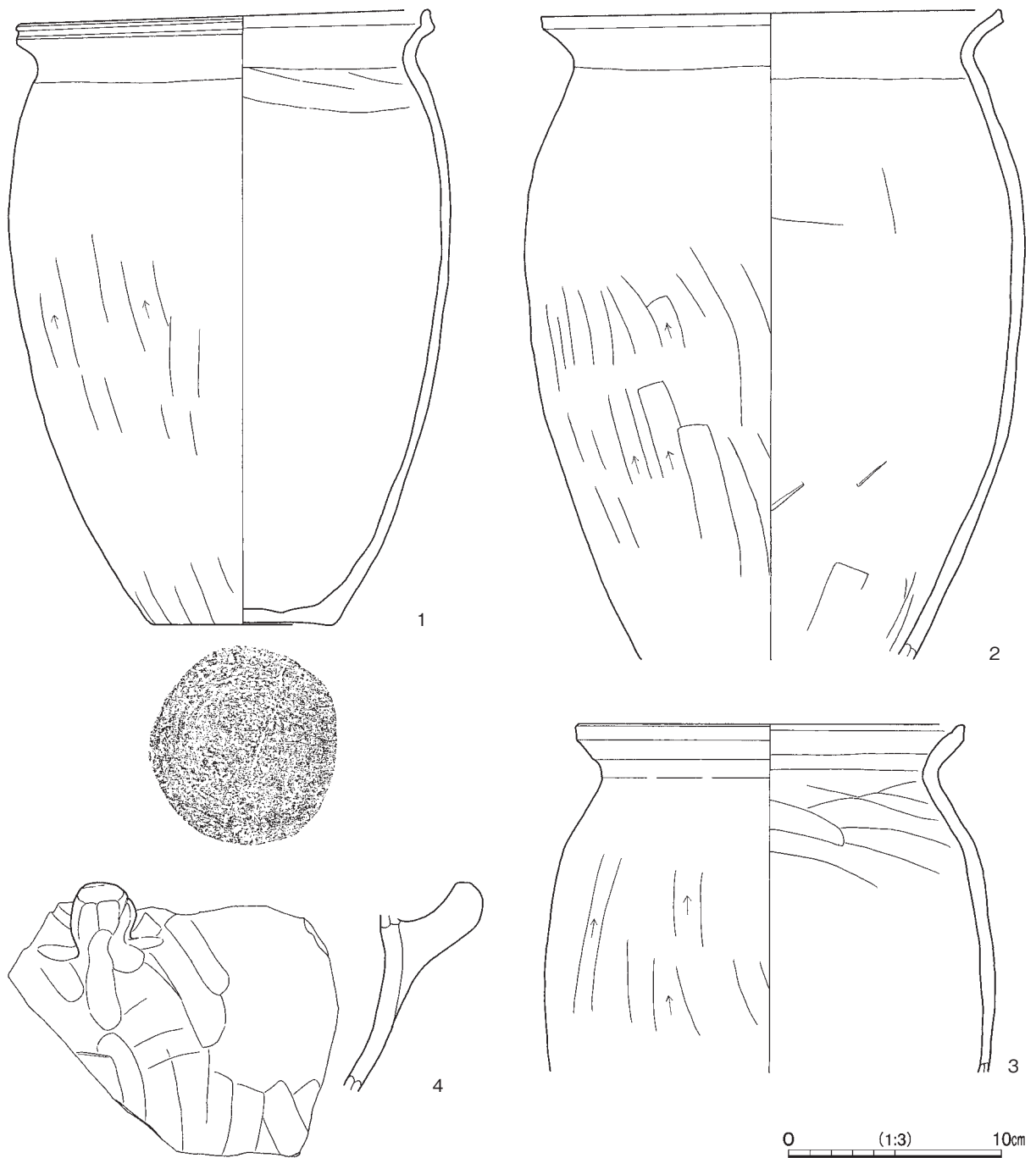


竈土層解説

- | | | | |
|----|---------|-------|-----------------------------|
| 1 | 10YR2/3 | 黒褐 | ローム粒C, 焼土粒C/粘C, 縮B |
| 2 | 10YR3/3 | 暗褐 | ローム粒C, 焼土大D・小C/粘C, 縮B |
| 3 | 10YR2/2 | 黒褐 | ローム粒C, 焼土粒C/粘C, 縮B |
| 4 | 10YR2/2 | 黒褐 | ローム粒C, 焼土中B・粒A, 炭化物C/粘C, 縮B |
| 5 | 10YR3/3 | 暗褐 | ローム粒C, 焼土粒C/粘C, 縮B |
| 6 | 10YR2/2 | 黒褐 | ローム粒C, 焼土粒C, 粘土小C/粘C, 縮B |
| 7 | 10YR3/3 | 暗褐 | ローム小C・粒C/粘C, 縮B |
| 8 | 25YR3/4 | 暗赤褐 | ローム粒C, 焼土小B・粒B/粘C, 縮B |
| 9 | 10YR4/4 | 褐 | ローム粒B/粘B, 縮B |
| 10 | 10YR4/3 | にがい黄褐 | ローム小C・粒C, 焼土粒D/粘B, 縮B |
| 11 | 10YR4/4 | 褐 | ローム小B・粒B/粘B, 縮C |



第86図 第232号竪穴建物跡実測図



第 87 図 第 232 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 37 表 第 232 号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	甕	19.2	28.9	8.5	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ 底部ナデ	覆土下層	90% PL35
2	土師器	甕	21.6	(30.4)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ ヘラ当て痕	覆土下層	70% PL36
3	土師器	甕	18.0	(16.4)	-	長石・石英・細礫	赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土中層	20%
4	土師器	甌	-	(12.9)	-	長石・石英	赤褐	普通	体部外面ナデ 把手部ナデ	覆土下層	5%

第 233 号竪穴建物跡 (第 88 図 PL10)

位置 D 区北部の K 3i7 区, 標高 44 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 西部が調査区域外のため, 南北軸 3.64 m, 東西軸 1.54 m しか確認できなかった。主軸方向は N - 80° - E で, 方形または長方形と推定できる。壁は高さ 10 ~ 20 cm で, 外傾している。

床 平坦で, 踏み固められた痕跡は認められなかった。

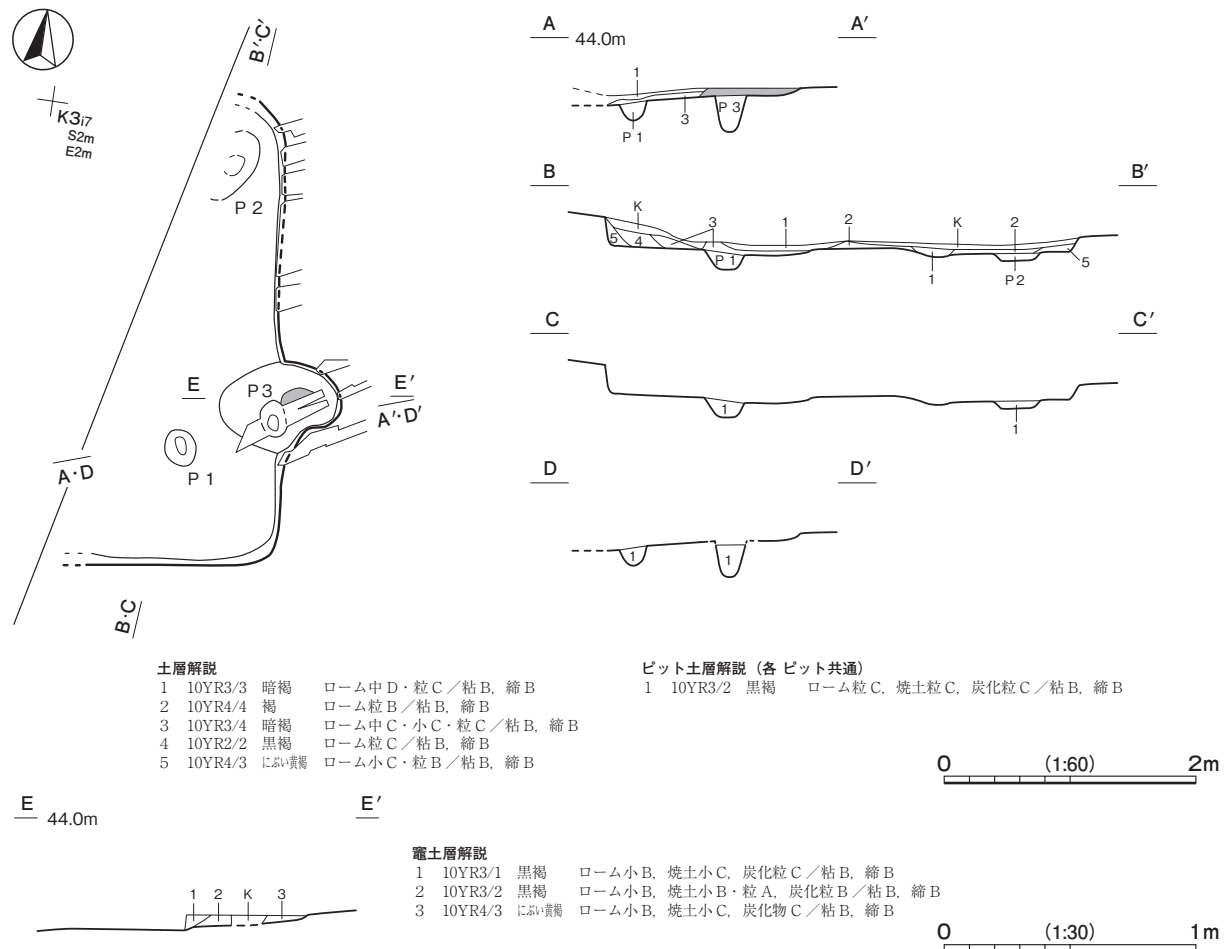
竈 東壁の南寄りに付設されている。遺存状態が悪く, 確認できた規模は焚口部から煙道部まで 100 cm で, 燃燒部幅は 65 cm である。袖部は壊されて確認できない。火床部は床面と同じ高さを使用しており, 火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に 45 cm ほど掘り込まれ, 火床面から緩やかに立ち上がっている。

ピット 3 か所。P 1・P 2 は深さ 15 cm・8 cm で, 配置から支柱穴である。P 3 は深さ 25 cm で, 竈内で確認したが, 性格は不明である。

覆土 5 層に分層できる。不規則な堆積状況から, 埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片 5 点 (坏 3, 小型甕 1, 甕類 1) が出土しているが, いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は, 出土遺物や周辺の竪穴建物跡との関係から 9 世紀後葉と考えられる。



第 88 図 第 233 号竪穴建物跡実測図

第 234 号竪穴建物跡 (第 89・90 図 PL11)

位置 D 区北部の L 3c9 区, 標高 44 m ほどの平坦な台地上に位置している。

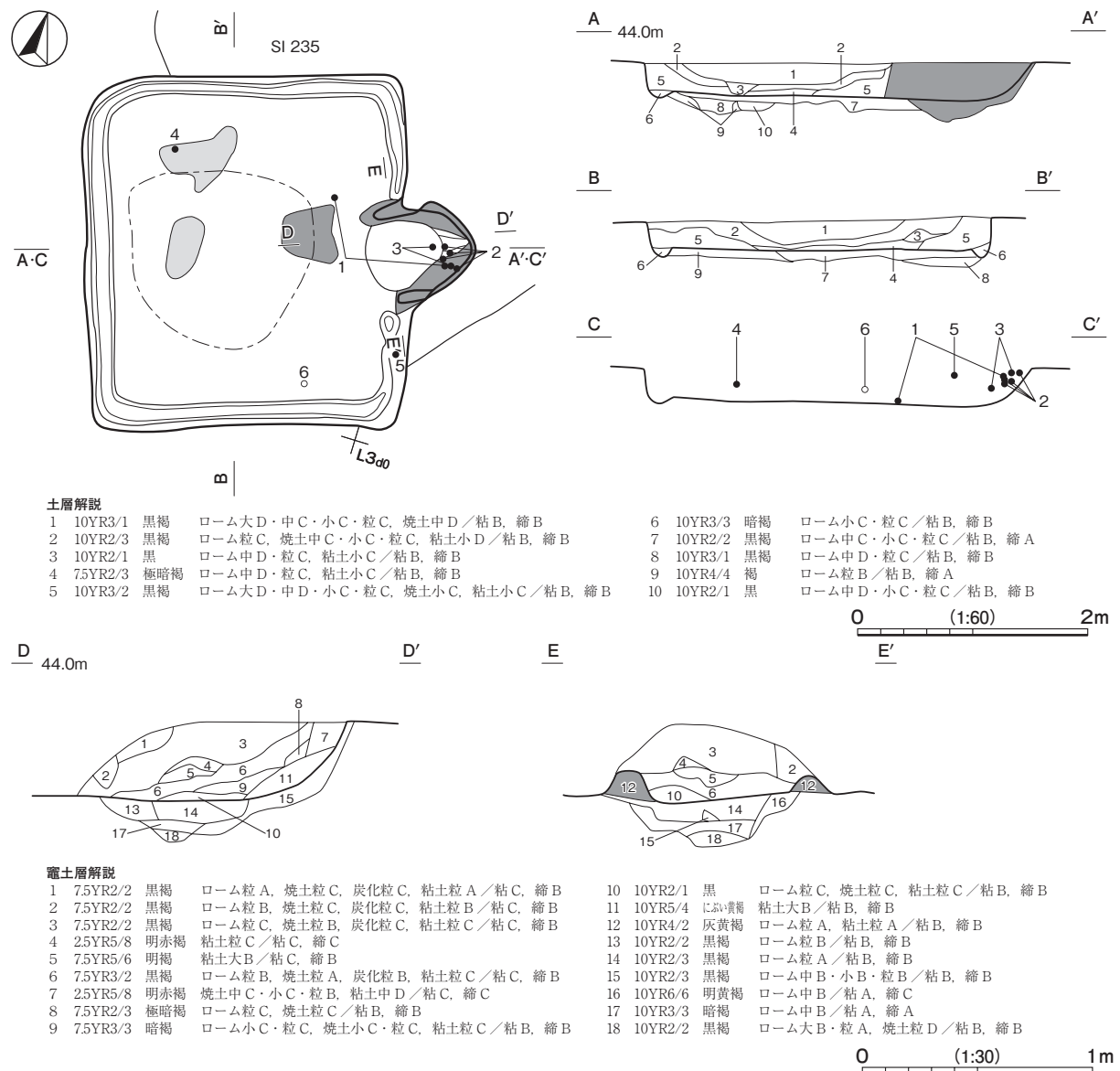
重複関係 第 235 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 3.04 m，短軸 2.84 m の方形で，主軸方向は N - 72° - E である。壁は高さ 21 ~ 28 cm で，ほぼ直立している。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第 7 ~ 10 層を 10 ~ 15 cm ほど埋土して構築されている。壁溝が全周している。

竈 東壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 95 cm で，燃焼部幅 55 cm である。袖部は地山を 5 ~ 20 cm ほど掘りくぼめ，ロームブロックや焼土粒子を含む第 13 ~ 18 層を埋土して整地した後，ローム粒子や粘土粒子を含む第 12 層を積み上げて構築されている。火床部は不定形で床面と同じ高さを使用している。火床面は赤変硬化していない。煙道部は壁外に 60 cm ほど掘り込まれ，火床面から外傾している。

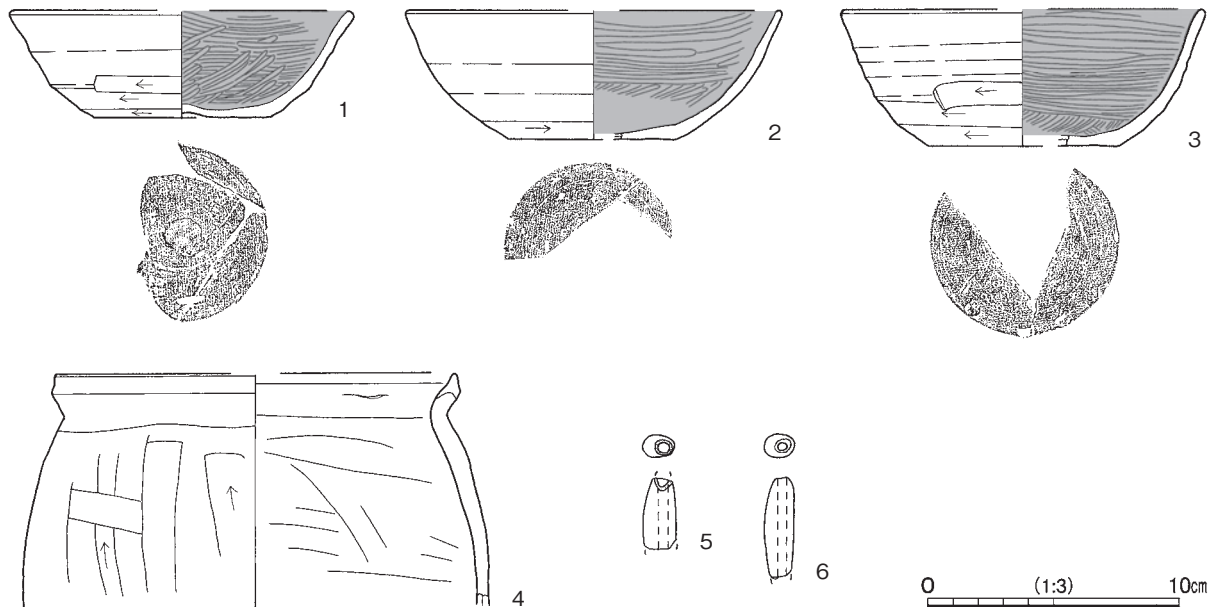
覆土 6 層に分層できる。不規則な堆積状況から，埋め戻されている。竈の前面に粘土が堆積し，北西部に焼土の範囲を確認した。第 6 層はロームブロックを含む壁溝の覆土である。



第 89 図 第 234 号竪穴建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片 142 点 (坏 29, 高台付坏 2, 碗 1, 小型甕 2, 甕類 108), 須恵器片 18 点 (坏 3, 蓋 2, 甕類 13), 土製品 2 点 (管状土錘), 礫 1 点が出土している。1 は竈寄り中央部の床面と竈内の覆土中層から出土した破片が接合したものである。2・3 は竈内, 4 は北部, 6 は南壁寄りの覆土中層から, 5 は東壁際の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 重複関係や出土土器から 9 世紀後葉と考えられる。



第 90 図 第 234 号竈穴建物跡出土遺物実測図

第 38 表 第 234 号竈穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
1	土師器	坏	[13.4]	4.3	7.0	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 体部下端・底部回転ヘラ削り	内面ヘラ磨き	竈内床面	50%
2	土師器	坏	[14.6]	5.1	6.7	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 体部下端・底部回転ヘラ削り	内面ヘラ磨き	竈内	40% PL36
3	土師器	坏	[14.2]	5.4	7.5	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 体部下端・底部回転ヘラ削り	内面ヘラ磨き	竈内	40%
4	土師器	小型甕	[15.8]	(9.3)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ナデ 輪積み痕	体部外面ヘラ削り	覆土中層	10%

番号	器種	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
5	管状土錘	(28)	09~12	0.4	(3.07)	長石・石英	にぶい橙	外面ナデ 穿孔 両方欠損	覆土上層	
6	管状土錘	(4.0)	09~11	0.3	(4.49)	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	外面ナデ 穿孔 片方欠損	覆土中層	PL41

第 235 号竈穴建物跡 (第 91・92 図 PL11)

位置 D 区北部の L3c0 区, 標高 44 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 234 号竈穴建物に掘り込まれている。

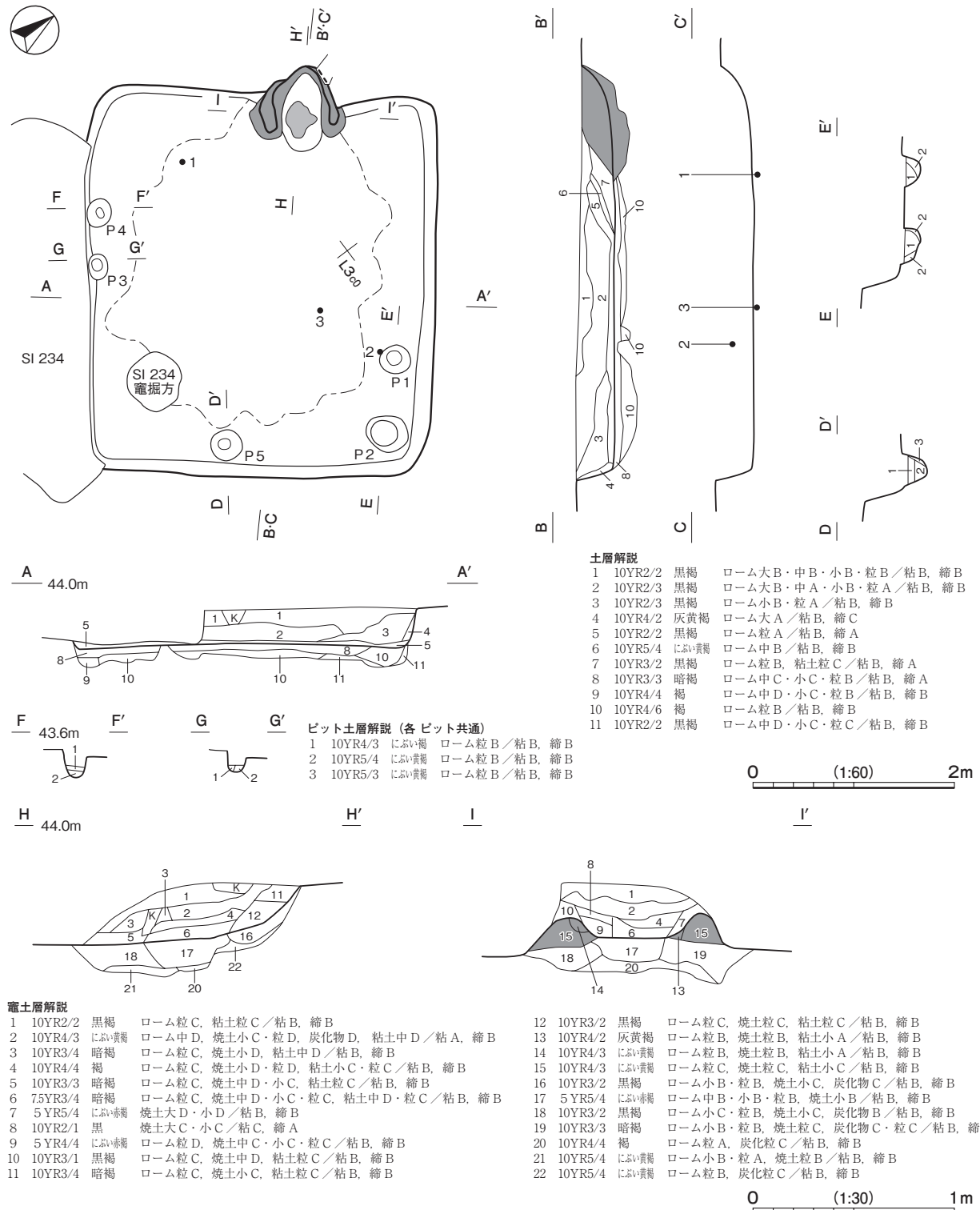
規模と形状 竈穴建物に掘り込まれているが, 長軸 3.82 m, 短軸 3.46 m の長方形で, 主軸方向は N - 53° - W である。壁は高さ 38 cm ほどで, 直立している。

床 平坦で, 中央部が全体に踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第 8 ~ 11 層を 10 ~ 20 cm ほど埋土して構築されている。

竈 北西壁やや北寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 85 cm で, 燃焼部幅は 40 cm である。袖

部は地山を 20 cmほど掘りくぼめ、ロームブロックや焼土粒子を含む第 16～22 層を埋土して整地した後、粘土ブロックやローム粒子を含む第 13～15 層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用している。火床面は第 17 層上面で、赤変硬化している。煙道部は壁外に 35 cmほど掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。

ピット 5か所。P1～P4は深さ 14～20 cmで、壁際にある不規則な支柱穴である。P5は竈に対面した南



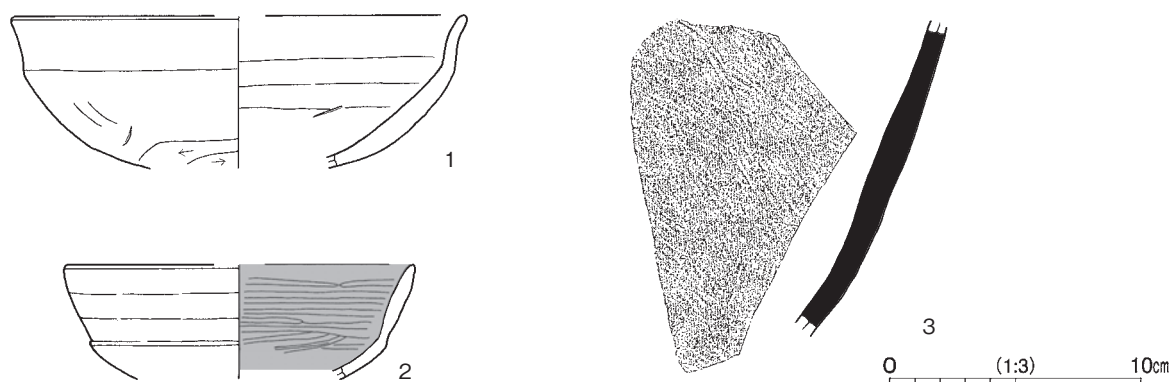
第 91 図 第 235 号 竪穴建物跡実測図

東壁際に位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。第1・2層は柱材を抜き取った後の覆土である。

覆土 7層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片46点(坏2, 碗3, 甕類41), 須恵器片1点(甕)が出土している。1は北西部, 3は中央部の床面から, 2はP1付近の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係や出土遺物から8世紀前葉と考えられる。



第92図 第235号竪穴建物跡出土遺物実測図

第39表 第235号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[17.8]	(6.1)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部内面ナデ 体部下 端手持ちヘラ削り	床面	10%
2	土師器	坏	[13.8]	(4.5)	-	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部内面ヘラ磨き	覆土中層	10%
3	須恵器	甕	-	(12.6)	-	長石・石英	褐灰	普通	体部外面斜位の平行叩き 内面ナデ	床面	5%

第236号竪穴建物跡 (第93・94図 PL11)

位置 D区中央部のL3f9区, 標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 南西部の一部が攪乱を受け, 東部が調査区域外であるが, 長軸4.40m, 短軸3.90mの長方形で, 主軸方向はN-43°-Wである。壁は高さ29~37cmで, 直立している。

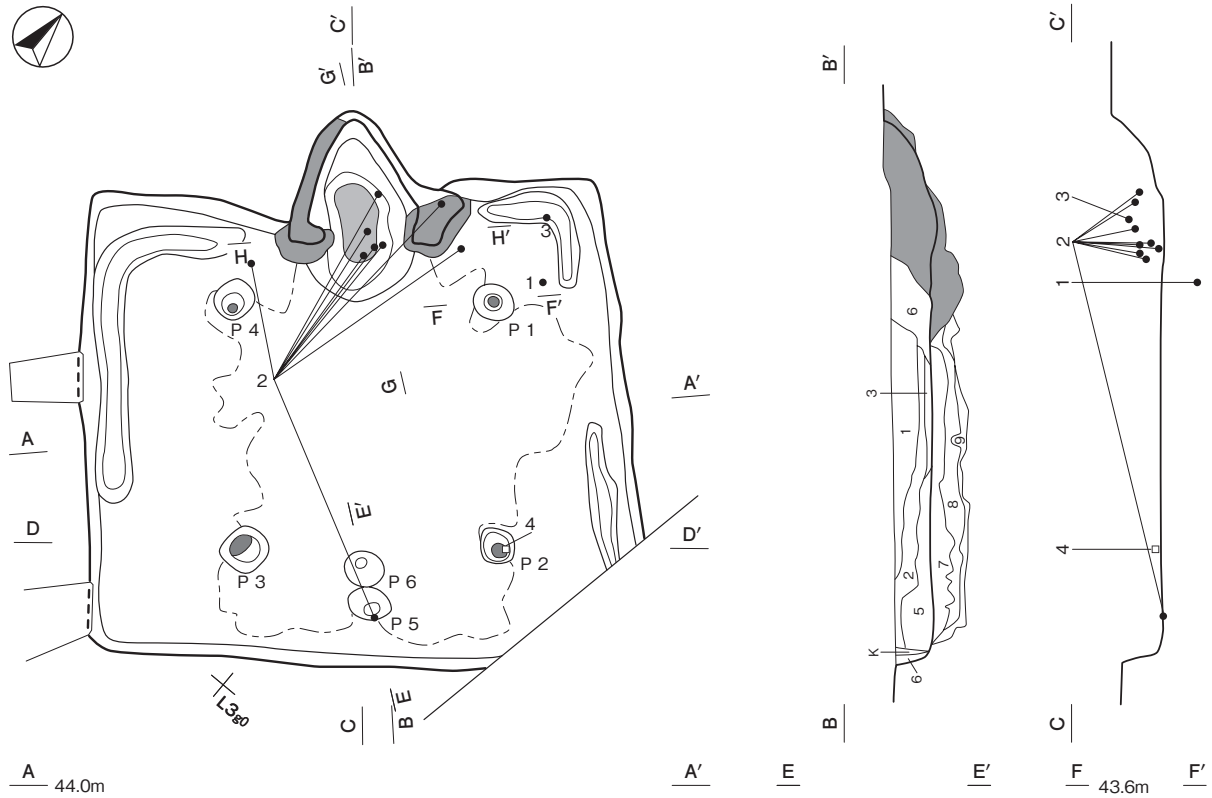
床 平坦で, 中央部が全体に踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第7~9層を20~40cmほど埋土して構築されている。壁溝が南部と東部の一部を除いて巡っている。

竈 北西壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで150cmで, 燃焼部幅55cmである。袖部は地山を15~27cm掘りくぼめ, ロームブロックや焼土ブロックを含む第23~26層を埋土して整地した後, ロームブロックや粘土ブロックを含む第15~22層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形に浅くくぼんでいる。火床面は第23・24層上面で, 赤変硬化している。煙道部は壁外に80cmほど掘り込まれ, 火床面から緩やかに立ち上がっている。

ピット 6か所。P1~P4は深さ40~54cmで, 支柱穴と考えられる。P5・P6は竈に対面した南東壁際に位置しており, 出入口施設に伴うピットと考えられる。第1層は柱材を抜き取った後の覆土である。P1~P4の底面で柱のあたりを確認した。

覆土 6層に分層できる。レンズ状に堆積していることから, 自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片106点(坏2, 甕類97, 甕7), 須恵器片6点(坏1, 蓋1, 甕類4), 石製品1点(支



A 44.0m

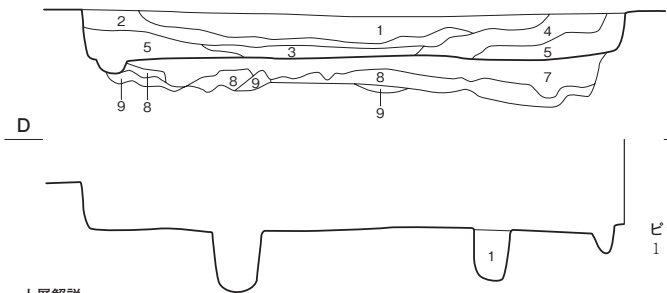
A'

E

E'

F

F'



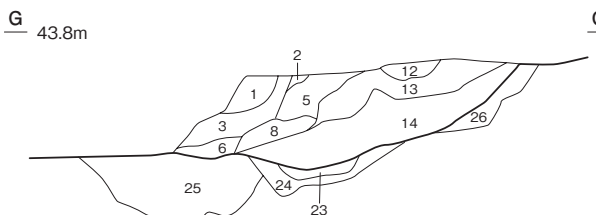
土層解説

- 1 10YR2/3 黒褐 ローム大D・中C・小C・粒C/粘B, 締B
- 2 10YR2/1 黒 ローム大D・小D・粒C/粘B, 締B
- 3 10YR3/2 黒褐 ローム粒C, 粘土粒C/粘B, 締B
- 4 10YR4/3 におい黄褐 ローム中C・小C・粒C, 炭化物D/粘B, 締B
- 5 10YR3/4 暗褐 ローム大C・中C・小B・粒B, 粘土中D・粒A/粘B, 締B

ピット土層解説 (P2)

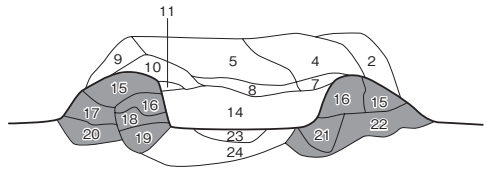
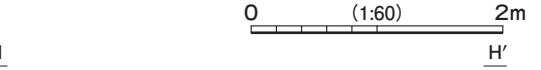
- 1 10YR3/3 暗褐 ローム中D・小C・粒C/粘B, 締B

- 6 10YR2/2 黒褐 ローム粒C, 焼土小D・粒D, 粘土中D/粘B, 締B
- 7 10YR2/3 黒褐 ローム大A/粘B, 締A
- 8 10YR4/4 褐 ローム大A/粘B, 締B
- 9 10YR5/6 黄褐 ローム大A/粘B, 締A



G 43.8m

G'



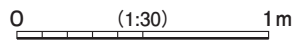
H

H'

竪土層解説

- 1 10YR3/1 黒褐 ローム粒C, 焼土中D・粒D, 粘土中D・粒C/粘B, 締B
- 2 10YR3/2 黒褐 ローム中D・粒C, 焼土小D, 粘土粒C/粘B, 締B
- 3 10YR2/3 黒褐 ローム中D, 焼土中C・小D, 粘土中C・粒C/粘B, 締B
- 4 10YR3/3 暗褐 ローム粒C, 焼土小C, 炭化物D, 粘土小C・粒B/粘B, 締B
- 5 10YR4/3 におい黄褐 焼土小C, 炭化物C/粘B, 締B
- 6 10YR4/2 灰黄褐 ローム粒D, 粘土中D・粒C/粘B, 締B
- 7 5YR3/3 暗赤褐 ローム粒C, 焼土小C・粒B, 粘土粒C/粘B, 締C
- 8 10YR7/6 明黄褐 焼土小D, 粘土粒B/粘A, 締B
- 9 10YR3/1 黒褐 ローム粒C, 焼土小C・粒C, 粘土中D・粒C/粘B, 締B
- 10 10YR4/2 灰黄褐 ローム粒C, 焼土中D・粒C, 炭化物C, 粘土小D/粘B, 締B
- 11 10YR7/4 におい黄褐 焼土粒C, 炭化粒C, 粘土粒D/粘A, 締B
- 12 10YR4/4 褐 ローム小C, 粘土粒B/粘B, 締B
- 13 10YR5/6 黄褐 焼土粒C, 炭化粒C, 粘土粒D/粘B, 締B

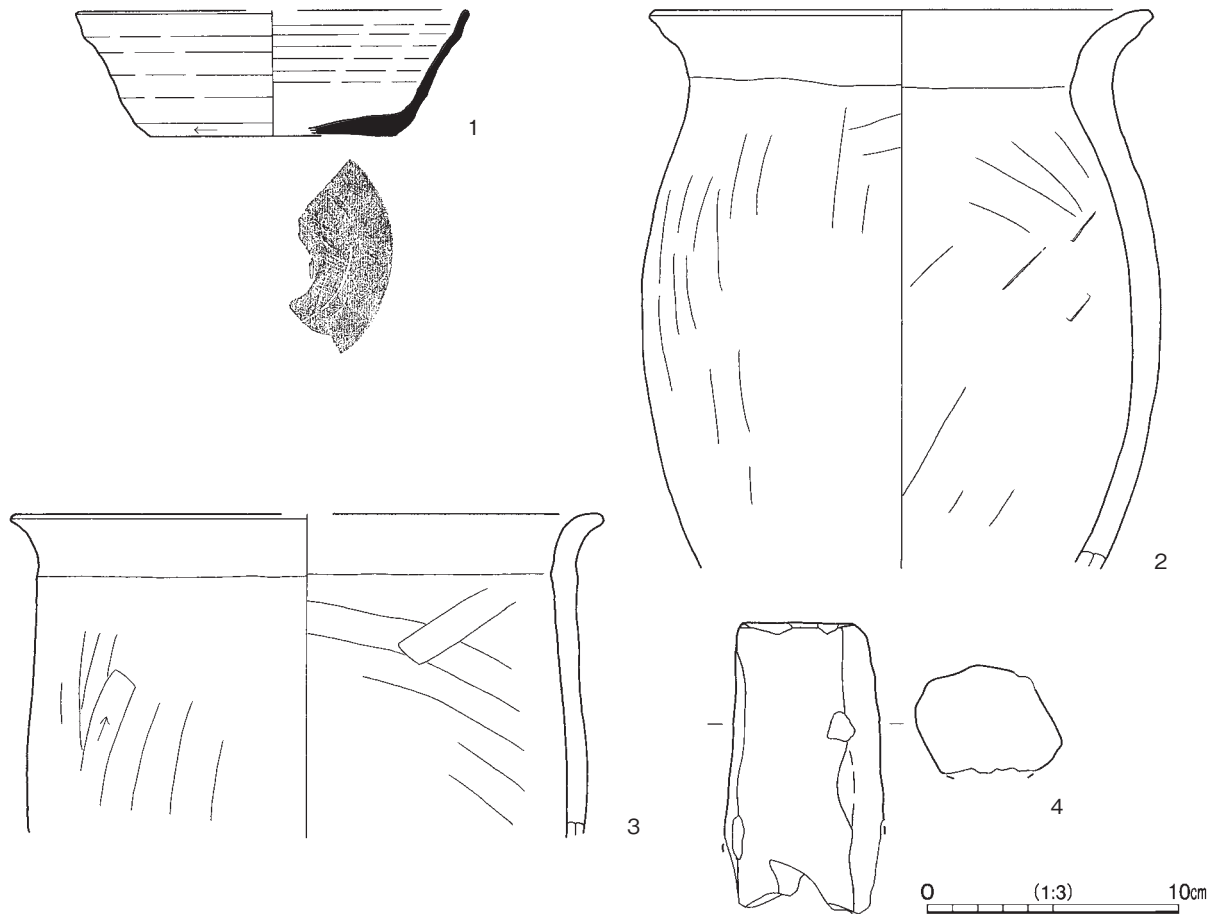
- 14 10YR3/4 暗褐 ローム小C, 焼土小B・粒C/粘C, 締C
- 15 10YR2/2 黒褐 ローム小C・粒C, 焼土中D・小D, 粘土小C/粘B, 締B
- 16 10YR6/3 におい黄褐 ローム粒C, 焼土中D・粒C, 粘土大D・粒B/粘B, 締B
- 17 10YR6/4 におい黄褐 焼土粒C, 粘土B/粘A, 締B
- 18 10YR3/3 暗褐 ローム粒C, 焼土粒D, 粘土中D・粒C/粘B, 締B
- 19 10YR6/3 におい黄褐 ローム粒C, 焼土小C・粒C/粘A, 締B
- 20 10YR3/3 暗褐 ローム小C・粒B/粘B, 締B
- 21 10YR4/4 褐 ローム粒C, 焼土中D, 粘土大C/粘A, 締B
- 22 10YR3/2 黒褐 ローム小C・粒C, 焼土小C, 粘土小C・粒C/粘B, 締B
- 23 5YR3/3 暗赤褐 焼土中C・小C・粒C, 粘土小D/粘B, 締B
- 24 10YR2/2 黒褐 ローム中D・粒C, 焼土小B・粒C, 炭化物C/粘B, 締B
- 25 10YR4/4 褐 ローム小C・粒B/粘B, 締B
- 26 10YR3/3 暗褐 ローム小C・粒C, 粘土小C/粘B, 締B



第 93 図 第 236 号 竪穴建物跡実測図

脚)が出土している。2は南部の床面と竈内や両袖部付近の覆土下層から中層にかけて出土した破片が接合したものである。4は覆土下層から、3は北コーナー部の覆土中層から、1は北コーナー部の掘方の埋土からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第94図 第236号竪穴建物跡出土遺物実測図

第40表 第236号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	[15.4]	5.0	[9.6]	長石・石英	灰	普通	口縁部、体部外・内面ロクロナデ 体部下端・底部回転ヘラ削り	掘方埋土	20%
2	土師器	甕	19.4	(22.2)	-	長石・石英・赤色粒子・細礫	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ 内面ヘラ当て痕	床面 覆土中層	50%
3	土師器	甕	[22.8]	(12.9)	-	長石・石英・細礫	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土中層	10%
番号	器種	高さ	最大径	最小径	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
4	支脚	(11.6)	(6.2)	5.2	(181.32)	凝灰質泥岩	切り石	被熱痕 ナデによる整形	覆土下層		

第237号竪穴建物跡 (第95・96図 PL11)

位置 D区北部のL3a7区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸3.34m、短軸3.28mの方形で、主軸方向はN-34°-Wである。壁は高さ16~22cmで、直立している。

床 平坦で、中央部が全体に踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第5~9層を4~25cmほど

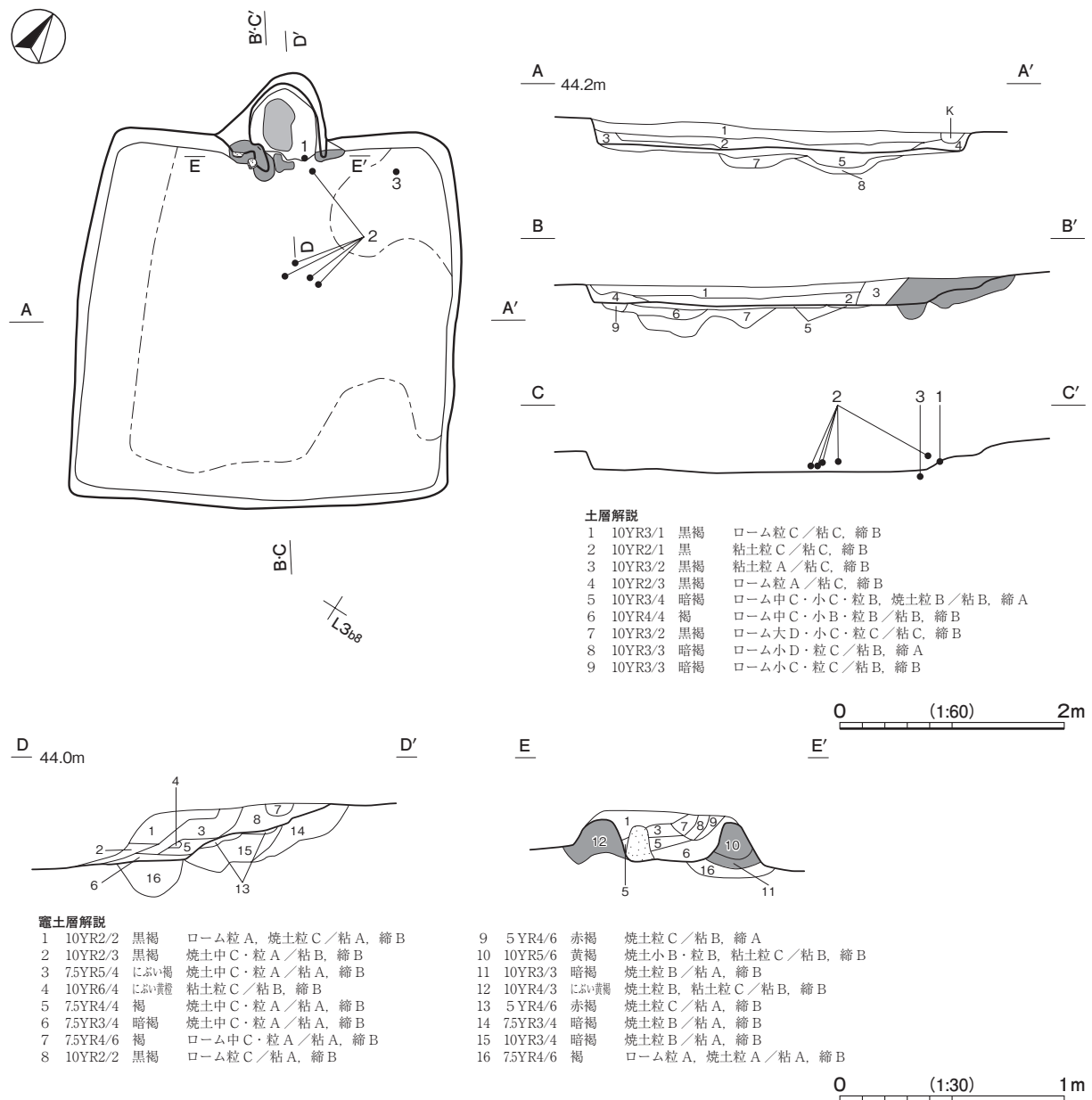
埋土して構築されている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 80 cm で、 燃焼部幅 45 cm である。袖部は地山を 10 cm ほど掘りくぼめ、 ローム粒子や焼土粒子を含む 第 13 ~ 16 層を埋土して整地した後、 粘土粒子を含む 第 10 ~ 12 層を積み上げて構築されている。左袖部は補強材として凝灰質泥岩の切り石を使用している。火床部は床面よりやや高い位置を使用している。火床面は第 13 層上面で、 赤変硬化している。煙道部は壁外に 60 cm ほど掘り込まれ、 火床面から緩やかに立ち上がっている。

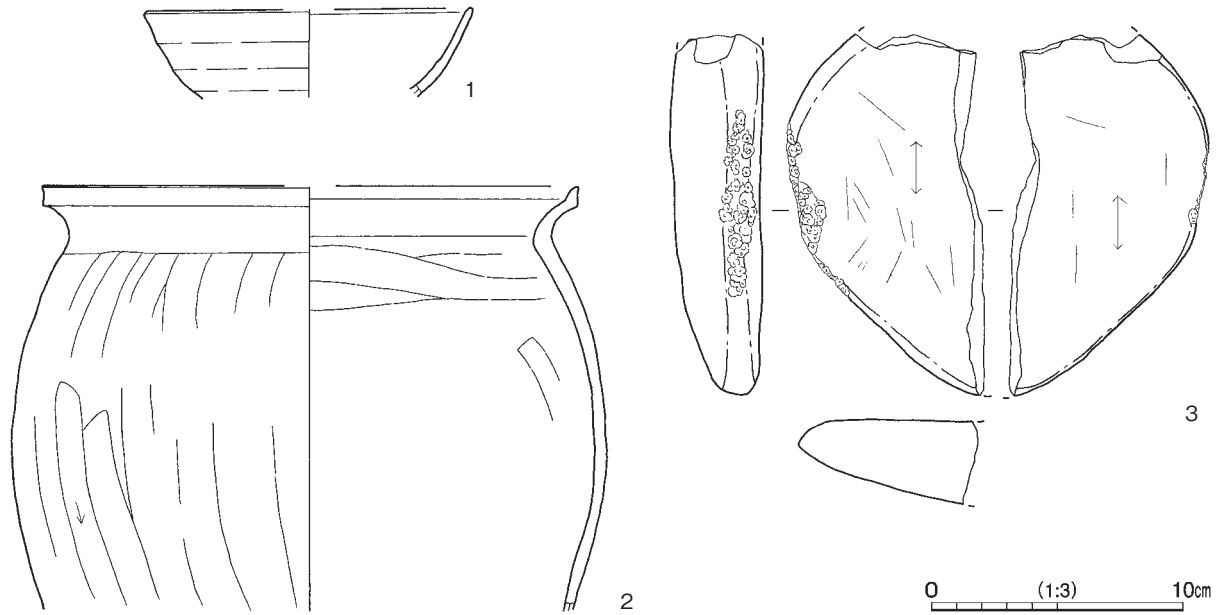
覆土 4 層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、 自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片 223 点 (坏 39, 甕類 184), 須恵器片 4 点 (坏 1, 甕類 3), 石器 2 点 (砥石), 凝灰質泥岩 1 点が出土している。1 は竈内の底面から出土している。2 は中央部と竈前の覆土下層から出土した破片が接合したものである。3 は北東コーナー部の掘方の埋土から出土している。

所見 時期は、 出土土器から 9 世紀代と考えられる。



第 95 図 第 237 号竪穴建物跡実測図



第96図 第237号竪穴建物跡出土遺物実測図

第41表 第237号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[12.8]	(3.5)	-	長石・石英・ 黒色粒子	にぶい橙	普通	口縁部・外面ロクロナデ	竈内	5%
2	土師器	甕	[21.1]	(16.9)	-	長石・石英・ 赤色粒子・細礫	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土下層	10%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
3	砥石	(14.3)	(7.8)	3.8	(487.94)	硬砂岩	砥面2面	浅いくぼみに研き痕 敲石を転用	掘方埋土		

第238号竪穴建物跡 (第97～99図 PL12)

位置 D区中央部のL3h8区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸5.28m、短軸4.97mの方形で、主軸方向はN-32°-Wである。壁は高さ65cmほどで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が全体に踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第25・26層を10～25cmほど埋土して構築されている。

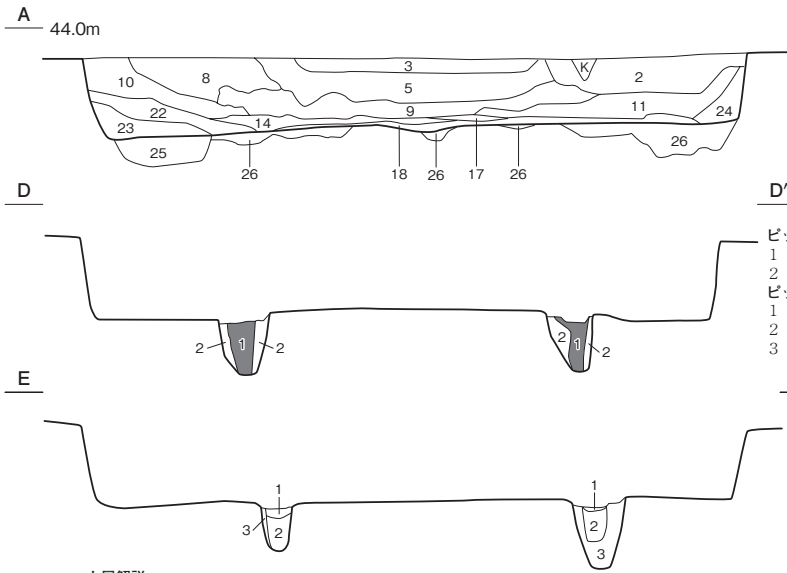
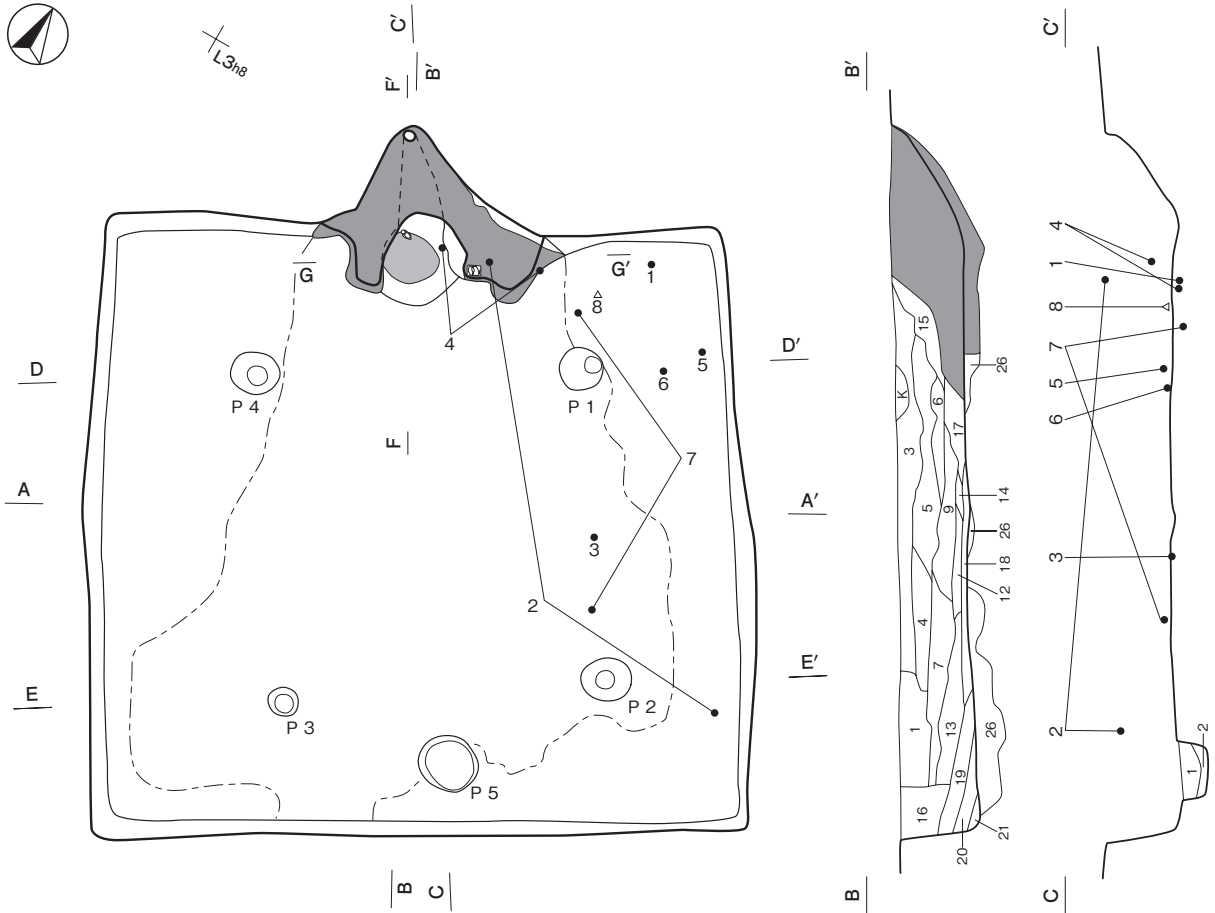
竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで140cmで、燃焼部幅は60cmである。袖部は地山を5～19cmほど掘りくぼめ、ロームブロックや焼土粒子を含む第12～18層を埋土して整地した後、砂質粘土ブロックやローム粒子を含む第10層を積み上げて構築されている。右袖部は補強材として凝灰質泥岩の切り石を袖内面に設置している。火床部は楕円形で床面とほぼ同じ高さを使用している。火床面は第12・13層上面で、赤変硬化している。煙道部は壁外に85cmほど掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。第11層は遺存している天井部の一部である。凝灰質泥岩の支脚が、中央部に埋め込まれている。

ピット 5か所。P1～P4は深さ35～55cmで、配置から主柱穴である。P5は深さ25cmで、竈に対面した南壁際に位置しており、出入口施設に伴うピットと考えられる。P1・P4の第1層は柱痕跡、第2は埋土である。P2・P3・P5の第1～3層は、柱材を抜き取った後の覆土である。

覆土 24層に分層できる。ロームブロックが含まれていることや不規則な堆積状況から、埋め戻されている。



L38



ピット土層解説 (P1・P4)

- 1 10YR4/6 褐 ローム大B・中A / 粘B, 締B
- 2 10YR3/4 暗褐 ローム粒A / 粘B, 締C

ピット土層解説 (P2・P3・P5)

- 1 10YR2/2 黒褐 ローム小C・粒C, 粘土中D / 粘B, 締B
- 2 10YR4/4 褐 ローム粒B / 粘B, 締B
- 3 10YR4/4 暗褐 ローム中A / 粘B, 締B

土層解説

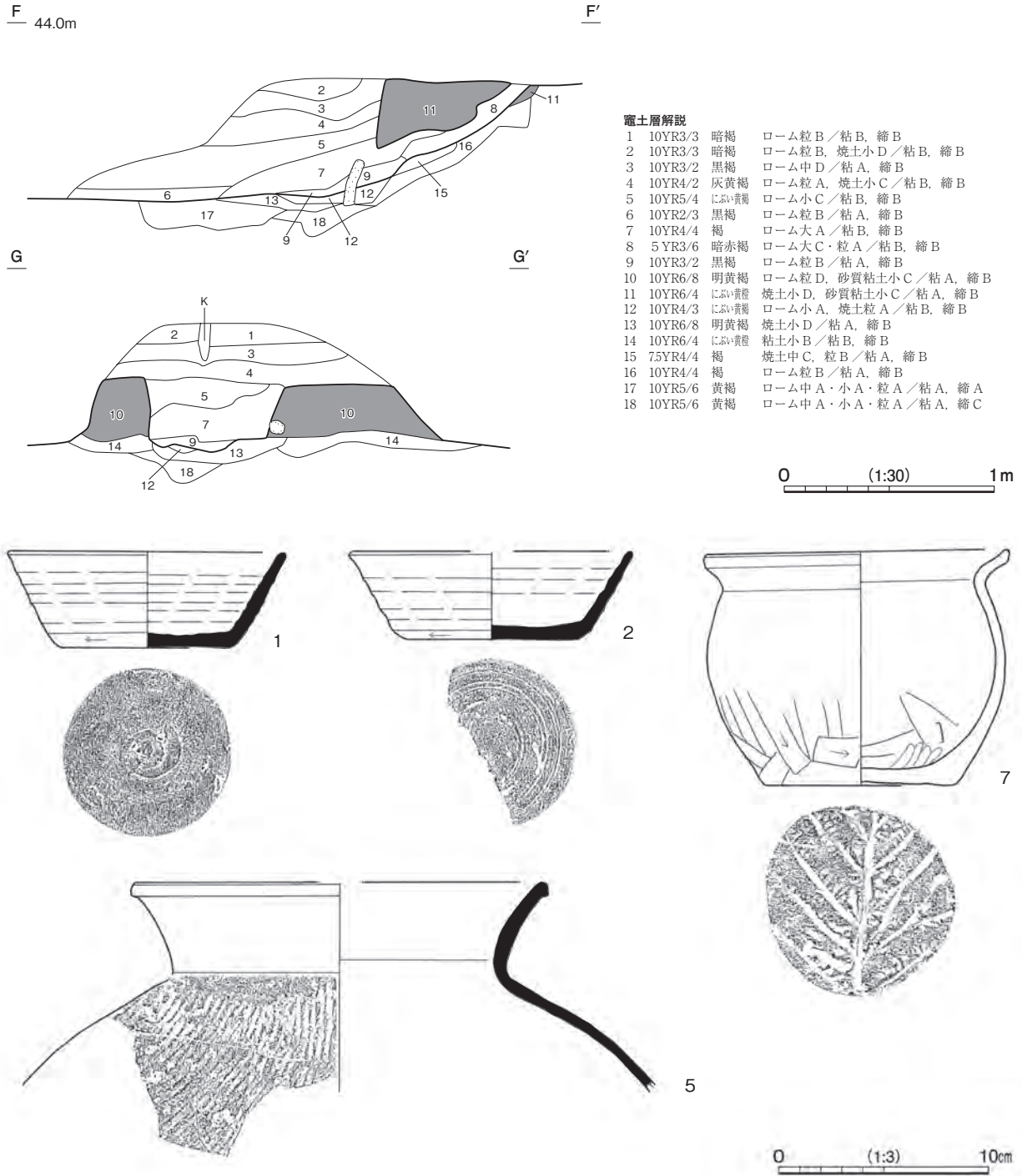
- | | | | |
|-----------------|----------------------|------------------|-------------------------|
| 1 10YR3/3 暗褐 | ローム中B・小B・粒A / 粘B, 締B | 14 10YR4/3 におい貴濁 | ローム大B・中B / 粘B, 締B |
| 2 10YR2/1 黒 | ローム粒B / 粘B, 締B | 15 10YR2/3 黒褐 | ローム粒C / 粘B, 締B |
| 3 10YR3/3 暗褐 | ローム粒A / 粘B, 締B | 16 10YR2/3 黒褐 | ローム粒B / 粘C, 締A |
| 4 10YR4/3 におい貴濁 | ローム小B / 粘C, 締B | 17 10YR4/3 におい貴濁 | 粘土粒C / 粘B, 締B |
| 5 10YR2/2 黒褐 | ローム中B・小C / 粘B, 締B | 18 10YR3/4 暗褐 | ローム中B・粒A, 焼土粒C / 粘B, 締B |
| 6 10YR4/3 におい貴濁 | ローム粒B / 粘B, 締C | 19 10YR2/2 黒褐 | ローム粒C / 粘C, 締C |
| 7 10YR2/3 黒褐 | ローム中C / 粘B, 締B | 20 10YR2/3 黒褐 | ローム粒C / 粘B, 締C |
| 8 10YR2/3 黒褐 | ローム中B・小B・粒B / 粘B, 締B | 21 10YR3/2 黒褐 | ローム粒A / 粘B, 締B |
| 9 10YR4/3 におい貴濁 | ローム中C, 焼土粒C / 粘B, 締B | 22 10YR3/4 暗褐 | ローム大B・中B・粒A / 粘B, 締B |
| 10 10YR2/2 黒褐 | ローム中B・小B・粒B / 粘B, 締B | 23 10YR3/4 暗褐 | ローム中B・小A・粒A / 粘B, 締B |
| 11 10YR3/2 黒褐 | ローム粒A, 焼土粒C / 粘B, 締B | 24 10YR3/3 暗褐 | ローム粒B, 焼土粒C / 粘B, 締B |
| 12 10YR2/2 黒褐 | ローム大B / 粘B, 締B | 25 10YR4/6 褐 | ローム大A・中A・小A・粒A / 粘B, 締B |
| 13 10YR3/2 黒褐 | ローム大A / 粘B, 締B | 26 10YR4/6 褐 | ローム大B・中A・小A・粒B / 粘B, 締B |

0 (1:60) 2m

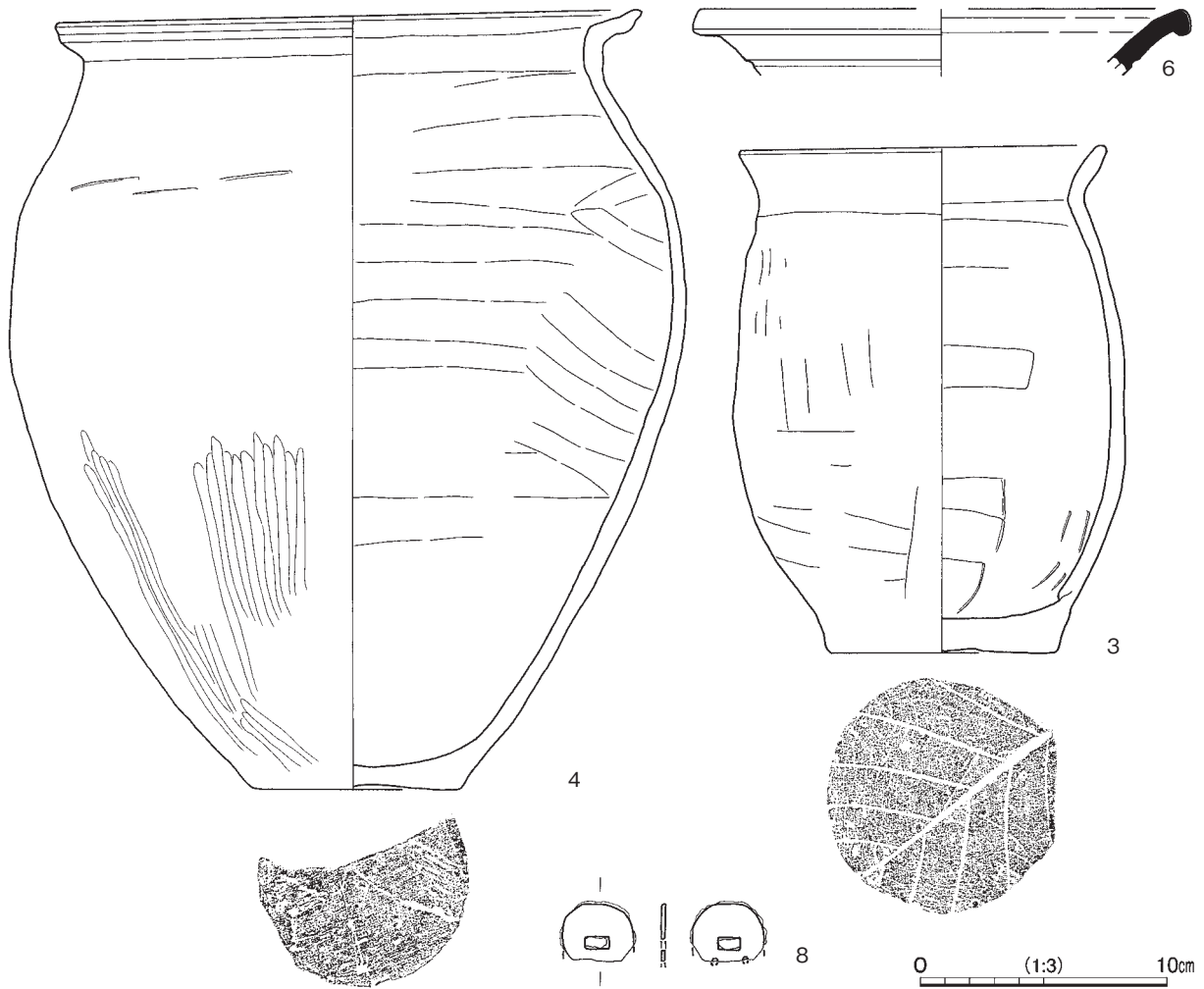
第 97 図 第 238 号 竪穴建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片 493 点 (坏 5, 小型甕 2, 甕類 486), 須恵器片 43 点 (坏 21, 蓋 3, 甕類 19), 土製品 1 点 (支脚), 石器 2 点 (砥石), 金属製品 3 点 (刀子, 釘, 丸軛), 凝灰岩 3 点 が出土している。3 は東部, 6 は北東部の床面から, 5 は北東部, 8 は北東コーナー部の覆土下層から出土している。7 は東部の覆土下層と北東部の掘方の埋土から, 2 は竈右袖部と南東部の覆土上層, 4 は竈内と竈右袖掘方の埋土から出土した破片が接合したものである。1 は北東コーナー部の掘方の埋土から出土している。

所見 時期は, 出土土器から 8 世紀後葉と考えられる。



第 98 図 第 238 号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第 99 図 第 238 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 42 表 第 238 号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	13.0	4.7	8.0	長石・石英・細礫	灰白	普通	口縁部・体部外・内面ロクロナデ 体部下端・底部回転ヘラ削り	掘方埋土	95% PL36 木葉下窯
2	須恵器	坏	[13.2]	4.2	8.0	長石・石英・針状物質	暗黄褐	普通	口縁部・体部外・内面ロクロナデ 体部下端・底部回転ヘラ削り	竈右袖部 覆土上層	30% 木葉下窯
3	土師器	甕	14.6	20.6	9.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデヘラ当て痕 底部木葉痕	床面	90% PL36
4	土師器	甕	23.3	31.5	8.3	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面下半縦位のヘラ磨きヘラ当て痕 内面ナデ 底部ヘラナデ	竈内 掘方埋土	60% PL36 外面煤付着
5	須恵器	甕	[19.2]	(10.0)	-	長石・石英	暗灰黄	普通	口縁部外・内面ロクロナデ 体部外面斜位の平行叩き	覆土下層	5%
6	須恵器	甕	[19.4]	(2.7)	-	長石・石英	灰	普通	口縁部外・内面ロクロナデ 口縁部横位の稜線	床面	5%
7	土師器	小型甕	14.3	11.2	9.0	長石・石英・細礫	赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ 底部木葉痕	覆土下層 掘方埋土	50% PL37 外面煤付着
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
8	丸靱	(2.4)	2.9	0.2	(3.22)	鉄	脚鉤式 脚鉤2か所残存		覆土下層	PL44	

第 239 号竪穴建物跡 (第 100・101 図 PL12)

位置 D 区中央部の L3j9 区, 標高 44 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 東部が調査区域外のため, 北西・南東軸は 3.58 m で, 北東・南西軸は 3.40 m しか確認できなかった。主軸方向は N - 31° - W で, 方形または長方形と推定できる。壁は高さ 32 cm ほどで, ほぼ直立している。

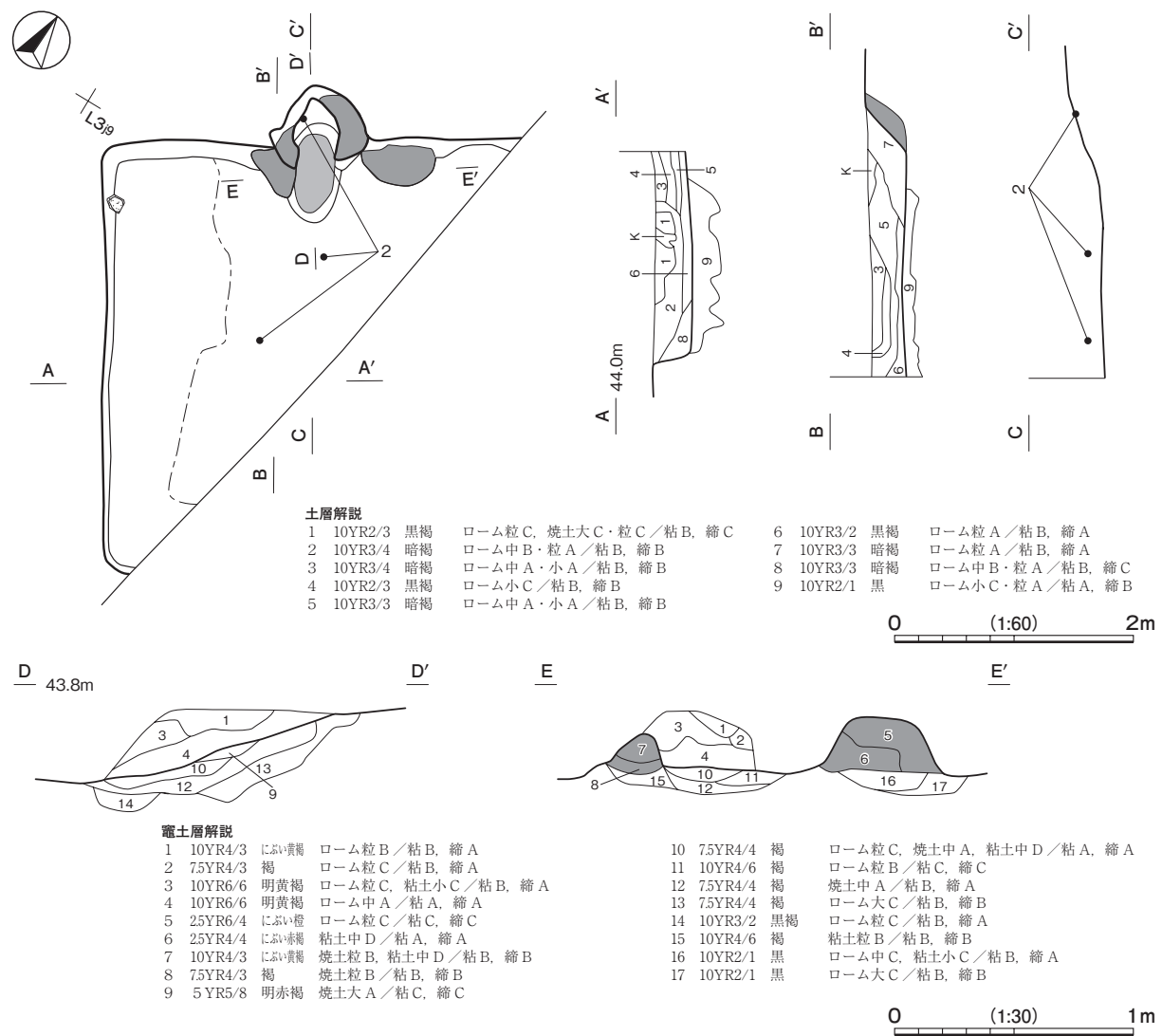
床 平坦で、中央部が全体に踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第9層を10～25cmほど埋土して構築されている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで115cmで、燃焼部幅は35cmである。袖部は地山を20cmほど掘りくぼめ、第9～17層を埋土して整地した後、粘土ブロックやローム粒子を含む第5～8層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形で床面と同じ高さを使用している。火床面は第9・10層上面で、赤変硬化している。煙道部は壁外に45cmほど掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。

覆土 8層に分層できる。ロームブロックが含まれていることや不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片62点（坏2，小型甕5，甕類55），須恵器片3点（坏2，蓋1）が出土している。2は竈内と中央部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。1は覆土中から出土している。

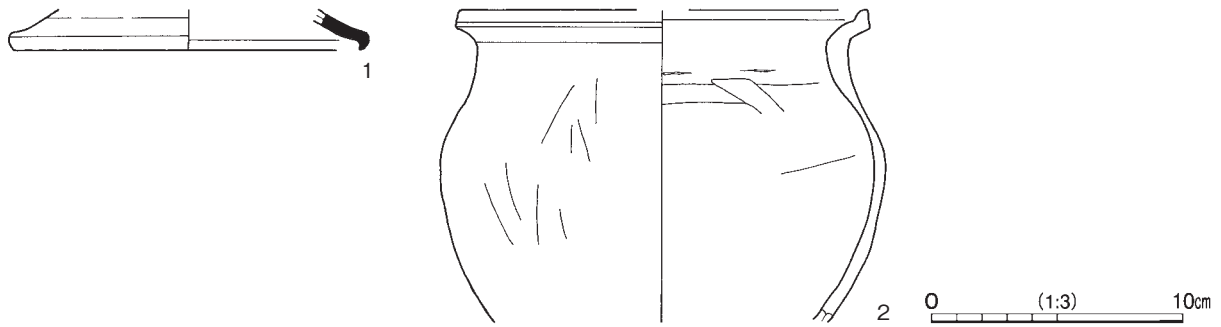
所見 時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第100図 第239号竈穴建物跡実測図

第43表 第239号竈穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	蓋	[13.7]	(16)	-	長石・石英	黄灰	普通	口縁部・外周部ロクロナデ	覆土中	5%
2	土師器	小型甕	[16.0]	(12.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	竈内 覆土下層	20%



第 101 図 第 239 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 240 号竪穴建物跡 (第 102・103 図 PL12)

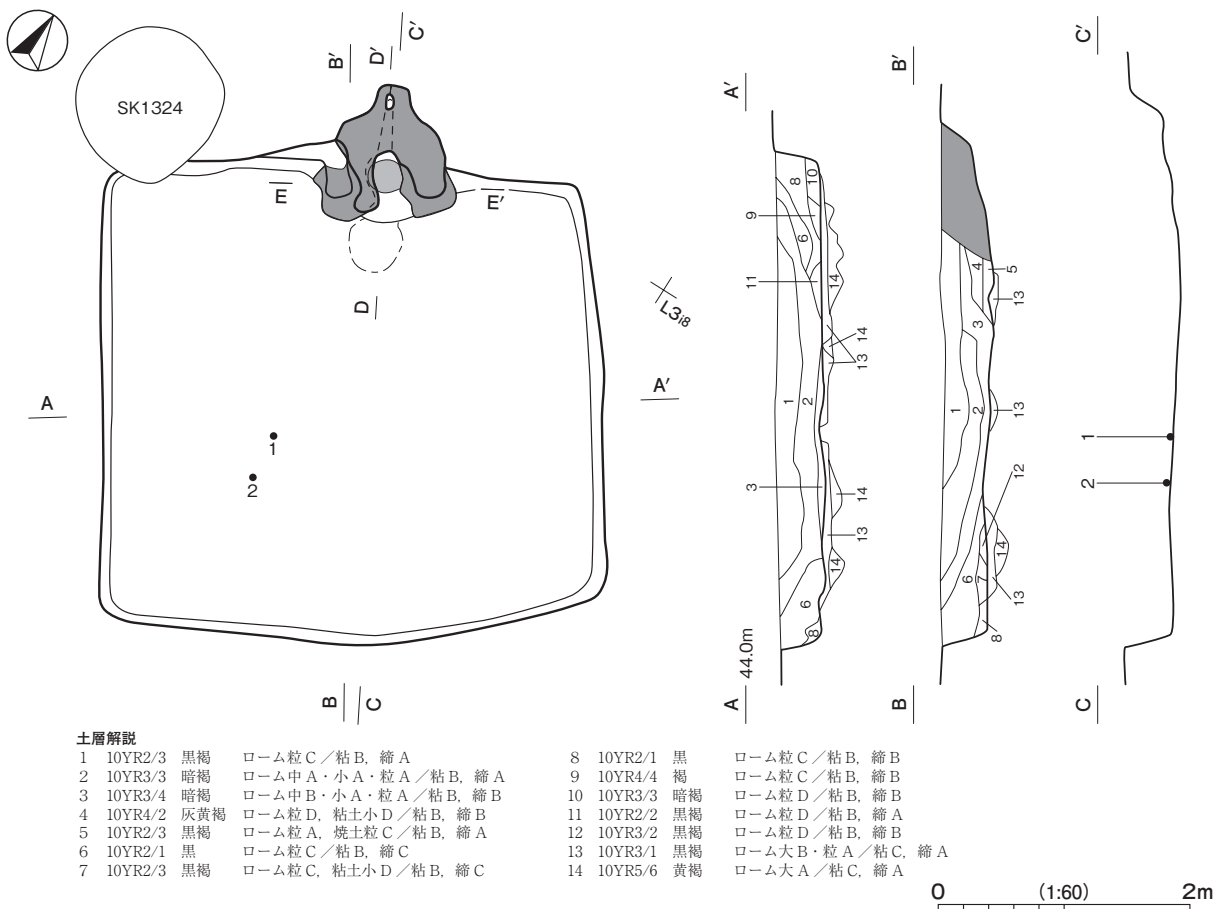
位置 D 区中央部の L 3i7 区, 標高 44 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 1324 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 3.96 m, 短軸 3.80 m の方形で, 主軸方向は N - 32° - W である。壁は高さ 36 cm で, ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で, 竈前の一部が踏み固められている。貼床はロームブロックやローム粒子を含む第 13・14 層を 5 ~ 20 cm ほど埋土して構築されている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 110 cm で, 燃焼部幅は 25 cm である。袖部は



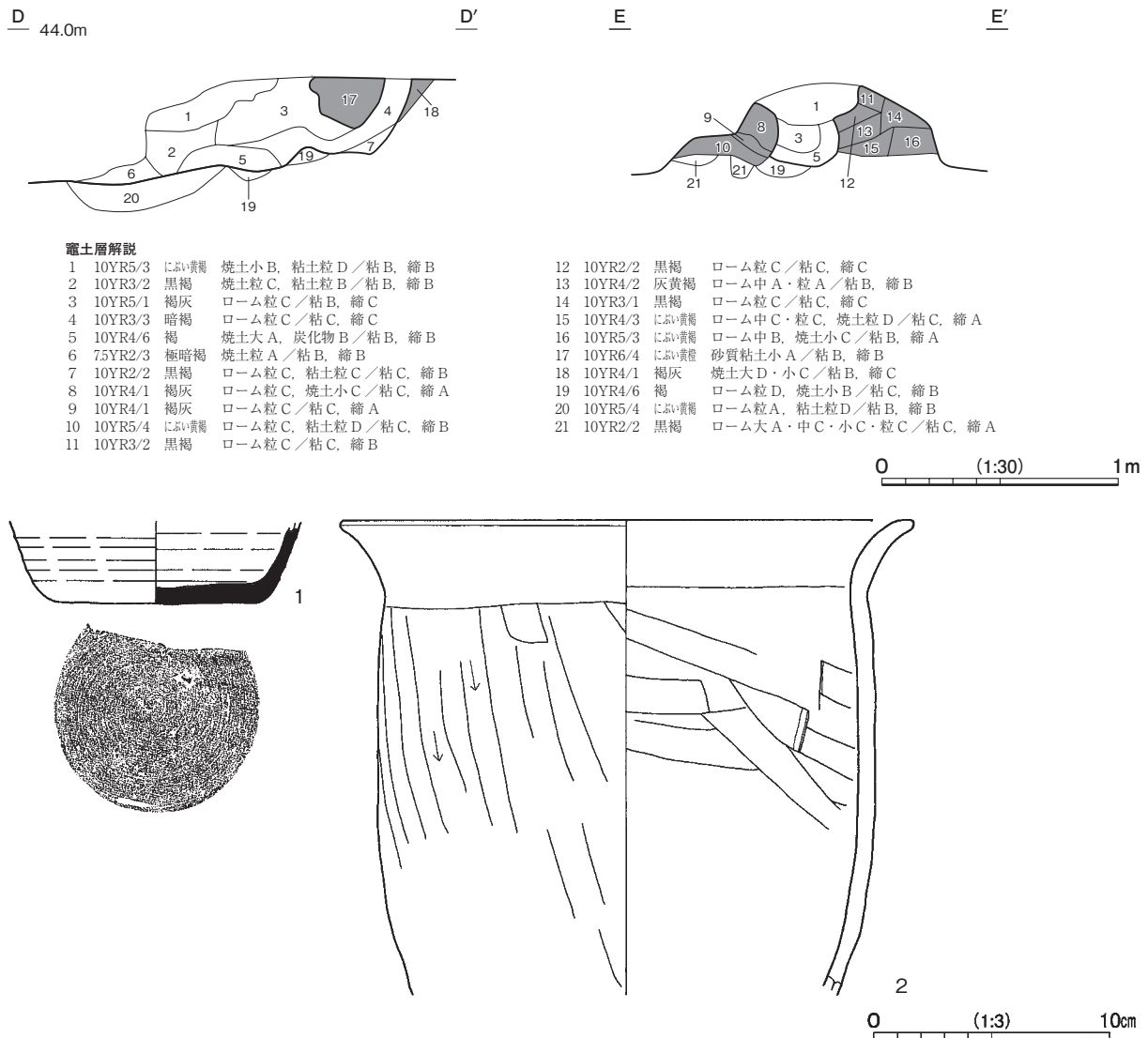
第 102 図 第 240 号竪穴建物跡実測図

地山を10～20cmほど掘りくぼめ、ロームブロックや焼土粒子を含む第19～21層を埋土して整地した後、ローム粒子や粘土粒子を含む第8～16層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形で床面よりやや高い位置を使用している。火床面は第19層上面で、赤変硬化している。煙道部は壁外に50cmほど掘り込まれ、火床面から外傾している。第17層は遺存している天井部の一部である。

覆土 12層に分層できる。不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片31点（甕類29，甑2），須恵器片3点（坏2，甕類1）が出土している。1・2は中央部やや西寄りの床面から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第103図 第240号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第44表 第240号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	-	(3.5)	8.6	長石・石英・針状物質・黒色粒子・細礫	黄灰	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り	床面	30% 木葉下蓋
2	土師器	甑	24.0	(20.1)	-	長石・石英・赤色粒子・細礫	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	床面	30% 外・内面煤付着

第 241 号竪穴建物跡 (第 104・105 図 PL12・13)

位置 D 区南部の M3f3 区, 標高 44 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 1347 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西部が調査区域外のため, 北東・南西軸 4.48 m, 北西・南東軸 4.22 m しか確認できなかった。主軸方向は N - 58° - E で, 方形と推定できる。壁は高さ 12 ~ 22 cm で, ほぼ直立している。

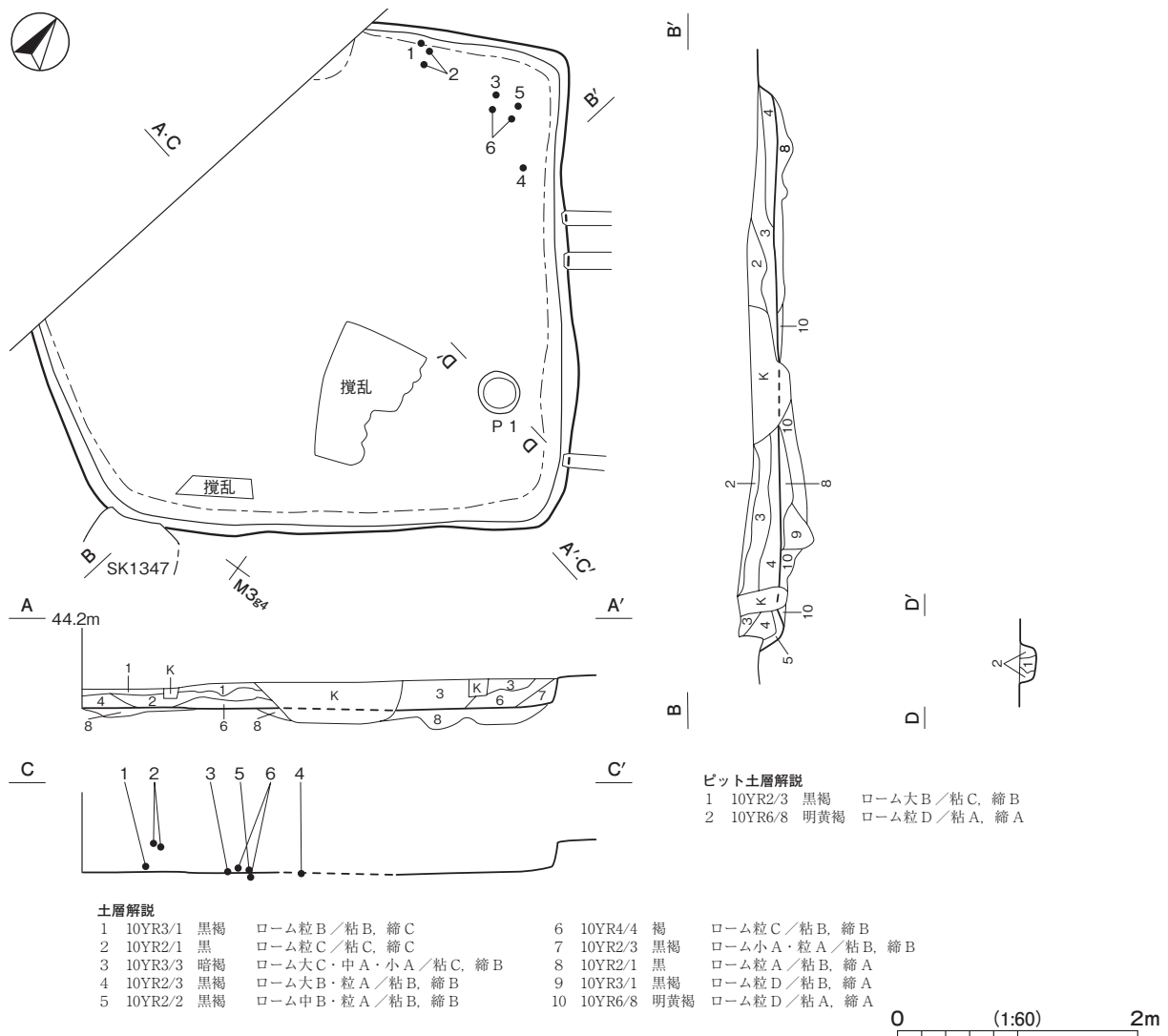
床 平坦で, 全体に踏み固められている。貼床はローム粒子を含む第 8 ~ 10 層を 10 ~ 25 cm ほど埋土して構築されている。

ピット P 1 は深さ 15 cm で, 性格は不明である。

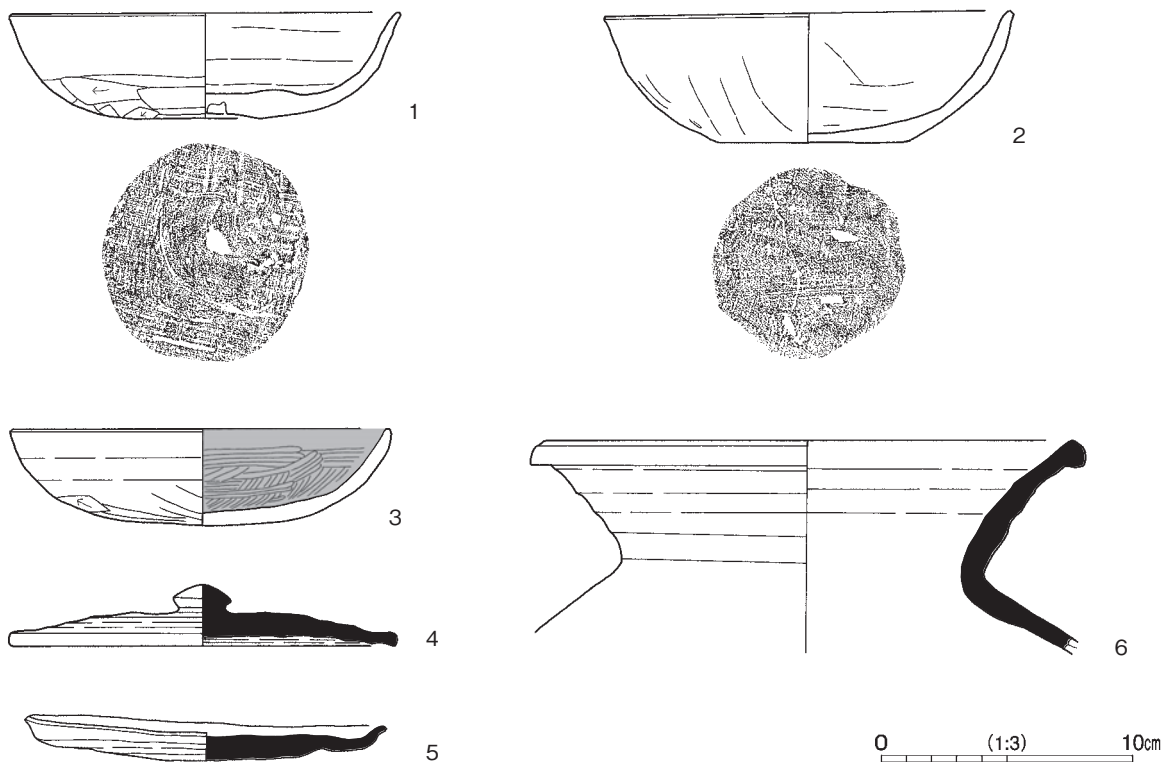
覆土 7 層に分層できる。不規則な堆積状況から, 埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片 34 点 (坏 4, 皿 1, 鉢 1, 甕類 28), 須恵器片 4 点 (坏, 蓋, 皿, 甕), 磁器片 1 点 (碗) が出土している。3 ~ 5 は北コーナー部の床面から, 6 は床面と掘方の埋土から出土した破片が接合したものである。1 は北西壁寄りの覆土下層から, 2 は北西壁寄りの覆土上層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から 8 世紀前葉と考えられる。



第 104 図 第 241 号竪穴建物跡実測図



第 105 図 第 241 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 45 表 第 241 号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	15.4	4.2	8.4	長石・石英・赤色粒子	赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ナデ 体部下端・底部多方向のヘラ削り	覆土下層	80% PL36
2	土師器	坏	16.0	5.3	7.9	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ 底部多方向のヘラ削り	覆土上層	70% PL36 外面煤付着
3	土師器	坏	14.9	3.8	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	口縁部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端ヘラ削り	床面	50% PL36
4	須恵器	蓋	15.2	2.4	-	長石・石英・針状物質・細礫	灰	普通	天井部回転ヘラ削り つまみ部貼付け後ナデ	床面	95% PL36
5	須恵器	皿	14.0	1.7	3.6	長石・石英	灰白	普通	口縁部外・内面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り	床面	95% 木葉下窯
6	須恵器	甕	21.0	(8.5)	-	長石・石英・角閃石	灰白	普通	口縁部外・内面ロクロナデ	床面 掘方埋土	10%

第 242 号竪穴建物跡 (第 106 ~ 108 図 PL13)

位置 D区南部の M3i3区, 標高 44 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 243 号竪穴建物跡を掘り込み, 第 1320・1394・1395・1498 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西部が調査区域外のため, 短軸は 5.96 m で, 長軸は 6.74 m しか確認できなかった。主軸方向は N - 27° - W で, 長方形と推定できる。壁は高さ 16 ~ 30 cm ほどで, 外傾している。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。貼床はロームブロックやローム粒子を含む第 8 ~ 11 層を 15 ~ 30 cm ほど埋土して構築されている。壁溝が一部を除いて巡っている。

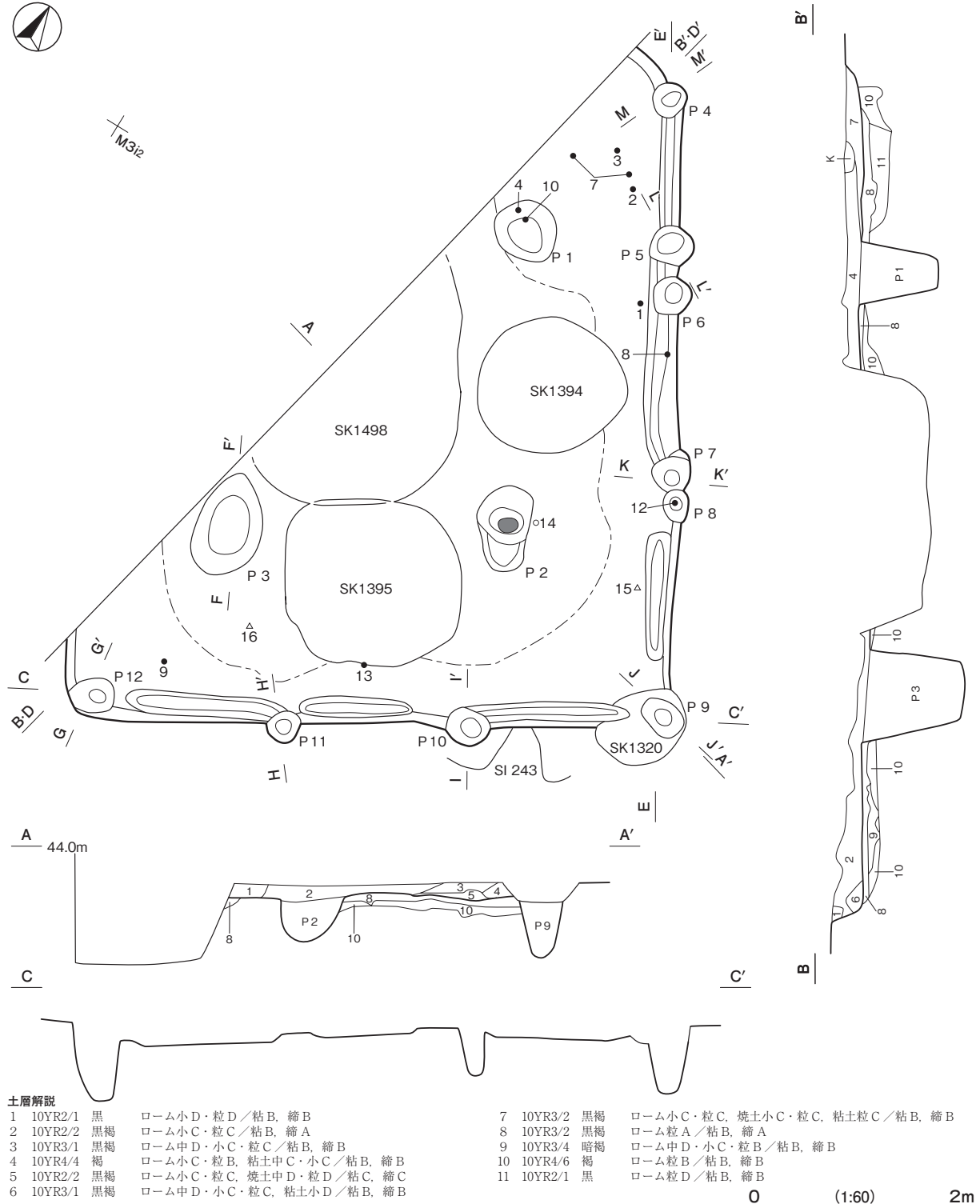
ピット 12 か所。P 1 ~ P 3 は深さ 80 ~ 100 cm で, 配置から主柱穴と考えられる。P 4 ~ P 12 は深さ 20 ~ 60 cm で, 壁際にある柱穴である。第 1 ~ 6 層は柱材を抜き取った後の覆土である。P 2 の底面で柱のあたりを確認した。

覆土 7 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることや不規則な堆積状況から, 埋め戻されている。

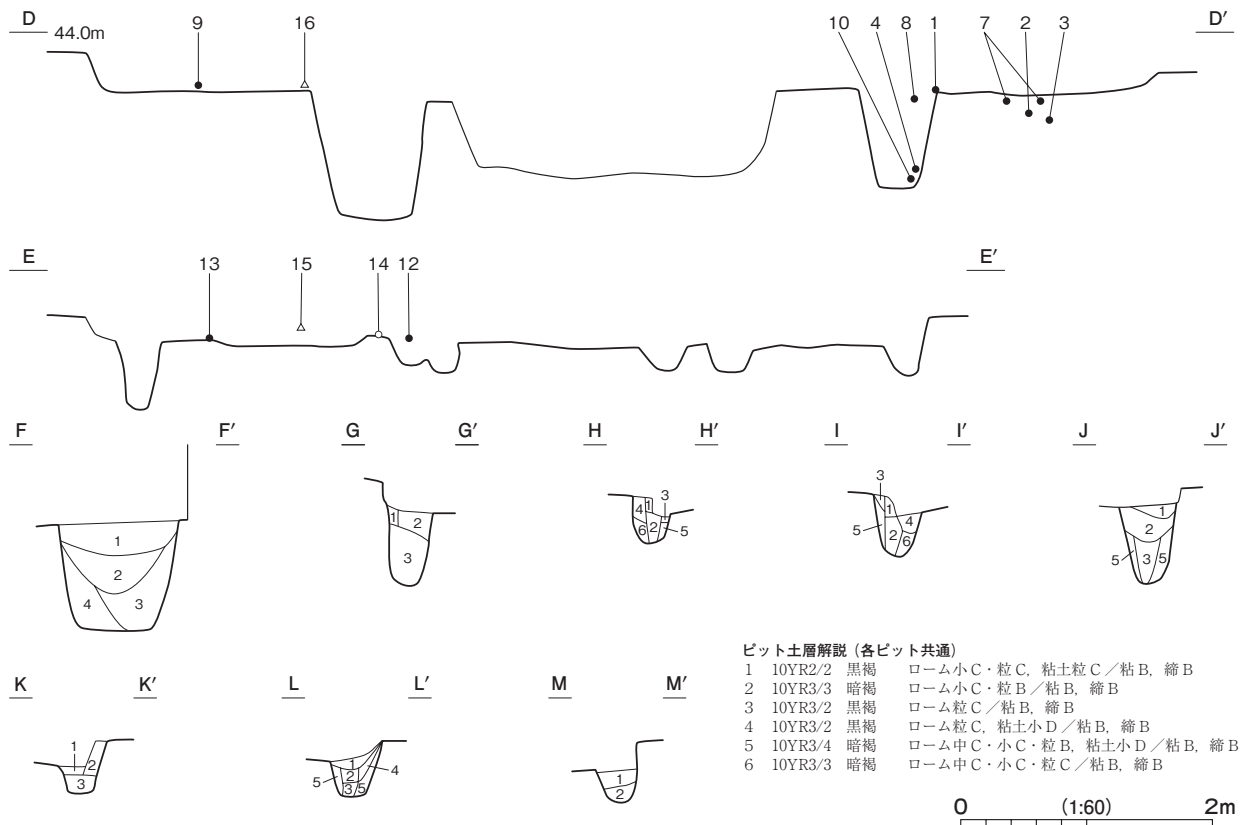
遺物出土状況 土師器片 510 点 (坏 169, 高台付坏 2, 碗 1, 皿 22, 小型甕 2, 甕類 314), 須恵器片 29 点 (坏 15, 盤 3, 甕類 11), 灰釉陶器片 6 点 (壺), 土製品 1 点 (紡錘車), 石器 2 点 (砥石), 金属製品 2 点 (釘, 鎌),

椀形滓 1 点，礫 1 点が出土している。8 は北東壁の壁溝から，1 は北東部の壁溝寄り，12 は北東壁際，13・16 は南東部の壁溝寄り，14 は P 2 寄り，15 は東コーナー部の床面から，9 は南コーナー部覆土下層から，4・10 は P 1 の覆土下層から，2・3・7 は北コーナー部の掘方の埋土からそれぞれ出土している。5・6・11 は覆土中から出土している。

所見 時期は，重複関係や出土土器から 9 世紀後葉と考えられる。

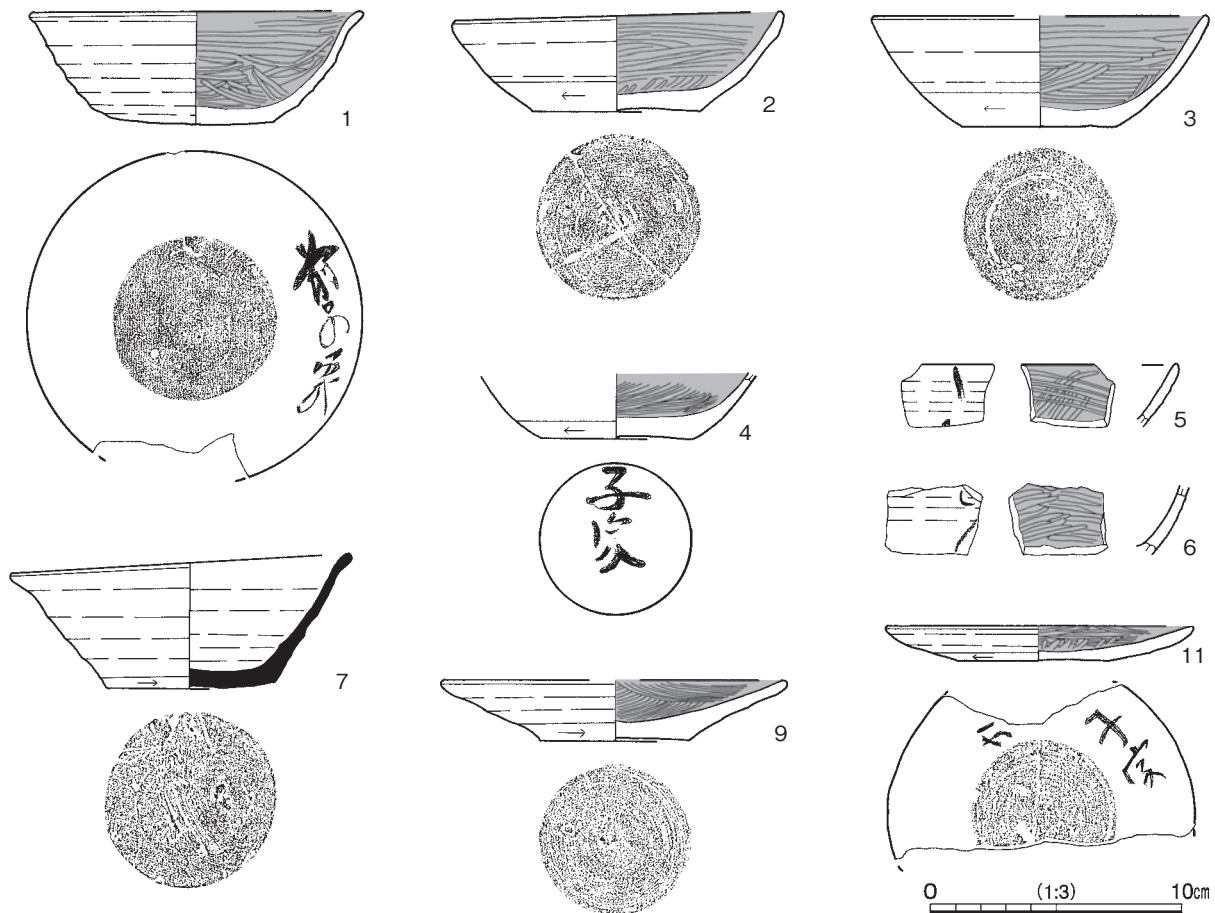


第 106 図 第 242 号 竪穴建物跡実測図 (1)

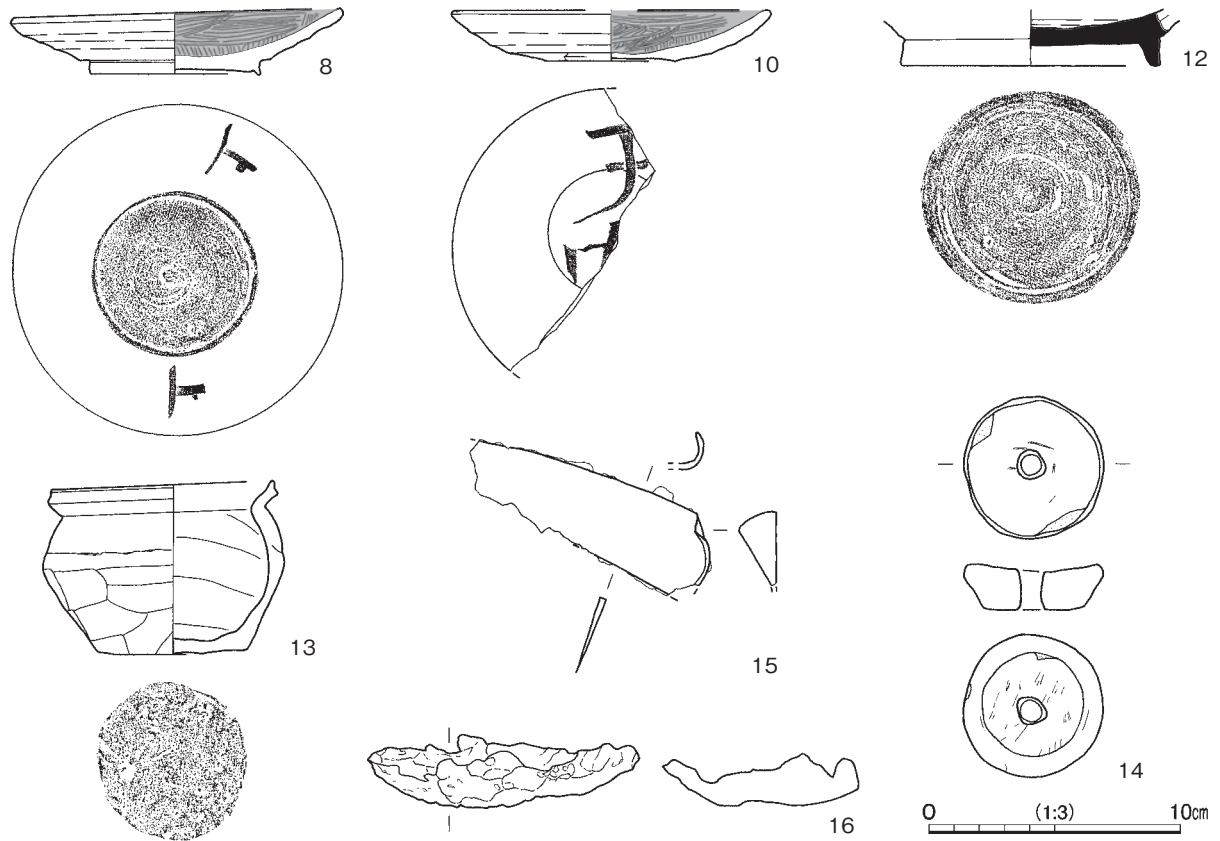


ビット土層解説 (各ビット共通)

- | | | |
|---|------------|--------------------------|
| 1 | 10YR2/2 黒褐 | ローム小C・粒C, 粘土粒C/粘B, 締B |
| 2 | 10YR3/3 暗褐 | ローム小C・粒B/粘B, 締B |
| 3 | 10YR3/2 黒褐 | ローム粒C/粘B, 締B |
| 4 | 10YR3/2 黒褐 | ローム粒C, 粘土小D/粘B, 締B |
| 5 | 10YR3/4 暗褐 | ローム中C・小C・粒B, 粘土小D/粘B, 締B |
| 6 | 10YR3/3 暗褐 | ローム中C・小C・粒C/粘B, 締B |



第107図 第242号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第 108 図 第 242 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 46 表 第 242 号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	杯	12.9	4.5	6.5	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き	床面	90% PL37 墨書「前子家」 外面煤付着
2	土師器	杯	13.0	4.0	6.6	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端・底部回転ヘラ削り	掘方埋土	80% PL37
3	土師器	杯	[13.2]	4.5	6.0	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端・底部回転ヘラ削り	掘方埋土	60% PL37
4	土師器	杯	-	(26)	6.0	長石・石英	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き 体部下端・底部回転ヘラ削り	P 1 覆土下層	40% PL37 墨書「子家」
5	土師器	杯	-	(25)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き	覆土中	5% 墨書「□□」
6	土師器	杯	-	(28)	-	長石・石英	橙	普通	体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き	覆土中	5% 墨書「□□」
7	須恵器	杯	13.3	5.4	6.8	長石・石英・ 針状物質・細礫	灰	普通	口縁部・体部外・内面ロクロナデ 体部下端回 転ヘラ削り 底部ヘラナデ	掘方埋土	60% PL37 木葉下窯
8	土師器	皿	12.9	2.6	6.6	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端工具による回転ヘラ削り 底部回転ヘ ラ削り	床面	100% PL38 墨書「上上」
9	土師器	皿	[13.5]	2.4	5.9	長石・石英・ 針状物質	橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端・底部回転ヘラ削り	覆土下層	50% PL38
10	土師器	皿	12.5	2.0	5.0	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端・底部回転ヘラ削り	P 1 覆土下層	40% PL37 墨書「夫□□」
11	土師器	皿	12.1	1.4	5.6	長石・石英・ 赤色粒子	灰褐	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端・底部回転ヘラ削り	覆土中	40% PL38 墨書「□子家」
12	須恵器	盤	-	(2.3)	10.2	長石・石英・ 針状物質	灰褐	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼付け 内面使用痕 底部外面視転用	床面	5% PL38
13	土師器	小型甕	8.7	6.9	5.9	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ 底 部ヘラ当て痕	床面	80% PL39

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
14	紡錘車	5.6~5.7	0.8	1.8	(56.77)	長石・石英	褐灰	上・下面一部摩滅 片面研磨 一方向からの穿孔	床面	PL42

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
15	鎌	(9.7)	3.4	0.2	(41.62)	鉄	刃部・先端部欠損 刃部断面三角	床面	PL44
16	椀形滓	7.7	10.7	2.9	151.54	鉄	一部発泡 全面錆化 着磁性なし	床面	PL43

第244号竪穴建物跡 (第109～112図 PL13)

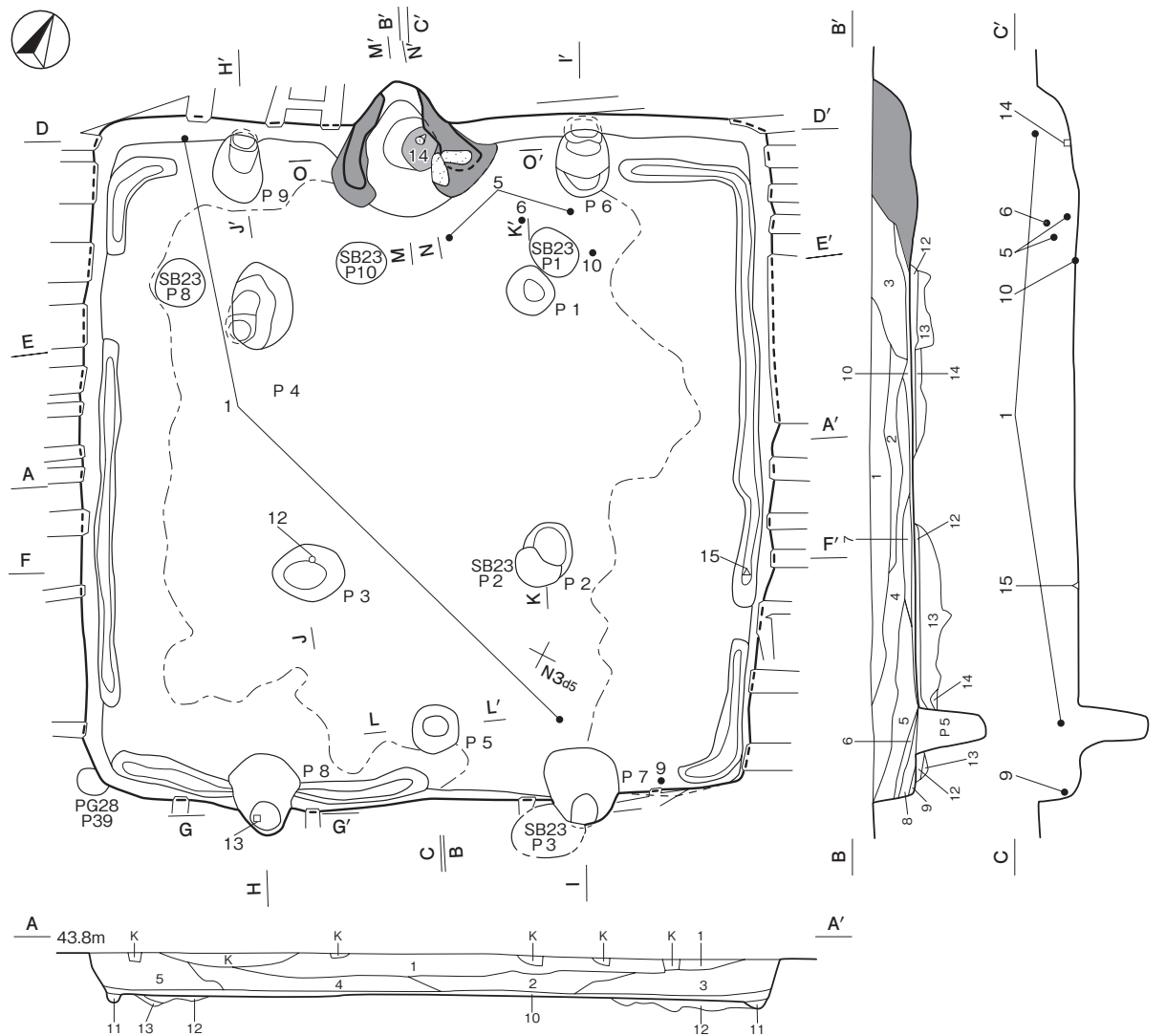
位置 D区南部のN3c4区, 標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第28号ピット群を掘り込み, 第23号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.78m, 短軸5.66mで, 主軸方向はN-26°-Wの方形である。壁は高さ31～38cmで, ほぼ直立している。

床 平坦で, 中央部が全体に踏み固められている。貼床は不整形の土坑状や溝状に掘り込み, ロームブロックやローム粒子を含む第12～14層を10～20cmほど埋土して構築されている。壁溝が一部を除いて巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで115cmで, 燃焼部幅は50cmである。袖部は地山を30cmほど掘りくぼめ, 粘土ブロックを含む第7～11層を積み上げ, その上に補強材として凝灰質泥岩の切り石を使用している。火床部は楕円形で床面から16cm掘りくぼめ, ロームブロックや焼土ブロックを

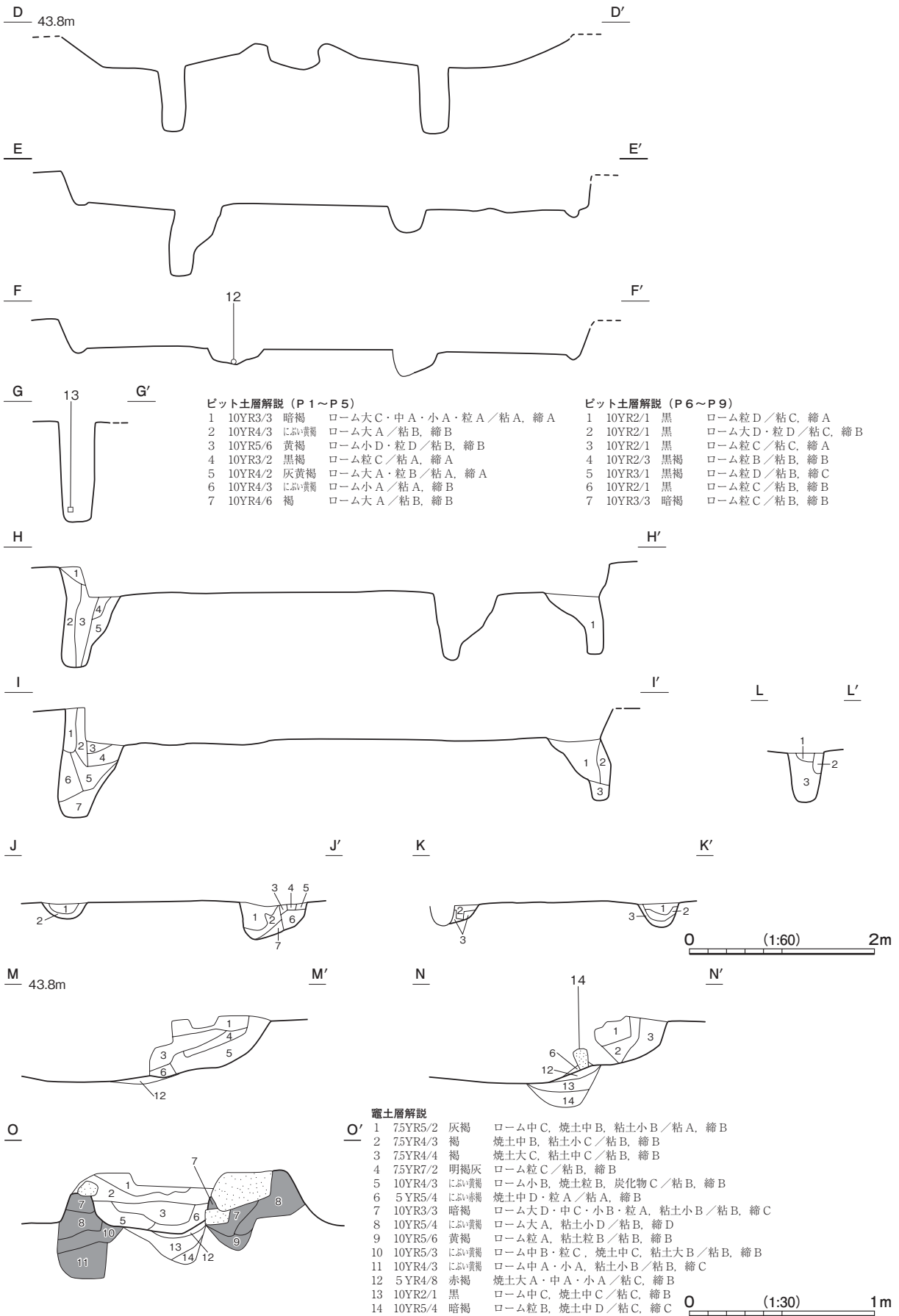


土層解説

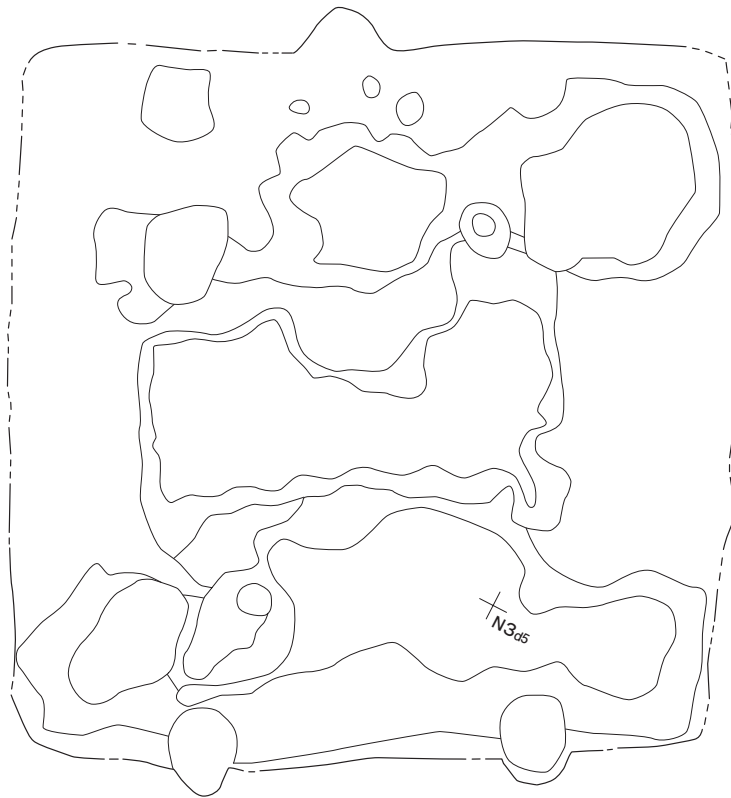
1	10YR2/2	黒褐	ローム粒B, 焼土小C, 粘土粒C/粘B, 締B	8	10YR2/1	黒	ローム粒C, 焼土小C, 炭化粒C, 粘土小C/粘B, 締B
2	10YR2/2	黒褐	ローム粒B/粘B 締B	9	10YR2/3	黒褐	ローム粒A/粘B, 締B
3	10YR3/2	黒褐	ローム小B, 焼土粒C, 炭化物C, 粘土大B・中A/粘B, 締B	10	10YR2/3	黒褐	ローム中B, 粘土中C/粘A, 締B
4	10YR2/2	黒褐	焼土小C, 炭化粒C/粘D, 締A	11	10YR2/3	黒褐	ローム小A, 焼土小C/粘B, 締B
5	10YR2/3	黒褐	ローム小B・粒A, 炭化物C/粘B, 締B	12	10YR3/3	暗褐	ローム中D・小C・粒C/粘B, 締A
6	10YR2/2	黒褐	ローム中C・小B, 焼土小B, 粘土小B/粘B, 締B	13	10YR3/4	暗褐	ローム大D・中D・小C・粒C, 焼土中C/粘B, 締B
7	10YR2/3	黒褐	ローム小B, 焼土小C/粘B, 締C	14	10YR4/3	濃い黄	ローム大D・中C・小C・粒C/粘B, 締B

0 (1:60) 2m

第109図 第244号竪穴建物跡実測図(1)



第 110 図 第 244 号 竪穴建物跡実測図 (2)



0 (1:60) 2m

第 111 図 第 244 号竪穴建物跡掘方実測図

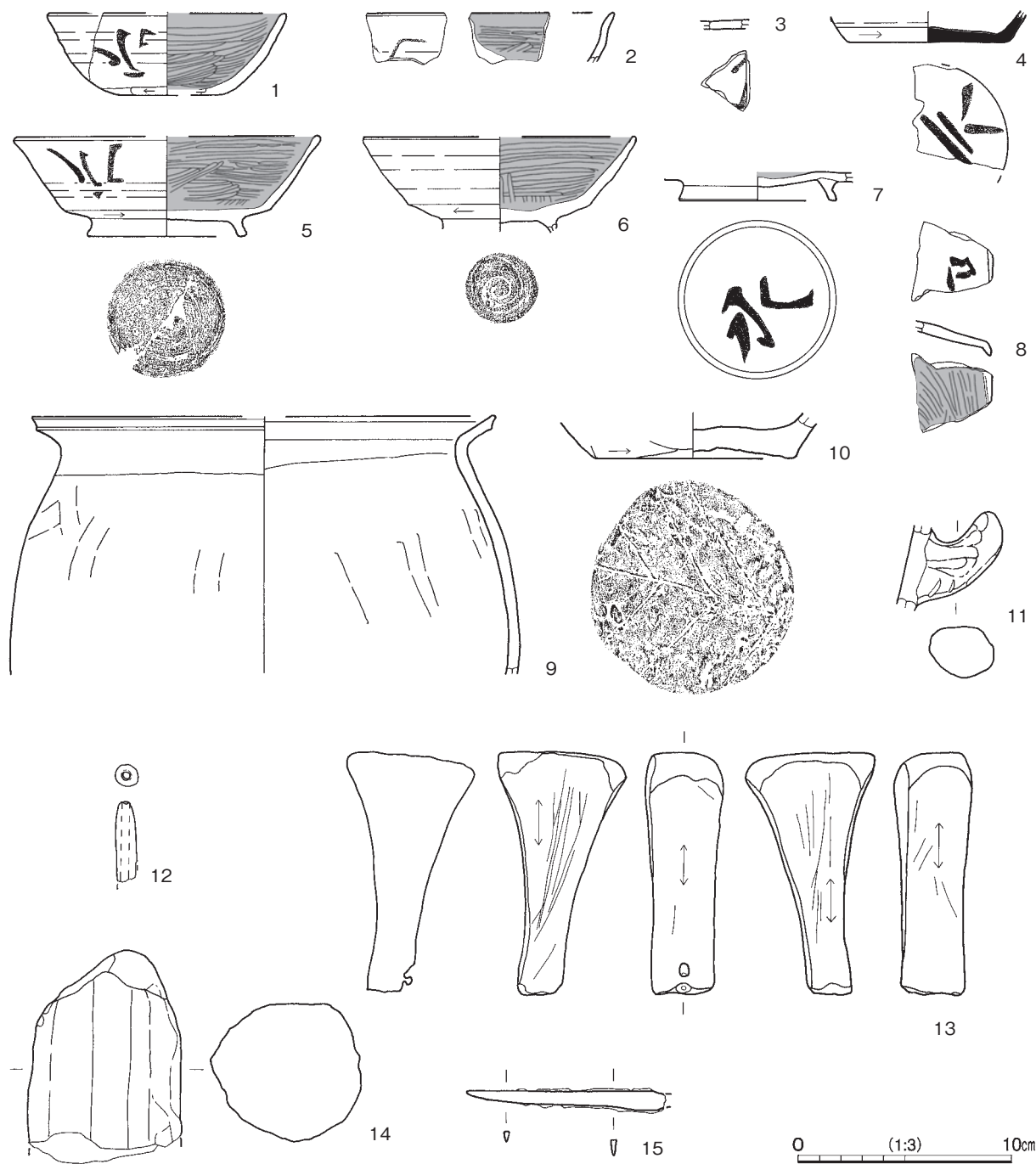
む第 12～14 層を埋土している。火床面は第 12 層上面で、赤変硬化している。煙道部は壁外に 35 cm ほど掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。凝灰質泥岩が支脚として使用され、中央部に置かれている。

ピット 9 か所。P 1～P 4 は深さ 15～70 cm で、配置から主柱穴と考えられる。P 5 は深さ 56 cm で竈に対面した南壁際に位置しており、出入口施設に伴うピットと考えられる。P 1～P 5 の第 1～7 層は柱材を抜き取った後の覆土である。P 6～P 9 は深さ 70～110 cm で壁際にある柱穴である。第 1～7 層は柱材を抜き取った後の覆土である。

覆土 11 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることや不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片 1305 点（坏 120，高台付坏 9，高台付碗 1，高台付皿 2，蓋 4，小型甕 3，甕類 1165，甗 1），須恵器片 89 点（坏 44，高台付坏 1，蓋 9，盤 2，高坏 3，壺 1，短頸壺 1，甕類 28），灰釉陶器片 2 点（壺），陶磁器片 3 点（碗），土製品 1 点（管状土錘），石器 1 点（砥石），石製品 1 点（支脚），金属製品 7 点（刀子 4，釘 2，不明鉄製品 1），鉄滓 1 点，礫 6 点が出土している。10 は P 1 寄りの床面から，12 は P 3 の底面から，14 は竈内の底面から，9 は南東コーナー部の覆土下層から，13 は P 8 の覆土下層から，15 は東壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。5 は竈右袖部寄りの覆土下層と覆土中層から出土した破片が接合して，1 は北西コーナー部と南部の覆土中層から覆土上層にかけて出土した破片が接合したものである。6 は右袖部寄りの覆土中層から，2～4・7・8・11 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から 9 世紀後葉と考えられる。



第 112 図 第 244 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 47 表 第 244 号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[11.0]	3.9	5.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端手持ちヘラ削り	覆土中層 覆土上層	40% PL38 墨書「永」
2	土師器	坏	-	(2.4)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き	覆土中	5% PL38 墨書「□」
3	土師器	坏	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	内面ヘラ磨き	覆土中	5% PL38 墨書「□」
4	須恵器	坏	-	(1.5)	[7.4]	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部外面下端・底部回転ヘラ削り	覆土中	5% PL39 墨書「□八」 新治窯
5	土師器	高台付坏	[14.1]	4.7	[7.2]	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端・底部回転ヘラ削り	覆土下層 覆土中層	50% PL39 墨書「永」
6	土師器	高台付坏	[12.6]	(4.5)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端回転ヘラ削り 高台欠損	覆土中層	50%
7	土師器	高台付坏	-	(1.4)	7.2	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	覆土中	20% PL39 墨書「永」
8	土師器	蓋	-	(1.6)	-	長石・石英	赤褐	普通	外周部ロクロナデ 内面ヘラ磨き	覆土中	5% PL38 墨書「□」

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
9	土師器	甕	[21.5]	(12.1)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ 内面ヘラ当て痕	覆土下層	10% 外面煤付着
10	土師器	甕	-	(2.2)	9.3	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下端ヘラ削り 底部線刻による木葉痕模様	床面	10% PL39
11	土師器	甌	-	(4.6)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	把手 ナデ	覆土中	5% PL39

番号	器種	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
12	管状土錘	(3.8)	1.1	0.4	(3.65)	長石・石英	にぶい橙	外面ナデ 穿孔 片方欠損	P 3 底面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
13	砥石	11.4	3.6	6.0	234.28	凝灰岩	砥面4面 くほみに研き痕 未穿孔	P 8 覆土下層	PL43

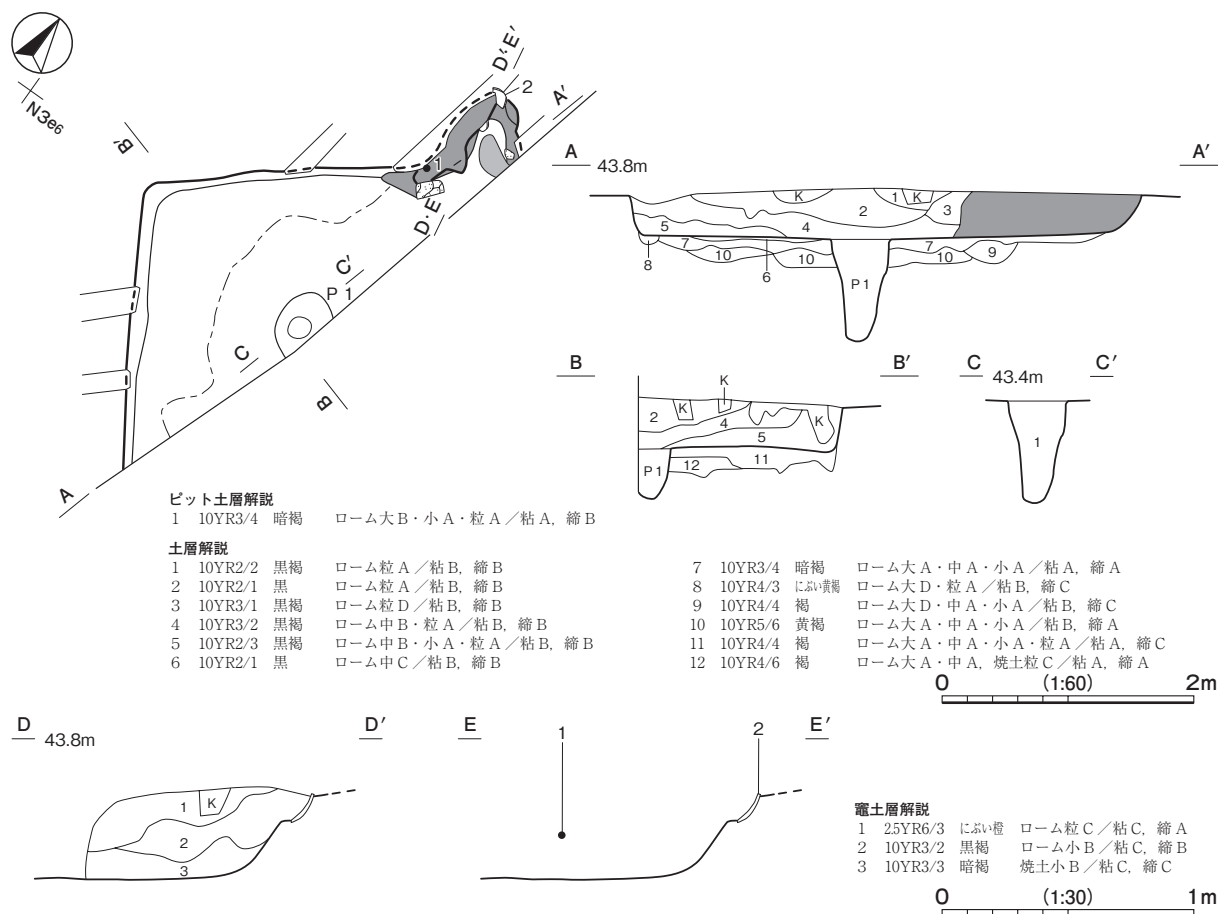
番号	器種	高さ	最大径	最小径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
14	支脚	(10.0)	(7.2)	6.8	(320.66)	凝灰質泥岩	切り石 被熱痕	竈内	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
15	刀子	(9.4)	(1.0)	0.3	(8.46)	鉄	茎部欠損 刃部断面三角形	覆土下層	PL44

第245号竪穴建物跡 (第113・114図 PL13)

位置 D区南部のN3d6区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 南東部が調査区域外のため、東西軸2.97m、南北軸2.20mしか確認できなかった。主軸方向はN-35°-Wで、方形または長方形と推定できる。壁は高さ36cmで、直立している。



第113図 第245号竪穴建物跡実測図

床 平坦で、柱穴周辺と竈付近が踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第6～12層を10～25 cmほど埋土して構築されている。

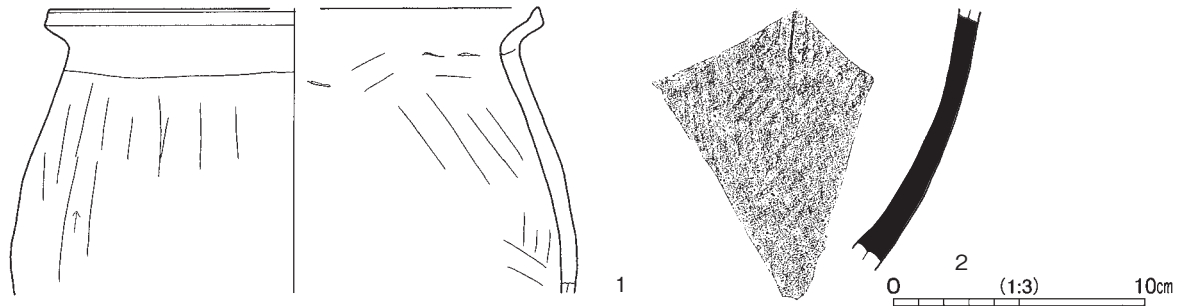
竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで80 cmで、燃焼部幅は30 cmである。袖部は遺存状態が悪く、一部しか残存していない。床面の上に、ロームブロックや砂質粘土を積み上げて構築されている。火床部は不定形で、床面と同じ高さを使用しており、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に60 cmほど掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がり、奥壁で外傾している。

ピット P1は深さ80 cmで、配置から支柱穴と考えられる。第1層は柱材を抜き取った後の覆土である。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックが含まれていることや不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片46点（坏1，甕類45），須恵器片4点（坏1，甕類3）が出土している。1は竈左袖部から、2は竈煙道部上部から出土している。

所見 時期は、出土土器及び周囲の竈穴建物跡との関係から9世紀後葉と考えられる。



第114図 第245号竈穴建物跡出土遺物実測図

第48表 第245号竈穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	甕	[19.3]	(11.3)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ 輪積み痕	竈左袖部	10% 外面煤付着
2	須恵器	甕	-	(10.3)	-	長石・石英	褐灰	普通	体部外面縦位の平行叩き後、横位の平行叩き	煙道部	5%

第246号竈穴建物跡（第115・116図 PL13）

位置 D区南部のN3f5区、標高44 mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1492号土坑を掘り込み、第32～34・36号溝に掘り込まれている。

規模と形状 溝に掘り込まれ、南東部が調査区域外のため、南北軸3.04 m、東西軸4.20 mしか確認できなかった。主軸方向はN-9°-Wで、方形または長方形と推定できる。壁は高さ34 cmで、直立している。

床 平坦で、竈の前方から中央部にかけて踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第6～13層を10～20 cmほど埋土して構築されている。

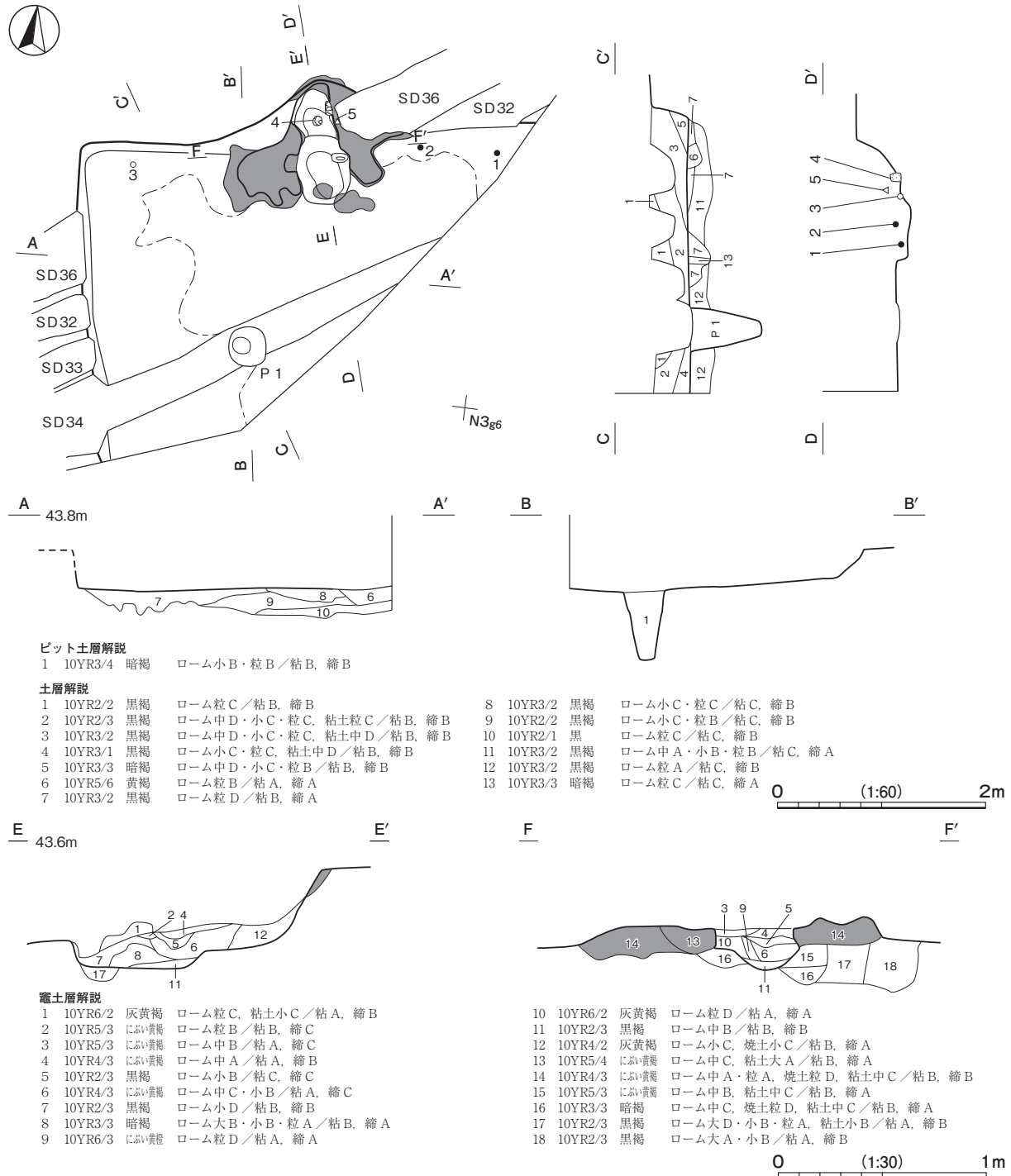
竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで120 cmで、燃焼部幅は50 cmである。袖部は地山を10～25 cmほど掘りくぼめ、ロームブロックや粘土ブロックを含む第15～18層を埋土して整地した後、ロームブロックや粘土ブロックを含む第13・14層を積み上げて構築されている。右袖部は補強材として凝灰質泥岩の切り石を袖内面に設置している。火床部は不定形で床面よりくぼんでいる。火床面は赤変硬化していない。煙道部は壁外に70 cmほど掘り込まれ、火床面から段を有し、外傾している。

ピット P1は深さ66cmで配置から支柱穴と考えられる。第1層は柱材を抜き取った後の覆土である。

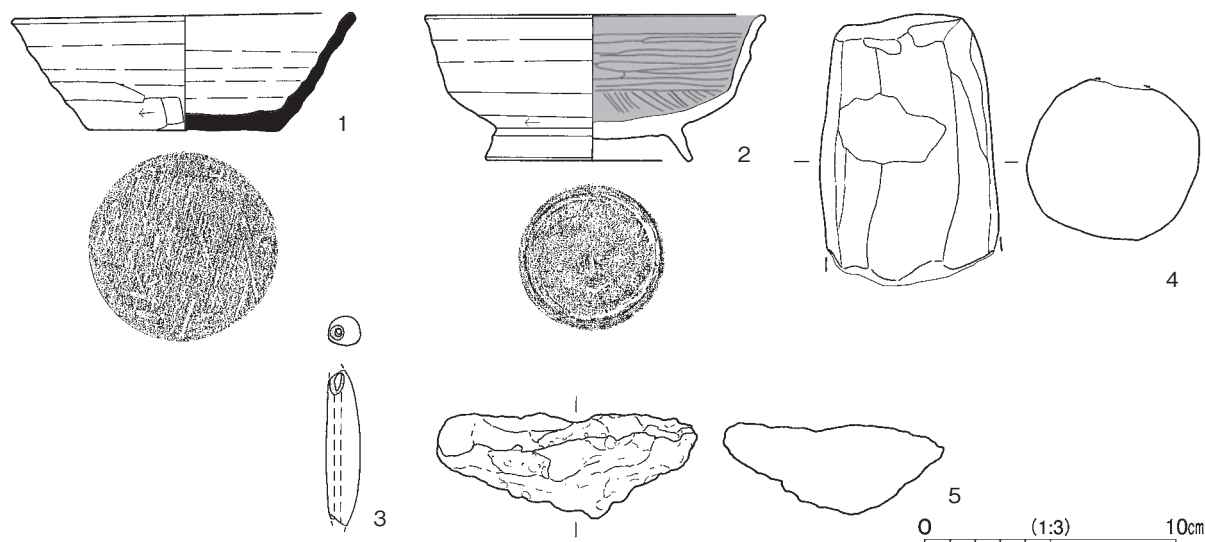
覆土 5層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片110点(坏10, 高台付坏2, 蓋1, 甕類97), 須恵器片20点(坏11, 蓋4, 甕類5), 陶器片1点(甕類), 土製品1点(管状土錘), 石製品1点(支脚), 椀形滓1点が出土している。3は北西コーナー部, 2は竈右袖部寄り, 1は北壁寄りの床面からそれぞれ出土している。4は竈内の底面から, 5は竈右袖部から出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第115図 第246号竪穴建物跡実測図



第 116 図 第 246 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 49 表 第 246 号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	13.3	4.7	7.6	長石・石英・雲母	灰黄	普通	口縁部外・内面ロクロナデ 体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	床面	90% PL39 新治窯
2	土師器	高台付坏	13.4	5.8	8.0	長石・石英	褐灰	普通	口縁部外・内面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り後高台貼付け	床面	80% PL40 外面煤付着
番号	器種	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴		出土位置	備考
3	管状土錘	(6.2)	12~13	0.3	(7.78)	長石・石英	浅黄橙	外面ナデ 穿孔 両方欠損		床面	PL41
番号	器種	高さ	最大径	最小径	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
4	支脚	(10.8)	6.9	5.5	(364.13)	凝灰質泥岩	切り石 被熱痕		竈内	PL42	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
5	椀形滓	8.8	10.4	4.3	324.81	鉄	一部発泡 全面錆化 着磁性なし		竈右袖部	PL43	

第 247 号竪穴建物跡 (第 117 図 PL13・14)

位置 D 区北部の K3h9 区、標高 44 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸 2.82 m、短軸 2.62 m の方形で、主軸方向は N - 38° - W である。壁は高さ 6 ~ 20 cm で、外傾している。

床 平坦で、中央部が全体に踏み固められている。貼床はロームブロックを含む第 5 ~ 7 層を 10 ~ 15 cm ほど埋土して構築されている。

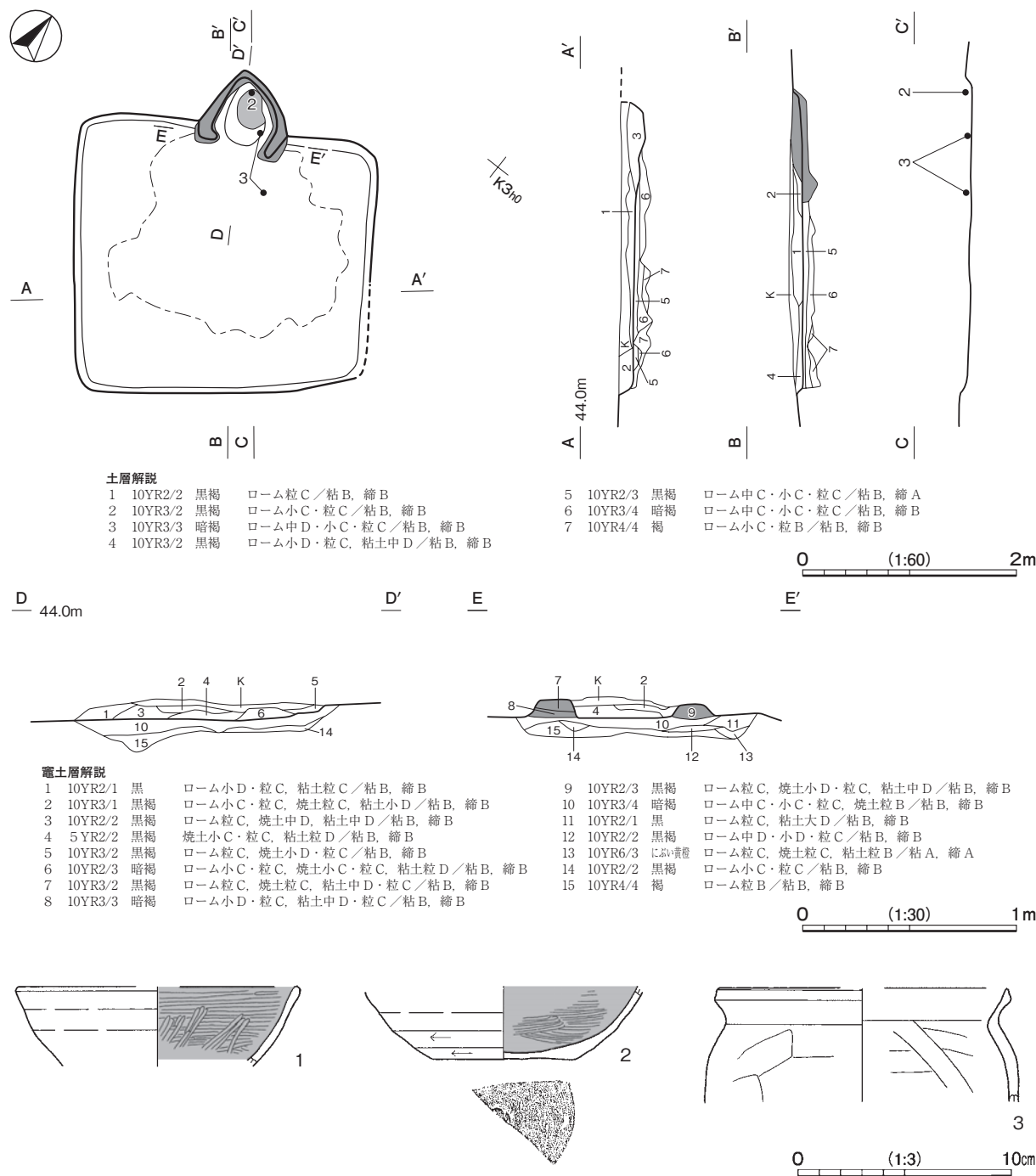
竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 70 cm で、燃焼部幅は 50 cm である。袖部は地山を 6 ~ 15 cm ほど掘りくぼめ、ロームブロックやローム粒子を含む第 10 ~ 15 層を埋土して整地した後、粘土ブロックや焼土粒子を含む第 7 ~ 9 層を積み上げて構築されている。火床部は楕円形で床面と同じ高さを利用している。火床面は第 10 層上面で、赤変硬化している。煙道部は壁外に 55 cm ほど掘り込まれ、火床面から緩やかに立ち上がっている。

覆土 4 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることや不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片 60 点 (坏 11, 高台付坏 1, 小型甕 1, 甕類 47), 須恵器片 1 点 (甕類), 金属製品 1 点 (釘) が出土している。2 は竈内の覆土下層から、3 は竈内と竈付近の覆土下層から出土した破片が接合し

たものである。1は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第117図 第247号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第50表 第247号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[13.0]	(3.7)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き	覆土中	10%
2	土師器	坏	-	(3.4)	[6.6]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端・底部回転ヘラ削り	竈内	10%
3	土師器	小型甕	[13.5]	(5.3)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	竈内 覆土下層	5%

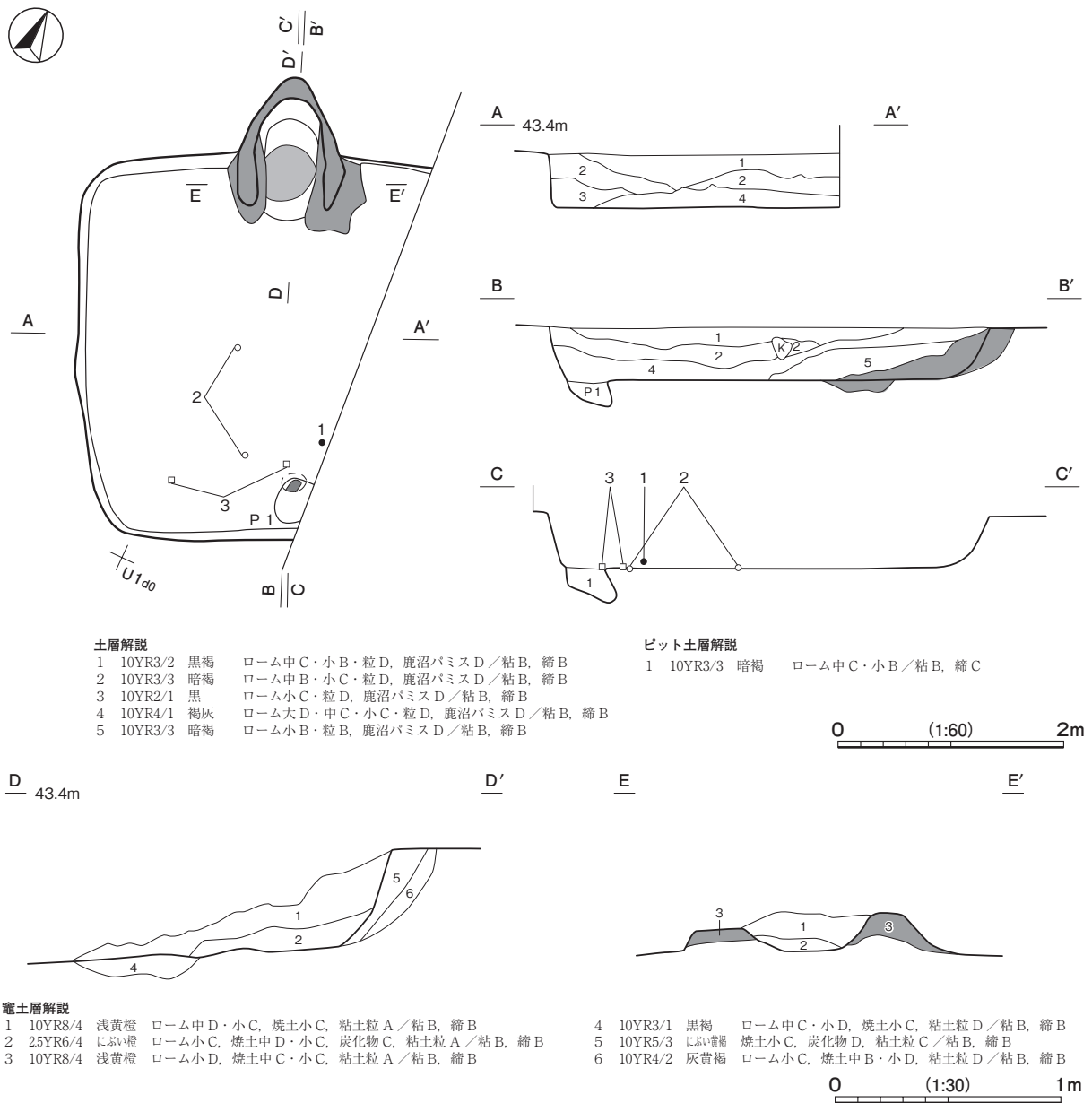
第 251 号竪穴建物跡 (第 118・119 図 PL14)

位置 A 区北部の U1c9 区, 標高 43 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 東部が調査区域外のため, 南北軸 3.40 m で, 東西軸は 2.98 m しか確認できなかった。主軸方向は N-24°-W で, 方形または長方形と推定できる。壁は高さ 46 cm ほどで, ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で, 特に踏み固められた部分はみられない。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 130 cm で, 燃焼部幅は 40 cm である。袖部は地山と同じ高さを使用し, ロームブロックや焼土ブロックを含む第 4 層を埋土して整地した後, ロームブロックや粘土粒子を含む第 3 層を積み上げ構築されている。火床部は楕円形で床面とほぼ同じ高さを使用している。火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に 70 cm ほど掘り込まれ, 火床面から緩やかに立ち上がり, 奥壁で外傾している。



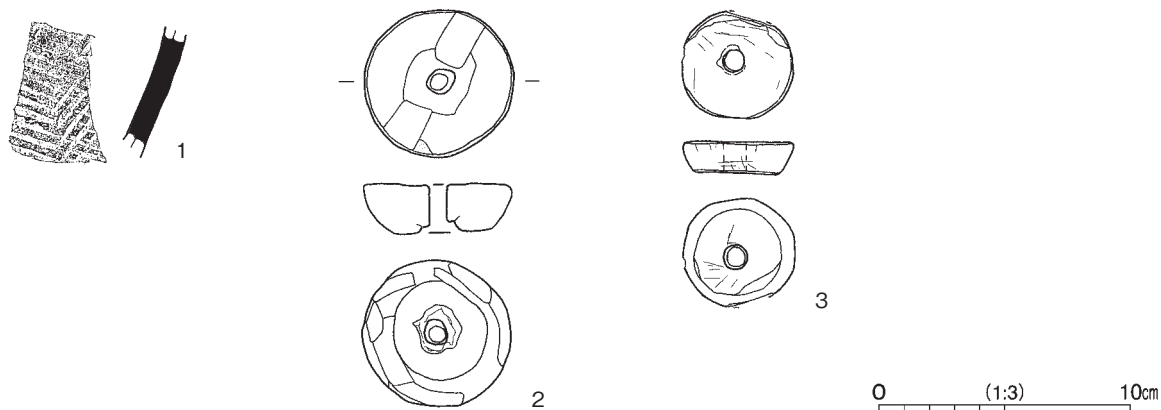
第 118 図 第 251 号竪穴建物跡実測図

ピット P 1 は深さ 30 cm で竈に対面した南壁際に位置しており、出入口施設に伴うピットと考えられる。P 1 の底面で柱のあたりを確認した。

覆土 5 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることや不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片 5 点（甕類）、須恵器片 3 点（坏 2、甕 1）、土製品 1 点（紡錘車）、石器 1 点（紡錘車）が出土している。2 は中央部の床面から出土した破片が接合したもので、3 は南壁寄りの床面から出土した破片が接合したものである。1 は P 1 寄りの覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器や周辺の竪穴建物跡との関係から 9 世紀代と考えられる。



第 119 図 第 251 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 51 表 第 251 号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	甕	-	(5.2)	-	長石・石英	褐灰	普通	体部外面斜位の平行叩き後、横位の平行叩き	覆土下層	5%
番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	胎土	色調	特徴		出土位置	備考
2	紡錘車	5.8~5.9	0.7	2.0	(73.89)	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	上・下面一部摩滅	ナア 一方向からの穿孔	床面	PL42
番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
3	紡錘車	4.2~4.4	0.9	1.3	(31.49)	粘板岩	上・下面一部摩滅	片面研磨 一方向からの穿孔	床面	PL43	

第 252 号竪穴建物跡（第 120 図 PL14）

位置 A 区中央部の V 1a6 区、標高 43 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 38 号ピット群に掘り込まれている。

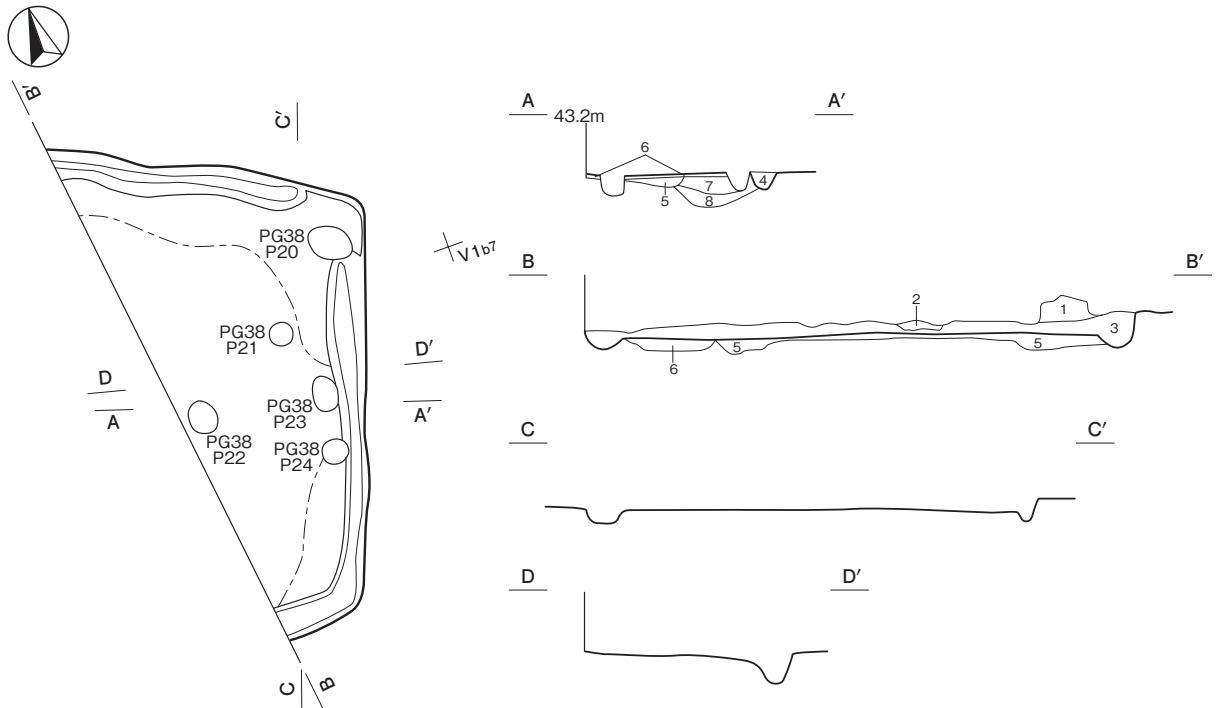
規模と形状 西部が調査区域外のため、南北軸 3.66 m、東西軸 2.44 m しか確認できなかった。主軸方向は N - 24° - E で、方形または長方形と推定できる。壁は高さ 17 cm ほどで、直立している。

床 平坦で、中央部が全体に踏み固められている。貼床は壁際を不整形の土坑や溝状に掘り込み、ロームブロックを含む第 5~8 層を 5~27 cm 埋土して構築されている。壁溝が一部を除いて巡っている。

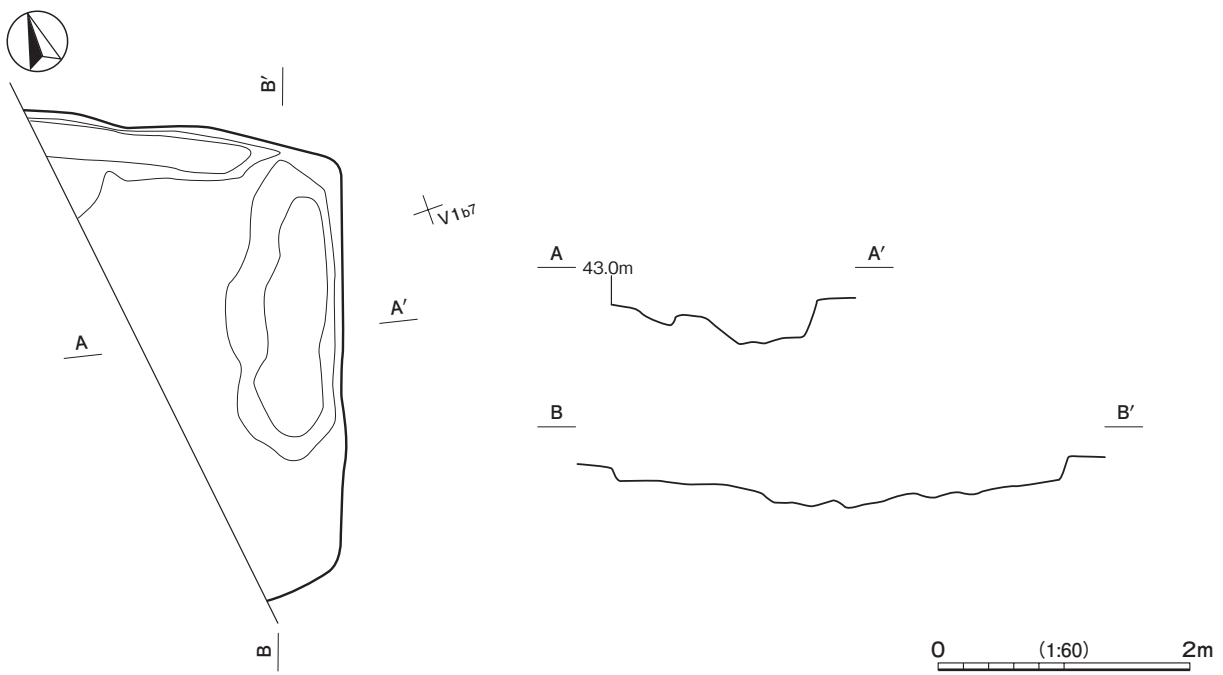
覆土 4 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることや不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片 21 点（坏 1、甕類 20）が出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は、重複関係や周辺の竪穴建物跡から 9 世紀代と考えられる。



- 土層解説
- | | | | |
|---------------|-------------------------------------|----------------|-------------------|
| 1 7.5YR3/1 黒褐 | ローム粒 D, 焼土粒 D / 粘 B, 締 B | 5 7.5YR4/6 褐 | ローム中 A / 粘 B, 締 B |
| 2 7.5YR2/1 黒 | ローム粒 D / 粘 B, 締 B | 6 7.5YR2/2 黒褐 | ローム小 C / 粘 B, 締 B |
| 3 7.5YR2/2 黒褐 | ローム小 D・粒 D, 焼土粒 D, 粘土粒 D / 粘 B, 締 B | 7 7.5YR2/3 極暗褐 | ローム小 C / 粘 B, 締 B |
| 4 7.5YR3/2 黒褐 | ローム小 C / 粘 B, 締 B | 8 7.5YR3/3 暗褐 | ローム中 A / 粘 B, 締 B |



第 120 図 第 252 号竪穴建物跡・掘方実測図

第 52 表 奈良・平安時代竪穴建物跡一覧

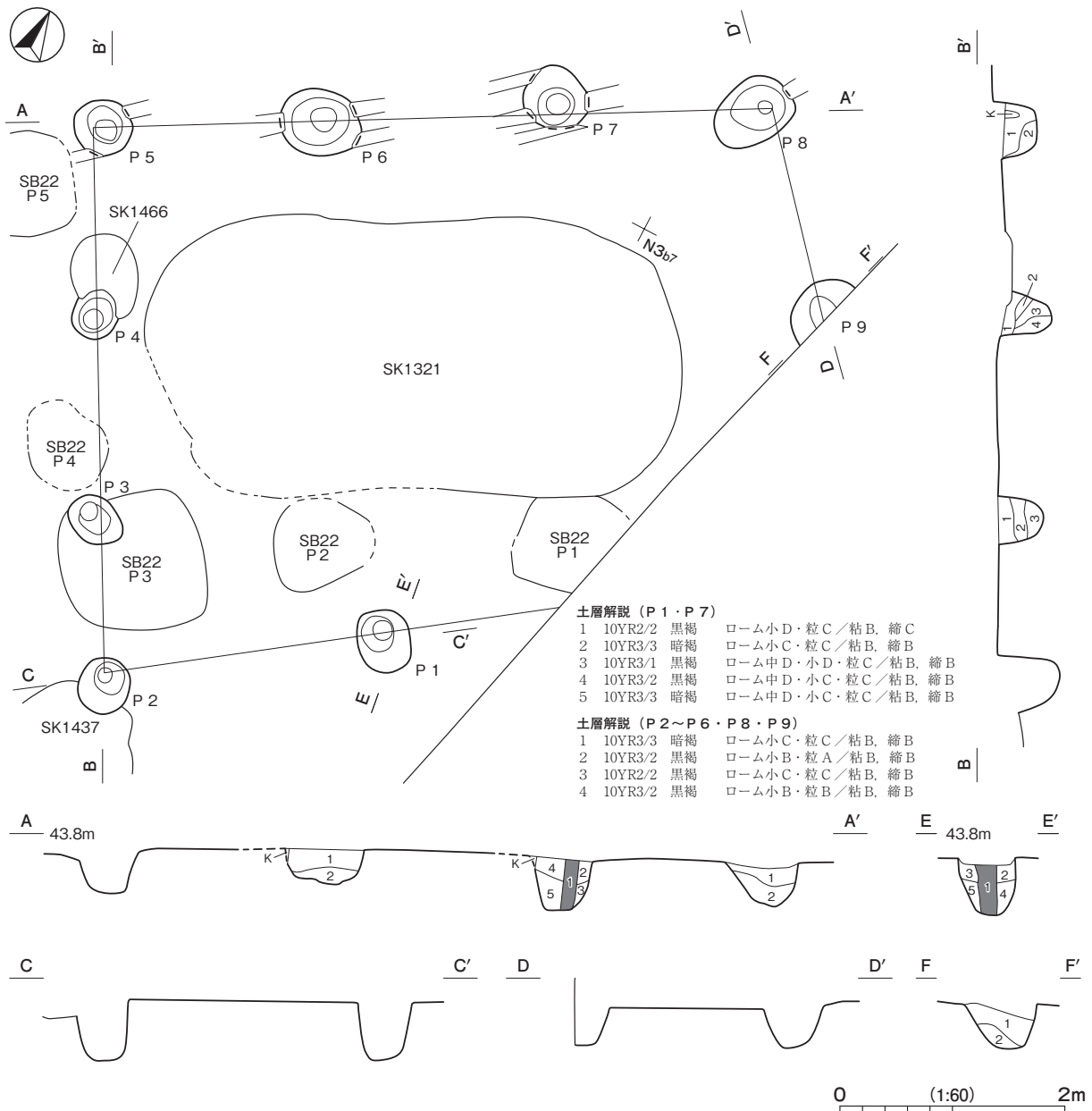
番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長軸×短軸 (m)	(cm)				主柱穴	出入口	ピット	炬・竈	貯蔵穴				
13	T 1 b7	N - 32° - W	方形	3.10 × 3.01	27	平坦	-	4	1	-	北壁	-	人為	土師器, 須恵器	9世紀代		
197	N 2 f9	N - 75° - E	方形	4.44 × 4.40	50 ~ 62	平坦	ほぼ 全周	4	1	2	東壁 西壁	-	人為	土師器, 須恵器, 砥石, 釘	8世紀後葉		
198	O 2 a9	N - 12° - W	方形	4.10 × 3.85	48 ~ 57	平坦	-	-	1	-	北壁	-	自然	土師器, 須恵器, 紡錘車, 刀子	9世紀後葉		

番号	位置	主軸方向	平面形	規模	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長軸×短軸 (m)				主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
245	N 3 d6	N-35°-W	[方形長方形]	(2.97) × (2.20)	36	平坦	-	1	-	-	北壁	-	人為	土師器, 須恵器	9世紀後葉	
246	N 3 f5	N-9°-W	[方形長方形]	(4.20) × (3.04)	34	平坦	-	1	-	-	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 管状土錘, 支脚	9世紀前葉	SK1492 → 本跡 → SD32 ~ 34・36
247	K 3 h9	N-38°-W	方形	2.82 × 2.62	6 ~ 20	平坦	-	-	-	-	北壁	-	人為	土師器, 須恵器	9世紀後葉	
251	U 1 c9	N-24°-W	[方形長方形]	3.40 × (2.98)	46	平坦	-	-	1	-	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 紡錘車	9世紀代	
252	V 1 a6	N-24°-E	[方形長方形]	3.66 × 2.44	17	平坦	ほぼ 全周	-	-	-	-	-	人為	土師器	9世紀代	本跡 → PG38

(2) 掘立柱建物跡

第 21 号掘立柱建物跡 (第 121・122 図)

位置 D 区南部の N 3b6 区, 標高 44 m ほどの平坦な台地上に位置している。



第 121 図 第 21 号掘立柱建物跡実測図

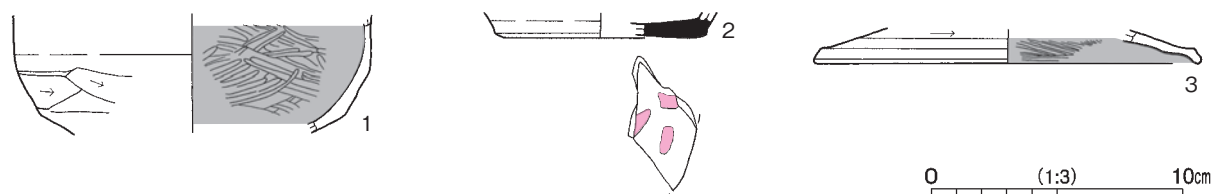
重複関係 第22号掘立柱建物跡，第1437号土坑を掘り込み，第1321・1466号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 南東部は調査区域外であるが，桁行3間，梁行3間の側柱建物跡で，桁行方向がN-58°-Eの東西棟と推定できる。確認できた規模は桁行6.00m，梁行4.80mで，面積は28.80㎡である。柱間寸法は，桁行がP8-P7間が1.8m（6尺），P7-P6間が2.1m（7尺），P6-P5間が2.1m（7尺），P1-P2間が2.4m（8尺）で，ほぼ揃っている。P1-P2間はやや内側に位置している。また梁行はP2-P3間が1.2m（4尺），P3-P4間が1.8m（6尺），P4-P5間が1.8m（6尺）である。P8-P9間は1.8m（6尺）で，やや外側に位置している。

柱穴 9か所。平面形は円形または楕円形で，長径52～75cm，短径40～58cmである。深さ30～55cmで，掘方の壁はほぼ直立している。P9は柱筋がずれている。P1・P7の第1層は柱痕跡，第2～5層は埋土である。P2～P6・P8・P9の第1～4層は柱材を抜き取った後の覆土である。

遺物出土状況 土師器片21点（坏9，高台付坏1，蓋1，甕類10），須恵器片11点（坏6，蓋3，盤2），灰釉陶器片3点（壺）が出土している。1・2はP9の覆土中から，3はP8の覆土中から出土している。

所見 時期は，重複関係や出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第122図 第21号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第53表 第21号掘立柱建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	-	(4.7)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端手持ちヘラ削り	P9覆土中	5%
2	須恵器	坏	-	(1.0)	[7.7]	長石・石英	黄灰	普通	体部外・内面ロクロナデ	P9覆土中	5% 朱書「□」
3	土師器	蓋	[15.2]	(1.4)	-	長石・石英	橙	普通	外周部ロクロナデ 内面ヘラ磨き	P8覆土中	5%

第22号掘立柱建物跡（第123・124図）

位置 D区南部のN3a6区，標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

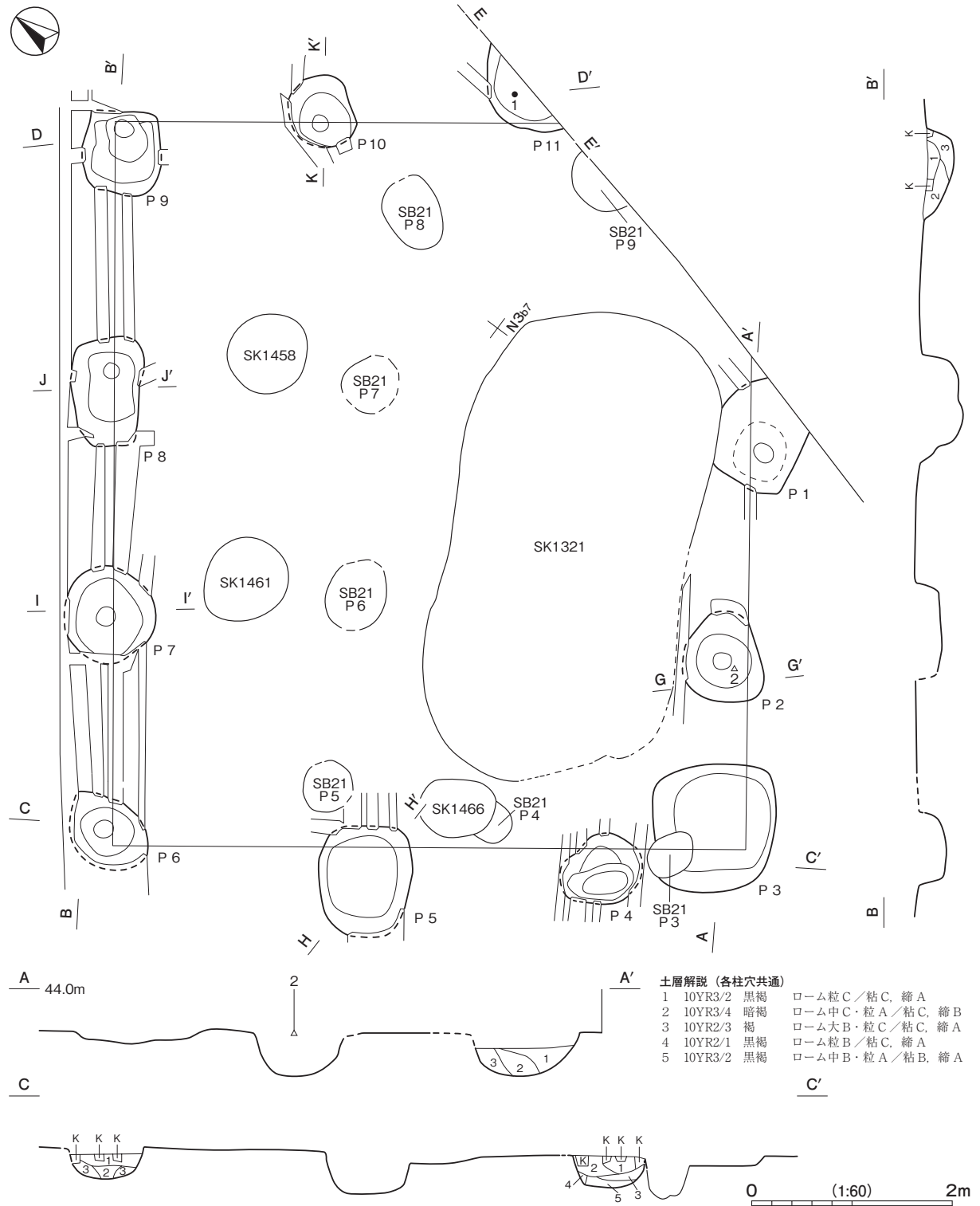
重複関係 第21号掘立柱建物，第1321・1466号土坑に掘り込まれている。第1458・1461号土坑と重複しているが新旧関係は不明である。

規模と構造 東部は調査区域外であるが，桁行3間，梁行2間以上の側柱建物跡で，桁行方向がN-52°-Eの南北棟と推定される。確認できた規模は，桁行7.20m，梁行6.30mで，面積は45.36㎡である。柱間寸法は，桁行がP6-P7間が2.4m（8尺），P7-P8間が2.4m（8尺），P8-P9間が2.4m（8尺），P3-P2間が1.8m（6尺），P2-P1間が2.1m（7尺）である。また梁行はP9-P10間が2.4m（8尺），P10-P11間が2.4m（8尺），P6-P5間が2.4m（8尺），P5-P3間が3.9m（13尺）のほぼ等間で，柱筋は揃っている。P4は梁行から南西にずれている。

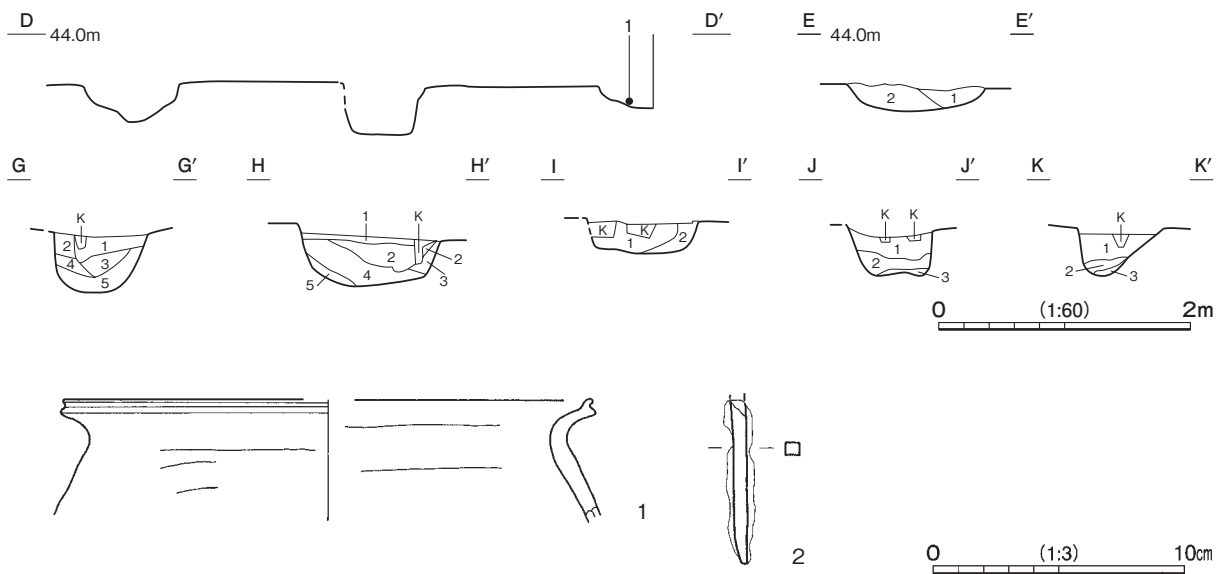
柱穴 11か所。平面形は楕円形または隅丸方形で，長径70～125cm，短径40～80cmである。深さ14～40cmで，掘方の壁は外傾している。第1～5層は柱材を抜き取った後の覆土である。

遺物出土状況 土師器片 28 点 (坏 3, 甕類 25), 須恵器片 7 点 (坏 2, 蓋 1, 甕類 4), 灰釉陶器片 1 点 (壺), 金属製品 1 点 (釘) が出土している。1 は P 11 の覆土下層から, 2 は P 2 の覆土上層から出土している。

所見 時期は, 第 21 号掘立柱建物に掘り込まれていることから 8 世紀中葉以降と考えられる。



第 123 図 第 22 号掘立柱建物跡実測図 (1)



第124図 第22号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第54表 第22号掘立柱建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	甕	[20.9]	(4.8)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部, 体部外・内面横ナデ	P11 覆土下層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
2	釘	(6.5)	0.6	0.5	(12.67)	鉄	頭部欠損 脚部断面正方形	P2 覆土上層	

第55表 奈良・平安時代掘立柱建物跡一覧

番号	位置	桁行方向	柱間数		規模	面積 (㎡)	柱間寸法		柱穴			主な出土遺物	時期	備考
			桁×梁(間)	桁×梁(m)			桁間(m)	梁間(m)	構造	柱穴数	平面形			
21	N 3b6	N - 58° - E	3 × 3	6.00 × 4.80	28.80	1.8 ~ 2.4	1.2 ~ 1.8	側柱	9	円形 楕円形	30 ~ 55	土師器, 須恵器	8世紀後葉	SB22, SK1437 → 本跡 → SK1321・1466
22	N 3a6	N - 52° - E	3 × 2	7.20 × 6.30	45.36	2.4	2.4 ~ 3.9	側柱	11	楕円形 隅丸方形	14 ~ 40	土師器, 須恵器	8世紀 中葉以降	本跡 → SB21, SK1321・1466 SK1458・1461と重複

(3) 土坑

第1240号土坑 (第125図 PL14)

位置 C区北部のO3b4区, 標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

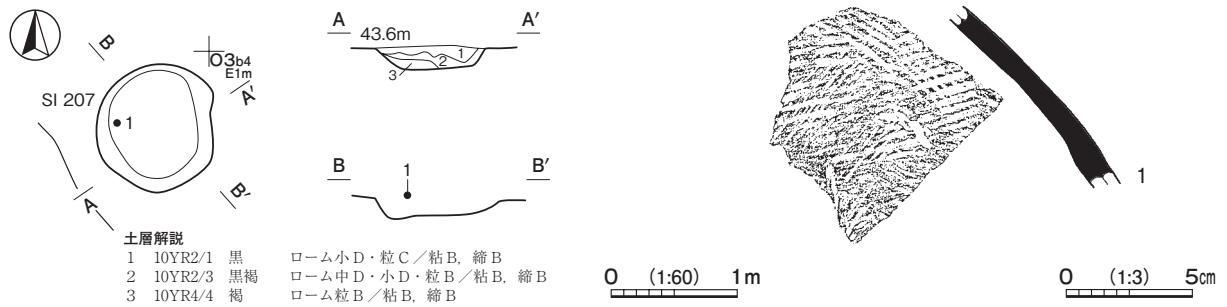
重複関係 第207号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.01m, 短径0.93mの不整形円形である。深さは18cmで, 壁は外傾している。底面は平坦で北西側にやや傾いている。

覆土 3層に分層できる。周辺の土砂が流れ込んだ自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片2点(甕類), 須恵器片1点(甕)が出土している。1は覆土上層から出土している。

所見 時期は, 重複関係や出土土器から平安時代と考えられる。



第 125 図 第 1240 号土坑・出土遺物実測図

第 56 表 第 1240 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	甕	-	(7.1)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面斜位の平行叩き	覆土上層	5%

第 1241 号土坑 (第 126 図 PL14)

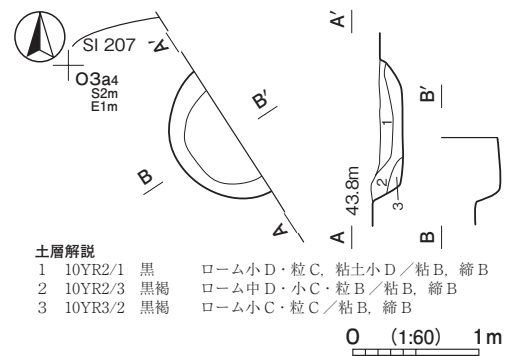
位置 C区北部のO3a4区, 標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第207号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 北東部が調査区域外のため, 北西・南東径は1.10mで, 北東・南西径は0.48mしか確認できなかった。平面形は円形または楕円形と推定できる。深さは22cmで, 壁は外傾している。底面は平坦である。

覆土 3層に分層できる。周辺の土砂が流れ込んだ自然堆積である。

所見 遺物は出土していないが, 時期は, 重複関係から平安時代と考えられる。



第 126 図 第 1241 号土坑実測図

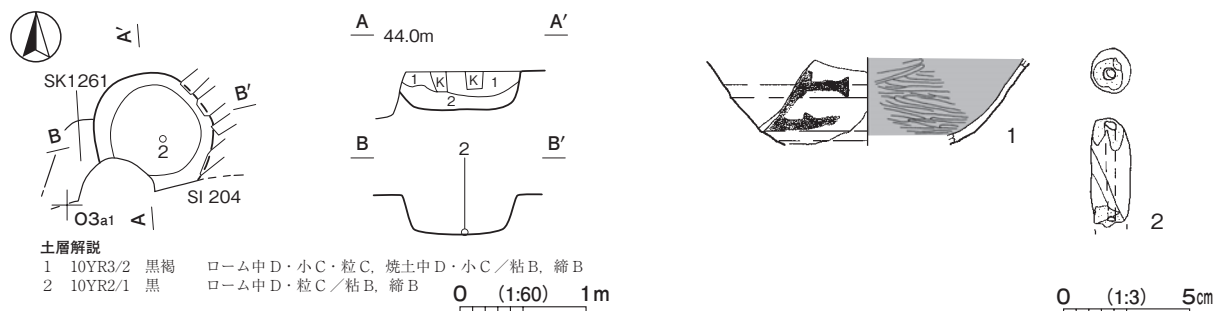
第 1242 号土坑 (第 127 図 PL14)

位置 C区北部のN3j1区, 標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第204号竪穴建物に掘り込まれている。第1261号土坑と重複しているが新旧関係は不明である。

規模と形状 径0.94mほどの円形と推定できる。深さは30cmで, 壁はほぼ直立している。底面は平坦である。

覆土 2層に分層できる。周辺の土砂が流れ込んだ自然堆積である。



第 127 図 第 1242 号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片 43 点（坏 5，高台付坏 1，甕類 37），須恵器片 4 点（坏 3，甕類 1），土製品 1 点（管状土錘）が出土している。2 は底面から，1 は覆土中から出土している。

所見 時期は，重複関係や出土土器から 9 世紀後葉以前と考えられる。

第 57 表 第 1242 号土坑出土遺物一覧

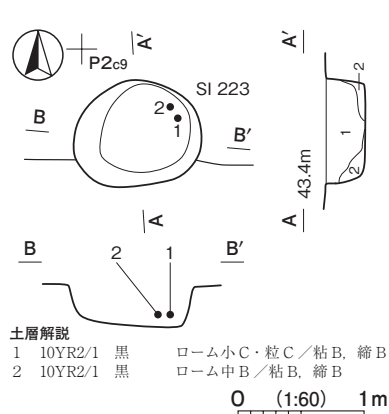
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	-	(3.5)	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き	覆土中	5% 墨書「□」

番号	器種	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
2	管状土錘	(4.3)	16~18	0.3~0.5	(9.00)	長石・石英	にぶい黄褐	外面ナデ 穿孔 片方欠損	底面	

第 1264 号土坑（第 128 図 PL14）

位置 C 区中央部の P 2c9 区，標高 43 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 223 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。



土層解説
 1 10YR2/1 黒 ローム小C・粒C/粘B. 締B
 2 10YR2/1 黒 ローム中B/粘B. 締B

規模と形状 長径 1.01 m，短径 0.82 m の楕円形で，長径方向は N - 80° - E である。深さは 32 cm で，壁は直立している。底面は平坦で東側に傾斜している。

覆土 2 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片 6 点（坏 3，甕類 3），須恵器片 1 点（短頸壺），凝灰岩 1 点が出土している。1・2 は覆土下層から出土している。

所見 時期は，重複関係や出土土器から 9 世紀後葉～10 世紀前葉と考えられる。



第 128 図 第 1264 号土坑・出土遺物実測図

第 58 表 第 1264 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	短頸壺	-	(6.9)	-	長石・石英	暗灰黄	普通	体部外・内面ロクロナデ	覆土下層	10%
2	土師器	甕	-	(4.7)	[9.8]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面下半ナデ 内面ナデ	覆土下層	5% 外面煤付着

第 1270 号土坑（第 129 図 PL15）

位置 C 区北部の O 3d2 区，標高 44 m ほどの平坦な台地上に位置している。

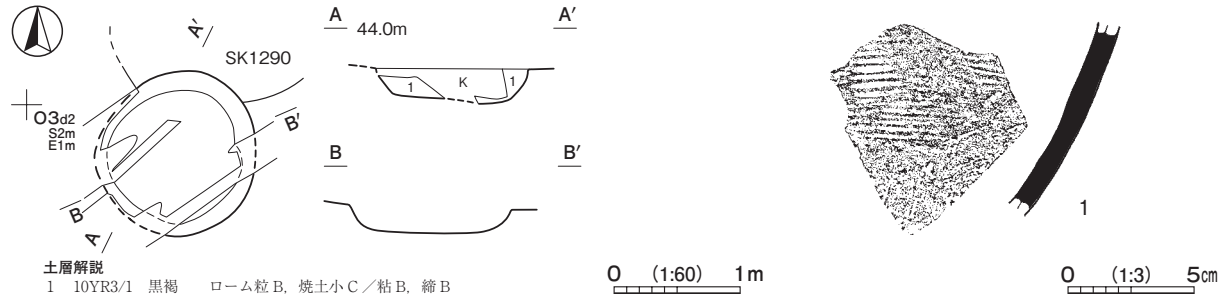
重複関係 第 1290 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 径 1.28 m ほどの円形である。深さは 28 cm で，壁は外傾している。底面は平坦である。

覆土 単一層である。堆積状況は覆土が少なく不明である。

遺物出土状況 土師器片 45 点（坏 4，甕類 41），須恵器片 17 点（坏 8，甕類 9）が出土している。1 は覆土中から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から平安時代と考えられる。



第 129 図 第 1270 号土坑・出土遺物実測図

第 59 表 第 1270 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	甕	-	(7.3)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部外面横位の平行叩き 下半ヘラ削り	覆土中	5%

第 1290 号土坑（第 130・131 図 PL15）

位置 C 区北部の O3d2 区，標高 44 m ほどの平坦な台地上に位置している。

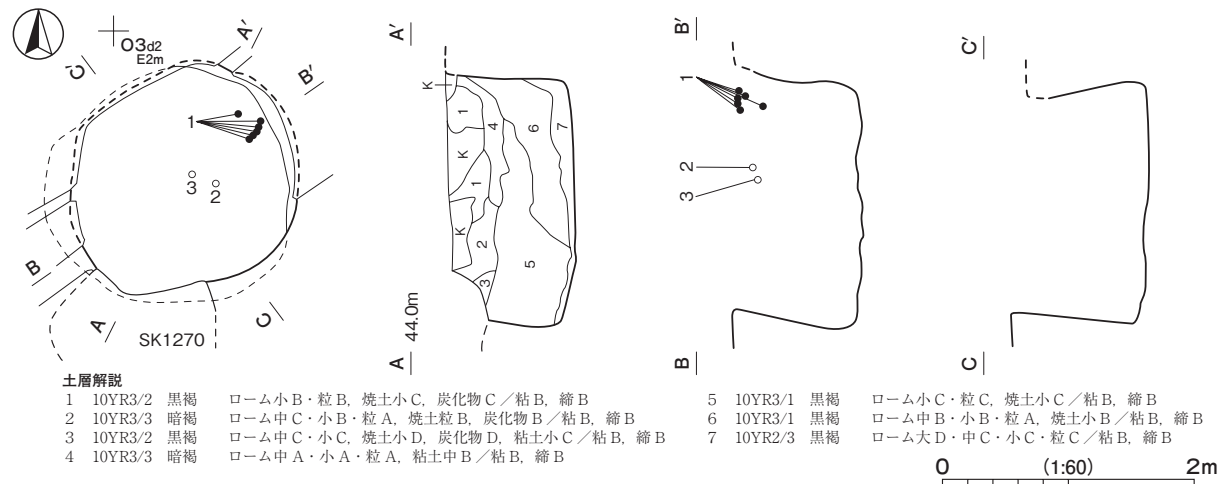
重複関係 第 1270 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 攪乱を受けているが，長径 1.94 m，短径 1.71 m の楕円形と推定でき，長径方向は N - 48° - E である。深さは 104 cm で，壁は北東部を除いて内傾している。底面は若干の凹凸が見られる。

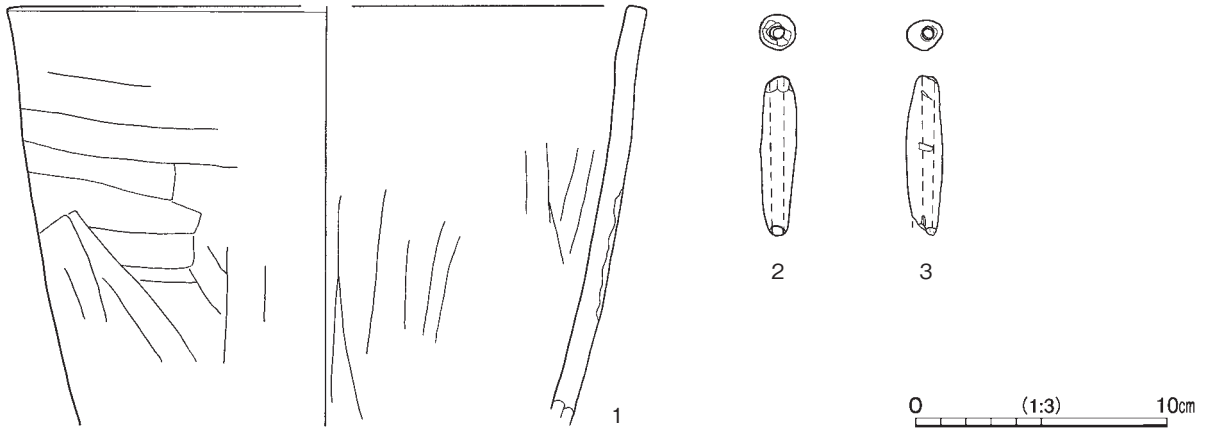
覆土 7 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片 36 点（坏 2，蓋 1，壺 1，甕類 31，甗 1），須恵器片 19 点（坏 8，盤 3，短頸壺 1，甕類 7），土製品 2 点（管状土錘）が出土している。1 は覆土上層から出土した破片が接合したものである。2・3 は覆土上層から出土している。

所見 時期は，出土土器から 9 世紀中葉～後葉と考えられる。形状から墓坑の可能性はある。



第 130 図 第 1290 号土坑実測図



第131図 第1290号土坑出土遺物実測図

第60表 第1290号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	甌	[24.0]	(16.6)	-	長石・石英	橙	普通	体部外・内面ナデ 把手部欠損	覆土上層	10%

番号	器種	長さ	径	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
2	管状土錘	6.4	1.4	0.4~0.5	11.31	長石・石英	明赤褐	外面ナデ 穿孔	覆土上層	
3	管状土錘	6.4	1.2~1.4	0.5	(8.73)	長石・石英	にぶい黄褐	外面ナデ 穿孔 片方欠損	覆土上層	

第1291号土坑 (第132図 PL15)

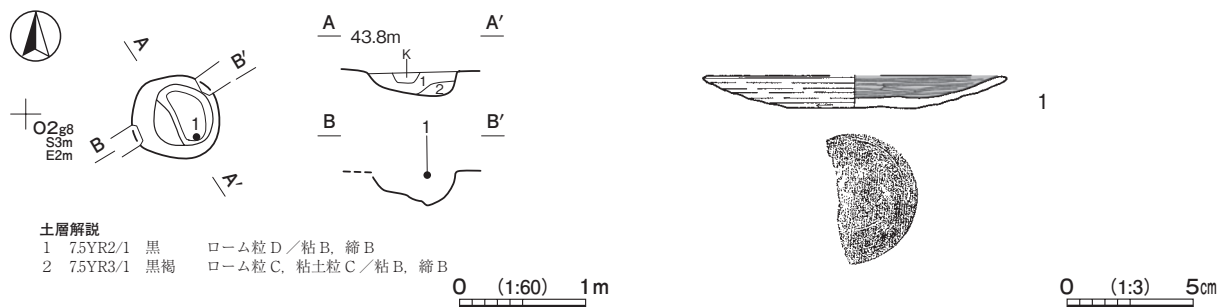
位置 C区北部のO2g8区, 標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径0.70m, 短径0.63mの楕円形で, 長径方向はN-86°-Wである。深さは28cmで, 壁は外傾している。底面は皿状で, 東側にやや傾斜している。

覆土 2層に分層できる。周辺の土砂が流れ込んだ自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片5点(坏3, 皿1, 甕類1)が出土している。1は覆土上層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀後葉~10世紀前葉と考えられる。



土層解説

- 1 7.5YR2/1 黒 ローム粒D/粘B, 締B
 2 7.5YR3/1 黒褐 ローム粒C, 粘土粒C/粘B, 締B

第132図 第1291号土坑・出土遺物実測図

第61表 第1291号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	皿	[11.9]	1.3	5.1	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端・底部回転ヘラ削り	覆土上層	40%

第 1297 号土坑 (第 133 図)

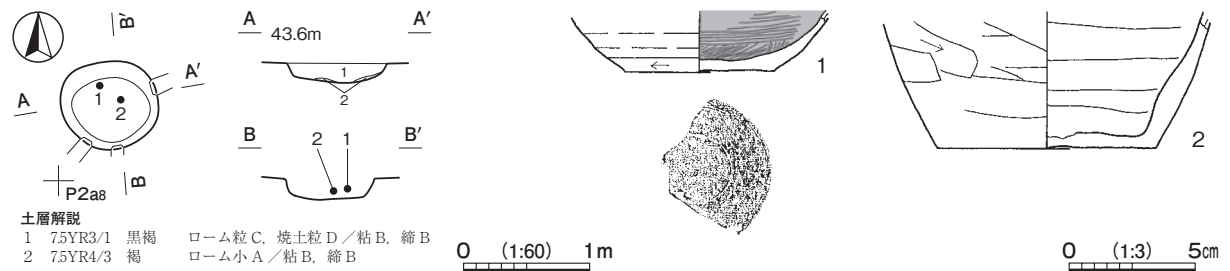
位置 C 区北部の O 2j8 区, 標高 44 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径 0.78 m, 短径 0.72 m の円形である。深さは 18 cm で, 壁は外傾している。底面は平坦である。

覆土 2 層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子が含まれていることから, 埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片 8 点 (坏 3, 甕類 5) が出土している。1・2 は覆土中層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から 9 世紀中葉と考えられる。



第 133 図 第 1297 号土坑・出土遺物実測図

第 62 表 第 1297 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	-	(2.4)	[5.8]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 体部下端・底部回転ヘラ削り	覆土中層	20%
2	土師器	甕	-	(5.4)	[8.7]	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面下半ヘラ削り 内面ナデ	覆土中層	5%

第 1305 号土坑 (第 134 図 PL15)

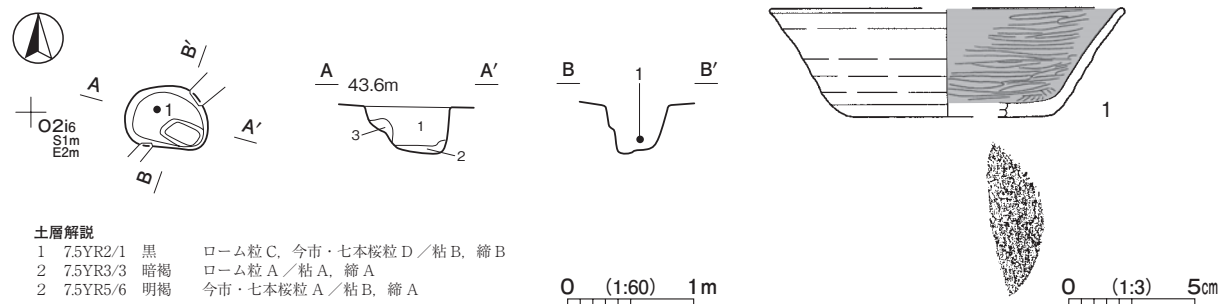
位置 C 区中央部の O 2i6 区, 標高 44 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径 0.65 m, 短径 0.48 m の楕円形で, 長径方向は N - 82° - W である。深さは 39 cm で, 壁は外傾しているが, 東側は直立している。底面は皿状である

覆土 3 層に分層できる。不規則な堆積状況から, 埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片 2 点 (坏) が出土している。1 は覆土下層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から 10 世紀前葉と考えられる。



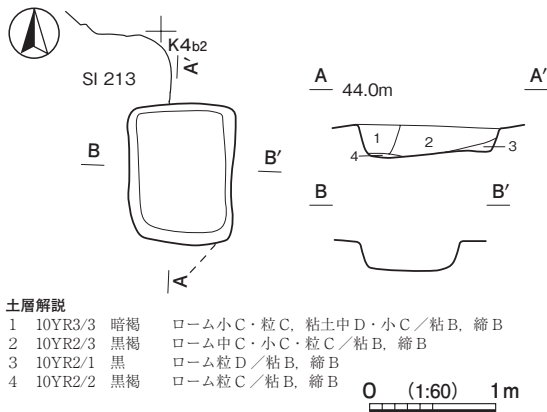
第 134 図 第 1305 号土坑・出土遺物実測図

第 63 表 第 1305 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[13.9]	4.3	[7.6]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き	覆土下層	20%

第 1309 号土坑 (第 135 図)

位置 D 区北部の K 4b2 区, 標高 44 m ほどの平坦な台地上に位置している。



土層解説
 1 10YR3/3 暗褐 ローム小C・粒C, 粘土中D・小C/粘B, 締B
 2 10YR2/3 黒褐 ローム中C・小C・粒C/粘B, 締B
 3 10YR2/1 黒 ローム粒D/粘B, 締B
 4 10YR2/2 黒褐 ローム粒C/粘B, 締B

重複関係 第 213 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 1.11 m, 短軸 0.84 m の長方形で, 長軸方向は N - 0° である。深さは 24 cm で, 壁はほぼ直立している。底面は平坦である。

覆土 4 層に分層できる。ロームブロックやローム粒子が含まれていることから, 埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片 6 点 (坏 5, 甕類 1) が出土している。細片のため図示できない。

所見 時期は, 重複関係や出土土器から 9 世紀中葉以降の平安時代と考えられる。

第 135 図 第 1309 号土坑実測図

第 1311 号土坑 (第 136 図)

位置 D 区北部の K 4j1 区, 標高 44 m ほどの平坦な台地上に位置している。

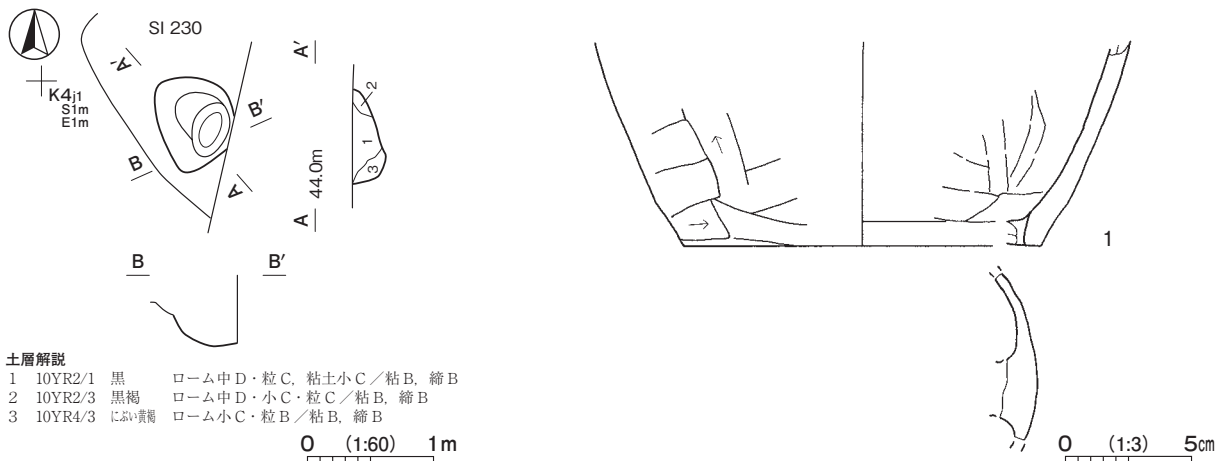
重複関係 第 230 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 東部が調査区域外であるが, 長径 0.73 m, 短径 0.62 m の不整楕円形で, 長径方向は N - 40° - W である。深さは 27 cm で, 壁は外傾している。底面は皿状で, 南東側に傾斜している。

覆土 3 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片 1 点 (甑) が覆土中から出土している。

所見 時期は, 重複関係や出土土器から 9 世紀中葉~後葉と考えられる。



土層解説
 1 10YR2/1 黒 ローム中D・粒C, 粘土小C/粘B, 締B
 2 10YR2/3 黒褐 ローム中D・小C・粒C/粘B, 締B
 3 10YR4/3 にぶい黄緑 ローム小C・粒B/粘B, 締B

第 136 図 第 1311 号土坑・出土遺物実測図

第 64 表 第 1311 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	甑	-	(8.1)	[14.0]	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面下半ヘラ削り 内面ナデ 多孔式	覆土中	5% 内面煤付着

第 1321 号土坑 (第 137・138 図 PL15)

位置 D 区南部の N 3b6 区, 標高 44 m ほどの平坦な台地上に位置している。

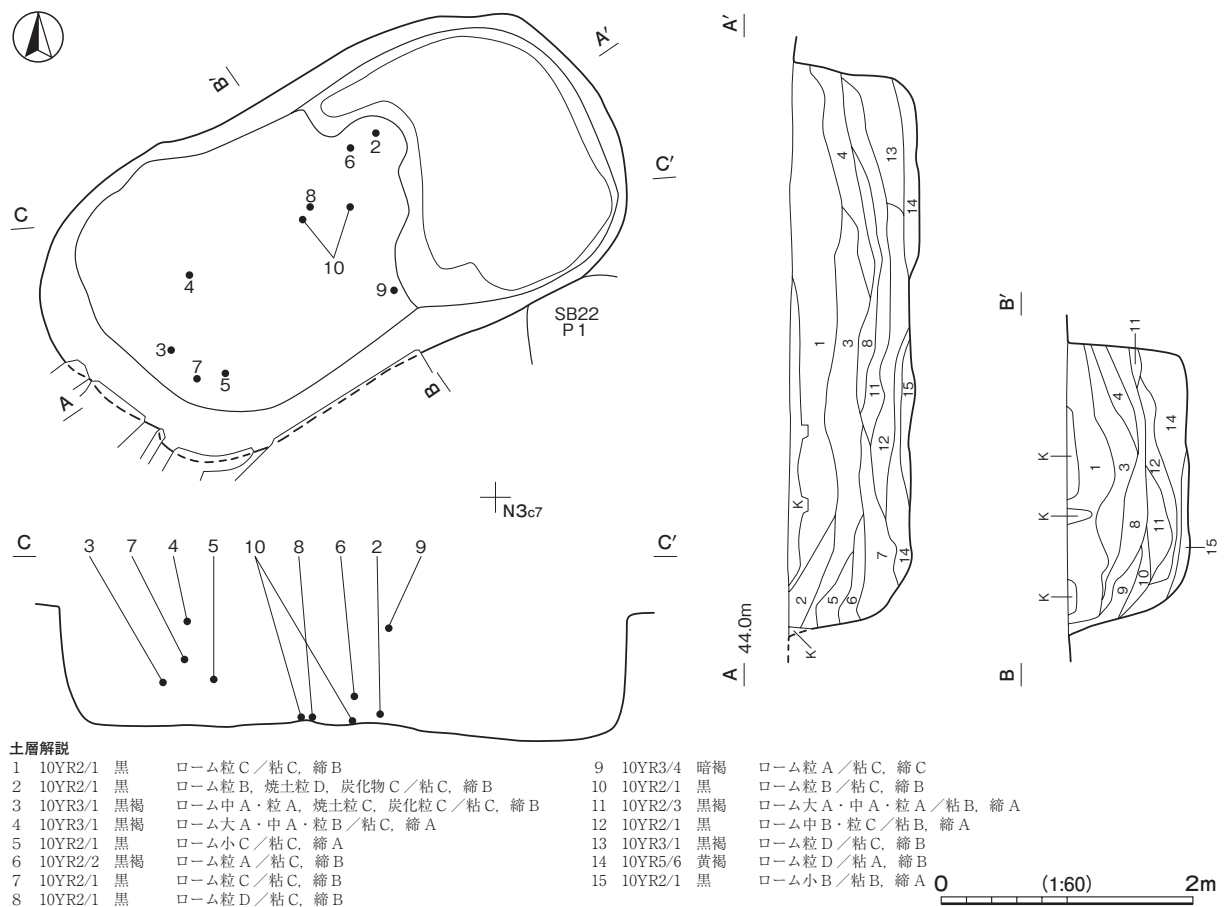
重複関係 第 21・22 号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 4.73 m, 短軸 2.38 m の隅丸長方形で, 長軸方向は N - 65° - E である。深さは 103 cm で, 壁は直立している。底面はほぼ平坦であるが, 北東部は二段掘り込みである。

覆土 15 層に分層できる。ロームブロックやローム粒子が含まれていることから, 埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片 145 点 (坏 16, 高台付坏 1, 甕類 128), 須恵器片 74 点 (坏 41, 高台付坏 3, 蓋 15, 盤 2, 壺 3, 甕類 10) が出土している。8・10 は底面から, 2・6 は覆土下層から, 3・5・7 は覆土中層から, 4・9 は覆土上層から, 1 は覆土中からそれぞれ出土している。

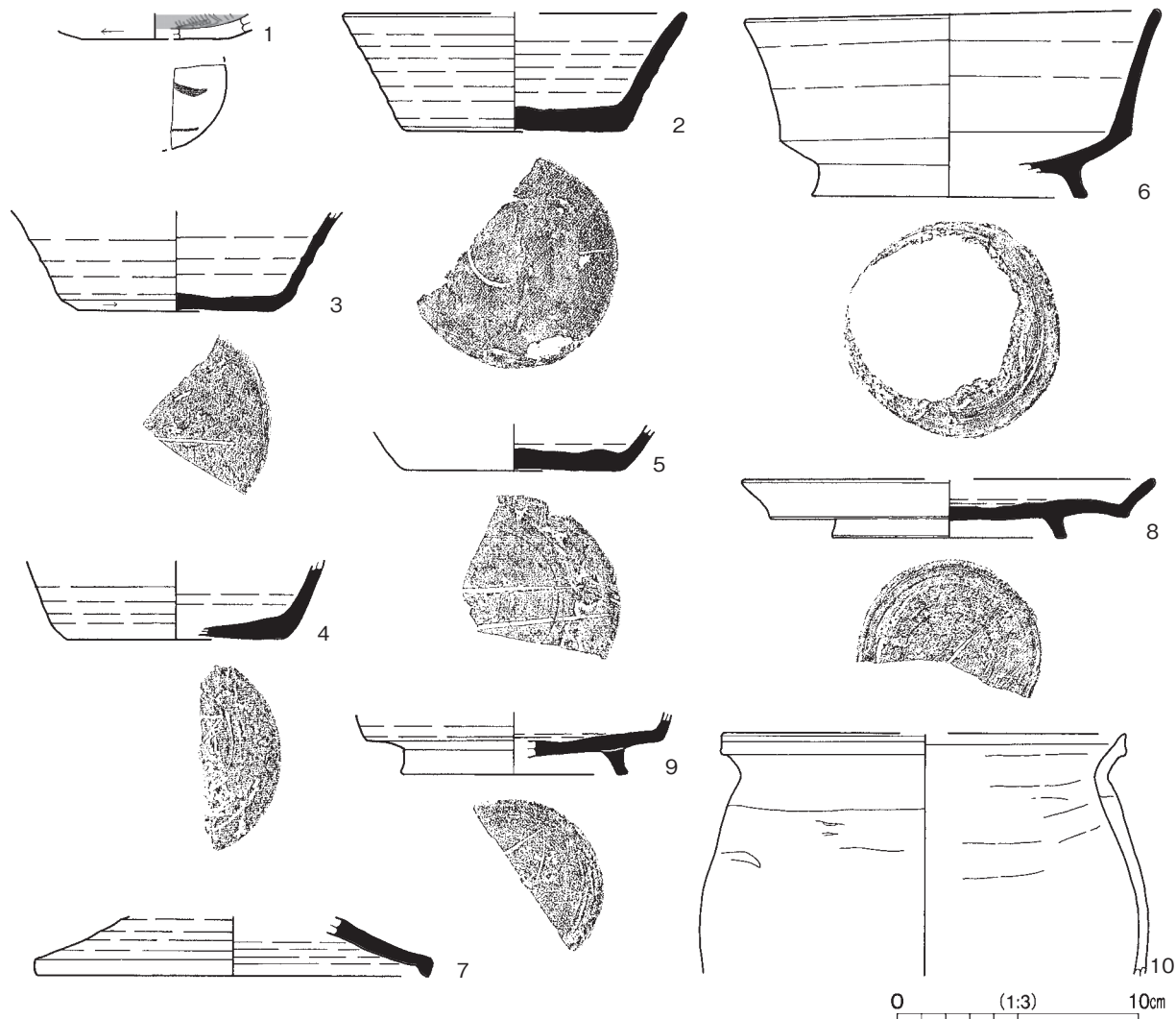
所見 時期は, 出土土器から 9 世紀前葉と考えられる。土坑墓の可能性もあるが詳細は不明である。



第 137 図 第 1321 号土坑実測図

第 65 表 第 1321 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	-	(1.0)	[6.0]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き 体部下端・底部回転ヘラ削り	覆土中	5% 墨書「□」
2	須恵器	坏	[14.0]	4.9	8.8	長石・石英・針状物質	黄灰	普通	口縁部・体部外・内面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後ナデ	覆土下層	50% PL40 木葉下窯
3	須恵器	坏	-	(4.1)	[8.1]	長石・石英	黄灰	普通	体部外・内面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り後一方方向のナデ	覆土中層	10% 木葉下窯ヘラ記号「一」
4	須恵器	坏	-	(3.3)	[8.8]	長石・石英	黄灰	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後ナデ	覆土上層	20% 木葉下窯ヘラ記号「W」
5	須恵器	坏	-	(1.9)	[8.8]	長石・石英	褐灰	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り	覆土中層	10% 木葉下窯ヘラ記号「=」
6	須恵器	高台付坏	17.0	7.8	11.2	長石・石英・針状物質・細礫	黄灰	普通	口縁部・体部外・内面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り後高台貼付け 底部打ち欠き	覆土下層	80% PL40 木葉下窯



第 138 図 第 1321 号土坑出土遺物実測図

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
7	須恵器	蓋	[16.0]	(25)	-	長石・石英	褐灰	普通	外周部外・内面ロクロナデ	覆土中層	10%
8	須恵器	盤	[17.0]	2.4	9.6	長石・石英・ 黒色粒子	褐灰	良好	口縁部、体部外・内面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後高台貼付け	底面	40% ヘラ記号「-」
9	須恵器	盤	-	(26)	[9.0]	長石・石英	褐灰	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後高台貼付け	覆土上層	30% ヘラ記号「V」
10	土師器	甕	[16.6]	(10.0)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ 輪積み痕	底面	20%

第 1394 号土坑 (第 139 図 PL15)

位置 D 区南部の M 3i3 区, 標高 44 m ほどの平坦な台地上に位置している。

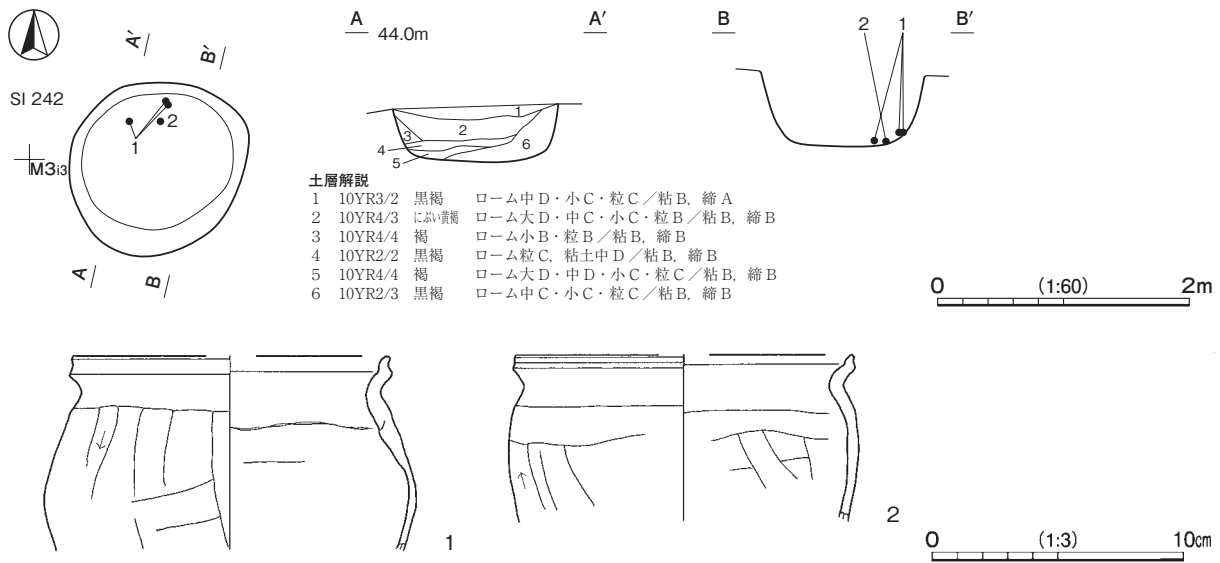
重複関係 第 242 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.50 m, 短径 1.34 m の楕円形で, 長径方向は N - 64° - E である。深さは 59 cm で, 壁は外傾している。底面は平坦である。

覆土 6 層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックが含まれていることや不規則な堆積状況から, 埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片 109 点 (坏 11, 皿 1, 小型甕 2, 甕類 95), 須恵器片 1 点 (甕類) が出土している。1・2 は底面からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 重複関係や出土土器から 9 世紀後葉以前の平安時代と考えられる。



第 139 図 第 1394 号土坑・出土遺物実測図

第 66 表 第 1394 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	小型甕	[12.4]	(7.7)	-	長石・石英・赤色粒子・細礫	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 輪積み痕	底面	30%
2	土師器	小型甕	[13.3]	(6.6)	-	長石・石英・赤色粒子・細礫	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	底面	10%

第 1395 号土坑 (第 140・141 図 PL15)

位置 D 区南部の M 3i3 区、標高 44 m ほどの平坦な台地上に位置している。

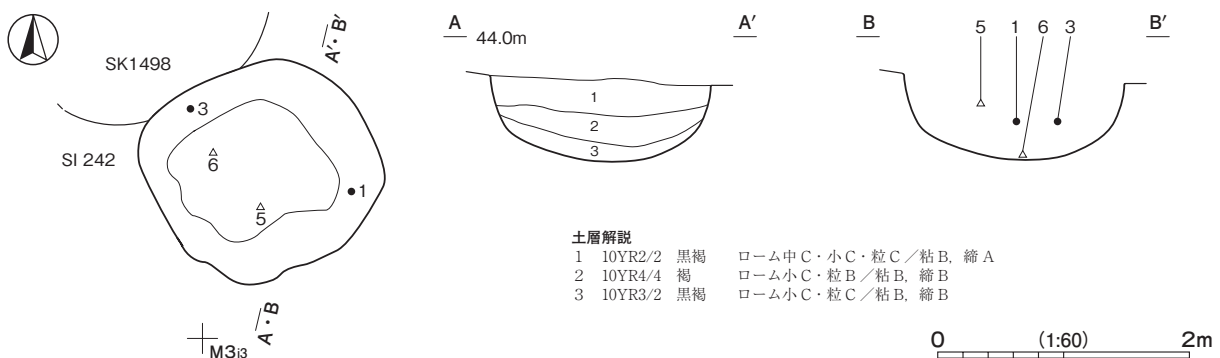
重複関係 第 242 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。第 1498 号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 長軸 1.74 m、短軸 1.64 m の隅丸方形で、長軸方向は N - 64° - E である。深さは 70 cm で、壁は外傾している。底面は皿状である。

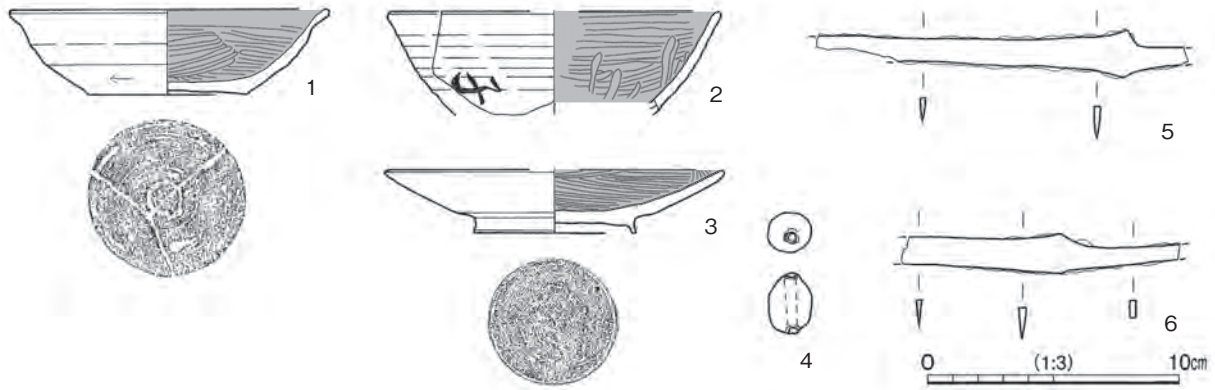
覆土 3 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片 56 点 (坏 27, 高台付坏 2, 高台付皿 1, 甕類 26), 須恵器片 4 点 (盤 2, 甕類 2), 土製品 1 点 (土玉), 金属製品 2 点 (刀子) が出土している。6 は底面から, 1・3 は覆土中層から, 5 は覆土上層から, 2・4 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から 9 世紀後葉と考えられる。



第 140 図 第 1395 号土坑実測図



第 141 図 第 1395 号土坑出土遺物実測図

第 67 表 第 1395 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
1	土師器	坏	12.4	3.4	6.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 体部下端・底部回転ヘラ削り	内面ヘラ磨き	覆土中層	90% PL40
2	土師器	坏	[13.0]	(4.1)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ	内面ヘラ磨き	覆土中	10% PL40 墨書「子」
3	土師器	高台付皿	[13.3]	2.5	6.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後高台貼付け	内面ヘラ磨き	覆土中層	50%
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴		出土位置	備考	
4	土玉	1.7	2.4	0.4	6.27	長石・石英	にぶい赤褐	外面ナデ 穿孔		覆土中	PL42	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考	
5	刀子	(14.8)	1.9	0.3	(19.29)	鉄	刃部先端部欠損 茎部欠損 刃部断面三角形 両関			覆土上層	PL44	
6	刀子	(11.0)	1.6	0.3	(15.82)	鉄	刃部先端部欠損 茎部欠損 刃部断面三角形 両関			底面	PL44	

第 1484 号土坑 (第 142 図 PL16)

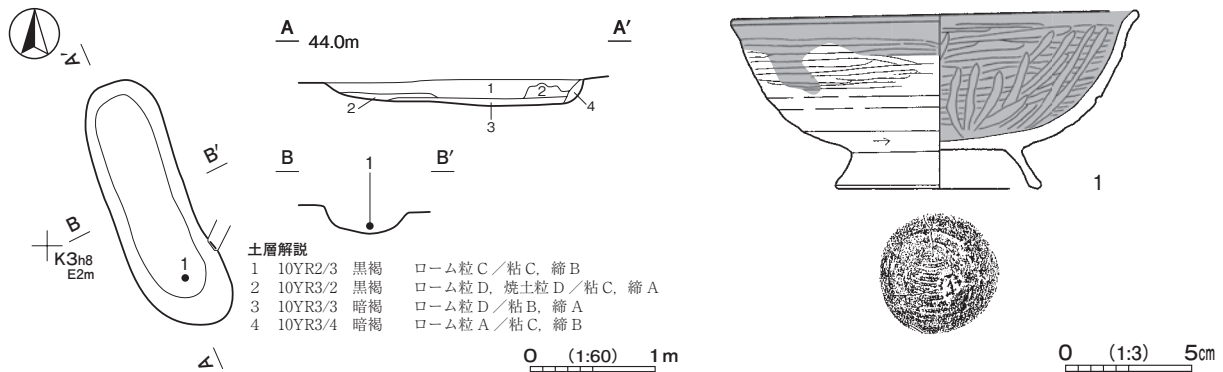
位置 D区北部のK3g8区, 標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径2.06m, 短径0.62mの楕円形で, 長径方向はN-20°-Wである。深さは20cmで, 壁は外傾している。底面は皿状である。

覆土 4層に分層できる。不規則な堆積状況から, 埋め戻されている。

遺物出土状況 土師器片5点(高台付碗4, 甕類1)が出土している。1は覆土下層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から10世紀前葉と考えられる。



第 142 図 第 1484 号土坑・出土遺物実測図

第 68 表 第 1484 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	高台付碗	16.0	7.1	7.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ外・内面ヘラ磨き 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り 後高台貼付け	覆土下層	90% PL40

第 69 表 奈良・平安時代土坑一覧

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
1240	O 3 b4	-	不整形円形	1.01 × 0.93	18	平坦	外傾	自然	土師器, 須恵器	SI207 → 本跡
1241	O 3 a4	-	[円形・楕円形]	1.10 × (0.48)	22	平坦	外傾	自然	-	SI207 → 本跡
1242	N 3 j1	-	[円形]	0.94 × 0.94	30	平坦	ほぼ直立	自然	土師器, 須恵器, 管状土錘	本跡 → SI204 SK1261 と重複
1264	P 2 c9	N - 80° - E	楕円形	1.01 × 0.82	32	平坦	直立	人為	土師器, 須恵器	SI223 → 本跡
1270	O 3 d2	-	円形	1.28 × 1.27	28	平坦	外傾	不明	土師器, 須恵器	SK1290 → 本跡
1290	O 3 d2	N - 48° - E	[楕円形]	[1.94] × [1.71]	104	凹凸	内傾	人為	土師器, 須恵器, 管状土錘	本跡 → SK1270
1291	O 2 g8	N - 86° - W	楕円形	0.70 × 0.63	28	皿状	外傾	自然	土師器	
1297	O 2 j8	-	円形	0.78 × 0.72	18	平坦	外傾	人為	土師器	
1305	O 2 i6	N - 82° - W	楕円形	0.65 × 0.48	39	皿状	外傾	人為	土師器	
1309	K 4 b2	N - 0°	長方形	1.11 × 0.84	24	平坦	ほぼ直立	人為	土師器	SI213 → 本跡
1311	K 4 j1	N - 40° - W	不整形円形	0.73 × 0.62	27	皿状	外傾	人為	土師器	本跡 → SI230
1321	N 3 b6	N - 65° - E	隅丸長方形	4.73 × 2.38	103	平坦	直立	人為	土師器, 須恵器	SB21・22 → 本跡
1394	M 3 i3	N - 64° - E	楕円形	1.50 × 1.34	59	平坦	外傾	人為	土師器, 須恵器	SI242 → 本跡
1395	M 3 i3	N - 64° - E	隅丸方形	1.74 × 1.64	70	皿状	外傾	人為	土師器, 須恵器, 土玉, 刀子	SI242 → 本跡 SK1498 と重複
1484	K 3 g8	N - 20° - W	楕円形	2.06 × 0.62	20	皿状	外傾	人為	土師器	

4 中世の遺構と遺物

当時代の遺構は、掘立柱建物跡 2 棟、井戸跡 1 基、土坑 1 基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 掘立柱建物跡

第 23 号掘立柱建物跡 (第 143 図)

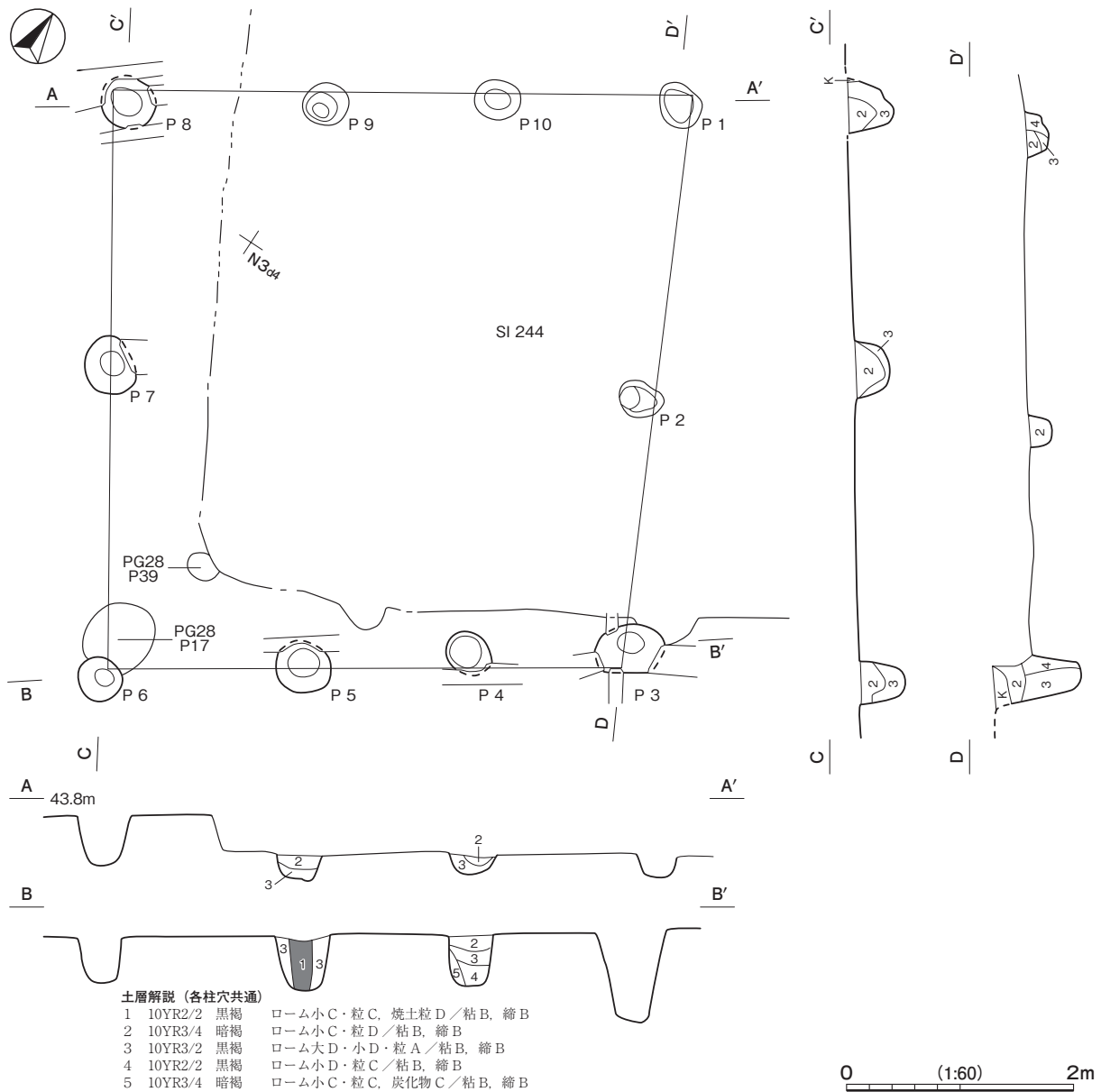
位置 D 区南部の N 3d4 区、標高 44 m ほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 244 号竪穴建物跡、第 28 号ピット群を掘り込んでいる。

規模と構造 規模は桁行 3 間、梁行 2 間の側柱建物跡で、桁行方向が N - 31° - W の東西棟と推定できる。確認できた規模は桁行 5.10 m、梁行 5.10 m で、面積は 26.01 m² である。柱間寸法は、桁行が P 1 - P 10 間が 1.8 m (6 尺)、P 10 - P 9 間が 1.5 m (5 尺)、P 9 - P 8 間が 1.8 m (6 尺)、P 3 - P 4 間が 1.5 m (5 尺)、P 4 - P 5 間が 1.5 m (5 尺)、P 5 - P 6 間が 1.5 m (5 尺) で柱筋はほぼ揃っている。また梁行は P 6 - P 7 間が 2.7 m (9 尺)、P 7 - P 8 間が 2.4 m (8 尺)、P 3 - P 2 間が 2.4 m (8 尺)、P 2 - P 1 間が 2.7 m (9 尺) で、ばらつきがある。P 2・P 3 はやや内側に位置している。

柱穴 10 か所。平面形は円形または楕円形で、長径 39 ~ 62 cm、短径 33 ~ 46 cm である。深さ 20 ~ 80 cm で、掘方の壁はほぼ直立している。P 5 の第 1 層は柱痕跡、第 3 層は柱材を抜き取った後の覆土である。その他のピットの第 2 ~ 5 層は柱材を抜き取った後の覆土である。

所見 時期は、重複関係や周辺の出土遺物から、中世以降と考えられる。



第143図 第23号掘立柱建物跡実測図

第25号掘立柱建物跡 (第144図 PL16)

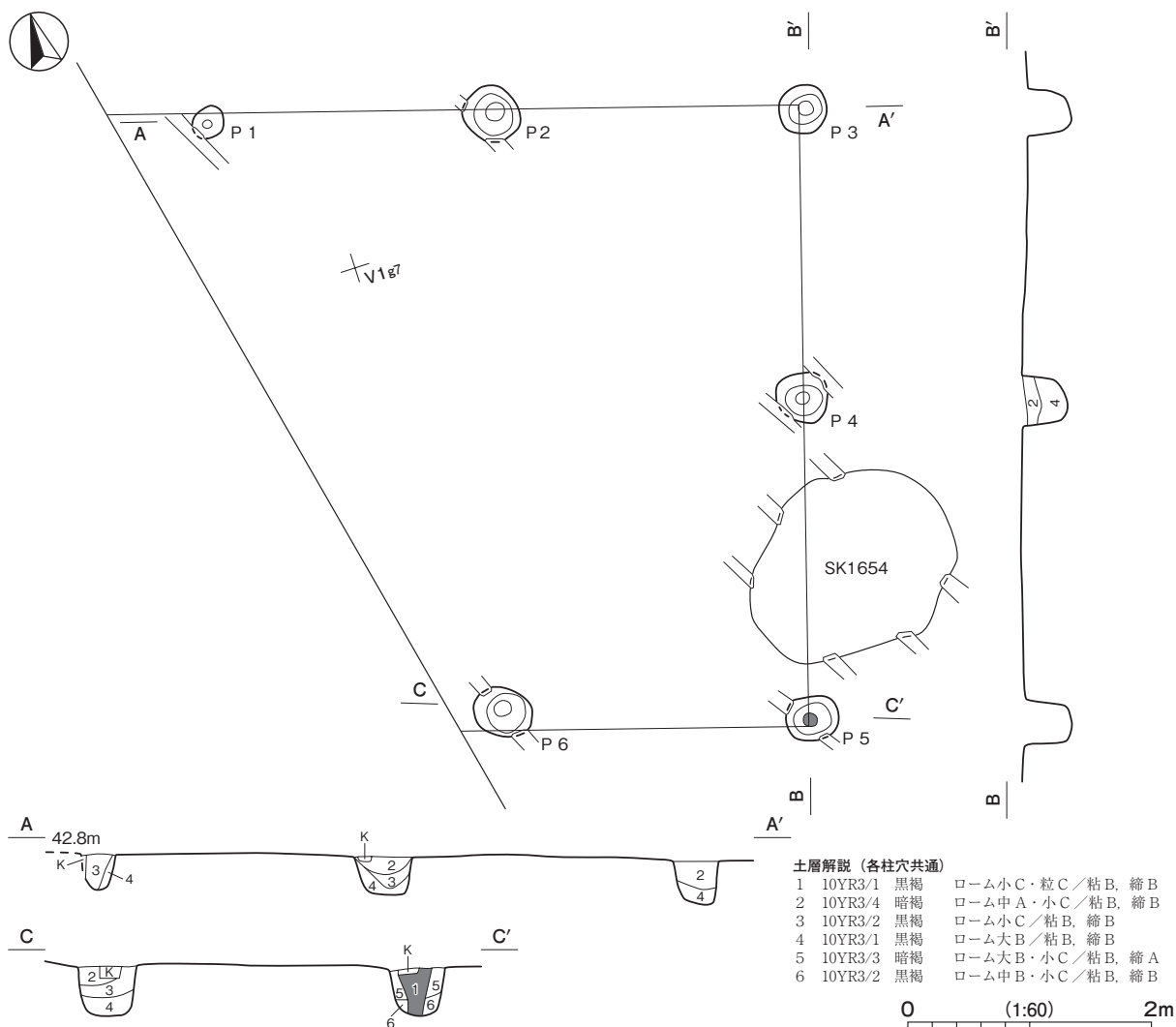
位置 A区南部のV1g7区、標高43mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1654号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 南西部が調査区域外のため、規模は桁行2間以上、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向がN-72°-Wの東西棟と推定できる。確認できた規模は桁行4.80m以上、梁行5.10mである。柱間寸法は、桁行がP1-P2間が2.4m(8尺)、P2-P3間が2.4m(8尺)、P5-P6間が2.4m(8尺)で、等間で揃っている。また梁行はP3-P4間が2.4m(8尺)、P4-P5間が2.7m(9尺)で、柱筋は揃っている。

柱穴 6か所。平面形は円形または楕円形で、長径28~49cm、短径25~42cmである。深さ31~40cmで、掘方の壁はほぼ直立している。P5の第1層は柱痕跡、第5・6層は埋土である。その他のピットの第2~4層は柱材を抜き取った後の覆土である。P5の底面で柱のあたりを確認した。

所見 時期は、規模や形状から中世以降と考えられる。



第 144 図 第 25 号掘立柱建物跡実測図

第 70 表 中世の掘立柱建物跡一覧

番号	位置	桁行方向	柱間数		面積 (m^2)	柱間寸法		柱 穴				主な出土遺物	時 期	備 考
			桁×梁(間)	桁×梁(m)		桁間(m)	梁間(m)	構造	柱穴数	平面形	深さ(cm)			
23	N 3d4	N-31°-W	3×2	5.10×5.10	26.01	1.5~1.8	2.4~2.7	側柱	10	円形・楕円形	20~80	-	中世以降	SI244,PG28 →本跡
25	V 1g7	N-72°-W	(2)×2	(4.80)×5.10	-	2.4	2.4~2.7	側柱	6	円形・楕円形	31~40	-	中世以降	SK1654 と重複

(2) 井戸跡

第 6 号井戸跡 (第 145 図)

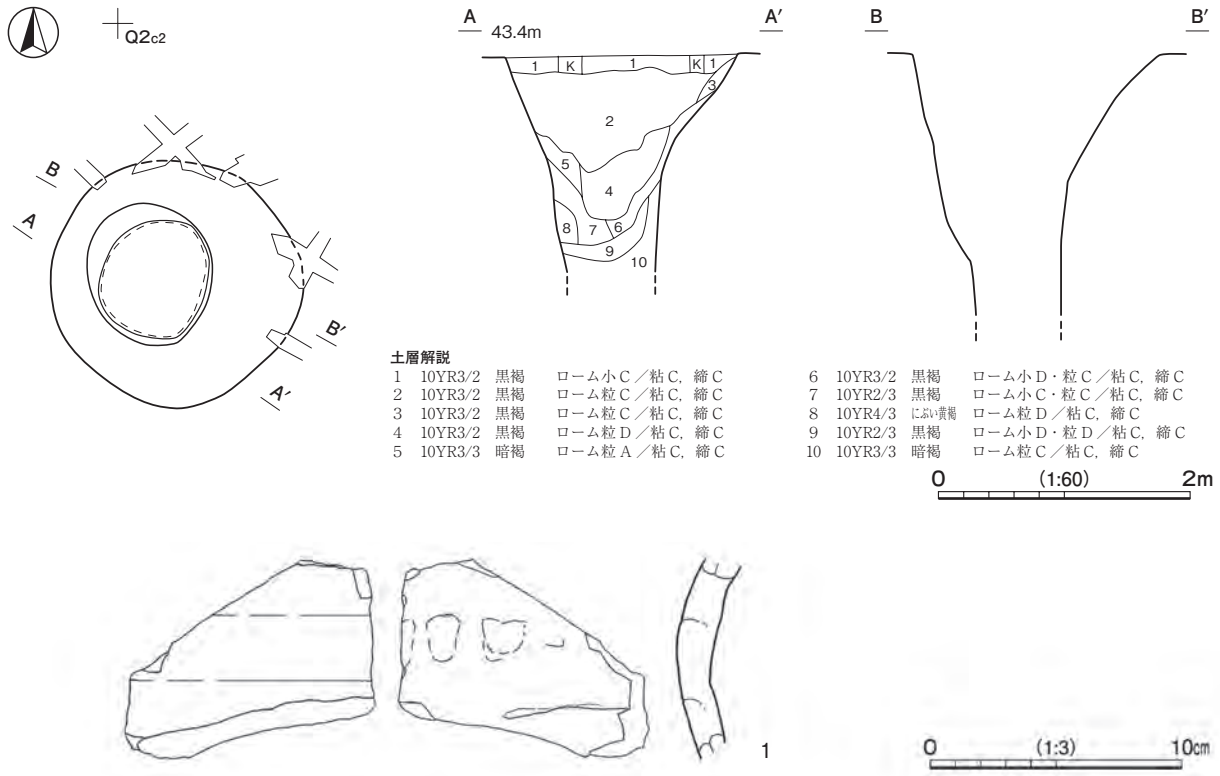
位置 C 区中央部の Q 2c2 区, 標高 43 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径 1.98 m, 短径 1.92 m の円形である。確認面から 100 cm まではほぼ漏斗状に, さらに長径 0.98m, 短径 0.84 m の円筒状に掘り込まれている。確認面から深さ 200 cm ほど掘り込まれていることを確認したが, 安全面の配慮から下部の調査を断念した。

覆土 確認できた部分は, 10 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

遺物出土状況 陶器片6点（甕類）が出土している。1は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中世と考えられる。



第145図 第6号井戸跡・出土遺物実測図

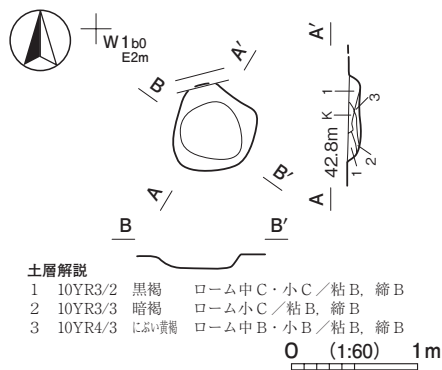
第71表 第6号井戸跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
1	陶器	甕	-	(7.9)	-	長石・石英にぶい赤褐	頸部外面ナデ 内面指頭痕 輪積み痕	自然釉	常滑	覆土中	5%

(3) 土坑

第1651号土坑（第146・147図 PL16）

位置 A区南部のW1b0区、標高43mほどの平坦な台地上に位置している。



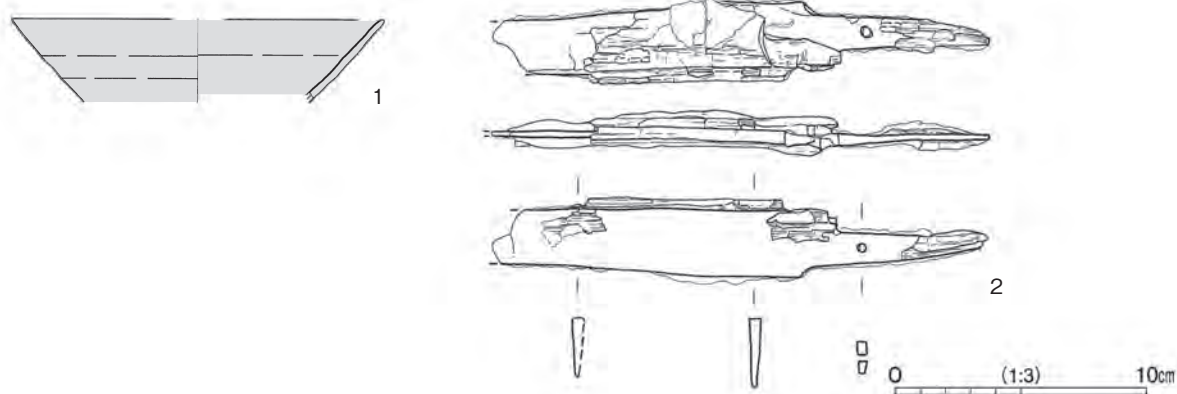
規模と形状 長径0.68m、短径0.65mの不整円形である。深さは10cmで、壁は外傾している。底面は平坦である。

覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 磁器片2点（碗、皿）、金属製品1点（短刀）が出土している。1・2は覆土中から出土している。埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土遺物から中世と考えられる。

第146図 第1651号土坑実測図



第 147 図 第 1651 号土坑出土遺物実測図

第 72 表 第 1651 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
1	磁器	碗	[14.7]	(3.3)	-	緻密 灰白	ロクロ成形	透明釉	龍泉窯	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
2	短刀	(19.9)	3.4	(1.5)	(103.1)	鉄	刀身部・茎部残存 2片折損 木質付着 両閃	覆土中	PL44

第 1651 号土坑出土遺物の樹種同定（短刀付着木質部）

株式会社 イビソク

下大賀遺跡は茨城県那珂市に所在する遺跡で、室町時代とされる短刀が発見された。短刀の一部には鞘とみられる部位に木材構造が残っていることが確認されたため樹種同定を試みた。同定に充てた試料は木材の細胞が二次鋤物に置換され固結した状態であったことから、適宜割取り実体顕微鏡を用いて同定可能な横断面、放射断面、接線断面を選び、反射光式顕微鏡で観察し同定をおこなった。

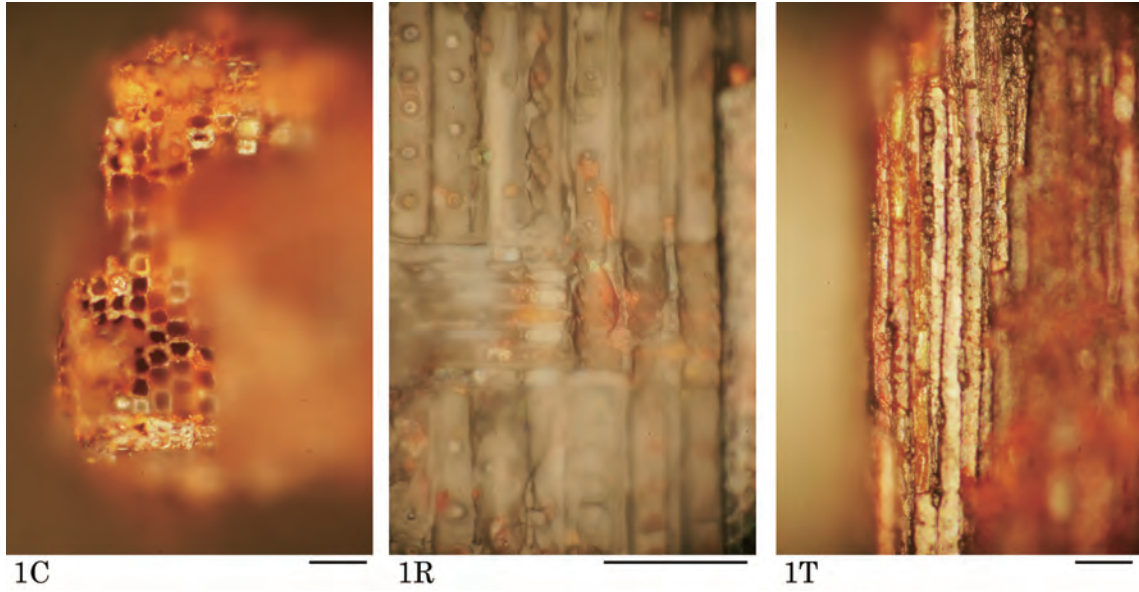
短刀の鞘材として利用されていた木材はヒノキ科のヒノキ (*Chamaecyparis obtusa* Endl.) と同定された。以下に観察結果を示す。

横断面では晩材部の幅がきわめて薄く仮道管は均質緻密である。放射断面で放射組織を確認するとすべて放射柔細胞からなり、分野壁孔はヒノキ型で小さく口孔は斜め縦方向に開き 1 分野に 2 個存在している。接線断面では 1-10 細胞高程度の放射組織が確認できる。

茨城県内の室町時代における刀鞘材の同定例は不明であったが、古墳時代では近隣の千葉県でヒノキ、スギなどの針葉樹が使われており、戦国～江戸時代後半とみられる群馬県の波志江西宿遺跡 I でもヒノキを用いている（伊東ほか 2012）。古墳時代から近世に至るまで時代を下っても鞘材にヒノキが選択的に使われ続けたと考えられる。

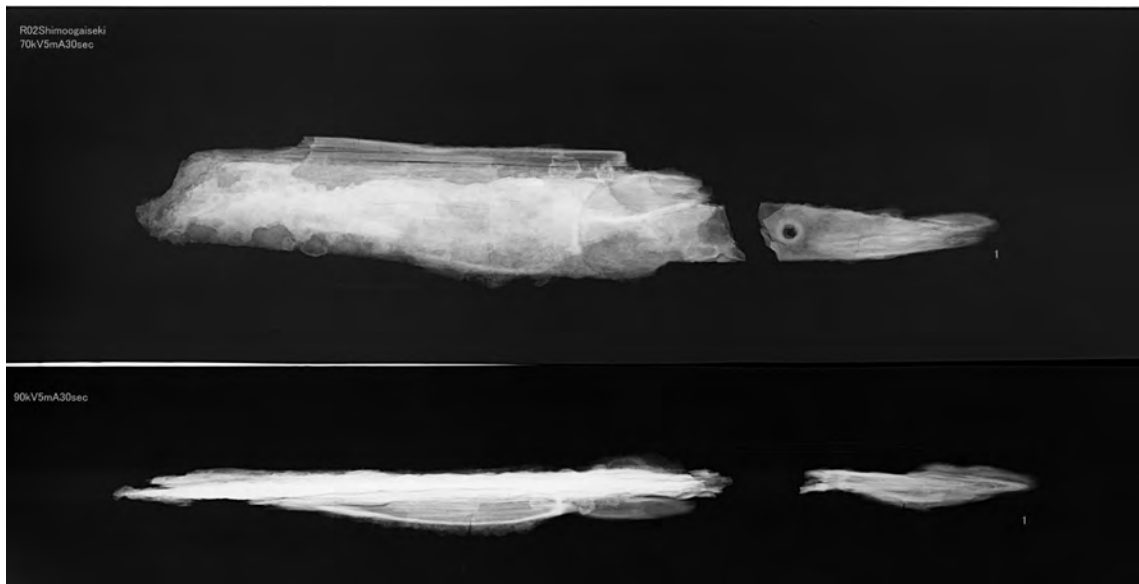
引用文献

伊東隆夫・山田昌久. 2012. 木の考古学 出土木製品データベース. 海青社. 449pp.



図版1 下大賀遺跡出土刀剣付着木質部の木材組織の顕微鏡写真
 C：横断面，R：放射断面，T：接線断面，スケールは0.1mm

技術協力：吉川純子（古代の森研究舎）



X線透過写真：No 1 平面・断面方向（撮影条件：70-90 k V 5m A 30sec）

5 その他の遺構と遺物

今回の調査では、時期や性格が明確にできなかった柱穴列1条、土坑229基、溝跡19条、道路跡1条、ピット群22か所、掘り込み遺構1基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 柱穴列

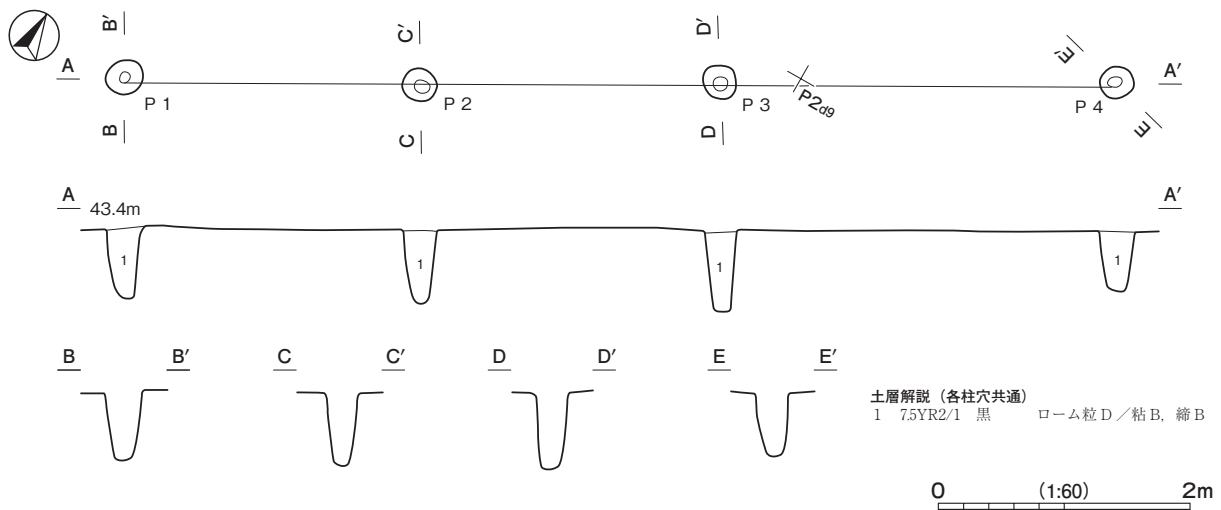
第4号柱穴列 (第148図)

位置 C区中央部のP2d8区、標高43mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と構造 東西方向7.80mの間に並ぶ柱穴4か所を確認した。配列方向はN-61°-Eである。柱間寸法はP1-P2とP2-P3間は2.4m(8尺)で等間隔で、P3-P4間は3.0m(10尺)である。

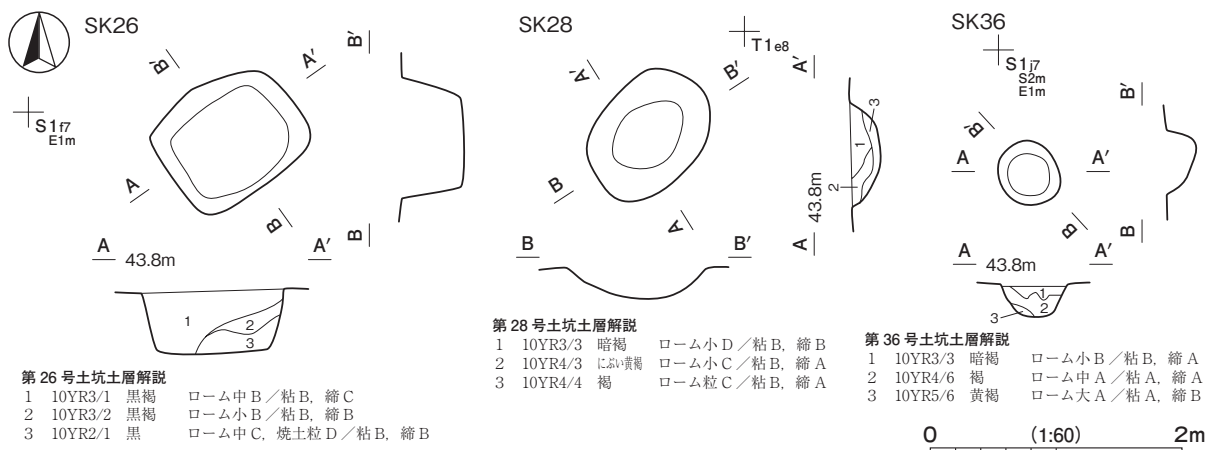
柱穴 4か所。平面形は円形で、長径28~32cm、短径22~29cmである。深さは48~62cmで、掘方の壁はほぼ直立している。第1層は柱材の抜き取り後の覆土である。

所見 時期は、中世以降と考えられるが不明である。

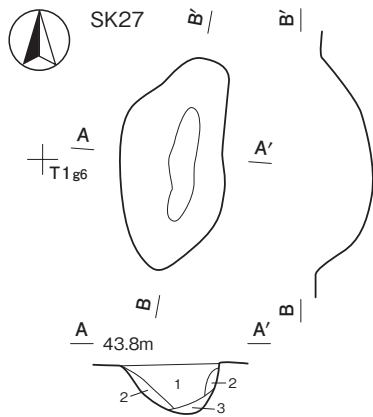


第148図 第4号柱穴列実測図

(2) 土坑 (149~168図)

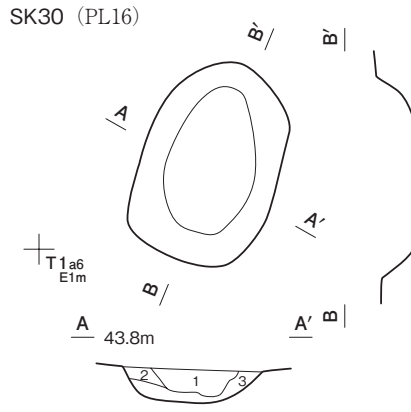


第149図 その他の土坑実測図(1)



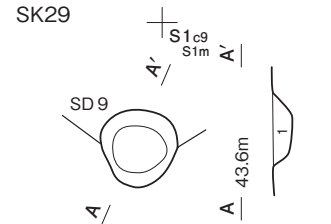
第27号土坑土層解説

- 1 10YR3/1 黒褐 ローム小D / 粘B, 締B
- 2 10YR4/3 におい黄褐 ローム中B / 粘A, 締B
- 3 10YR3/2 黒褐 ローム小C / 粘B, 締A



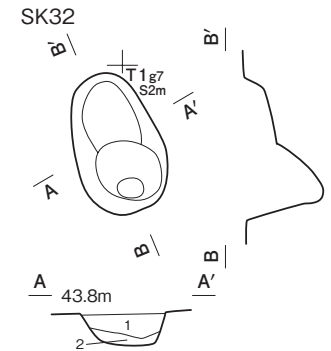
第30号土坑土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐 ローム粒D / 粘B, 締B
- 2 10YR3/4 暗褐 ローム小C / 粘B, 締B
- 3 10YR3/3 暗褐 ローム粒D / 粘B, 締B



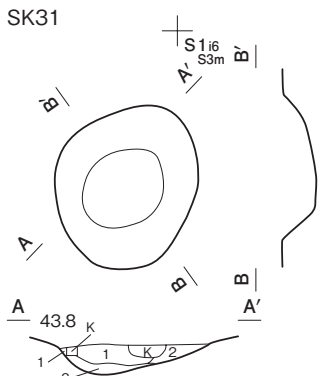
第29号土坑土層解説

- 1 10YR2/1 黒 ローム小C / 粘B, 締B



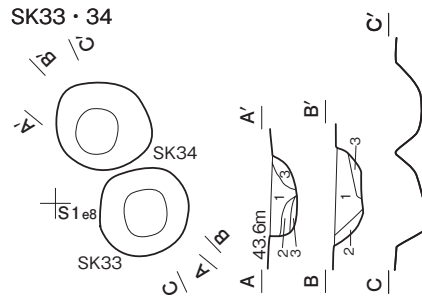
第32号土坑土層解説

- 1 10YR2/1 黒 ローム粒C / 粘B, 締B
- 2 10YR3/2 黒褐 ローム小C / 粘B, 締A



第31号土坑土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐 ローム小C / 粘B, 締B
- 2 10YR4/3 におい黄褐 ローム中B / 粘B, 締B
- 3 10YR3/4 暗褐 ローム小D / 粘B, 締B

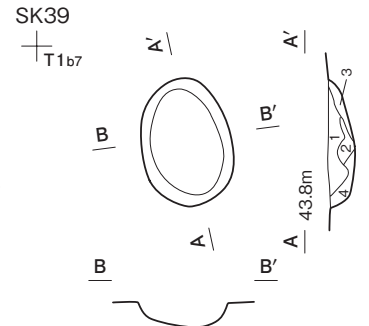


第33号土坑土層解説

- 1 10YR4/3 におい黄褐 ローム小A / 粘B, 締A
- 2 10YR4/6 褐 ローム中A / 粘A, 締A
- 3 10YR5/6 黄褐 ローム大A / 粘B, 締A

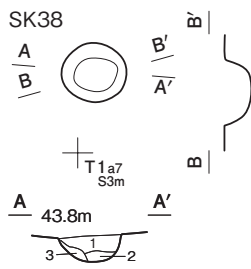
第34号土坑土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐 ローム小A / 粘B, 締A
- 2 10YR5/6 黄褐 ローム中A / 粘B, 締B
- 3 10YR2/2 黒褐 ローム小D・粒C, 焼土粒D / 粘B, 締B



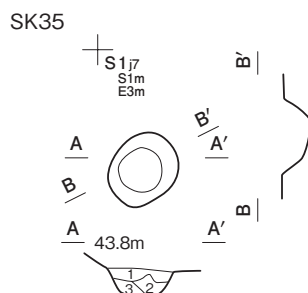
第39号土坑土層解説

- 1 10YR4/1 褐灰 ローム粒A / 粘B, 締A
- 2 10YR5/4 におい黄褐 ローム小C・粒A / 粘B, 締A
- 3 10YR4/3 におい黄褐 ローム中C・粒A / 粘B, 締A
- 4 10YR5/8 黄褐 ローム中C・粒A / 粘B, 締B



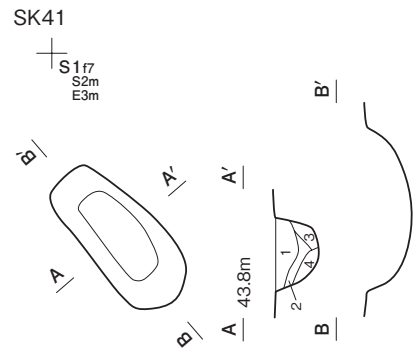
第38号土坑土層解説

- 1 10YR2/2 黒褐 ローム粒C / 粘B, 締B
- 2 10YR5/6 黄褐 ローム大B / 粘A, 締B
- 3 10YR5/6 黄褐 ローム大A / 粘B, 締B



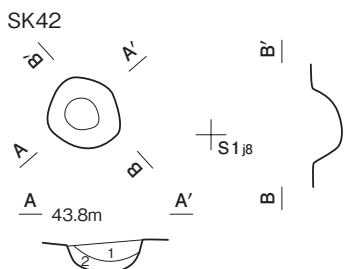
第35号土坑土層解説

- 1 10YR4/3 におい黄褐 ローム小C / 粘B, 締B
- 2 10YR4/4 褐 ローム中B / 粘B, 締B
- 3 10YR5/4 におい黄褐 ローム大A / 粘B, 締A



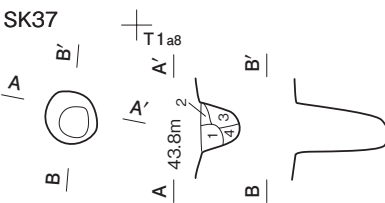
第41号土坑土層解説

- 1 10YR4/1 褐灰 ローム粒A / 粘B, 締A
- 2 10YR5/4 におい黄褐 ローム小C・粒A / 粘B, 締A
- 3 10YR4/3 におい黄褐 ローム中C・粒A / 粘B, 締A
- 4 10YR5/8 黄褐 ローム中C・粒A / 粘B, 締B



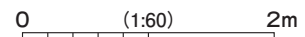
第42号土坑土層解説

- 1 10YR3/4 暗褐 ローム粒A / 粘C, 締A
- 2 10YR5/8 黄褐 ローム粒B / 粘B, 締B

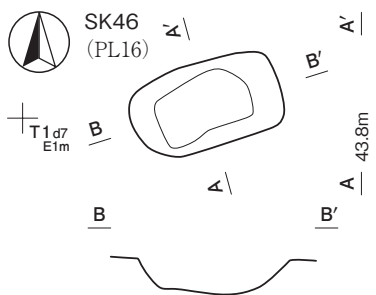


第37号土坑土層解説

- 1 10YR3/1 黒褐 ローム粒C / 粘B, 締B
- 2 10YR2/2 黒褐 ローム粒C / 粘A, 締A
- 3 10YR4/6 褐 ローム中B / 粘A, 締A
- 4 10YR4/4 褐 ローム小C / 粘A, 締B

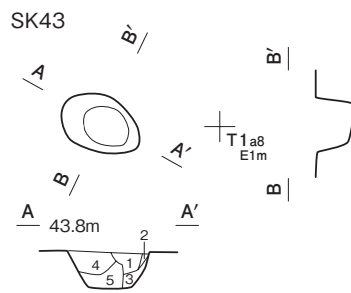


第150図 その他の土坑実測図(2)



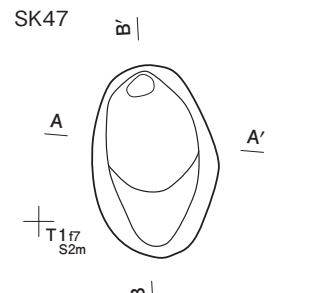
第46号土坑土層解説

- | | | |
|---|-------------|--------------|
| 1 | 10YR5/8 黄褐 | ロ-ム粒A/粘C, 締A |
| 2 | 10YR5/6 黄褐 | ロ-ム粒B/粘B, 締B |
| 3 | 10YR6/8 明黄褐 | ロ-ム粒C/粘A, 締B |



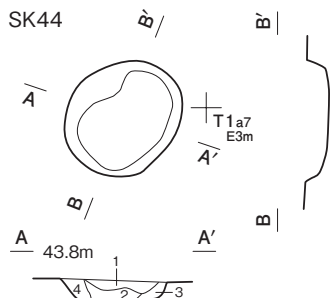
第43号土坑土層解説

- | | | |
|---|--------------|--------------|
| 1 | 10YR2/2 黒褐 | ロ-ム粒C/粘C, 締B |
| 2 | 10YR4/4 褐 | ロ-ム粒C/粘B, 締B |
| 3 | 10YR5/4 にみ黄褐 | ロ-ム大B/粘B, 締B |
| 4 | 10YR3/1 黒褐 | ロ-ム粒C/粘C, 締A |
| 5 | 10YR3/4 暗褐 | ロ-ム小B/粘A, 締B |



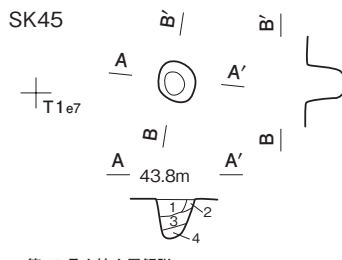
第47号土坑土層解説

- | | | |
|---|------------|-----------------|
| 1 | 10YR2/1 黒 | ロ-ム粒D/粘C, 締A |
| 2 | 10YR2/2 黒褐 | ロ-ム粒B/粘C, 締A |
| 3 | 10YR3/1 黒褐 | ロ-ム小C・粒C/粘C, 締A |
| 4 | 10YR3/1 黒褐 | ロ-ム小B/粘C, 締A |
| 5 | 10YR3/4 暗褐 | ロ-ム粒C/粘B, 締C |
| 6 | 10YR4/4 褐 | ロ-ム中B/粘B, 締B |



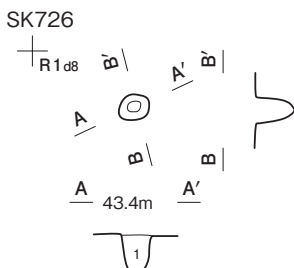
第44号土坑土層解説

- | | | |
|---|--------------|-----------------|
| 1 | 10YR2/2 黒褐 | ロ-ム小C・粒C/粘B, 締B |
| 2 | 10YR6/6 明黄褐 | ロ-ム大A/粘B, 締A |
| 3 | 10YR6/3 にみ黄褐 | ロ-ム中B/粘B, 締B |
| 4 | 10YR3/4 暗褐 | ロ-ム小B・粒C/粘B, 締B |



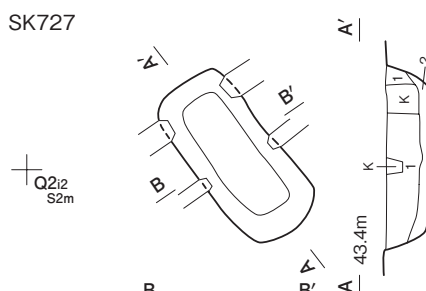
第45号土坑土層解説

- | | | |
|---|------------|--------------|
| 1 | 10YR2/1 黒 | ロ-ム粒C/粘C, 締C |
| 2 | 10YR4/4 褐 | ロ-ム小B/粘B, 締C |
| 3 | 10YR4/4 褐 | ロ-ム大B/粘B, 締C |
| 4 | 10YR5/6 黄褐 | ロ-ム大A/粘A, 締B |



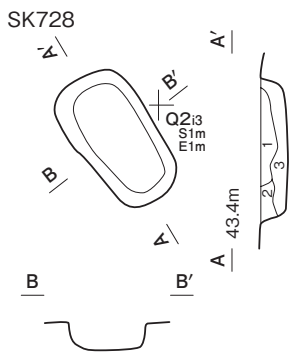
第726号土坑土層解説

- | | | |
|---|------------|------------------|
| 1 | 75YR2/2 黒褐 | ロ-ム小D, 粒C/粘B, 締B |
|---|------------|------------------|



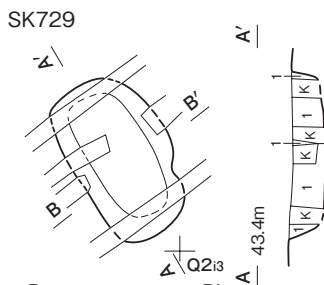
第727号土坑土層解説

- | | | |
|---|------------|--------------------|
| 1 | 10YR3/1 黒褐 | ロ-ム中C・小B・粒B/粘B, 締B |
| 2 | 10YR3/1 黒褐 | ロ-ム中C・小C・粒D/粘B, 締B |



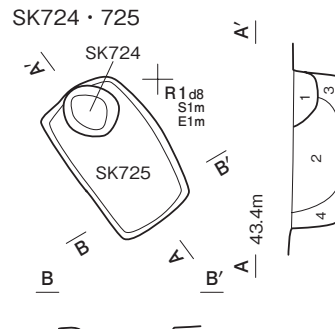
第728号土坑土層解説

- | | | |
|---|------------|-----------------|
| 1 | 10YR3/1 黒褐 | ロ-ム小C・粒B/粘B, 締B |
| 2 | 10YR3/1 黒褐 | ロ-ム小C・粒C/粘B, 締B |
| 3 | 10YR2/2 黒褐 | ロ-ム小B・粒B/粘B, 締B |



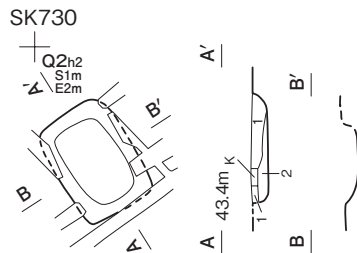
第729号土坑土層解説

- | | | |
|---|------------|--------------------|
| 1 | 10YR3/1 黒褐 | ロ-ム中C・小D・粒D/粘B, 締B |
|---|------------|--------------------|



第724・725号土坑土層解説

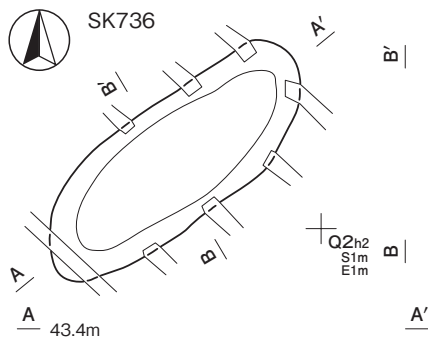
- | | | |
|---|------------|------------------|
| 1 | 75YR3/1 黒褐 | ロ-ム小B, 粒C/粘B, 締B |
| 2 | 75YR3/3 暗褐 | ロ-ム小B/粘B, 締B |
| 3 | 75YR3/4 暗褐 | ロ-ム中D・粒C/粘B, 締B |
| 4 | 75YR3/2 黒褐 | ロ-ム中D・粒C/粘B, 締B |



第730号土坑土層解説

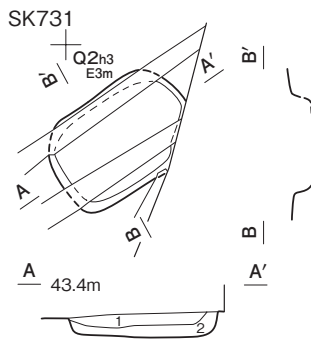
- | | | |
|---|------------|--------------------------|
| 1 | 10YR3/1 黒褐 | ロ-ム中C・小C・粒B, 炭化粒D/粘B, 締B |
| 2 | 10YR3/1 黒褐 | ロ-ム小C・粒B, 炭化粒D/粘B, 締B |

第151図 その他の土坑実測図(3)



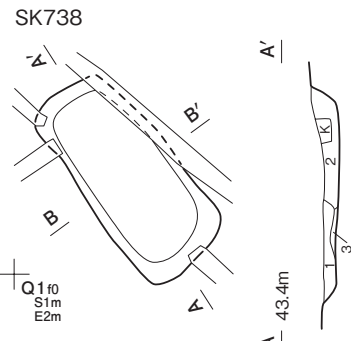
第736号土坑土層解説

- 1 10YR3/1 黒褐 □-ム粒C/粘B, 締B
- 2 10YR2/2 黒褐 □-ム小A・粒B/粘B, 締A



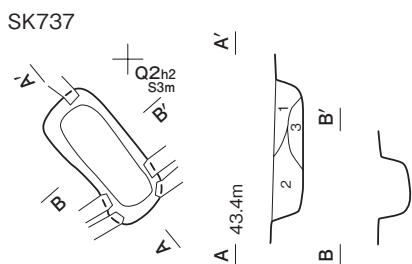
第731号土坑土層解説

- 1 10YR3/1 黒褐 □-ム小A・粒B/粘B, 締B
- 2 10YR3/1 黒褐 □-ム小C・粒C/粘B, 締B



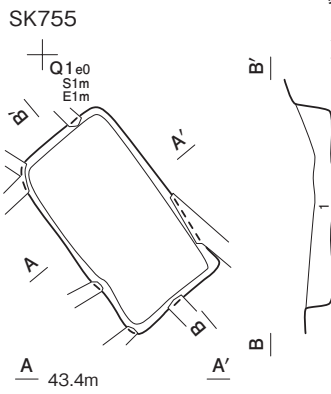
第738号土坑土層解説

- 1 7.5YR2/2 黒褐 □-ム小C/粘B, 締B
- 2 7.5YR2/3 極暗褐 □-ム中C・小B/粘B, 締B
- 3 7.5YR2/2 黒褐 □-ム中D・粒C/粘B, 締B



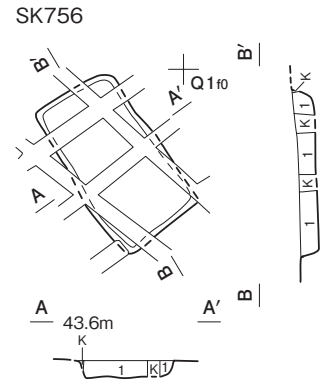
第737号土坑土層解説

- 1 10YR3/1 黒褐 □-ム小C・粒B, 焼土粒C/粘B, 締B
- 2 10YR3/1 黒褐 □-ム中B・粒B, 焼土小C/粘B, 締B
- 3 10YR2/2 黒褐 □-ム小D・粒C, 焼土粒D/粘B, 締B



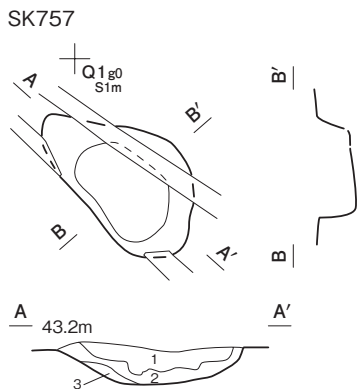
第755号土坑土層解説

- 1 10YR2/3 黒褐 □-ム中D・小D・粒C/粘B, 締B



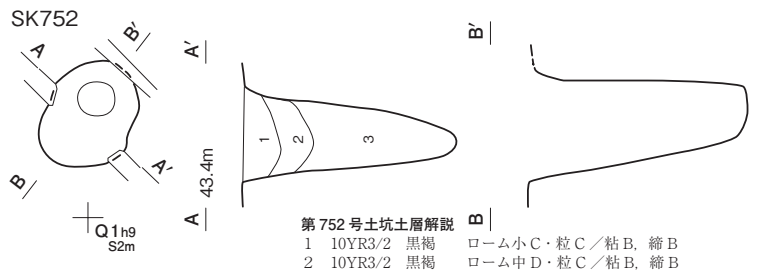
第756号土坑土層解説

- 1 10YR2/3 黒褐 □-ム中D・粒C/粘B, 締C



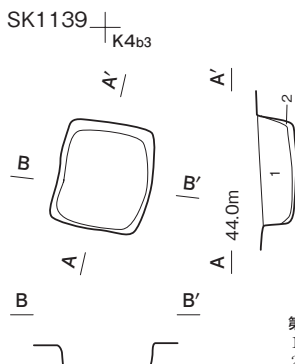
第757号土坑土層解説

- 1 10YR2/2 黒褐 □-ム粒C/粘B, 締B
- 2 10YR3/3 暗褐 □-ム中C・小C・粒B/粘B, 締B
- 3 10YR3/4 暗褐 □-ム粒B/粘B, 締B



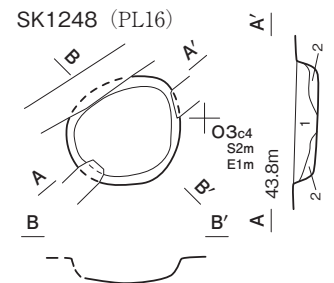
第752号土坑土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐 □-ム小C・粒C/粘B, 締B
- 2 10YR3/2 黒褐 □-ム中D・粒C/粘B, 締B
- 3 10YR3/3 暗褐 □-ム粒B/粘B, 締C



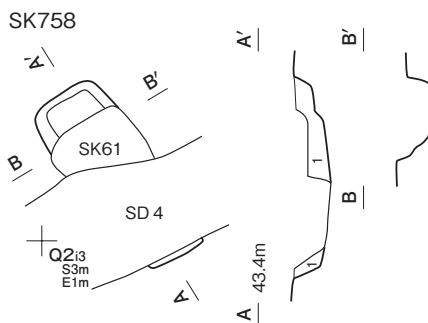
第1139号土坑土層解説

- 1 10YR2/3 黒褐 □-ム大C・中C・小C・粒C/粘B, 締B
- 2 10YR2/1 黒 □-ム中D・小D・粒C/粘B, 締B



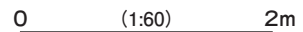
第1248号土坑土層解説

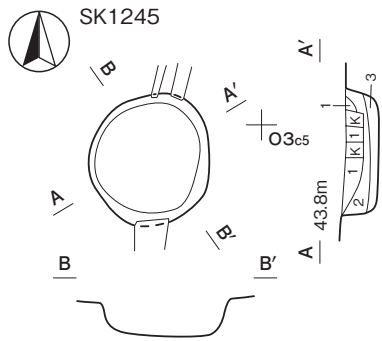
- 1 7.5YR2/2 黒褐 □-ム粒C, 焼土粒D/粘B, 締B
- 2 7.5YR3/2 黒褐 □-ム小D・粒C/粘B, 締B



第758号土坑土層解説

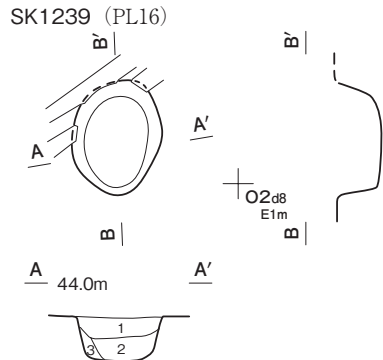
- 1 10YR2/2 黒褐 □-ム中D・小D・粒C/粘B, 締C





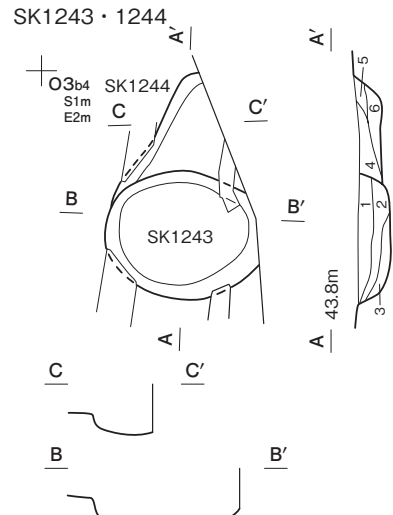
第 1245 号土坑土層解説

- 1 10YR2/1 黒 □-ム粒D/粘B, 締B
- 2 10YR2/2 黒褐 □-ム中D・小D・粒C/粘B, 締B
- 3 10YR4/3 に近い黄褐 □-ム中D・小C・粒B/粘B, 締B



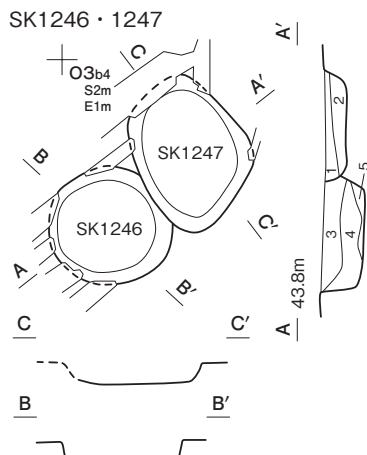
第 1239 号土坑土層解説

- 1 7.5YR2/2 黒褐 □-ム粒C/粘B, 締B
- 2 7.5YR3/1 黒褐 □-ム粒C/粘B, 締B
- 3 7.5YR2/2 黒褐 □-ム粒B/粘B, 締B



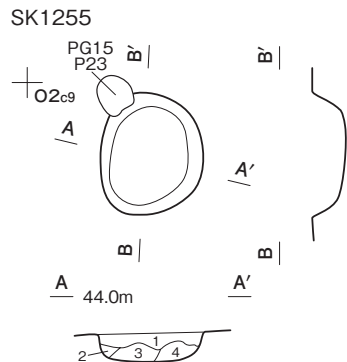
第 1243・1244 号土坑土層解説

- 1 10YR2/1 黒 □-ム小D・粒C/粘B, 締B
- 2 10YR3/2 黒褐 □-ム中C・小C・粒C/粘B, 締B
- 3 10YR4/4 褐 □-ム小B・粒B/粘B, 締B
- 4 10YR2/2 黒褐 □-ム粒C/粘B, 締B
- 5 10YR2/3 黒褐 □-ム小C・粒C/粘B, 締B
- 6 10YR4/3 に近い黄褐 □-ム小C・粒B/粘B, 締B



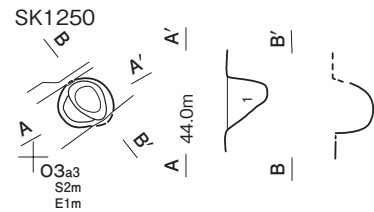
第 1246・1247 号土坑土層解説

- 1 10YR2/3 黒褐 □-ム小C・粒B/粘B, 締B
- 2 10YR2/2 黒褐 □-ム小D・粒C/粘B, 締B
- 3 10YR2/1 黒 □-ム中D・小C/粘B, 締B
- 4 10YR2/2 黒褐 □-ム中D・小C・粒C/粘B, 締B
- 5 10YR3/3 暗褐 □-ム中C・小C・粒C/粘B, 締B



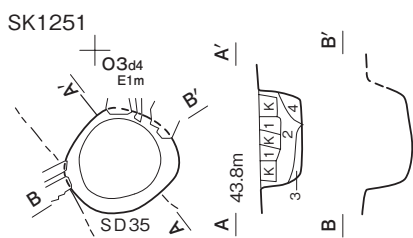
第 1255 号土坑土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐 □-ム中D・粒C/粘B, 締A
- 2 10YR4/3 に近い黄褐 □-ム粒B/粘B, 締B
- 3 10YR2/3 黒褐 □-ム中D・粒C/粘B, 締B
- 4 10YR3/3 暗褐 □-ム小C・粒C/粘B, 締B



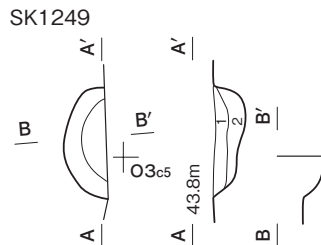
第 1250 号土坑土層解説

- 1 7.5YR3/2 黒褐 □-ム粒C/粘B, 締B



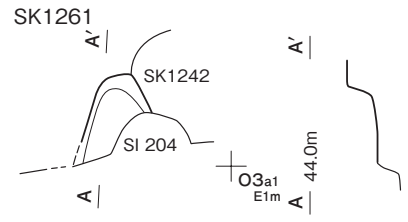
第 1251 号土坑土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐 □-ム中D・小C・粒C/粘B, 締B
- 2 10YR3/4 暗褐 □-ム大C・中C・小C・粒B/粘B, 締B
- 3 10YR2/1 黒 □-ム小D・粒C/粘B, 締B
- 4 10YR2/2 黒褐 □-ム中D・粒C/粘B, 締B



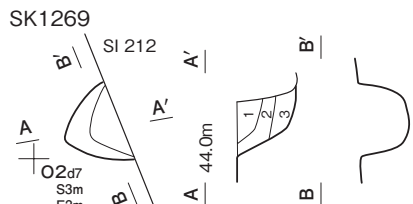
第 1249 号土坑土層解説

- 1 10YR2/2 黒褐 □-ム中C・小D・粒C/粘B, 締B
- 2 10YR3/3 暗褐 □-ム中D・小C・粒B/粘B, 締B



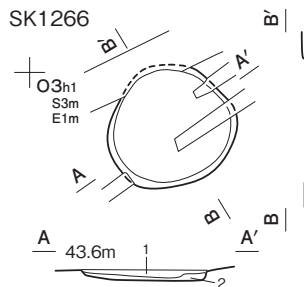
第 1261 号土坑土層解説

- 1 10YR2/2 黒褐 □-ム中C・小D・粒C/粘B, 締B



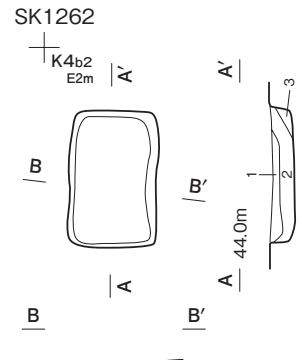
第 1269 号土坑土層解説

- 1 10YR3/1 黒褐 □-ム粒C, 炭化粒D, 炭化粒D/粘B, 締B
- 2 10YR3/1 黒褐 □-ム小B・粒B/粘B, 締B
- 3 10YR3/1 黒褐 □-ム中C・小C・粒B/粘B, 締B



第 1266 号土坑土層解説

- 1 10YR2/2 黒褐 □-ム小C・粒C/粘B, 締B
- 2 10YR4/3 に近い黄褐 □-ム小B・粒B/粘B, 締B

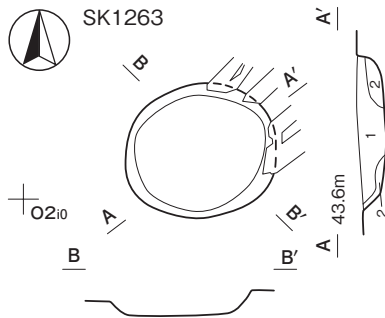


第 1262 号土坑土層解説

- 1 10YR3/1 黒褐 □-ム中D・小C・粒C/粘B, 締B
- 2 10YR2/3 黒褐 □-ム大D・中C・小C・粒C/粘B, 締B
- 3 10YR2/1 黒 □-ム小D・粒C/粘B, 締B

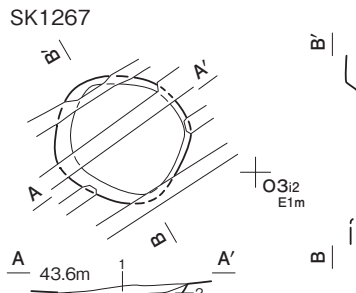
第 153 図 その他の土坑実測図 (5)

0 (1:60) 2m



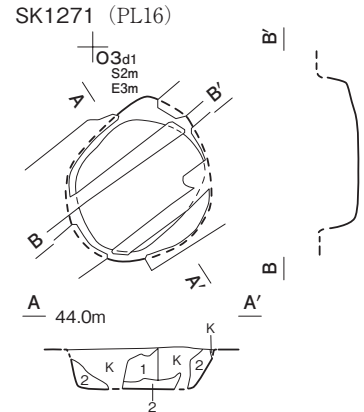
SK1263

- 第 1263 号土坑土層解説
 1 10YR3/1 黒褐 ローム中C・小C／粘B, 締B
 2 10YR3/2 黒褐 ローム中B・小B・粒A／粘B, 締B



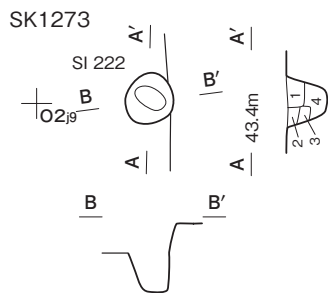
SK1267

- 第 1267 号土坑土層解説
 1 10YR2/3 黒褐 ローム小C・粒C／粘B, 締B
 2 10YR4/4 褐 ローム小B・粒B／粘B, 締B



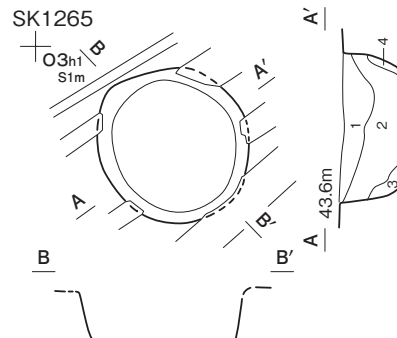
SK1271 (PL16)

- 第 1271 号土坑土層解説
 1 10YR3/1 黒褐 ローム小C・粒C／粘B, 締B
 2 10YR3/1 黒褐 ローム小B・粒B／粘B, 締B



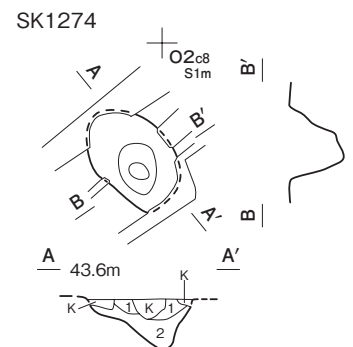
SK1273

- 第 1273 号土坑土層解説
 1 10YR2/1 黒 ローム粒D／粘B, 締C
 2 10YR2/3 黒褐 ローム粒D／粘B, 締C
 3 10YR3/1 黒褐 ローム小C・粒C／粘B, 締C
 4 10YR2/2 黒褐 ローム小D・粒D／粘B, 締C



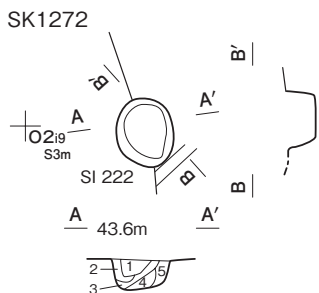
SK1265

- 第 1265 号土坑土層解説
 1 10YR2/2 黒褐 ローム中D・小C・粒C／粘B, 締B
 2 10YR3/3 暗褐 ローム中C・小B・粒B／粘B, 締B
 3 10YR3/4 暗褐 ローム大D・小C・粒B／粘B, 締B
 4 10YR2/1 黒 ローム粒D／粘B, 締B



SK1274

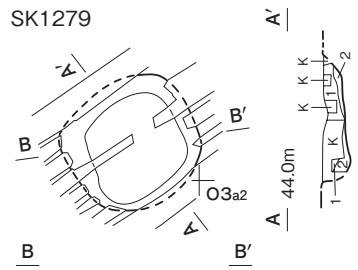
- 第 1274 号土坑土層解説
 1 10YR3/3 暗褐 ローム小C・粒C／粘B, 締B
 2 10YR4/3 に近い黄褐 ローム中D・粒C／粘B, 締B



SK1272

第 1272 号土坑土層解説

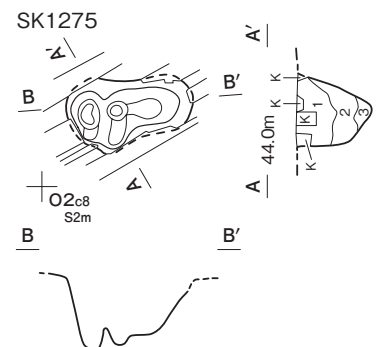
- 1 7.5YR3/2 黒褐 ローム粒D, 焼土粒D／粘B, 締B
 2 7.5YR4/3 褐 ローム粒C, 焼土粒C／粘B, 締B
 3 7.5YR2/3 極暗褐 ローム小D, 焼土粒D／粘B, 締B
 4 7.5YR2/2 黒褐 ローム小D, 焼土粒D／粘B, 締B
 5 7.5YR4/4 褐 ローム小B／粘B, 締B



SK1279

第 1279 号土坑土層解説

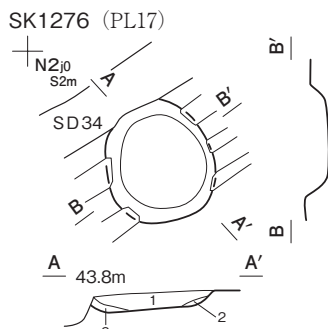
- 1 10YR2/2 黒褐 ローム中D・粒C／粘B, 締B
 2 10YR4/3 に近い黄褐 ローム中C・小C・粒B／粘B, 締B



SK1275

第 1275 号土坑土層解説

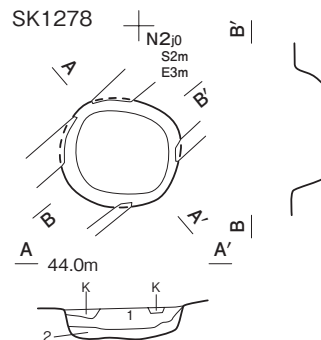
- 1 10YR3/2 黒褐 ローム中D・粒C／粘B, 締B
 2 10YR3/4 暗褐 ローム小C・粒B／粘B, 締B
 3 10YR4/3 に近い黄褐 ローム小C・粒B／粘B, 締B



SK1276 (PL17)

第 1276 号土坑土層解説

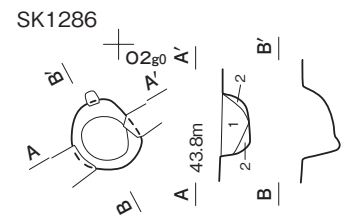
- 1 10YR2/2 黒褐 ローム中D・小C・粒D／粘B, 締B
 2 10YR3/3 暗褐 ローム小C・粒C／粘B, 締B
 3 10YR3/4 暗褐 ローム中D・小C・粒B／粘B, 締B



SK1278

第 1278 号土坑土層解説

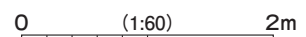
- 1 10YR2/2 黒褐 ローム中D・粒C／粘B, 締B
 2 10YR3/2 黒褐 ローム小C・粒C／粘B, 締B

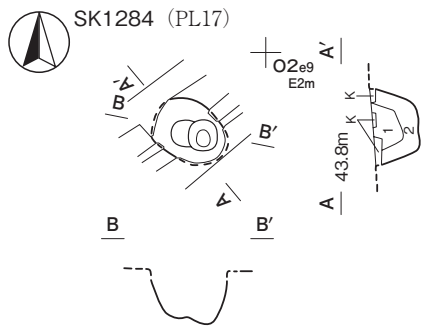


SK1286

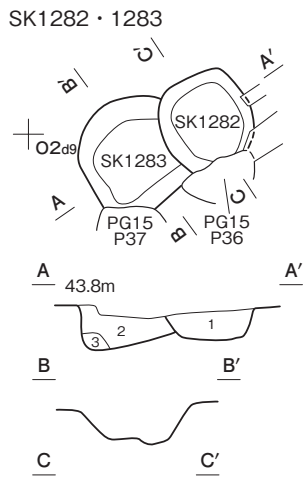
第 1286 号土坑土層解説

- 1 7.5YR2/2 黒褐 ローム粒C／粘B, 締B
 2 7.5YR4/4 褐 ローム粒A／粘B, 締B

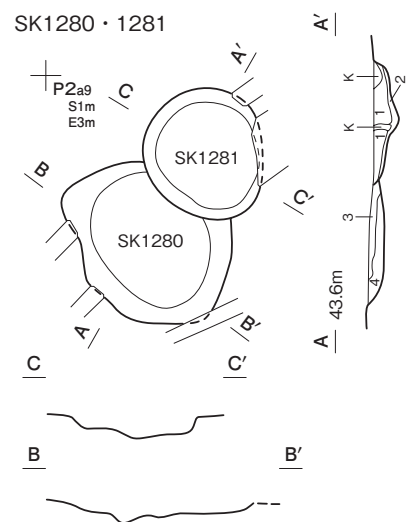




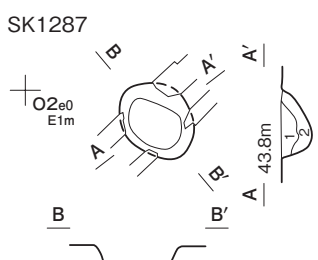
第 1284 号土坑土層解説
 1 10YR3/2 黒褐 □-ム中B・粒C/粘B, 縮B
 2 10YR3/3 暗褐 □-ム中C・小C・粒C/粘B, 縮B



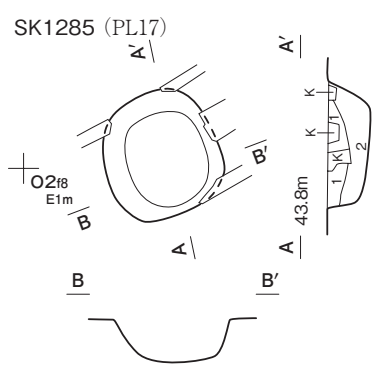
第 1282・1283 号土坑土層解説
 1 10YR2/3 黒褐 □-ム中D・小C・粒C/粘B, 縮B
 2 10YR3/3 暗褐 □-ム中C・小C・粒C/粘B, 縮B
 3 10YR3/2 黒褐 □-ム小C・粒C/粘B, 縮B



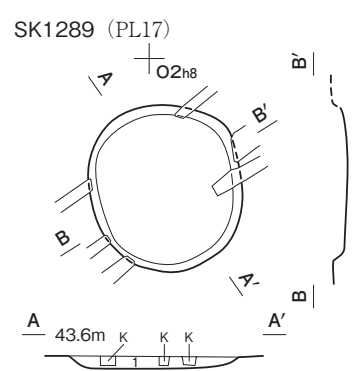
第 1280・1281 号土坑土層解説
 1 10YR2/2 黒褐 □-ム中D・粒C/粘B, 縮B
 2 10YR3/4 暗褐 □-ム小C・粒B/粘B, 縮B
 3 10YR3/2 黒褐 □-ム中D・小C・粒C/粘B, 縮B
 4 10YR4/4 褐 □-ム小C・粒B/粘B, 縮B



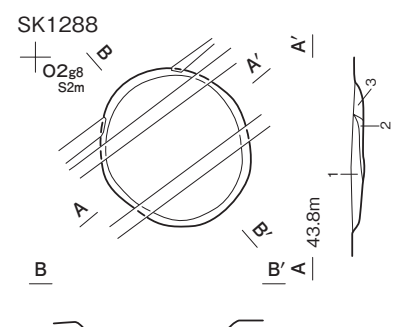
第 1287 号土坑土層解説
 1 10YR2/2 黒褐 □-ム中C・小C・粒C/粘B, 縮B
 2 10YR3/3 暗褐 □-ム大D・小C・粒C/粘B, 縮B



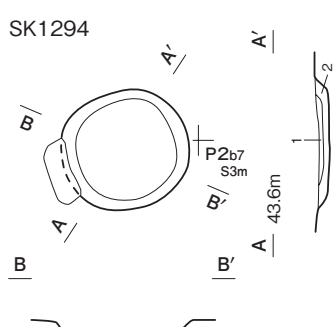
第 1285 号土坑土層解説
 1 75YR3/1 黒褐 □-ム粒D/粘B, 縮B
 2 75YR2/1 黒 □-ム小D・粒D/粘B, 縮B



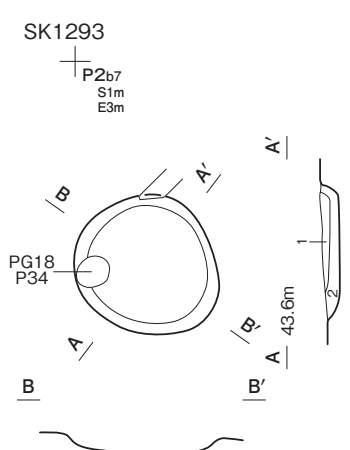
第 1289 号土坑土層解説
 1 75YR2/1 黒 □-ム小C・粒C/粘B, 縮B



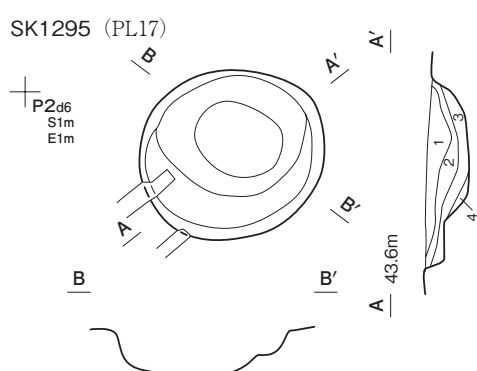
第 1288 号土坑土層解説
 1 10YR2/1 黒 □-ム小D・粒D/粘B, 縮A
 2 10YR3/1 黒褐 □-ム小D・粒C/粘B, 縮B
 3 10YR2/2 黒褐 □-ム粒B/粘B, 縮B



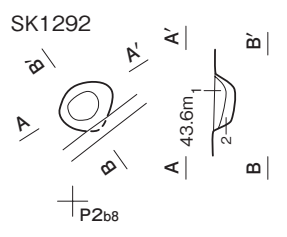
第 1294 号土坑土層解説
 1 75YR3/1 黒褐 □-ム粒D/粘B, 縮B
 2 75YR2/2 黒褐 □-ム粒C/粘B, 縮B



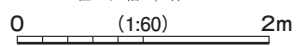
第 1293 号土坑土層解説
 1 75YR2/2 黒褐 □-ム粒C・焼土粒D/粘B, 縮B
 2 75YR2/2 黒褐 □-ム粒C/粘B, 縮B



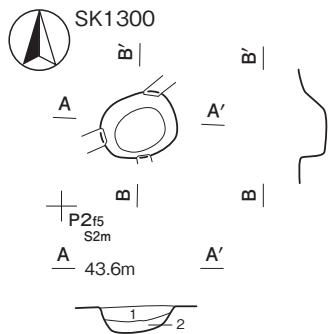
第 1295 号土坑土層解説
 1 75YR2/2 黒褐 □-ム粒D・焼土粒D/粘B, 縮A
 2 75YR4/2 灰褐 □-ム粒C/粘B, 縮A
 3 75YR4/3 褐 □-ム粒C/粘B, 縮B
 4 75YR4/3 褐 □-ム粒B/粘B, 縮B



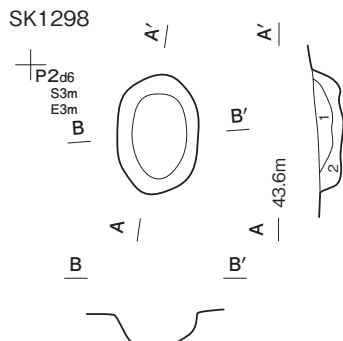
第 1292 号土坑土層解説
 1 75YR3/2 黒褐 □-ム粒D/粘B, 縮B
 2 10YR4/6 褐 □-ム粒B/粘B, 縮B



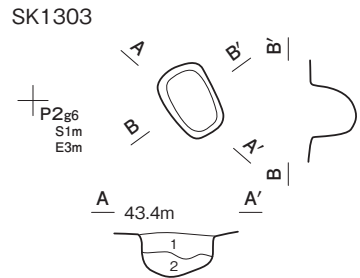
第 155 図 その他の土坑実測図 (7)



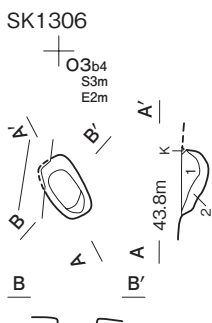
第 1300 号土坑土層解説
 1 7.5YR2/2 黒褐 ローム粒 D / 粘 B, 締 B
 2 7.5YR3/2 黒褐 ローム粒 C / 粘 B, 締 A



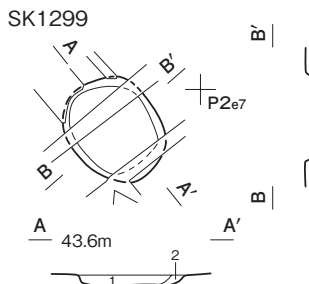
第 1298 号土坑土層解説
 1 7.5YR3/2 黒褐 ローム粒 C / 粘 B, 締 B
 2 7.5YR3/3 暗褐 ローム粒 B / 粘 B, 締 B



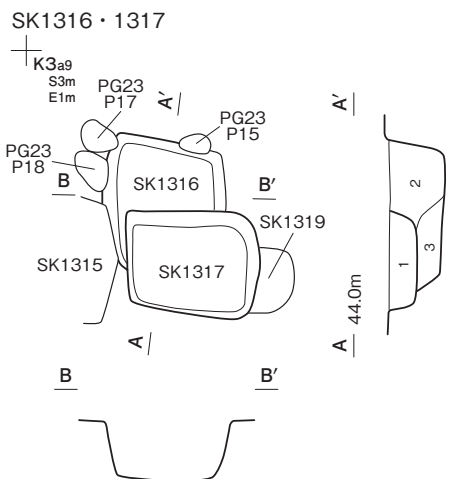
第 1303 号土坑土層解説
 1 7.5YR3/1 黒褐 ローム粒 D / 粘 B, 締 B
 2 7.5YR3/2 黒褐 ローム粒 C / 粘 B, 締 A



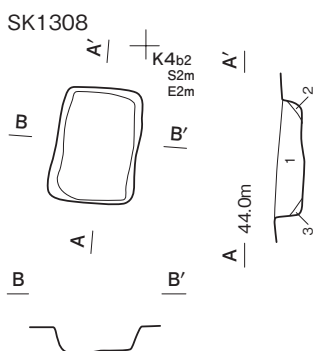
第 1306 号土坑土層解説
 1 10YR2/2 黒褐 ローム大 D · 中 D · 小 C · 粒 C / 粘 B, 締 B
 2 10YR4/3 黒褐 ローム大 C · 中 C · 小 C · 粒 B / 粘 B, 締 B



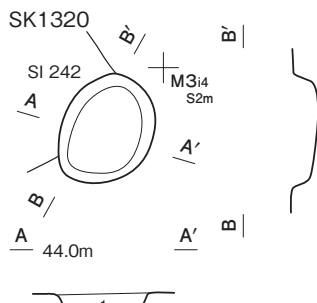
第 1299 号土坑土層解説
 1 7.5YR2/2 黒褐 ローム粒 D / 粘 B, 締 B
 2 7.5YR3/2 黒褐 ローム粒 C / 粘 B, 締 B



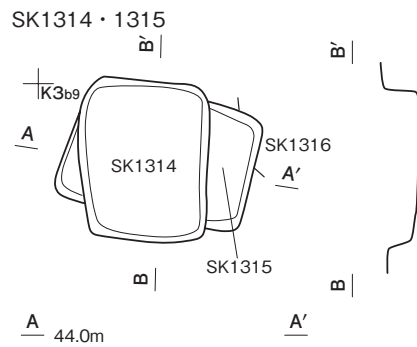
第 1316 · 1317 号土坑土層解説
 1 10YR2/2 黒褐 ローム中 D · 小 C · 粒 D, 炭化粒 C / 粘 B, 締 B
 2 10YR2/3 黒褐 ローム大 C · 中 C · 小 C · 粒 C / 粘 B, 締 B
 3 10YR2/3 黒褐 ローム中 C · 小 C · 粒 C / 粘 B, 締 B



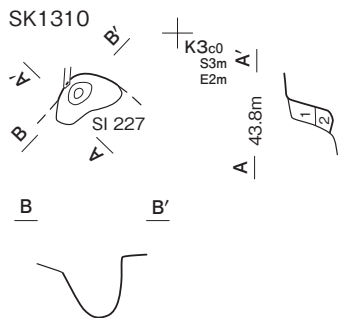
第 1308 号土坑土層解説
 1 10YR2/3 黒褐 ローム大 D · 中 C · 小 C · 粒 C / 粘 B, 締 B
 2 10YR2/1 黒 ローム粒 C / 粘 B, 締 B
 3 10YR3/3 暗褐 ローム小 C · 粒 C / 粘 B, 締 B



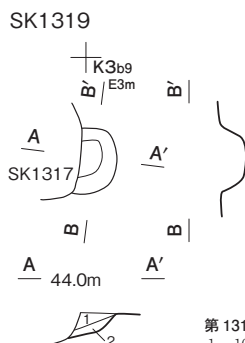
第 1320 号土坑土層解説
 1 10YR2/1 黒 ローム中 D · 粒 C, 粘土小 D / 粘 B, 締 B



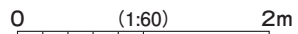
第 1314 · 1315 号土坑土層解説
 1 10YR3/1 黒褐 ローム中 D · 小 C · 粒 C / 粘 B, 締 B
 2 10YR3/2 黒褐 ローム中 C · 小 C · 粒 C / 粘 B, 締 B
 3 10YR4/4 褐 ローム小 C · 粒 B / 粘 B, 締 B
 4 10YR2/2 黒褐 ローム粒 D / 粘 B, 締 B
 5 10YR3/2 黒褐 ローム大 D · 小 C · 粒 C / 粘 B, 締 B



第 1310 号土坑土層解説
 1 10YR2/3 黒褐 ローム小 D · 粒 C, 炭化粒 C / 粘 B, 締 B
 2 10YR3/4 暗褐 ローム中 C · 粒 C, 炭化粒 D / 粘 B, 締 B

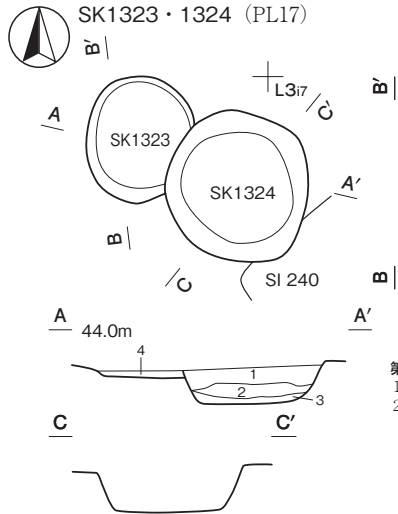


第 1319 号土坑土層解説
 1 10YR3/2 黒褐 ローム小 C · 粒 C / 粘 B, 締 B
 2 10YR4/3 黒褐 ローム小 C · 粒 B / 粘 B, 締 B



第 156 図 その他の土坑実測図 (8)

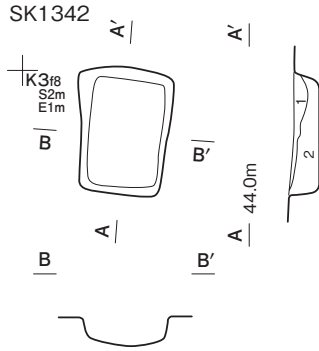
SK1323・1324 (PL17)



第 1323・1324 号土坑土層解説

- 1 10YR2/2 黒褐 ローム小D・粒C/粘B, 縮B
- 2 10YR2/1 黒 ローム小D・粒D/粘B, 縮B
- 3 10YR3/3 暗褐 ローム大D・小C・粒C/粘B, 縮B
- 4 10YR2/3 黒褐 ローム中C・小C・粒C/粘B, 縮B

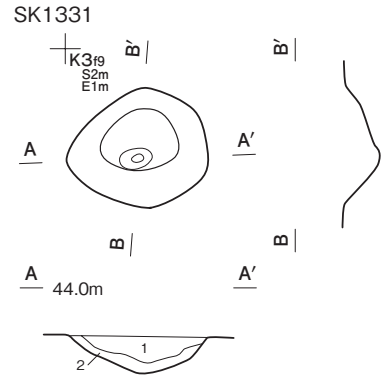
SK1342



第 1342 号土坑土層解説

- 1 10YR2/1 黒 ローム中B・小B/粘B, 縮B
- 2 10YR3/1 黒褐 ローム大B・中B・小B/粘B, 縮B

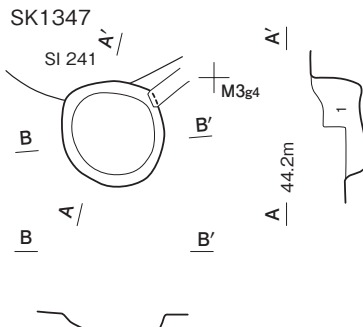
SK1331



第 1331 号土坑土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐 ローム小C・粒B/粘B, 縮B
- 2 10YR3/3 暗褐 ローム小B・粒A/粘B, 縮B

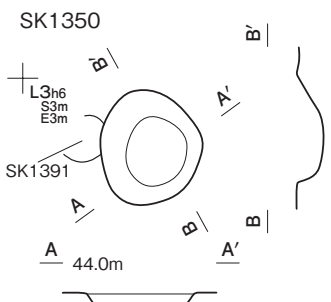
SK1347



第 1347 号土坑土層解説

- 1 10YR2/1 黒 ローム粒B/粘C, 縮B

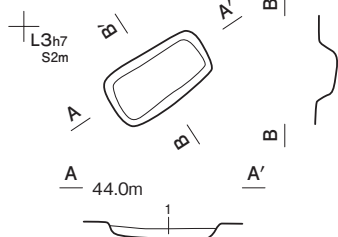
SK1350



第 1350 号土坑土層解説

- 1 10YR2/2 黒褐 ローム中D・小C・粒C/粘B, 縮B

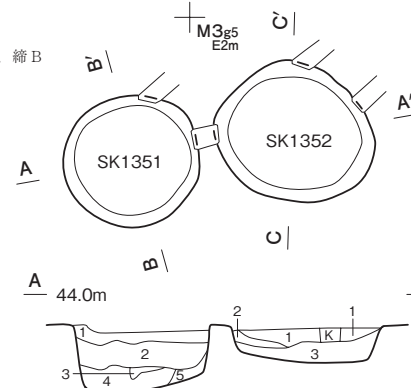
SK1348 (PL17)



第 1348 号土坑土層解説

- 1 10YR2/2 黒褐 ローム中C・小C・粒C/粘B, 縮B

SK1351・1352 (PL17・18)



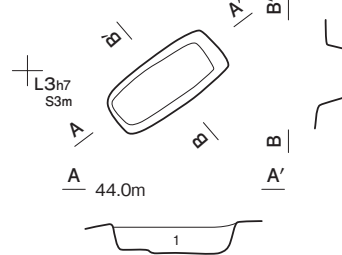
第 1351 号土坑土層解説

- 1 10YR2/2 黒褐 ローム小B・粒C/粘B, 縮B
- 2 10YR3/1 黒褐 ローム小C・粒C/粘B, 縮B
- 3 10YR4/4 褐 ローム小B・粒B/粘A, 縮C
- 4 10YR3/3 暗褐 ローム小C・粒B/粘B, 縮B
- 5 10YR4/4 褐 ローム粒B/粘B, 縮B

第 1352 号土坑土層解説

- 1 10YR2/2 黒褐 ローム小D・粒C/粘B, 縮B
- 2 10YR2/1 黒 ローム大D/粘B, 縮B
- 3 10YR3/1 黒褐 ローム小C・粒C/粘B, 縮B

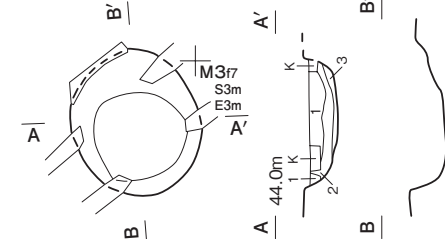
SK1349



第 1349 号土坑土層解説

- 1 10YR2/2 黒褐 ローム大D・小C・粒C/粘B, 縮B

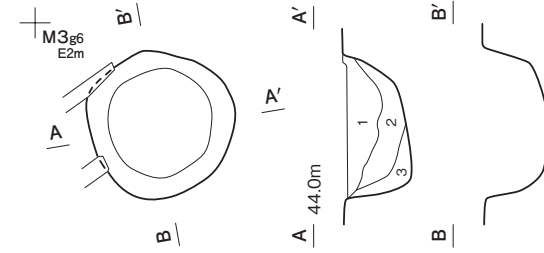
SK1356



第 1356 号土坑土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐 ローム中C・粒B, 焼土粒D, 炭化粒D/粘C, 縮B
- 2 10YR3/1 黒褐 ローム中B/粘C, 縮B
- 3 10YR3/3 暗褐 ローム小B・粒A/粘C, 縮B

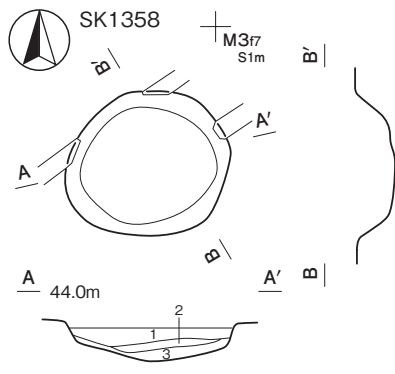
SK1353



第 1353 号土坑土層解説

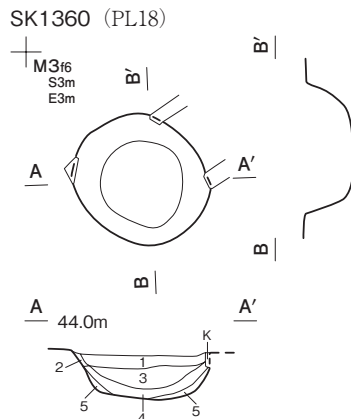
- 1 10YR3/1 黒褐 ローム小D・粒C/粘B, 縮B
- 2 10YR2/1 黒 ローム大D・粒D/粘B, 縮B
- 3 10YR3/3 暗褐 ローム大D・中D・小C・粒C/粘B, 縮B

0 (1:60) 2m



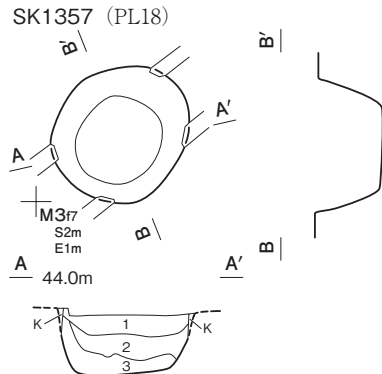
第 1358 号土坑土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐 ローム粒 B / 粘 C, 締 B
- 2 10YR2/1 黒 ローム小 C / 粘 C, 締 B
- 3 10YR3/3 暗褐 ローム小 B · 粒 B / 粘 C, 締 B



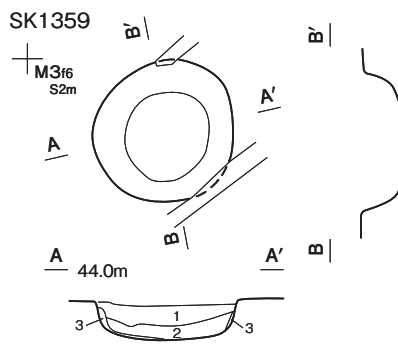
第 1360 号土坑土層解説

- 1 10YR3/1 黒褐 ローム粒 C / 粘 B, 締 B
- 2 10YR2/2 黒褐 ローム粒 B / 粘 B, 締 B
- 3 10YR2/2 黒褐 ローム小 C / 粘 B, 締 B
- 4 10YR3/1 黒褐 ローム中 C · 小 B / 粘 A, 締 C
- 5 10YR3/1 黒褐 ローム中 B / 粘 B, 締 B



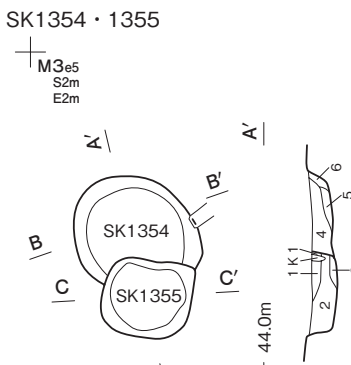
第 1357 号土坑土層解説

- 1 10YR3/1 黒褐 ローム小 C · 粒 B / 粘 C, 締 B
- 2 10YR2/1 黒 ローム粒 C / 粘 C, 締 B
- 3 10YR3/1 黒褐 ローム中 C · 小 B · 粒 B / 粘 C, 締 B



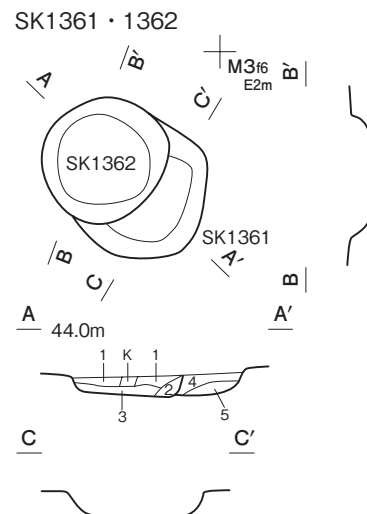
第 1359 号土坑土層解説

- 1 10YR3/1 黒褐 ローム小 C / 粘 C, 締 B
- 2 10YR2/1 黒 ローム小 B / 粘 C, 締 B
- 3 10YR3/1 黒褐 ローム小 B · 粒 A / 粘 C, 締 B



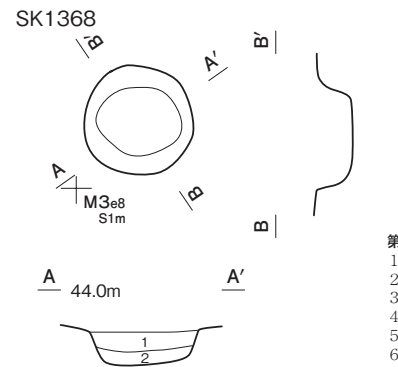
第 1354 · 1355 号土坑土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐 ローム小 C · 粒 C / 粘 B, 締 B
- 2 10YR2/1 黒 ローム中 D · 粒 C / 粘 B, 締 B
- 3 10YR3/3 暗褐 ローム大 D · 小 C · 粒 C / 粘 B, 締 B
- 4 10YR3/1 黒褐 ローム中 D · 小 C · 粒 C / 粘 B, 締 B
- 5 10YR2/1 黒 ローム中 D · 粒 C / 粘 B, 締 B
- 6 10YR4/4 褐 ローム小 C · 粒 B / 粘 B, 締 B



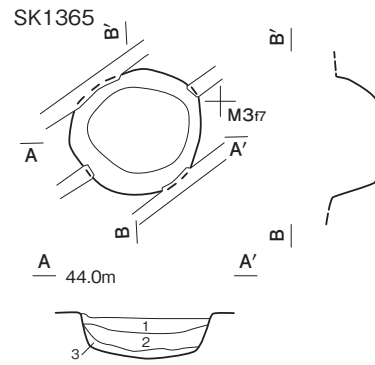
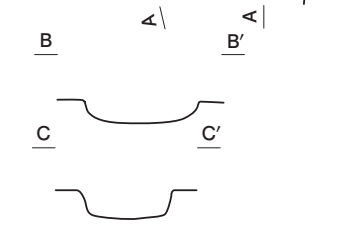
第 1362 · 1361 号土坑土層解説

- 1 10YR3/1 黒褐 ローム大 C · 小 B / 粘 C, 締 B
- 2 10YR3/2 黒褐 ローム粒 C / 粘 C, 締 B
- 3 10YR3/3 暗褐 ローム粒 B / 粘 C, 締 B
- 4 10YR3/1 黒褐 ローム中 B / 粘 C, 締 B
- 5 10YR3/1 黒褐 ローム小 B · 粒 B / 粘 C, 締 B



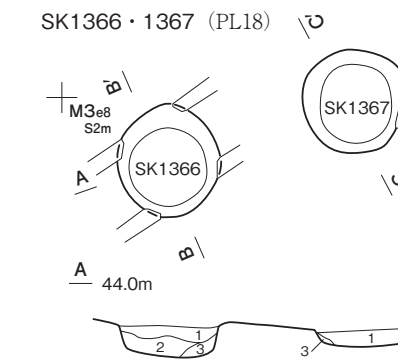
第 1368 号土坑土層解説

- 1 10YR2/1 黒 ローム中 C · 小 C · 粒 C / 粘 B, 締 B
- 2 10YR3/1 黒褐 ローム中 D · 粒 C / 粘 B, 締 B



第 1365 号土坑土層解説

- 1 10YR2/1 黒 ローム小 C · 粒 B, 炭化粒 C / 粘 C, 締 B
- 2 10YR3/1 黒褐 ローム中 C · 小 B / 粘 C, 締 B
- 3 10YR2/1 黒 ローム中 B / 粘 C, 締 B

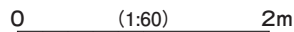


第 1366 号土坑土層解説

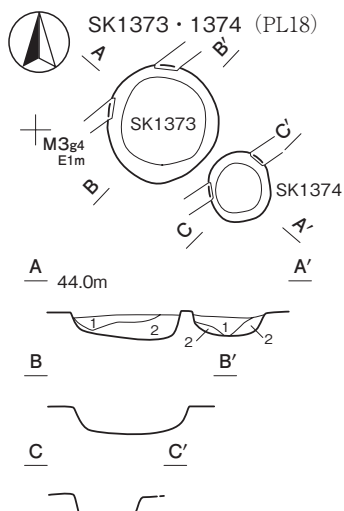
- 1 10YR3/1 黒褐 ローム中 D · 小 D · 粒 C / 粘 B, 締 B
- 2 10YR2/2 黒褐 ローム中 C · 小 C · 粒 C / 粘 B, 締 B
- 3 10YR2/1 黒 ローム粒 C / 粘 B, 締 B

第 1367 号土坑土層解説

- 1 10YR3/1 黒褐 ローム中 D · 小 C · 粒 C / 粘 B, 締 B
- 2 10YR4/4 褐 ローム粒 B / 粘 B, 締 B
- 3 10YR4/3 にいり黄褐 ローム粒 B / 粘 B, 締 B



第 158 図 その他の土坑実測図 (10)

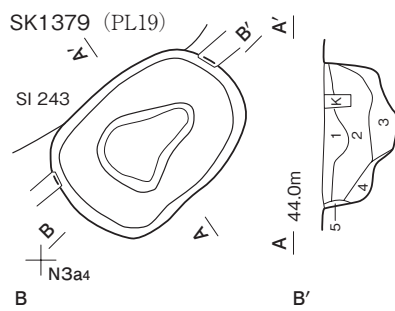


第 1373 号土坑土層解説

- 1 10YR2/1 黒 □-ム粒 C / 粘 C, 締 B
- 2 10YR2/1 黒 □-ム中 B / 粘 C, 締 B

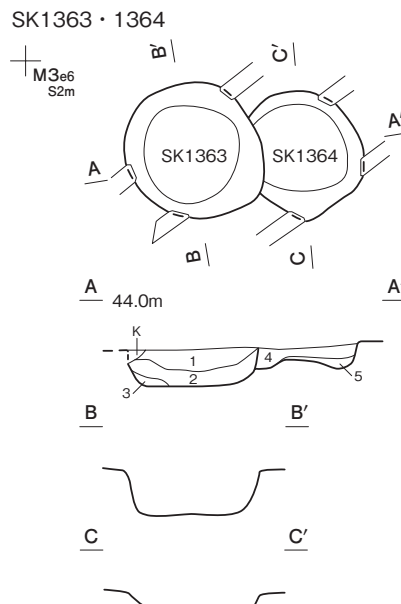
第 1374 号土坑土層解説

- 1 10YR2/1 黒 □-ム粒 D / 粘 C, 締 A
- 2 10YR2/1 黒 □-ム粒 D / 粘 C, 締 B



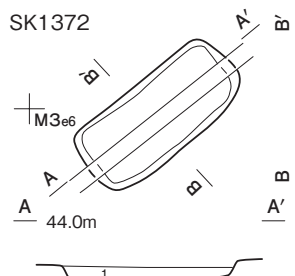
第 1379 号土坑土層解説

- 1 10YR3/1 黒褐 □-ム小 D・粒 C / 粘 B, 締 B
- 2 10YR2/2 黒褐 □-ム中 D・小 C・粒 C / 粘 B, 締 B
- 3 10YR3/1 黒褐 □-ム中 D・小 D・粒 C / 粘 B, 締 B
- 4 10YR2/1 黒 □-ム粒 D / 粘 B, 締 B
- 5 10YR4/4 褐 □-ム小 B・粒 B / 粘 B, 締 B



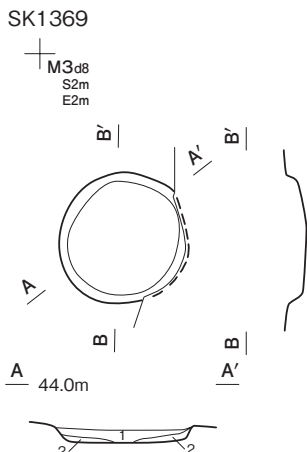
第 1363・1364 号土坑土層解説

- 1 10YR3/1 黒褐 □-ム小 C・粒 B, 焼土小 C / 粘 C, 締 B
- 2 10YR2/1 黒 □-ム中 C・小 B・粒 B, 焼土小 C / 粘 C, 締 B
- 3 10YR2/1 黒 □-ム中 B・小 B・粒 B / 粘 C, 締 B
- 4 10YR3/1 黒褐 □-ム小 B・粒 B, 焼土小 C / 粘 C, 締 B
- 5 10YR3/3 暗褐 □-ム小 B・粒 A / 粘 C, 締 B



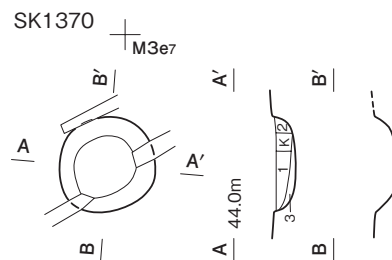
第 1372 号土坑土層解説

- 1 10YR2/3 黒褐 □-ム中 C・小 C / 粘 B, 締 B



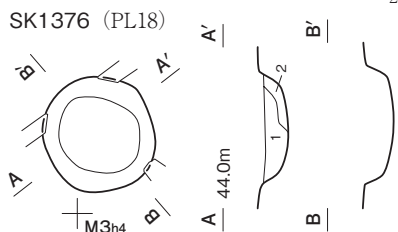
第 1369 号土坑土層解説

- 1 10YR2/2 黒褐 □-ム小 C・粒 C / 粘 B, 締 B
- 2 10YR4/4 褐 □-ム粒 B / 粘 B, 締 B



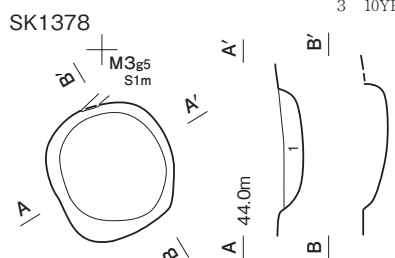
第 1370 号土坑土層解説

- 1 10YR3/1 黒褐 □-ム小 D・粒 D / 粘 B, 締 B
- 2 10YR3/3 暗褐 □-ム大 D・小 C・粒 C / 粘 B, 締 B
- 3 10YR2/3 黒褐 □-ム中 D・小 C・粒 C / 粘 B, 締 B



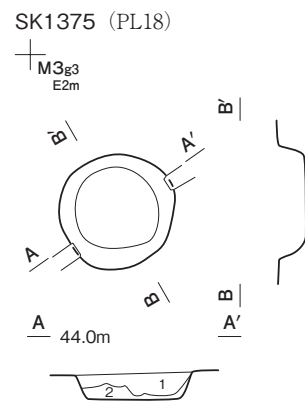
第 1376 号土坑土層解説

- 1 10YR2/1 黒 □-ム粒 D / 粘 C, 締 B
- 2 10YR2/1 黒 □-ム粒 B / 粘 C, 締 B



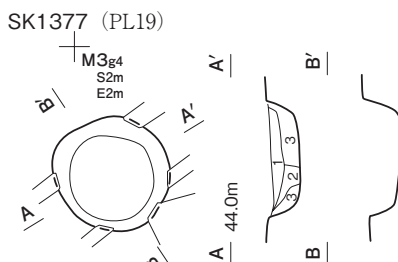
第 1378 号土坑土層解説

- 1 10YR2/1 黒 □-ム粒 C / 粘 B, 締 B



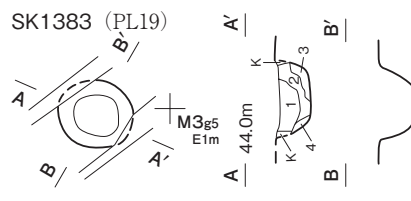
第 1375 号土坑土層解説

- 1 10YR2/1 黒 □-ム粒 C / 粘 C, 締 B
- 2 10YR2/2 黒褐 □-ム粒 A / 粘 C, 締 B



第 1377 号土坑土層解説

- 1 10YR3/1 黒褐 □-ム粒 C / 粘 C, 締 C
- 2 10YR2/1 黒 □-ム粒 B / 粘 C, 締 C
- 3 10YR2/1 黒 □-ム中 C・粒 B / 粘 C, 締 C

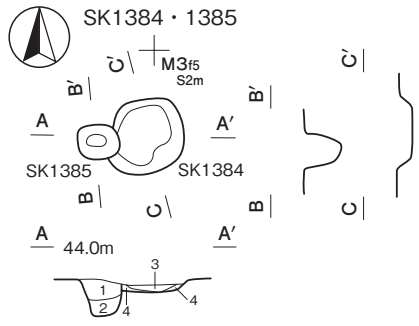


第 1383 号土坑土層解説

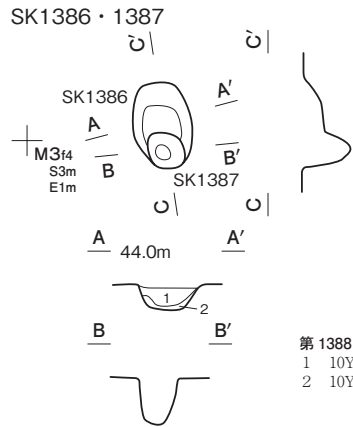
- 1 10YR2/3 黒褐 □-ム中 D・小 D・粒 C / 粘 B, 締 B
- 2 10YR3/1 黒褐 □-ム中 C・小 C・粒 C / 粘 B, 締 B
- 3 10YR3/3 暗褐 □-ム中 C・小 C・粒 B / 粘 B, 締 B
- 4 10YR4/4 褐 □-ム小 B・粒 B / 粘 B, 締 B

第 159 図 その他の土坑実測図 (11)

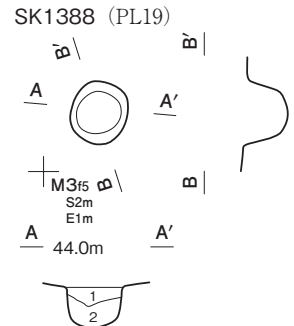
0 (1:60) 2m



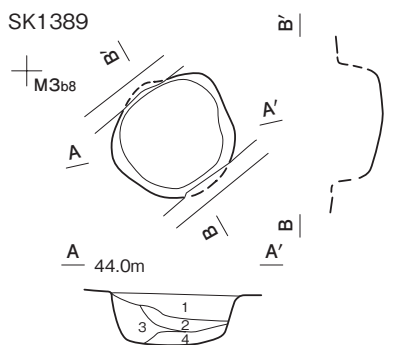
第 1384・1385 号土坑土層解説
 1 10YR2/3 黒褐 ローム中D・小C・粒C/粘B, 締B
 2 10YR4/4 褐 ローム粒B/粘B, 締B
 3 10YR3/2 黒褐 ローム小C・粒C/粘B, 締B
 4 10YR4/3 にぶ黄褐 ローム粒B/粘B, 締B



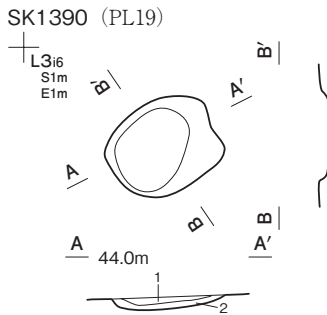
第 1386 号土坑土層解説
 1 10YR2/2 黒褐 ローム小C・粒C/粘B, 締B
 2 10YR4/4 褐 ローム小B・粒B/粘B, 締B



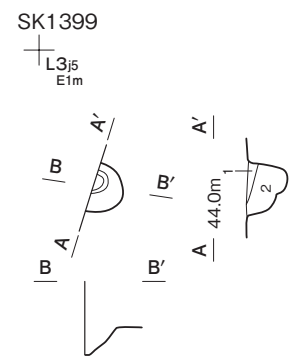
第 1388 号土坑土層解説
 1 10YR2/2 黒褐 ローム中D・小D・粒C/粘B, 締B
 2 10YR3/2 黒褐 ローム中C・小C・粒C/粘B, 締B



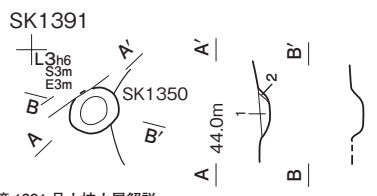
第 1389 号土坑土層解説
 1 10YR2/2 黒褐 ローム中D・小C・粒C/粘B, 締B
 2 10YR3/3 暗褐 ローム中C・小C・粒B/粘B, 締B
 3 10YR3/2 黒褐 ローム大D・小C・粒C/粘B, 締B
 4 10YR2/1 黒 ローム小D・粒D/粘B, 締B



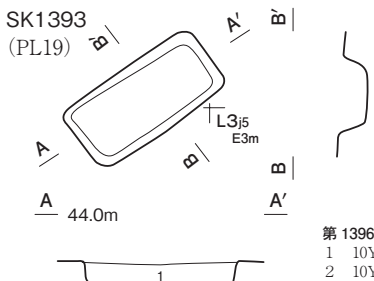
第 1390 号土坑土層解説
 1 10YR2/2 黒褐 ローム小D・粒C/粘B, 締B
 2 10YR4/4 褐 ローム小C・粒B/粘B, 締B



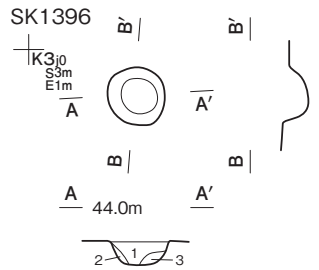
第 1399 号土坑土層解説
 1 10YR2/1 黒 ローム粒C/粘C, 締B
 2 10YR2/1 黒 ローム大D・粒C/粘C, 締C



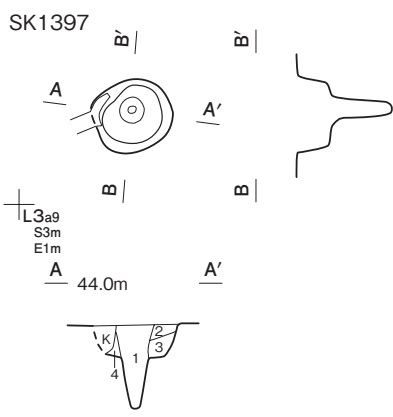
第 1391 号土坑土層解説
 1 10YR2/3 黒褐 ローム中D・小C・粒C/粘B, 締B
 2 10YR4/4 褐 ローム粒B/粘B, 締B



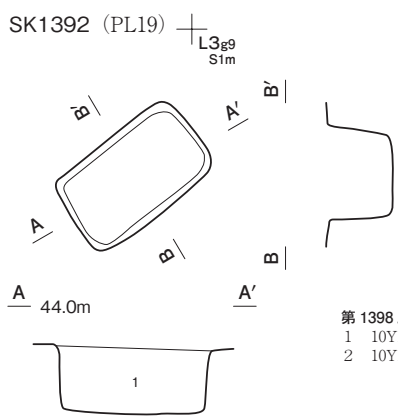
第 1393 号土坑土層解説
 1 10YR2/3 黒褐 ローム中C・小C・粒C/粘B, 締B



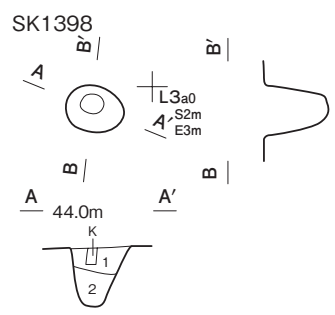
第 1396 号土坑土層解説
 1 10YR3/4 暗褐 ローム中D・小C・粒C/粘B, 締B
 2 10YR4/3 にぶ黄褐 ローム小C・粒B/粘B, 締B
 3 10YR4/4 褐 ローム粒B/粘B, 締B



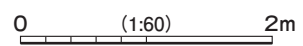
第 1397 号土坑土層解説
 1 10YR3/2 黒褐 ローム中D・小C・粒C/粘B, 締B
 2 10YR3/4 暗褐 ローム中D・粒B/粘B, 締B
 3 10YR4/4 褐 ローム粒B/粘B, 締B
 4 10YR4/3 にぶ黄褐 ローム小C・粒B/粘B, 締B



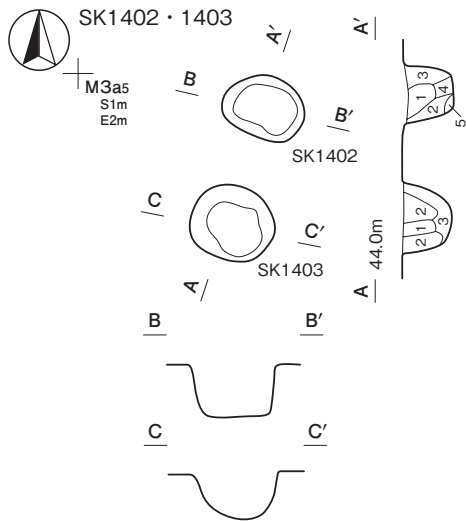
第 1392 号土坑土層解説
 1 10YR3/2 黒褐 ローム中C・小C・粒C/粘B, 締B



第 1398 号土坑土層解説
 1 10YR3/3 暗褐 ローム中C・小C・粒C/粘B, 締B
 2 10YR3/2 黒褐 ローム中D・小C・粒C/粘B, 締B



第 160 図 その他の土坑実測図 (12)

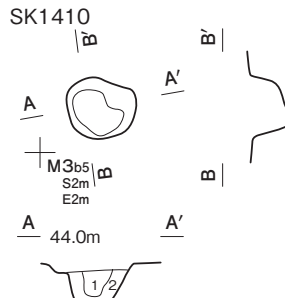


第 1402 号土坑土層解説

- 1 10YR2/1 黒 rome 中 B・粒 B / 粘 C, 締 B
- 2 10YR3/1 黒褐 rome 粒 C / 粘 C, 締 B
- 3 10YR3/1 黒褐 rome 中 B / 粘 C, 締 B
- 4 10YR3/2 黒褐 rome 中 B・粒 B / 粘 C, 締 B
- 5 10YR4/6 褐 rome 粒 B / 粘 B, 締 C

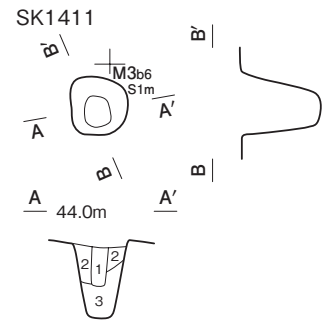
第 1403 号土坑土層解説

- 1 10YR2/2 黒褐 rome 粒 A / 粘 C, 締 A
- 2 10YR2/1 黒 rome 中 C・粒 C / 粘 C, 締 A
- 3 10YR3/4 暗褐 rome 粒 D / 粘 C, 締 A



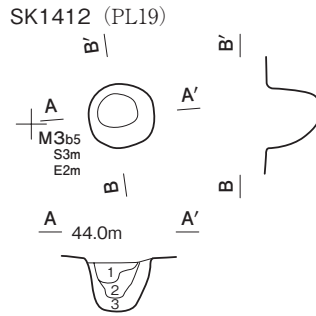
第 1410 号土坑土層解説

- 1 10YR2/2 黒褐 rome 粒 C / 粘 C, 締 B
- 2 10YR3/3 暗褐 rome 大 A / 粘 C, 締 A



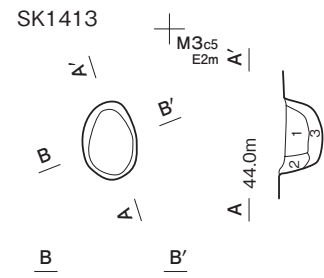
第 1411 号土坑土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐 rome 粒 A / 粘 C, 締 B
- 2 10YR2/3 黒褐 rome 粒 C / 粘 C, 締 B
- 3 10YR2/2 黒褐 rome 粒 A / 粘 C, 締 C



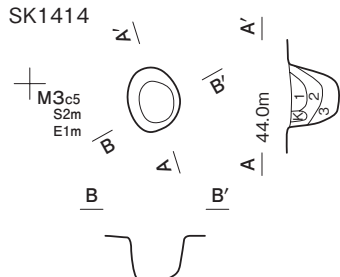
第 1412 号土坑土層解説

- 1 10YR2/2 黒褐 rome 大 D / 粘 C, 締 B
- 2 10YR2/3 黒褐 rome 大 B / 粘 C, 締 A
- 3 10YR3/3 暗褐 rome 大 A / 粘 C, 締 B



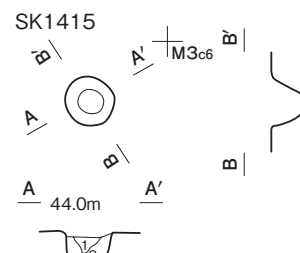
第 1413 号土坑土層解説

- 1 10YR2/3 黒褐 rome 粒 C / 粘 C, 締 C
- 2 10YR3/3 暗褐 rome 中 B・粒 B / 粘 B, 締 B
- 3 10YR3/3 暗褐 rome 粒 D / 粘 B, 締 B



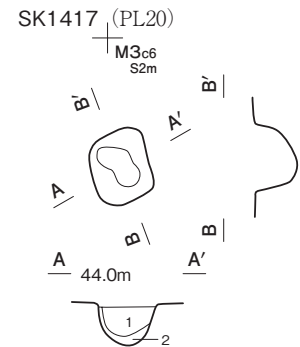
第 1414 号土坑土層解説

- 1 10YR2/3 黒褐 rome 粒 C / 粘 C, 締 B
- 2 10YR3/3 暗褐 rome 粒 B / 粘 B, 締 A
- 3 10YR3/3 暗褐 rome 粒 A / 粘 B, 締 A



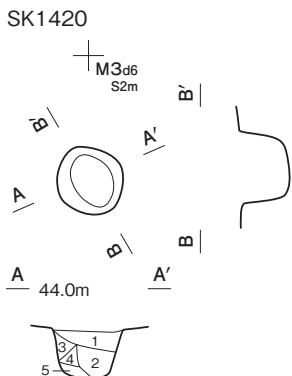
第 1415 号土坑土層解説

- 1 10YR2/2 黒褐 rome 小 D・粒 C / 粘 B, 締 B
- 2 10YR4/3 におい黄褐 rome 小 C・粒 B / 粘 B, 締 B



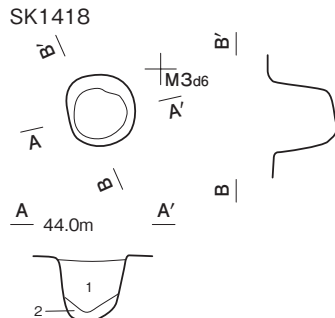
第 1417 号土坑土層解説

- 1 10YR2/3 黒褐 rome 小 C・粒 C / 粘 B, 締 B
- 2 10YR2/3 黒褐 rome 中 D・小 C・粒 B / 粘 B, 締 B



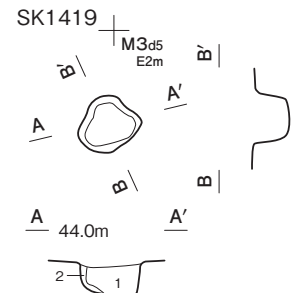
第 1420 号土坑土層解説

- 1 10YR2/3 黒褐 rome 中 D・小 C・粒 C / 粘 B, 締 B
- 2 10YR3/3 暗褐 rome 中 C・小 C・粒 C / 粘 B, 締 B
- 3 10YR2/2 黒褐 rome 中 D・粒 C / 粘 A, 締 C
- 4 10YR3/2 黒褐 rome 中 D・小 D・粒 C / 粘 B, 締 B
- 5 10YR4/3 におい黄褐 rome 粒 B / 粘 B, 締 B



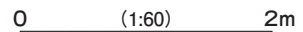
第 1418 号土坑土層解説

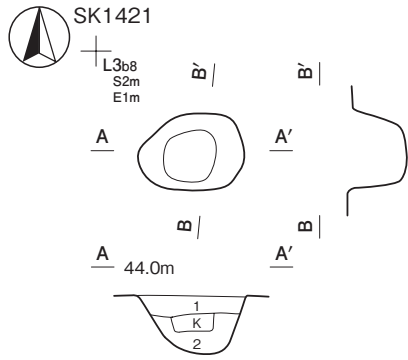
- 1 10YR2/3 黒褐 rome 中 C・小 C・粒 C / 粘 B, 締 B
- 2 10YR2/3 黒褐 rome 粒 B / 粘 B, 締 B



第 1419 号土坑土層解説

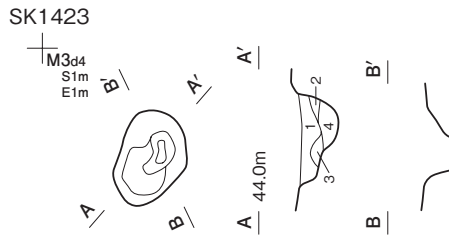
- 1 10YR2/3 黒褐 rome 中 D・小 C・粒 C / 粘 B, 締 B
- 2 10YR4/3 におい黄褐 rome 小 C・粒 B / 粘 B, 締 B





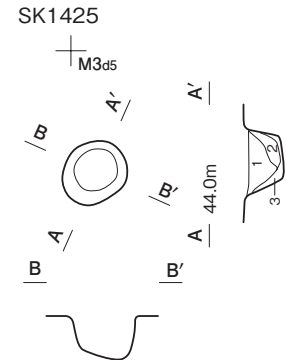
第 1421 号土坑土層解説

- 1 10YR2/2 黒褐 ローム小C・粒C、炭化物D／粘B、締B
- 2 10YR4/4 褐 ローム粒B／粘B、締B



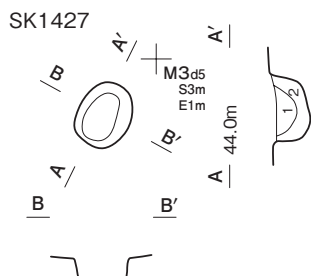
第 1423 号土坑土層解説

- 1 10YR2/2 黒褐 ローム中D・小C・粒C／粘B、締B
- 2 10YR3/3 暗褐 ローム中C／粘B、締B
- 3 10YR3/4 暗褐 ローム粒C／粘B、締B
- 4 10YR4/4 褐 ローム粒B／粘B、締B



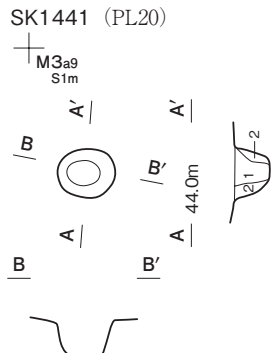
第 1425 号土坑土層解説

- 1 10YR3/1 黒褐 ローム粒C／粘C、締B
- 2 10YR3/2 黒褐 ローム粒B／粘C、締B
- 3 10YR2/3 黒褐 ローム大B／粘C、締B



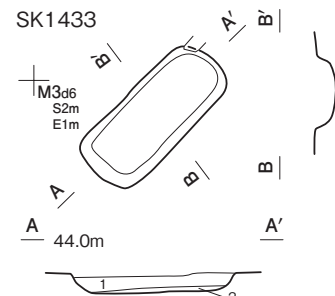
第 1427 号土坑土層解説

- 1 10YR2/2 黒褐 ローム粒C／粘D、締B
- 2 10YR3/2 黒褐 ローム粒B、焼土粒D／粘B、締C



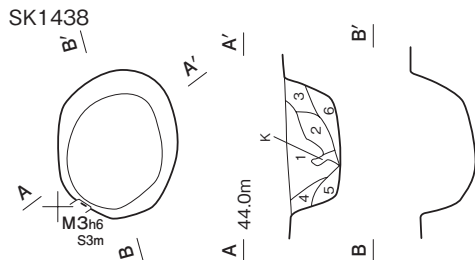
第 1441 号土坑土層解説

- 1 10YR2/1 黒 ローム粒D／粘C、締C
- 2 10YR3/2 黒褐 ローム中B／粘C、締C



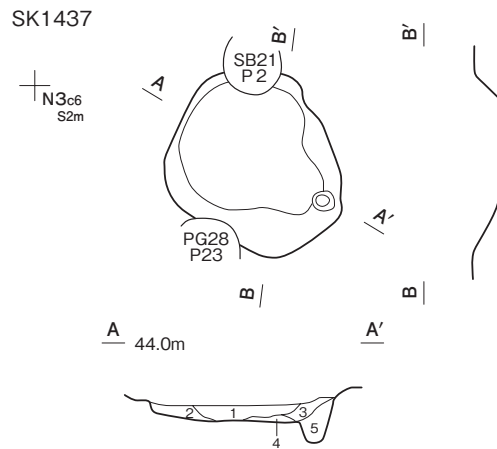
第 1433 号土坑土層解説

- 1 10YR2/1 黒 ローム大B・粒D／粘B、締B
- 2 10YR2/1 黒 ローム小D・粒D／粘B、締B



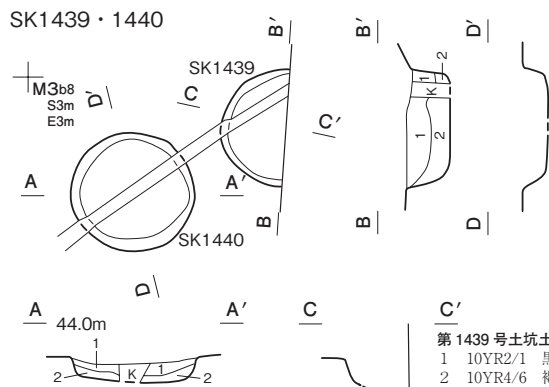
第 1438 号土坑土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐 ローム小B、焼土小D、炭化粒C／粘B、締B
- 2 10YR4/3 にぶ黄褐 ローム粒A／粘B、締B
- 3 10YR4/4 褐 ローム粒B／粘B、締B
- 4 10YR3/3 暗褐 ローム小B／粘B、締B
- 5 10YR4/3 にぶ黄褐 ローム小B・粒B／粘B、締B
- 6 10YR4/4 褐 ローム粒A／粘B、締B



第 1437 号土坑土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐 ローム中A・小B・粒C／粘C、締A
- 2 10YR3/3 暗褐 ローム粒B／粘C、締B
- 3 10YR3/4 暗褐 ローム粒A／粘C、締B
- 4 10YR3/2 黒褐 ローム中A・小B・粒C／粘C、締B
- 5 10YR3/4 暗褐 ローム粒B／粘C、締C

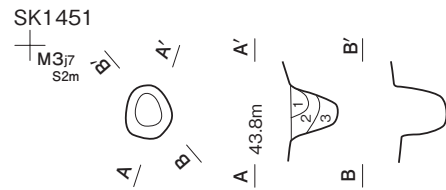


第 1439 号土坑土層解説

- 1 10YR2/1 黒 ローム粒D／粘C、締B
- 2 10YR4/6 褐 ローム粒D／粘C、締A

第 1440 号土坑土層解説

- 1 10YR3/1 黒褐 ローム粒D／粘C、締B
- 2 10YR4/6 褐 ローム粒D／粘B、締B

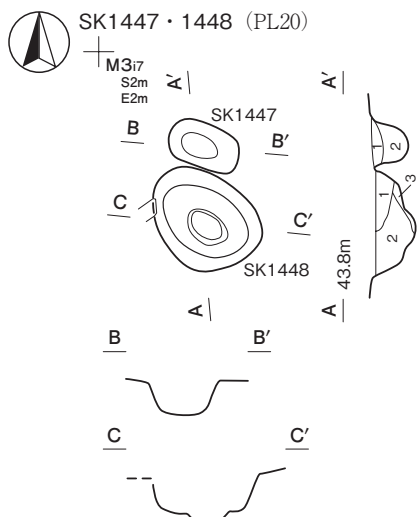


第 1451 号土坑土層解説

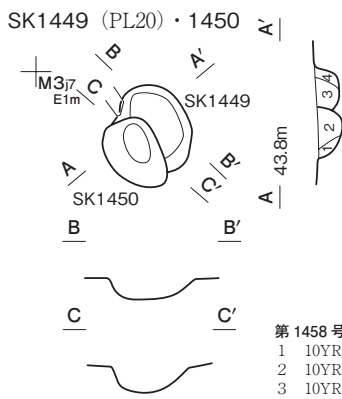
- 1 10YR3/4 暗褐 ローム中A／粘B、締A
- 2 10YR4/3 にぶ黄褐 ローム粒A／粘B、締A
- 3 10YR4/2 灰黄褐 ローム中B・粒A／粘B、締A

0 (1:60) 2m

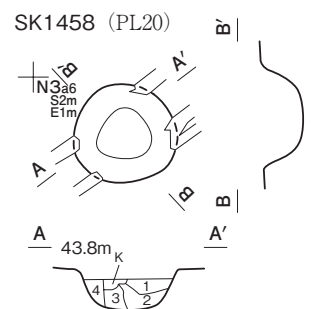
第 162 図 その他の土坑実測図 (14)



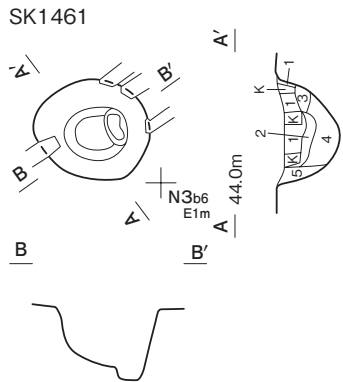
- 第 1447 号土坑土層解説**
- 1 10YR2/1 黒 □-△粒 D / 粘 C, 締 A
 - 2 10YR2/2 黒褐 □-△粒 C / 粘 C, 締 B
- 第 1448 号土坑土層解説**
- 1 10YR2/3 黒褐 □-△粒 C / 粘 C, 締 B
 - 2 10YR4/2 灰黄褐 □-△粒 B / 粘 C, 締 B
 - 3 10YR2/1 黒 □-△粒 D / 粘 C, 締 A



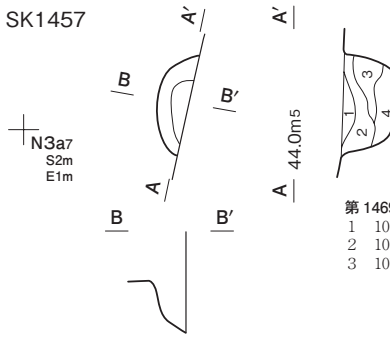
- 第 1449・1450 号土坑土層解説**
- 1 10YR2/2 黒褐 □-△粒 C / 粘 C, 締 A
 - 2 10YR2/2 黒褐 □-△粒 D / 粘 C, 締 A
 - 3 10YR3/3 暗褐 □-△中 A / 粘 C, 締 B
 - 4 10YR3/4 暗褐 □-△粒 A / 粘 C, 締 C



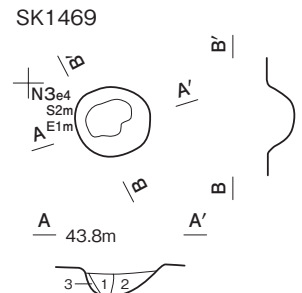
- 第 1458 号土坑土層解説**
- 1 10YR4/4 褐 □-△小 B・粒 A / 粘 C, 締 B
 - 2 10YR3/1 黒褐 □-△小 C・粒 C / 粘 C, 締 C
 - 3 10YR3/2 黒褐 □-△小 C・粒 B, 焼土粒 C / 粘 C, 締 B
 - 4 10YR2/2 黒褐 □-△小 C・粒 C / 粘 B, 締 B



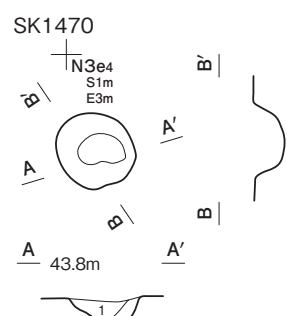
- 第 1461 号土坑土層解説**
- 1 10YR2/1 黒 □-△粒 C / 粘 B, 締 B
 - 2 10YR3/1 黒褐 □-△小 C・粒 C / 粘 B, 締 B
 - 3 10YR3/1 黒褐 □-△小 C・粒 B / 粘 B, 締 B
 - 4 10YR2/2 黒褐 □-△小 B・粒 B / 粘 B, 締 B
 - 5 10YR3/2 黒褐 □-△粒 B / 粘 B, 締 B



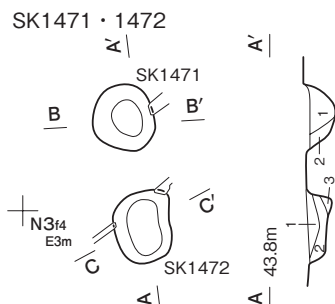
- 第 1457 号土坑土層解説**
- 1 10YR2/2 黒褐 □-△小 C・粒 C / 粘 C, 締 A
 - 2 10YR2/2 黒褐 □-△中 C・粒 C / 粘 C, 締 A
 - 3 10YR2/3 黒褐 □-△大 B・中 B・粒 B / 粘 B, 締 A
 - 4 10YR2/1 黒 □-△大 B・中 B・粒 C / 粘 C, 締 A



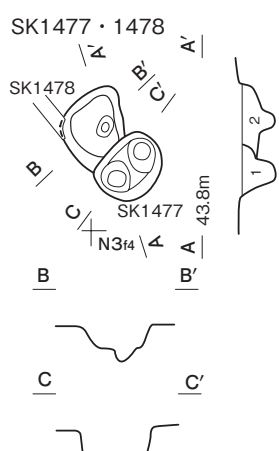
- 第 1469 号土坑土層解説**
- 1 10YR2/3 黒褐 □-△粒 C, 焼土粒 D / 粘 C, 締 B
 - 2 10YR3/3 暗褐 □-△粒 B / 粘 C, 締 A
 - 3 10YR2/3 黒褐 □-△粒 C / 粘 C, 締 C



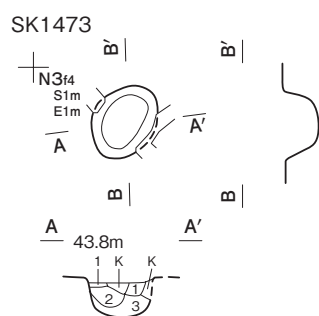
- 第 1470 号土坑土層解説**
- 1 10YR4/3 灰黄褐 □-△中 B, 焼土粒 D / 粘 A, 締 C
 - 2 10YR4/4 褐 □-△大 A / 粘 A, 締 A



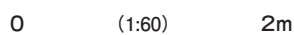
- 第 1471 号土坑土層解説**
- 1 10YR2/2 黒褐 □-△粒 C / 粘 C, 締 B
 - 2 10YR2/3 黒褐 □-△粒 B / 粘 C, 締 B
- 第 1472 号土坑土層解説**
- 1 10YR2/2 黒褐 □-△中 B / 粘 C, 締 A
 - 2 10YR2/2 黒褐 □-△小 C / 粘 B, 締 A
 - 3 10YR3/3 暗褐 □-△中 B・粒 A / 粘 B, 締 A



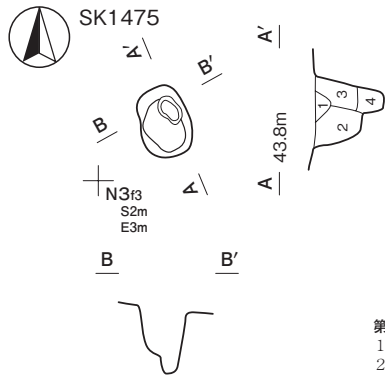
- 第 1477・1478 号土坑土層解説**
- 1 10YR2/3 黒褐 □-△粒 C / 粘 B, 締 B
 - 2 10YR3/2 黒褐 □-△粒 C / 粘 C, 締 B



- 第 1473 号土坑土層解説**
- 1 10YR2/3 黒褐 □-△中 C・粒 C / 粘 C, 締 B
 - 2 10YR3/3 暗褐 □-△中 B・粒 A / 粘 C, 締 B
 - 3 10YR2/3 黒褐 □-△大 A / 粘 B, 締 B

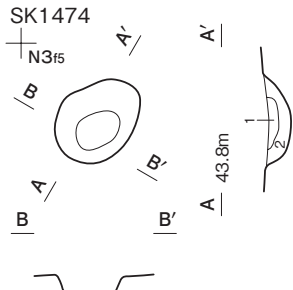


第 163 図 その他の土坑実測図 (15)



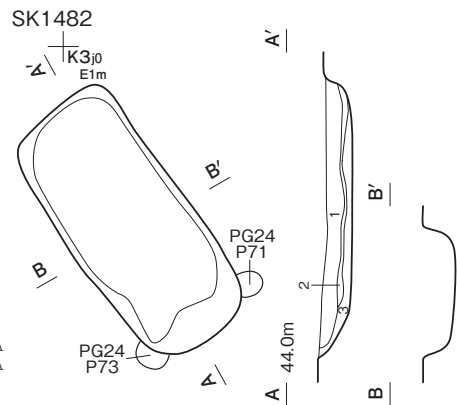
第 1475 号土坑土層解説

- 1 10YR2/1 黒 □-ム粒B / 粘C, 締C
- 2 10YR2/2 黒褐 □-ム粒C / 粘C, 締C
- 3 10YR3/3 暗褐 □-ム小B・粒B / 粘B, 締B
- 4 10YR3/4 暗褐 □-ム粒D / 粘A, 締A



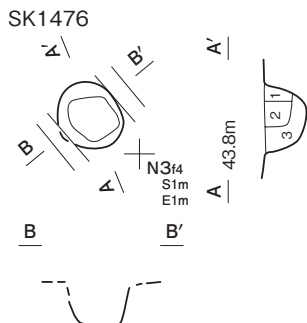
第 1474 号土坑土層解説

- 1 10YR2/3 黒褐 □-ム大B・粒C / 粘C, 締A
- 2 10YR2/2 黒褐 □-ム中C・粒C / 粘C, 締A



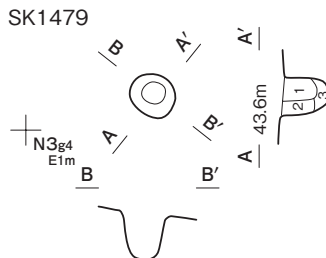
第 1482 号土坑土層解説

- 1 10YR2/2 黒褐 □-ム大D・中C・小C・粒C / 粘B, 締A
- 2 10YR3/3 暗褐 □-ム中C・小C・粒C / 粘B, 締B
- 3 10YR4/3 暗褐 □-ム小C・粒B / 粘B, 締B



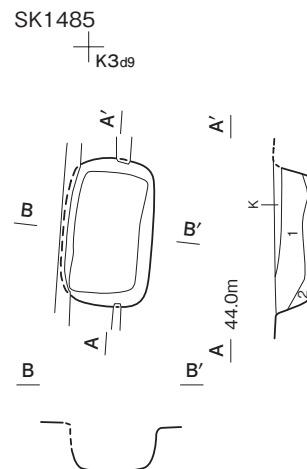
第 1476 号土坑土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐 □-ム粒C / 粘C, 締B
- 2 10YR4/4 褐 □-ム大A・中A・小A / 粘B, 締A
- 3 10YR3/4 暗褐 □-ム中B・小A・粒A / 粘B, 締B



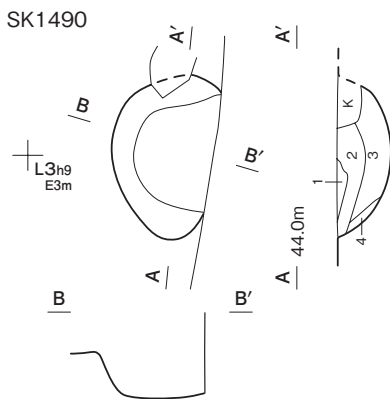
第 1479 号土坑土層解説

- 1 10YR3/1 黒褐 □-ム小C・粒B / 粘C, 締C
- 2 10YR3/2 黒褐 □-ム小B・粒B / 粘C, 締B
- 3 10YR3/1 黒褐 □-ム大B / 粘A, 締A



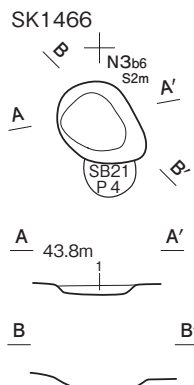
第 1485 号土坑土層解説

- 1 10YR2/3 黒褐 □-ム大B・中A・小A・粒B / 粘B, 締B
- 2 10YR2/2 黒褐 □-ム小B・粒B / 粘B, 締B



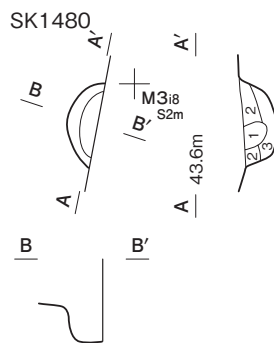
第 1490 号土坑土層解説

- 1 10YR2/2 黒褐 □-ム小C・粒C / 粘B, 締B
- 2 10YR2/3 黒褐 □-ム中C・小C・粒C / 粘B, 締B
- 3 10YR3/1 黒褐 □-ム中D・小D・粒C / 粘B, 締B
- 4 10YR3/4 暗褐 □-ム中D・小C・粒C / 粘B, 締B



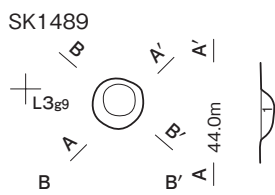
第 1466 号土坑土層解説

- 1 10YR2/1 黒 □-ム粒B / 粘B, 締B



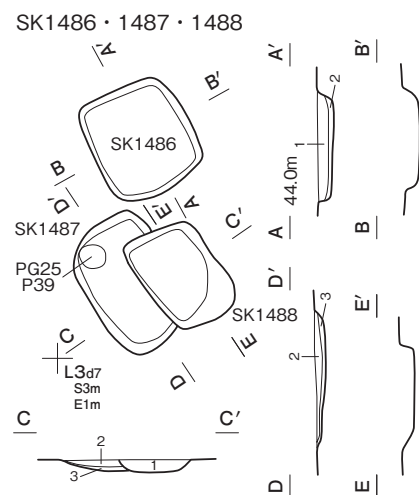
第 1480 号土坑土層解説

- 1 10YR2/1 黒 □-ム粒D / 粘C, 締B
- 2 10YR2/2 黒褐 □-ム中C・粒C / 粘C, 締B
- 3 10YR2/2 黒褐 □-ム小C・粒C / 粘C, 締B



第 1489 号土坑土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐 □-ム中D・小C・粒C / 粘B, 締B



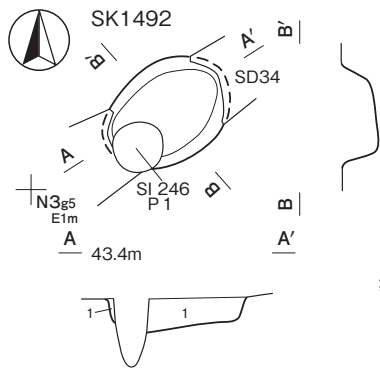
第 1486 号土坑土層解説

- 1 10YR2/3 黒褐 □-ム中C・小C・粒C / 粘B, 締B
- 2 10YR2/1 黒 □-ム粒D / 粘B, 締B

第 1487・1488 号土坑土層解説

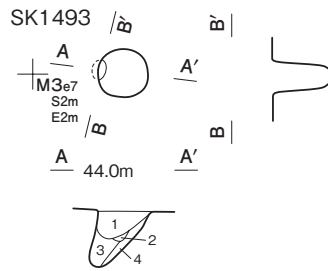
- 1 10YR2/2 黒褐 □-ム小D・粒C / 粘B, 締B
- 2 10YR3/1 黒褐 □-ム小C・粒C / 粘B, 締B
- 3 10YR4/4 褐 □-ム粒B / 粘B, 締B

0 (1:60) 2m



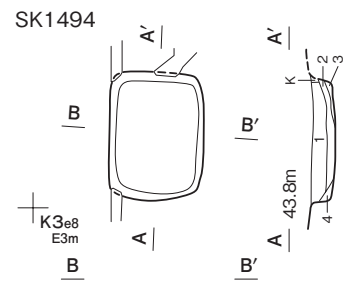
第 1492 号土坑土層解説

- 1 10YR2/3 黒褐 ローム中C・小C・粒C/粘B, 縮C



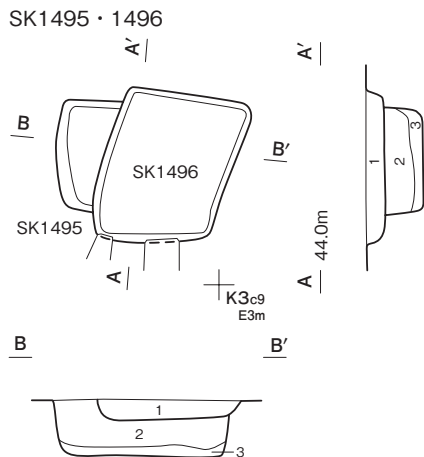
第 1493 号土坑土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐 ローム粒B, 焼土粒D/粘B, 縮B
 2 10YR3/3 暗褐 ローム小B・粒A/粘B, 縮B
 3 10YR3/4 暗褐 ローム粒D/粘B, 縮B
 4 10YR4/4 褐 ローム大A/粘B, 縮A



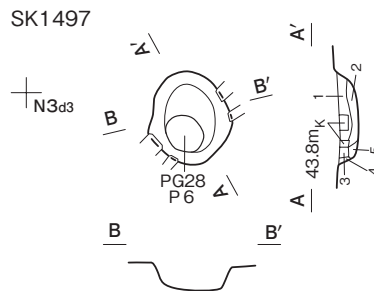
第 1494 号土坑土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐 ローム中C・小C・粒C/粘B, 縮B
 2 10YR2/2 黒褐 ローム小C・粒C/粘B, 縮B
 3 10YR4/4 褐 ローム粒B/粘B, 縮B
 4 10YR4/3 にい黄褐 ローム小C・粒B/粘B, 縮B



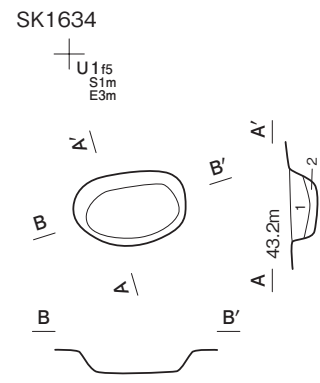
第 1495・1496 号土坑土層解説

- 1 10YR2/2 黒褐 ローム中C・小C・粒C/粘B, 縮B
 2 10YR2/2 黒褐 ローム大D・中D・小C・粒C/粘B, 縮B
 3 10YR2/1 黒 ローム中D・小D・粒C/粘B, 縮B



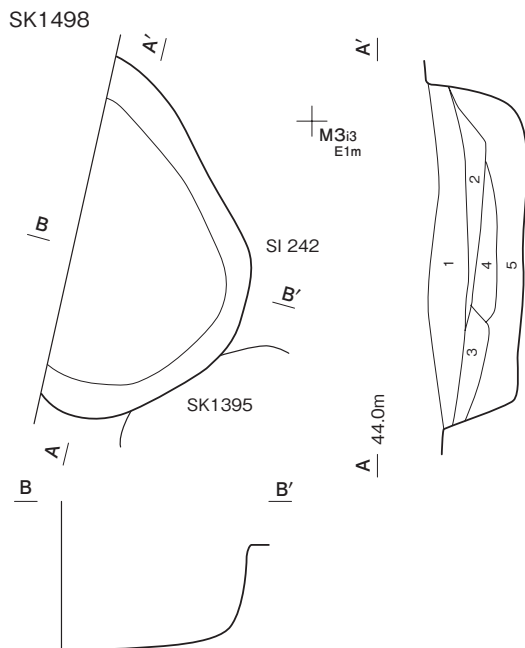
第 1497 号土坑土層解説

- 1 10YR2/2 黒褐 ローム中B/粘C, 縮A
 2 10YR2/1 黒 ローム中B・小C/粘C, 縮A
 3 10YR2/3 黒褐 ローム粒B/粘C, 縮B
 4 10YR3/4 暗褐 ローム粒A/粘B, 縮B
 5 10YR4/4 褐 ローム粒A/粘B, 縮C



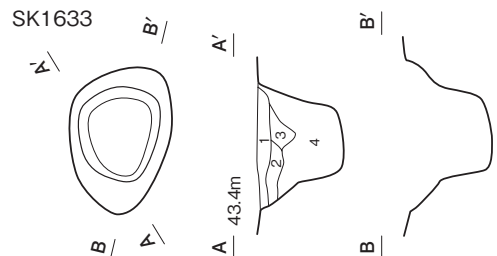
第 1634 号土坑土層解説

- 1 10YR3/1 黒褐 ローム小D/粘B, 縮B
 2 10YR4/3 にい黄褐 ローム小C・粒B/粘B, 縮B



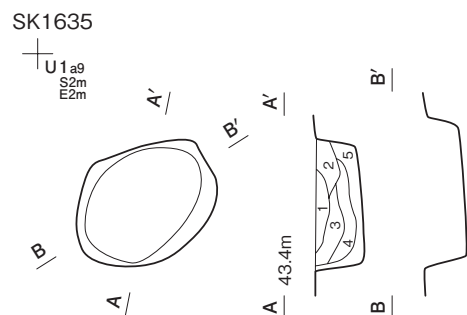
第 1498 号土坑土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐 ローム小C・粒C, 焼土中D・小C・粒C/粘B, 縮C
 2 10YR4/4 褐 ローム中C・小C・粒C/粘B, 縮B
 3 10YR3/3 暗褐 ローム小C・粒C/粘B, 縮B
 4 10YR3/4 暗褐 ローム大D・中D・小C・粒C/粘B, 縮B
 5 10YR2/3 黒褐 ローム中D・小C・粒C, 焼土中C・小D/粘B, 縮B



第 1633 号土坑土層解説

- 1 10YR4/2 灰黄褐 ローム小C・粒C/粘B, 縮B
 2 10YR4/3 にい黄褐 ローム小C・粒C/粘B, 縮B
 3 10YR3/2 黒褐 ローム中B・小C・粒B/粘B, 縮B
 4 10YR5/4 にい黄褐 ローム小C・粒B/粘B, 縮B



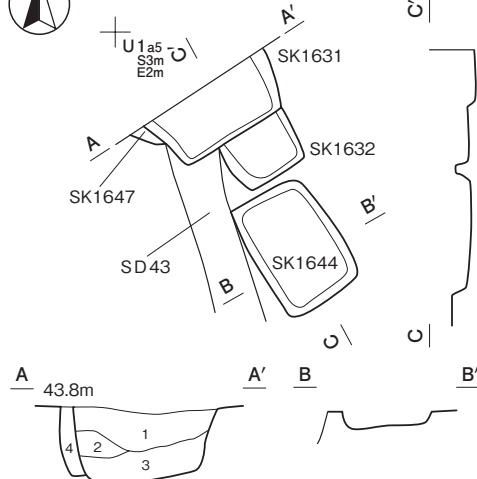
第 1635 号土坑土層解説

- 1 10YR2/3 黒褐 ローム粒C, 焼土粒D/粘B, 縮B
 2 10YR3/3 暗褐 ローム小C, 焼土粒D/粘B, 縮B
 3 10YR4/2 灰黄褐 ローム中D・粒C/粘B, 縮A
 4 10YR4/4 褐 ローム粒A/粘A, 縮A
 5 10YR4/6 褐 ローム粒A/粘A, 縮A

第 165 図 その他の土坑実測図 (17)

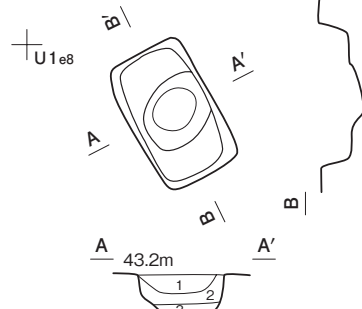
0 (1:60) 2m

SK1631・1632・1644・1647



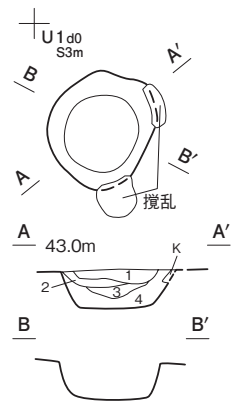
第1631・1647号土坑土層解説
 1 10YR3/3 暗褐 ローム中B・小C/粘B, 締B
 2 10YR4/1 褐灰 ローム中C・小D/粘B, 締B
 3 10YR2/1 黒 ローム中C・粒C/粘B, 締B
 4 10YR4/3 にぶい黄褐 ローム中C・小C・粒D/粘B, 締B

SK1639 (PL20)



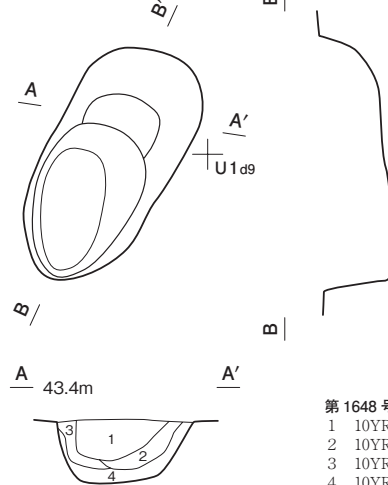
第1639号土坑土層解説
 1 10YR3/1 黒褐 ローム中C・小C/粘B, 締B
 2 10YR4/1 褐灰 ローム小C/粘B, 締B
 3 10YR5/6 黄褐 ローム中B・小C/粘B, 締A

SK1645



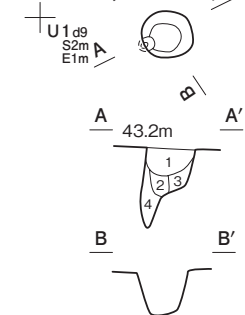
第1645号土坑土層解説
 1 10YR4/1 褐灰 ローム小D・粒D/粘B, 締A
 2 10YR3/1 黒褐 ローム小D・粒C/粘B, 締A
 3 10YR3/3 暗褐 ローム小C・粒C/粘B, 締A
 4 10YR4/3 にぶい黄褐 ローム小C・粒B/粘B, 締A

SK1636 (PL20)



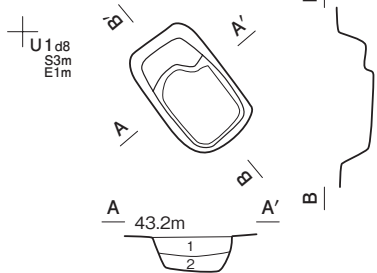
第1636号土坑土層解説
 1 10YR3/2 黒褐 ローム粒D/粘B, 締A
 2 10YR3/3 暗褐 ローム小D/粘B, 締A
 3 10YR4/2 灰黄褐 ローム中C・粒D/粘B, 締A
 4 10YR4/3 にぶい黄褐 ローム中B・小C/粘B, 締A

SK1648



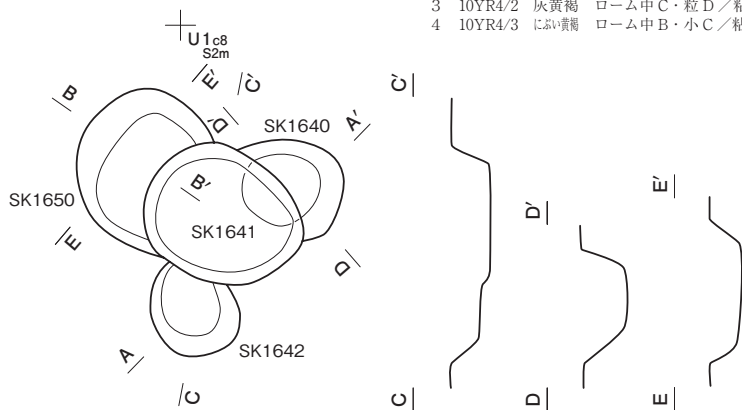
第1648号土坑土層解説
 1 10YR3/1 黒褐 ローム小C/粘B, 締B
 2 10YR3/3 暗褐 ローム小C・焼土小D/粘B, 締B
 3 10YR4/3 にぶい黄褐 ローム大D・中C/粘B, 締B
 4 10YR4/4 褐 ローム中C・小B/粘B, 締B

SK1638 (PL20)



第1638号土坑土層解説
 1 10YR3/2 黒褐 ローム中C・小C/粘B, 締B
 2 10YR5/6 黄褐 ローム大C・小B/粘B, 締A

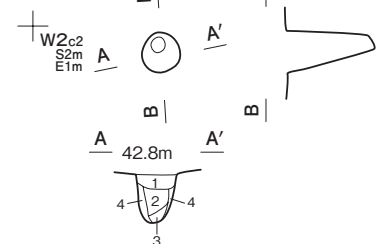
SK1640・1641・1642・1650



第1640～1642号土坑土層解説
 1 10YR3/1 黒褐 ローム中D・小C・粒D・焼土粒D/粘B, 締A
 2 10YR4/1 褐灰 ローム中C・小C・粒D/粘B, 締A
 3 10YR4/1 褐灰 ローム大D・中D・小C/粘B, 締A
 4 10YR3/3 暗褐 ローム中C・小C/粘B, 締A
 5 10YR3/2 黒褐 ローム中C/粘B, 締A
 6 10YR4/4 褐 ローム小B・粒D/粘B, 締B
 7 10YR4/3 にぶい黄褐 ローム大C・中C・小B/粘B, 締B

第1650号土坑土層解説
 1 10YR3/3 暗褐 ローム小C/粘B, 締A
 2 10YR4/3 にぶい黄褐 ローム大D・中C/粘B, 締A
 3 10YR4/4 褐 ローム中C・小C/粘B, 締A

SK1652



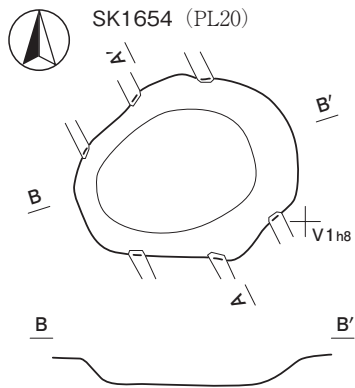
第1652号土坑土層解説
 1 7.5YR4/2 灰褐 ローム中C・粒C/粘C, 締C
 2 7.5YR4/3 褐 ローム小C/粘B, 締C
 3 7.5YR3/4 暗褐 ロームC粒/粘B, 締B
 4 7.5YR4/4 褐 ローム小B・粒B/粘B, 締B

SK1653

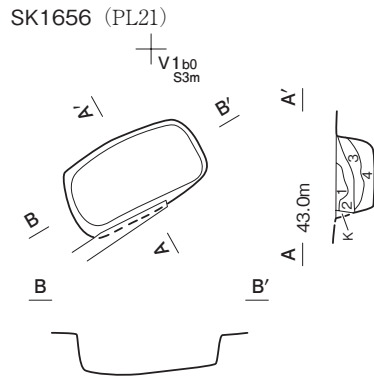


0 (1:60) 2m

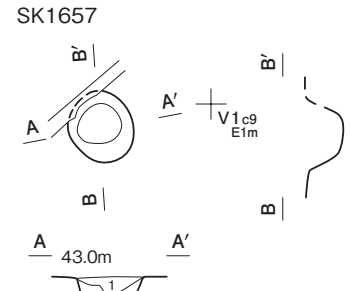
第166図 その他の土坑実測図(18)



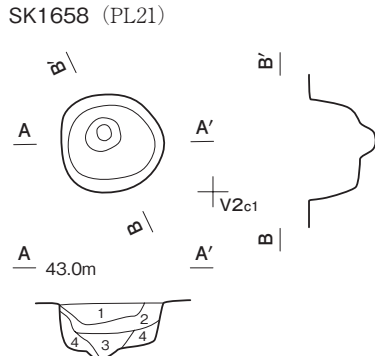
- 第 1654 号土坑土層解説
- | | | | |
|---|---------|-------|-------------------|
| 1 | 10YR4/3 | にぶい黄褐 | ローム粒 B / 粘 B, 縮 A |
| 2 | 10YR6/3 | にぶい黄橙 | ローム粒 B / 粘 B, 縮 A |
| 3 | 10YR5/3 | にぶい黄褐 | ローム粒 A / 粘 B, 縮 A |



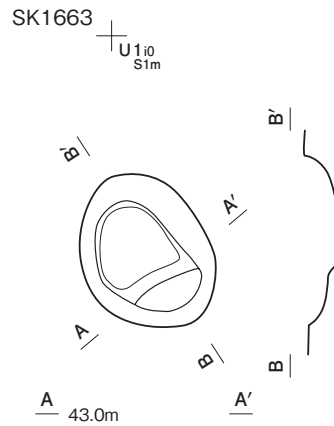
- 第 1656 号土坑土層解説
- | | | | |
|---|----------|----|-------------------------|
| 1 | 7.5YR4/1 | 褐灰 | ローム小 C · 粒 C / 粘 C, 縮 B |
| 2 | 7.5YR3/1 | 黒褐 | ローム粒 C / 粘 C, 縮 B |
| 3 | 7.5YR2/1 | 黒 | ローム小 D / 粘 C, 縮 B |
| 4 | 7.5YR2/2 | 黒褐 | ローム小 D / 粘 B, 縮 B |



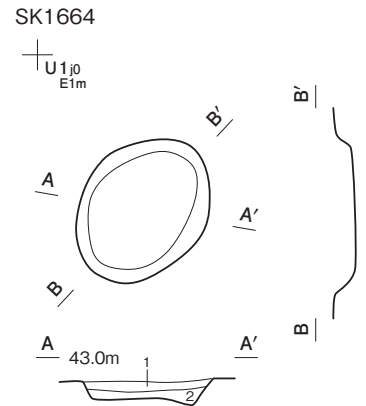
- 第 1657 号土坑土層解説
- | | | | |
|---|----------|----|-------------------|
| 1 | 7.5YR3/1 | 黒褐 | ローム小 C / 粘 C, 縮 B |
| 2 | 7.5YR4/4 | 褐 | ローム粒 C / 粘 C, 縮 B |
| 3 | 7.5YR3/2 | 黒褐 | ローム小 D / 粘 B, 縮 B |



- 第 1658 号土坑土層解説
- | | | | |
|---|---------|-------|-------------------------------|
| 1 | 10YR4/2 | 灰黄褐 | ローム小 C / 粘 B, 縮 B |
| 2 | 10YR4/3 | にぶい黄褐 | ローム小 C / 粘 B, 縮 B |
| 3 | 10YR4/1 | 褐灰 | ローム小 C · 粒 D / 粘 B, 縮 B |
| 4 | 10YR5/3 | にぶい黄褐 | ローム中 D · 小 C · 粒 D / 粘 B, 縮 B |

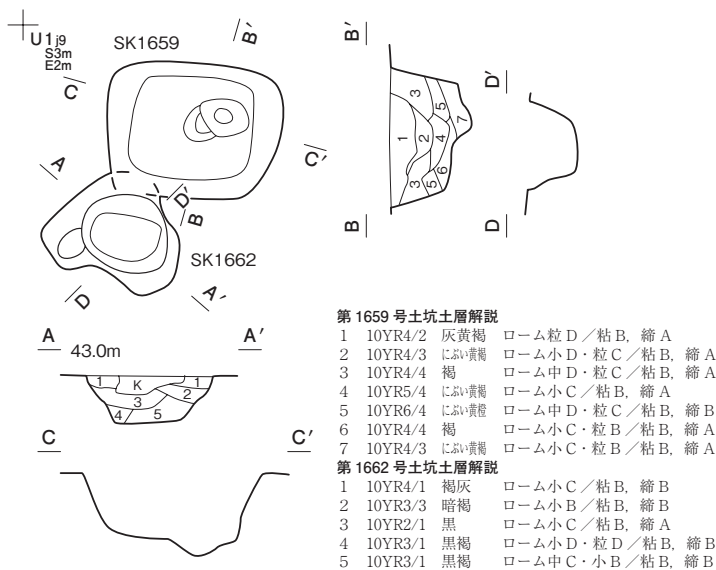


- 第 1663 号土坑土層解説
- | | | | |
|---|---------|-------|-------------------------|
| 1 | 10YR4/2 | 灰黄褐 | ローム小 D · 粒 C / 粘 B, 縮 A |
| 2 | 10YR4/3 | にぶい黄褐 | ローム小 C · 粒 C / 粘 B, 縮 A |
| 3 | 10YR4/4 | 褐 | ローム中 D · 粒 D / 粘 B, 縮 A |

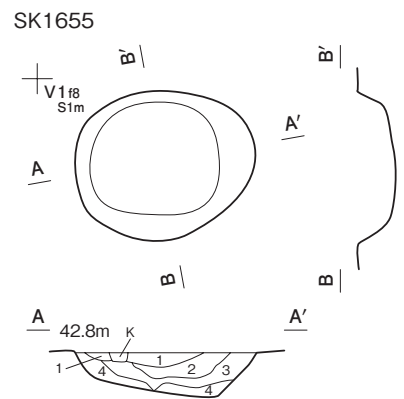


- 第 1664 号土坑土層解説
- | | | | |
|---|---------|-----|-------------------------|
| 1 | 10YR3/1 | 黒褐 | ローム小 C · 粒 D / 粘 B, 縮 A |
| 2 | 10YR4/2 | 灰黄褐 | ローム中 D · 粒 C / 粘 B, 縮 B |

SK1659 · 1662



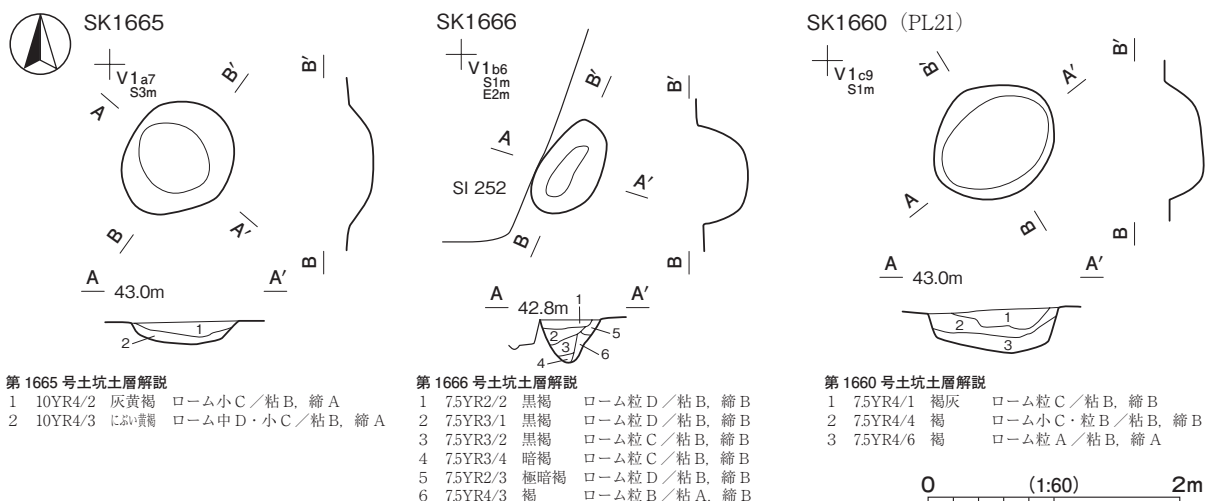
- 第 1659 号土坑土層解説
- | | | | |
|---|---------|-------|-------------------------|
| 1 | 10YR4/2 | 灰黄褐 | ローム粒 D / 粘 B, 縮 A |
| 2 | 10YR4/3 | にぶい黄褐 | ローム小 D · 粒 C / 粘 B, 縮 A |
| 3 | 10YR4/4 | 褐 | ローム中 D · 粒 C / 粘 B, 縮 A |
| 4 | 10YR5/4 | にぶい黄橙 | ローム小 C / 粘 B, 縮 A |
| 5 | 10YR6/4 | にぶい黄橙 | ローム中 D · 粒 C / 粘 B, 縮 B |
| 6 | 10YR4/4 | 褐 | ローム小 C · 粒 B / 粘 B, 縮 A |
| 7 | 10YR4/3 | にぶい黄褐 | ローム小 C · 粒 B / 粘 B, 縮 A |
- 第 1662 号土坑土層解説
- | | | | |
|---|---------|----|-------------------------|
| 1 | 10YR4/1 | 褐灰 | ローム小 C / 粘 B, 縮 B |
| 2 | 10YR3/3 | 暗褐 | ローム小 B / 粘 B, 縮 B |
| 3 | 10YR2/1 | 黒 | ローム小 C / 粘 B, 縮 A |
| 4 | 10YR3/1 | 黒褐 | ローム小 D · 粒 D / 粘 B, 縮 B |
| 5 | 10YR3/1 | 黒褐 | ローム中 C · 小 B / 粘 B, 縮 B |



- 第 1655 号土坑土層解説
- | | | | |
|---|---------|-------|-------------------------------|
| 1 | 10YR3/2 | 黒褐 | ローム小 C · 粒 D / 粘 B, 縮 A |
| 2 | 10YR4/1 | 褐灰 | ローム小 C · 粒 D / 粘 B, 縮 A |
| 3 | 10YR4/2 | 灰黄褐 | ローム中 C · 小 C · 粒 C / 粘 B, 縮 A |
| 4 | 10YR4/3 | にぶい黄褐 | ローム小 B · 粒 C / 粘 B, 縮 A |

第 167 図 その他の土坑実測図 (19)

0 (1:60) 2m



第 168 図 その他の土坑実測図 (20)

第 73 表 その他の土坑一覧

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
26	S 1 f7	N-55°-E	隅丸長方形	1.12 × 0.94	49	ほぼ直立	平坦	自然		
27	T 1 g6	N-9°-E	不整楕円形	1.72 × 0.84	44	外傾	皿状	自然		
28	T 1 e7	N-30°-E	楕円形	1.12 × 0.82	23	緩斜	皿状	人為		
29	S 1 c9	-	円形	0.61 × 0.61	16	緩斜	皿状	自然		SD 9 → 本跡
30	S 1 j6	N-13°-E	楕円形	1.62 × 1.08	31	外傾	皿状	人為		PL16
31	S 1 i6	N-33°-E	楕円形	1.32 × 1.12	26	緩斜	皿状	人為		
32	T 1 g7	N-13°-W	楕円形	1.12 × 0.70	58	ほぼ直立	皿状	人為		
33	S 1 e8	-	円形	0.74 × 0.70	26	外傾	平坦	人為		
34	S 1 d8	-	円形	0.78 × 0.72	20	外傾	平坦	人為		
35	S 1 j7	N-45°-E	楕円形	0.58 × 0.50	20	外傾	皿状	人為		
36	S 1 j7	N-24°-W	楕円形	0.51 × 0.46	22	ほぼ直立	皿状	自然		
37	T 1 a7	N-34°-W	楕円形	0.44 × 0.40	34	外傾	皿状	人為		
38	T 1 a7	N-84°-E	楕円形	0.52 × 0.47	21	外傾	皿状	人為		
39	T 1 b7	N-1°-E	楕円形	1.00 × 0.72	19	外傾	皿状	人為		
41	S 1 f7	N-40°-W	楕円形	1.31 × 0.58	34	外傾	皿状	人為		
42	S 1 i7	-	円形	0.60 × 0.56	22	外傾	皿状	自然		
43	T 1 a8	N-40°-W	楕円形	0.67 × 0.45	28	外傾	平坦	人為		
44	T 1 a6	N-55°-E	楕円形	0.98 × 0.84	18	ほぼ直立	平坦	人為		
45	T 1 d7	-	円形	0.32 × 0.30	32	直立	皿状	自然	須恵器	
46	T 1 d7	N-73°-E	長方形	1.20 × 0.68	28	外傾	平坦	自然		PL16
47	T 1 f7	N-11°-W	楕円形	1.52 × 1.00	86	緩斜	皿状	人為		
724	R 1 d8	N-50°-W	楕円形	0.46 × 0.40	19	外傾 緩斜	皿状	人為		本跡 → SK725
725	R 1 d8	N-35°-W	長方形	1.26 × 0.78	37	直立	平坦	人為		SK724 → 本跡
726	R 1 d8	N-64°-E	楕円形	0.26 × 0.21	30	ほぼ直立	皿状	自然		
727	Q 2 i2	N-38°-W	長方形	1.45 × 0.64	31	外傾	平坦	人為		
728	Q 2 i3	N-30°-W	長方形	1.14 × 0.62	22	外傾	平坦	人為		
729	Q 2 h2	N-30°-W	長方形	1.30 × 0.75	28	外傾	平坦	人為		
730	Q 2 h2	N-32°-W	長方形	0.87 × 0.63	13	外傾	平坦	自然		

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主 な 出 土 遺 物	備 考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
731	Q 2 h3	N - 58° - E	長方形	1.18 × 0.77	17	外傾	平坦	自然		
736	Q 2 h2	N - 51° - E	楕円形	2.50 × 0.94	30	緩斜	平坦	人為		
737	Q 2 h1	N - 40° - W	長方形	1.12 × 0.51	24	外傾	平坦	人為		
738	Q 2 f0	N - 35° - W	長方形	1.70 × 0.80	20	外傾	平坦	人為		
752	Q 1 h9	N - 37° - E	楕円形	[0.90] × 0.74	170	直立	平坦	自然		
755	Q 1 e0	N - 37° - W	長方形	1.62 × 0.92	28	ほぼ直立	平坦	自然		
756	Q 1 f9	N - 36° - W	長方形	1.32 × 0.76	16	外傾	平坦	自然		
757	Q 1 g0	N - 50° - W	楕円形	1.46 × 0.83	32	ほぼ直立	平坦	自然		
758	Q 2 i3	N - 34° - W	[長方形]	1.58 × 0.68	28	ほぼ直立	平坦	自然		本跡→SK61, SD 4
1139	K 4 b3	N - 12° - E	長方形	0.86 × 0.74	30	ほぼ直立	平坦	自然		
1239	O 2 c8	N - 7° - E	楕円形	0.94 × 0.68	36	ほぼ直立	皿状	自然	土師器, 須恵器	PL16
1243	O 3 b4	N - 85° - W	[楕円形]	(1.20) × [1.03]	27	外傾	平坦	自然		SK1244 → 本跡
1244	O 3 b4	-	-	-	19	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	本跡→SK1243
1245	O 3 c4	N - 15° - E	楕円形	1.08 × 0.95	30	ほぼ直立	平坦	自然	土師器, 須恵器	
1246	O 3 b4	-	円形	0.95 × (0.89)	34	ほぼ直立	平坦	自然		本跡→SK1247
1247	O 3 b4	N - 3° - W	楕円形	1.25 × 0.94	16	外傾	平坦	自然	土師器, 須恵器	SK1246 → 本跡
1248	O 3 c4	N - 50° - E	楕円形	0.98 × [0.85]	20	外傾	平坦	人為		PL16
1249	O 3 c4	-	[円形・楕円形]	(0.88) × (0.34)	(24)	緩斜	皿状	自然		
1250	O 3 a3	-	円形	0.43 × (0.43)	30	外傾	皿状	自然		
1251	O 3 d4	-	円形	0.84 × 0.79	35	ほぼ直立	平坦	人為	須恵器	SD35 → 本跡
1255	O 2 c9	N - 22° - E	楕円形	0.98 × 0.85	28	外傾	平坦	人為		本跡→PG15
1261	N 3 j1	N - 12° - E	[楕円形]	(0.68) × (0.36)	22	外傾	平坦	不明		本跡→SI204 SK1242 と重複
1262	K 4 b2	N - 2° - E	長方形	1.08 × 0.68	20	ほぼ直立	平坦	自然		
1263	O 2 h0	N - 55° - E	楕円形	1.22 × 1.07	20	外傾	平坦	自然		
1265	O 3 h1	N - 50° - W	楕円形	[1.34] × 1.18	50	ほぼ直立	平坦	自然	土師器	
1266	O 3 h1	-	円形	0.98 × 0.97	10	外傾	平坦	自然		
1267	O 3 i2	-	円形	1.06 × 0.98	11	外傾	平坦	自然		
1269	O 2 d7	N - 71° - E	[円形・楕円形]	0.65 × (0.48)	45	ほぼ直立	皿状	自然		本跡→SI212
1271	O 3 d1	N - 7° - E	[楕円形]	1.30 × [1.18]	32	ほぼ直立	平坦	自然	土師器, 須恵器	PL16
1272	O 2 i9	N - 18° - E	楕円形	0.58 × 0.44	24	ほぼ直立	平坦	人為	土師器, 須恵器	SI222 → 本跡
1273	O 2 j9	N - 18° - E	楕円形	0.42 × 0.38	32	外傾	皿状	人為	土師器	SI222 → 本跡
1274	O 2 c8	N - 42° - W	[楕円形]	[0.90] × 0.60	45	外傾	皿状	自然	須恵器	
1275	O 2 c8	N - 84° - E	楕円形	1.00 × 0.60	59	外傾	凹凸	自然		
1276	N 2 j0	N - 6° - E	楕円形	1.00 × 0.88	18	外傾	平坦	自然	土師器, 須恵器	本跡→SD34 PL17
1278	N 2 j0	N - 85° - E	隅丸方形	[0.94] × [0.88]	28	外傾	平坦	自然	土師器, 須恵器	
1279	N 3 j1	N - 55° - E	[隅丸方形]	1.02 × [1.00]	20	外傾	平坦	自然	土師器	
1280	P 2 a9	N - 57° - W	楕円形	1.48 × (0.92)	18	平坦	凹凸	自然	土師器, 須恵器	本跡→SK1281
1281	P 2 a9	N - 24° - W	楕円形	1.07 × [0.94]	20	外傾	凹凸	自然		SK1280 → 本跡
1282	O 2 d9	-	円形	(0.70) × [0.72]	28	外傾	皿状	自然		SK1280・1283 → 本跡 PG15 と重複
1283	O 2 d9	-	円形	(0.68) × 0.88	30	外斜	皿状	自然	土師器, 須恵器	本跡→SK1282 PG15 と重複
1284	O 2 e9	N - 58° - W	楕円形	[0.61] × 0.46	44	外傾	皿状	人為	土師器, 須恵器	PL17
1285	O 2 f8	-	円形	0.97 × 0.92	34	外傾	平坦	自然	土師器, 須恵器, 陶器	PL17
1286	O 2 g9	N - 40° - W	楕円形	0.60 × [0.50]	28	外傾	皿状	自然	土師器	
1287	O 2 e0	N - 41° - W	楕円形	0.67 × 0.54	26	外傾	皿状	自然		
1288	O 2 g8	-	円形	1.28 × 1.18	12	緩斜	平坦	人為	須恵器	
1289	O 2 h8	N - 3° - W	楕円形	1.34 × 1.20	12	緩斜	平坦	自然	土師器	PL17

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
1292	P 2 a8	N-51°-E	楕円形	0.45 × [0.36]	18	外傾	皿状	自然		
1293	P 2 b7	-	円形	1.19 × 1.10	16	外傾	平坦	自然		PG18と重複
1294	P 2 b6	-	円形	[1.00] × 0.95	11	外傾	平坦	自然		
1295	P 2 d6	-	円形	1.52 × 1.39	38	外傾	平坦	自然	砥石	PL17
1298	P 2 a6	N-6°-E	楕円形	0.96 × 0.66	25	外傾	平坦	自然		
1299	O 2 e6	N-34°-W	楕円形	0.85 × 0.71	11	外傾	平坦	自然		
1300	O 2 f5	N-71°-E	楕円形	[0.58] × 0.50	20	直立	平坦	自然		
1303	P 2 g6	N-26°-W	楕円形	0.60 × 0.42	36	ほぼ直立	皿状	自然		
1306	O 3 c4	N-30°-W	楕円形	0.52 × 0.32	20	外傾	皿状	自然		
1308	K 4 b2	N-7°-E	長方形	0.93 × 0.66	22	直立	平坦	自然	須恵器	
1310	K 3 c0	N-57°-E	[楕円形]	(0.54) × (0.32)	49	直立	皿状	自然		本跡→SI227
1314	K 3 b9	N-2°-W	長方形	1.26 × 1.02	27	外傾	平坦	人為		SK1315→本跡
1315	K 3 b9	N-75°-W	長方形	1.46 × 0.96	19	外傾	平坦	自然		SK1316→本跡 →SK1314
1316	K 3 b9	N-6°-E	方形	1.06 × 1.00	47	ほぼ直立	平坦	人為		本跡→SK1315・ 1317, PG23
1317	K 3 b9	N-81°-W	長方形	1.06 × 0.84	22	外傾	平坦	人為		SK1316・1319→ 本跡
1319	K 3 b9	-	[円形・楕円形]	0.52 × (0.30)	18	外傾	平坦	自然		本跡→SK1317
1320	M 3 i3	N-29°-E	楕円形	0.94 × 0.71	20	外傾	皿状	自然		SI242→本跡
1323	L 3 i6	N-15°-E	[楕円形]	1.00 × (0.83)	12	緩斜	平坦	自然		本跡→SK1324 PL17
1324	L 3 i6	-	円形	1.26 × 1.16	32	外傾	平坦	人為	土師器	SI240, SK1323→ 本跡 PL17
1331	K 3 f9	N-84°-E	楕円形	1.12 × 0.92	30	緩斜	皿状	自然		
1342	K 3 f8	N-3°-E	長方形	1.00 × 0.74	23	直立	平坦	自然		
1347	M 3 g3	-	円形	0.88 × 0.84	38	ほぼ直立	平坦	自然		SI241→本跡
1348	L 3 h7	N-57°-E	長方形	0.86 × 0.47	14	外傾	平坦	自然		PL17
1349	L 3 h7	N-53°-E	長方形	1.00 × 0.46	24	外傾	平坦	自然		
1350	L 3 h6	N-26°-W	楕円形	0.90 × 0.80	20	外傾	皿状	自然	土師器	SK1391と重複
1351	M 3 g5	-	円形	1.08 × 1.04	46	直立	平坦	人為		PL17
1352	M 3 g5	N-65°-W	楕円形	1.25 × 1.11	27	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	PL18
1353	M 3 g6	-	円形	1.18 × 1.16	50	外傾	平坦	不明	土師器, 須恵器	
1354	M 3 e5	N-61°-W	[楕円形]	1.06 × 0.91	17	外傾	平坦	人為	土師器	本跡→SK1355
1355	M 3 e5	N-78°-W	隅丸長方形	0.70 × 0.60	23	外傾	平坦	人為	土師器	SK1354→本跡
1356	M 3 f7	N-3°-W	楕円形	1.15 × 1.00	27	外傾	平坦	人為	土師器	
1357	M 3 f7	N-43°-E	楕円形	1.14 × 1.02	52	外傾 直立	平坦	人為		PL18
1358	M 3 f6	N-70°-E	楕円形	1.30 × 1.18	30	外傾 緩斜	平坦	人為		
1359	M 3 f6	-	円形	1.12 × 1.09	34	外傾	平坦	人為		
1360	M 3 f6	-	円形	1.08 × 0.96	40	外傾	平坦	人為	土師器	PL18
1361	M 3 f1	-	[円形・楕円形]	1.00 × (0.46)	22	外傾	平坦	人為		本跡→SK1362
1362	M 3 f1	-	円形	0.92 × 0.85	18	緩斜	平坦	人為	土師器	SK1361→本跡
1363	M 3 e6	N-53°-W	楕円形	1.17 × 1.05	36	外傾	平坦	自然	土師器	SK1364→本跡
1364	M 3 e6	N-7°-W	[円形]	0.97 × 0.94	20	外傾	平坦	自然		本跡→SK1363
1365	M 3 f6	-	円形	1.01 × 1.00	33	外傾	平坦	自然	土師器, 須恵器	
1366	M 3 e8	-	円形	0.85 × 0.81	26	外傾	平坦	人為		PL18
1367	M 3 e8	-	円形	0.83 × 0.83	17	外傾	平坦	自然	陶器	PL18
1368	M 3 e8	-	円形	0.86 × 0.84	29	外傾	平坦	自然		
1369	M 3 d8	-	[円形・楕円形]	1.08 × [1.00]	15	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
1370	M 3 e6	-	円形	0.76 × 0.76	17	外傾	平坦	人為		
1372	M 3 e6	N-52°-E	長方形	1.38 × 0.61	17	外傾	平坦	自然		

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主 な 出 土 遺 物	備 考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
1373	M 3 g4	-	円形	0.90 × 0.90	22	外傾	平坦	人為		
1374	M 3 g4	-	円形	0.53 × 0.50	22	外傾	平坦	自然		PL18
1375	M 3 g3	-	円形	0.90 × 0.90	23	外傾	平坦	人為	土師器	PL18
1376	M 3 g4	-	円形	0.93 × 0.86	23	外傾	平坦	自然		PL18
1377	M 3 g4	-	円形	0.92 × 0.88	28	外傾	平坦	人為	土師器	PL19
1378	M 3 g5	-	円形	1.04 × 0.99	20	外傾	皿状	自然	土師器	
1379	M 3 j4	N-47°-E	楕円形	1.60 × 1.12	52	ほぼ直立	平坦	人為	土師器, 須恵器	SI243 →本跡 PL19
1383	M 3 g5	N-81°-W	楕円形	0.60 × 0.54	28	外傾	平坦	人為		PL19
1384	M 3 f5	N-35°-E	楕円形	0.68 × 0.60	10	外傾	平坦	自然		本跡→SK1385
1385	M 3 f4	N-86°-W	楕円形	0.34 × 0.27	28	ほぼ直立	皿状	自然		SK1384 →本跡
1386	M 3 f4	N-1°-W	楕円形	0.68 × 0.45	17	外傾	平坦	不明		SK1387 と重複
1387	M 3 f4	N-45°-W	楕円形	0.34 × 0.28	37	ほぼ直立	平坦	自然	土師器	SK1386 と重複
1388	M 3 f5	N-30°-E	楕円形	0.49 × 0.44	33	直立	皿状	自然		PL19
1389	M 3 b8	-	[円形]	1.00 × [0.94]	38	ほぼ直立	皿状	人為	土師器	
1390	L 3 i6	N-51°-E	不整楕円形	0.90 × 0.72	8	外傾	平坦	自然	土師器	PL19
1391	L 3 h6	N-55°-E	楕円形	0.40 × 0.34	10	外傾	平坦	自然		SK1350 と重複
1392	L 3 g8	N-52°-E	長方形	1.20 × 0.72	50	直立	平坦	人為		PL19
1393	L 3 j5	N-57°-W	長方形	1.21 × 0.58	20	直立	平坦	人為		PL19
1396	K 3 i0	-	円形	0.48 × 0.45	20	外傾	皿状	自然		
1397	L 3 a9	N-47°-E	楕円形	0.63 × 0.56	76	ほぼ直立	平坦	人為		
1398	L 3 a0	N-68°-W	楕円形	0.46 × 0.38	49	外傾	皿状	人為		
1399	L 3 j5	N-19°-E	[円形・楕円形]	0.39 × (0.23)	21	ほぼ直立	皿状	自然		
1402	M 3 a5	N-77°-W	楕円形	0.66 × 0.50	41	直立	平坦	人為		
1403	M 3 a5	N-66°-W	楕円形	0.66 × 0.58	40	外傾	皿状	人為		
1410	M 3 b5	N-68°-W	不整楕円形	0.56 × 0.48	29	外傾	皿状	人為		
1411	M 3 b5	N-10°-E	方形	0.46 × 0.46	62	ほぼ直立	皿状	人為	土師器	
1412	M 3 b5	-	円形	0.52 × 0.50	42	外傾	皿状	人為		PL19
1413	M 3 c5	N-1°-E	楕円形	0.62 × 0.42	25	ほぼ直立	皿状	人為		
1414	M 3 c5	N-13°-W	楕円形	0.52 × 0.42	36	ほぼ直立	皿状	自然		
1415	M 3 c5	N-33°-W	楕円形	0.40 × 0.36	26	外傾	皿状	自然		
1417	M 3 c6	N-21°-W	隅丸長方形	0.56 × 0.46	34	外傾	皿状	自然	土師器	PL20
1418	M 3 d5	-	円形	0.58 × 0.58	53	直立	皿状	自然		
1419	M 3 d5	N-67°-E	不定形	0.50 × 0.42	28	直立	平坦	自然		
1420	M 3 d6	N-28°-W	楕円形	0.57 × 0.54	41	ほぼ直立	平坦	人為		
1421	L 3 b8	N-87°-W	楕円形	0.84 × 0.62	48	外傾	皿状	自然	土師器, 須恵器, 砥石	
1423	M 3 d4	N-18°-E	楕円形	0.78 × 0.52	36	外傾	皿状	人為		
1425	M 3 d5	N-52°-E	楕円形	0.54 × 0.47	33	ほぼ直立	平坦	自然		
1427	M 3 d5	N-33°-E	楕円形	0.52 × 0.41	29	ほぼ直立	平坦	自然	土師器	
1433	M 3 d6	N-49°-E	隅丸長方形	1.30 × 0.56	16	外傾	皿状	人為		
1437	N 3 c6	N-34°-E	楕円形	1.51 × 1.29	35	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器, 陶器	本跡→SB21, PG28
1438	M 3 h6	N-8°-E	楕円形	1.18 × 0.96	47	外傾	皿状	人為		
1439	M 3 b9	N-3°-E	[円形・楕円形]	0.93 × (0.50)	31	外傾	皿状	自然		
1440	M 3 b9	-	円形	0.96 × 0.96	21	外傾	平坦	自然	須恵器	
1441	M 3 a9	N-88°-E	楕円形	0.46 × 0.41	31	外傾	皿状	人為		PL20
1447	M 3 i7	N-62°-E	楕円形	0.58 × 0.36	27	外傾	平坦	人為		
1448	M 3 i7	N-45°-W	楕円形	0.93 × 0.70	36	外傾	皿状	人為	土師器, 須恵器, 陶器	PL20

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
1449	M 3 j7	N-33°-W	[楕円形]	0.73 × 0.31	18	外傾	皿状	人為	土師器	本跡→SK1450 PL20
1450	M 3 j7	N-32°-E	楕円形	0.60 × 0.41	21	外傾	皿状	人為	土師器, 須恵器	SK1449 →本跡
1451	M 3 j7	N-5°-E	楕円形	0.42 × 0.38	44	ほぼ直立	平坦	自然		
1457	N 3 a7	N-12°-E	凹形・楕円形	0.80 × (0.24)	42	外傾	平坦	人為		
1458	N 3 a6	-	円形	0.81 × 0.80	34	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	PL20
1461	N 3 a6	N-89°-W	楕円形	0.91 × 0.80	58	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器, 陶器	
1466	N 3 b6	N-52°-W	楕円形	0.78 × 0.59	12	緩斜	平坦	自然	土師器, 須恵器, 陶器	SB21・22 →本跡
1469	N 3 e4	-	円形	0.59 × 0.55	22	外傾	皿状	人為		
1470	N 3 e4	-	円形	0.65 × 0.61	24	外傾	皿状	自然		
1471	N 3 e4	-	円形	0.53 × 0.50	24	外傾	皿状	自然		
1472	N 3 f4	N-39°-W	楕円形	0.56 × 0.44	15	外傾	皿状	人為		
1473	N 3 f4	N-39°-E	[楕円形]	0.62 × [0.48]	28	外傾	皿状	人為		
1474	N 3 f5	N-41°-E	楕円形	0.76 × 0.59	20	外傾	皿状	自然	土師器	
1475	N 3 f3	N-24°-W	楕円形	0.56 × 0.40	50	ほぼ直立	平坦	人為		
1476	N 3 f4	N-20°-W	[楕円形]	0.55 × [0.48]	33	ほぼ直立	平坦	人為		
1477	N 3 e4	N-49°-E	楕円形	0.55 × 0.44	30	外傾	凹凸	自然		SK1478 →本跡
1478	N 3 e4	N-41°-W	[楕円形]	(0.48) × 0.50	30	外傾	平坦	自然		本跡→SK1477
1479	N 3 f4	N-45°-W	楕円形	0.36 × 0.32	38	ほぼ直立	皿状	人為		
1480	M 3 i7	N-11°-E	凹形・楕円形	0.67 × (0.24)	29	外傾	皿状	人為	土師器, 須恵器	
1482	K 3 j0	N-34°-W	隅丸長方形	2.18 × 0.98	23	外傾	平坦	人為		PG24 →本跡
1485	K 3 d9	N-4°-E	長方形	1.19 × [0.68]	37	外傾	平坦	人為		
1486	L 3 d7	N-26°-W	方形	0.89 × 0.82	14	外傾	平坦	人為		
1487	L 3 d7	N-31°-W	長方形	1.07 × 0.69	9	外傾	平坦	人為	土師器	本跡→SK1488 PG25と重複
1488	L 3 d7	N-30°-W	長方形	0.85 × 0.57	12	ほぼ直立	平坦	人為		SK1487 →本跡
1489	L 3 g9	-	円形	0.40 × 0.40	14	外傾	平坦	自然		
1490	L 3 h9	N-7°-E	[楕円形]	1.32 × (0.81)	34	外傾	平坦	人為		
1492	N 3 f5	N-55°-E	楕円形	[1.08] × 0.78	30	ほぼ直立	平坦	自然	土師器	本跡→SI246, SD34
1493	M 3 e7	-	円形	0.39 × 0.39	46	直立	皿状	人為		
1494	M 3 d8	N-2°-E	長方形	1.01 × 0.76	20	ほぼ直立	平坦	人為	土製品	
1495	K 3 b9	N-85°-W	長方形	1.39 × 0.88	44	ほぼ直立	平坦	人為	土師器, 陶器	本跡→SK1496
1496	K 3 b9	N-11°-E	長方形	1.22 × 0.98	16	外傾	平坦	人為		SK1495 →本跡
1497	N 3 d3	N-3°-W	楕円形	0.75 × 0.63	22	外傾	平坦	人為		本跡→PG28
1498	M 3 i2	N-31°-W	[楕円形]	2.80 × (1.96)	52	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	SI242 →本跡 SK1395と重複
1631	U 1 a5	N-57°-E	[方形・長方形]	1.14 × (0.48)	60	直立	平坦	人為	須恵器	SK1647, SD43 →本跡 SK1632と重複
1632	U 1 a5	N-57°-E	[方形・長方形]	0.61 × (0.45)	12	直立	平坦	人為		PG32 →本跡 SK1631と重複
1633	U 1 c8	N-5°-E	楕円形	1.16 × 0.82	66	外傾	皿状	人為		
1634	U 1 f5	N-73°-E	楕円形	0.88 × 0.57	20	外傾	平坦	人為		
1635	U 1 a9	N-58°-E	楕円形	1.20 × 0.96	38	直立	平坦	人為		
1636	U 1 d8	N-27°-E	楕円形	2.02 × 0.98	54	緩斜 外傾	平坦	人為		PL20
1638	U 1 d8	N-40°-W	長方形	1.02 × 0.63	28	ほぼ直立	平坦	人為	土師器, 須恵器, 陶器	PL20
1639	U 1 e8	N-15°-W	長方形	1.12 × 0.70	33	直立	平坦	人為	土師器, 陶器	PL20
1640	U 1 c8	-	凹形・楕円形	0.92 × (0.70)	36	外傾	平坦	自然		本跡→SK1641
1641	U 1 c8	N-65°-W	[楕円形]	1.20 × 1.04	29	外傾	平坦	自然		SK1640・1642・ 1650 →本跡
1642	U 1 d8	N-18°-W	[楕円形]	0.80 × (0.66)	23	外傾	平坦	自然		本跡→SK1641
1644	U 1 b5	N-28°-W	長方形	1.00 × 0.72	17	直立	平坦	不明		PG32 →本跡
1645	U 1 d0	N-25°-E	楕円形	0.94 × 0.82	30	外傾	平坦	人為		

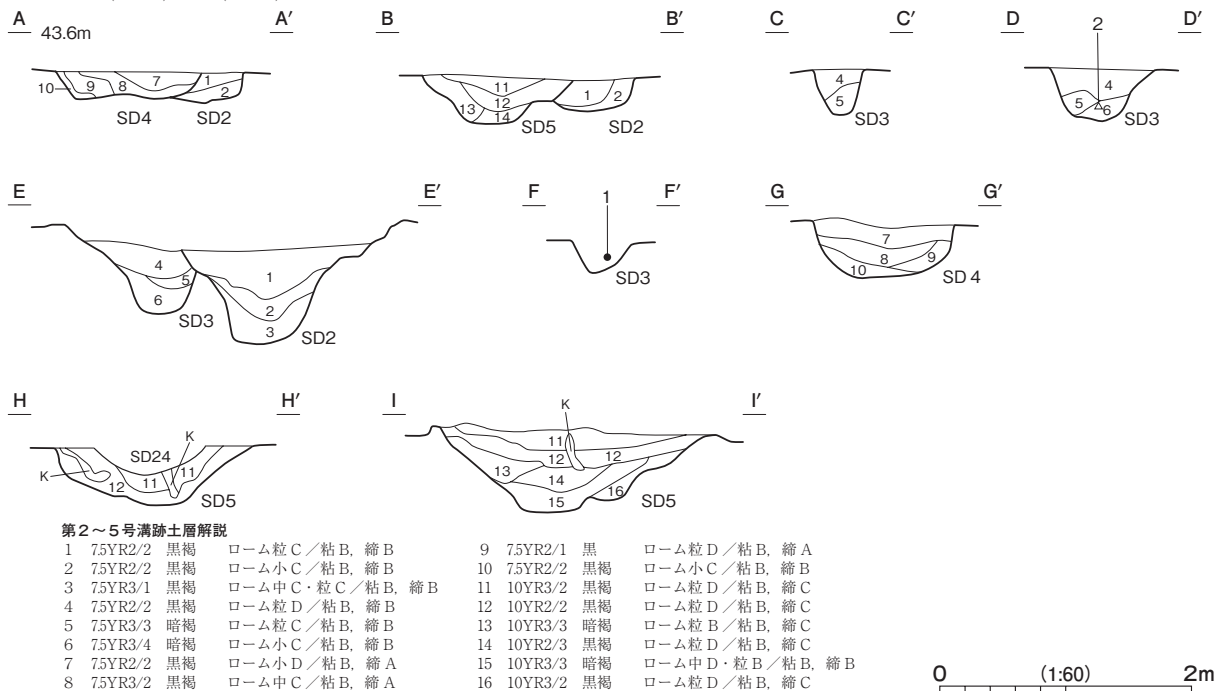
番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
1647	U 1 a5	不明	[凹形・楕円形]	(0.22) × (0.10)	54	直立	-	不明	土師器	PG32 → 本跡 → SK1631, SD43
1648	U 1 d9	-	円形	0.41 × 0.39	38	直立	平坦	人為		
1650	U 1 c7	-	[凹形・楕円形]	1.17 × (0.76)	26	外傾	平坦	人為		本跡 → SK1641
1652	W 2 c2	-	円形	0.32 × 0.30	70	直立	平坦	人為		
1653	W 2 c1	-	円形	0.23 × 0.22	28	外傾	皿状	不明		
1654	V 1 g7	N-68°-E	楕円形	1.78 × 1.53	24	緩斜	平坦	自然		PL20
1655	V 1 f8	N-80°-E	楕円形	1.43 × 1.18	34	外傾	平坦	人為		
1656	V 1 b9	N-62°-E	長方形	1.15 × 0.65	30	直立	平坦	自然		PL21
1657	V 1 c9	N-28°-W	楕円形	0.56 × 0.48	30	ほぼ直立	平坦	自然		
1658	V 1 b0	-	円形	0.80 × 0.77	52	直立	平坦	人為		PL21
1659	U 1 j9	N-86°-W	長方形	1.37 × 1.05	64	外傾	平坦	人為		SK1662 と重複
1660	U 1 c9	N-51°-E	楕円形	1.04 × 0.90	34	ほぼ直立	平坦	自然		PL21
1662	V 1 a9	-	不整形円形	1.01 × 0.98	39	外傾	平坦	人為		SK1659 と重複
1663	U 1 i0	N-33°-W	楕円形	1.34 × 1.02	26	外傾	平坦	人為		
1664	U 1 j0	N-36°-E	楕円形	1.25 × 0.96	17	外傾	平坦	自然		
1665	V 1 a7	N-42°-E	楕円形	0.98 × 0.86	17	緩斜	平坦	自然		
1666	V 1 b6	N-21°-E	楕円形	0.80 × 0.48	34	外傾	平坦	人為		

(3) 溝跡

今回の調査で、溝跡 19 条を確認した。その中で、第 2～5・7～9・12～15 号溝跡は、平成 24・25 年度に調査し、当財団調査報告「第 399 集」において報告している。今回の調査区域に延びているものである。

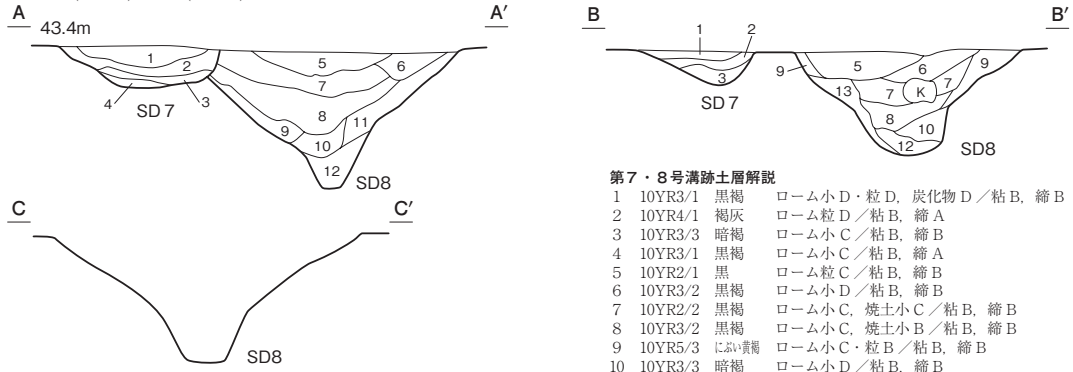
平面図は遺構全体図（付図）に記載し、規模は一覧（第 78 表）で記載した。ここでは土層断面図（第 169・170 図）及び出土遺物実測図（第 171 図）と出土遺物一覧（第 74～77 表）を記載する。

SD2・3 (PL21)・4 (PL21)・5



第 169 図 その他の溝跡実測図 (1)

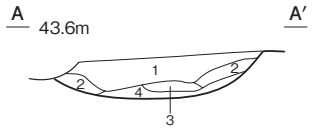
SD 7 (PL21)・8 (PL21)



第7・8号溝跡土層解説

- | | | | |
|----|---------|--------|---------------------|
| 1 | 10YR3/1 | 黒褐 | ローム小D・粒D、炭化物D／粘B、締B |
| 2 | 10YR4/1 | 褐灰 | ローム粒D／粘B、締A |
| 3 | 10YR3/3 | 暗褐 | ローム小C／粘B、締B |
| 4 | 10YR3/1 | 黒褐 | ローム小C／粘B、締A |
| 5 | 10YR2/1 | 黒 | ローム粒C／粘B、締B |
| 6 | 10YR3/2 | 黒褐 | ローム小D／粘B、締B |
| 7 | 10YR2/2 | 黒褐 | ローム小C、焼土小C／粘B、締B |
| 8 | 10YR3/2 | 黒褐 | ローム小C、焼土小B／粘B、締B |
| 9 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色 | ローム小C・粒B／粘B、締B |
| 10 | 10YR3/3 | 暗褐 | ローム小D／粘B、締B |
| 11 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色 | ローム小C・粒D／粘B、締B |
| 12 | 10YR2/3 | 黒褐 | ローム大C・中C・小D／粘B、締B |
| 13 | 10YR3/3 | 暗褐 | ローム小C・粒D、焼土小D／粘B、締B |

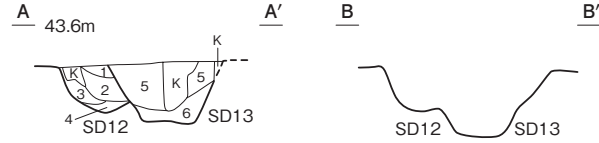
SD 9 (PL21)



第9号溝跡土層解説

- | | | | |
|---|---------|----|-------------|
| 1 | 10YR2/1 | 黒 | ローム粒D／粘B、締A |
| 2 | 10YR2/2 | 黒褐 | ローム小C／粘B、締B |
| 3 | 10YR3/3 | 暗褐 | ローム中B／粘A、締B |
| 4 | 10YR4/4 | 褐 | ローム大B／粘A、締B |

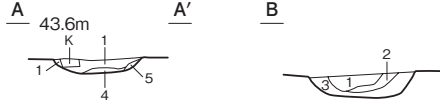
SD12・13



第12・13号溝跡土層解説

- | | | | | | | | |
|---|---------|----|-------------|---|---------|----|----------------|
| 1 | 75YR3/1 | 黒褐 | ローム小C／粘B、締B | 4 | 75YR4/3 | 褐 | ローム小B、粒B／粘B、締A |
| 2 | 75YR3/1 | 黒褐 | ローム粒C／粘B、締B | 5 | 75YR3/1 | 黒褐 | ローム粒D／粘B、締B |
| 3 | 75YR3/2 | 黒褐 | ローム粒B／粘B、締B | 6 | 75YR3/2 | 黒褐 | ローム小D・粒C／粘B、締B |

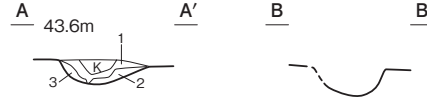
SD14 (PL22)



第14号溝跡土層解説

- | | | | |
|---|---------|----|-------------|
| 1 | 75YR2/1 | 黒 | ローム粒C／粘C、締B |
| 2 | 75YR3/1 | 黒褐 | ローム粒D／粘B、締B |
| 3 | 75YR2/2 | 黒褐 | ローム粒D／粘B、締A |
| 4 | 75YR3/2 | 黒褐 | ローム粒B／粘B、締C |
| 5 | 75YR2/2 | 黒褐 | ローム小D／粘B、締B |

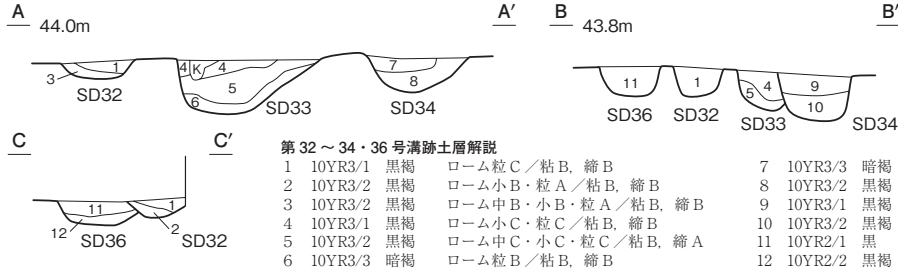
SD15 (PL22)



第15号溝跡土層解説

- | | | | |
|---|---------|----|-------------|
| 1 | 75YR2/1 | 黒 | ローム粒D／粘B、締B |
| 2 | 75YR3/1 | 黒褐 | ローム粒C／粘C、締C |
| 3 | 75YR3/2 | 黒褐 | ローム粒D／粘B、締B |

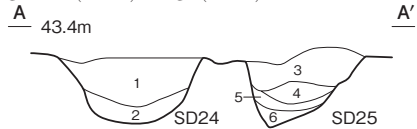
SD32 (PL22)・33 (PL22)・34・36



第32～34・36号溝跡土層解説

- | | | | | | | | |
|---|---------|----|-------------------|----|---------|----|-------------------|
| 1 | 10YR3/1 | 黒褐 | ローム粒C／粘B、締B | 7 | 10YR3/3 | 暗褐 | ローム小C・粒B／粘B、締B |
| 2 | 10YR3/2 | 黒褐 | ローム小B・粒A／粘B、締B | 8 | 10YR3/2 | 黒褐 | ローム中B・小B・粒B／粘B、締B |
| 3 | 10YR3/2 | 黒褐 | ローム中B・小B・粒A／粘B、締B | 9 | 10YR3/1 | 黒褐 | ローム中D・小C／粘B、締B |
| 4 | 10YR3/1 | 黒褐 | ローム小C・粒C／粘B、締B | 10 | 10YR3/2 | 黒褐 | ローム小C・粒C／粘B、締B |
| 5 | 10YR3/2 | 黒褐 | ローム中C・小C・粒C／粘B、締A | 11 | 10YR2/1 | 黒 | ローム中C・小C・粒B／粘B、締B |
| 6 | 10YR3/3 | 暗褐 | ローム粒B／粘B、締B | 12 | 10YR2/2 | 黒褐 | ローム中D・小C・粒C／粘B、締A |

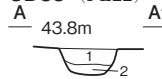
SD24 (PL22)・25 (PL22)



第24・25号溝跡土層解説

- | | | | |
|---|---------|----|------------------|
| 1 | 75YR2/2 | 黒褐 | ローム小C・粒C／粘B、締B |
| 2 | 75YR3/2 | 黒褐 | ローム中C／粘B、締B |
| 3 | 75YR2/1 | 黒 | ローム小D、炭化粒D／粘B、締B |
| 4 | 75YR2/2 | 黒褐 | ローム小C／粘B、締B |
| 5 | 75YR3/2 | 黒褐 | ローム粒C／粘B、締B |
| 6 | 75YR4/3 | 褐 | ローム粒B／粘B、締B |

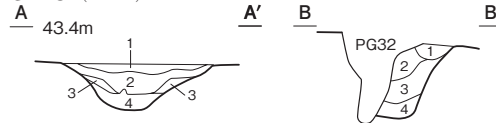
SD35 (PL22)



第35号溝跡土層解説

- | | | | |
|---|---------|----|----------------------|
| 1 | 10YR3/1 | 黒褐 | ローム大D・中C・小C・粒B／粘B、締B |
| 2 | 10YR4/4 | 褐 | ローム粒B／粘B、締B |

SD43 (PL22)

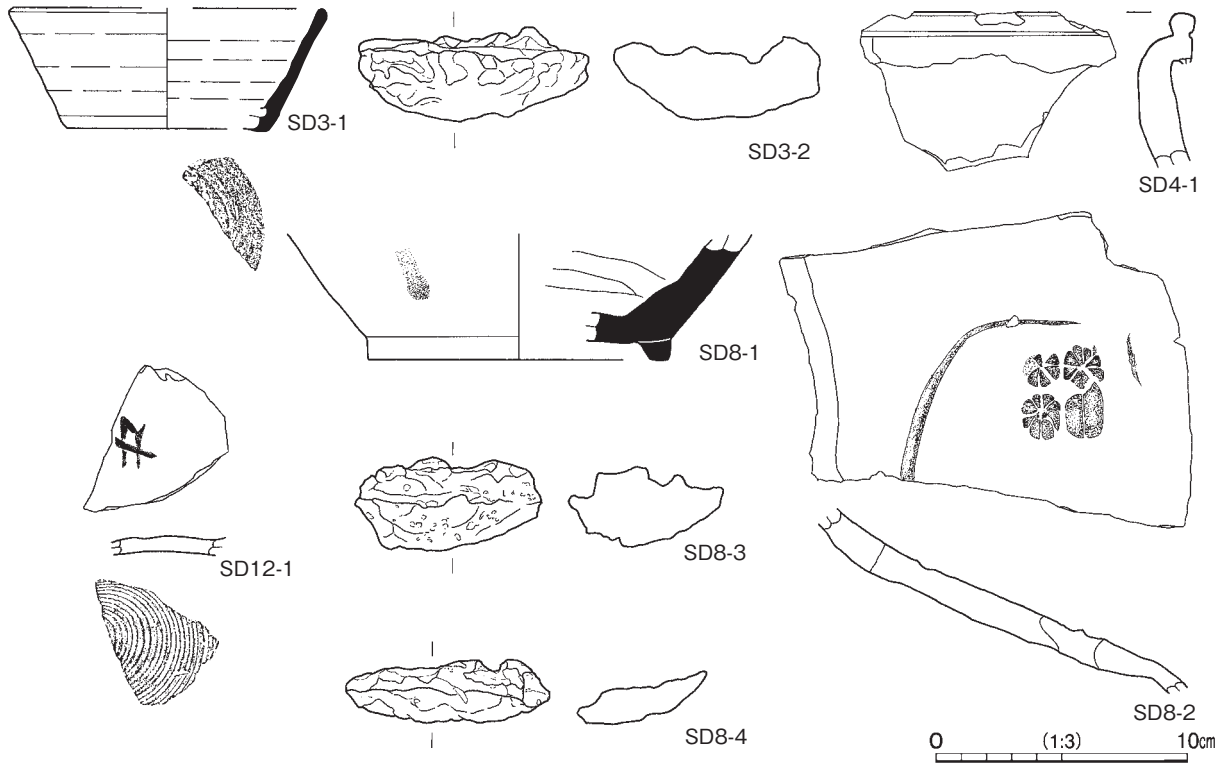


第43号溝跡土層解説

- | | | | |
|---|---------|--------|-------------------|
| 1 | 10YR3/1 | 黒褐 | ローム小D・粒B／粘B、締B |
| 2 | 10YR3/2 | 黒褐 | ローム中D・小C・粒D／粘B、締B |
| 3 | 10YR4/1 | 褐灰 | ローム中C・小B／粘B、締B |
| 4 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | ローム小C・粒B／粘B、締B |

0 (1:60) 2m

第170図 その他の溝跡実測図(2)



第171図 第3・4・8・12号溝跡出土遺物実測図

第74表 第3号溝跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	[12.3]	4.8	[8.0]	長石・石英	灰黄褐	普通	口縁部、体部外・内面口クロナデ 底部回転ヘラ削り	覆土下層	20%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
2	椀形滓	8.2	9.0	3.8	339.94	鉄	一部発泡 全面錆化 着磁性あり			覆土下層	

第75表 第4号溝跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
1	陶器	甕	-	(6.3)	-	長石・石英 暗赤褐	口縁部外・内面ナデ 口縁部と頸部に隙間	自然釉	常滑	覆土中	5%

第76表 第8号溝跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	短頸壺	-	(5.0)	[11.8]	長石・石英	灰黄褐	普通	体部外面口クロナデ 内面ナデ 底部回転ヘラ削り後高台貼付け 釉垂れ	覆土中	5%
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
2	陶器	甕	-	(7.3)	-	長石・石英 にぶい赤褐	体部外・内面ナデ 輪積み痕 押印花文	自然釉	渥美・常滑系	覆土中	5%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
3	椀形滓	6.2	7.4	3.8	180.91	鉄	一部発泡 全面錆化 着磁性なし			覆土中	
4	椀形滓	5.2	8.1	2.5	99.07	鉄	一部発泡 全面錆化 着磁性なし			覆土中	

第77表 第12号溝跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	皿	-	-	-	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	内面口クロナデ 底部回転糸切り	覆土中	10% PL40 墨書「□」

第78表 その他の溝跡一覧

番号	位置	方向	平面形	規 模				断 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長さ(m)	上幅(cm)	下幅(cm)	深さ(cm)					
2	Q1j8~R2d2	N-125°-E	直線状	(22.8)	54~96	12~54	22~104	U字状 逆台形	外傾	自然		SD3→本跡→SD4・5
3	R1a8~R2d2	N-130°-E	直線状	(20.88)	28~92	6~44	12~78	U字状	外傾	人為	須恵器, 椀形滓	本跡→SD2・4・5 PL21
4	R1b7~Q2i3	N-65°-E	直線状	(26.54)	68~126	8~70	18~43	U字状	外傾	人為	土師器, 須恵器, 陶器	SK758, SD2・3 →本跡 PL21
5	R1c7~Q2j3	N-63°-E	直線状	(26.84)	88~136	16~56	40~62	U字状	緩斜	人為	土師器, 須恵器, 砥石	SD2・3→本跡 →SD24
7	V2h2~W1a7	N-125°-W	直線状	(12.32)	46~140	20~56	10~58	U字状	外傾	人為	土師器, 須恵器, 陶器	SD8, SF1→本跡 PL21
8	V2h2~W2f1	N-125°-W N-145°-E	L字状	(39.0)	144~244	20~48	78~110	逆台形	外傾	人為	縄文土器, 土師器, 須恵器, 陶器, 椀形滓	本跡→SD7, SF1 PL21
9	S1c9~S1b8	N-55°-W	[L字状]	(4.5)	118~145	40~65	32~58	逆台形	外傾	人為	土師器, 須恵器	本跡→SK29 PL21
12	P2i2~P2i7	N-88°-E	直線状	(22.08)	60~100	16~60	30~39	U字状	外傾	自然	土師器, 須恵器	本跡→SD13
13	P2j1~P2i7	N-82°-E	直線状	(23.22)	56~100	30~76	40~54	逆台形	外傾	自然	陶器	SD12→本跡
14	P2a4~P2f8	N-139°-E	直線状	(23.00)	40~90	20~56	12~28	U字状	外傾	人為	土師器, 須恵器, 陶器	PL22
15	P2h2~P2h8	N-86°-E	直線状	(22.96)	40~72	14~42	17~28	U字状	外傾	人為		PL22
24	R1b7~R1d9	N-131°-E	直線状	(11.66)	40~92	14~52	16~52	U字状	外傾	自然		SD5→本跡 PL22
25	R1b8~R1d9	N-128°-E	直線状	(8.16)	28~60	10~40	12~53	U字状	外傾	自然		PL22
32	O2a8~N3f6	N-58°-E	直線状	(28.76)	20~74	12~40	6~27	U字状	外傾	自然	土師器, 須恵器, 陶器	SI203・246, SD36→ 本跡 PL22
33	O2a8~N3f6	N-58°-E	直線状	(27.80)	26~110	18~42	7~60	U字状	ほぼ直立	自然	土師器, 須恵器	SI246→本跡→ SD34 PL22
34	O2a8~N3f5	N-58°-E	直線状	(27.06)	38~72	12~40	26~40	逆台形	外傾	自然	土師器, 須恵器	SI246, SK1276, SD33→本跡
35	O3c3~O3d4	N-34°-W	直線状	(3.8)	40~88	20~64	16~22	U字状	外傾	自然		本跡→SK1251 PL22
36	N3f4~N3e6	N-58°-E	直線状	(7.8)	42~63	21~38	7~24	U字状	外傾	自然		SI246→本跡→ SD32
43	U1a5~U1e5	N-160°-E N-106°-W	L字状	(18.2)	33~65	7~34	37~60	逆台形	外傾	自然	土師器, 須恵器	本跡→SK1631・ 1647, PG32 PL22

(4) 道路跡

今回の調査で、道路跡1条を確認したが、平成24・25年度による調査で、当財団調査報告「第399集」において報告している。第1号道路跡は、今回の調査区域に延びているものである。

第1号道路跡 (第172図・付図 PL22)

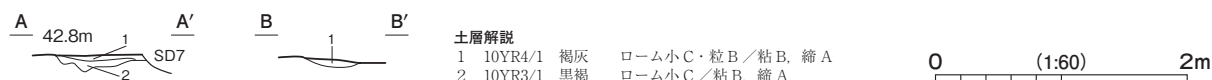
位置 A区南部のV2h2~W1g0区、標高43mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第8号溝跡の後に構築され、第7号溝に掘り込まれている。

規模と形状 W1f0区から北西方向(N-30°-W)へ直線状に、V2h2区から北東方向(N-55°-E)へL字状に延び、前回の調査区域へ延びている。今回確認できた長さは22.94m、幅0.18~0.55m、深さ7cmである。断面は緩やかなU字状である。

覆土 2層に分層できる。路面は第1層上面で、よく踏み固められている。

所見 出土遺物がなく、時期は不明である。



第172図 第1号道路跡実測図

(5) ピット群

22か所を確認した。平面図は遺構全体図（付図）に記載し、規模は一覧で記載した。遺物が出土しているピット群については出土遺物実測図（第173図）と出土遺物一覧（第93表）を付加する。

第79表 第6号ピット群一覧

ピット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)			ピット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)			ピット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	S 1 c8	楕円形	59	46	18	29	T 1 b6	楕円形	46	40	21	57	T 1 e7	楕円形	19	17	39
2	S 1 d7	楕円形	48	40	21	30	T 1 a6	楕円形	35	31	21	58	T 1 d7	円形	28	26	41
3	S 1 c7	[楕円形]	43	(25)	19	31	T 1 b7	楕円形	48	40	14	59	S 1 j8	円形	36	35	23
4	S 1 d8	楕円形	69	54	18	32	T 1 a8	楕円形	64	57	25	60	T 1 a7	楕円形	23	20	20
5	S 1 d8	円形	57	52	24	33	S 1 h7	円形	43	42	14	61	S 1 j7	楕円形	40	35	32
6	S 1 e7	円形	54	50	9	34	S 1 h8	楕円形	48	39	6	62	S 1 d8	楕円形	30	27	29
7	S 1 f8	楕円形	51	43	12	35	S 1 g8	円形	43	42	15	63	T 1 c6	楕円形	36	27	28
8	S 1 f7	円形	31	29	15	36	S 1 g7	円形	51	50	7	64	T 1 d7	円形	28	26	15
9	S 1 e7	楕円形	47	26	20	37	S 1 i7	円形	57	54	16	65	T 1 c6	円形	28	27	27
10	S 1 e7	楕円形	54	40	5	38	T 1 a7	楕円形	48	42	24	66	T 1 d7	楕円形	26	22	29
11	S 1 g6	楕円形	54	46	18	39	S 1 g8	円形	41	40	11	67	T 1 d7	円形	36	33	21
12	S 1 f8	円形	22	21	9	40	S 1 i7	円形	42	39	18	68	T 1 d6	楕円形	65	50	19
13	S 1 h7	楕円形	55	42	9	41	T 1 a7	楕円形	37	31	37	69	T 1 d6	楕円形	52	33	47
14	S 1 h7	楕円形	58	44	21	42	T 1 c8	楕円形	38	34	25	70	T 1 d7	楕円形	26	23	28
15	S 1 i7	円形	34	33	31	43	S 1 h8	楕円形	58	43	16	71	T 1 c7	円形	31	30	24
16	S 1 i6	円形	39	36	15	44	T 1 d7	楕円形	68	54	23	72	T 1 d6	楕円形	38	28	12
17	S 1 i6	円形	45	41	20	45	T 1 d6	楕円形	59	52	20	73	T 1 c7	楕円形	40	36	35
18	S 1 e8	円形	34	34	25	46	T 1 a7	楕円形	37	33	18	74	T 1 c7	楕円形	35	25	35
19	S 1 e8	楕円形	74	61	25	47	T 1 a6	楕円形	55	48	20	75	T 1 c8	円形	34	32	26
20	S 1 h7	楕円形	29	24	25	48	S 1 i7	円形	44	41	16	76	T 1 c7	円形	29	28	23
21	S 1 d8	楕円形	68	61	21	49	S 1 i7	楕円形	60	44	16	77	T 1 c7	楕円形	26	18	22
22	S 1 j7	円形	42	42	17	50	S 1 j7	円形	40	38	16	78	T 1 c7	楕円形	36	22	29
23	T 1 a7	楕円形	62	50	15	51	S 1 i7	円形	57	53	25	79	T 1 c7	楕円形	28	25	32
24	T 1 a7	楕円形	52	41	22	52	S 1 i7	円形	37	36	24	80	T 1 c8	円形	34	34	29
25	T 1 a7	楕円形	53	44	12	53	S 1 j8	楕円形	26	20	18	81	T 1 e6	楕円形	38	32	12
26	T 1 a7	円形	40	37	10	54	T 1 a8	楕円形	48	40	20	82	T 1 e6	円形	28	26	30
27	T 1 c7	楕円形	42	36	52	55	T 1 d6	楕円形	43	36	15						
28	T 1 c7	楕円形	62	50	24	56	T 1 d6	楕円形	36	20	42						

第80表 第11号ピット群一覧

ピット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)			ピット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)			ピット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	R 2 e1	円形	13	13	35	8	R 2 f1	円形	12	12	41	15	R 2 f1	円形	16	16	4
2	R 1 f0	円形	12	12	17	9	R 2 f1	円形	14	14	28	16	R 2 f1	楕円形	16	14	9
3	R 2 f1	円形	13	12	10	10	R 2 f1	楕円形	20	18	42	17	R 2 f2	円形	26	26	13
4	R 2 f1	楕円形	12	10	4	11	R 2 f1	円形	14	14	30	18	R 2 f2	円形	20	20	17
5	R 2 f1	楕円形	14	12	12	12	R 2 f1	円形	22	22	8	19	R 2 g1	円形	14	14	13
6	R 2 e1	円形	20	20	31	13	R 2 f1	円形	20	19	8	20	R 2 g1	円形	14	13	14
7	R 2 f1	楕円形	16	12	48	14	R 2 f1	楕円形	17	15	7	21	R 2 g1	円形	16	16	9

ピット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
16	M 3 e4	円形	48	48	18
17	M 3 e4	円形	38	35	10
18	M 3 e4	楕円形	40	36	23
19	M 3 e5	円形	32	31	15
20	M 3 d4	円形	38	38	42
21	M 3 d4	楕円形	38	28	22
22	M 3 c6	円形	38	36	38

ピット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
23	M 3 b5	楕円形	44	40	32
24	M 3 a5	[円形]	(42)	40	24
25	M 3 a5	楕円形	46	42	24
26	M 3 a5	楕円形	44	40	34
27	M 3 a5	楕円形	42	38	22
28	M 3 a5	楕円形	58	50	32
29	L 3 j5	楕円形	49	42	44

ピット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
30	L 3 j5	楕円形	42	35	20
31	L 3 j8	楕円形	37	33	44
32	L 3 j8	円形	40	37	39
33	L 3 j8	円形	46	46	34
34	L 3 j8	円形	35	35	39
35	L 3 j9	[円形・楕円形]	40	(20)	26

第91表 第27号ピット群一覧

ピット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	M 3 h3	楕円形	50	42	21
2	M 3 h4	楕円形	35	27	22
3	M 3 h4	楕円形	41	37	25
4	M 3 i5	楕円形	33	28	21
5	M 3 i5	円形	28	28	15

ピット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
6	M 3 j5	円形	27	25	27
7	M 3 j5	楕円形	28	25	11
8	M 3 j4	楕円形	40	32	24
9	N 3 a4	楕円形	26	22	51
10	N 3 a4	楕円形	42	[30]	23

ピット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
11	N 3 a3	円形	28	(26)	20
12	N 3 a3	円形	32	31	13
13	N 3 a4	円形	35	32	21

第92表 第28号ピット群一覧 (PL23)

ピット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	N 3 d3	円形	32	30	25
2	N 3 d3	楕円形	56	38	52
3	N 3 d3	楕円形	32	28	9
4	N 3 c3	円形	34	31	19
5	N 3 e3	円形	29	27	45
6	N 3 e3	楕円形	28	21	13
7	N 3 d4	[円形]	(24)	22	18
8	N 3 e3	円形	28	27	35
9	N 3 e3	楕円形	52	49	36
10	N 3 c3	円形	52	52	26
11	N 3 c3	[円形・楕円形]	44	(32)	25
12	N 3 c3	[楕円形]	56	[45]	25
13	N 3 d3	楕円形	61	52	45

ピット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
14	N 3 d4	[楕円形]	(60)	59	34
15	N 3 e4	楕円形	32	27	24
16	N 3 e5	円形	34	31	19
17	N 3 e5	円形	45	41	48
18	N 3 d5	円形	58	58	38
19	N 3 c6	楕円形	55	51	49
20	N 3 e3	楕円形	55	49	39
21	N 3 e3	楕円形	43	35	13
22	N 3 d4	円形	25	25	28
23	N 3 d5	[楕円形]	43	[35]	62
24	N 3 d5	楕円形	29	23	19
25	N 3 d5	楕円形	30	27	17
26	N 3 c6	[楕円形]	45	[39]	24

ピット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
27	N 3 c6	楕円形	36	23	25
28	N 3 c6	[楕円形]	[62]	38	47
29	N 3 c5	楕円形	47	42	39
30	N 3 c5	[円形]	46	[42]	16
31	N 3 c3	円形	28	27	32
32	N 3 d3	楕円形	34	28	42
33	N 3 c5	楕円形	52	48	20
34	N 3 c6	楕円形	36	32	48
35	N 3 d4	円形	26	26	12
36	N 3 b5	[楕円形]	[80]	[69]	46
37	N 3 e4	楕円形	42	39	23
38	N 3 c5	[楕円形]	[82]	58	55



第173図 第28号ピット群出土遺物実測図

ビット番号	位置	形状	規格 (cm)			ビット番号	位置	形状	規格 (cm)			ビット番号	位置	形状	規格 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
118	U 1 c6	楕円形	41	28	18	133	U 1 d6	円形	27	27	34	148	U 1 d6	円形	36	34	57
119	U 1 c5	楕円形	28	21	50	134	U 1 d6	楕円形	27	24	46	149	U 1 d6	円形	27	27	42
120	U 1 c6	楕円形	19	16	43	135	U 1 d6	円形	23	21	56	150	U 1 d6	楕円形	28	23	39
121	U 1 c6	楕円形	40	26	75	136	U 1 e5	楕円形	38	30	55	151	U 1 d5	楕円形	27	24	40
122	U 1 c6	楕円形	27	23	37	137	U 1 b5	楕円形	41	25	68	152	U 1 d5	円形	29	27	49
123	U 1 c6	楕円形	26	19	30	138	U 1 b5	楕円形	34	30	56	153	U 1 d5	楕円形	22	19	26
124	U 1 c6	楕円形	26	21	49	139	U 1 b5	楕円形	43	30	51	154	U 1 d5	円形	18	18	17
125	U 1 c6	楕円形	24	17	75	140	U 1 b5	楕円形	45	31	46	155	U 1 b5	円形	28	26	48
126	U 1 d6	楕円形	33	27	36	141	U 1 c5	楕円形	22	18	43	156	U 1 b5	楕円形	21	19	28
127	U 1 d6	楕円形	32	25	44	142	U 1 c5	楕円形	35	27	18	157	U 1 c5	円形	23	22	23
128	U 1 d6	楕円形	22	20	30	143	U 1 c5	楕円形	34	25	18	158	U 1 c5	楕円形	23	16	70
129	U 1 d6	楕円形	32	28	61	144	U 1 c6	楕円形	26	21	26	159	U 1 c5	楕円形	18	14	22
130	U 1 d6	楕円形	24	16	40	145	U 1 c6	楕円形	37	25	76	160	U 1 c5	楕円形	18	15	26
131	U 1 d6	楕円形	28	24	34	146	U 1 d6	楕円形	35	25	18	161	U 1 c5	円形	25	25	57
132	U 1 d6	楕円形	25	21	59	147	U 1 d6	楕円形	22	20	24	162	U 1 d6	円形	14	14	25

第95表 第33号ビット群一覧 (PL24)

ビット番号	位置	形状	規格 (cm)			ビット番号	位置	形状	規格 (cm)			ビット番号	位置	形状	規格 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	U 1 f5	楕円形	48	(34)	15	9	U 1 f8	楕円形	28	18	17	17	U 1 i7	楕円形	25	20	30
2	U 1 f6	楕円形	21	19	22	10	U 1 g7	円形	21	20	16	18	U 1 i7	円形	19	19	33
3	U 1 f6	楕円形	51	39	20	11	U 1 g7	楕円形	27	19	17	19	U 1 h7	円形	21	20	18
4	U 1 f6	楕円形	50	40	22	12	U 1 h7	楕円形	24	18	32	20	U 1 h6	楕円形	55	36	28
5	U 1 f6	楕円形	19	16	16	13	U 1 h7	円形	22	22	21	21	U 1 i6	楕円形	30	16	47
6	U 1 f7	円形	20	20	34	14	U 1 h8	円形	25	25	28	22	U 1 i6	円形	24	22	45
7	U 1 f7	円形	18	18	20	15	U 1 h8	楕円形	28	20	25	23	U 1 i6	円形	20	20	29
8	U 1 f7	楕円形	26	16	18	16	U 1 i7	楕円形	33	26	27	24	U 1 i6	円形	19	18	23

第96表 第36号ビット群一覧 (PL24)

ビット番号	位置	形状	規格 (cm)			ビット番号	位置	形状	規格 (cm)			ビット番号	位置	形状	規格 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	U 1 d0	円形	32	30	26	10	U 1 e9	円形	19	19	34	19	U 1 b8	円形	41	38	40
2	U 1 d9	楕円形	35	28	20	11	U 1 f9	楕円形	22	16	24	20	U 1 b7	楕円形	22	19	30
3	U 1 d9	円形	20	20	22	12	U 1 f9	楕円形	21	19	39	21	U 1 b7	円形	23	22	36
4	U 1 d0	楕円形	34	26	61	13	U 1 f9	楕円形	29	24	19	22	U 1 b8	楕円形	26	22	25
5	U 1 e9	円形	26	26	37	14	U 1 f9	円形	24	22	20	23	U 1 c8	円形	24	24	31
6	U 1 e9	楕円形	26	20	31	15	U 1 f9	楕円形	33	22	21	24	U 1 c8	円形	24	22	42
7	U 1 e8	楕円形	20	15	7	16	T 1 j8	楕円形	38	32	51	25	U 1 c9	楕円形	22	18	30
8	U 1 e8	楕円形	24	17	39	17	T 1 j9	楕円形	42	31	50						
9	U 1 e9	円形	26	24	46	18	T 1 j8	円形	36	33	29						

第97表 第37号ピット群一覧 (PL24)

ピット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)			ピット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)			ピット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	V 1 h0	楕円形	45	30	33	7	V 2 g1	円形	21	20	39	13	V 2 e1	楕円形	23	20	29
2	V 1 h0	楕円形	46	34	70	8	V 2 g1	楕円形	30	24	61	14	V 1 f9	円形	30	30	22
3	V 1 h0	円形	28	27	58	9	V 2 f2	円形	30	30	58	15	V 1 d9	楕円形	18	15	40
4	V 1 h0	楕円形	60	37	58	10	V 1 g0	楕円形	38	32	39	16	V 1 d9	楕円形	26	20	63
5	V 1 h0	円形	26	24	43	11	V 2 e1	円形	15	15	34	17	V 1 d9	楕円形	26	18	28
6	V 1 h0	楕円形	34	23	50	12	V 2 e1	楕円形	20	16	44	18	V 1 d9	楕円形	24	20	24

第98表 第38号ピット群一覧 (PL24)

ピット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)			ピット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)			ピット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	V 1 b7	楕円形	22	16	14	9	V 1 c7	楕円形	27	16	23	17	V 1 d7	円形	23	21	28
2	V 1 c7	[楕円形]	23	[19]	26	10	V 1 b6	楕円形	36	29	39	18	V 1 e7	円形	24	22	10
3	V 1 c7	楕円形	32	21	32	11	V 1 b6	円形	16	16	20	19	V 1 e6	楕円形	29	23	24
4	V 1 c8	楕円形	21	19	38	12	V 1 c6	円形	35	33	56	20	V 1 a6	楕円形	38	27	12
5	V 1 c8	円形	26	25	64	13	V 1 c6	円形	27	27	22	21	V 1 b6	円形	20	19	37
6	V 1 c8	円形	19	18	25	14	V 1 c6	円形	25	23	55	22	V 1 b6	楕円形	30	24	24
7	V 1 c7	楕円形	26	18	25	15	V 1 d6	楕円形	27	22	24	23	V 1 b6	楕円形	29	21	33
8	V 1 c7	楕円形	21	17	22	16	V 1 d6	楕円形	28	22	33	24	V 1 b6	円形	22	21	17

第99表 第39号ピット群一覧 (PL24)

ピット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)			ピット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)			ピット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	U 1 i9	円形	21	21	32	19	V 2 a1	円形	17	16	29	37	V 1 a8	楕円形	24	21	42
2	U 1 i0	円形	22	22	21	20	V 2 a1	円形	19	18	32	38	V 1 a7	円形	20	20	38
3	U 1 j0	円形	20	20	22	21	V 2 b1	楕円形	27	13	22	39	V 1 a8	円形	20	20	21
4	U 1 j0	楕円形	21	19	12	22	V 1 b0	円形	18	18	21	40	V 1 a9	円形	20	20	26
5	U 1 j0	円形	25	24	22	23	V 2 b1	楕円形	18	10	22	41	V 1 a9	円形	20	10	37
6	U 1 j9	楕円形	32	22	19	24	V 2 b1	楕円形	18	11	33	42	V 1 a9	円形	30	30	25
7	U 1 j9	円形	20	19	17	25	V 2 b1	円形	20	20	25	43	V 1 a9	円形	16	16	32
8	V 1 a9	楕円形	21	19	17	26	V 1 b0	楕円形	32	22	28	44	V 1 a9	楕円形	27	24	22
9	V 1 a9	楕円形	26	19	28	27	V 1 b0	円形	26	24	35	45	V 1 c9	楕円形	20	18	38
10	V 1 a0	楕円形	27	24	28	28	V 1 b0	楕円形	30	26	31	46	U 1 i0	楕円形	30	19	23
11	V 1 a0	楕円形	31	20	21	29	V 1 b0	円形	16	16	23	47	U 2 i1	円形	21	21	26
12	V 1 a0	楕円形	20	18	22	30	V 1 c0	楕円形	24	21	28	48	U 1 i0	楕円形	24	20	19
13	V 1 a0	楕円形	24	20	25	31	V 1 c0	楕円形	22	18	19	49	U 1 i0	楕円形	30	18	56
14	V 1 a0	楕円形	18	15	17	32	V 1 c9	円形	19	18	15	50	U 1 i0	円形	23	23	25
15	V 1 b0	円形	32	30	40	33	V 1 c9	円形	20	19	44	51	U 2 i1	楕円形	25	21	41
16	V 1 b0	円形	40	37	53	34	V 1 a8	楕円形	22	16	18	52	U 1 h0	円形	17	16	33
17	V 1 b0	楕円形	24	18	32	35	V 1 b8	楕円形	29	26	21	53	V 1 c9	楕円形	19	17	31
18	V 1 b0	楕円形	28	24	28	36	V 1 a8	楕円形	21	12	20						

第100表 第40号ピット群一覧 (PL24)

ピット 番号	位置	形状	規模 (cm)			ピット 番号	位置	形状	規模 (cm)			ピット 番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	W 2 d3	楕円形	22	19	33	12	W 2 e2	楕円形	27	24	16	23	W 1 a9	楕円形	29	26	26
2	W 2 e3	楕円形	32	26	38	13	W 2 e2	円形	18	18	23	24	W 1 b9	円形	24	24	13
3	W 2 e3	楕円形	36	32	79	14	W 2 e2	円形	22	21	22	25	W 1 b9	円形	26	24	10
4	W 2 e3	楕円形	19	14	32	15	W 2 e2	円形	17	16	13	26	W 1 b0	楕円形	24	20	25
5	W 2 e3	円形	20	19	40	16	W 2 e1	円形	20	20	27	27	W 1 b9	楕円形	22	18	28
6	W 2 f3	円形	25	24	42	17	W 2 e1	円形	31	29	28	28	W 1 c0	楕円形	37	28	24
7	W 2 f3	楕円形	19	14	17	18	W 2 b3	円形	28	27	33	29	W 1 c0	円形	29	28	31
8	W 2 f2	円形	19	19	26	19	W 2 b2	楕円形	30	26	33	30	W 1 c0	楕円形	20	18	18
9	W 2 f2	楕円形	19	16	28	20	W 2 b2	楕円形	28	20	19	31	W 2 d1	楕円形	37	30	13
10	W 2 f2	楕円形	29	23	40	21	W 2 c2	円形	24	24	22						
11	W 2 f2	楕円形	21	16	18	22	W 2 d3	楕円形	36	24	45						

第101表 第41号ピット群一覧

ピット 番号	位置	形状	規模 (cm)			ピット 番号	位置	形状	規模 (cm)			ピット 番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	K 3 e9	円形	32	30	17	8	K 3 f9	円形	24	22	13	15	K 3 h0	円形	26	24	23
2	K 3 e9	楕円形	58	50	28	9	K 3 f9	円形	34	32	17	16	K 4 h1	楕円形	68	35	38
3	K 3 e9	円形	30	28	18	10	K 3 g0	楕円形	34	29	32	17	K 3 h0	円形	25	24	27
4	K 3 e0	[楕円形]	25	(22)	13	11	K 3 g0	[円形]	31	[30]	37	18	K 4 h1	楕円形	29	26	47
5	K 3 g9	楕円形	54	43	21	12	K 3 g0	楕円形	35	31	41	19	K 4 h1	楕円形	36	24	49
6	K 3 e0	円形	36	35	19	13	K 3 g0	円形	21	21	23	20	K 4 h1	楕円形	36	28	31
7	K 3 f9	楕円形	30	24	47	14	K 3 h0	円形	29	27	41						

(6) 掘り込み遺構

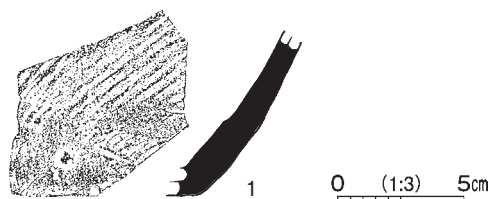
第1号掘り込み遺構 (第174・175図 PL24)

位置 C区北部のO2h6区、標高44mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第218号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 西部が調査区域外のため、南北径11.60m、東西径2.14mしか確認できなかった。平面形は円形または楕円形と推定できる。確認できた深さは80cmで、壁は緩やかに立ち上がっている。底面は皿状である。

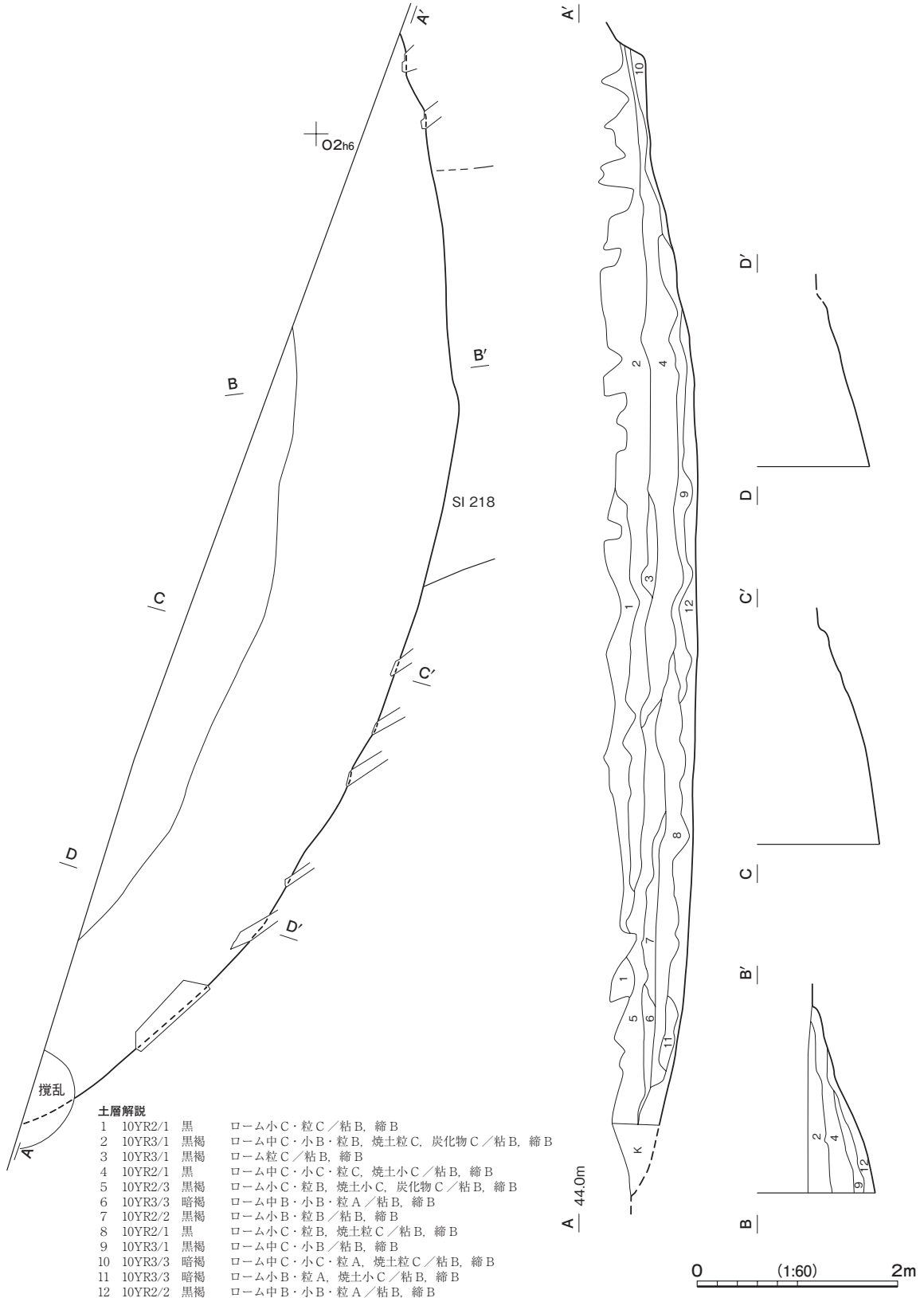
覆土 12層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。



第174図 第1号掘り込み遺構出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片92点(坏22, 甕類70), 須恵器片16点(坏5, 高台付坏1, 甕類10)が出土している。1は覆土中から出土している。埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から9世紀以降と考えられるが, 詳細は不明である。



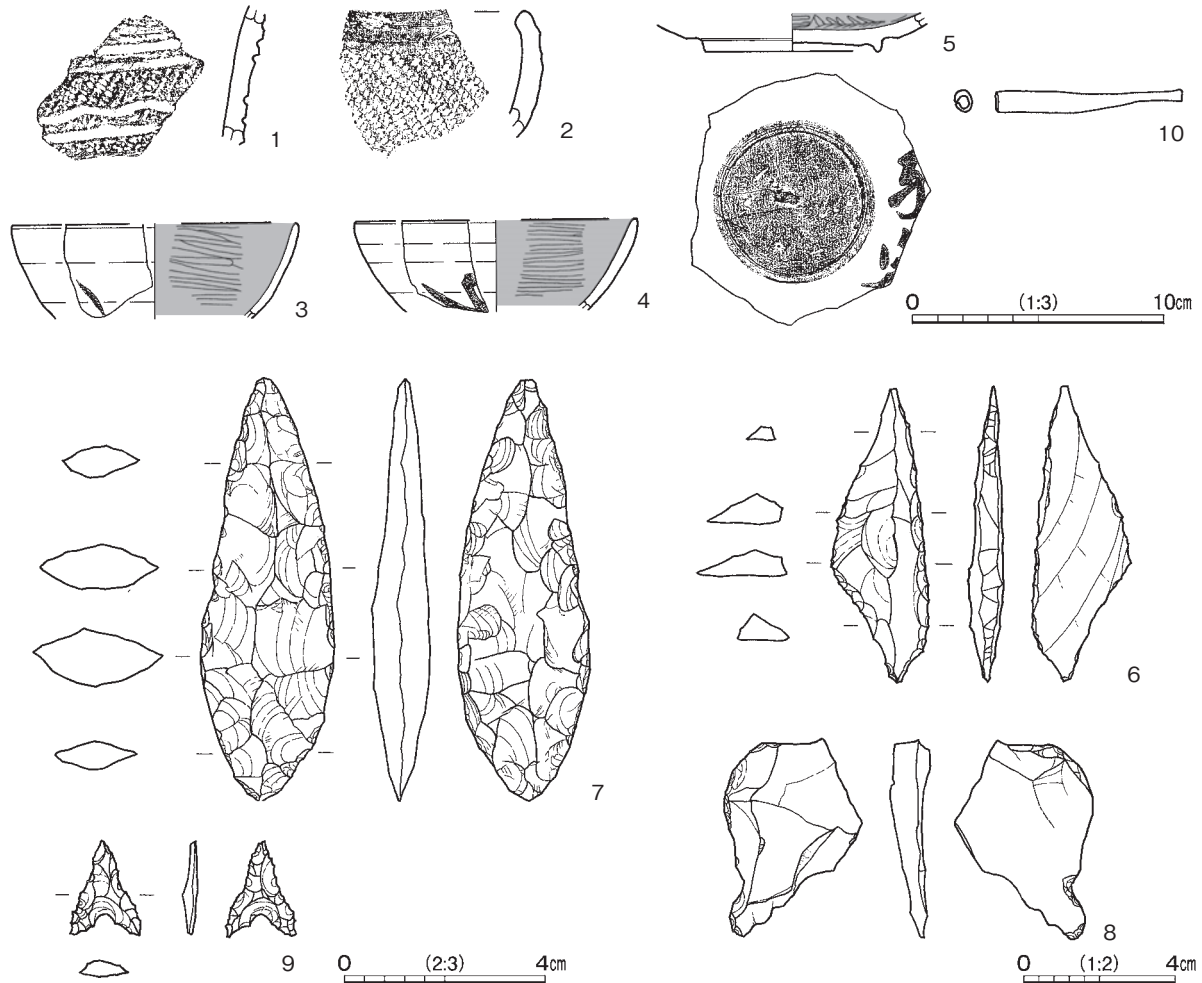
第 175 図 第 1 号掘り込み遺構実測図

第 102 表 第 1 号掘り込み遺構出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	甕	-	(6.5)	-	長石・石英	褐灰	普通	体部外面斜位の平行叩き	覆土中	5%

6 遺構外出土遺物

今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物について、出土遺物実測図（第176図）と出土遺物一覧（第103表）で記載する。



第176図 遺構外出土遺物実測図

第103表 遺構外出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(5.5)	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	地縄文LR施文後に胴部に沈線文	SI13	5% PL40 加曽利Ⅱ式
2	縄文土器	深鉢	-	(4.9)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	単節縄文RL 磨消	表土	5% PL40 加曽利Ⅲ式

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
3	土師器	坏	[11.2]	(3.8)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き	表土	5% PL40 墨書 □□
4	土師器	坏	[11.1]	(3.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き	表土	5% PL40 墨書 □□
5	土師器	高台付皿	-	(1.5)	7.0	長石・石英・針状物質	にぶい橙	普通	体部外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り 高台貼付け後ナデ	表土	30% PL40 墨書 □□□

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
6	ナイフ形石器	7.8	2.6	1.0	12.16	瑪瑙	縦型石刃側縁と反対側基部の刃潰し加工	SK1321	PL42
7	尖頭器	11.1	3.5	1.5	46.05	頁岩	神子柴型尖頭器 ソフトハンマー直接打撃による調整	SD 8	PL42
8	剥片	5.2	3.7	1.1	12.96	瑪瑙	自然面残存	SI238	PL42
9	鎌	1.9	1.4	0.3	0.42	チャート	凹基式無茎鎌	SI243	PL42

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
10	煙管	(7.4)	0.7	0.9	(5.63)	銅	吸口部一部欠損 断面円形	表土	PL44

第4節 総括

1 はじめに

今回の調査は、平成25年5・6月、平成28年10月～平成29年3月、平成29年4月～平成30年3月、平成31年4月～令和元年6月にわたって実施したものであり、前回の当財団「第399集」報告の西側の延長部分や調査区南部を中心にした整理報告である¹⁾。調査した遺構数は、縄文時代の陥し穴6基、古墳時代の竪穴建物跡1棟、奈良・平安時代の竪穴建物跡52棟、掘立柱建物跡2棟、土坑15基、中世の掘立柱建物跡2棟、井戸跡1基、土坑1基、時期不明の柱穴列1条、土坑229基、溝跡19条、道路跡1条、ピット群22か所、掘り込み遺構1基である。出土した遺物は、旧石器時代の石器、縄文時代の土器片、古墳時代の土師器、奈良・平安時代の土師器・須恵器・灰釉陶器・土製品・石製品（腰帯具）・金属製品（刀子、鎌、腰帯具）、中世の陶器片・金属製品（短刀）などである。

今回報告した調査A～D区で中心となる主な遺構としては、古墳時代後期、奈良・平安時代の竪穴建物跡である。全ての区内で確認でき、北部に向かって集落の広がりを見せている。これらの竪穴建物跡からは、多くの墨書土器が出土しているが、それらが出土した竪穴建物跡は限定されるなどの特徴を見出した。

また、C区第197・220号竪穴建物跡、D区第235・242・244号竪穴建物跡は、壁際に柱穴のある竪穴建物跡であり、平成25年度調査の第5号竪穴建物跡と合わせると、6棟になる。よって、ここでは当遺跡における古墳時代後期から平安時代の竪穴建物跡を5期に分類し、各期の建物規模や竈の位置・特殊建物からその特徴を考察するとともに、文字資料についての若干の考察を行い、まとめたい。

2 調査区の概要（付図）

平成24年9月～11月、平成25年5・6月にかけて行われた発掘調査をまとめた当財団「第399集」の報告で確認できた竪穴建物跡は、調査C区北端の5棟である。第3・4号竪穴建物跡は東竈、第2・5号竪穴建物跡は北竈である。第1号竪穴建物跡は竈の付設が不明である。第5号竪穴建物跡は9世紀前葉に、他は9世紀後葉に位置づけられている。

今回の発掘調査では、A～C区の調査区域が西側に広がり、更にD区が北側に延びたことで、集落の様相が少しずつ分かってきた²⁾。

3 集落の様相

今回の調査で確認できた竪穴建物跡は53棟である。所在の内訳は、A区2棟、B区1棟、C区28棟、D区22棟である。

(1) 建物の規模や竈の位置などについて

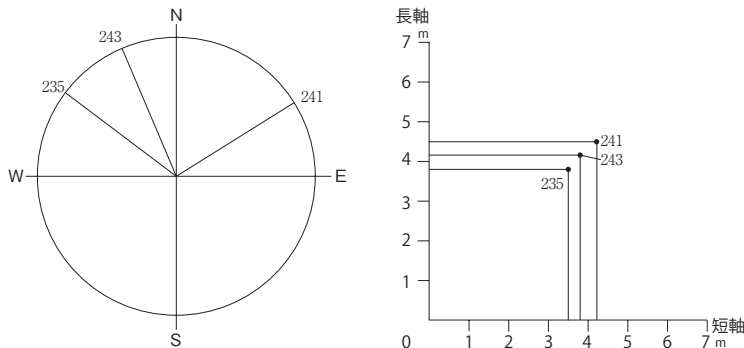
I期（7世紀～8世紀前葉）

本期にあたる竪穴建物跡は3棟（第235・241・243号）で、いずれもD区の南部から北部にかけて確認されており、この時期の集落の中心は北側にあると考えられる。第241号竪穴建物跡は西部



第177図 遺跡周辺（静神社、玉川、久慈川）

が調査区域外のため、竈の付設位置が不明であり、第243号竪穴建物跡は竈が北壁のやや東寄りに付設されている。2棟は近接している。竈が北西壁のやや北寄りに付設されている第235号竪穴建物跡は壁際に柱穴をもつ竪穴建物跡である。第235・243号竪穴建物跡の主軸方向は、 $N - 23^{\circ} \sim 53^{\circ} - W$ の狭い範囲にあり、北



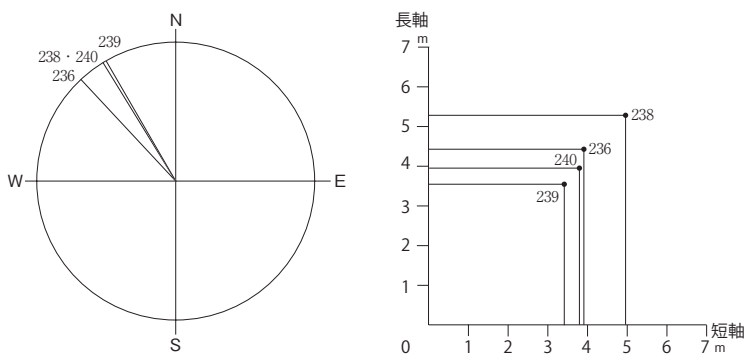
方向を意識して構築している。平面形は方形または長方形で、規模は第235号竪穴建物跡は13.2㎡、第241号竪穴建物跡は18.9㎡、第243号竪穴建物跡は15.7㎡で、小型の竪穴建物跡である³⁾。規則性はあまりない⁴⁾。

第178図 I期竪穴建物跡の規模・主軸方向

II期（8世紀中葉～8世紀後葉）

本期にあたる竪穴建物跡は7棟（第197・199・206・236・238～240号）である。D区で4棟、C区で3棟確認されている。

D区で確認された4棟の第236・238～240号竪穴建物跡はいずれも竈が北壁の中央部に付設されている。これらの竪穴建物跡の主軸方向は $N - 31^{\circ} \sim 43^{\circ} - W$ の狭い範囲にあり、北方向を意識して構築されている。平面形は方形または長方形で、第238・240号竪穴建物跡の2棟は隣接しているため、ある程度の時期差で小型から中型の竪穴建物に建て替えられたものと考えられる。第238号竪穴建物跡からは丸柄が覆土下層から出土していることから、役人層の存在する集落であるか郡家との関連も考えられる。建て替えを含めたこれら

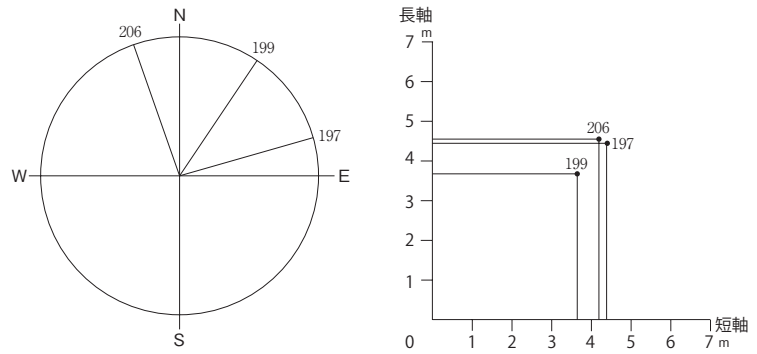


4棟は近接していて規則性がある。規模は第238号竪穴建物跡は中型で26.2㎡である。第236号竪穴建物跡は17.2㎡、第239号竪穴建物跡は12.2㎡、第240号竪穴建物跡は15.0㎡で小型の竪穴建物跡である。

第179図 II期D区4棟 竪穴建物跡の規模・主軸方向

C区で確認された3棟のうち、第199号竪穴建物跡は竈が北壁のやや東寄りに付設され、覆土中から管状土錘20点が出土している。第206号竪穴建物跡は竈が北壁中央部に付設され、覆土中から管状土錘16点が出土している。これらは細形管状土錘であり、アユを狙った刺網漁に用いられたとも考えられ、玉川・久慈川の落ちアユの漁場において網漁が行われたことを示している可能性がある⁵⁾。2棟は隣接しているため、多少の時期差で網漁を行う同一と思われる家族が建て替えた竪穴建物跡と考えられる。第197号竪穴建物跡は竈が東壁やや南寄りと北壁中央部に付設されている。3棟の竪穴建物跡の主軸方向は $N - 17^{\circ} - W \sim$

N - 75° - E の範囲にあり，平面形は方形である。規模は第 197 号竪穴建物跡は 19.5 m²，第 199 号竪穴建物は推定 13.5 m²，第 206 号竪穴建物跡は 19.2 m² でいずれも小型の竪穴建物である。第 197 号竪穴建物跡は壁際に柱穴をもつ竪穴建物跡であり，中核をなす竪穴建物跡と考えられる⁶⁾。

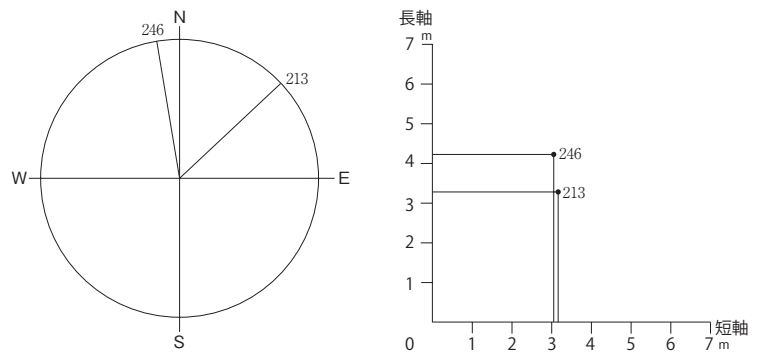


第 180 図 II 期 C 区 3 棟 竪穴建物跡の規模・主軸方向

Ⅲ期（9 世紀前葉～9 世紀中葉）

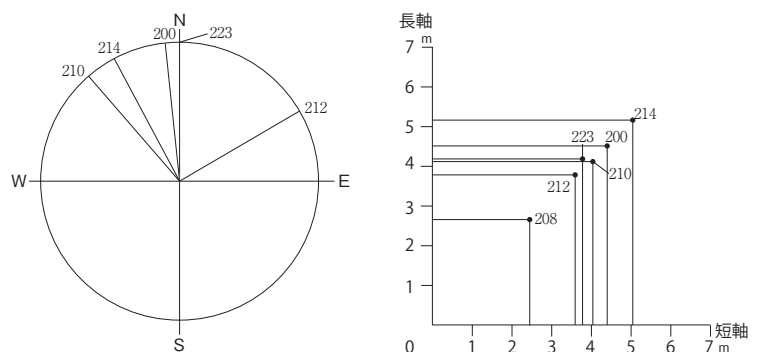
本期にあたる竪穴建物跡は 8 棟（第 200・208・210・212～214・223・246 号）である。D 区で 2 棟，C 区で 6 棟確認されている。

D 区で確認された第 246 号竪穴建物跡は竈が北壁に付設されている。第 213 号竪穴建物跡は竈が北東壁に付設され，出土した胴部が膨らむ形をした管状土錘 1 点は，礫の多い久慈川中流域に適し，漁獲対象はアユなどと考えられる。第 246 号竪穴建物跡からも 1 点ではあるが，細形管状土錘が出土していることから，網漁が行われていた可能性がある。竪穴建物跡の主軸方向は N - 9° - W ～ N - 43° - E の範囲でばらつきがある。平面形は方形または長方形である。規模は第 213 号竪穴建物跡は 10.3 m²，第 246 号竪穴建物跡は 12.8 m² で小型の竪穴建物跡である。いずれも北方向を意識して構築している。



第 181 図 Ⅲ期 D 区 2 棟 竪穴建物跡の規模・主軸方向

C 区で確認された 6 棟のうち，第 200・210・214・223 号竪穴建物跡の竈は北壁に，第 212 号竪穴建物跡は東壁に付設されている。第 208 号竪穴建物跡は不明である。竪穴建物跡の主軸方向は N - 41° - W ～ N - 62° - E の範囲でばらつきがある。平面形は方形または長方形で，第 200・214 号竪穴建物跡は隣接しているため，多少の時期差で広い竪穴建物に建て替えが行われたものと考えられる。第 214 号竪穴建物跡の覆土から 12 点の細形管状土錘が出土していることから，網漁が行われていた可能性がある。鎌も出土し，水田や畑地の開墾が盛んにおこなわれていたことも考えられる。また，覆土から紡錘車が出土しており，糸の



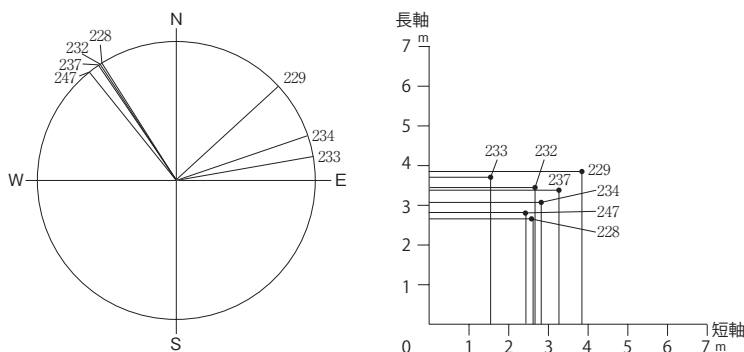
第 182 図 Ⅲ期 C 区 6 棟 竪穴建物跡の規模・主軸方向

生産も考えられる。第 210 号竪穴建物跡の覆土から細形よりやや大きい管状土錘 1 点が出土していることから、網漁が行われていた可能性がある。第 212 号竪穴建物跡の覆土からは石製の丸柄が出土していることから、集落内やその周辺で役人層や特定の身分の存在が考えられる。また、鎌や鋤先が出土していることから、水田や畑地の開墾をしていたと考えられる。規模は第 200 号竪穴建物跡は 19.5 m²、第 214 号竪穴建物跡は推定 25.9 m² で中型である。第 208 号竪穴建物跡は推定 6.5 m²、第 210 号竪穴建物跡は 16.6 m²、第 212 号竪穴建物跡は 13.6 m²、第 223 号竪穴建物跡は 15.8 m² でいずれも小型の竪穴建物跡である。

Ⅳ期（9 世紀中葉～9 世紀後葉）

本期にあたる竪穴建物跡は 27 棟（第 13・198・202～205・207・209・211・218～222・225・228・229・232～234・237・242・244・245・247・251・252 号）である。本調査区を中心となる時期である。D 区で 10 棟、C 区で 14 棟、A・B 区で 3 棟確認されている。

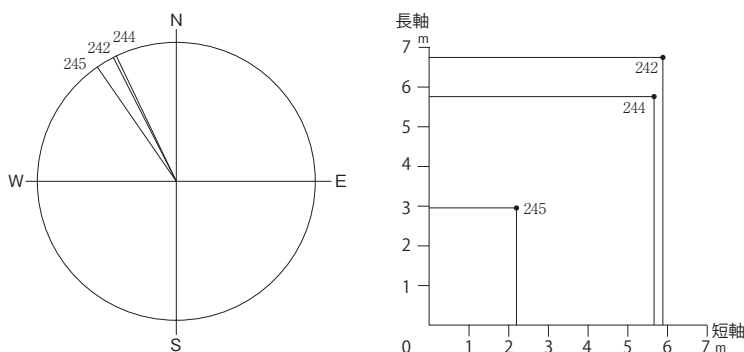
D 区の 10 棟のうち、7 棟は北部で確認された。第 228・232・237・247 号竪穴建物跡は竈が北壁に付設され、北方向を意識して構築している。第 232・237 号竪穴建物跡はこの時期に相当するものと考えた。第 229 号竪穴建物跡は北西壁と北東壁に付設され、北西竈から北東竈に移築している。第 233・234 号竪穴建物跡は東壁に付設され、東方向を意識して構築している。竪穴建物跡の主軸方向は N - 38° - W ～ N - 80° - E で、平面形は方形または長方形である。第 234 号竪穴建物跡の覆土から細形管状土錘 2 点が出土している。第Ⅲ期に引き続き、網漁が行われていた可能性がある。規模は第 228 号竪穴建物跡は 7.4 m²、第 229 号竪穴建物



第 183 図 Ⅳ期D区北部7棟 竪穴建物跡の規模・主軸方向

跡は 14.6 m²、第 232 号竪穴建物跡は 9.5 m²、第 233 号竪穴建物跡は推定 5.6 m² 以上で、第 234 号竪穴建物跡は推定 8.6 m²、第 237 号竪穴建物跡は 11.0 m²、第 247 号竪穴建物跡は 7.4 m² でいずれも小型の竪穴建物である。7 棟は近接している。

D 区の残り 3 棟は南部で確認された。第 244・245 号竪穴建物跡は竈が北壁に付設されている。第 242 号竪穴建物跡は不明である。これらの竪穴建物跡の主軸方向は N - 26° ～ 35° - W で狭い範囲にあり、北方向を意識して構築している。平面形は方形または長方形である。第 242 号竪穴建物跡からは紡錘車 1 点が出土し、糸の生産が考えられる。また、鎌 1 点も出土していることから、水田や畑地の開墾をしていたとも考えられる。第 244 号竪穴建物跡からは細形管状土錘 1 点が出土し、網漁

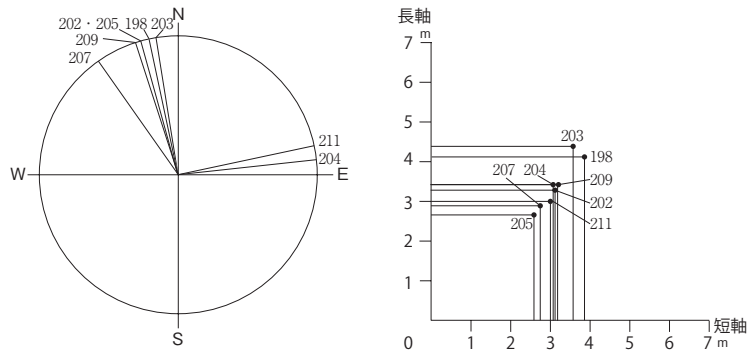


第 184 図 Ⅳ期D区南部3棟 竪穴建物跡の規模・主軸方向

をしてきた可能性がある。規模は

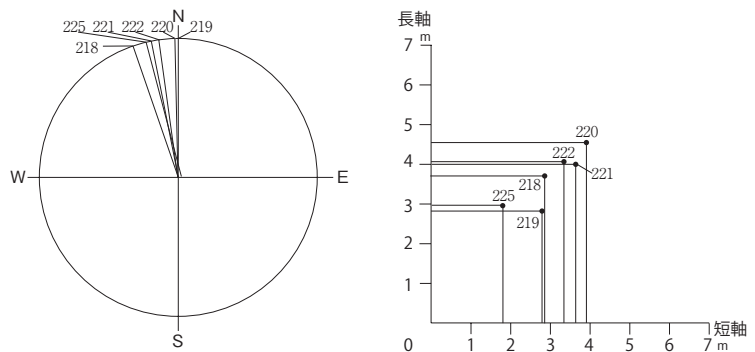
第242号竪穴建物跡は推定40.2㎡、第244号竪穴建物跡は32.7㎡で壁柱穴をもつ大型の竪穴建物跡である。中核をなす竪穴建物跡であると考えられる。第245号竪穴建物跡は推定6.5㎡以上で、小型の竪穴建物跡である。大型の竪穴建物跡の周辺に小型の竪穴建物跡が配置されていたと考えられる。

C区の14棟のうち、8棟は北部で確認された。第198・202・203・205・207・209号竪穴建物跡は竈が北壁に付設されている。第207号竪穴建物跡はこの時期に相当するものと考えた。第204号竪穴建物跡は北壁と東壁に付設されている。第211号竪穴建物跡は東壁に付設されている。これらの竪穴建物跡は主軸方向がN-35°-W～N-83°-Eで、平面形は方形または長方形である。第204・211号竪穴建物跡は東竈であり、他は北竈でそれぞれが北方向や東方向を意識して構築していることなどから、規則性が感じられる。第198号竪穴建物跡の覆土からは紡錘車が出土しており、糸の生産が考えられる。第204・209号竪穴建物跡の床面などからは細形管状土錘がそれぞれ1点出土しており、網漁が行われていた可能性がある。規模は第198号竪穴建物跡は15.8㎡、第202号竪穴建物跡は10.3㎡、第203号竪穴建物跡は推定15.8㎡、第204号竪穴建物跡は10.5㎡、第205号竪穴建物跡は6.8㎡、第207号竪穴建物跡は8.0㎡、第209号竪穴建物跡は10.7㎡、第211号竪穴建物跡は8.8㎡で、すべて小型の竪穴建物跡である。



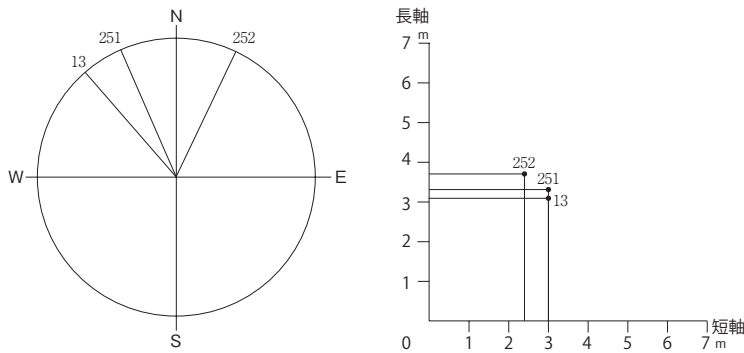
第185図 IV期C区北部8棟 竪穴建物跡の規模・主軸方向

C区北部で集中して確認された残り6棟のうち、第218～222号竪穴建物跡は竈が北壁に付設されている。第225号竪穴建物跡は不明である。これらの竪穴建物跡の主軸方向はN-0°～19°-Wで、北方向を意識して構築している。平面形は方形または長方形である。第218・220・222号竪穴建物跡の覆土から細形管状土錘がそれぞれ1点出土している。これらの竪穴建物跡で網漁が行われていた可能性がある。第218号竪穴建物跡はこの時期に相当するものと考えた。第220・222号竪穴建物跡の床面や覆土から紡錘車が出土していることから、糸の生産も考えられる。規模は第218号竪穴建物跡は推定10.5㎡、第219号竪穴建物跡は7.9㎡、第220号竪穴建物跡は17.8㎡、第221号竪穴建物跡は14.6㎡、第222号竪穴建物跡は13.8㎡で、小型の竪穴建物跡であり、規則性があると考えられる。第225号竪穴建物跡は推定4.8㎡以上で、正確な規模は不明である。第220号竪穴建物跡は壁柱穴をもつ竪穴建物跡であり、中核をなす竪穴建物跡と考えられる。その周辺にある小型の竪穴建物跡との関連した配置が考えられる。



第186図 IV期C区北部6棟 竪穴建物跡の規模・主軸方向

A・B区で確認された3棟のうち、第13・251号竪穴建物跡は竈が北壁にあり、第252号竪穴建物跡は不明である。3棟ともこの時期に相当するものと考えた。竪穴建物跡の主軸方向はN-32°-W~24°-Eの



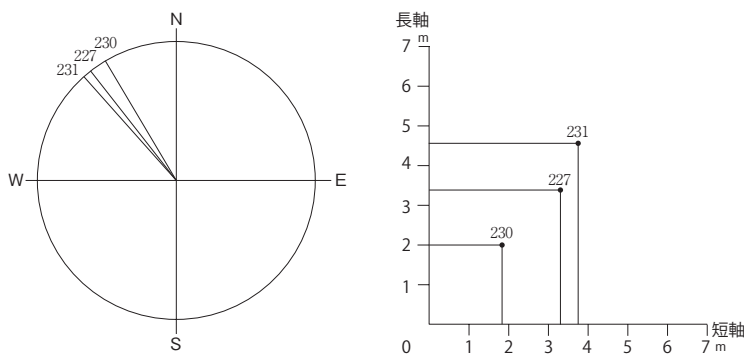
第187図 IV期A・B区3棟 竪穴建物跡の規模・主軸方向

狭い範囲にあり、北方向を意識して構築している。第251号竪穴建物跡の床面から紡錘車2点が出土していることから、糸の生産が考えられる。規模は第13号竪穴建物跡は9.3㎡、第251号竪穴建物跡は推定10.1㎡、第252号竪穴建物跡は推定8.9㎡で、小型の竪穴建物跡である。

V期 (10世紀前葉・10世紀代)

本期にあたる竪穴建物跡は8棟(第201・215~217・226・227・230・231号)である。D区で3棟、C区で5棟確認されている。

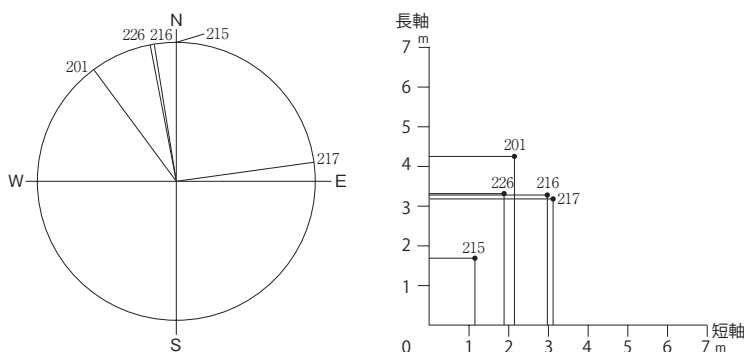
D区で確認された3棟のうち、第227・230号竪穴建物跡は、竈が北壁に付設されている。第231号竪穴建物跡は北壁と東壁に付設されている。これらの竪穴建物跡は主軸方向がN-31°~38°-Wの狭い範囲に



第188図 V期D区3棟 竪穴建物跡の規模・主軸方向

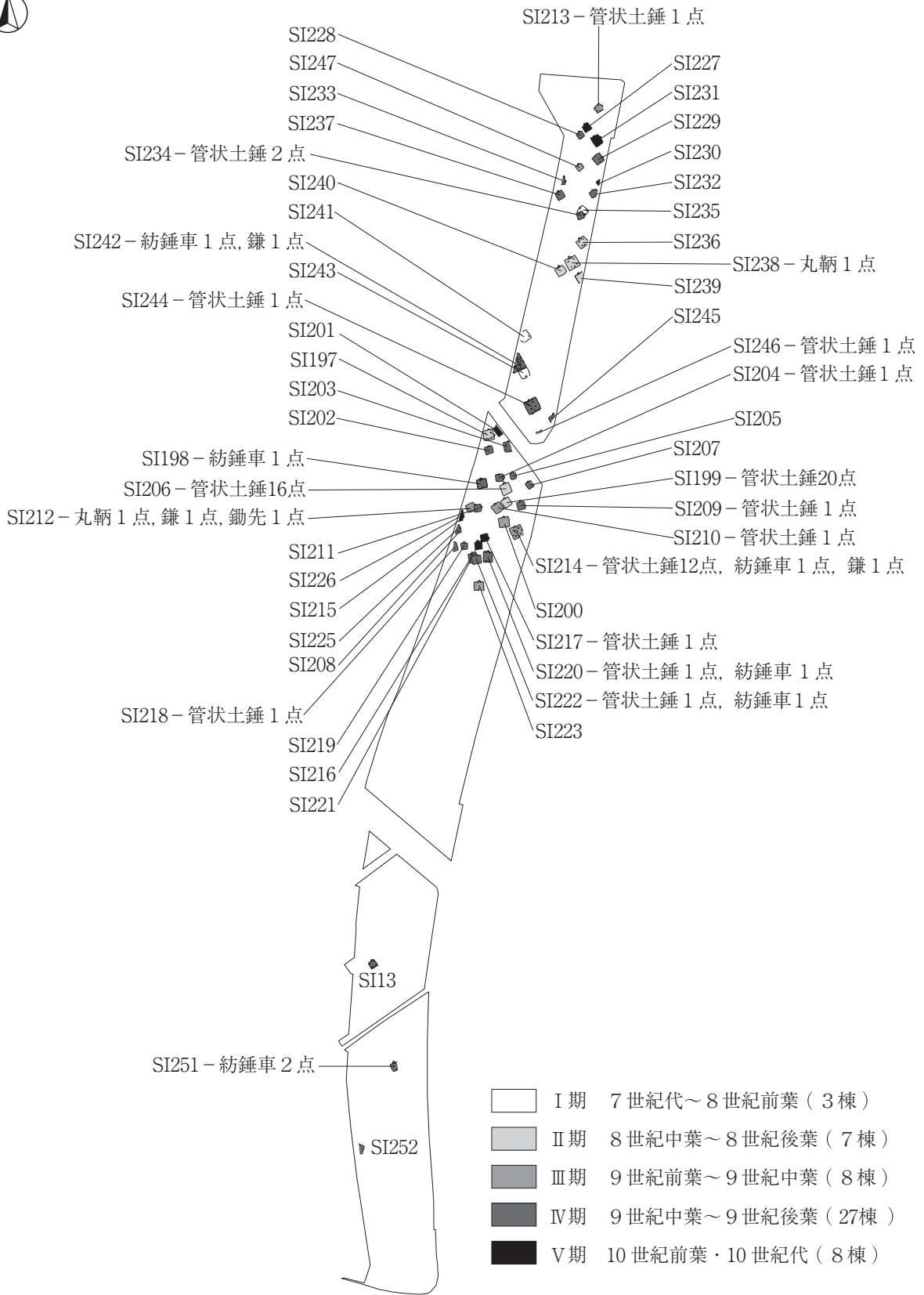
あり、北方向を意識して構築し、規則性があると考えられる。平面形は方形または長方形である。規模は第227号竪穴建物跡は推定11.1㎡、第230号竪穴建物跡は推定3.6㎡以上、第231号竪穴建物跡は推定17.0㎡で、すべて小型の竪穴建物跡である。

C区で確認された5棟のうち、第201・216号竪穴建物跡は竈を北壁に、第217号竪穴建物跡は東壁に付設されている。第215・226号竪穴建物跡は不明である。これらの竪穴建物跡の主軸方向はN-36°-W~N-82°-Eで、



第189図 V期C区5棟 竪穴建物跡の規模・主軸方向

平面形は方形または長方形である。第217号竪穴建物跡を除いて北方向を意識して構築している。第217号竪穴建物跡の覆土からは細形管状土錘1点が出土している。第IV期に引き続き網漁が行われていた可能性がある。また、炭化材が出土していることから焼失した家屋と考えられる。第216・217号竪穴建物跡は重複し、新



第 190 図 集落変遷図と出土遺物 (管状土錘, 紡錘車, 丸柄, 鎌, 鋤先)

旧関係から第 217 号竪穴建物が焼失後、第 216 号竪穴建物に建て替えられたものと考えられる。規模は、第 216 号竪穴建物跡は 9.7 m²、第 217 号竪穴建物跡は 9.7 m²で、小型の竪穴建物跡である。第 201 号竪穴建物跡は推定 9.3 m²、第 215 号竪穴建物跡は推定 1.9 m²、第 226 号竪穴建物跡は推定 6.3 m²以上で、正確な規模は不明である。

このように、当遺跡の集落は古墳時代の後期に形成され、時代と共に人口が増加し、9 世紀後葉にそのピークを迎えていると考えられる。時期がほぼ同じで隣接する 2 棟の竪穴建物跡は、建て替えの可能性があることが分かる。竪穴建物跡の主軸方向が北方向や東方向を意識してある程度狭い範囲で構築している。大型・中型の「壁際に柱穴をもつ竪穴建物跡」などの中核の住居跡の周りに、小型の竪穴建物跡がまとまりのある小集団を形成していたと考えられる。また、出土した管状土錘や紡錘車、農具から集落内で網漁を行う人々や糸の生産を行う人々、田や畑に従事する人々の生活を窺うことができる。このことは、玉川や久慈川が合流する地点に近いことや機織りに関連する静神社が集落から近い地域であることから考えられる。

(2) 壁際に柱穴をもつ竪穴建物跡について

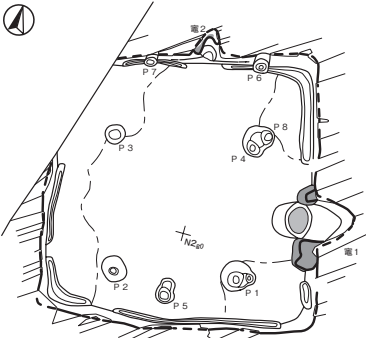
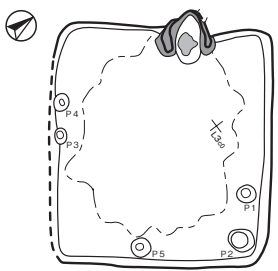
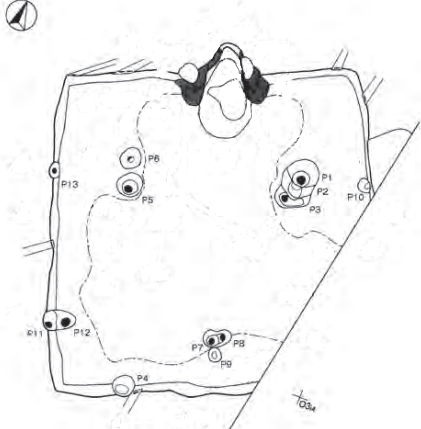
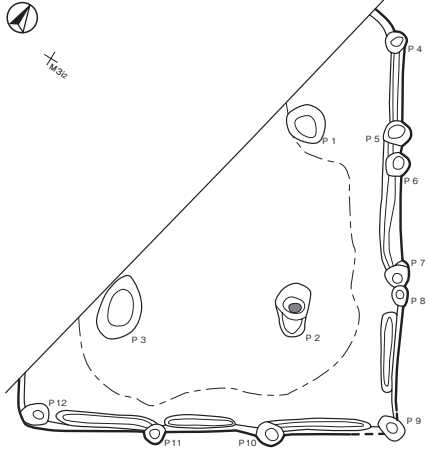
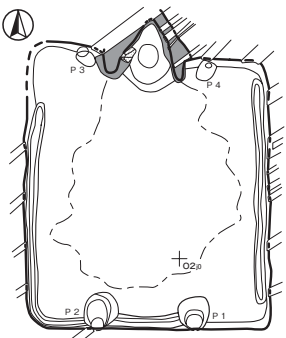
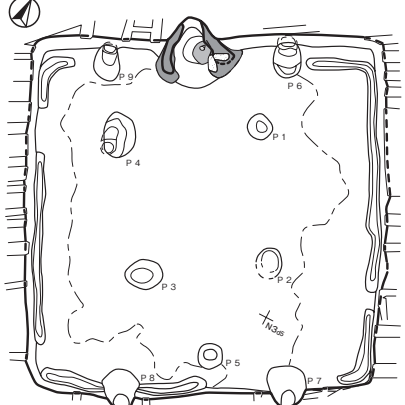
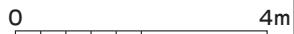
壁際に柱穴をもつ竪穴建物跡については、当財団「第 399 集」で下大賀遺跡周辺の遺跡から時期と柱穴の配置状況により分類している⁷⁾。一つは、一般的な竪穴建物跡にみられるように 4 か所の支柱穴を床面にもち、補助的な壁柱穴を備えるもので、A 類としている。もう一つは、支柱穴が壁際に作られ、さらに補助的な柱穴を備えるもので、B 類としている。今回は分類をした基準をもとに、当遺跡から出土した竪穴建物跡 5 棟について時代別に概観してみる。

8 世紀代では、C 区から第 197 号竪穴建物跡が 4 か所の支柱穴と出入口施設に伴うピットを床面に構築し、北壁の竈脇に壁柱穴を作っていることが確認できた。A 類に属し、小型の竪穴建物跡である。D 区から第 235 号竪穴建物跡が北東壁に 2 か所、南西壁に 2 か所の不規則な支柱穴と、南東壁に 1 か所の出入口施設に伴うピットを構築していると考えられる。B 類に属し、小型の竪穴建物跡である。

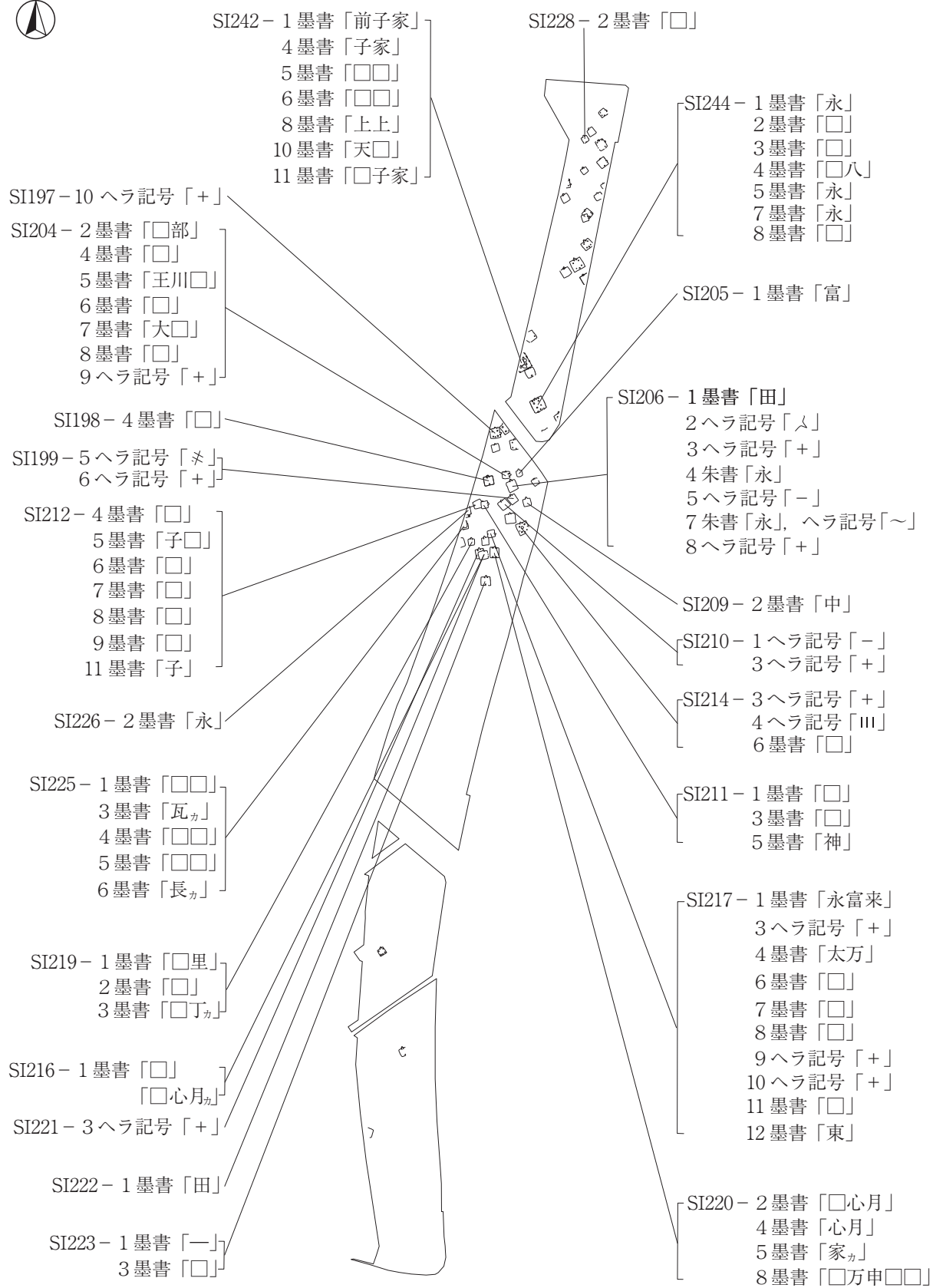
9 世紀前葉では、当財団の「第 399 集」による C 区から第 5 号竪穴建物跡が確認されており、A 類として報告されている⁸⁾。

9 世紀後葉では、D 区から第 242 号竪穴建物跡が床面で 3 か所の支柱穴を確認し、南壁に 4 か所の柱穴、東壁に 5 か所の柱穴を作っていることを確認した。それを支柱穴として構築している。D 区から第 244 号竪穴建物跡が 4 か所の支柱穴と、竈脇の壁柱穴と南壁に対になる壁柱穴を構築している。これらは A 類に属し、大型の竪穴建物跡である。C 区から第 220 号竪穴建物跡が竈脇に 2 か所とそれに対をなす南壁に 2 か所の柱穴を作り、それを支柱穴としている。これは B 類に属し、小型の竪穴建物跡である。

A・B 類の竪穴建物跡の規模は、平面形は方形または長方形で、規則性はない。竪穴建物跡の主軸方向は N - 1° ~ 53° - W の範囲内であり、北方向を意識して構築している。大型の第 242・244 号竪穴建物跡は A 類で近接している。他の竪穴建物跡と比べ規模が大きくなることから、生活空間を最大限に利用しようとしたものと思われる。どちらも墨書土器が数点出土し、集落の中における特別な存在であることが伺える。同じように A 類の第 5・197 号竪穴建物跡と B 類の第 220・235 号竪穴建物跡は、時期差は多少あるが近接して存在している。A・B 類の竪穴建物跡がお互いに集落の中で特別な意味をもって数棟を 1 単位として存在している可能性も考えられる。いずれにしても調査区の C 区から D 区にかけて竪穴建物跡が多くなり、今後の調査から、集落内の「壁際に柱穴をもつ竪穴建物跡」の存在の意味が明らかになることを期待したい⁹⁾。

	A 類	B 類
8 世紀代	 <p>SI 197</p>	 <p>SI 235</p>
9 世紀前葉	 <p>SI 5</p>	
9 世紀後葉	 <p>SI 242</p>	 <p>SI 220</p>
	 <p>SI 244</p>	

第 191 図 当遺跡から出土している壁柱穴を伴う竪穴建物跡



0 (1:2500) 50m

第 192 図 竪穴建物跡から出土した墨書土器, 朱書土器, ヘラ記号

4 文字資料について

当遺跡から出土している文字資料は、同一個体の複数記載資料をそれぞれ数えると総数91点になる¹⁰⁾。それらが出土した位置は竪穴建物跡から77点、掘立柱建物跡から1点、土坑から8点、溝跡から1点、ピット群から1点、遺構外から3点である。種別の内訳は、朱書3点を含めて墨書71点、ヘラ記号20点であり、文字が明確なもの、あるいは部分的に判読が可能なもの、ほかは字形の一部だけを残すだけか、墨痕が極めて薄いため判読できないものなどがある¹¹⁾。材質の内訳は土師器68点、須恵器23点である。器種の内訳は坏67点、高台付坏8点、蓋2点、皿7点、小皿1点、高台付皿2点、盤2点、甕2点であり、坏・皿等の供膳具が圧倒的に多いことが分かる。文字資料が出土している竪穴建物跡が24棟ある。時期別にみると、8世紀代3棟、9世紀代18棟、10世紀代3棟である。以下、それらの様相を時期ごとに見ていくことにする。

8世紀代は第197・199・206号竪穴建物跡の3棟から出土している。須恵器の甕体部外面にヘラ記号「+」、坏底部外面ヘラ記号「※」、土師器の坏底部外面墨書「田」、須恵器の坏底部朱書「永」、底部ヘラ記号「~」、「-」、「+」、「ム」などである。出土遺物を見ると、須恵器は木葉下窯産が多く、新治窯産は数少ない傾向にある¹²⁾。9世紀代は第198・204・205・209～212・214・219～223・225・226・228・242・244号竪穴建物跡の18棟である。土師器の坏の体部墨書「□」、「□部」、「王川□」、「大□_カ」、「富」、「子□」、「□里」、「□丁_カ」、「心月」、「家_カ」、「田」、「□□」、「瓦_カ」、「前子家」、「永」、坏底部墨書「□」、「□心月」、「心月」、「子家」、高台付坏体部墨書「□万甲□□」、「□」、「永」、高台付坏底部墨書「-」、「長_カ」、「永」、皿体部墨書「子」、「上上」、「□子家」、「天□」、皿底部墨書「□」、「神」、蓋天井部墨書「□」、須恵器の坏体部墨書「中」、「□」、坏底部墨書「口八」、土師器の甕底部ヘラ記号「+」、須恵器の坏底部ヘラ記号「+」、「-」、「川」などである。10世紀は第216・217・226号竪穴建物跡の3棟である。土師器の坏体部墨書「永富来」、「太万」、「□」、高台付坏体部墨書「□」、「東」、高台付坏底部墨書「□心月_カ」、「永」、皿体部墨書「□」、土師器の坏底部ヘラ記号「+」、須恵器の坏底部ヘラ記号「+」などである。8世紀～10世紀代の範囲内で共通した墨書「永」や「+」、「-」などのヘラ記号が出土していることも特徴の一つである。文字の内容は吉祥句や方向・場所などのほかに、記号の意味を含めた集団の単位を示す標識文字などと考えられる¹³⁾。当遺跡の竪穴建物跡から出土した墨書土器は、所有者主体がある特定の限られた竪穴建物跡から集中して出土していることが分かる。墨書土器は祭祀や儀礼行為等の際に、付随した形での字形、記号化した文字としての役割があるとも考えられる¹⁴⁾。

5 おわりに

調査区域が細長く限られていることから推定の域を出ないが、これまでの考察の結果、集落の様相から本遺跡の台地上には、奈良・平安時代を中心とした集落が調査区域の北部に向かって集中して存在していることが分かる。出土した墨書土器及び確認した「壁際に柱穴をもつ竪穴建物跡」の構造や規模から、在地有力者の居宅の可能性がある。また、竪穴建物跡から丸靱が出土していることから、役人層の存在する集落とも考えられる¹⁵⁾。調査区内において、想定される陸路は、古代駅路から離れていると考え、支路に準ずる道と考えられる¹⁶⁾。古代駅伝制において、郡家が駅路沿いとは限らず、駅路とは別に郡家間を結ぶ道としての要所である集落と考えられる¹⁷⁾。また、当遺跡の西側の約1.5kmにある、常陸国二ノ宮に挙げられる式内社の静神社へ繋がる道の要所としての集落跡とも考えられる¹⁸⁾。

水路では、水の確保と水害を避けるために台地上に集落を發展させ、久慈川や玉川の合流する地点に近いことなどから網漁の場として、あるいは水路交通の要所としての役割を果たしていたとも考えられる。これらのことから、古代駅伝制にかかわる陸路と関連する集落跡、久慈川や玉川に近接しているため水場や水路と関連する集落跡の可能性がある。

今後の調査において集落の広がりや交通路について明らかになることを期待したい。

註

- 1) 内田勇樹『下大賀遺跡 一般国道 118 号道路改築事業地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育財団文化財調査報告 第 399 集 2015 年 3 月
- 2) a 荒井保雄『一級河川玉川改修工事地内埋蔵文化財調査報告書 下村田遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告 第 110 集 1996 年 3 月
b 高野節夫 白田正子 仲村浩一郎 島田和宏『中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ 中原遺跡 3』茨城県教育財団文化財調査報告 第 170 集 2001 年 3 月
- 3) 竪穴建物跡の大・中・小は、30 m 以上を大型、30 m 未満～20 m までを中型、20 m 未満を小型とした。
- 4) 榎村宣行『一般国道 6 号東水戸道路改築工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 梶内遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告 第 100 集 1995 年 9 月
- 5) 佐々木義則『茨城県における奈良・平安時代漁網錘の地域性（前編）』『婆良岐考古』第 42 号婆良岐考古同人会 2020 年 5 月
- 6) a 佐々木義則『茨城県古代集落研究の試み』茨城県考古学協会誌第 23 号 茨城県考古学協会 2011 年 5 月
b 佐々木義則『武田遺跡群からみた奈良・平安時代の集落』武田遺跡群 総括・補遺編 抜刷 ひたちなか市教育委員会・財団法人ひたちなか市文化・スポーツ振興公社 2010 年 3 月
- 7) 註 1 に同じ
- 8) 註 1 に同じ
- 9) 註 1 に同じ
- 10) a 奈良文化財研究所編『日本古代木簡字典』八木書店 2008 年 6 月
b 奈良文化財研究所編『改訂新版 日本古代木簡字典』八木書店 2013 年 4 月
- 11) 藤田哲也 三谷正 原信田正夫 川上直登 稲田義弘『鳥名・福田坪一体型特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ 熊の山遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告 第 174 集 2001 年 3 月
- 12) 平石尚和 金指もと子『下大賀遺跡Ⅱ』那珂市文化財調査報告 2018 年 8 月
- 13) a 川井正一『研究ノート 第 16 号 茨城県域における文字資料集成 20』公益財団法人茨城県教育財団 2019 年 7 月
b 平川南 天野努 黒田正典『国立歴史民俗博物館研究報告 第 22 集 共同研究「古代の集落」古代集落と墨書土器』国立歴史民俗博物館 1989 年 3 月
- 14) 平川南『国立歴史民俗博物館研究報告 第 35 集 創設 10 周年記念論文集 墨書土器とその字形－古代村落における文字の実相』国立歴史民俗博物館 1991 年 11 月
- 15) a 田中広明『土曜考古 律令時代の身分表象（Ⅰ）帯飾具の生産と変遷』土曜考古学研究会 第 15 号 1990 年 5 月
b 田中広明『土曜考古 律令時代の身分表象（Ⅱ）腰帯をめぐる人々の奈良・平安時代』土曜考古学研究会 第 16 号 1991 年 9 月
- 16) 註 1 に同じ
- 17) 古代交通研究会編『日本古代道路事典』八木書店 2004 年 5 月
- 18) a 註 13 に同じ
b 註 1 に同じ

写 真 图 版



出土墨書土器



平成31・令和元年度 A区調査終了状況



平成25年度 B区調査終了状況

PL2



平成28・29年度 C区調査終了状況



平成29年度 D区調査終了状況



第3号陥し穴



第4号陥し穴



第5号陥し穴



第6号陥し穴



第7号陥し穴



第8号陥し穴



第243号竪穴建物跡 遺物出土状況



第243号竪穴建物跡

PL4



第13号竖穴建物跡 竈



第13号竖穴建物跡



第197号竖穴建物跡 遺物出土状況



第197号竖穴建物跡



第198号竖穴建物跡 遺物出土状況



第198号竖穴建物跡



第199号竖穴建物跡 遺物出土状況



第199号竖穴建物跡



第200号竖穴建物跡 竈遺物出土状況



第200号竖穴建物跡



第201号竖穴建物跡 遺物出土状況



第201号竖穴建物跡



第202号竖穴建物跡 竈遺物出土状況



第202号竖穴建物跡



第203号竖穴建物跡



第204号竖穴建物跡

PL6



第205号竖穴建物跡 遺物出土状況



第205号竖穴建物跡



第206号竖穴建物跡 遺物出土状況



第206号竖穴建物跡



第207号竖穴建物跡 竈



第207号竖穴建物跡



第209号竖穴建物跡 竈



第209号竖穴建物跡



第210号竖穴建物跡 遺物出土状況



第210号竖穴建物跡



第211号竖穴建物跡



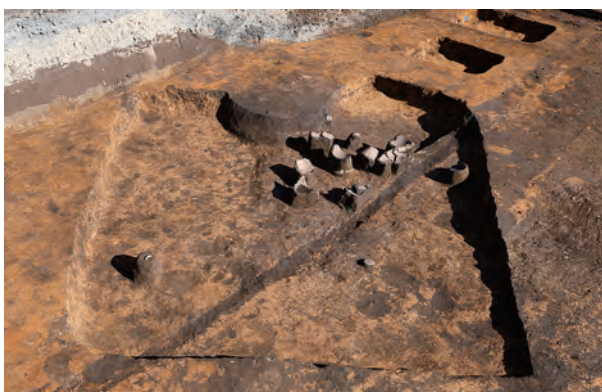
第212号竖穴建物跡 遺物出土状況



第212号竖穴建物跡 竈遺物出土状況



第212号竖穴建物跡

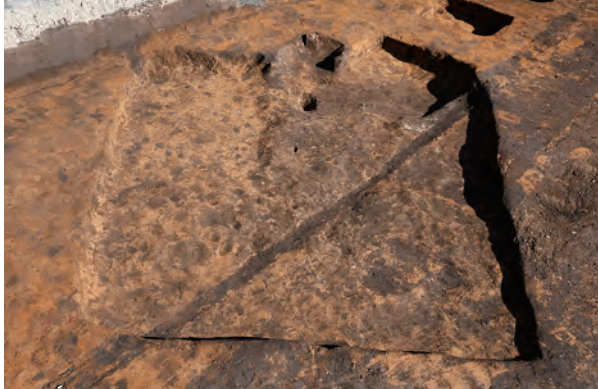


第213号竖穴建物跡 遺物出土状況 (1)



第213号竖穴建物跡 遺物出土状況 (2)

PL8



第213号竖穴建物跡



第214号竖穴建物跡 竈遺物出土狀況



第214号竖穴建物跡



第215・226号竖穴建物跡



第216号竖穴建物跡 遺物出土狀況



第216号竖穴建物跡



第217号竖穴建物跡 遺物出土狀況



第217号竖穴建物跡



第218号竖穴建物跡 遺物出土状況



第218号竖穴建物跡



第219号竖穴建物跡 竈遺物出土状況



第219号竖穴建物跡



第220号竖穴建物跡 竈遺物出土状況



第220号竖穴建物跡



第221・222号竖穴建物跡



第223号竖穴建物跡 竈遺物出土状況

PL10



第223号竖穴建物跡 掘方



第228号竖穴建物跡 遺物出土状況



第228号竖穴建物跡



第229号竖穴建物跡



第232号竖穴建物跡 遺物出土状況



第232号竖穴建物跡 竈



第232号竖穴建物跡



第233号竖穴建物跡



第234号竖穴建物跡 遺物出土状況



第234号竖穴建物跡



第235号竖穴建物跡



第236号竖穴建物跡 遺物出土状況 (1)



第236号竖穴建物跡 遺物出土状況 (2)



第236号竖穴建物跡



第237号竖穴建物跡 遺物出土状況



第237号竖穴建物跡



第238号竖穴建物跡 遺物出土状況



第238号竖穴建物跡 竈遺物出土状況



第238号竖穴建物跡



第239号竖穴建物跡 竈



第239号竖穴建物跡



第240号竖穴建物跡 遺物出土状況



第240号竖穴建物跡



第241号竖穴建物跡 遺物出土状況



第241号竖穴建物跡



第242号竖穴建物跡



第244号竖穴建物跡 竈遺物出土状況



第244号竖穴建物跡 掘方



第245号竖穴建物跡



第246号竖穴建物跡 竈遺物出土状況



第246号竖穴建物跡



第247号竖穴建物跡 遺物出土状況

PL14



第247号竖穴建物跡



第251号竖穴建物跡 竈



第251号竖穴建物跡



第252号竖穴建物跡



第1240号土坑



第1241号土坑 遺物出土状況



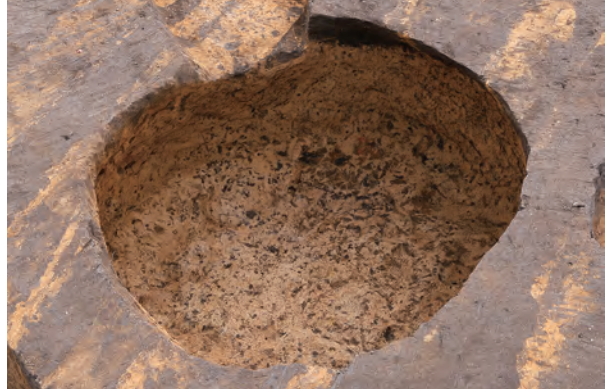
第1242号土坑



第1264号土坑 遺物出土状況



第1270号土坑



第1290号土坑



第1291号土坑



第1305号土坑



第1321号土坑 遺物出土狀況



第1321号土坑



第1394号土坑 遺物出土狀況



第1395号土坑 遺物出土狀況

PL16



第1484号土坑 遺物出土状況



第25号掘立柱建物跡



第1651号土坑



第30号土坑



第46号土坑



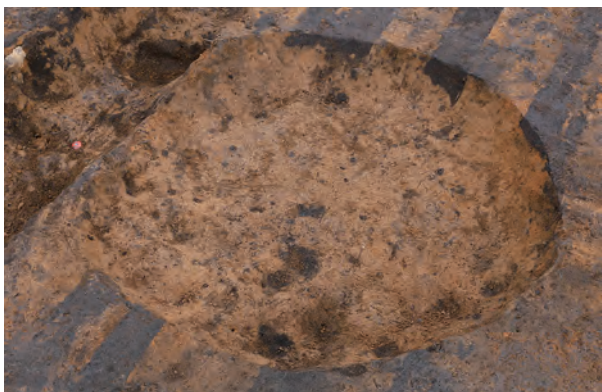
第1239号土坑



第1248号土坑



第1271号土坑



第1276号土坑



第1284号土坑



第1285号土坑



第1289号土坑



第1295号土坑



第1323·1324号土坑



第1348号土坑



第1351号土坑

PL18



第1352号土坑



第1357号土坑



第1360号土坑



第1366号土坑



第1367号土坑



第1374号土坑



第1375号土坑



第1376号土坑



第1377号土坑



第1379号土坑



第1383号土坑



第1388号土坑



第1390号土坑



第1392号土坑



第1393号土坑



第1412号土坑

PL20



第1417号土坑



第1441号土坑



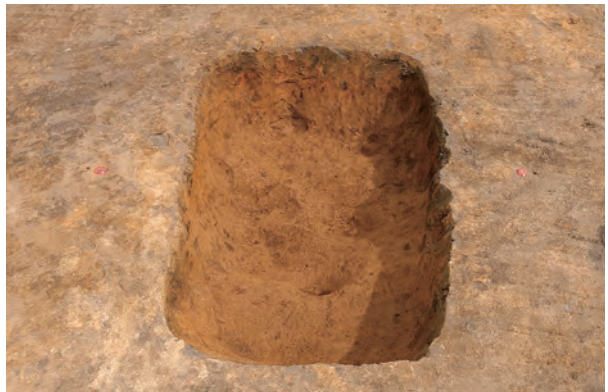
第1448·1449号土坑



第1458号土坑



第1636号土坑



第1638号土坑



第1639号土坑



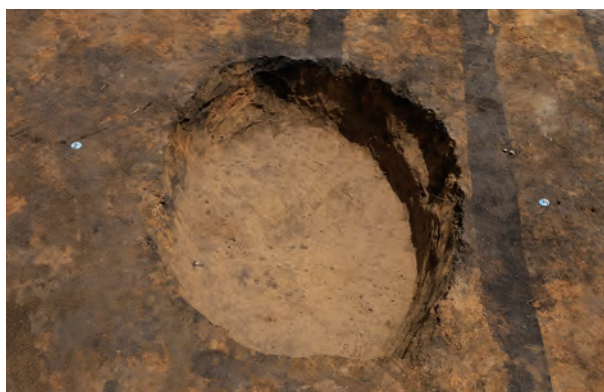
第1654号土坑



第1656号土坑



第1658号土坑



第1660号土坑



第3号溝跡 遺物出土狀況



第4号溝跡 遺物出土狀況



第7号溝跡



第8号溝跡 尖頭器出土狀況



第9号溝跡

PL22



第14号溝跡



第15号溝跡



第24・25号溝跡



第32・33号溝跡



第35号溝跡



第43号溝跡



第1号道路跡



第12号ピット群



第15号ピット群



第17号ピット群



第18号ピット群



第20号ピット群



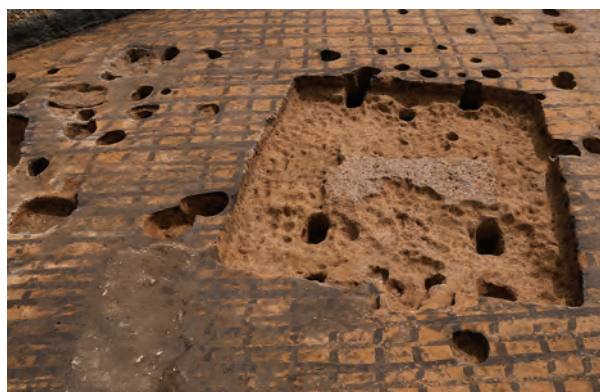
第21号ピット群



第23号ピット群



第26号ピット群



第28号ピット群

PL24



第32号ピット群



第33号ピット群



第36号ピット群



第37号ピット群



第38号ピット群



第39号ピット群



第40号ピット群



第1号掘り込み遺構



第243·13·197·198号竖穴建物跡出土土器

PL26



第199号竖穴建物跡出土土器



SI 204-5

SI 204-6

SI 204-7



SI 204-4

SI 204-8



SI 201-1



SI 200-3



SI 202-1



SI 204-1



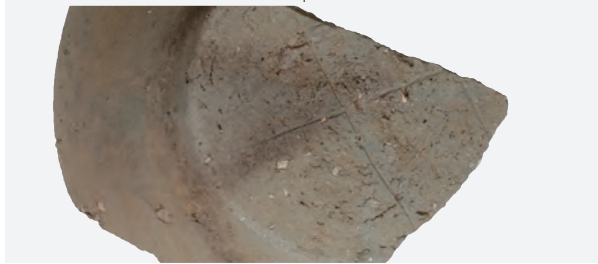
SI 202-2



SI 204-2



SI 202-4

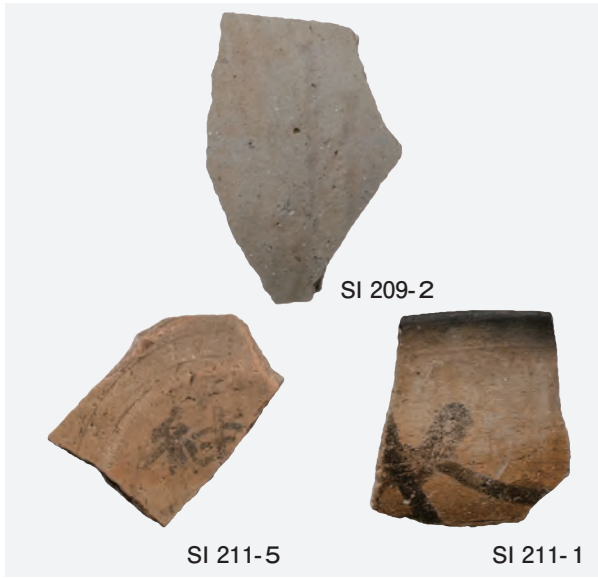


第204・205・206号竖穴建物跡出土土器



第206号竖穴建物跡出土土器

PL30



第209・210・211・212号竖穴建物跡出土土器

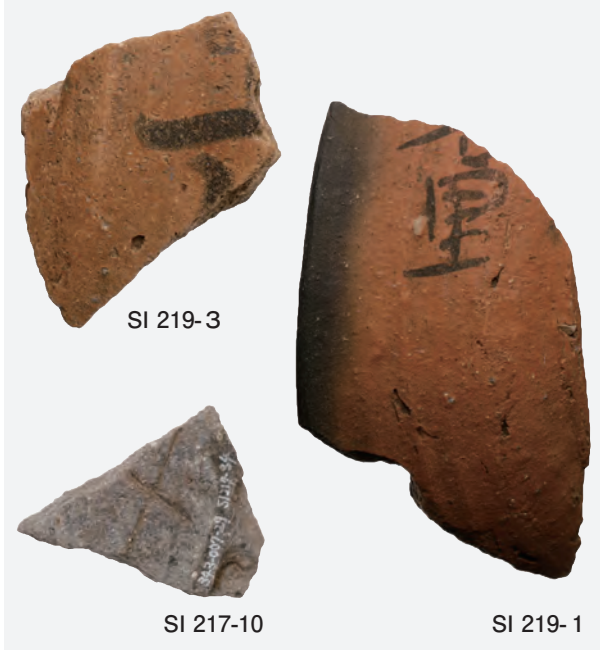


第212·213·214号竖穴建物跡出土土器

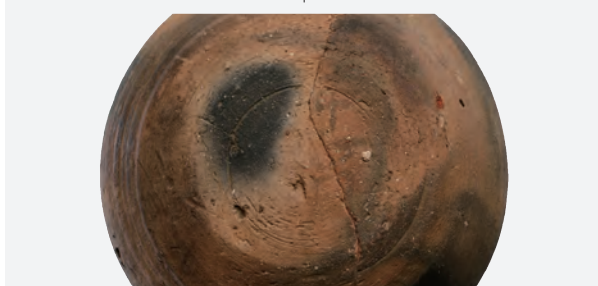
PL32



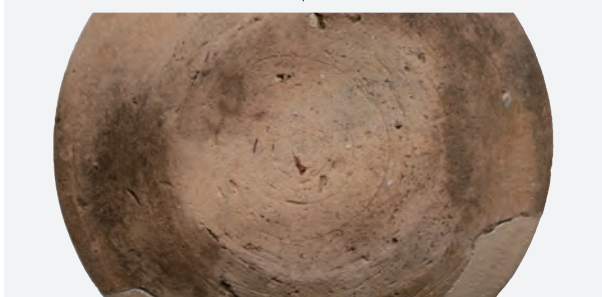
第214・216・217号竖穴建物跡出土土器



第217・219・220号竖穴建物跡出土土器



第220・222・223・225号豎穴建物跡出土土器



第225・226・227・228・229・232号豎穴建物跡出土土器

PL36

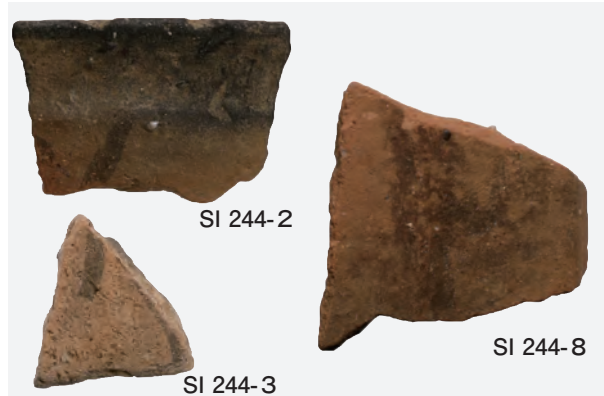


第232・234・238・241号豎穴建物跡出土土器



第238・242号豎穴建物跡出土土器

PL38

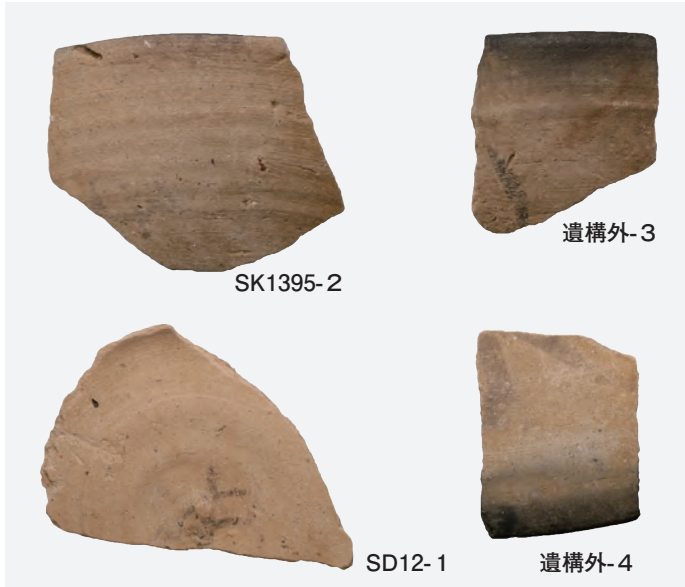


第242・244号豎穴建物跡出土土器

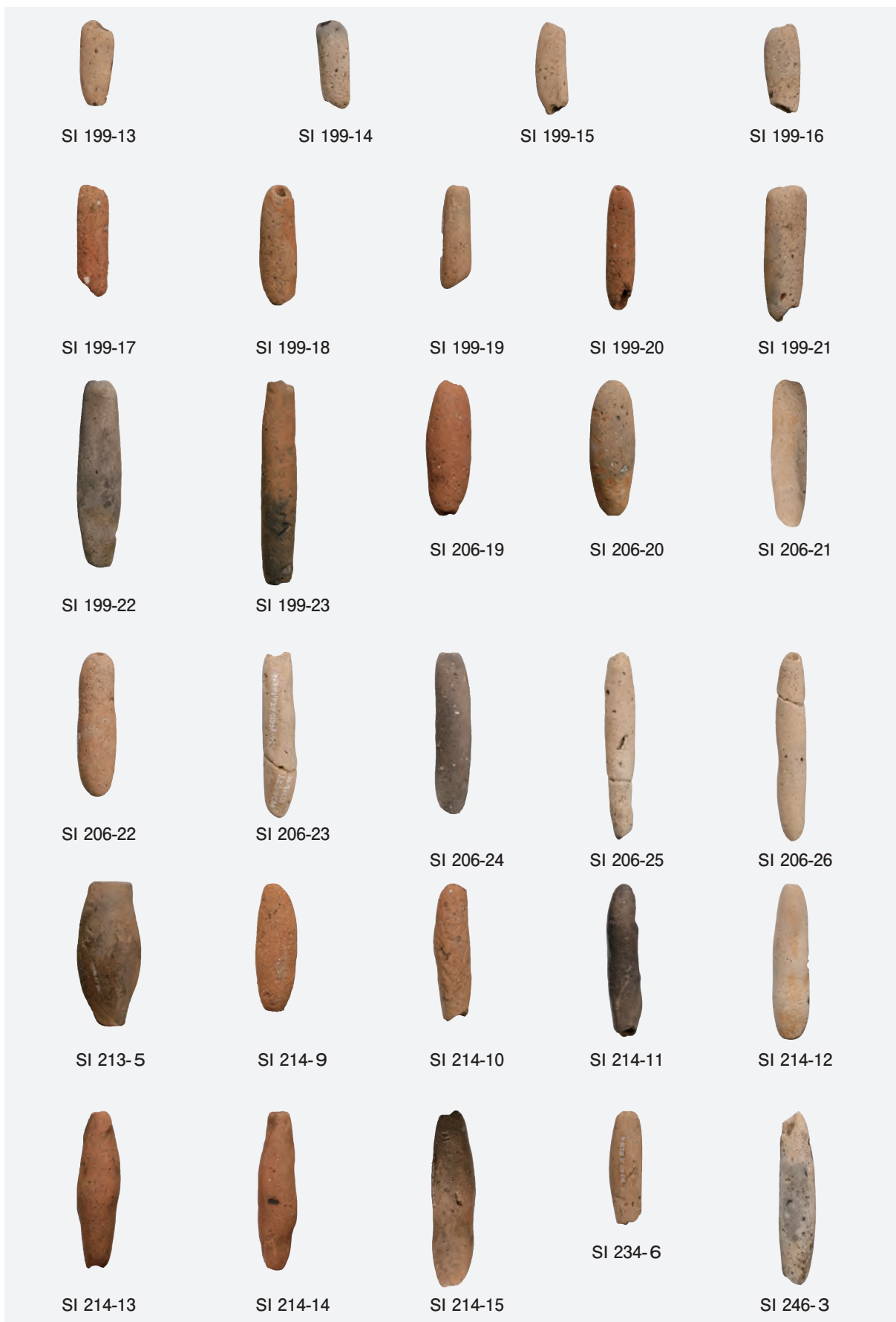


第242・244・246号竖穴建物跡出土土器

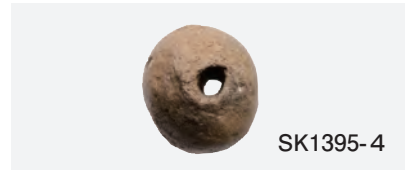
PL40



第246号竖穴建物跡，第1321・1395・1484号土坑，第12号溝跡，遺構外出土土器



第199・206・213・214・234・246号豎穴建物跡出土土製品



第242・251号豎穴建物跡，第1395号土坑出土土製品
 第199・212・246号豎穴建物跡，遺構外出土石器・石製品



第197·200·210·214·218·220·222·226·229·244·251号豎穴建物跡出土石器
第198·242·246号豎穴建物跡出土椀形滓



第198・204・206・212・214・218・219・221・238・242・244号竖穴建物跡，
第1395・1651号土坑，遺構外出土金属製品

抄 録

ふりがな	しもおおがいせき2							
書名	下大賀遺跡2							
副書名	一般国道118号道路改築事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第452集							
著者名	野田 良直 株式会社イビソク							
編集機関	公益財団法人茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発行日	2021(令和3)年3月16日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
下大賀遺跡	茨城県那珂市瓜連 1476-26番地ほか	08343 1 007	36度 50分 5秒	140度 44分 2秒	43 ～ 44m	20130501 20130631 20161001 20170331 20170403 20180331 20190401 20190630	1,713㎡ 1,080㎡ 6,646㎡ 2,662㎡	一般国道118号道路改築事業に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
下大賀遺跡	狩猟場	縄文	陥し穴 6基					
	集落跡	古墳	竪穴建物跡 1棟		土師器(坏・椀・甕), 須恵器(坏), 石器(砥石)			
		奈良・平安	竪穴建物跡 52棟 掘立柱建物跡 2棟 土坑 15基		土師器(坏・高台付坏・椀・蓋・皿・高台付皿, 鉢・壺・甕・小型甕・甑・羽釜), 須恵器(坏・高台付坏・蓋・盤・鉢・壺・短頸壺・長頸壺・甕・小型甕・甑), 灰釉陶器(短頸壺), 土製品(土玉・管状土錘・紡錘車・支脚), 石器(紡錘車・砥石), 石製品(丸軋・支脚), 金属製品(刀子・鉄鎌・鎌・鋤先・釘・丸軋・鑿状工具), 椀形滓・鉄滓			
		中世	掘立柱建物跡 2棟 井戸跡 1基 土坑 1基		陶器(甕), 磁器(碗・皿), 金属製品(短刀)			
その他	時期不明	柱穴列 1条 土坑 229基 溝跡 19条 道路跡 1条 ピット群 22か所 掘り込み遺構 1基		縄文土器(深鉢), 土師器(坏・皿・小皿), 須恵器(坏・短頸壺・甕), 陶器(甕), 金属製品(煙管), 石器(ナイフ形石器・尖頭器・鎌)				
要約	奈良・平安時代の竪穴建物跡を52棟確認した。竪穴建物跡は調査区域北部に集中しており, 集落の南部域にあたる。竪穴建物跡からは, 墨書土器・ヘラ記号のある土器などが出土している。文字の内容は吉祥句や方位・記号を含めた文字などを意味するもので, 地域の集落様相を考察する上で, 貴重な資料になると考えられる。							

印刷仕様

編集	OS	Microsoft Windows 10 Pro
	編集	Adobe InDesign CC 2020
	図版作成	Adobe Illustrator CC 2020
	写真調整	Adobe Photoshop CC 2020
	Scanning	EPSON DS-G20000
使用Font	OpenType	リュウミンPro L-KL, 太ゴB101 Pro Bold 中ゴシックBBB Pro Medium
写真	線数	カラー210線以上
印刷		印刷所へは, Adobe InDesign CC 2020でデータ入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第452集

那珂市

下大賀遺跡 2

一般国道118号道路改築
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ

令和3(2021)年 3月16日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587
HP <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 株式会社高野高速印刷
〒310-0035 水戸市東原2-8-1
TEL 029-231-0989